

帳票システム構築支援 uCosminexus イーユーアール EUR

uCosminexus EUR サーバ帳票出力

文法・操作書

3020-7-536-40

対象製品

適用 OS : Windows 7 , Windows Vista , Windows XP

P-26D2-5784 uCosminexus EUR : イーユーアール Developer 08-70

適用 OS : Windows Server 2003 , Windows Server 2008

P-24D2-5784 uCosminexus EUR : イーユーアール Print Service 08-70

P-24D2-5984 uCosminexus EUR : イーユーアール Print Service Enterprise 08-70

P-F24D2-57843 uCosminexus EUR : イーユーアール Print Service - Cipher option 08-20

適用 OS : HP-UX 11i V2(IPF) , HP-UX 11i V3(IPF)

P-1JD2-5181 uCosminexus EUR : イーユーアール Print Service 08-70

P-1JD2-5381 uCosminexus EUR : イーユーアール Print Service Enterprise 08-70

P-F1JD2-51813 uCosminexus EUR : イーユーアール Print Service - Cipher option 08-20

適用 OS : AIX 5L V5.3 , AIX V6.1 , AIX V7.1

P-1MD2-5181 uCosminexus EUR : イーユーアール Print Service 08-70

P-1MD2-5381 uCosminexus EUR : イーユーアール Print Service Enterprise 08-70

適用 OS : AIX 5L V5.3 , AIX V6.1

P-F1MD2-51813 uCosminexus EUR : イーユーアール Print Service - Cipher option 08-20

適用 OS : Red Hat Enterprise Linux 5 (AMD/Intel 64) , Red Hat Enterprise Linux 5 (x86) , Red Hat Enterprise Linux 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64) , Red Hat Enterprise Linux 5 Advanced Platform (x86) , Red Hat Enterprise Linux AS 4 (AMD64 & Intel EM64T) , Red Hat Enterprise Linux AS 4 (x86) , Red Hat Enterprise Linux ES 4 (AMD64 & Intel EM64T) , Red Hat Enterprise Linux ES 4 (x86)

P-9SD2-5181 uCosminexus EUR : イーユーアール Print Service 08-70

P-9SD2-5381 uCosminexus EUR : イーユーアール Print Service Enterprise 08-70

P-F9SD2-51813 uCosminexus EUR : イーユーアール Print Service - Cipher option 08-20

注

次に示す製品を同梱しています。

・ P-2463-2354 DABroker

これらの製品は、ISO9001 および TickIT の認証を受けた品質マネジメントシステムで開発されました。

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

商標類

Acrobat は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の商標です。

ActiveX は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Adobe、および Reader は、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

AIX は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

AIX 5L は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

AMD は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

BSAFE は、EMC Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

BSD は、米国 Berkeley Software Design, Inc. の商品名称です。

ESC/P は、セイコーエプソン（株）の商標です。

GIF は、米国 CompuServe Inc. が開発したフォーマットの名称です。

HP-UX は、Hewlett-Packard Company のオペレーティングシステムの名称です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Itanium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

J2EE は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。

Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。

JFIF は、C-Cube Microsystems 社が規定したフォーマットの名称です。

JSP は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

LIPS は、キヤノン（株）が開発した言語仕様です。

LIPSIH は、キヤノン（株）が開発した言語仕様です。

Microsoft .NET は、お客様、情報、システムおよびデバイスを繋ぐソフトウェアです。

Microsoft Internet Information Services は、米国 Microsoft Corporation の商品名称です。

Microsoft および Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft および MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft および Visual Basic は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft および Visual Studio は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft Internet Information Server は、米国 Microsoft Corporation の商品名称です。

Microsoft Office Excel は、米国 Microsoft Corporation の商品名称です。

Microsoft SQL Server は、米国 Microsoft Corporation の商品名称です。

ODBC は、米国 Microsoft Corporation が提唱するデータベースアクセス機構です。

OLE は、米国 Microsoft Corporation が開発したソフトウェア名称です。

ORACLE は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。

Oracle 及び Oracle 10g は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。

Oracle 及び Oracle9i は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。

Oracle 及び Oracle Database 11g は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。

PostScript は、米国 Adobe Systems, Inc. が開発した言語仕様です。

QR コードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

Red Hat は、米国およびその他の国で Red Hat, Inc. の登録商標もしくは商標です。

RSA は、EMC Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Sun は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標

です。

Sun Microsystems は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

X Window System は、米国 X Consortium, Inc. が開発したソフトウェアです。

紙の番入は、日立公共システムエンジニアリング株式会社の登録商標です。

中ゴシック BBB は、株式会社モリサワとアドビシステムズ社が共同開発したフォントで承認外の複製は禁止されており、それらの書体名は株式会社モリサワの商標です。

リュウミン L-KL は、株式会社モリサワとアドビシステムズ社が共同開発したフォントで承認外の複製は禁止されており、それらの書体名は株式会社モリサワの商標です。

プログラムプロダクト「P-F24D2-57843, P-F1JD2-51813, P-F1MD2-51813 および P-F9SD2-51813」は、EMC Corporation の RSA BSAFE(R) ソフトウェアを搭載しています。

プログラムプロダクト「P-1JD2-5381, P-1MD2-5381, および P-9SD2-5381」に含まれるソフトウェア「Zip32z64.so」は、「Info-ZIP」を UNIX 向けに移植したものです。

プログラムプロダクト「P-24D2-5984 および P-26D2-5784」は、「Info-ZIP」のソフトウェアを搭載しています。

マイクロソフト製品のスクリーンショットの使用について

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

製品名称	表記
ActiveX(R)	ActiveX
Microsoft Internet Information Services 6.0	IIS
Microsoft(R) Office Excel 2007 Microsoft(R) Office Excel 2010	Excel
Microsoft(R) SQL Server 2000 Microsoft(R) SQL Server 2005 Microsoft(R) SQL Server 2008 Microsoft(R) SQL Server 2008 R2	SQL Server
Microsoft(R) Visual Basic(R) .NET 2003 Microsoft(R) Visual Basic(R) 2005 SP1 Microsoft(R) Visual Basic(R) 2008	Visual Basic
Microsoft(R) Visual Basic(R) Scripting Edition	VBScript

製品名称	表記	
Microsoft(R) Visual C# 2005 SP1 Microsoft(R) Visual C# 2008	Visual C#	
Microsoft(R) Visual Studio(R)	Visual Studio	
Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate	Windows 7	Windows
Microsoft(R) Windows NT(R)	Windows NT	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition	Windows Server 2003	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition	Windows Server 2003 R2	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition	Windows Server 2003 R2 x64	Windows Server 2003
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition	Windows Server 2003 x64	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V™ Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V™	Windows Server 2008	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter	Windows Server 2008 R2	Windows Server 2008
Microsoft(R) Windows Vista(R) Business Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate	Windows Vista	
Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition Operating System	Windows XP	

発行

2011 年 7 月 3020-7-536-40

著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2008, 2011, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容 (3020-7-536-40)

uCosminexus EUR Developer 08-70

uCosminexus EUR Print Service 08-70

uCosminexus EUR Print Service Enterprise 08-70

追加・変更内容	変更箇所
EUR Print Manager でも仕分け印刷ができるようになりました。	1.2.2(1)
CPI 指定に関する値は Excel 形式ファイルへ出力されないことを追加しました。	6.1.2(2)
文書情報設定ファイルのキーワード TITLE に書式を設定することで、EURPS_MAX_SPOOL_PAGES を設定した場合の連番の表示形式を変更できるようになりました。	7.26.55(1)
Excel 形式ファイルを Excel 2010 形式に出力したり，Excel 2010 で閲覧したりできるようになりました。	-

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは、EUR 帳票作成機能で設計した帳票を、次に示すプログラムプロダクトを使用して帳票出力する方法について説明したものです。

- uCosminexus EUR：イーユーアール Developer
- uCosminexus EUR：イーユーアール Print Service
- uCosminexus EUR：イーユーアール Print Service Enterprise
- uCosminexus EUR：イーユーアール Print Service - Cipher option

以降、「EUR：イーユーアール」を「EUR」と表記します。

対象読者

このマニュアルは、Windows(R) 環境の EUR 帳票作成機能で設計した帳票を、Windows 環境、UNIX 環境、または Linux(R) 環境で出力する方を対象としています。そのため、次に示す内容を理解されていることを前提としています。

利用する環境	前提知識
Windows 環境で利用する場合	Microsoft(R) Windows(R) Operating System に関する知識
HP-UX 環境または AIX 環境で利用する場合	UNIX に関する知識
Linux 環境で利用する場合	Linux に関する知識
Windows サーバアプリケーションからの帳票出力で、Active Server Pages (ASP) 環境上で利用する場合	ActiveX(R)、および Microsoft(R) Visual Basic(R) Scripting Edition (VBScript) /Microsoft Visual Basic に関する知識
サーバアプリケーションからの帳票出力を、Java™ で開発する場合	Java プログラミングに関する知識

このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号について、次に示します。

記 号	意 味
	横に並べられた複数の項目に対する項目間の区切りを示し、「または」を意味します。 (例) A B 「A、または B を指定する」ことを示します。
{ }	この記号で囲まれている複数の項目のうちから一つを選択することを示します。項目が横に並べられ、記号 で区切られている場合は、そのうちの一つを選択します。 (例) {A B C} 「A、B、または C のどれかを指定する」ことを示します。

記 号	意 味
{ }	この記号で囲まれている項目は省略してもよいことを示します。 複数の項目が横に並べて記述されている場合には、すべてを省略するか、記号 { } と同じくどれか一つを選択します。 (例) { A } 「何も指定しない」か「A と指定する」ことを示します。 (例) { B C } 「何も指定しない」か「B, または C のどちらかを指定する」ことを示します。
...	記述が省略されていることを示します。この記号の直前に示された項目を繰り返し複数個指定できます。 (例) { A [, ...] } 「A のあとに, A を複数個指定できる」ことを示します。
—	括弧で囲まれた複数項目のうち 1 項目に対し使用され、括弧内のすべてを省略したときシステムがとる標準値を示します。 (例) { A B <u>C</u> } 「A, B, C のどれも指定しなかった場合、システムは C が指定されたときと同じ処理をする」ことを示します。

このマニュアルの GUI の説明で使用する記号

このマニュアルでは、次に示す記号を使用して GUI を説明しています。

記 号	意 味
< >	文字キーを表します。
< > + < >	+ の前のキーを押したまま、後ろのキーを押すことを表します。
[]	メニュー項目、ダイアログ名、ダイアログのボタンを表します。
[] - []	メニュー項目を連続して選択することを表します。 (例) [ファイル] - [開く] [ファイル] メニューから [開く] メニューを選択することを表します。

目次

1	EUR サーバ帳票出力機能の概要	1
1.1	EUR サーバ帳票出力機能とは	2
1.2	EUR サーバ帳票出力機能で帳票を出力するには	4
1.2.1	EUR サーバ帳票出力機能で帳票を出力するための準備	4
1.2.2	帳票をプリンタ出力するには	8
1.2.3	帳票を PDF 形式ファイルに出力するには	12
1.2.4	帳票を EUR 形式ファイルに出力するには	25
1.2.5	帳票を CSV 形式ファイルに出力するには	28
1.2.6	帳票を Excel 形式ファイルに出力するには	32
1.3	複数様式で帳票を出力するには	36
1.3.1	複数の帳票セットを指定した帳票出力との違い	42
1.3.2	複数様式での帳票出力例	44
1.4	データベースからデータを入力するには	65
1.4.1	接続情報ファイル	66
1.4.2	可変記号値定義ファイル	67
1.5	EUR Developer で帳票を出力するには	68
1.6	プロポーショナルフォントを出力するには	69
1.7	EUR サーバ帳票出力機能を英語または中国語で使用するには	70
1.8	出力できない文字があるときには	71

2	EUR で使用できる文字	73
2.1	EUR が使用する文字コード	74
2.1.1	サポートする文字集合	74
2.1.2	入力ファイルに対するエンコーディング	74
2.2	EUR から出力できる文字	77
2.3	EUR での外字の使用方法	80
2.3.1	プリンタでの印刷，および PDF 形式ファイル出力での外字の使用方法	80
2.3.2	CSV 形式ファイル，EUR 形式ファイル，および Excel 形式ファイル出力での外字の使用方法	83
2.4	EUR サーバ帳票出力機能で使用するフォント	85
2.4.1	PDF で使用できるフォント	85
2.4.2	UNIX / Linux 環境のプリンタ出力時のフォント	89
2.5	EUR サーバ帳票出力機能でのプロポーショナルフォントの出力	92

2.5.1 文字幅の計算方法	92
2.5.2 文字幅計算方法の設定	92
2.5.3 出力形式ごとのフォントの出力結果	94
2.5.4 動的モードで出力できるフォント	97
2.5.5 EURPS_USE_05_06_FONT_LANG が適用される条件	97

3

コマンドからの帳票出力 99

3.1 コマンドで帳票出力するには	100
3.2 eurps コマンドの文法	101
3.2.1 eurps コマンドの構文	102
3.2.2 eurps コマンドのオプション一覧	104
3.2.3 eurps コマンドのオプション説明	109
3.3 eurps コマンドのオプション指定時の注意	139
3.3.1 画像データを使用する場合	139
3.3.2 PDF 形式ファイルを出力する場合	140
3.4 環境変数，環境設定ファイル	143
3.4.1 ダイアログからの環境設定ファイルの作成	143
3.5 eurps コマンド実行時の終了コード	151
3.5.1 終了コード 4 を返す警告要因	151
3.6 コーディング例	153
3.6.1 コーディング例で使用しているファイル	153
3.6.2 プリンタ出力の指定例	157
3.6.3 PDF 形式ファイル出力の指定例	160
3.6.4 EUR 形式ファイル出力の指定例	165
3.6.5 CSV 形式ファイル出力の指定例	166
3.6.6 Excel 形式ファイル出力の指定例	167
3.6.7 Windows 環境で C 言語のプログラムからコマンド実行する場合	168
3.6.8 UNIX / Linux 環境でシェルスクリプトからコマンド実行する場合	177

4

Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力 181

4.1 ActiveX オブジェクトで帳票を出力するには	182
4.2 ActiveX オブジェクトとは	184
4.2.1 ActiveX オブジェクトのファイル名	184
4.2.2 ActiveX オブジェクトの構文	184
4.2.3 ActiveX オブジェクト使用時の注意	185

4.3	ActiveX オブジェクトのメソッド，プロパティー覧	189
4.3.1	ActiveX オブジェクトが提供するメソッド一覧	189
4.3.2	ActiveX オブジェクトが提供するプロパティー覧	189
4.3.3	同時に指定できないプロパティ	196
4.4	ActiveX オブジェクトのメソッド仕様	199
4.5	ActiveX オブジェクトのプロパティ仕様	200
4.6	環境変数，環境設定ファイル	236
4.7	ActiveX オブジェクトのエラー情報	237
4.7.1	Err.Number プロパティ	237
4.7.2	Err.Description プロパティ	239
4.8	コーディング例（ActiveX オブジェクトの場合）	240
4.8.1	コーディング例の読み方	240
4.8.2	プリンタ出力のコーディング例	244
4.8.3	PDF 形式ファイル出力のコーディング例	248
4.8.4	EUR 形式ファイル出力のコーディング例	263
4.8.5	CSV 形式ファイル出力のコーディング例	268
4.8.6	Excel 形式ファイル出力のコーディング例	272

5

	JavaBeans を使用した帳票出力	275
5.1	JavaBeans で帳票を出力するには	276
5.2	JavaBeans 起動部品	278
5.2.1	EUR で提供する JavaBeans 起動部品	278
5.2.2	JavaBeans 起動部品の構成	278
5.2.3	JavaBeans 起動部品の設定方法	280
5.2.4	JavaBeans 使用時の注意	281
5.2.5	同時に指定できないメソッド	286
5.3	JavaBeans 起動部品が提供するパッケージ	290
5.4	EURPSManager クラス	291
5.4.1	EURPSManager クラスのコンストラクタ	291
5.4.2	EURPSManager クラスのメソッド一覧	292
5.5	EURPSException クラス	300
5.5.1	EURPSException クラスのメソッド一覧	300
5.6	EURPSManager クラスのメソッド仕様	301
5.7	EURPSException クラスのメソッド仕様	362
5.8	環境変数，環境設定ファイル	364
5.9	JavaBeans 起動部品の例外情報	365

5.9.1	getErrorCode メソッド	365
5.9.2	getMessage メソッド	367
5.10	コーディング例 (JavaBeans 起動部品の場合)	368
5.10.1	コーディング例の読み方	368
5.10.2	プリンタ出力のコーディング例	371
5.10.3	PDF 形式ファイル出力のコーディング例	375
5.10.4	EUR 形式ファイル出力のコーディング例	391
5.10.5	CSV 形式ファイル出力のコーディング例	395
5.10.6	Excel 形式ファイル出力のコーディング例	400

6

ファイルへの出力 403

6.1	Excel 形式ファイルへの出力	404
6.1.1	Excel 形式ファイル出力の概要	404
6.1.2	Excel 形式ファイルへ出力される情報	416
6.1.3	Excel 形式ファイルだけに出力される情報	440
6.1.4	出力される Excel 形式ファイルの形式	441
6.1.5	UNIX / Linux 環境で Excel 形式ファイルを出力する場合に必要なロケール	441

7

帳票出力で使用するファイル 443

7.1	ファイル名に使用できる文字	445
7.2	帳票ファイル	446
7.3	データファイル	447
7.3.1	CSV 形式 (DAT 形式) のデータ形式	447
7.3.2	FIX 形式のデータ形式	453
7.4	画像ファイル	459
7.4.1	画像ファイルの場所	459
7.4.2	扱える画像データの形式	459
7.5	文書情報設定ファイル	462
7.5.1	文書情報設定ファイルの作成	462
7.6	プリンタ定義ファイル	468
7.6.1	プリンタ定義ファイルの作成	469
7.6.2	プリンタ定義ファイルのキーワード	472
7.6.3	プリンタ定義ファイルの指定例	490
7.7	帳票セット指定ファイル	495
7.7.1	帳票セット指定ファイルの作成	495

7.7.2	帳票セット指定ファイルの指定例	497
7.8	複数様式情報定義ファイル	499
7.8.1	複数様式情報定義ファイルの編集	500
7.8.2	複数様式情報定義ファイルの指定例	515
7.9	接続情報ファイル	519
7.9.1	接続情報ファイルの作成	519
7.10	可変記号値定義ファイル	523
7.10.1	可変記号値定義ファイルの作成	523
7.11	仕分け定義情報ファイル	526
7.11.1	JP1 と連携して仕分け印刷する場合	526
7.11.2	仕分け印刷するときの注意	531
7.12	PDF 仕分け定義ファイル	532
7.12.1	PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合	532
7.12.2	PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合	535
7.12.3	PDF 仕分け定義ファイルの保存場所	540
7.12.4	PDF 仕分けをするときの注意	540
7.13	文書しおり定義ファイル	541
7.13.1	文書しおり定義ファイルの作成	541
7.13.2	文書しおり定義ファイルの保存場所	543
7.14	しおり定義ファイル	545
7.14.1	しおり定義ファイルの作成	545
7.14.2	しおり定義ファイルの保存場所	548
7.14.3	しおり定義ファイルの指定例	549
7.15	暗号化設定ファイル	550
7.15.1	暗号化設定ファイルに設定できる属性	550
7.15.2	暗号化設定ファイルの編集	550
7.15.3	暗号化設定ファイルの保存場所	558
7.15.4	暗号化設定ファイルの指定例	558
7.16	透かし情報ファイル	561
7.16.1	透かし情報ファイルの作成	562
7.16.2	透かし情報ファイルの保存場所	569
7.16.3	透かし情報ファイルの指定例	569
7.17	テスト印刷設定ファイル	570
7.17.1	テスト印刷設定ファイルの作成	571
7.17.2	テスト印刷設定ファイルの保存場所	576
7.17.3	テスト印刷設定ファイルの指定例	577
7.18	Acrobat JavaScript ファイル	578

7.18.1	Acrobat JavaScript ファイルの作成	578
7.18.2	Acrobat JavaScript ファイルの保存場所	578
7.19	Acrobat JavaScript 定義ファイル	579
7.19.1	Acrobat JavaScript 定義ファイルの作成	579
7.19.2	Acrobat JavaScript 定義ファイルの保存場所	580
7.20	ビューアプレファレンス定義ファイル	581
7.20.1	ビューアプレファレンス定義ファイルの作成	581
7.20.2	ビューアプレファレンス定義ファイルの保存場所	582
7.21	置き換え表管理情報ファイル	583
7.21.1	置き換え表管理情報ファイルの作成	583
7.21.2	置き換え表管理情報ファイルの保存場所	583
7.22	置き換え表ファイル	584
7.22.1	置き換え表ファイルの作成	584
7.22.2	置き換え表ファイルの保存場所	585
7.23	EUR フォントファイル	586
7.23.1	EUR フォントファイルの作成	587
7.23.2	EUR フォントファイルの使用方法	589
7.23.3	EUR フォントファイルを使用するときの注意	589
7.24	出力ページ情報ファイル	591
7.24.1	出力ページ情報の出力形式	591
7.24.2	出力ページ情報の出力先	595
7.25	トレースファイル	597
7.26	環境設定ファイル	599
7.26.1	環境変数一覧	601
7.26.2	EURPS_REPORTPATH	606
7.26.3	EURPS_MAPDATAPATH	607
7.26.4	EURPS_USERDATAPATH	607
7.26.5	EURPS_OUTPUTPATH	608
7.26.6	EURPS_LOGFILEPATH	609
7.26.7	EURPS_LOGSIZE	609
7.26.8	EURPS_LOGFILELEVEL	610
7.26.9	EURPS_DISTINFOPATH	610
7.26.10	EURPS_IMAGEPATH	612
7.26.11	EURPS_REPORT_WARNING	612
7.26.12	EURPS_MULTI_REPORTSETPATH	613
7.26.13	EURPS_MULTIFORM_INFODEFPATH	614
7.26.14	EURPS_GAIJIFONT	614

7.26.15	EURPS_BOOKMARKPATH	615
7.26.16	EURPS_PDF_OUTPUT	616
7.26.17	EURPS_PDF_SAMEIMAGE	616
7.26.18	EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM	617
7.26.19	EURPS_CRYPTOFILEPATH	618
7.26.20	EURPS_DOCINFOPATH	619
7.26.21	EURPS_CSV_PRINT_PERIOD	619
7.26.22	EURPS_TMPPATH	620
7.26.23	EURPS_DBINFOPATH	621
7.26.24	EURPS_PDL_EXMINFONTPATH	621
7.26.25	EURPS_PDL_EXGOTFONTPATH	622
7.26.26	EURPS_TRACE	622
7.26.27	EURPS_TRACE_DRAWAPI	622
7.26.28	EURPS_REPORT_LOGERROR	623
7.26.29	EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH	623
7.26.30	EURPS_REPLACEITEMPATH	624
7.26.31	EURPS_SKIP_OUTPUTSPACE	625
7.26.32	EURPS_PRINT	625
7.26.33	EURPS_CODE39_PARAM	626
7.26.34	EURPS_CODE128_PARAM	628
7.26.35	EURPS_QR_CORRECTION_LEVEL	629
7.26.36	EURPS_QR_VERSION	630
7.26.37	EURPS_NOSKIP_OUTPUTSPACE	630
7.26.38	EURPS_QR_CELL_SIZE_D	631
7.26.39	EURPS_QR_CELL_SIZE_M	631
7.26.40	EURPS_SCRIPTFILEPATH	632
7.26.41	EURPS_SCRIPTCNTLFILEPATH	632
7.26.42	EURPS_VIEWERPREFERENCEFILEPATH	633
7.26.43	EURPS_FIXOPT	634
7.26.44	EURPS_PRINTERINFPATH	634
7.26.45	EURPS_USE_05_06_FONT_LANG	635
7.26.46	EURPS_OUTPUTPDF_VER	636
7.26.47	EURPS_USE_05_06_FONT_REPLACE	636
7.26.48	EURPS_TINTINFOPATH	637
7.26.49	EURPS_FONT_WIDTH_MODE	637
7.26.50	EURPS_EXCELLOGFILELEVEL	638
7.26.51	EURPS_EXCELTMPATH	639

7.26.52	EURPS_ENVFILE	639
7.26.53	EURPS_TESTPRINTFILE	639
7.26.54	EURPS_FONT_ROUNDDOWN	639
7.26.55	EURPS_MAX_SPOOL_PAGES	640
7.26.56	ESC/P 対応プリンタ出力用の環境変数	641
7.26.57	環境設定ファイルの指定例	645

8

ログ機能 651

8.1	標準エラー出力	652
8.2	ActiveX オブジェクトのエラー出力	653
8.3	JavaBeans 起動部品のエラー出力	654
8.4	JavaBeans 起動部品のログ	655
8.5	イベントログ	657
8.6	eurps ログ	658
8.6.1	コマンド実行時に eurps ログの出力先フォルダを作成する機能	660
8.6.2	eurps ログが出力できないときにユーザに通知する機能	660
8.7	EPS-XLSX ログ	661
8.7.1	EPS-XLSX ログの出力形式	663
8.8	ログの出力例	669
8.8.1	イベントログの出力例	669
8.8.2	eurps ログの出力例	669
8.8.3	JavaBeans 起動部品のエラーログの出力例	671
8.8.4	JavaBeans 起動部品のトレースファイルの出力例	672
8.8.5	EPS-XLSX ログの出力例	673

9

障害対策 675

9.1	保守情報の採取	676
9.1.1	連絡時に必要な保守情報	676
9.1.2	障害が再現する場合に追加採取する保守情報	677
9.1.3	データベースと接続している場合に採取する保守情報	677

10

帳票出力の互換性 679

10.1	Windows 版 EUR 旧製品からの互換性	680
10.1.1	帳票の互換性	680

10.1.2	UAP の互換性	680
10.2	UNIX 版 EUR との互換性	681
10.2.1	帳票の互換性	681
10.2.2	UAP の互換性	681
10.3	バージョン 7 以前で作成した帳票との互換性	682
10.4	EUR サーバ帳票出力機能で出力できる帳票の設計	683

11

EUR サーバ帳票出力機能での使用上の注意	685
-----------------------	-----

11.1	帳票出力するときの注意	686
11.1.1	使用できない機能	686
11.1.2	Windows Server 2003 x64 および Windows Server 2003 R2 x64 で出力する場合の注意	686
11.1.3	ネットワークドライブや共有フォルダにアクセスする場合の注意	687
11.1.4	コマンドに指定したデータの優先順位	687
11.1.5	画像ファイルの扱い	687
11.1.6	フルパスの指定方法	687
11.1.7	入力データファイルに関する注意	688
11.1.8	出力先ファイル名の注意	688
11.1.9	出力ページ数の上限値	688
11.1.10	UNIX / Linux 環境で使用する場合の注意	689
11.1.11	PDF 形式ファイルにフォントを埋め込むときの注意	690
11.1.12	Visual Studio 2003 から ActiveX オブジェクトを使用する場合の注意	690
11.1.13	非 Unicode アプリケーションを使用する場合の注意	690
11.1.14	ファイル名に NEC 選定 IBM 拡張文字を指定する場合	690
11.1.15	大量ページの出力時の注意	691
11.1.16	一時フォルダに関する注意	692
11.1.17	PDF 形式ファイルを暗号化出力するときの注意	692
11.1.18	点線を出力するときの注意	692
11.2	出力形式別の注意	693
11.2.1	プリンタ出力するときの注意	693
11.2.2	EUR 形式ファイルを出力するときの注意	693
11.2.3	PDF 形式ファイルに出力するときの注意	695
11.2.4	複数の帳票セットを指定して出力するときの注意	698
11.2.5	複数様式を使用する場合の注意	699
11.2.6	JavaBeans 起動部品で帳票を出力するときの注意	700
11.2.7	データファイル名の指定を省略した帳票を出力するときの注意	700

11.2.8	ユーザ定義サイズの帳票を出力するときの注意	701
11.2.9	固定画像のある帳票を出力するときの注意	701
11.2.10	Excel 形式ファイルを出力するときの注意	702
11.3	フォントについての注意	706
11.4	バーコードについての注意	707
11.4.1	バーコードの印刷の注意	707
11.4.2	バーコードのデータキャラクタの置き換え	707
11.4.3	16 進文字列の QR コードを使用するときの注意	709
11.5	プリンタについての注意	710
11.5.1	出力するプリンタ指定	710
11.5.2	光学式読み取り装置で帳票を読み取るとき	710
11.5.3	プリンタ解像度ごとのバーコード最小サイズ	710
11.5.4	プリンタに出力するときの注意	711
11.6	出力環境についての注意	717
11.6.1	PATH 環境変数の設定	717
11.6.2	ASP.NET 環境でコーディングするときの注意	717
11.6.3	サービス環境で実行するときの注意	717
11.6.4	アカウントに対するアクセス権の設定	718
11.6.5	EUR サーバ帳票出力機能を複数同時に実行する環境についての注意	718
11.7	ログ・トレースの注意	719
11.7.1	ログ出力の注意	719
11.7.2	ログ機能に関する注意	719
11.7.3	トレース採取に関する注意	719
11.8	インストール、アンインストール時の注意	720
11.8.1	インストール時の注意	720
11.8.2	アンインストール時の注意	721
11.8.3	リモートインストール (Windows 環境の場合)	722
11.8.4	リモートインストール (UNIX 環境の場合)	723
11.8.5	ディスク複製インストール	723
11.9	ヘルプについての注意	724
12	EUR サーバ帳票出力機能で使用するダイアログ	725
12.1	[EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログ	726

付録	731
付録 A インストール, アンインストール	732
付録 A.1 インストールの手順	732
付録 A.2 インストール後に作成されるフォルダ	732
付録 A.3 アンインストールの手順	739
付録 B DABroker の利用	741
付録 B.1 セットアップ	742
付録 B.2 DABroker の起動と終了	753
付録 B.3 DABroker の起動中に使用できるユティリティ	755
付録 B.4 DABroker の設定	769
付録 C 作業環境の言語との対応	772
付録 C.1 表示言語の切り替え	772
付録 C.2 入力ファイルのエンコーディング	773
付録 D ラテン文字一覧	776
付録 E このマニュアルの参考情報	779
付録 E.1 関連マニュアル	779
付録 E.2 EUR バージョン 8 での製品体系の変更	781
付録 E.3 EUR バージョン 8 でのマニュアル体系の変更	782
付録 E.4 このマニュアルでの表記	783
付録 E.5 このマニュアルで使用する略語	785
付録 E.6 適用 OS の違いによる機能相違点の表記	786
付録 E.7 インストール先フォルダの表記	787
付録 E.8 関連するプログラムプロダクト	787
付録 E.9 KB (キロバイト) などの単位表記について	791
索引	793

1

EUR サーバ帳票出力機能の概要

この章では、EUR サーバ帳票出力機能と、その付加製品の概要について説明します。
また、EUR サーバ帳票出力機能で帳票を出力する流れについても説明します。

-
- 1.1 EUR サーバ帳票出力機能とは
 - 1.2 EUR サーバ帳票出力機能で帳票を出力するには
 - 1.3 複数様式で帳票を出力するには
 - 1.4 データベースからデータを入力するには
 - 1.5 EUR Developer で帳票を出力するには
 - 1.6 プロポーションナルフォントを出力するには
 - 1.7 EUR サーバ帳票出力機能を英語または中国語で使用するには
 - 1.8 出力できない文字があるときには
-

1.1 EUR サーバ帳票出力機能とは

EUR サーバ帳票出力機能は、EUR 帳票作成機能で設計した帳票ファイルと、帳票出力に必要なデータファイルから、サーバ環境で帳票を出力する機能です。帳票のデータは、各環境で準備したデータと入れ替えて出力できます。

EUR 帳票作成機能で設計した帳票をプリンタに出力できます

EUR Developer、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise を使用することで、EUR 帳票作成機能で設計した帳票をプリンタに出力できます。出力できるプリンタは、各 OS で異なります。

- Windows 環境の場合

Windows プリンタに標準対応しています。

JP1 と連携した仕分け印刷ができます。また、EUR 帳票作成機能で設計した帳票を、帳票イメージで CSV 形式ファイルに出力することもできます。

ただし、JP1 と連携した仕分け印刷は、英語ロケール、および中国語ロケールでは使用できません。

- UNIX / Linux 環境の場合

HP-UX 環境、AIX 環境、および Linux 環境で定義してあるプリンタ、LIPSIII、PostScript Level2、および ESC/P に標準対応しています。PDL ファイル出力もできます。EUR サーバ帳票出力機能では、PDL（ページ記述言語）で書かれたファイルを、PDL ファイルと定義します。また、EUR 帳票作成機能で設計した帳票を、帳票イメージで CSV 形式ファイルに出力することもできます。

EUR 帳票作成機能で設計した帳票を PDF 形式ファイルに出力できます

EUR Developer、または EUR Print Service Enterprise を使用することで、EUR 帳票作成機能で設計した帳票を PDF 形式ファイルに出力できます。

PDF 形式ファイルは、仕分け出力したり、暗号化にしたりすることもできます。

Web サーバ上に出力された PDF 形式ファイルは、FTP などを使用してクライアント PC へ転送したあと、Adobe Reader を使用して閲覧、または印刷します。

なお、PDF 形式ファイルを暗号化するには付加製品の EUR Print Service - Cipher option が必要です。

ただし、PDF 形式ファイルの仕分け出力は、英語ロケール、および中国語ロケールでは使用できません。

EUR 帳票作成機能で設計した帳票を EUR 形式ファイルに出力できます

EUR Developer、または EUR Print Service Enterprise を使用することで、EUR 帳票作成機能で設計した帳票を EUR 形式ファイルに出力できます。EUR 形式ファイルは、フォームシートファイル、マッピングデータファイル、ユーザ定義データファイル、および画像ファイルを結合して 1 ファイルにしたものです。

Web サーバ上に出力された EUR 形式ファイルは、FTP などを使用してクライアント PC へ転送したあと、EUR クライアント帳票出力機能を使用してプレビュー、ま

たは印刷ができます。

EUR 帳票作成機能で設計した帳票を Excel 形式ファイルに出力できます

EUR Developer , または EUR Print Service Enterprise を使用することで , EUR 帳票作成機能で設計した帳票を Excel 形式ファイルに出力できます。

Excel 形式ファイルは , 帳票の内容を編集したり , コメントやグラフを挿入したりするなど , Excel を使って帳票ファイルを二次加工できます。

Web サーバ上に出力された Excel 形式ファイルは , FTP などを使用してクライアント PC へ転送したあと , Excel を使用して閲覧 , 編集 , または印刷します。

1.2 EUR サーバ帳票出力機能で帳票を出力するには

EUR サーバ帳票出力機能で帳票を出力するための手順を示します。

1.2.1 EUR サーバ帳票出力機能で帳票を出力するための準備

この項では、作成した帳票を EUR サーバ帳票出力機能で出力するための手順を示します。

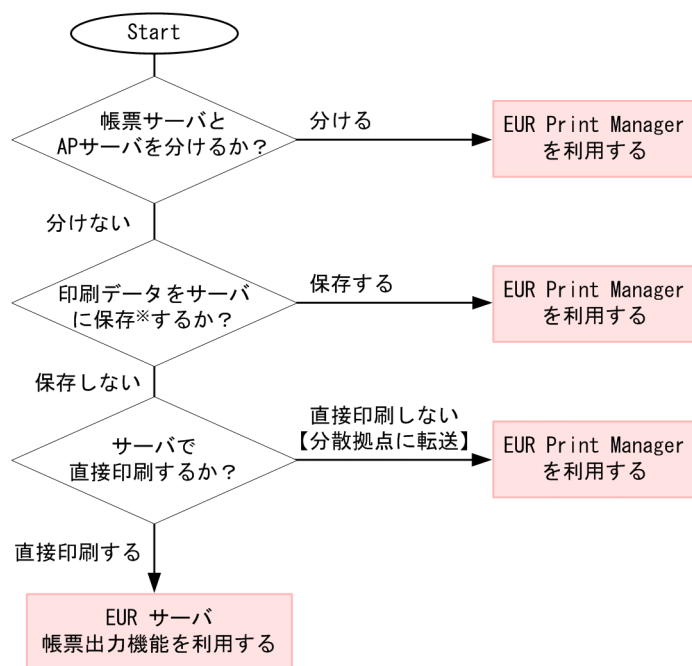
帳票の出力方法を決定するには、帳票の用途に応じて次の事項を決定します。

- 帳票の運用形態（帳票の出力先マシンはサーバか、クライアントか、など）
- 帳票の出力形式（帳票は印刷するか、データ出力するか、など）
- 帳票の様式（様式は一つか、二つ以上か、など）

決定した出力方法を基に、帳票出力時に設定する機能を次の流れから決定します。

（1）帳票の運用形態を決定するまでの流れ

帳票の運用形態を次の流れに従って決定してください。



（凡例）

■ : 運用形態を示します。

注

帳票の印刷データをすぐに印刷しないで、サーバ内に保存しておくことができます。印刷要求があったときにデータを読み出して印刷したり、一度印刷したデータを再印刷したりできます。また、帳票を検索して印刷するなどの管理もできます。この印刷方法を「蓄積印刷」と呼びます。

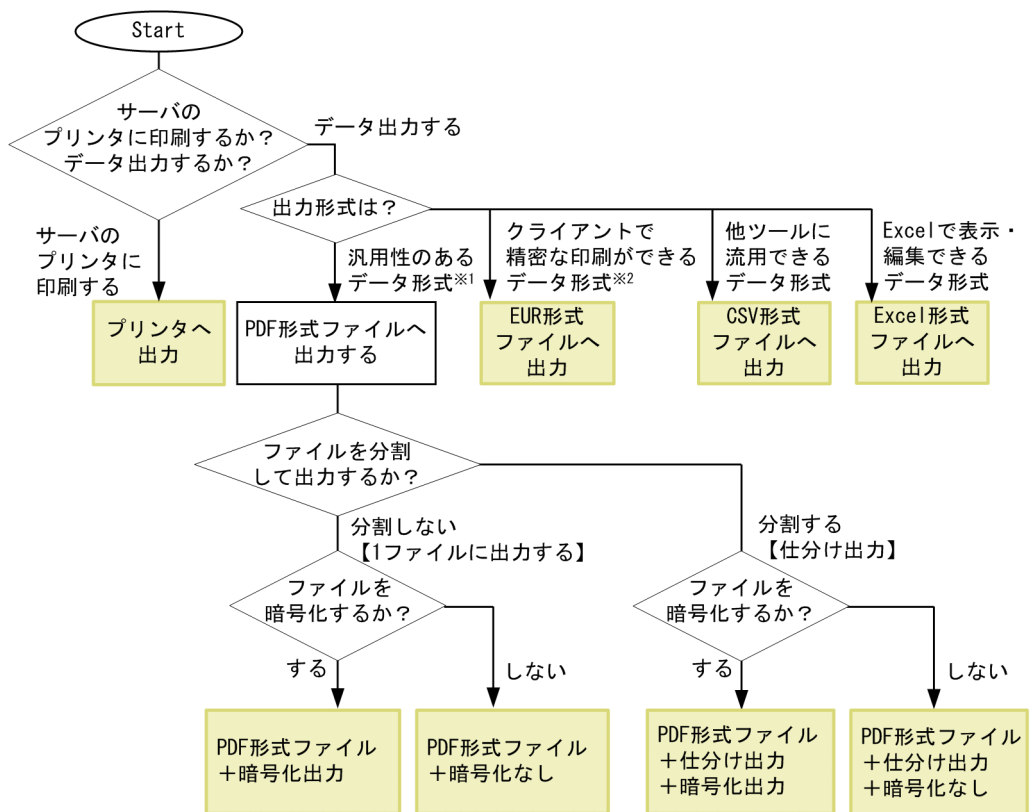
運用形態が「EUR サーバ帳票出力機能を利用する」に決定した場合は、「(2) 帳票の出力形式と帳票様式を決定するまでの流れ」に進んでください。

運用形態が「EUR Print Manager を利用する」に決定した場合は、マニュアル「EUR Print Manager 帳票出力」を参照してください。

(2) 帳票の出力形式と帳票様式を決定するまでの流れ

ここでは、帳票の出力形式と帳票様式を決定するまでの流れを示します。

帳票の出力形式を決定するまでの流れ



(凡例)

■：出力形式に応じて、コマンドまたは業務アプリケーションで設定する機能を示します。使用する機能ごとのコーディング例の記載箇所を次に示します。

1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

- eurps コマンドを使用する場合
「表 3-1 コーディング例の記載個所（コマンドの場合）」を参照してください。
- ActiveX オブジェクトを使用する場合（Windows 環境だけ）
「表 4-1 コーディング例の記載個所（ActiveX オブジェクトの場合）」を参照してください。
- JavaBeans を使用する場合
「表 5-1 コーディング例の記載個所（JavaBeans の場合）」を参照してください。

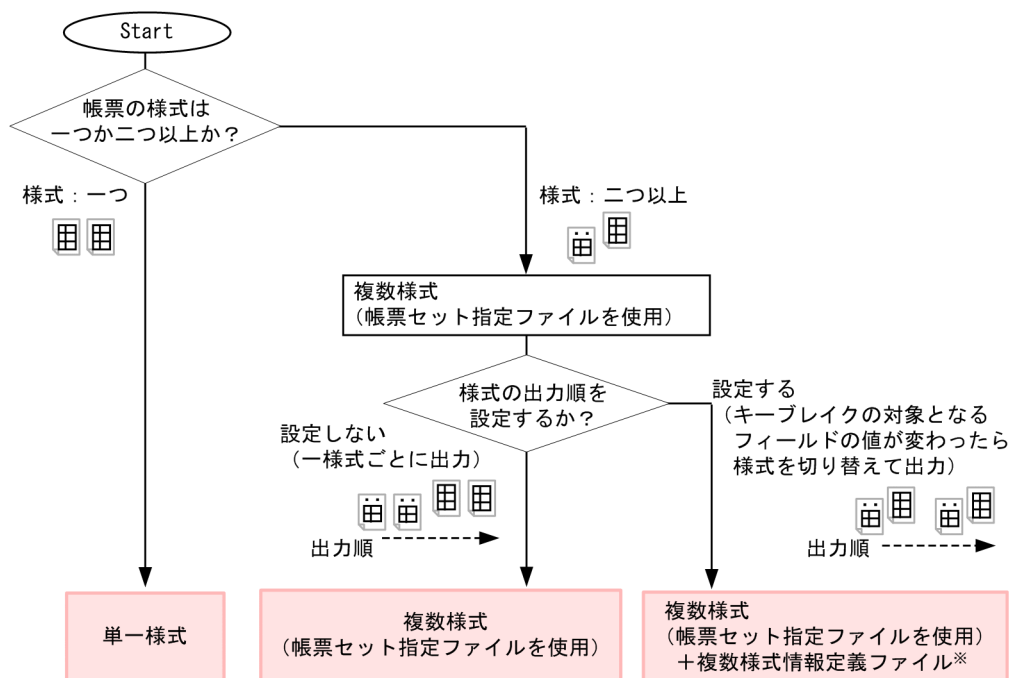
注 1

PDF 形式ファイルへ出力した帳票データは、EUR がインストールされていない PC や、異なる OS の PC との間でもやり取りできます。

注 2

EUR 形式ファイルへ出力した帳票データは、より精度が高いバーコードの印刷や、プリンタごとの印刷補正ができます。

帳票様式を決定するまでの流れ



(凡例)

■：帳票様式に応じて、コマンドまたは業務アプリケーションで設定する機能を示します。使用する機能ごとのコーディング例の記載個所を次に示します。

- eurps コマンドを使用する場合
「表 3-1 コーディング例の記載個所（コマンドの場合）」を参照してください。
- ActiveX オブジェクトを使用する場合（Windows 環境だけ）

「表 4-1 コーディング例の記載箇所 (ActiveX オブジェクトの場合)」を参照してください。

- JavaBeans を使用する場合

「表 5-1 コーディング例の記載箇所 (JavaBeans の場合)」を参照してください。

注

複数様式の出力については、「7.8 複数様式情報定義ファイル」を参照してください。

この流れで決定した機能を使って帳票を出力するには、コマンドまたは業務アプリケーションを使用します。OS ごとに使用できるコマンドまたは業務アプリケーションを次の表に示します。

表 1-1 帳票を出力する方法と使用できる OS

帳票出力の方法	説明	参照先	Windows 環境の場合	UNIX / Linux 環境の場合
eurps コマンドからの帳票出力	アプリケーションなどの運用ツールから実行する場合、コマンドインターフェースを使用できます。	「3. コマンドからの帳票出力」		
Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力	EUR サーバ帳票出力機能で提供する ActiveX オブジェクトを使用して、IIS サーバの VBScript や Visual Basic プログラムから実行できます。	「4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力」		×
JavaBeans を使用した帳票出力	JavaBeans を使用して、サーバサイド Java 環境で JSP や Java サーブレットから EUR サーバ帳票出力機能を起動して帳票を出力できます。JavaBeans を使用すると、アプリケーションと同期を取って出力処理を実行できます。	「5. JavaBeans を使用した帳票出力」		

(凡例)

: 使用できます。

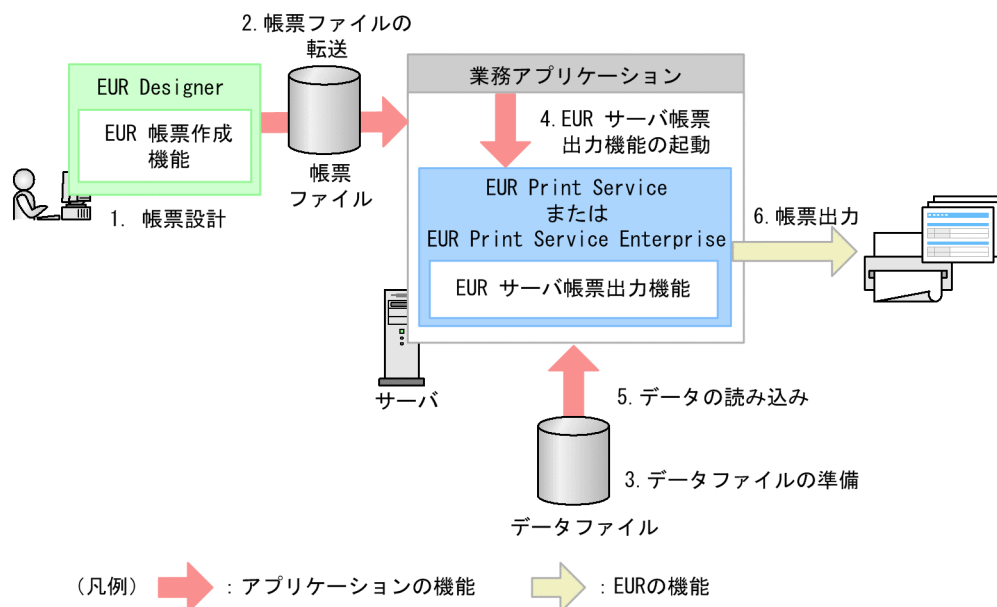
× : 使用できません。

1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

1.2.2 帳票をプリンタ出力するには

帳票をプリンタ出力する手順を次に示します。

図 1-1 帳票をプリンタ出力するときの処理の流れ



1. 帳票設計

EUR 帳票作成機能で帳票設計して、フォームシートファイル (*.fms) として保存した帳票ファイルだけ読み込めます。

EUR 帳票作成機能では実現できても、EUR サーバ帳票出力機能では実現できない機能があります。EUR 帳票作成機能で設計した帳票を EUR サーバ帳票出力機能で出力する場合は、EUR サーバ帳票出力機能で出力できる機能範囲で帳票を設計してください。

なお、EUR サーバ帳票出力機能で出力できる帳票ファイルの互換性については、次に示す箇所を参照してください。

- 帳票の互換性
「10.1.1 帳票の互換性」を参照してください。
- フォントの互換性
「2.5 EUR サーバ帳票出力機能でのプロポーショナルフォントの出力」を参照してください。
- その他の互換性
「10.4 EUR サーバ帳票出力機能で出力できる帳票の設計」を参照してください。

2. 帳票ファイルの転送

フォームシートファイル (*.fms) に保存した帳票ファイルを、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise を実行するアプリケーションサーバに転送しま

す。

3. データファイルの準備

出力する帳票の入力データとなるデータファイルを準備します。
データファイルの形式は、「7.3 データファイル」を参照してください。

4. EUR サーバ帳票出力機能の起動

業務アプリケーションから、EUR サーバ帳票出力機能を起動します。

5. データの読み込み

EUR サーバ帳票出力機能がデータファイルのデータを読み込み、帳票上に流し込みます。

6. 帳票出力

EUR サーバ帳票出力機能で帳票を出力します。

プリンタに出力するとき、複数の帳票セットを指定して出力することもできます。プリンタ出力での「帳票セット」は、帳票ファイルとデータファイルを一まとまりにしたものを示します。複数の帳票セットをプリンタに出力した場合、それぞれの帳票ファイルで用紙の向きやサイズが異なっても、定義されている帳票の情報に合わせて出力できます。

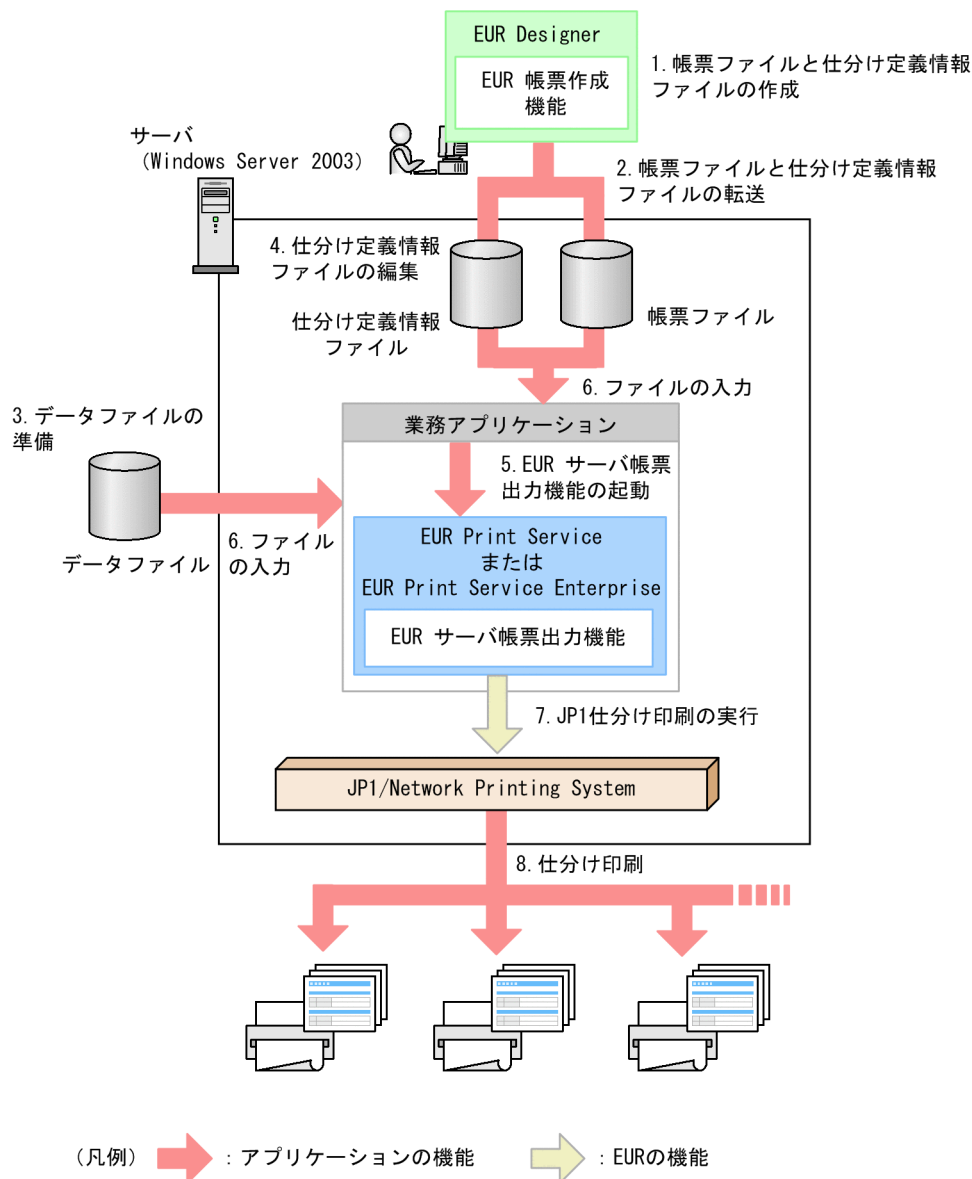
(1) 仕分け印刷で帳票の印刷先を振り分けるには

EUR サーバ帳票出力機能では、EUR Print Manager と連携した仕分け印刷ができます。EUR Print Manager と連携した仕分け印刷については、マニュアル「EUR Print Manager 帳票出力」を参照してください。

また、Windows 版の EUR サーバ帳票出力機能では、JP1 と連携した仕分け印刷もできます。ここでは、JP1 と連携して仕分け印刷する手順と必要なファイルを説明します。

1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

図 1-2 JP1 と連携して仕分け印刷するときの処理の流れ



1. 帳票ファイルと仕分け定義情報ファイルの作成
EUR 帳票作成機能を使って、帳票を設計し、仕分け定義ファイルを作成します。
2. 帳票ファイルと仕分け定義情報ファイルの転送
フォームシートファイル (*.fms) に保存した帳票ファイルと、EUR 帳票作成機能で作成した仕分け定義情報ファイルを、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise を実行するアプリケーションサーバに転送します。
仕分け定義情報ファイルの形式は、「7.11 仕分け定義情報ファイル」を参照してく

ださい。

3. データファイルの準備

出力する帳票の入力データとなるデータファイルを準備します。データファイルの形式は、「7.3 データファイル」を参照してください。

4. 仕分け定義情報ファイルの編集

JP1 仕分け印刷には、仕分け定義情報ファイルが必要です。

仕分け定義情報ファイルの配布先名称に、配布先プリンタ名、または印刷実行するユーザで定義した JP1/Network Printing System の仕分け定義情報の配布先情報名を指定するなどの編集が必要です。仕分け定義情報ファイルの編集については、「7.11.1 JP1 と連携して仕分け印刷する場合」を参照してください。

5. EUR サーバ帳票出力機能の起動

業務アプリケーションから、EUR サーバ帳票出力機能を起動します。

6. ファイルの入力

帳票ファイル、データファイル、および仕分け定義情報ファイルを EUR サーバ帳票出力機能に入力します。

7. JP1 仕分け印刷の実行

JP1 仕分け印刷を eurps コマンドから実行します。

eurps コマンドの構文については、「3.2.1 eurps コマンドの構文」を参照してください。

コーディング例については、「3.6.2 プリンタ出力の指定例」を参照してください。

エラー情報については、「3.5 eurps コマンド実行時の終了コード」を参照してください。

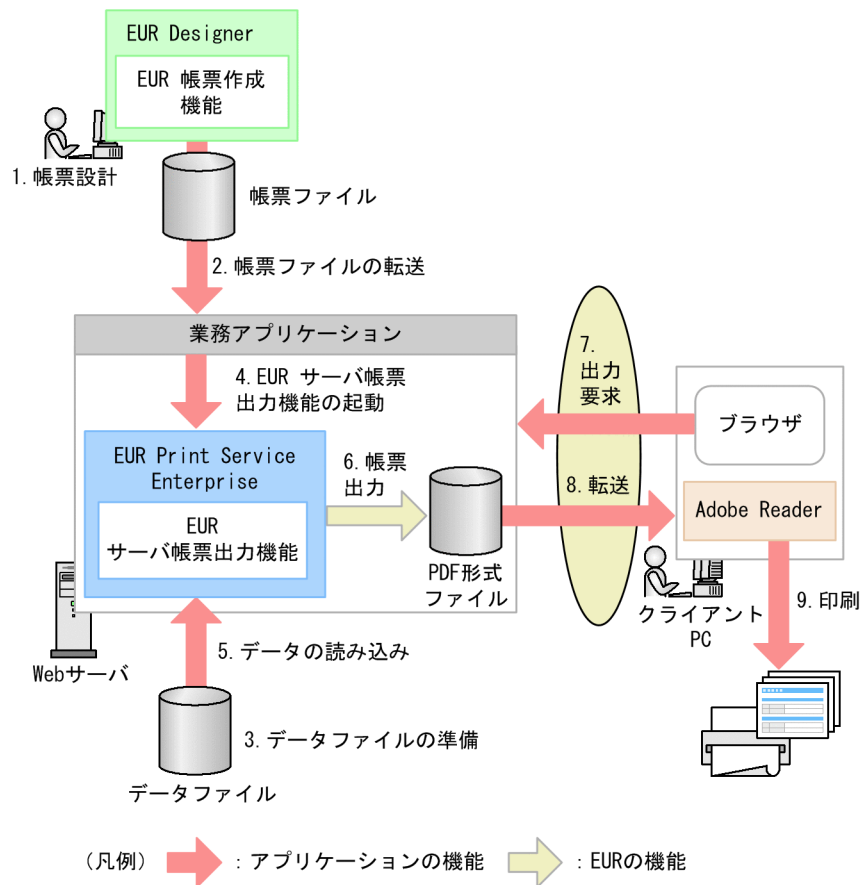
8. 仕分け印刷

JP1 と連携して、仕分け印刷されます。

1.2.3 帳票を PDF 形式ファイルに出力するには

作成した帳票を PDF 形式ファイルに出力する流れを次に示します。

図 1-3 帳票を PDF 形式ファイルに出力するときの処理の流れ



1. 帳票設計

EUR 帳票作成機能で帳票設計して、フォームシートファイル (*.fms) として保存した帳票ファイルだけ読み込めます。

EUR 帳票作成機能では実現できても、EUR サーバ帳票出力機能では実現できない機能があります。EUR 帳票作成機能で設計した帳票を EUR サーバ帳票出力機能で出力する場合は、EUR サーバ帳票出力機能で出力できる機能範囲で帳票を設計してください。

なお、EUR サーバ帳票出力機能で出力する帳票設計の互換性については、次に示す個所を参照してください。

- 帳票の互換性
 - 「10.1.1 帳票の互換性」を参照してください。
- フォントの互換性

「2.5 EUR サーバ帳票出力機能でのプロポーショナルフォントの出力」を参照してください。

- その他の互換性

「10.4 EUR サーバ帳票出力機能で出力できる帳票の設計」を参照してください。

2. 帳票ファイルの転送

フォームシートファイル(*.fms)に保存した帳票ファイルを、EUR Print Service Enterprise を実行するアプリケーションサーバに転送します。

3. データファイルの準備

出力する帳票の入力データとなるデータファイルを準備します。

データファイルの形式は、「7.3 データファイル」を参照してください。

4. EUR サーバ帳票出力機能の起動

業務アプリケーションから、EUR サーバ帳票出力機能を起動します。

5. データの読み込み

EUR サーバ帳票出力機能がデータファイルのデータを読み込み、帳票上に流し込みます。

6. 帳票出力

EUR サーバ帳票出力で帳票を PDF 形式ファイルに出力します。

EUR Print Service Enterprise を使うと、複数の帳票セットを一つの PDF 形式ファイルに出力したり、しおりを付けた PDF 形式ファイルを出力したり、PDF 形式ファイルを仕分け出力したりすることもできます。PDF 形式ファイル出力での「帳票セット」は、帳票ファイル、データファイル、およびしおり定義ファイルを一まとまりにしたものを示します。複数の帳票セットを一つの PDF 形式ファイルに出力した場合、それぞれの帳票ファイルで用紙の向きやサイズが異なっている場合、定義されている帳票の情報に合わせて出力できます。

また、次の付加製品や連携製品を組み合わせることができます。

- EUR Print Service - Cipher option

PDF 形式ファイルを暗号化して出力できます。

- 紙の番入

印刷後の複写、偽造および改ざんを検知できる PDF 形式ファイルを出力できます。

7. 出力要求

クライアント PC が業務アプリケーションに、PDF 形式ファイルの出力を要求します。

8. 転送

Web サーバ上に出力された PDF 形式ファイルを、FTP などを使用してクライアント PC へ転送します。

9. 印刷

Web サーバから転送された PDF 形式ファイルを印刷します。

このとき、クライアント PC では Adobe Reader を使用します。ブラウザ上では転送

1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

された PDF 形式ファイルをプレビューしてから印刷できます。

(1) しおりを付けた PDF 形式ファイルとは

EUR Print Service Enterprise では、PDF 形式ファイルを出力するときに、しおりを付加できます。しおりとは、見たいページをめくるために付加する印です。

ここでは PDF 形式ファイルにしおりを付ける目的、およびしおりに出力できるものを説明します。

(a) しおりを付ける目的

PDF 形式ファイルにしおりを付加しておくことで、Adobe Reader で表示したときに、次のような利点があります。

- PDF 形式ファイルの構成がわかりやすい
- PDF 形式ファイルを閲覧しやすい（しおりを選択することで、目的の場所に直接ジャンプできる）

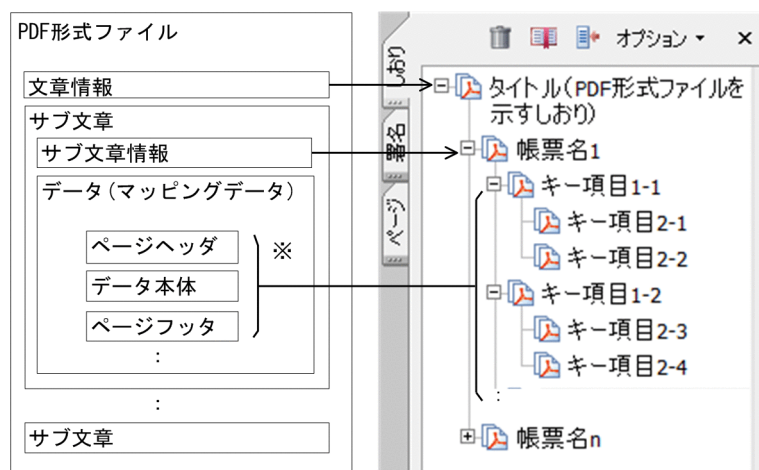
(b) しおりに出力できるもの

しおりに出力できるものを次に示します。

- PDF 文書情報のタイトル
「PDF 形式ファイルを示すしおり」になります。
- 帳票名
「PDF 形式ファイルを構成するサブ文書（帳票）を示すしおり」になります。
- キー項目
「（帳票に出力する）データのまとまりを表す項目のしおり」になります。「データのまとまり」とは、特定のフィールドでの同一データのことです。対象となるデータは、マッピングデータです。

PDF 形式ファイルの構成としおりの対応を、次に示します。

図 1-4 PDF 形式ファイルの構成としおりの対応



注※ 繰り返します。

「PDF 形式ファイルを示すしおり」をトップレベルのしおりとしますが、「PDF 形式ファイルを示すしおり」がない場合は、「PDF 形式ファイルを構成するサブ文書（帳票）を示すしおり」をトップレベルのしおりとします。

「（帳票に出力する）データのまとまりを表す項目のしおり」は、しおり定義ファイル中に指定した順に出力されます。階層は、5 階層までです。

「PDF 形式ファイルを示すしおり」の情報は、文書しおり定義ファイルに設定します。文書しおり定義ファイルについては、「7.13 文書しおり定義ファイル」を参照してください。

「PDF 形式ファイルを構成するサブ文書（帳票）を示すしおり」と「（帳票に出力する）データのまとまりを表す項目のしおり」は、しおり定義ファイルに設定します。しおり定義ファイルについては、「7.14 しおり定義ファイル」を参照してください。

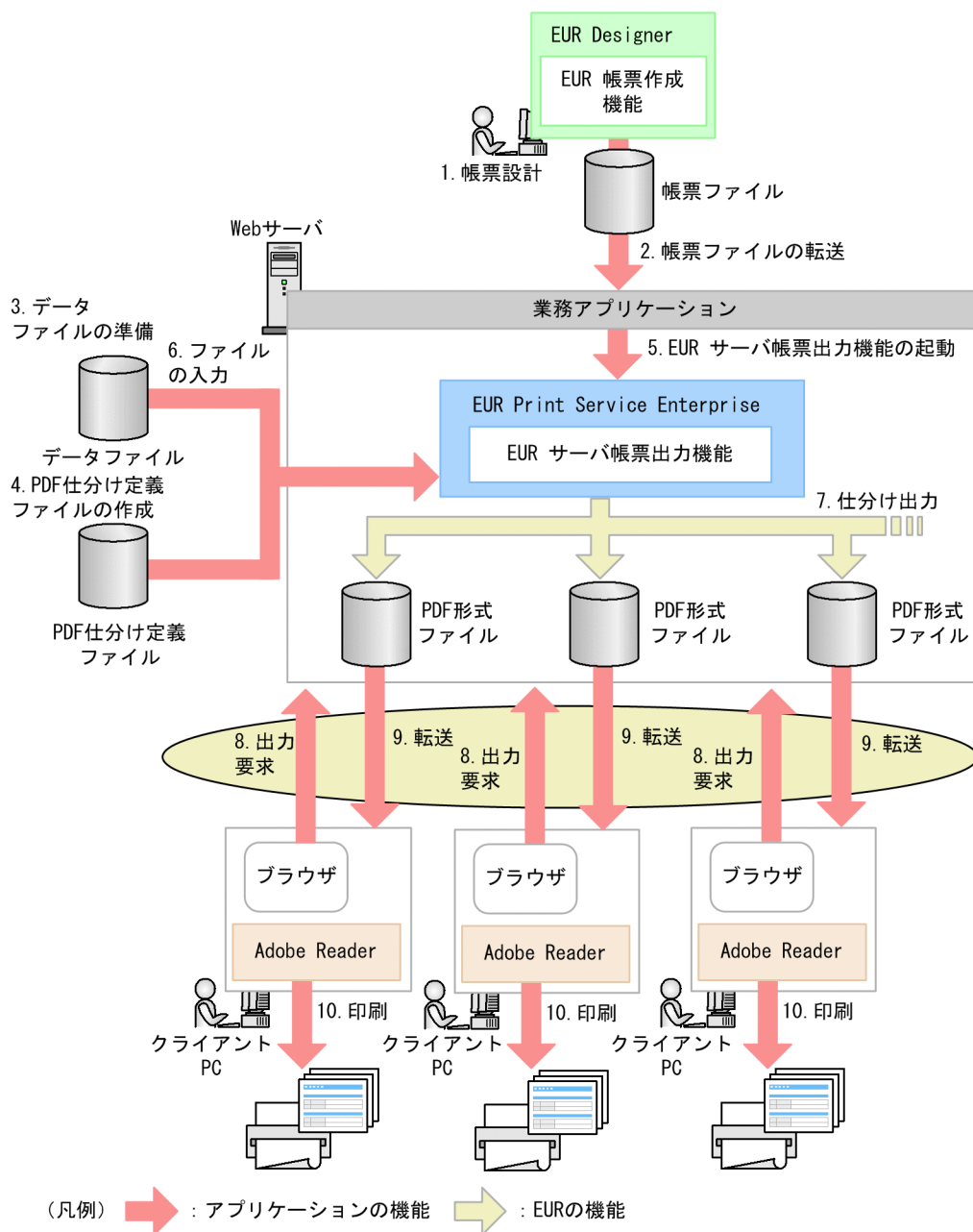
1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

(2) PDF 形式ファイルを仕分け出力するには

EUR Print Service Enterprise では、仕分けするキーフィールドと、出力先の PDF 形式ファイル名を指定しておくことで、PDF 形式ファイルを仕分けして出力できます。

PDF 形式ファイルを仕分け出力する流れと必要なファイルを次に示します。

図 1-5 PDF 形式ファイルを仕分け出力するときの処理の流れ



1. 帳票設計

EUR 帳票作成機能を使って、帳票を設計します。

2. 帳票ファイルの転送

フォームシートファイル(*.fms)に保存した帳票ファイルを、EUR Print Service Enterprise が組み込まれているアプリケーションサーバに転送します。

3. データファイルの準備

出力する帳票の入力データとなるデータファイルを準備します。
データファイルの形式は、「7.3 データファイル」を参照してください。

4. PDF 仕分け定義ファイルの作成

PDF 形式ファイルを仕分けする情報を、PDF 仕分け定義ファイルに設定します。
PDF 仕分け定義ファイルの作成、編集については、「7.12.1 PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合」を参照してください。

5. EUR サーバ帳票出力機能の起動

業務アプリケーションから、EUR サーバ帳票出力機能を起動します。

6. ファイルの入力

帳票ファイル、データファイル、および PDF 仕分け定義ファイルを EUR サーバ帳票出力機能に入力します。

7. 仕分け出力

EUR サーバ帳票出力機能で PDF 形式ファイルの仕分け出力を実行します。
PDF 形式ファイルの仕分け出力の実行には、次に示す三つの方法があります。

- eurps コマンドからの帳票出力

eurps コマンドの構文については、「3.2.1 eurps コマンドの構文」を参照してください。

コーディング例については、「3.6.3 PDF 形式ファイル出力の指定例」を参照してください。

エラー情報については、「3.5 eurps コマンド実行時の終了コード」を参照してください。

- ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

実行に必要なプロパティ一覧については、「4.3.2(2) ファイルに出力する場合」を参照してください。

出力の命令については、「4.4 ActiveX オブジェクトのメソッド仕様」を参照してください。

コーディング例については、「4.8.3(2) PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合」を参照してください。

エラー情報については、「4.7 ActiveX オブジェクトのエラー情報」を参照してください。

- JavaBeans 起動部品からの帳票出力

実行に必要なメソッド一覧については、「5.4.2(2) ファイルに出力する場合」を参照してください。

1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

コーディング例については、「5.10.3(2) PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合」を参照してください。

エラー情報については、「5.9 JavaBeans 起動部品の例外情報」を参照してください。

8. 出力要求

クライアント PC が業務アプリケーションに、PDF 形式ファイルの出力を要求します。

9. 転送

Web サーバ上に出力された PDF 形式ファイルを、FTP などを使用してクライアント PC へ転送します。

10.印刷

Web サーバから転送された PDF 形式ファイルを印刷します。

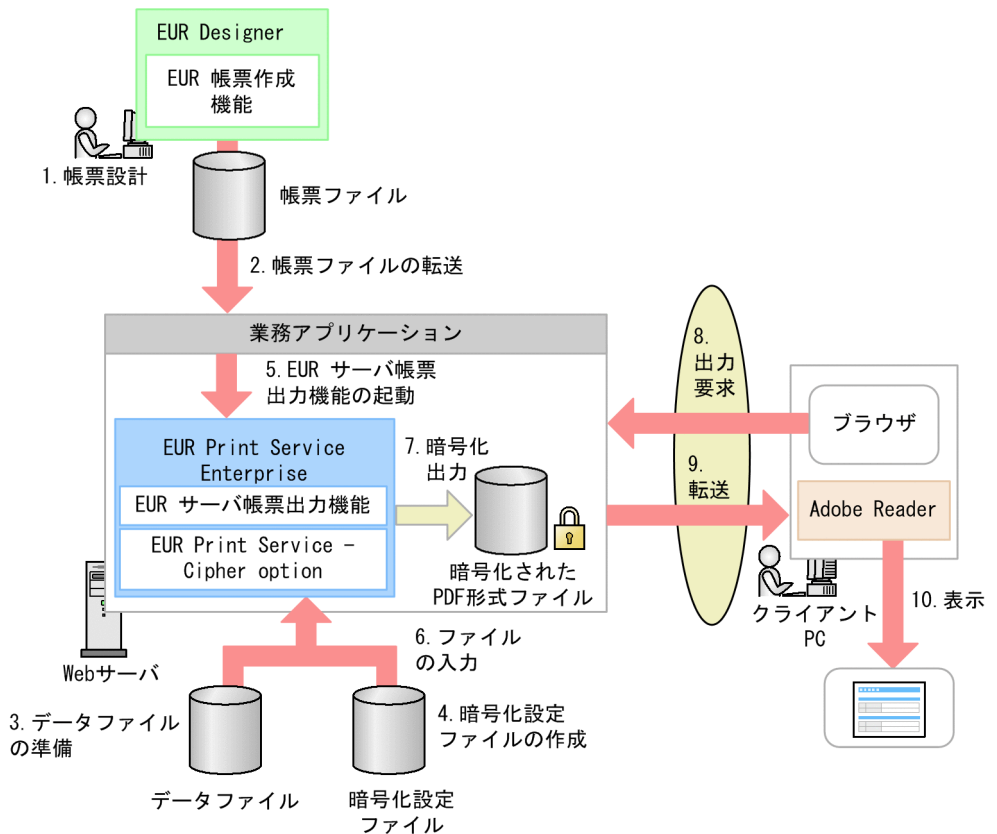
(3) PDF 形式ファイルを暗号化出力するには

EUR Print Service Enterprise に EUR Print Service - Cipher option を組み合わせること
 で、PDF 形式ファイルを暗号化して出力できます。

PDF 形式ファイルを暗号化することで、PDF 形式ファイルの改ざん、および給与明細な
 ど情報の漏えいを防ぐことができます。

PDF 形式ファイルを暗号化出力する流れと必要なファイルを次に示します。

図 1-6 PDF 形式ファイルを暗号化出力するときの処理の流れ



(凡例)

→ : アプリケーションの機能 → : EURの機能

1. 帳票設計

EUR 帳票作成機能を使って、帳票を設計します。

2. 帳票ファイルの転送

フォームシートファイル (*.fms) に保存した帳票ファイルを、EUR Print Service - Cipher option を付加した EUR Print Service Enterprise が組み込まれているアプリ

1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

ケーションサーバに転送します。

3. データファイルの準備

出力する帳票の入力データとなるデータファイルを準備します。

データファイルの形式は、「7.3 データファイル」を参照してください。

4. 暗号化設定ファイルの作成

PDF 形式ファイルを暗号化出力するには、次に示すセキュリティ属性を暗号化設定ファイルに設定します。

- ユーザパスワード

PDF 形式ファイルを閲覧するためのパスワードです。

- オーナパスワード

セキュリティ属性を変更するパスワードです。

- 印刷

- 文書の変更

- 内容のコピー、または抽出

- 注釈とフォームフィールドの作成

ユーザパスワードとオーナパスワードには、暗号化したパスワードも指定できます。

暗号化設定ファイルの作成、編集については、「7.15.2 暗号化設定ファイルの編集」を参照してください。

5. EUR サーバ帳票出力機能の起動

業務アプリケーションから、EUR Print Service - Cipher option を付加した EUR Print Service Enterprise を起動します。

6. ファイルの入力

帳票ファイル、データファイル、および暗号化設定ファイルを EUR Print Service - Cipher option を付加した EUR Print Service Enterprise に入力します。

7. 暗号化出力

PDF 形式ファイルの暗号化出力を実行します。

PDF 形式ファイルの暗号化出力の実行には、次に示す三つの方法があります。

- eurps コマンドからの帳票出力

eurps コマンドの構文については、「3.2.1 eurps コマンドの構文」を参照してください。

コーディング例については「3.6.3 PDF 形式ファイル出力の指定例」を参照してください。

エラー情報については、「3.5 eurps コマンド実行時の終了コード」を参照してください。

- ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

実行に必要なプロパティ一覧については、「4.3.2(2) ファイルに出力する場合」を参照してください。

出力の命令については、「4.4 ActiveX オブジェクトのメソッド仕様」を参照してください。

コーディング例については、「4.8.3(3) PDF 形式ファイルを暗号化出力する場合」を参照してください。

エラー情報については、「4.7 ActiveX オブジェクトのエラー情報」を参照してください。

- JavaBeans 起動部品からの帳票出力

実行に必要なメソッド一覧については、「5.4.2(2) ファイルに出力する場合」を参照してください。

コーディング例については、「5.10.3(3) PDF 形式ファイルを暗号化出力する場合」を参照してください。

エラー情報については、「5.9 JavaBeans 起動部品の例外情報」を参照してください。

8. 出力要求

クライアント PC が業務アプリケーションに、PDF 形式ファイルの出力を要求します。

9. 転送

Web サーバ上に出力された PDF 形式ファイルを、FTP などを使用してクライアント PC へ転送します。

10. 表示

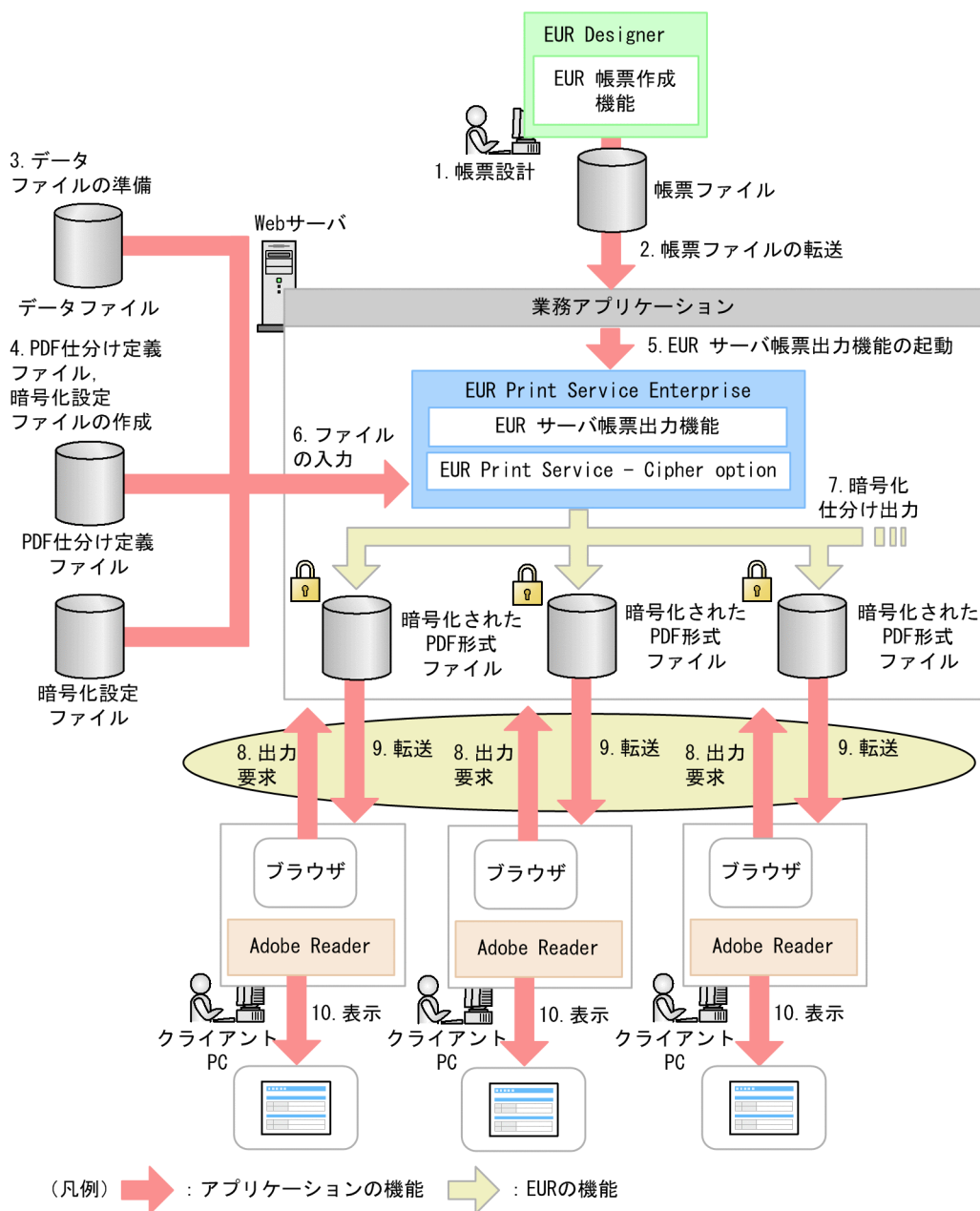
Web サーバから転送された、PDF 形式ファイルを表示します。

(4) PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力するには

EUR Print Service Enterprise に EUR Print Service - Cipher option を組み合わせること
とで、PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力することもできます。

PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する流れと必要なファイルを次に示します。

図 1-7 PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力するときの処理の流れ



1. 帳票設計

EUR 帳票作成機能を使って、帳票を設計します。

2. 帳票ファイルの転送

フォームシートファイル (*.fms) に保存した帳票ファイルを、EUR Print Service Enterprise が組み込まれているアプリケーションサーバに転送します。

3. データファイルの準備

出力する帳票の入力データとなるデータファイルを準備します。

データファイルの形式は、「7.3 データファイル」を参照してください。

4. PDF 仕分け定義ファイル、暗号化設定ファイルの作成

PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力するには、PDF 仕分け定義ファイルが必要です。

PDF 仕分け定義ファイルには、仕分けした PDF 形式ファイルを閲覧するためのパスワード（ユーザパスワード）を設定します。PDF 仕分け定義ファイルの作成、編集については、「7.12.2 PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合」を参照してください。

セキュリティ属性を変更するパスワード（EUR ではオーナパスワード）も設定する場合は、「暗号化設定ファイル」が必要です。暗号化設定ファイルの作成、編集については、「7.15.2 暗号化設定ファイルの編集」を参照してください。

5. EUR サーバ帳票出力機能の起動

業務アプリケーションから、EUR Print Service - Cipher option を付加した EUR Print Service Enterprise を起動します。

6. ファイルの入力

帳票ファイル、データファイル、PDF 仕分け定義ファイル、および暗号化設定ファイルを EUR Print Service - Cipher option を付加した EUR Print Service Enterprise に入力します。

7. 暗号化仕分け出力

PDF 形式ファイルの暗号化仕分け出力を実行します。

PDF 形式ファイルの暗号化仕分け出力の実行には、次に示す三つの方法があります。

- eurps コマンドからの帳票出力

eurps コマンドの構文については、「3.2.1 eurps コマンドの構文」を参照してください。

コーディング例については、「3.6.3 PDF 形式ファイル出力の指定例」を参照してください。

エラー情報については、「3.5 eurps コマンド実行時の終了コード」を参照してください。

- ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

実行に必要なプロパティ一覧については、「4.3.2(2) ファイルに出力する場合」を参照してください。

出力の命令については、「4.4 ActiveX オブジェクトのメソッド仕様」を参照して

1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

ください。

コーディング例については、「4.8.3(2) PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合」を参照してください。

エラー情報については、「4.7 ActiveX オブジェクトのエラー情報」を参照してください。

- JavaBeans 起動部品からの帳票出力

実行に必要なメソッド一覧については、「5.4.2(2) ファイルに出力する場合」を参照してください。

コーディング例については、「5.10.3(2) PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合」を参照してください。

エラー情報については、「5.9 JavaBeans 起動部品の例外情報」を参照してください。

8. 出力要求

クライアント PC が業務アプリケーションに、PDF 形式ファイルの出力を要求します。

9. 転送

Web サーバ上に出力された PDF 形式ファイルを、FTP などを使用してクライアント PC へ転送します。

10. 表示

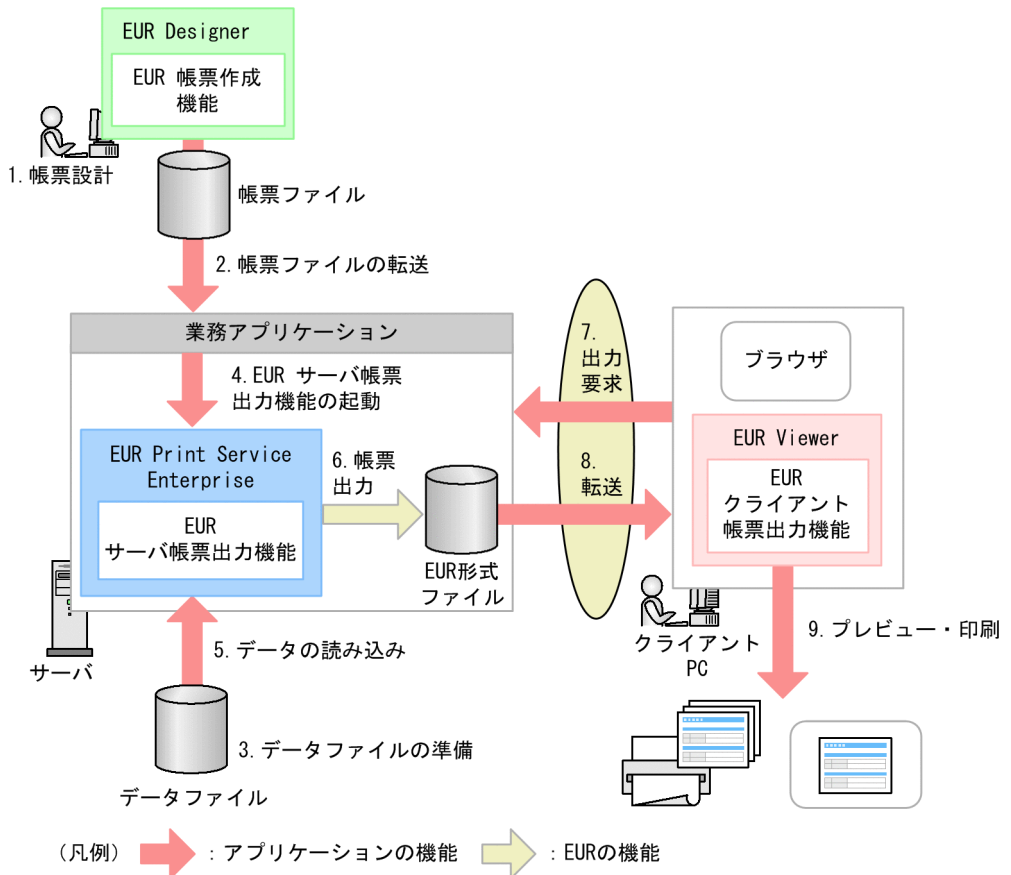
Web サーバから転送された、PDF 形式ファイルを表示します。

1.2.4 帳票を EUR 形式ファイルに出力するには

EUR 形式ファイルは、EUR の独自形式の印刷データファイルです。帳票定義ファイルとデータファイル（マッピングデータファイル、ユーザ定義データファイル、および画像ファイル）を一つのパッケージにしたファイルで、PDF 形式よりもサイズが小さく、ネットワーク負荷を軽減できます。1 ファイルにまとめているので、Web システムなどで帳票を利用するときに便利です。

作成した帳票を EUR 形式ファイルに出力する流れを次に示します。

図 1-8 帳票を EUR 形式ファイルに出力するときの流れ



1. 帳票設計

EUR 帳票作成機能を使って、帳票を設計します。

EUR 帳票作成機能で帳票設計して、フォームシートファイル (*.fms) として保存した帳票ファイルだけ読み込めます。

EUR 帳票作成機能では実現できても、EUR サーバ帳票出力機能では実現できない機能があります。EUR 帳票作成機能で設計した帳票を EUR サーバ帳票出力機能で出力する場合は、EUR サーバ帳票出力機能で出力できる機能範囲で帳票を設計してくだ

1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

さい。

なお、EUR サーバ帳票出力機能で出力する帳票設計の互換性については、次に示す個所を参照してください。

- 帳票の互換性
「10.1.1 帳票の互換性」を参照してください。
- フォントの互換性
「2.5 EUR サーバ帳票出力機能でのプロポーショナルフォントの出力」を参照してください。
- その他の互換性
「10.4 EUR サーバ帳票出力機能で出力できる帳票の設計」を参照してください。

2. 帳票ファイルの転送

フォームシートファイル (*.fms) に保存した帳票ファイルを、EUR Print Service Enterprise が組み込まれているアプリケーションサーバに転送します。

3. データファイルの準備

出力する帳票の入力データとなるデータファイルを準備します。

データファイルの形式は、「7.3 データファイル」を参照してください。

4. EUR サーバ帳票出力機能の起動

業務アプリケーションから、EUR サーバ帳票出力機能を起動します。

5. データの読み込み

EUR サーバ帳票出力機能がデータファイルのデータを読み込み、帳票上に流し込みます。

6. 帳票出力

EUR サーバ帳票出力機能で帳票を EUR 形式ファイルに出力します。

EUR 形式ファイルを出力するとき、次に示す拡張子を指定してファイルの関連づけをします。

- *.euv
プレビューする EUR 形式ファイル
- *.eup
直接印刷する EUR 形式ファイル

クライアント PC で実行するとき、ここで関連づけられたファイルの拡張子の動作ができます。

出力する EUR 形式ファイルは、複数の帳票セットを一つの EUR 形式ファイルに出力することもできますが、クライアント PC で出力できるのは、「*.eup」のファイルだけです。EUR 形式ファイル出力での「帳票セット」とは、帳票ファイルとデータファイルを一まとまりにしたものを示します。

複数様式の場合は、「*.euv」と「*.eup」のどちらの EUR 形式ファイルもクライアント PC で出力できます。

7. 出力要求

クライアント PC が業務アプリケーションに、EUR 形式ファイルの出力を要求します。

8. 転送

Web サーバ上に出力された EUR 形式ファイルを、FTP などを使用してクライアント PC へ転送します。

クライアント PC で「Web ブラウザのヘルパアプリケーションとしての実行」をする場合は、クライアント PC へ転送するときに、次に示す EUR 形式ファイルの MIME タイプを HTTP ヘッダに指定します。

- 帳票をプレビューする場合
「application/vnd.hitachi.eur-view」を指定します。
- 帳票を印刷する場合
「application/vnd.hitachi.eur-print」を指定します。

9. プレビュー・印刷

Web サーバから転送された EUR 形式ファイルをプレビュー、または印刷します。

EUR 形式ファイルは、クライアント PC にインストールされた EUR クライアント帳票出力機能を使用してプレビュー、または印刷ができます。EUR 形式ファイルをプレビュー、または印刷するには、次に示す三つの方法があります。クライアント PC での実行方法については、マニュアル「EUR クライアント帳票出力」を参照してください。

- Web ブラウザのヘルパアプリケーションとしての実行
- EUR 形式ファイルをダブルクリック実行
- eurer コマンドでの実行

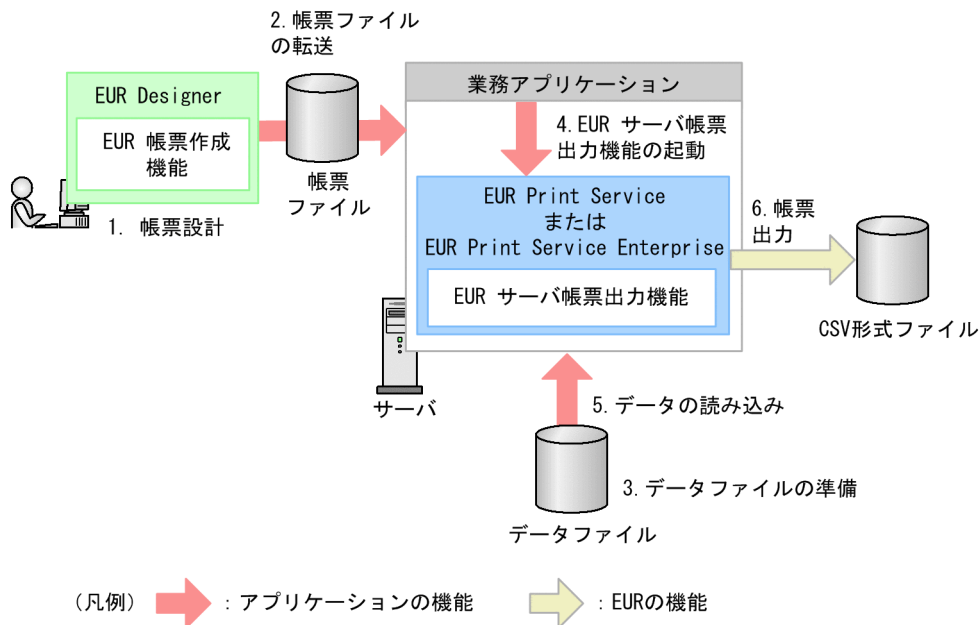
そのほか、バッチ実行などによって、すでにデータベースに登録されている EUR 形式ファイルを検索してクライアントに返すような運用をするときは、上記の操作 3. から 6. の代わりに、データベースからのファイル検索と抽出を実行してください。

また、操作 8. の代わりに、EUR 形式ファイルをメール送信する運用もできます。この場合、メール受信者は、添付された EUR 形式ファイルをダブルクリックすることでプレビュー、または印刷ができます。

1.2.5 帳票を CSV 形式ファイルに出力するには

帳票を CSV 形式のファイルに出力する手順を次に示します。

図 1-9 帳票を CSV 形式ファイルに出力するときの処理の流れ



1. 帳票設計

EUR 帳票作成機能で帳票設計して、フォームシートファイル (*.fms) として保存した帳票ファイルだけ読み込めます。

CSV 形式ファイルに出力できる帳票を、次に示します。

- 表紙のある帳票
- 伝票形式の帳票
- 繰り返しの対象が縦位置、または横位置に設定されている帳票
- 繰り返しの優先方向が縦優先に設定されている帳票
- キーブレイクや集計のある帳票
- 一つの帳票で、複数ページある帳票
- 帳票セット指定ファイルで、複数の帳票を一括出力した帳票
- 複数様式の帳票

また、CSV 形式のファイルに出力する場合は、EUR 帳票作成機能で帳票設計するとき、次に示す注意事項があります。

アイテムの配置

EUR は、行、または列を意識しない自由配置の帳票を特長としていますが、CSV 形式のファイルに出力する場合は、帳票に定義されている行、または列を意識します。グリッド補正を設定してから、アイテムを配置してください。

重ねて貼り付けたアイテム

アイテムを重ねて貼り付けている場合は、それぞれのアイテムが別の列に貼り付けられていると見なして出力されます。アイテムは重ならないように、配置してください。

縦書きで折り返されている文字

文字の描画方向が上から下で、かつアイテム枠の中で折り返されている場合は、次の行にわたる文字が、左側ではなく右側から出力されます。隣接して別のアイテムが配置されていると、そのアイテムの文字とマージされて出力されることもあります。

文字が折り返されないように、アイテム枠を広げたり、フォントのサイズを変更したりしてください。

2. 帳票ファイルの転送

フォームシートファイル (*.fms) に保存した帳票ファイルを、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise を実行するアプリケーションサーバに転送します。

3. データファイルの準備

出力する帳票の入力データとなるデータファイルを準備します。

データファイルの形式は、「7.3 データファイル」を参照してください。

4. EUR サーバ帳票出力機能の起動

業務アプリケーションから、EUR サーバ帳票出力機能を起動します。

5. データの読み込み

EUR サーバ帳票出力機能が、データファイルのデータを読み込み、帳票上に流し込みます。

6. 帳票出力

CSV 形式のファイルに出力するときは、拡張子「*.csv」を指定します。CSV 形式ファイル名は、実行された環境の文字コードになります。

次に示す帳票を CSV 形式のファイルに出力した場合は、ページの区切りを、1 行の空行（改行だけの行）で示します。

- 一つの帳票で、複数ページある帳票
- 帳票セット指定ファイルで、複数の帳票を一括出力した帳票
- 複数様式の帳票

一つの帳票で、複数ページある帳票を CSV 形式のファイルに出力した場合は、開始ページ、終了ページを指定して、任意のページ範囲だけを CSV 形式のファイルに出力できます。

帳票セット指定ファイルで、複数の帳票を一括出力した帳票、または複数様式の帳票を CSV 形式のファイルに出力した場合は、ページ範囲を指定できません。すべてのページが CSV 形式のファイルに出力されます。

1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

(1) CSV 形式ファイルの出力形式

帳票を CSV 形式のファイルに出力すると、データは「」で囲んで出力されます。

EUR 帳票作成機能で設計した帳票を、帳票イメージで CSV 形式ファイルに出力した例を次に示します。

図 1-10 EUR 帳票作成機能で設計した帳票例

平成 16 年 6 月分フロア別売上実績											
フロア	商品分類名	売上げ高 (千円)	対先月 売上げ	フロア	商品分類名	売上げ高 (千円)	対先月 売上げ	フロア	商品分類名	売上げ高 (千円)	対先月 売上げ
B1	照明器具	1,800	200	1F	冷蔵庫	2,400	30	2F	ビデオデッキ	8,000	▲100
	留守番電話	3,100	▲500		洗濯機	3,100	20		ビデオカメラ	4,050	150
	ワープロ	4,050	150		エアコン	14,800	▲1,000		テレビ	7,500	▲50
	CＤラジカセ	1,900	▲50		掃除機	4,200	0		ビデオソフト	2,000	▲100
	カメラ	1,300	100		布団乾燥機	7,600	▲500		CＤソフト	3,000	200
	時計	2,500	▲400		湯沸しポット	2,300	▲50		ゲーム機器	18,000	1,000
	貴金属	6,000	200						ゲームソフト	14,000	500
	電気剃刀	850	▲10								
小計		20,600		小計		34,900		小計		56,550	
								合計		112,050	

図 1-11 CSV 形式ファイルに出力したファイルの内容

1	
2	
3, "平成 年 月分フロア別売上実績", "13", "12",, ↓
4	↓
5	↓
6	↓
7	↓
8	↓
9, "売上げ高", "対先月",, "売上げ高", "対先月",, "売上げ高", "対先月", ↓
10	フロア, 商品分類名, (千円), 売上げ, フロア, 商品分類名, (千円), 売上
11	(千円), 商品分類名, (千円), 売上げ ↓
12	↓
13, "照明器具", "1,800", "200",, "冷蔵庫", "2,400", "30",, "ビデオデッキ", "8,000", "
14	▲100 ↓
15	↓
16, "留守番電話", "3,100", "▲500",, "洗濯機", "3,100", "20",, "ビデオカメラ", "4,05
17	0", "150 ↓
18	↓
19, "ワープロ", "4,050", "150",, "エアコン", "14,800", "▲1,000",, "テレビ", "7,500"
20	↓
21, "1F",, "Cラジカセ", "1,000", "▲50",, "掃除機", "4,200", "0",, "2F", "ビデオソフト", "
22	2,000", "▲100 ↓
23	↓
24, "B1",, "カメラ", "1,300", "100",, "布団乾燥機", "7,600", "▲500",, "CDソフト", "3,000
25	"200 ↓
26	↓
27, "時計", "2,500", "▲400",, "湯沸しポット", "2,800", "▲50",, "ゲーム機器", "18,0
28	00", "1,000 ↓
29	↓
30, "貴金属", "6,000", "200",, "ゲームソフト", "14,000", "500" ↓
31	↓
32	↓
33, "電気剃刀", "850", "▲10",, ↓
34	↓
35	↓
36	↓
37, "小計", "20,600",, "小計", "34,900",, "小計", "56,550", ↓
38	↓
39	↓
40	↓
41	↓
42, "合計", "112,050", ↓
43	[EOF]

CSV 形式ファイルのデータは、帳票ファイルの行と列を次のように見なします。

行

行は、帳票ファイルの中で、いちばん多く使用されているフォントの高さを 1 行の高さとします。

グリッド補正をしないでアイテムが自由配置されている場合は、その項目は、上、または下のどちらかの行に出力されます。

行に出力する項目が一つもない場合は、空行（改行だけの行）を 1 行出力します。

ただし、ページ内で、ある行から終端まで出力する項目がない場合は、空行を出力しません。

列

帳票を設計したときの、アイテム枠の幅を単位とします。

項目や桁を区切る縦線は、列には出力されません。縦線を出力したい場合は、別のアイテムに置き換えるなど、帳票を編集してください。

(2) CSV 形式ファイルに出力されるデータ

CSV 形式ファイルに出力されるデータを次に示します。

- 帳票に貼り付けられたアイテム
 - マッピングされたデータ
ただし、画像、バーコード、およびバーコードのデータキャラクタは出力されません。
 - 印刷日付アイテム
 - 印刷時刻アイテム
 - ページ番号アイテム
指定したページにだけ表示形式が出力されます。
- 固定文字列
- アイテムのプロパティの表示形式で設定された修飾属性
 - 文字データの場合
前付加文字、後付加文字、任意書式
 - 数値データの場合
前付加文字、後付加文字、ゼロ埋め桁数、負符号文字、小数点文字、コンマ表示、指数表示、値が 0 の場合、値が空データの場合、小数点以下桁揃え、小数点以下桁数、四捨五入 / 切り捨て / 切り上げ
 - 日付・時刻データの場合
表示形式

アイテム枠の中で折り返されている文字は、複数の行に分けて出力されます。

文字は、Windows-31J エンコーディングで出力されます。変換できない文字は、「？」で出力されます。

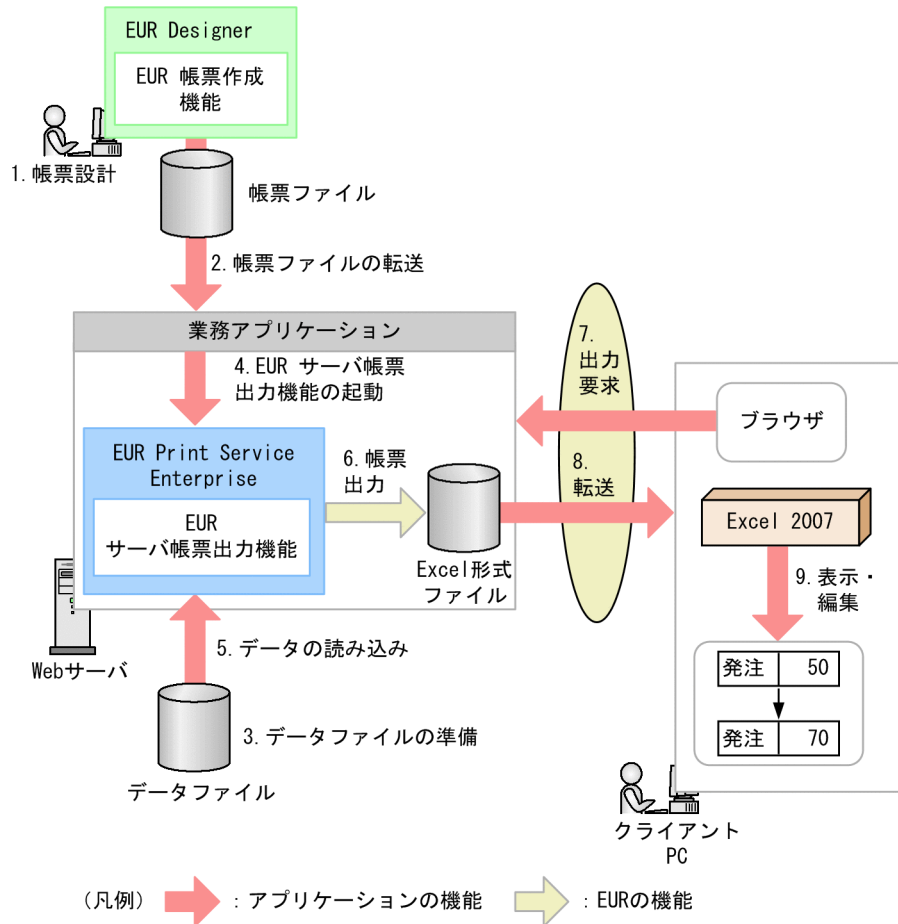
文字配置（文字間隔、行間隔）の設定、および文字の横配置の設定は、無効になります。文字間隔を詰めて、左寄せで出力されます。

線、図形、およびフォント名、スタイル、サイズ、色などのフォントの属性は、出力されません。

1.2.6 帳票を Excel 形式ファイルに出力するには

帳票を Excel 形式のファイルに出力する手順を次に示します。

図 1-12 帳票を Excel 形式ファイルに出力するときの処理の流れ



1. 帳票設計

EUR 帳票作成機能で帳票設計して、フォームシートファイル (*.fms) として保存した帳票ファイルだけ読み込みます。

EUR 帳票作成機能では実現できても、Excel 形式ファイルへ出力する場合は実現できない機能があります。EUR 帳票作成機能で設計した帳票を EUR サーバ帳票出力機能で Excel 形式ファイルへ出力する場合は、Excel 形式ファイルに出力できる機能範囲で帳票を設計してください。

帳票設計時の注意事項については、マニュアル「EUR 帳票設計」を参照してください。

なお、Excel 形式ファイルに出力できる機能の詳細については、「6.1.2 Excel 形式ファイルへ出力される情報」を参照してください。

2. 帳票ファイルの転送

フォームシートファイル (*.fms) に保存した帳票ファイルを、EUR Print Service Enterprise を実行するアプリケーションサーバに転送します。

1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

3. データファイルの準備

出力する帳票の入力データとなるデータファイルを準備します。

データファイルの形式は、「7.3 データファイル」を参照してください。

4. EUR サーバ帳票出力機能の起動

業務アプリケーションから、EUR サーバ帳票出力機能を起動します。

5. データの読み込み

EUR サーバ帳票出力機能が、データファイルのデータを読み込み、帳票上に流し込みます。

6. 帳票出力

Excel 形式のファイルに出力するときは、拡張子「*.xlsx」を指定します。

EUR 帳票作成機能で設計した帳票を、Excel 形式ファイルに出力した例を次に示します。

図 1-13 Excel 形式ファイルへの出力例

作業状況 - Microsoft Excel

ホーム挿入ページレイアウト表紙データ校閲表示Acrobat

MS Pゴシック11A^>

条件付き書式セルのスタイル

挿入削除並べ替えとフィルタ

書式セル編集

貼付け

グリッドワーク

AI

1A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z AA AEACA CAEAFACA AIA AHALANAYACAFACAFASATALAVAVAYAZB/BBBCBCEBFBCB/BIB/BHBLBNB

関連会社・協力会社社員作業状況（部別）

2008年 11月

部	人員	平均追加作業時間	出勤率	長期間作業人員			最高追加作業時間
				40HR以上	100HR以上	3ヶ月60日以上	
企画	220	8	94	5	0	0	79
設計	155	7	95	2	0	0	44
広報	220	8	94	5	0	0	79
品証	155	7	95	2	0	0	44
管理	220	8	94	5	0	0	79
開発	155	7	95	2	0	0	44
研究	220	8	94	5	0	0	79
総務	155	7	95	2	0	0	44
人事	220	8	94	5	0	0	79
経理	155	7	95	2	0	0	44
合計	1873.0	73.5	940.5	35	0	0	615.0

2008年 12月

部	人員	平均追加作業時間	出勤率	長期間作業人員			最高追加作業時間
				40HR以上	100HR以上	3ヶ月60日以上	
企画	218	9	93	14	1	0	122
設計	152	12	94	12	0	0	86
広報	218	9	93	14	1	0	122
品証	152	12	94	12	0	0	86
管理	218	9	93	14	1	0	122
開発	152	12	94	12	0	0	86
研究	218	9	93	14	1	0	122
総務	152	12	94	12	0	0	86
人事	218	9	93	14	1	0	122
経理	152	12	94	12	0	0	86
合計	1850.0	104.5	934.0	130	5	0	1037.5

sheet1 sheet2

100%

出力される Excel 形式ファイルのセルの高さおよび幅は、どちらも 16 ピクセルになります。

EUR 帳票作成機能で設計した帳票の各アイテム範囲は、Excel のセル区切りに対応づけて変換されます。アイテムの座標値は、EUR 帳票作成機能で設計した帳票の座標に最も近いセル区切りの位置に補正されます。

そのため、EUR 帳票作成機能で設計した帳票を Excel 形式ファイルへ出力すると、アイテムの配置が異なる場合があります。

Excel 形式ファイルへ出力した場合のアイテムの配置については、「6.1.1(1) 文字ア

アイテムの出力規則」,「6.1.1(2) 線アイテムの出力規則」, および「6.1.1(3) 図形アイテムの出力規則」を参照してください。

7. 出力要求

クライアント PC が業務アプリケーションに, Excel 形式ファイルの出力を要求します。

8. 転送

Web サーバ上に出力された Excel 形式ファイルを, FTP などを使用してクライアント PC へ転送します。

9. 表示・編集

Web サーバから転送された Excel 形式ファイルを Excel で表示, 編集します。

請求内容書		1/2ページ				
請求先名 株式会社△△△ ××営業所 御中		お客様番号 1234567890 請求年月 2003年10月 請求分 請求番号 0100-00000000				
品名		数量	単価	消費税	合計	
取引先	品名コード					
01.11.17	00000000	00000000	0000	10	000	0.000
01.11.17	00000000	00000000	0000	100	2,000	02,000
01.11.17	00000000	00000000	0000	100	200	0,200
01.11.17	00000000	00000000	0000	100	200	0,200
				正合計	3,900	04,000
				消費税	7,100	100,000

- 複数の様式・出力用データを組み合わせた帳票
表紙・次紙構成の帳票のような n 様式の帳票と、別の n 様式の帳票を合わせて一組に出力することもできます。n 様式ごとにデータファイルを準備するので、複数のデータファイルを使用できます。
出力例を次に示します。

1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

[illegible][illegible]

1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

[illegible]

1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

- 伝票（連票）形式の帳票
伝票のような n 様式を一組の連票形式にして出力できます。使用するデータファイルは一つです。
出力例を次に示します。

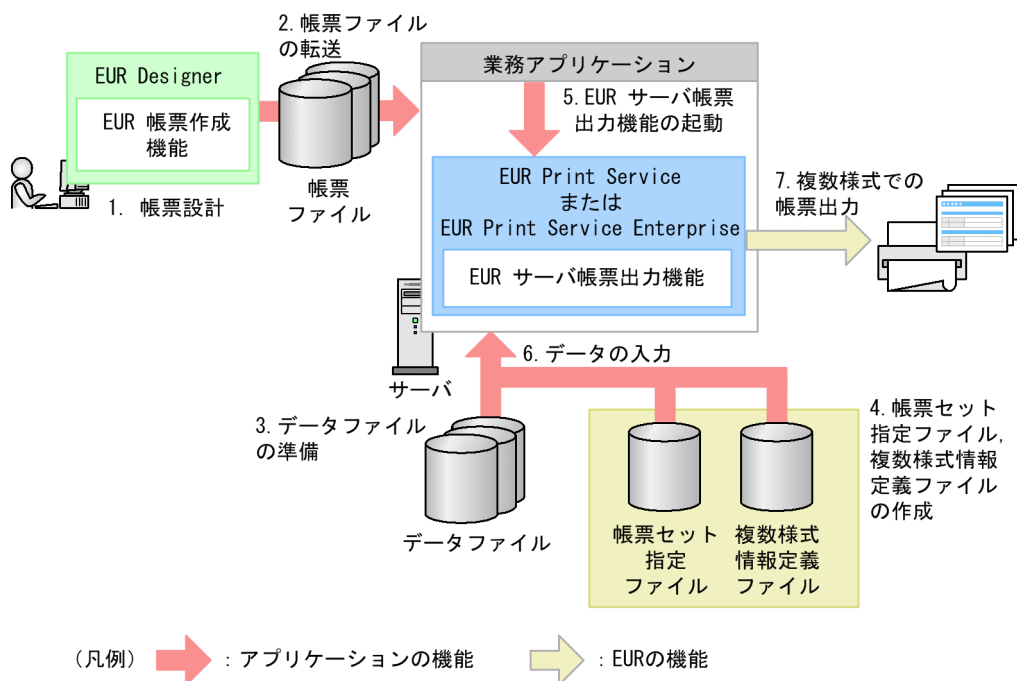
[illegible][illegible]

加入申込書		日立〇〇〇〇病院 科 病室	加入年月日 2004年 01月 31日
日立〇〇〇〇保険 加入申込書			
申込日 2004 年 01 月 31 日 申込区分 保険		電話番号 12-1234567-1234 (03) 1234-5678 日立〇〇〇〇病院 科 病室	
加入者 氏名	氏名 田中 太郎		生年月日 1975. 01. 15 性別 男
	〒 332-0001		職業 会社員
	住所 〒332-0001 日立市〇〇〇番地〇〇		加入理由 1. 家族 2. 本人 3. その他
	加入理由 1. 家族 2. 本人 3. その他		加入料 15,000円/月
	加入料 15,000円/月		加入期間 1. 1年 2. 2年 3. 3年 4. 5年 5. 10年 6. 20年 7. 30年 8. 40年 9. 50年 10. 60年 11. 70年 12. 80年 13. 90年 14. 100年
加入者 田中 太郎 加入理由 1. 家族 2. 本人 3. その他			
加入者 田中 太郎 加入理由 1. 家族 2. 本人 3. その他			
加入者 田中 太郎 加入理由 1. 家族 2. 本人 3. その他			
加入者 田中 太郎 加入理由 1. 家族 2. 本人 3. その他			
加入者 田中 太郎 加入理由 1. 家族 2. 本人 3. その他			

複数様式で帳票を出力する流れ

複数様式で帳票を出力する流れと必要なファイルを次に示します。

図 1-14 複数様式で帳票を出力するときの処理の流れ



1. 帳票設計

EUR 帳票作成機能で帳票設計して、フォームシートファイル (*.fms) として保存し

1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

た帳票ファイルだけ読み込みます。

複数様式で出力するときの帳票は、一組にする帳票すべてに同じキーフィールドで改ページするように設計しておいてください。

帳票ヘッダのある帳票は、複数様式では出力できません。

EUR 帳票作成機能では実現できても、EUR サーバ帳票出力機能では実現できない機能があります。EUR 帳票作成機能で設計した帳票を EUR サーバ帳票出力機能で出力する場合は、EUR サーバ帳票出力機能で出力できる機能範囲で帳票を設計してください。

なお、EUR サーバ帳票出力機能で出力する帳票設計の互換性については、「10.4 EUR サーバ帳票出力機能で出力できる帳票の設計」を参照してください。

2. 帳票ファイルの転送

フォームシートファイル (*.fms) に保存した帳票ファイルを、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise を実行するアプリケーションサーバに転送します。

3. データファイルの準備

出力する帳票の入力データとなるデータファイルを準備します。

データファイルの形式は、「7.3 データファイル」を参照してください。

4. 帳票セット指定ファイル、複数様式情報定義ファイルの作成

複数様式で帳票を出力するには、複数の帳票ファイルのほかに、帳票セット指定ファイルと複数様式情報定義ファイルが必要です。

帳票セット指定ファイルは、複数の帳票ファイルを統合する順番と帳票に読み込むデータファイルを指定しておくファイルです。帳票セット指定ファイルについては、「7.7 帳票セット指定ファイル」を参照してください。

複数様式情報定義ファイルには、様式（帳票フォーマット）や読み込むデータを切り替える条件と、切り替え時の動作を指定します。複数様式情報定義ファイルについては、「7.8 複数様式情報定義ファイル」を参照してください。

5. EUR サーバ帳票出力機能の起動

業務アプリケーションから、EUR サーバ帳票出力機能を起動します。

6. データの入力

帳票ファイル、データファイル、帳票セット指定ファイル、および複数様式情報定義ファイルを、EUR サーバ帳票出力機能に入力します。

7. 複数様式での帳票出力

複数様式で帳票を出力します。

1.3.1 複数の帳票セットを指定した帳票出力との違い

複数様式で帳票を出力した場合、複数の帳票セットを指定した出力ではできなかった方法で、帳票を出力できます。

複数の帳票セットを指定した帳票出力との違いを次に示します。

(1) データ単位の帳票出力

複数の帳票セットを指定した帳票出力は、指定された帳票ファイルの順に出力されますが、複数様式での帳票出力は、データファイルのフィールドをキーブレイク対象に指定しておくことで、データ単位で帳票を出力できます。

図 1-15 データ単位で出力した帳票例 1

●複数の帳票セットを指定した場合

A. fmsの帳票が出力された後、B. fmsの帳票が出力されます。

A. fms

B. fms

図 1-16 データ単位で出力した帳票例 2

●複数様式で出力した場合

帳票を設計するとき、A. fmsとB. fmsの改ページ設定に同じキーフィールドを指定しておく、データ単位に帳票を切り替えて出力できます。

A. fms

B. fms

1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

(2) 複数の様式で連続したページ番号の付加

複数の帳票セットを指定した帳票出力は、帳票ファイルごとにページ番号を付けていましたが、複数様式での帳票出力は、複数の様式で連続したページ番号が付けられます。

図 1-17 連続したページ番号の帳票例 1

●複数の帳票セットを指定した場合

A. fms

Diagram A. fms illustrates three sequential receipt templates. The first template is labeled '1/5', the second '2/5', and the third '5/5'. Each template contains a header section with a dotted line, a date field, and a time field. Below the header is a table with 4 columns and 5 rows. The templates are connected by an ellipsis, indicating a sequence.

B. fms

Diagram B. fms illustrates three sequential receipt templates. The first template is labeled '1/5', the second '2/5', and the third '5/5'. Each template contains a header section with a dotted line, a date field, and a time field. Below the header is a table with 4 columns and 5 rows. The templates are connected by an ellipsis, indicating a sequence.

図 1-18 連続したページ番号の帳票例 2

●複数様式で出力した場合

A. fms

Diagram A. fms illustrates two sequential receipt templates. The first template is labeled '1/2' and the second '2/2'. Each template contains a header section with a dotted line, a date field, and a time field. Below the header is a table with 4 columns and 5 rows. The templates are connected by an ellipsis, indicating a sequence.

B. fms

Diagram B. fms illustrates two sequential receipt templates. The first template is labeled '1/2' and the second '2/2'. Each template contains a header section with a dotted line, a date field, and a time field. Below the header is a table with 4 columns and 5 rows. The templates are connected by an ellipsis, indicating a sequence.

1.3.2 複数様式での帳票出力例

EUR 帳票作成機能で提供されているサンプル帳票を基に、複数様式での帳票出力例を示

します。

(1) サンプル帳票「請求書」の場合

「請求書」は、「表紙次紙形式の帳票__表紙」と「表紙次紙形式の帳票__次紙」の2様式を一組にして出力します。

サンプル帳票「請求書」を出力したときの一組の帳票例を次に示します。

図 1-19 サンプル帳票「請求書 .fms」の出力例 (1 ページ目)

請求書

333-1224
東京部
※※※区
〇△□〒町1丁目245-6

発行年月日: 2002年11月15日

株式会社△△〇〇
〒104-XXXX
東京都〇〇区〇〇町1丁目
株式会社〇△□サービス
TEL: 03-XXXX-1234(本)
FAX: 03-XXXX-4567
お問い合わせ 03-00-000-000
受付時間 平日 9:00~20:00

請求年月 2002年10月 請求分
今期請求合計額 100,743 円

ご請求内容
今期ご請求金額 150,415 円
返金金 34,830 円
繰引金 -2,500 円

お客様番号: 1234567890
請求番号: 0100-0000000

請求明細書

品名	数量	単価	消費税	合計
ラップ(両面100)	100	10	200	6,200
ラップ(両面100)	100	5	200	4,200
FAX紙	100	10	300	5,300
フイルム150	200	20	200	4,200
フイルム150	100	16	112	2,312
マーカーセット	1,700	30	2,600	50,600
フイルムボックス	200	60	600	10,600
合計			4,112	86,912

1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

図 1-20 サンプル帳票「請求書.fms」の出力例（2 ページ目）

[illegible]

「表紙次紙形式の帳票__表紙」は必ず出力しますが、「表紙次紙形式の帳票__次紙」は、「表紙次紙形式の帳票__表紙」に納まらなかったデータを出力します。請求先のデータが変わるまで「表紙次紙形式の帳票__次紙」に出力します。請求先のデータが変わった時点で「表紙次紙形式の帳票__表紙」に戻ります。

ページ番号は、2 様式を通して請求先ごとのページ番号 (n/m 形式) を出力します。請求先のデータが変わった時点で、「表紙次紙形式の帳票__表紙」は「1/m」に初期化されます。

(a) サンプル帳票「請求書」を出力する手順

サンプル帳票「請求書」を出力する手順を次に示します。

1. 帳票設計

EUR 帳票作成機能を使って、帳票を設計します。

帳票ファイルは、「表紙次紙形式の帳票__表紙」と「表紙次紙形式の帳票__次紙」の2
様式を作成して、フォームシートファイル(*.fms)で保存します。

1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

マッピングデータ						
	請求書番号	郵便番号	都道府県	市区町村	地名1	請求先名
1	0108-00000000	xxx-1234	東京都	×××区	○△□▼町1丁目345-6	株式会社△▲□■ ××営業所
2	0108-00000000	xxx-1234	東京都	×××区	○△□▼町1丁目345-6	株式会社△▲□■ ××営業所
3	0108-00000000	xxx-1234	東京都	×××区	○△□▼町1丁目345-6	株式会社△▲□■ ××営業所
4	0108-00000000	xxx-1234	東京都	×××区	○△□▼町1丁目345-6	株式会社△▲□■ ××営業所
5	0108-00000000	xxx-1234	東京都	×××区	○△□▼町1丁目345-6	株式会社△▲□■ ××営業所
6	0108-00000000	xxx-1234	東京都	×××区	○△□▼町1丁目345-6	株式会社△▲□■ ××営業所
7	0108-00000000	xxx-1234	東京都	×××区	○△□▼町1丁目345-6	株式会社△▲□■ ××営業所
8	0108-00000000	xxx-1234	東京都	×××区	○△□▼町1丁目345-6	株式会社△▲□■ ××営業所
9	0108-00000000	xxx-1234	東京都	×××区	○△□▼町1丁目345-6	株式会社△▲□■ ××営業所
10	0108-00000000	xxx-1234	東京都	×××区	○△□▼町1丁目345-6	株式会社△▲□■ ××営業所
11	0108-11111111	xxx-2344	神奈川県	×××区	○△□▼町1丁目456-7	株式会社A A A A Aサービス ××営業所
12	0108-11111111	xxx-2344	神奈川県	×××区	○△□▼町1丁目456-7	株式会社A A A A Aサービス ××営業所

4. 帳票セット指定ファイルの作成

サンプル帳票セット指定ファイル (formset01 (複数様式帳票例1) .txt) の内容を次に示します。

表紙次紙形式の帳票__表紙 (複数様式帳票例1) .fms, 表紙次紙形式の帳票__表紙 (複数様式帳票例1) .csv

表紙次紙形式の帳票__次紙 (複数様式帳票例1) .fms, 表紙次紙形式の帳票__表紙 (複数様式帳票例1) .csv

5. 複数様式情報定義ファイルの作成

様式グループが一つなので、様式グループ遷移条件 (grouptransfercondition) は省略します。

「表紙次紙形式の帳票__表紙」は必ず出力します。「表紙次紙形式の帳票__次紙」は、「表紙次紙形式の帳票__表紙」に納まらなかったデータがあるときに出力します。様式間遷移条件 (formtransfercondition) で、フィールド「請求書番号」がキーブレイクしたら「表紙次紙形式の帳票__表紙」に戻るよう指定します。

サンプル複数様式情報定義ファイル (formdef01 (複数様式帳票例1) .txt) の内容を次に示します。

```
group 1 {
  formtransfercondition {
    keybreaktopform=ON      ...フィールド「請求書番号」が
                             キーブレイクしたら、
                             先頭の様式 (表紙) に戻ります
                             このとき、ページ番号を初期化します

    fieldname="請求書番号"
  }
  formfilename "表紙次紙形式の帳票__表紙 (複数様式帳票例1) .fms" {
    transfercondition=NPNF  ...表紙を1ページ出力すると次紙に移ります
    printnewpaper=OFF
    resetpagenumber=ON      ...次紙から表紙に戻ったとき、
                             ページ番号を初期化します
  }
  formfilename "表紙次紙形式の帳票__次紙 (複数様式帳票例1) .fms" {
    transfercondition=KBNF  ...キーブレイクしたら、
                             表紙に戻るよう指定します

    printnewpaper=OFF
    resetpagenumber=OFF     ...表紙からの続きのページ番号を出力します
  }
}
```



```

}
}

```

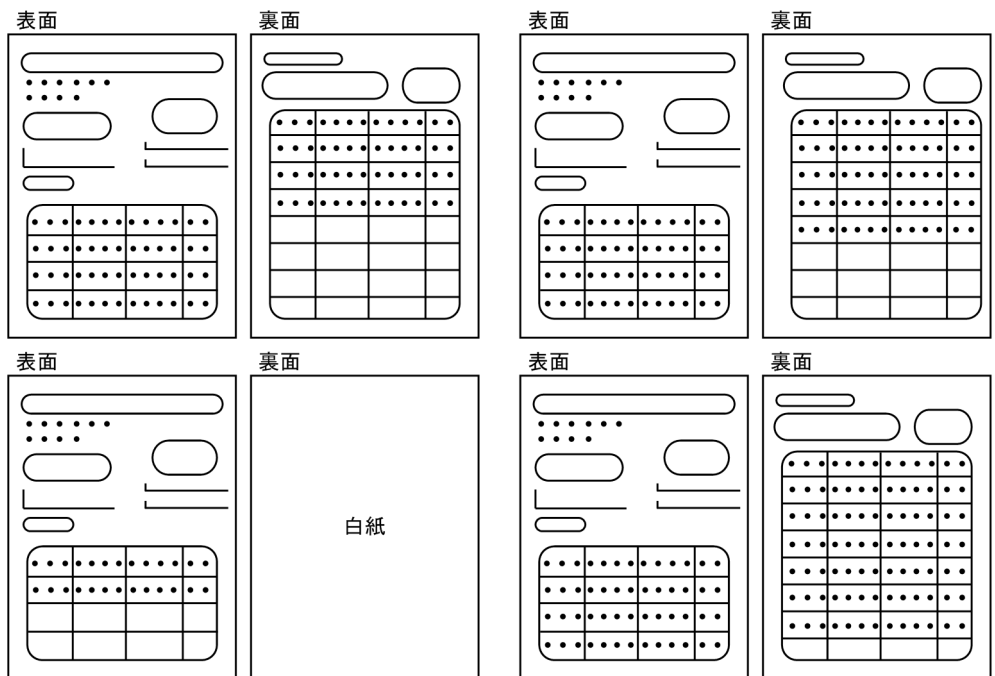
注

両面印刷する場合、「表紙次紙形式の帳票__表紙」を表面に印刷したいときは、次のように指定してください。「表紙次紙形式の帳票__次紙」に出力するデータがない場合は、裏面を白紙にします。

printnewpaper = ON

サンプル帳票「請求書」を両面印刷したときの、出力例を次に示します。

図 1-21 サンプル帳票「請求書 .fms」を両面出力したときの出力例



6. EUR サーバ帳票出力機能の起動

業務アプリケーションから、EUR サーバ帳票出力機能を起動します。

7. データの入力

帳票ファイル、データファイル、帳票セット指定ファイル、および複数様式情報定義ファイルを EUR サーバ帳票出力機能に入力します。

8. 帳票出力

eurps コマンド構文の例を示します。

(例) プリント出力の例

```

eurps /p Printer1
      /mfd "C:¥TEMP¥formdef01 (複数様式帳票例1) .txt"
      /mrs "C:¥TEMP¥formset01 (複数様式帳票例1) .txt"

```

補足説明

1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

複数様式で出力する「表紙次紙形式の帳票」は、「表紙」と「次紙」を異なる二つの様式を一組の帳票として出力できます。

帳票ヘッダ領域のある「表紙のある帳票」は、「表紙ページ」と「次紙ページ」で一つの様式の帳票です。そのため、表紙ページの繰り返し領域に貼り付けたデータの続きを次紙ページに出力できますが、次紙ページのページ上端やページ下端にアイテムを作成したり、貼り付けたりすることはできません。

(2) サンプル帳票「従業員勤務歴カード」の場合

「従業員勤務歴カード」は、「従業員勤務歴カード〔Ⅰ〕」と「従業員勤務歴カード〔Ⅰ〕(続き)」の２様式と、「従業員勤務歴カード〔Ⅱ〕」の１様式を合わせて一組にして出力します。

サンプル帳票「従業員勤務歴カード」を出力したときの一組の帳票例を次に示します。

[illegible]

1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

家賃控除申請カード【E】（紙）				ページ: 2/3 発行日付: 2008/11/15																																																	
氏名	林 久太郎	従業員番号	19501	入社年月日	1998年4月01日																																																
	敬称 様	所属部署	営業部 第二課																																																		
<div> <div> <p>収入 - 控除 (紙)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年月日</th> <th>控除項目 - 金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2008.10.15</td> <td>経費控除 5000円</td> </tr> <tr> <td>2008.11.15</td> <td>リース控除 1000円</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> </div> <div> <p>支出 - 控除 (紙)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年月日</th> <th>控除項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2008.11</td> <td>法人控除 1000円</td> </tr> <tr> <td>2008.11</td> <td>法人控除 1000円</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> </div> </div>						年月日	控除項目 - 金額	2008.10.15	経費控除 5000円	2008.11.15	リース控除 1000円																			年月日	控除項目	2008.11	法人控除 1000円	2008.11	法人控除 1000円																		
年月日	控除項目 - 金額																																																				
2008.10.15	経費控除 5000円																																																				
2008.11.15	リース控除 1000円																																																				
年月日	控除項目																																																				
2008.11	法人控除 1000円																																																				
2008.11	法人控除 1000円																																																				

1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

従業員勤務歴カード【Ⅰ】

ページ: 3/4
 表示日時: 2022/1/17/09

氏名
 田中 孝平

従業員番号
 123456

入社年月日
 1990年04月01日

所属
 営業部

所属
 営業部

勤務履歴

プロジェクトID	作業開始 年月	作業終了 年月	プロジェクト名	担当者
11001	1990.04.01	1990.03.31	製品開発プロジェクトの開始 および開発 計画の策定	株式会社 ロロXX エンジニアリング
11002	1990.04.01	1990.03.31	製品開発プロジェクト	同上
11003	1990.04.01	1990.03.31	製品開発プロジェクト	同上
11004	1990.04.01	1990.03.31	製品開発プロジェクトの開始 および開発 計画の策定	株式会社 ロロXX エンジニアリング
11005	1990.04.01	1990.03.31	製品開発プロジェクト	同上
11006	1990.04.01	1990.03.31	製品開発プロジェクト	同上
11007	1990.04.01	1990.03.31	製品開発プロジェクト	同上
11008	1990.04.01	1990.03.31	製品開発プロジェクト	同上
11009	1990.04.01	1990.03.31	製品開発プロジェクト	同上
11010	1990.04.01	1990.03.31	製品開発プロジェクト	同上
11011	1990.04.01	1990.03.31	製品開発プロジェクト	同上
11012	1990.04.01	1990.03.31	製品開発プロジェクト	同上
11013	1990.04.01	1990.03.31	製品開発プロジェクト	同上
11014	1990.04.01	1990.03.31	製品開発プロジェクト	同上
11015	1990.04.01	1990.03.31	製品開発プロジェクト	同上
11016	1990.04.01	1990.03.31	製品開発プロジェクト	同上
11017	1990.04.01	1990.03.31	製品開発プロジェクト	同上
11018	1990.04.01	1990.03.31	製品開発プロジェクト	同上
11019	1990.04.01	1990.03.31	製品開発プロジェクト	同上
11020	1990.04.01	1990.03.31	製品開発プロジェクト	同上

サンプル帳票「従業員勤務歴カード」は、従業員番号ごとに一組の帳票を出力します。

「従業員勤務歴カード【Ⅰ】」は必ず出力しますが、「従業員勤務歴カード【Ⅰ】(続き)」は、「従業員勤務歴カード【Ⅰ】」に納まらなかったデータを出力します。従業員番号のデータが変わったとき、「従業員勤務歴カード【Ⅱ】」の様式に移るようにします。「従業員勤務歴カード【Ⅱ】」の出力で従業員番号のデータが変わった時点で「従業員勤務歴カード【Ⅰ】」に戻ります。

ページ番号は、3 様式を通して従業員番号ごとのページ番号 (n/m 形式) を出力します。従業員番号のデータが変わった時点で、「従業員勤務歴カード【Ⅰ】」は「1/m」に初期化されます。

(a) サンプル帳票「従業員勤務歴カード」を出力する手順

サンプル帳票「従業員勤務歴カード」を出力する手順を次に示します。

1. 帳票設計

EUR 帳票作成機能を使って、帳票を設計します。

帳票ファイルは、「従業員勤務歴カード [I]」、「従業員勤務歴カード [I](続き)」、および「従業員勤務歴カード [II]」の 3 様式を作成して、フォームシートファイル (*.fms) で保存します。

- 従業員勤務歴 1 (複数様式帳票例 2) .fms

[illegible]

- ・従業員勤務歴 1 - 次紙（複数様式帳票例 2）.fms

従業員名簿入力シート (基本)																																																	
氏名	姓 山田	従業員番号	195001	入社年月日	1998年04月01日																																												
	名 幸子	所属部署	営業部営業第二課																																														
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>※教育 - 研修区 (基本)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">年月日</th> <th style="width: 90%;">研修科目名 - 研修内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1998.10.15</td><td>新入社員研修会 (1) 会社概要</td></tr> <tr><td>1998.11.10</td><td>11 - 2 顧客対応</td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> </div> <div style="width: 48%;"> <p>※研修 - 進修 (基本)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">年月日</th> <th style="width: 90%;">研修科目名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1998.11</td><td>日本英語研修 (進)</td></tr> <tr><td>1998.11</td><td>日本英語研修 (進)</td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> </div> </div>						年月日	研修科目名 - 研修内容	1998.10.15	新入社員研修会 (1) 会社概要	1998.11.10	11 - 2 顧客対応																	年月日	研修科目名	1998.11	日本英語研修 (進)	1998.11	日本英語研修 (進)																
年月日	研修科目名 - 研修内容																																																
1998.10.15	新入社員研修会 (1) 会社概要																																																
1998.11.10	11 - 2 顧客対応																																																
年月日	研修科目名																																																
1998.11	日本英語研修 (進)																																																
1998.11	日本英語研修 (進)																																																

1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

- ・従業員勤務歴2（複数様式帳票例2）.fms

従業員勤務歴カード【X】				ページ: 3/4 速力印刷: 2022/12/19																																																																																																										
氏名	1101/01 加藤 孝平	従業員番号	120001	入社年月日	1990年04月01日																																																																																																									
		所属名称	営業課営業二課																																																																																																											
<p>■ 勤務履歴</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>プロジェクトID</th> <th>作業開始 年月</th> <th>作業終了 年月</th> <th>プロジェクト名</th> <th>職務名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>110001</td> <td>1990.04.01</td> <td>1990.03.31</td> <td>株式会社ロロXXの設立、および製品 開発業務の遂行</td> <td>株式会社 ロロXX エンジニアリング</td> </tr> <tr> <td>110002</td> <td>1990.04.01</td> <td>1990.03.31</td> <td>製品開発業務</td> <td>企画課</td> </tr> <tr> <td>110003</td> <td>1990.04.01</td> <td>1990.03.31</td> <td>製品開発業務</td> <td>企画課</td> </tr> <tr> <td>110004</td> <td>1990.04.01</td> <td>1990.03.31</td> <td>株式会社ロロXXの設立、および製品 開発業務の遂行</td> <td>株式会社 ロロXX エンジニアリング</td> </tr> <tr> <td>110005</td> <td>1990.04.01</td> <td>1990.03.31</td> <td>製品開発業務</td> <td>企画課</td> </tr> <tr> <td>110006</td> <td>1990.04.01</td> <td>1990.03.31</td> <td>製品開発業務</td> <td>企画課</td> </tr> <tr> <td>110007</td> <td>1990.04.01</td> <td>1990.03.31</td> <td>製品開発業務</td> <td>企画課</td> </tr> <tr> <td>110008</td> <td>1990.04.01</td> <td>1990.03.31</td> <td>製品開発業務</td> <td>企画課</td> </tr> <tr> <td>110009</td> <td>1990.04.01</td> <td>1990.03.31</td> <td>製品開発業務</td> <td>企画課</td> </tr> <tr> <td>110010</td> <td>1990.04.01</td> <td>1990.03.31</td> <td>製品開発業務</td> <td>企画課</td> </tr> <tr> <td>110011</td> <td>1990.04.01</td> <td>1990.03.31</td> <td>製品開発業務</td> <td>企画課</td> </tr> <tr> <td>110012</td> <td>1990.04.01</td> <td>1990.03.31</td> <td>製品開発業務</td> <td>企画課</td> </tr> <tr> <td>110013</td> <td>1990.04.01</td> <td>1990.03.31</td> <td>製品開発業務</td> <td>企画課</td> </tr> <tr> <td>110014</td> <td>1990.04.01</td> <td>1990.03.31</td> <td>製品開発業務</td> <td>企画課</td> </tr> <tr> <td>110015</td> <td>1990.04.01</td> <td>1990.03.31</td> <td>製品開発業務</td> <td>企画課</td> </tr> <tr> <td>110016</td> <td>1990.04.01</td> <td>1990.03.31</td> <td>製品開発業務</td> <td>企画課</td> </tr> <tr> <td>110017</td> <td>1990.04.01</td> <td>1990.03.31</td> <td>製品開発業務</td> <td>企画課</td> </tr> <tr> <td>110018</td> <td>1990.04.01</td> <td>1990.03.31</td> <td>製品開発業務</td> <td>企画課</td> </tr> <tr> <td>110019</td> <td>1990.04.01</td> <td>1990.03.31</td> <td>製品開発業務</td> <td>企画課</td> </tr> <tr> <td>110020</td> <td>1990.04.01</td> <td>1990.03.31</td> <td>製品開発業務</td> <td>企画課</td> </tr> </tbody> </table>						プロジェクトID	作業開始 年月	作業終了 年月	プロジェクト名	職務名	110001	1990.04.01	1990.03.31	株式会社ロロXXの設立、および製品 開発業務の遂行	株式会社 ロロXX エンジニアリング	110002	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課	110003	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課	110004	1990.04.01	1990.03.31	株式会社ロロXXの設立、および製品 開発業務の遂行	株式会社 ロロXX エンジニアリング	110005	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課	110006	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課	110007	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課	110008	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課	110009	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課	110010	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課	110011	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課	110012	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課	110013	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課	110014	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課	110015	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課	110016	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課	110017	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課	110018	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課	110019	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課	110020	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課
プロジェクトID	作業開始 年月	作業終了 年月	プロジェクト名	職務名																																																																																																										
110001	1990.04.01	1990.03.31	株式会社ロロXXの設立、および製品 開発業務の遂行	株式会社 ロロXX エンジニアリング																																																																																																										
110002	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課																																																																																																										
110003	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課																																																																																																										
110004	1990.04.01	1990.03.31	株式会社ロロXXの設立、および製品 開発業務の遂行	株式会社 ロロXX エンジニアリング																																																																																																										
110005	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課																																																																																																										
110006	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課																																																																																																										
110007	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課																																																																																																										
110008	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課																																																																																																										
110009	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課																																																																																																										
110010	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課																																																																																																										
110011	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課																																																																																																										
110012	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課																																																																																																										
110013	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課																																																																																																										
110014	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課																																																																																																										
110015	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課																																																																																																										
110016	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課																																																																																																										
110017	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課																																																																																																										
110018	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課																																																																																																										
110019	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課																																																																																																										
110020	1990.04.01	1990.03.31	製品開発業務	企画課																																																																																																										

三つの帳票は、フィールド「従業員番号」をキーにして改ページするように設定します。

改ページの設定では、キーとなるフィールドのデータが変わった時点で、ページ番号を開始番号に初期化するか、またはキーとなるフィールドのデータが変わっても、通し番号でページ番号を印刷するかを設定できますが、この設定はどちらでもかまいません。ページ番号を初期化するかどうかは、複数様式情報定義ファイルのページ番号リセット属性（resetpagenumber）の設定が優先されます。

2. 帳票ファイルの転送

作成した帳票ファイル（フォームシートファイル形式）を、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise が組み込まれているアプリケーションサーバに転送します。

3. データファイルの準備

n 様式と n 様式を組み合わせると一組の帳票に出力するには、n 様式ごとのデータファ

イルを準備します。

「従業員勤務歴 1（複数様式帳票例 2）.csv」は、「従業員勤務歴カード [I]」と「従業員勤務歴カード [I]（続き）」で共有します。

マッピングデータ										
	雇用区分	従業員番号	カナ氏名	氏名	性別	生年月日	入社年月日	退任年月日	採用形態	郵便番号
1	社員	195001	カウ ルコ	加藤 春子	女	19720508	19960401	19960401	新規採用	123-00XX 神奈川県
2	社員	195001	カウ ルコ	加藤 春子	女	19720508	19960401	19960401	新規採用	123-00XX 神奈川県
3	社員	195001	カウ ルコ	加藤 春子	女	19720508	19960401	19960401	新規採用	123-00XX 神奈川県
4	社員	195001	カウ ルコ	加藤 春子	女	19720508	19960401	19960401	新規採用	123-00XX 神奈川県
5	社員	195001	カウ ルコ	加藤 春子	女	19720508	19960401	19960401	新規採用	123-00XX 神奈川県
6	社員	195001	カウ ルコ	加藤 春子	女	19720508	19960401	19960401	新規採用	123-00XX 神奈川県
7	社員	195001	カウ ルコ	加藤 春子	女	19720508	19960401	19960401	新規採用	123-00XX 神奈川県
8	社員	195001	カウ ルコ	加藤 春子	女	19720508	19960401	19960401	新規採用	123-00XX 神奈川県
9	社員	180006	マイ マサ	松井 正雄	男	19570806	19800401	19800601	新規採用	123-10XX 神奈川県
10	社員	180006	マイ マサ	松井 正雄	男	19570806	19800401	19800601	新規採用	123-10XX 神奈川県
11	社員	180006	マイ マサ	松井 正雄	男	19570806	19800401	19800601	新規採用	123-10XX 神奈川県
12	社員	180006	マイ マサ	松井 正雄	男	19570806	19800401	19800601	新規採用	123-10XX 神奈川県

「従業員勤務歴 2（複数様式帳票例 2）.csv」は、「従業員勤務歴カード [II]」で使

マッピングデータ										
	従業員番号	カナ氏名	氏名	入社年月日	所属名称	プロジェクト	作業開始	作業終了	プロ	
1	195001	カウ ルコ	加藤 春子	19960401	営業部営業二課	11A001	19950601	19960920	製品AAA-BBBB/CCCの検証	
2	195001	カウ ルコ	加藤 春子	19960401		11A002	19960921	19970820	製品BBBの開発	
3	195001	カウ ルコ	加藤 春子	19960401		22A001	19970821	19980320	製品AAAの開発	
4	195001	カウ ルコ	加藤 春子	19960401		88Z001	19980321	19980820	製品AA1-BBB2/CCCの検証	
5	195001	カウ ルコ	加藤 春子	19960401		99X002	19980921	19990320	製品XXXの開発	
6	195001	カウ ルコ	加藤 春子	19960401		55Q001	19990321	20000831	製品ZZZAの研究	
7	195001	カウ ルコ	加藤 春子	19960401		55Q002	20000901	20011020	製品ZZZAの開発	
8	195001	カウ ルコ	加藤 春子	19960401		55Q003	20011021		製品ZZZAの拡張	
9	180006	マイ マサ	松井 正雄	19800401	設計部設計一課	33B001	19800601	19870530	製品CCCの開発	
10	180006	マイ マサ	松井 正雄	19800401		33B002	19870601	19950620	製品DDDの開発	
11	180006	マイ マサ	松井 正雄	19800401		33B003	19950621	19980319	製品EEEの開発	
12	180006	マイ マサ	松井 正雄	19800401		33B004	20000621		製品FFFの開発	

4. 帳票セット指定ファイルの作成

サンプル帳票セット指定ファイル（formset02（複数様式帳票例 2）.txt）の内容を次に示します。

従業員勤務歴 1（複数様式帳票例 2）.fms, 従業員勤務歴 1（複数様式帳票例 2）.csv

従業員勤務歴 1 - 次紙（複数様式帳票例 2）.fms, 従業員勤務歴 1（複数様式帳票例 2）.csv

従業員勤務歴 2（複数様式帳票例 2）.fms, 従業員勤務歴 2（複数様式帳票例 2）.csv

5. 複数様式情報定義ファイルの作成

「従業員勤務歴カード [I]」と「従業員勤務歴カード [I]（続き）」の 2 様式で一つの様式グループ, 「従業員勤務歴カード [II]」の 1 様式で一つの様式グループにします。

「従業員勤務歴カード [I]」と「従業員勤務歴カード [I]（続き）」の様式グループと, 「従業員勤務歴カード [II]」の様式グループを順に出力するので, 様式間遷移条件（formtransfercondition）の指定は省略します。

様式グループ間は, フィールド「従業員番号」がキーブレイクしたら, 様式グループ

1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

に指定されている様式（帳票）が出力されるように、様式グループ遷移条件（grouptransfercondition）に「transfercondition=KBNF」を指定します。
この指定によって、次のように帳票が出力されます。

従業員勤務歴カード [I]

マッピングデータ

雇用区分	従業員番号	カナ氏名	氏名
社員	185001	加藤 春子	加藤 春子
社員	185001	加藤 春子	加藤 春子
社員	185001	加藤 春子	加藤 春子
社員	185001	加藤 春子	加藤 春子
社員	185001	加藤 春子	加藤 春子
社員	185001	加藤 春子	加藤 春子
社員	185001	加藤 春子	加藤 春子
社員	185001	加藤 春子	加藤 春子
社員	180006	松井 正雄	松井 正雄
社員	180006	松井 正雄	松井 正雄
社員	180006	松井 正雄	松井 正雄
社員	180006	松井 正雄	松井 正雄

従業員勤務歴カード [I] （続き）

従業員勤務歴1.csvのキーとなるフィールド「従業員番号」がキーブレイクした時点で、従業員勤務歴カード [II] の出力に移ります。

従業員勤務歴カード [II]

マッピングデータ

従業員番号	カナ氏名	氏名	生年月日
185001	加藤 春子	加藤 春子	19860401
185001	加藤 春子	加藤 春子	19860401
185001	加藤 春子	加藤 春子	19860401
185001	加藤 春子	加藤 春子	19860401
185001	加藤 春子	加藤 春子	19860401
185001	加藤 春子	加藤 春子	19860401
185001	加藤 春子	加藤 春子	19860401
185001	加藤 春子	加藤 春子	19860401
180006	松井 正雄	松井 正雄	19800401
180006	松井 正雄	松井 正雄	19800401
180006	松井 正雄	松井 正雄	19800401
180006	松井 正雄	松井 正雄	19800401

従業員勤務歴2.csvのフィールド「従業員番号」がキーブレイクした時点で、従業員勤務歴カード [I] に戻り、次の従業員番号（この場合「180006」）の帳票を出力します。

サンプル複数様式情報定義ファイル (formdef02 (複数様式帳票例2) .txt) の内容を次に示します。

```
group 1 {
    ... 「従業員勤務歴カード [ I ] 」と、
        「従業員勤務歴カード [ I ] ( 続き ) 」の
        様式グループです
    grouptransfercondition {
        transfercondition=KBNF
        ...二つの様式は、
            フィールド「従業員番号」が
            キーブレイクしたら、
            様式を切り替えます
        fieldname="従業員番号"
    }
    formfilename "従業員勤務歴 1 ( 複数様式帳票例 2 ) .fms" {
        transfercondition=NPNF
        ...従業員勤務歴 1 が出力されると
            次紙に移ります
            次紙を出力しないで済む場合は
            group 2 の従業員勤務歴 2 に移ります
        printnewpaper=OFF
        resetpagenumber=ON
        ...従業員勤務歴 1 を出力するときは、
            ページ番号を初期化します
    }
    formfilename "従業員勤務歴 1 - 次紙 ( 複数様式帳票例 2 ) .fms" {
        transfercondition=KBNF
        ...フィールド「従業員番号」が
            キーブレイクしたら、
            従業員勤務歴 2 に移ります
        printnewpaper=OFF
        resetpagenumber=OFF
        ...従業員勤務歴 1 からの
            続きのページ番号を出力します
    }
}
group 2 {
    ... 「従業員勤務歴カード [ II ] 」の
        様式グループです
    grouptransfercondition {
        transfercondition=KBNF
        ...フィールド「従業員番号」が
            キーブレイクしたら、group 1 の
            従業員勤務歴 1 に戻ります
        fieldname="従業員番号"
    }
    formfilename "従業員勤務歴 2 ( 複数様式帳票例 2 ) .fms" {
        transfercondition=KBNF
        printnewpaper=OFF
        resetpagenumber=OFF
        ...従業員勤務歴 1 , または次紙からの
            続きのページ番号を出力します
    }
}
```

注

両面印刷する場合、「従業員勤務歴カード [I]」を表面に印刷したいときは、次のように指定してください。

printnewpaper = ON

サンプル帳票「従業員勤務歴カード」を両面印刷したときの、出力例を次に示します。

1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

図 1-22 両面印刷の出力例

従業員番号「195001」

表面

裏面

表面

裏面

従業員番号「180006」

表面

裏面

表面

裏面

従業員番号「187021」

表面

裏面

6. EUR サーバ帳票出力機能の起動

業務アプリケーションから、EUR サーバ帳票出力機能を起動します。

7. ファイルの入力

帳票ファイル、データファイル、帳票セット指定ファイル、および複数様式情報定義ファイルを EUR サーバ帳票出力機能に入力します。

8. 帳票出力

eurps コマンド構文の例を示します。

(例) プリント出力の例

```
eurps /p Printer1  
/mfd "C:¥TEMP¥formdef02 (複数様式帳票例2) .txt"  
/mrs "C:¥TEMP¥formset02 (複数様式帳票例2) .txt"
```

(3) サンプル帳票「保険申込書」の場合

「保険申込書」は、「保険申込書」、「保険申込書__代理店控」、および「保険申込書__契約

者控」の3様式を一組の連票形式にして出力します。

サンプル帳票「保険申込書」を出力したときの一組の帳票例を次に示します。

[illegible][illegible]

1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

[illegible]

サンプル帳票「保険申込書」は、契約者ごとに一組の帳票を出力します。「保険申込書」、「保険申込書__代理店控」、「保険申込書__契約者控」の順に一組の帳票を出力したあと、次の契約者の帳票を出力します。

ページ番号は、3 様式を通して契約者ごとのページ番号 (n/m 形式) を出力します。契約者のデータが変わった時点で、「保険申込書」は「1/3」に初期化されます。

(a) サンプル帳票「保険申込書」を出力する手順

サンプル帳票「保険申込書」を出力する手順を次に示します。

1. 帳票設計

EUR 帳票作成機能を使って、帳票を設計します。

帳票ファイルは、「保険申込書」、「保険申込書__代理店控」、および「保険申込書__契約者控」の3様式を作成して、フォームシートファイル(*.fms)で保存します。

- 保險申込書（複數樣式帳票例 3）.fms

[illegible]

- 保險申込書 代理店控 (複数様式帳票例 3) .fms

[illegible]

保険申込書（複数様式帳票例3）.fms, 保険申込書（複数様式帳票例3）.csv

保険申込書__代理店控（複数様式帳票例3）.fms, 保険申込書（複数様式帳票例3）.csv

保険申込書__契約者控（複数様式帳票例3）.fms, 保険申込書（複数様式帳票例3）.csv

5. 複数様式情報定義ファイルの作成

「保険申込書」は、「保険申込書」、「保険申込書__代理店控」、および「保険申込書__契約者控」の3様式を一組の連票形式にして出力します。

データファイルは一つですが、様式ごとにレコードのデータを読み込むので、様式グループは三つになります。

様式グループは三つですが、3様式を必ず出力するので、様式グループ遷移条件（grouptransfercondition）の指定は省略します。

1 様式グループ 1 様式であることと、フィールド「契約者管理 ID」がキーブレイクしたなら次の様式グループに移るように指定するので、様式間遷移条件（formtransfercondition）の指定は省略します。

サンプル複数様式情報定義ファイル（formdef03（複数様式帳票例3）.txt）の内容を次に示します。

```
group 1 {
  formfilename "保険申込書（複数様式帳票例3）.fms" {
    transfercondition=KBNF      ...キーブレイクしたら、
                                group 2の代理店控に移ります
    printnewpaper=OFF
    resetpagenumber=ON         ...保険申込書を出力するときは、
                                ページ番号を初期化します
  }
}
group 2 {
  formfilename "保険申込書__代理店控（複数様式帳票例3）.fms" {
    transfercondition=KBNF      ...キーブレイクしたら、
                                group 3の契約者控に移ります
    printnewpaper=OFF
    resetpagenumber=OFF        ...前の様式からの続きのページ番号を
                                出力します
  }
}
group 3 {
  formfilename "保険申込書__契約者控（複数様式帳票例3）.fms" {
    transfercondition=KBNF      ...キーブレイクしたら、
                                group 1の保険申込書に戻ります
    printnewpaper=OFF
    resetpagenumber=OFF        ...前の様式からの続きのページ番号を
                                出力します
  }
}
```

6. EUR サーバ帳票出力機能の起動

業務アプリケーションから、EUR サーバ帳票出力機能を起動します。

7. ファイルの入力

1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

帳票ファイル，データファイル，帳票セット指定ファイル，および複数様式情報定義ファイルを EUR サーバ帳票出力機能に入力します。

8. 帳票出力

eurps コマンド構文の例を示します。

(例) Windows 環境でのプリンタ出力の場合

```
eurps /p Printer1  
      /mfd "C:¥TEMP¥formdef03 (複数様式帳票例3) .txt"  
      /mrs "C:¥TEMP¥formset03 (複数様式帳票例3) .txt"
```


1.4 データベースからデータを入力するには

EUR サーバ帳票出力機能では、帳票を出力する際、データベースからデータを入力できます。EUR サーバ帳票出力機能からアクセスできるデータベースと、英語、中国語口ケールでの使用可否を次に示します。

データベース	英語、中国語口ケールでの使用可否
HiRDB	×
Oracle	
SQL Server	×
XDM/RD E2	×

（凡例）

：使用できます

×：使用できません

注

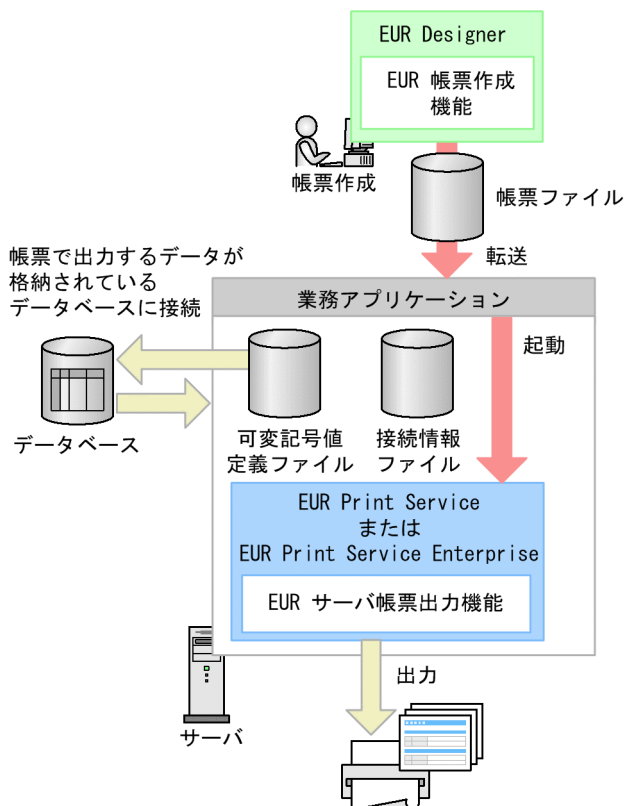
HiRDB クライアントの XDM/RD E2 接続機能を使用します。



システム管理者は、DABroker を使用して、データベースに接続するためのデータソースや、データベースに初めて接続する前に、接続に必要な環境を設定します。データベースの接続設定については、「付録 B DABroker の利用」を参照してください。

1. EUR サーバ帳票出力機能の概要

データベースからデータを入力する手順を次に示します。

図 1-23 データベースからデータを入力する手順



(凡例)  : アプリケーションの機能  : EURの機能

データの入力元として CSV 形式のデータファイルを使用する場合とは異なり、データベースに接続してデータを取得します。データベースからデータを入力するには、次に示す両方のファイルの指定が必要です。

- 接続情報ファイル
- 可変記号値定義ファイル

ただし、すべての帳票セットのマッピングデータおよびユーザ定義データの入力元として指定できるデータベースは、一つだけです。

1.4.1 接続情報ファイル

接続情報ファイルには、次の項目を指定します。接続情報ファイルの詳細については「7.9 接続情報ファイル」を参照してください。

- DABroker のホスト名または IP アドレス
- データベースの種別 (HiRDB, Oracle, SQLServer, または XDM/RD E2)
注 XDM/RD E2 に接続する場合は, 「HiRDB」を指定してください。
- 送受信領域サイズ
- 応答監視時間
- データベースホスト名
- データベース識別子
- ユーザ ID
- パスワード (暗号化したパスワードも指定可能)
- 排他オプション

1.4.2 可変記号値定義ファイル

可変記号値定義ファイルは, データベースと接続するために必要な, 可変記号の値を定義するファイルです。可変記号値定義ファイルの詳細については「7.10 可変記号値定義ファイル」を参照してください。

1.5 EUR Developer で帳票を出力するには

帳票を設計しているクライアント環境でサーバからの帳票出力結果を確認したい場合は、EUR Developer の EUR サーバ帳票出力機能をお勧めします。

EUR Developer をインストールすると、EUR 帳票作成機能、EUR クライアント帳票出力機能、および EUR サーバ帳票出力機能が使用できます。また、EUR Developer の EUR サーバ帳票出力機能は、PDF 形式ファイル、EUR 形式ファイル、CSV 形式ファイル、および Excel 形式ファイルの出力もできます。

ただし、EUR Developer は、PDF 形式ファイルを暗号化して出力できません。

1.6 プロポーショナルフォントを出力するには

EUR サーバ帳票出力機能は、可変ピッチフォント（プロポーショナルフォント）に対応しています。

欧文の帳票は、固定ピッチフォントを使うより、プロポーショナルフォントを使ったほうが美しく出力されます。

プロポーショナルフォントの詳細については、「2.5 EUR サーバ帳票出力機能でのプロポーショナルフォントの出力」を参照してください。

1.7 EUR サーバ帳票出力機能を英語または中国語で使用するには

EUR サーバ帳票出力機能は、英語、中国語、および日本語に対応しています（多言語機能）。ユーザが使用するロケールで、入出力に使用するファイルやデータを実行できるため、それぞれの言語に合わせた出力環境が設定できます。

1.8 出力できない文字があるときには

EUR サーバ帳票出力機能で帳票を出力する際、帳票で使用している文字の一部が空白で出力されることがあります。これは、PDF 形式ファイル出力の環境、UNIX/Linux 環境や各プリンタによって、フォントが搭載されていないなど、出力できない文字（文字コード）があるからです。

EUR サーバ帳票出力機能では、出力できない文字を出力できるように、文字を画像処理で出力できるようにしました。文字を画像処理で出力するには、EUR フォントファイル作成ツールと、環境変数を使用します。EUR フォントファイル作成ツールと環境変数については、「7.23 EUR フォントファイル」を参照してください。

2

EUR で使用できる文字

この章では、EUR サーバ帳票出力機能で可以使用できる文字について説明します。

2.1 EUR が使用する文字コード

2.2 EUR から出力できる文字

2.3 EUR での外字の使用方法

2.4 EUR サーバ帳票出力機能で可以使用できるフォント

2.5 EUR サーバ帳票出力機能でのプロポーショナルフォントの出力

2.1 EUR が使用する文字コード

EUR が使用する文字コードは、OS 環境やロケールごとに異なります。

2.1.1 サポートする文字集合

対応する言語ごとにサポートする文字集合を次に示します。

表 2-1 サポートする文字集合

言語	文字集合
英語	ISO8859-1 ISO8859-15 CP1252
中国語	GB18030:2000
日本語	JIS X 0213:2004

注

UNIX / Linux 環境の場合に対応します。

2.1.2 入力ファイルに対するエンコーディング

EUR では、入力ファイルに Unicode や Shift JIS が使用できます。

エンコーディングが Unicode の場合は、実装水準 1 に対応しています。なお、実装水準 1 に結合文字は含まれません。

入力ファイルの文字は、次に示すエンコーディングを使用して変換します。入力ファイルに対するエンコーディングを間違えると、文字化けが起きたり空白が出力されたりする場合があります。

表 2-2 入力ファイルに対して使用するエンコーディング

入力ファイル	エンコーディング	
	Windows	UNIX / Linux
帳票ファイル	UTF-16, Shift JIS	UTF-16, Shift JIS
マッピングデータファイル	UTF-16, UTF-8, ロケールに対応する文字コード	UTF-16, ロケールに対応する文字コード
ユーザ定義データファイル	UTF-16, UTF-8, ロケールに対応する文字コード	UTF-16, ロケールに対応する文字コード
文書情報設定ファイル	UTF-16, UTF-8, ロケールに対応する文字コード	UTF-16, ロケールに対応する文字コード

入力ファイル	エンコーディング	
	Windows	UNIX / Linux
プリンタ定義ファイル	UTF-16, UTF-8, ロケールに対応する文字コード	UTF-16, ロケールに対応する文字コード
帳票セット指定ファイル	UTF-16, UTF-8, ロケールに対応する文字コード	UTF-16, ロケールに対応する文字コード
複数様式情報定義ファイル	UTF-16, UTF-8, ロケールに対応する文字コード	UTF-16, ロケールに対応する文字コード
接続情報ファイル	UTF-16, UTF-8, ロケールに対応する文字コード	UTF-16, ロケールに対応する文字コード
可変記号値定義ファイル	UTF-16, UTF-8, ロケールに対応する文字コード	UTF-16, ロケールに対応する文字コード
仕分け定義情報ファイル	UTF-16, UTF-8, ロケールに対応する文字コード	-
PDF 仕分け定義ファイル	UTF-16, UTF-8, ロケールに対応する文字コード	UTF-16, ロケールに対応する文字コード
文書しおり定義ファイル	UTF-16, UTF-8, ロケールに対応する文字コード	UTF-16, ロケールに対応する文字コード
しおり定義ファイル	UTF-16, UTF-8, ロケールに対応する文字コード	UTF-16, ロケールに対応する文字コード
暗号化設定ファイル	UTF-16, UTF-8, ロケールに対応する文字コード	UTF-16, ロケールに対応する文字コード
透かし情報ファイル	UTF-16, UTF-8, ロケールに対応する文字コード	-
Acrobat JavaScript ファイル	UTF-16, UTF-8, ロケールに対応する文字コード	UTF-16, ロケールに対応する文字コード
Acrobat JavaScript 定義ファイル	UTF-16, UTF-8, ロケールに対応する文字コード	UTF-16, ロケールに対応する文字コード
ビューアプレファレンス定義ファイル	UTF-16, UTF-8, ロケールに対応する文字コード	UTF-16, ロケールに対応する文字コード
置き換え表管理情報ファイル	UTF-16, UTF-8, ロケールに対応する文字コード	UTF-16, ロケールに対応する文字コード
置き換え表ファイル	UTF-16, UTF-8, ロケールに対応する文字コード	UTF-16, ロケールに対応する文字コード
JavaBeans 起動部品のプロパティファイル	UTF-8, ロケールに対応する文字コード	UTF-8, ロケールに対応する文字コード
環境設定ファイル	UTF-16, UTF-8, ロケールに対応する文字コード	UTF-16, ロケールに対応する文字コード

(凡例)

- : 該当しません。

2. EUR で使用できる文字

注 1

BOM (Byte Order Mark) を付与した UTF-16 エンコーディングで変換します。

注 2

Windows 環境で、UTF-8 で表現できる文字 (1 バイト ~ 4 バイト) の中に不正なコードが使用されている場合、文字の先頭から不正なコードまでを半角空白に置き換えます。

注 3

ロケールに対応する文字コードで変換した場合、ロケールごとにデフォルトのエンコーディングが異なります。詳細は、「付録 C 作業環境の言語との対応」を参照してください。

注 4

JavaBeans 起動部品は、Unicode BMP の範囲外の文字はサポートしません。

注

EUC のコードセット 3 には対応していません。

2.2 EUR から出力できる文字

EUR では、帳票を出力するファイルやプリンタによって、次に示す文字集合の文字を出力できます。環境に合わせて、出力できる文字を使用してください。

表 2-3 出力先に対応した文字集合

文字集合	Windows 対応プリンタ	PDF 形式ファイル		PostScript Level2 対応プリンタ ¹	LIPSIII 対応プリンタ	ESC/P 対応プリンタ	CSV 形式ファイル	EUR 形式ファイル	Excel 形式ファイル
		Windows 環境	UNIX / Linux 環境						
JISX0201:1997 ローマ字						2			
JISX0201:1997 カタカナ						2			
JISX0208:1997						2			
NEC 特殊文字のうち JISX0208, JISX0212 に含まれない文字						×			
Windows31J-NEC 特殊文字のうち, JISX0212 に含まれる文字						3			
Windows31J-IBM 拡張文字, NEC 選定 IBM 拡張文字のうち, JISX0212 に含まれない文字					×	×			
JISX0212 のうち Windows31J に含まれる文字					3	3			
JISX0212 のうち Windows31J に含まれない文字				3	3	3	×		

2. EUR で使用できる文字

文字集合	Windows 対応プリンタ	PDF 形式ファイル		PostScript Level2 対応プリンタ ¹	LIPSIII 対応プリンタ	ESC/ P 対応プリンタ	CSV 形式ファイル	EUR 形式ファイル	Excel 形式ファイル
		Windows 環境	UNIX / Linux 環境						
UCS-2 の私用領域 (U+E000 ~ U+F8FF) に定義されている 6,400 字		3	3	3	3	3	4	5	5
JISX0213:2004				6	×	×	×		
GB18030:2000				×	×	×	×		
上記の文字集合以外の文字		×	×	×	×	×	×		×

(凡例)

: 文字を出力します。

: 文字を出力しますが、一部出力できない文字があります。

× : 空白に置き換えて出力します。

注 1

プリンタフォントに上記の文字集合が登録されていない場合は、空白に置き換えて出力します。

注 2

環境変数や環境設定ファイルに指定した、ESC/P 対応プリンタで使用するフォントファイルに登録されている文字のイメージを、画像処理で出力します。

注 3

EUR フォントファイルに登録されている文字を、画像として出力します。EUR フォントファイルについては、「7.23 EUR フォントファイル」を参照してください。

EUR フォントファイルを使用しない場合は、OS ごとに作成した外字を出力することもできます (Linux 環境の場合は、全角の空白に置き換えて出力します)。外字の出力については、「2.3 EUR での外字の使用方法」を参照してください。

注 4

UCS-2 の私用領域 (U+E000 ~ U+F8FF) に定義されている 6,400 字のうち、最初の 1,880 字だけが出力できます。

注 5

クライアント環境の Windows 標準外字ファイル (EUDC.TTE) の同じコードに同じ外字を定義する必要があります。

注 6

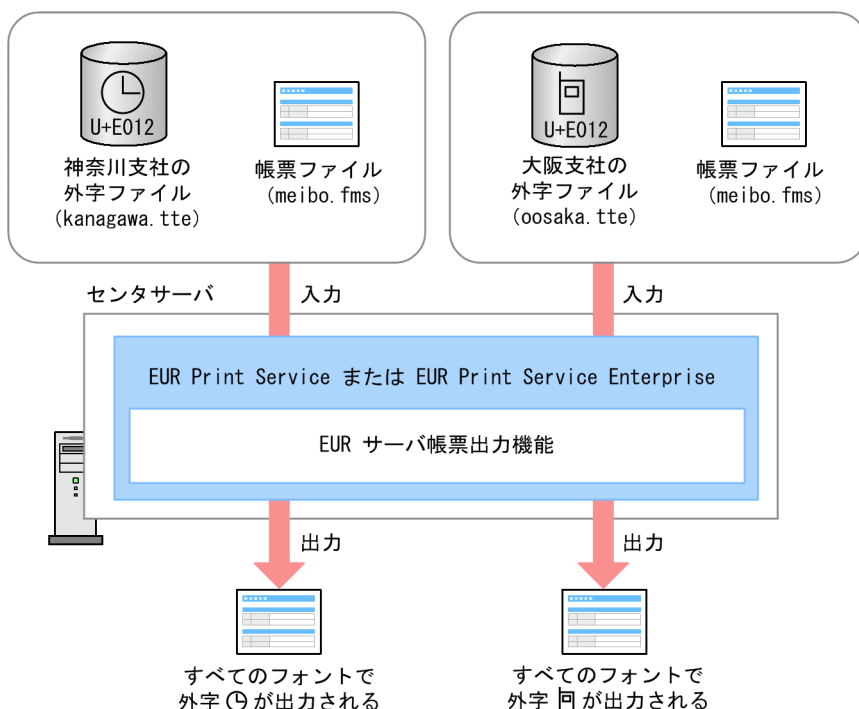
UNIX / Linux 環境の場合、日立の JISX0213:2004 フォントを搭載した PostScript 対応プリンタで出力できます。

2.3 EUR での外字の使用方法

EUR サーバ帳票出力機能では、外字ファイルを指定して外字を出力できます。EUR サーバ帳票出力機能で外字ファイルを指定すれば、Windows 環境で特定のフォントにリンクした状態で保存した外字も、すべてのフォントで印刷できます。また、外字ファイルを差し替えて、別の外字を出力することもできます。

支社ごとに作成した外字ファイルを使用して、同じ帳票に別の外字を出力するイメージを次の図に示します。

図 2-1 同じ帳票に別の外字を出力するイメージ



2.3.1 プリンタでの印刷，および PDF 形式ファイル出力での外字の使用方法

プリンタで印刷したり，PDF 形式ファイルに出力したりする場合の外字の使用方法は，OS ごとに異なります。

OS ごとくの外字の使用方法を説明します。

(1) Windows 環境での外字の使用方法

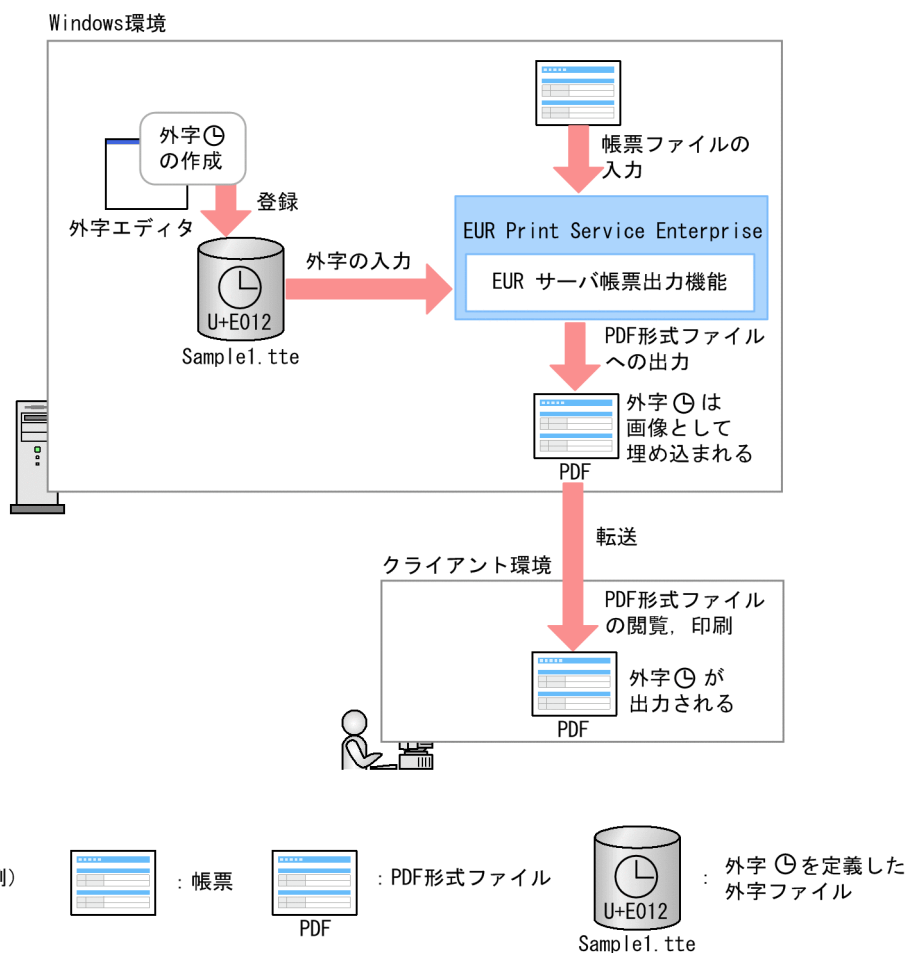
Windows 環境で外字を含む帳票を印刷または PDF 形式ファイルに出力する場合，外字

ファイルを環境変数「EURPS_GAIJIFONT」に指定します。

なお、PDF 形式ファイルに出力する場合も、外字ファイルは PDF を作成した環境だけに必要です。PDF 形式ファイルには、外字は画像として埋め込まれるため、クライアント環境に帳票を転送しても、外字の閲覧、印刷ができます。

Windows 環境で外字を含む帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合のイメージを次の図に示します。

図 2-2 Windows 環境での外字を含む帳票の PDF 形式ファイル出力



! 注意事項

- 帳票を PDF 形式ファイルに出力した場合、外字は画像として PDF 形式ファイル中に埋め込むので、外字の検索と複写はできません。
- ベンダ定義文字は、プリンタドライバで「TrueType をプリンタフォントで置き換える」が設定されていると、プリンタによってはベンダ定義文字が正しく印刷されないことがあります。この場合は、TrueType で出力するように設定してください。

参考

外字ファイルを使用しない場合は Windows 標準外字を使用することもできますが、正しく出力されなかったり、サービスから使用できなかったりすることがあります。

(2) UNIX / Linux 環境での外字の使用方法

EUR フォントファイルを使用することで、Windows 環境の外字を UNIX / Linux 環境でも使用できるようになります。詳細は、「7.23 EUR フォントファイル」を参照してください。

EUR フォントファイルを使用しない場合は OS の外字システムで定義した外字を出力できます。ただし、Linux 環境では外字を使用できません。

なお、私用領域のうち、外字が定義されていない符号位置を指定した場合は、「（全角空白）」を出力します。

! 注意事項

- 帳票を PDF 形式ファイルに出力した場合は、外字は画像として PDF 形式ファイル中に埋め込むので、外字の検索と複写はできません。
- Shift JIS ロケール環境で実行する場合、ベンダ定義文字はコードで出力されますので、プリンタによって、正しく印刷されないことがあります。

(a) OS の外字システムでの定義方法

外字システムでの定義方法は OS ごとに次のとおり異なります。

HP-UX 環境の場合

HP-UX 外字ツール (xudced コマンド) を使用して、24 × 24 ドットの外字パターンを定義します。HP-UX 外字ツールについては、HP-UX 環境での外字の登録方法が記載されているマニュアルなどを参照してください。

作成された ude ファイルをフォントファイル (*.pcf) にマージしたあと、マージしたファイルを環境変数「EURPS_GAIJIFONT」にフルパスで指定することで使用できます。

AIX 環境の場合

AIX 外字ツール (fontutil コマンド) を使用して、24 × 24 ドットの外字パターンを定義します。AIX 外字ツールについては、AIX 環境での外字の登録方法が記載されているマニュアルなどを参照してください。

AIX の場合、作成したフォントファイル (*.pcf) を、EUR サーバ帳票出力機能でできるように非圧縮形式に解凍したあと、環境変数「EURPS_GALJIFONT」にフルパスで指定することで使用できます。

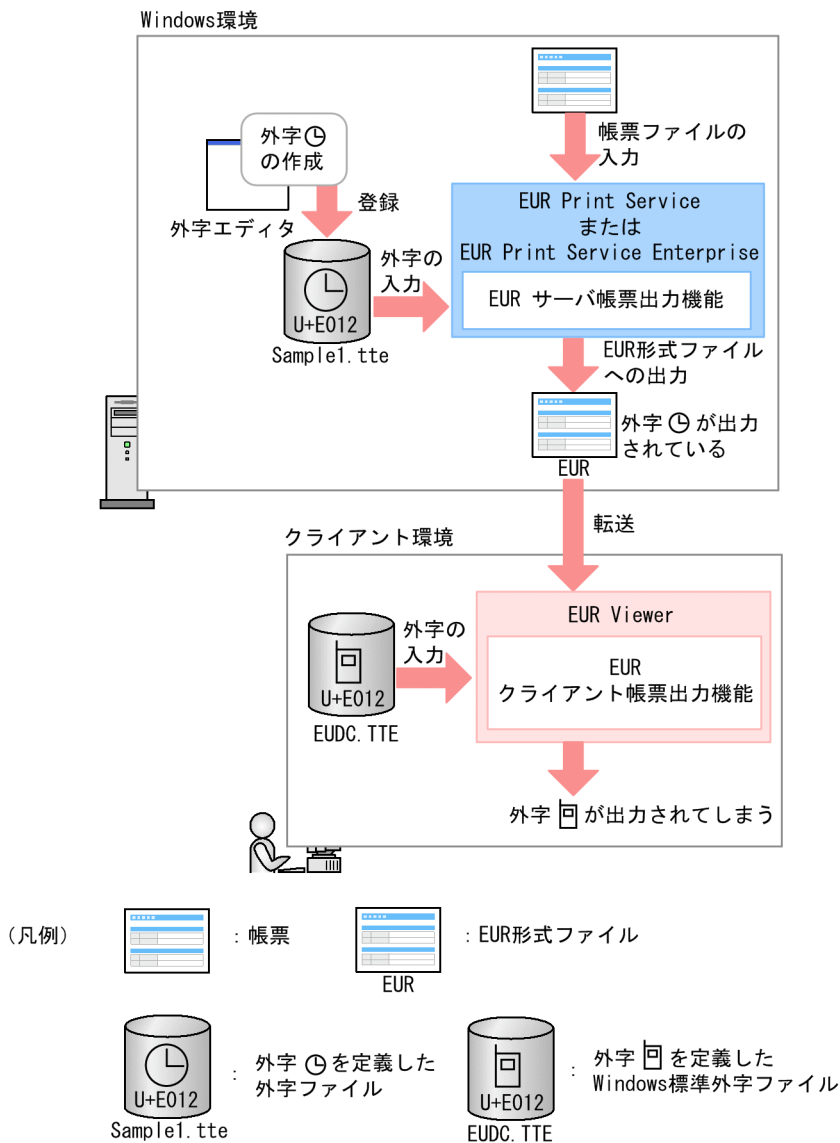
2.3.2 CSV 形式ファイル，EUR 形式ファイル，および Excel 形式ファイル出力での外字の使用方法

CSV 形式ファイル，EUR 形式ファイル，および Excel 形式ファイルに出力する場合の外字の定義方法は、プリンタでの印刷，および PDF 形式ファイル出力の場合と同じです。ただし、出力した帳票をクライアント環境に転送するときには、クライアント環境の Windows 標準外字ファイル (EUDC.TTE) の同じコードに同じ外字を定義する必要があります。クライアント環境の Windows 標準外字ファイル (EUDC.TTE) の同じコードに別の外字を定義すると、クライアント環境では別の外字が表示・印刷されてしまいます。

帳票を EUR 形式ファイルに出力する場合を例に、クライアント環境の Windows 標準外字ファイル (EUDC.TTE) に別の外字が定義されたときのイメージを次の図に示します。

2. EUR で使用できる文字

図 2-3 帳票を EUR 形式ファイルに出力する場合（クライアント環境の Windows 標準外字ファイル（EUDC.TTE）に別の外字が定義されたとき）



なお、CSV 形式ファイル、EUR 形式ファイル、および Excel 形式ファイルに出力する場合に使用できる外字については、「2.2 EUR から出力できる文字」の表を参照してください。

2.4 EUR サーバ帳票出力機能で使用するフォント

EUR サーバ帳票出力機能で使用するフォントは、出力先によって異なります。

2.4.1 PDF で使用できるフォント

EUR では、PDF を出力するとき、欧文フォント、中国語フォント、および日本語フォントが使用できます。ただし、PDF 形式ファイルを暗号化出力するときは、日本語ロケールでだけ正しく動作します。PDF 形式ファイルを暗号化出力するときは、ロケールを日本語環境に設定してください。

！ 注意事項

帳票アイテムのフォント、フォント埋め込み、および文字幅計算方法の指定によって、PDF 形式ファイルへのフォントの出力方法は異なります。この項では、フォントを置き換えて出力する場合について説明します。次に示す設定をした場合に、フォントを置き換えて出力します。

- 帳票アイテムのフォント：固定ピッチフォント
- フォントの埋め込み：なし
- 文字幅計算方法の指定：静的、または指定なし

その他の設定で出力する場合や、詳細については「2.5 EUR サーバ帳票出力機能でのプロポーショナルフォントの出力」を参照してください。

フォントを置き換えて出力するときに使用できるフォントについて説明します。

(1) 使用できる欧文フォント

フォントを置き換えて出力するとき、固定ピッチの欧文フォントを使用できます。

(a) 出力できる文字

Windows ANSI の文字を出力できます。Windows ANSI 以外の文字については、空白に置き換えて出力します。

(b) ラテン文字を使用した場合

ラテン補助文字のうち、日本語フォントでは全角となっている文字もラテン基本文字と同じ幅で出力します。ラテン文字については、「付録 D ラテン文字一覧」を参照してください。

(2) 使用できる中国語フォント

フォントを置き換えて出力するとき、中国語フォントを使用できます。

2. EUR で使用できる文字

(a) 出力できる文字

- 宋体の場合

Adobe Technical Note #5079 30 November 2000「Adobe-GB1-4 Character Collection for CID-Keyed Fonts」文字集合の中の Technical Note #5094「UniGB-UTF16-H/V」で規定される文字集合が出力できます。Unicode3.1 CJK 拡張 A の文字をすべて含みます。

中国語で全角の文字については全角で出力します。

- 明体の場合

Adobe Technical Note #5080 27 May 2003「Adobe-CNS1-4 Character Collection for CID-Keyed Fonts」文字集合の中の Technical Note #5094「UniCNS-UTF16-H/V」で規定される文字集合が出力できます。

(b) 宋体で出力されるフォント

次のフォントは宋体で出力されます。

- 新宋体 (NSimSun) - simsun.ttc
- 新宋体 -18030(NSimSun-18030) - simsun18030.ttc
- ほう宋_GB2312(FangSong_GB2312) - simfang.ttf
- 楷体_GB2312(KaiTi_GB2312) - simkai.ttf

(c) 明体で出力されるフォント

次のフォントは明体で出力されます。

- 細明体 (MingLiU) - mingliu.ttc
- 標楷体 (DFKai-SB) - kaiu.ttf

(d) ラテン文字を使用した場合

- 宋体の場合

ラテン基本文字は、Windows の新宋体と字形が異なる場合があります。ラテン補助文字を使用した場合は、文字幅が不正に出力されるので、文字が重なって表示されることがあります。

- 明体の場合

ラテン基本文字は、Windows で細明体と字形が異なる場合があります。

ラテン文字については、「付録 D ラテン文字一覧」を参照してください。

(3) 使用できる日本語フォント

フォントを置き換えて出力するとき、JISX0213:2004 文字集合の文字を使用できます。

MS932 文字集合は CMAP 名 90ms-RKSJ で、UniJIS-UTF16 文字集合は CMAP 名 UniJIS-UTF16 で出力します。MS932 文字集合と UniJIS-UTF16 文字集合が混在する帳票も作成できます。

(a) 出力できる文字

Adobe Technical Note #5078 11 June 2004 「Adobe-Japan1-6 Character Collection for CID-Keyed Fonts」文字集合中の Technical Note #5094 「UniJIS-UTF16-H/V」で規定された文字集合が出力できます。Unicode3.1 CJK 拡張 A の文字をすべて含みます。

(b) 注意事項

ラテン補助文字を使用した場合は、文字幅が不正に出力されるので、文字が重なって表示されることがあります。ラテン文字については、「付録 D ラテン文字一覧」を参照してください。

(4) フォントの置き換え結果

EUR 帳票作成機能で設計した帳票を、フォントを置き換えて PDF 形式ファイルに出力する場合、次に示すフォントに置き換えて出力します。

PDF 形式ファイルに出力する場合

表 2-4 帳票フォントに対応する出力フォント

帳票に使用されているフォント	出力時のフォント
M S 明朝	Ryumin-Light
MS Mincho	
M S P 明朝	
MS PMincho	
HG 行書体	
HG 教科書体	
HG 明朝 B	
HG 明朝 E	
M S ゴシック	GothicBBB-Medium
MS Gothic	
M S P ゴシック	
MS PGothic	
HG ゴシック E	
HG ゴシック M	
HG 創英角ポップ体	
HG 創英プレゼンス EB	
HG 創英角ゴシック UB	
メイリオ	
Meiryo	

2. EUR で使用できる文字

帳票に使用されているフォント	出力時のフォント
新宋体	STSong-Light
NSimSun	
新宋体-18030	
NSimSun-18030	
宋体	
SimSun	
ほう宋_GB2312	
FangSong_GB2312	
ほう宋	
FangSong	
楷体_GB2312	
KaiTi_GB2312	
楷体	
KaiTi	
細明体	MingStd-Light
MingLiU	
新細明体	
PMingLiU	
標楷体	
DFKai-SB	Courier
Courier New	
Lucida Console	
Lucida Sans Typewriter	
OCR-B	
Arial	
Times New Roman	

注 表にないフォントを使用している場合、ロケールによって次のフォントに置き換えて出力します。

- 英語ロケールで実行した場合
「Courier」に置き換えて出力します。
- 中国語ロケールで実行した場合
「STSong-Light」に置き換えて出力します。
- 日本語ロケールで実行した場合
「Ryumin-Light」に置き換えて出力します。

2.4.2 UNIX / Linux 環境のプリンタ出力時のフォント

(1) プリンタと対応するフォント

プリンタによって、出力できないフォントがあります。プリンタごとに対応するフォントを次に示します。

表 2-5 プリンタと対応するフォント

フォント	PostScript 対応プリンタ	ESC/P 対応プリンタ	LIPS 対応プリンタ
欧文フォント (Courier) 対応	×	×	×
簡体字中国語フォント対応	×	×	×
繁体字中国語フォント対応	×	×	×
日本語 MS932 出力 (05-06 以前の範囲)			
JISX0213:2004 対応		×	×
GB18030.2000(中国語) 対応	×	×	×

(凡例)

：出力できます。

×：出力できません。

注

日立の JISX0213:2004 フォントを搭載した PostScript 対応プリンタで出力できます。

(2) 半角全角判定の設定

バージョン 05-06 の帳票をバージョン 05-08 以降で開いた場合、フォントごとに半角全角判定が設定されていると、帳票の見た目が異なって表示されることがあります。半角全角判定は、EURPS_USE_05_06_FONT_LANG で設定します。

EURPS_USE_05_06_FONT_LANG については、「7.26.45

EURPS_USE_05_06_FONT_LANG」を参照してください。

(3) フォントの置き換え結果

EUR 帳票作成機能で設計した帳票を、UNIX / Linux 環境のプリンタ (PostScript Level2, LIPSIII, および ESC/P 対応プリンタ) に出力する場合は、次に示すフォントに置き換えて出力します。

PostScript Level2 対応プリンタに出力する場合

表 2-6 PostScript Level2 対応プリンタの帳票フォントに対応する出力フォント

帳票に使用されているフォント	出力時のフォント
MS 明朝	リュウミン L-KL
MS Mincho	

2. EUR で使用できる文字

帳票に使用されているフォント	出力時のフォント
HG 行書体	中ゴシック BBB
HG 教科書体	
HG 明朝 B	
HG 明朝 E	
MS ゴシック	
MS Gothic	
HG ゴシック E	
HG ゴシック M	
HG 創英角ポップ体	
HG 創英プレゼンス EB	
HG 創英角ゴシック UB	

注 表にないフォントを使用している場合、「リュウミン L-KL」に置き換えて出力します。

LIPSIII 対応プリンタに出力する場合

表 2-7 LIPSIII 対応プリンタの帳票フォントに対応する出力フォント

帳票に使用されているフォント	出力時のフォント
MS 明朝	Mincho-Medium
MS Mincho	
HG 行書体	
HG 教科書体	
HG 明朝 B	
HG 明朝 E	
MS ゴシック	Gothic-Medium
MS Gothic	
HG ゴシック E	
HG ゴシック M	
HG 創英角ポップ体	
HG 創英プレゼンス EB	
HG 創英角ゴシック UB	

注 表にないフォントを使用している場合、「Mincho-Medium」に置き換えて出力します。

ESC/P 対応プリンタに出力する場合

表 2-8 ESC/P 対応プリンタの帳票フォントに対応する出力フォント

帳票に使用されているフォント	出力時のフォント
M S 明朝	明朝
MS Mincho	
HG 行書体	
HG 教科書体	
HG 明朝 B	
HG 明朝 E	
M S ゴシック	ゴシック
MS Gothic	
HG ゴシック E	
HG ゴシック M	
HG 創英角ポップ体	
HG 創英プレゼンス EB	
HG 創英角ゴシック UB	

注 表にないフォントを使用している場合、「明朝」に置き換えて出力します。

2.5 EUR サーバ帳票出力機能でのプロポーショナルフォントの出力

EUR サーバ帳票出力機能では、固定ピッチフォントと可変ピッチフォント（プロポーショナルフォント）を出力できます。ここでは、固定ピッチフォントおよび可変ピッチフォントを出力するための、文字幅の計算方法について説明します。

2.5.1 文字幅の計算方法

EUR サーバ帳票出力機能では、フォントを出力する際に文字幅を計算しています。

プロポーショナルフォントを出力するときは、フォントの文字幅を文字ごとに取得して計算します。固定ピッチフォントを出力するときは、プロポーショナルフォントを出力するときと同じ計算をする方法（動的モード）、またはフォントの文字幅を固定値として計算する方法（静的モード）を指定できます。

帳票アイテムのフォントおよび文字幅計算方法の指定ごとの、文字幅の計算方法を次に示します。

表 2-9 文字幅の計算方法

帳票アイテムのフォント	文字幅計算方法の指定	文字幅の計算方法
プロポーショナルフォント	-	使用するフォントに合わせて文字幅を計算します（動的モード）
固定ピッチフォント	動的	
	静的	固定値で文字幅を計算します（静的モード）

（凡例）

-：文字幅計算方法の指定は適用されません。プロポーショナルフォントの場合は、常に動的モードとして計算されます。

注

文字幅計算方法の指定を省略したときは、「静的」が仮定されます。

2.5.2 文字幅計算方法の設定

EUR サーバ帳票出力機能での、文字幅計算方法の設定方法と適用範囲を次に示します。

（1）文字幅計算方法の設定方法

EUR サーバ帳票出力機能で文字幅計算方法を設定するには、次に示す四つの方法があります。

eurps コマンド

/fwm (-fwm) オプションで設定します。設定方法の詳細については、「3.2.3(13) / fwm オプション」を参照してください。

ActiveX オブジェクト

FontWidthMode プロパティで設定します。設定方法の詳細については、「FontWidthMode プロパティ」を参照してください。

JavaBeans 起動部品

setFontWidthMode メソッドで設定します。設定方法の詳細については、「setFontWidthMode メソッド」を参照してください。

環境変数

環境変数 EURPS_FONT_WIDTH_MODE で設定します。設定方法の詳細については、「7.26.49 EURPS_FONT_WIDTH_MODE」を参照してください。

(2) 文字幅計算方法の適用範囲

出力形式ごとの文字幅計算方法の適用範囲を次に示します。

表 2-10 文字幅計算方法の適用範囲

出力環境	出力形式	適用
Windows 環境の場合	プリンタ出力	
	PDF 形式ファイル出力 (フォント埋め込みなし)	
	PDF 形式ファイル出力 (フォント埋め込みあり)	
	CSV 形式ファイル出力	×
	EUR 形式ファイル出力	
	Excel 形式ファイル出力	×
UNIX / Linux 環境の場合	PDF 形式ファイル出力 (フォント埋め込みなし)	
	PDF 形式ファイル出力 (フォント埋め込みあり)	
	PostScript Level2 対応プリンタ出力	×
	LIPSIII 対応プリンタ出力	×
	ESC/P 対応プリンタ出力	×
	CSV 形式ファイル出力	×
	EUR 形式ファイル出力	
	Excel 形式ファイル出力	×

(凡例)

：プロポーショナルフォント出力，および固定ピッチフォントの動的モード出力を適用します。

2. EUR で使用できる文字

×：プロポーショナルフォント出力，および固定ピッチフォントの動的モード出力を適用しません。

2.5.3 出力形式ごとのフォントの出力結果

帳票を出力するときは，出力形式ごとにフォントの出力結果が異なります。出力形式ごとのフォントの出力結果について説明します。

(1) プリンタ出力でのフォントの出力結果

プリンタ出力では，使用する OS によって出力結果が異なります。

(a) Windows 環境

Window 環境のプリンタに出力するときは，文字幅の計算方法と出力結果が次のように異なります。

- 動的モードの場合
帳票に指定されているフォントが出力環境にあるときは，指定されたフォントで出力します。
- 帳票に指定されているフォントが出力環境にないときは，フォントを置き換えて出力します。詳細については，「2.5.4 動的モードで出力できるフォント」を参照してください。
- 静的モードの場合
帳票に指定されているフォントで出力します。しかし，帳票に指定されたフォントの文字幅と半角全角判定の文字幅が異なると，文字が重なったり離れたりして出力されることがあります。
- EUR で適用される半角全角判定の文字幅
半角の文字幅はアイテムのフォント幅，全角の文字幅はアイテムのフォント幅の2倍で計算されます。
半角全角判定の文字幅は，英語フォントでは Courier，簡体字中国語フォントでは新宋体，繁体字中国語フォントでは細明体，日本語フォントでは M S 明朝の文字幅が適用されます。フォントの言語を判定できない場合は，中国語（簡体字）ロケールでは新宋体，日本語ロケールでは M S 明朝，その他のロケールでは Courier の文字幅が適用されます。

(b) UNIX / Linux 環境

UNIX / Linux 環境のプリンタ（PostScript Level2，LIPSIII，および ESC/P 対応プリンタ）に出力するときは，帳票に指定されているフォントを置き換えて出力します。詳細については，「2.4.2(3) フォントの置き換え結果」を参照してください。

ただし，文字幅計算方法の指定に「動的」を設定して，PostScript Level2 対応プリンタに出力した場合は，エラー（KEEU079-E）になります。

(2) PDF 形式ファイル出力でのフォントの出力結果

PDF 形式ファイルへのフォントの出力方法と注意事項について、次に示します。

(a) PDF 形式ファイルへのフォントの出力方法

帳票アイテムのフォント、フォント埋め込みの有無、および文字幅計算方法の指定による、PDF 形式ファイルへのフォントの出力方法の違いを次に示します。

表 2-11 PDF 形式ファイルへのフォントの出力方法の違い

帳票アイテムのフォント	フォント埋め込み	文字幅計算方法の指定	PDF 形式ファイルへのフォントの出力方法
プロポーショナルフォント	なし	-	フォントの書体名称を出力 ¹
	あり		フォントを埋め込んで出力
固定ピッチフォント	なし	動的	フォントの書体名称を出力 ¹
		静的	フォントを置き換えて出力 ²
	あり	動的	フォントを埋め込んで出力
		静的	

(凡例)

- : 文字幅計算方法の指定は適用されません。プロポーショナルフォントの場合は常に動的モードとして計算されます。

注 1

出力できるフォントの詳細については、「2.5.4 動的モードで出力できるフォント」を参照してください。

注 2

07-60 以前の EUR サーバ帳票出力機能で PDF 形式ファイルを出力した場合と同じフォントに置き換えて出力します。詳細については、「2.4.1(4) フォントの置き換え結果」を参照してください。

フォントの書体名称を出力した場合、印刷・表示環境にフォントがインストールされている必要があります。フォントを埋め込んで出力した場合は、印刷・表示環境にフォントがインストールされている必要はありません。フォント埋め込みの有無による PDF 形式ファイルの表示・印刷結果の違いを、次に示します。

表 2-12 PDF 形式ファイル出力のフォントの埋め込み

フォント埋め込み	印刷・表示環境での PDF 形式ファイルのフォント	PDF 形式ファイルの表示・印刷結果
なし	あり	PDF 形式ファイル出力時のフォントで表示・印刷されます。
	なし	正しく表示・印刷できません。

2. EUR で使用できる文字

フォント埋め込み	印刷・表示環境での PDF 形式ファイルのフォント	PDF 形式ファイルの表示・印刷結果
あり	あり	PDF 形式ファイルに埋め込んだフォントで表示・印刷されます。
	なし	

なお、フォントを埋め込まない場合、PDF 形式ファイルのファイルサイズはフォントを埋め込んだ場合に比べて小さくなります。

！ 注意事項

EUR サーバ帳票出力機能で出力した PDF 形式ファイルに縦書きの文字が含まれる場合、Adobe Reader 9 で表示および印刷してください。Adobe Reader 9 より前のバージョンで表示または印刷した場合、正しく表示または印刷されない場合があります。

(b) フォントの書体名称を出力した PDF 形式ファイルを表示・印刷する場合の注意事項

次に示すフォントを、Windows XP または Windows Server 2003 で表示・印刷する場合は、「MS ゴシック & MS 明朝 JIS2004 対応フォント」パッケージをインストールしてください。

- MS 明朝
- MS ゴシック
- MS P 明朝
- MS P ゴシック

また、次に示すフォントは、Windows Vista または Windows Server 2008 で表示・印刷してください。Windows XP および Windows Server 2003 では、正しく表示・印刷できません。

- メイリオ
- MingLiU
- NSimSun
- PmingLiU
- SimSun

(3) EUR 形式ファイル出力でのフォントの出力結果

EUR 形式ファイルに出力するときは、文字幅計算方法の指定が EUR 形式ファイルに出力されます。

EUR 形式ファイルを EUR Viewer で表示・印刷する場合のフォントの出力結果については、マニュアル「EUR クライアント帳票出力」を参照してください。

2.5.4 動的モードで出力できるフォント

文字幅の計算方法が動的モードの場合、出力できるフォントを次に示します。

(1) そのまま出力されるフォント

次に示すフォントが帳票に指定されている場合、帳票に指定されたフォントがそのまま出力されます。

- MS 明朝
- MS ゴシック
- MS P 明朝
- MS P ゴシック
- メイリオ
- MingLiU
- NSimSun
- PmingLiU
- SimSun
- Courier
- Times New Roman
- Arial

また、Windows 環境でプリンタ出力する場合は、出力環境にあるフォントも出力できます。

(2) 置き換えられて出力されるフォント

「(1) そのまま出力されるフォント」以外のフォントが帳票に指定されている場合、ロケールやフォントの種類によって、次に示すフォントが置き換えられて出力されます。

表 2-13 置き換えられて出力されるフォント

ロケール	フォントの種類	出力されるフォント
日本語	固定ピッチフォント	MS 明朝
	プロポーショナルフォント	MS P 明朝
中国語（簡体字）	固定ピッチフォント	NSimSun
	プロポーショナルフォント	SimSun
その他	固定ピッチフォント	Courier New
	プロポーショナルフォント	Arial

2.5.5 EURPS_USE_05_06_FONT_LANG が適用される条件

環境変数 EURPS_USE_05_06_FONT_LANG は、次に示す条件で帳票を出力した場合にフォントの文字幅計算に適用されます。

2. EUR で使用できる文字

表 2-14 EURPS_USE_05_06_FONT_LANG が文字幅計算に適用される条件

出力環境	出力形式	帳票アイテムの フォント	文字幅計算方法 の指定
Windows 環境	プリンタ出力	固定ピッチフォント	静的
	PDF 出力 (フォント埋め込みなし)		
UNIX / Linux 環境	PDF 出力 (フォント埋め込みなし)		

環境変数 EURPS_USE_05_06_FONT_LANG の詳細については、「7.26.45
EURPS_USE_05_06_FONT_LANG」を参照してください。

3

コマンドからの帳票出力

この章では、EUR サーバ帳票出力機能を起動して帳票を出力する方法のうち、eurps コマンドからの帳票出力について説明します。

-
- 3.1 コマンドで帳票出力するには
 - 3.2 eurps コマンドの文法
 - 3.3 eurps コマンドのオプション指定時の注意
 - 3.4 環境変数、環境設定ファイル
 - 3.5 eurps コマンド実行時の終了コード
 - 3.6 コーディング例
-

3.1 コマンドで帳票出力するには

この節では、コマンドで帳票を出力する際に使うコマンドやコーディング例の説明箇所を示します。

(1) コマンドの記載箇所

コマンドの記載箇所については、「3.2.2 eurps コマンドのオプション一覧」を参照してください。

(2) コーディング例の記載箇所

コーディング例の記載箇所を次の表に示します。

表 3-1 コーディング例の記載箇所（コマンドの場合）

出力形式	帳票様式		
	単一様式	複数様式	
		帳票セットを使用	帳票セット指定ファイルを使用 ¹
プリンタへ出力	3.6.2(1)	3.6.2(1)	3.6.2(1)
PDF 形式ファイルへ出力 + 暗号化出力	3.6.3(2)	3.6.3(2)	3.6.3(2)
PDF 形式ファイルへ出力 + 暗号化なし	3.6.3(1)	3.6.3(1)	3.6.3(1)
PDF 形式ファイルへ出力 + 仕分け出力 + 暗号化出力 ²	3.6.3(4)	3.6.3(4)	3.6.3(4)
PDF 形式ファイルへ出力 + 仕分け出力 + 暗号化なし	3.6.3(4)	3.6.3(4)	3.6.3(4)
EUR 形式ファイルへ出力	3.6.4	3.6.4	3.6.4
CSV 形式ファイルへ出力	3.6.5	3.6.5	3.6.5
Excel 形式ファイルへ出力	3.6.6	-	-

（凡例）

- : 出力できません。

注 1

複数様式情報定義ファイルを組み合わせる場合、コーディング例については「7.8 複数様式情報定義ファイル」を参照してください。

注 2

暗号化のコーディング例については、「3.6.3(2) PDF 形式ファイルを暗号化する場合」をあわせて参照してください。

3.2 eurps コマンドの文法

eurps コマンドを実行することで、次に示す帳票の出力ができます。

プリンタ出力

EUR 帳票作成機能で設計した帳票ファイル、およびデータファイル（マッピングデータファイル、ユーザ定義データファイル）を読み込んでプリンタに出力できます。

- Windows 環境の場合

Windows 対応のプリンタ出力だけでなく、JP1 と連携した仕分け印刷もできます。

- UNIX / Linux 環境の場合

LIPSIII, PostScript Level2, および ESC/P 対応プリンタ出力と PDL ファイルへの出力ができます。

PDF 形式ファイル出力

EUR 帳票作成機能で設計した帳票ファイル、およびデータファイル（マッピングデータファイル、ユーザ定義データファイル）を読み込んで、PDF 形式ファイルに出力できます。

PDF 形式ファイル出力では、複数の帳票を一つの PDF 形式ファイルに出力したり、しおりを付けた PDF 形式ファイルを出力したり、PDF 形式ファイルを仕分け出力したりできます。この場合は、EUR Print Service Enterprise を使用します。

また、PDF 形式ファイルを暗号化出力したり、暗号化仕分け出力したりすることもできます。この場合は、EUR Print Service Enterprise に、付加製品である EUR Print Service - Cipher option を組み合わせます。

EUR 形式ファイル出力

EUR 帳票作成機能で設計した帳票ファイル、およびデータファイル（マッピングデータファイル、ユーザ定義データファイル）を読み込んで、EUR 形式ファイルに出力できます。これによって、Web アプリケーションから帳票を表示したり、印刷したりできます。

EUR 形式ファイルを出力する場合は、EUR Print Service Enterprise を使用します。

CSV 形式ファイル出力

EUR 帳票作成機能で設計した帳票ファイル、およびデータファイル（マッピングデータファイル、ユーザ定義データファイル）を読み込んで、CSV 形式ファイルに出力できます。

Excel 形式ファイル出力

EUR 帳票作成機能で設計した帳票ファイル、およびデータファイル（マッピングデータファイル、ユーザ定義データファイル）を読み込んで、Excel 形式ファイルに

3. コマンドからの帳票出力

出力できます。これによって、Excel を使って帳票ファイルを 2 次加工できます。

なお、eurps コマンドを実行すると、eurps ログおよびトレースファイルが出力されます。eurps ログには、実行時に発生したエラーなどが出力されます。トレースファイルはエラー時の原因調査などに使用します。eurps コマンドは、複数のプロセスから同時に呼び出すことができます。

eurps ログについては、「8.6 eurps ログ」を参照してください。トレースファイルについては、「7.25 トレースファイル」を参照してください。

3.2.1 eurps コマンドの構文

eurps コマンドの構文を、出力する環境別に次に示します。

(1) Windows 環境の場合

Windows 環境でのコマンド構文を次に示します。

```
eurps [.exe]
  [/p プリント定義名]
  [/t {csv | eur | pdf | xlsx}]
  [/pi プリント定義ファイル名]
  [/pf 出力先ファイル名]
  [/pnf 出力ページ情報ファイル名]
  [/df 文書情報設定ファイル名]
  [/mfd 複数様式情報定義ファイル名]
  [/rif 置き換え表管理情報ファイル名]
  [/dif 接続情報ファイル名]
  [/ds 仕分け定義情報ファイル名]
  [/dsf PDF仕分け定義ファイル名]
  [/cry]
  [/cryf 暗号化設定ファイル名]
  [/bm]
  [/bmf 文書しおり定義ファイル名]
  [/ecrypк パスワード暗号化鍵]
  [/tint 透かし情報ファイル名]
  [/jsc Acrobat JavaScript定義ファイル名]
  [/pvp ビューアプレファレンス定義ファイル名]
  [/fwm {static | dynamic}]
  [/mrs 帳票セット指定ファイル名]
  帳票セット [{ 帳票セット} ...]
  [/s 印刷開始ページ]
  [/e 印刷終了ページ]
  [/c 印刷部数]
  [/n 印刷部数の単位]
  [/h 用紙の向き]
  [/tc {Auto | Manual | トレイ番号}]
  [/g {on | off}]
  [/o {topr | topc | topl | btmr | btmc | btml}]
  [/m 書式]
  [/f 初期値]
  [/i {reset | normal}]
```

```
[ /nomessage | /message ]
[ /envfile 環境設定ファイル名 ]
```

注

帳票セット指定ファイル名で指定する場合は、「/mrs 帳票セット指定ファイル名」を指定します。

(2) UNIX / Linux 環境の場合

UNIX / Linux 環境でのコマンド構文を次に示します。

```
eurps { -p プリンタ定義名 }
      [ -t { csv | eur | pdf | xlsx } ]
      [ -pi プリンタ定義ファイル名 1 ]
      [ -pf 出力先ファイル名 1 ]
      [ -pnf 出力ページ情報ファイル名 1 ]
      [ -df 文書情報設定ファイル名 1 ]
      [ -mfd 複数様式情報定義ファイル名 1 ]
      [ -rif 置き換え表管理情報ファイル名 1 ]
      [ -dif 接続情報ファイル名 1 ]
      [ -dsf PDF仕分け定義ファイル名 1 ]
      [ -cry ]
      [ -cryf 暗号化設定ファイル名 1 ]
      [ -bm ]
      [ -bmf 文書しおり定義ファイル名 1 ]
      [ -ecrypк パスワード暗号化鍵 ]
      [ -jsc Acrobat JavaScript定義ファイル名 1 ]
      [ -pvp ビューアプレファレンス定義ファイル名 1 ]
      [ -fwм { static | dynamic } ]
      [ -mrs 帳票セット指定ファイル名 1 ]
帳票セット [ [ 帳票セット ] ... ] 2
      [ -s 印刷開始ページ ]
      [ -e 印刷終了ページ ]
      [ -c 印刷部数 ]
      [ -n 印刷部数の単位 ]
      [ -h 用紙の向き ]
      [ -tc { Auto | Manual | トレイ番号 } ]
      [ -g { on | off } ]
      [ -o { topr | topc | topl | btmr | btmc | btml } ]
      [ -m 書式 ]
      [ -f 初期値 ]
      [ -i { reset | normal } ]
      [ -nomessage | -message ]
      [ -envfile 環境設定ファイル名 ]
```

注 1

EUR サーバ帳票出力機能を実行する UNIX 環境の文字ロケールが Shift JIS の場合、NEC 選定 IBM 特殊文字 (89 区 ~ 92 区) の文字を使用したファイル名のファイルは、使用できません。

3. コマンドからの帳票出力

注 2

帳票セット指定ファイル名で指定する場合は、「/mrs 帳票セット指定ファイル名」を指定します。

3.2.2 eurps コマンドのオプション一覧

eurps コマンドのオプションを、出力する環境別に次に示します。

(1) プリント出力の場合

Windows 対応のプリンタ、UNIX / Linux 対応の LIPSIII、PostScript Level2、および ESC/P 対応プリンタに出力するときのオプション一覧を次に示します。

表 3-2 eurps コマンドで指定するオプション一覧（プリント出力の場合）

オプション		オプションの指定内容	Windows		UNIX / Linux	
Windows	UNIX / Linux		プリンタ	JP1 仕分け	プリンタ	PDL ファイル
/p	-p	出力先プリンタ名				
/t	-t	帳票の出力タイプ	×	×	×	×
/pi	-pi	プリンタ定義ファイル名				
/pf	-pf	出力先ファイル名		×	×	
/pnf	-pnf	出力ページ情報ファイル名				
/df	-df	文書情報設定ファイル名				
/mfd	-mfd	複数様式情報定義ファイル名	1	1	1	1
/rif	-rif	置き換え表管理情報ファイル名				
/dif	-dif	接続情報ファイル名				
/ds	-	仕分け定義情報ファイル名	×		×	×
/dsf	-dsf	PDF 仕分け定義ファイル名	×	×	×	×
/cry	-cry	暗号化指定	×	×	×	×
/cryf	-cryf	暗号化設定ファイル名	×	×	×	×
/bm	-bm	しおり指定	×	×	×	×
/bmf	-bmf	文書しおり定義ファイル名	×	×	×	×
/ecryp	-ecryp	パスワード暗号化鍵	×	×	×	×
/tint	-	透かし情報ファイル名	×	×	×	×
/jsc	-jsc	Acrobat JavaScript 定義ファイル名	×	×	×	×
/pvp	-pvp	ビューアプレファレンス定義ファイル名	×	×	×	×

オプション		オプションの指定内容	Windows		UNIX / Linux	
Windows	UNIX / Linux		プリンタ	JP1 仕分け	プリンタ	PDL ファイル
/fwm	-fwm	文字幅の計算方法			6	6
/mrs	-mrs	帳票セット指定ファイル名	4	4	4	4
帳票セット	帳票セット	帳票ファイル名	4	4	4	4
		データファイル名				
		しおり定義ファイル名	×	×	×	×
		複数指定	4	4	4	4
/s	-s	印刷開始ページ	2	2	2	2
/e	-e	印刷終了ページ	2	2	2	2
/c	-c	印刷部数	2	×	2	×
/n	-n	印刷部数の単位	2	×	2	×
/h	-h	用紙の向き	2	×	2, 3	×
/tc	-tc	給紙トレイコード		×		
/g	-g	余白へのページ番号出力	5	5	5	5
/o	-o	余白へのページ番号の出力位置	5	5	5	5
/m	-m	ページ番号の形式	5	5	5	5
/f	-f	ページ番号の初期値	5	5	5	5
/i	-i	ページ番号の開始番号の初期化	5	5	5	5
/nomessage /message	-nomessage -message	メッセージ出力				
/envfile	-envfile	環境設定ファイル名				

(凡例)

- : 該当するオプションはありません。
- : 必ず指定するオプションです。
- : 指定を省略できるオプションです。
- : 指定しても無視されるオプションです。
- × : 指定するとエラーになるオプションです。

注 1

複数様式で帳票を出力する場合は、/mfd (-mfd) オプションを必ず指定してください。/mfd (-mfd) オプションが省略されていると、帳票セット、または帳票セット指定ファイルに指定されている帳票ファイルが順に出力されます。

3. コマンドからの帳票出力

注 2

/mrs (-mrs) オプション, または複数の帳票セットを指定して出力する場合, オプションの指定は無視されます。

注 3

ESC/P 対応プリンタに出力する場合, オプションの指定は無視されます。

注 4

/mrs (-mrs) オプションと帳票セットを同時に指定した場合は, /mrs (-mrs) オプションで指定された帳票ファイルのあとに, 帳票セットの帳票ファイルが追加して出力されます。

注 5

複数様式で帳票を出力する場合, オプションの指定は無視されます。

注 6

プリンタ定義ファイルのキーワード PDLType が PS2 の場合, dynamic を指定するとエラーになります。

(2) ファイル出力の場合

Windows 環境, および UNIX / Linux 環境で PDF 形式ファイル, EUR 形式ファイル, CSV 形式ファイルを出力するときのオプション一覧を次に示します。

PDF 形式ファイル, EUR 形式ファイルを出力するには, EUR Print Service Enterprise が必要です。

また, PDF 形式ファイルを暗号化して出力する場合は, EUR Print Service Enterprise と付加製品の EUR Print Service - Cipher option が必要です。

表中では, 出力形式の名称を次のように省略して表記します。

- PDF: PDF 形式ファイル出力
- EUR: EUR 形式ファイル出力
- CSV: CSV 形式ファイル出力
- Excel: Excel 形式ファイル出力

表 3-3 eurps コマンドで指定するオプション一覧 (ファイル出力の場合)

オプション		オプションの指定内容	PDF				EUR	CSV	Excel
Windows	UNIX / Linux		ファイル	仕分け	暗号化	暗号化仕分け			
/p	-p	出力先プリンタ名					x		x
/t	-t	帳票の出力タイプ							

オプション		オプションの指定内容	PDF				EUR	CSV	Excel
Windows	UNIX / Linux		ファイル	仕分け	暗号化	暗号化仕分け			
/pi	-pi	プリンタ定義ファイル名					×		
/pf	-pf	出力先ファイル名		×		×			
/pnf	-pnf	出力ページ情報ファイル名					×		×
/df	-df	文書情報設定ファイル名							
/mfd	-mfd	複数様式情報定義ファイル名	1	1	1	1	1	1	×
/rif	-rif	置き換え表管理情報ファイル名							
/dif	-dif	接続情報ファイル名							
/ds	-	仕分け定義情報ファイル名	×	×	×	×	×	×	×
/dsf	-dsf	PDF 仕分け定義ファイル名	×		×		×	×	×
/cry	-cry	暗号化指定	×	×			×	×	×
/cryf	-cryf	暗号化設定ファイル名	×	×			×	×	×
/bm	-bm	しおり指定					×	×	×
/bmf	-bmf	文書しおり定義ファイル名					×	×	×
/ecryp k	-ecryp k	パスワード暗号化鍵	×	×			×	×	×
/tint	-	透かし情報ファイル名			×	×	×	×	×
/jsc	-jsc	Acrobat JavaScript 定義ファイル名					×	×	×
/pvp	-pvp	ビューアプレファレンス定義ファイル名					×	×	×
/fwm	-fwm	文字幅の計算方法							
/mrs	-mrs	帳票セット指定ファイル名	3	3	3	3	3	3	×
帳票 セッ ト		帳票ファイル名	3	3	3	3	3	3	3
		データファイル名							
		しおり定義ファイル名					×	×	×

3. コマンドからの帳票出力

オプション		オプションの指定内容	PDF				EUR	CSV	Excel
Windows	UNIX / Linux		ファイル	仕分け	暗号化	暗号化仕分け			
		複数指定	3	3	3	3	3	3	×
/s	-s	印刷開始ページ	2		2		×	2	
/e	-e	印刷終了ページ	2		2		×	2	
/c	-c	印刷部数					×		
/n	-n	印刷部数の単位					×		
/h	-h	用紙の向き					×		
/tc	-tc	給紙トレイコード					×		
/g	-g	余白へのページ番号出力	4	4	4	4	×	4	
/o	-o	余白へのページ番号の出力位置	4	4	4	4	×	4	
/m	-m	ページ番号の形式	4	4	4	4	×	4	
/f	-f	ページ番号の初期値	4	4	4	4	×	4	
/i	-i	ページ番号の開始番号の初期化	4	4	4	4	×	4	
/nomsage / message	-nomsage / message	メッセージ出力							
/envfile	-envfile	環境設定ファイル名							

(凡例)

- : 該当するオプションはありません。
- : 必ず指定するオプションです。
- : 指定を省略できるオプションです。
- : 指定しても無視されるオプションです。
- × : 指定するとエラーになるオプションです。

注 1

複数様式で帳票を出力する場合は、/mfd オプション (UNIX / Linux 環境の場合は

・mfd オプション)を必ず指定してください。/mfd オプション (UNIX / Linux 環境の場合は・mfd オプション) が省略されていると、帳票セット、または帳票セット指定ファイルに指定されている帳票ファイルが順に出力されます。

注 2

/mrs オプション (UNIX / Linux 環境の場合は・mrs オプション)、または複数の帳票セットを指定して出力する場合、オプションの指定は無視されます。

注 3

/mrs オプション (UNIX / Linux 環境の場合は・mrs オプション) と帳票セットを同時に指定した場合は、/mrs オプション (UNIX / Linux 環境の場合は・mrs オプション) で指定された帳票ファイルのあとに、帳票セットの帳票ファイルが追加して出力されます。

注 4

複数様式で帳票を出力する場合、オプションの指定は無視されます。

3.2.3 eurps コマンドのオプション説明

eurps コマンドに指定するオプションを説明します。オプションの文字列は、大文字と小文字を区別します。

オプション名のセパレータは、「/」で示しています。UNIX / Linux 環境の場合は、「-」に置き換えてお読みください。

(1) /bm オプション

出力する PDF 形式ファイルに、しおりを設定する場合に指定します。しおりには、PDF 形式ファイルに付けるしおりと、帳票に付けるしおり (しおり定義ファイル名で指定) があります。PDF 形式ファイルに付けるしおりは、/bmf オプションで指定します。しおり付き PDF 形式ファイルを出力する場合は、必ず /bm オプションを指定してください。/t オプションに「pdf」以外が指定されている場合は、エラーになります。

/bm オプションを指定しても、/bmf オプションの指定、またはしおり定義ファイル名の指定を省略した場合は、しおりなし PDF 形式ファイルを出力します。しおり定義ファイルについては、「7.14 しおり定義ファイル」を参照してください。

(2) /bmf オプション

PDF 形式ファイルにしおりを付けるとき、文書しおり定義ファイル名を指定します。PDF 形式ファイルにしおりを付ける場合は、必ず /bm オプションを指定したあと、/bmf オプションを指定してください。

指定する文書しおり定義ファイルに「docinfotitle」が指定されている場合は、/df オプションに指定する文書情報設定ファイルにキーワード TITLE の指定がされてないと、/

3. コマンドからの帳票出力

bmf オプションを指定しても、PDF 形式ファイルにしおりは付きません。文書しおり定義ファイルについては、「7.13 文書しおり定義ファイル」を参照してください。

(a) 文書しおり定義ファイル名に指定できる文字数

Windows 環境の場合

フルパスのときは 259 文字以内、相対パス、またはファイル名だけのときは 255 文字以内です。

UNIX / Linux 環境の場合

フルパスで 1,023 バイト以内です。

(b) 文書しおり定義ファイル名の指定のしかた

文書しおり定義ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示すフォルダの順に読み込まれます。

Windows 環境の場合

- 環境変数 EURPS_BOOKMARKPATH に設定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_BOOKMARKPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境変数 EURPS_BOOKMARKPATH に設定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_BOOKMARKPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

(3) /c オプション

印刷部数 (1 ~ 99 の整数) を指定します。/c オプションの指定を省略した場合は、「1 (部)」が仮定されます。

/c オプションの指定は、一つの帳票ファイルを出力するときだけ有効です。複数の帳票セット、または /mrs オプションを指定して出力する場合は、/c オプションの指定は無視され、1 部数分出力されます。

/pnf オプションを指定した場合は、/c オプションで指定した印刷部数に関係なく、1 部数分の出力ページ情報が出力されます。出力ページ情報ファイルについては、「7.24 出力ページ情報ファイル」を参照してください。

(4) /cry オプション

暗号化した PDF 形式ファイルを出力する場合に指定します。暗号化した PDF 形式ファイルを出力する場合、または暗号化した PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合は、必ず /cry オプションを指定してください。ただし、/cry オプションを指定しても、/cryf オプションの指定、または /dsf オプションの指定を省略した場合は、暗号化でない PDF 形式ファイルを出力します。また、/cry オプションを指定しても、EUR Print Service - Cipher option が組み込まれていない場合は、エラー (KEEU104-E) になります。

(5) /cryf オプション

暗号化した PDF 形式ファイルを出力する場合、暗号化設定ファイル名を指定します。暗号化した PDF 形式ファイルを出力する場合は、必ず /cry オプションを指定したあと、/cryf オプションを指定してください。暗号化設定ファイルについては、「7.15 暗号化設定ファイル」を参照してください。

(a) 暗号化設定ファイル名に指定できる文字数

Windows 環境の場合

フルパスのときは 259 文字以内、相対パス、またはファイル名だけのときは 255 文字以内です。

UNIX / Linux 環境の場合

フルパスで 1,023 バイト以内です。

(b) 暗号化設定ファイル名の指定のしかた

暗号化設定ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示すフォルダの順に読み込まれます。

Windows 環境の場合

- 環境変数 EURPS_CRYPTOFILEPATH に設定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_CRYPTOFILEPATH に設定されているフォルダ
- EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境変数 EURPS_CRYPTOFILEPATH に設定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_CRYPTOFILEPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

(6) /df オプション

文書情報設定ファイル名を指定します。文書情報設定ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示すフォルダの順に読み込まれます。

Windows 環境の場合

- 環境変数 EURPS_DOCINFOPATH に設定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_DOCINFOPATH に設定されているフォルダ
- EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境変数 EURPS_DOCINFOPATH に設定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_DOCINFOPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

文書情報設定ファイルについては、「7.5 文書情報設定ファイル」を参照してください。

(a) プリンタ出力の場合 (Windows 環境だけ)

/df オプションに文書情報設定ファイル名を指定すると、文書情報設定ファイルに設定されている帳票名 (キーワード TITLE に指定されている文字列) が、プリンタの印刷待ち状態を確認する一覧ウィンドウの「ドキュメント名」や、通信 / ジョブ状態を示す確認画面などに表示されます。

/df オプションの指定を省略したり、文書情報設定ファイルの指定が無効であったりした場合、出力先には、次に示す情報が表示されます。

- Windows 対応プリンタに出力する場合
HITACHI Report - 帳票ファイル名
- JP1 と連携して仕分け印刷する場合
EURPS 帳票ファイル名 - 時刻情報

(b) PDF 形式ファイル出力の場合

/df オプションに文書情報設定ファイル名を指定すると、文書情報設定ファイルに設定されている文書情報 (タイトル, サブタイトル, 作成者, およびキーワード) が、PDF 文書情報に表示されます。

/df オプションの指定を省略した場合、PDF 文書情報は空表示になりますが、次に示す PDF 文書情報は自動設定されます。

表 3-4 自動設定される PDF 文書情報

項目	設定される文字列
作成 (Creator)	「Windows EUR (形名)VV-RR」 帳票を作成した EUR の製品・バージョン番号が設定されます。VV-RR は、バージョン、リビジョン番号です。
PDF 変換 (Producer)	「EUR Print Service VVRR」 PDF 形式ファイルを出力した製品名が設定されます。VVRR は、バージョン、リビジョン番号です。
作成日時	PDF 形式ファイルの作成日時が設定されます。

(c) EUR 形式ファイル出力の場合

/df オプションに文書情報設定ファイル名を指定すると、文書情報設定ファイルに設定されている帳票名 (キーワード TITLE に指定されている文字列) が、プリンタの印刷待ち状態を確認する一覧ウィンドウの「ドキュメント名」や、プレビューウィンドウに表示されます。

/df オプションの指定を省略した場合、EUR 形式ファイル (拡張子なし) が表示されます。

(7) /dif オプション

データベースと連携してデータを入力する場合、接続情報ファイル名を指定します。接続情報ファイルは、EUR サーバ帳票出力機能の実行につき一つだけ指定できます。

EUR サーバ帳票出力機能の 1 回の実行で接続できるデータベースは一つだけです。帳票を出力する場合、すべての帳票セットのマッピングデータおよびユーザ定義データに入力できるデータは、一つのデータベースからだけです。

接続情報ファイルは、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示すフォルダの順に読み込まれます。

Windows 環境の場合

- 環境変数 EURPS_DBINFOPATH に設定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_DBINFOPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer, EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境変数 EURPS_DBINFOPATH に設定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_DBINFOPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)

3. コマンドからの帳票出力

- /var/opt/eurps ディレクトリ

接続情報ファイルについては、「7.9 接続情報ファイル」を参照してください。

(8) /ds オプション (Windows 環境だけ)

JP1 と連携して仕分け出力する場合、仕分け定義情報ファイル名を指定します。仕分け定義情報ファイルは、EUR 帳票作成機能で帳票設計するときに定義、および作成します。

仕分け定義情報ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示すフォルダの順に読み込まれます。

- 環境変数 EURPS_DISTINFOPATH に設定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_DISTINFOPATH に設定されているフォルダ
- EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

/dsf オプションを指定している場合は、エラー (KEEU011-E) となります。

仕分け定義情報ファイルについては、「7.11 仕分け定義情報ファイル」を参照してください。

(9) /dsf オプション

PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合、PDF 仕分け定義ファイル名を指定します。PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合は、必ず /cry オプションを指定したあと、/dsf オプションを指定してください。この場合、/cryf オプションの指定は省略することもできます。/pf オプションまたは /ds オプションが指定されている場合は、エラー (KEEU011-E) となります。

PDF 仕分け定義ファイルについては、「7.12 PDF 仕分け定義ファイル」を参照してください。

(a) PDF 仕分け定義ファイル名に指定できる文字数

Windows 環境の場合

フルパスのときは 259 文字以内、相対パス、またはファイル名だけのときは 255 文字以内です。

UNIX / Linux 環境の場合

フルパスで 1,023 バイト以内です。

(b) PDF 仕分け定義ファイル名の指定のしかた

PDF 仕分け定義ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで

指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示すフォルダの順に読み込まれます。

Windows 環境の場合

- 環境変数 EURPS_DISTINFOPATH に設定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_DISTINFOPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer , または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境変数 EURPS_DISTINFOPATH に設定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_DISTINFOPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

(c) PDF 仕分け定義ファイルの出力先順

PDF 仕分け定義ファイルに設定されているファイルの出力先は、次に示すフォルダの順に読み込まれます。

Windows 環境の場合

- 環境変数 EURPS_OUTPUTPATH に設定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_OUTPUTPATH に設定されているフォルダ
- 環境変数 TMP に設定されているフォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境変数 EURPS_OUTPUTPATH に設定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_OUTPUTPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

(10)/e オプション

印刷終了ページ (1 ~ 999,999 の整数) を指定します。

/e オプションには負数や数字以外の値、および /s オプションに指定した値よりも小さな値は指定できません。負数や数字以外を指定した場合、および /s オプションに指定した値よりも小さな値を指定した場合はエラー (KEEU002-E) になります。

/e オプションの指定を省略した場合、または /e オプションに、実ページ数よりも大きな値を指定した場合は、次のようになります。

3. コマンドからの帳票出力

- プリンタ出力，および CSV 形式ファイル出力の場合
帳票ファイルが持つ最終ページまで出力されます。
- PDF 形式ファイル出力の場合
帳票ファイルが持つ最終ページまで PDF 形式ファイルに出力されます。
- Excel 形式ファイル出力の場合
帳票ファイルのページ数が 100 ページ以内の場合は最終ページまで，ページ数が 100 ページより大きい場合は 100 ページまでが Excel 形式ファイルに出力されます。

複数の帳票セット，または /mrs オプションを指定して出力する場合は，/e オプションの指定に関係なく，指定した複数の帳票セットの全ページが出力されます。

/pnf オプションを指定した場合は，/e オプションで指定した印刷終了ページまでの出力ページ情報が出力されます。出力ページ情報ファイルについては，「7.24 出力ページ情報ファイル」を参照してください。

(11)/ecryp オプション

オーナーパスワードとユーザパスワードを暗号化した暗号化設定ファイル，または PDF 仕分け定義ファイルを使用して，暗号化した PDF 形式ファイルを出力するときにパスワード暗号化鍵を指定します。パスワードを暗号化して出力する場合は，必ず /cry オプションを指定してください。

パスワード暗号化鍵に指定できる文字

パスワード暗号化鍵に指定できる文字は，次のとおりです。

- 半角数字
0 ~ 9
- 半角英字
A ~ Z , a ~ z

指定できるパスワード暗号化鍵の長さは，Shift JIS コードで 32 バイトまでです。32 バイトを超えた場合は，エラー（KEEU002-E）になります。また，パスワード暗号化鍵に指定できない文字を指定した場合も，エラー（KEEU002-E）になります。

/ecryp オプションを指定しても，EUR Print Service - Cipher option が組み込まれていない場合は，エラー（KEEU104-E）になります。

パスワードの暗号化については，「7.15.2(4) パスワードの暗号化」を参照してください。

(12)/f オプション

ページ番号の初期値を指定します。初期値として指定できる値は，1 ~ 999,999 です。/g オプションの指定を省略した場合，または複数様式で帳票を出力する場合は，/f オプションの指定は無視されます。

(13)/fwm オプション

フォントの文字幅の計算方法を指定します。

表 3-5 /fwm オプションの指定値

指定値	説 明
static	固定ピッチフォントを出力するとき、固定値で文字幅を計算します。(静的モード)
dynamic	固定ピッチフォントを出力するとき、使用するフォントに合わせて文字幅を計算します。(動的モード)

「static」または「dynamic」以外を指定した場合、エラー (KEEU002-E) になります。

/fwm オプションに何も指定しなかった場合は、「static」が仮定されます。

/fwm オプション、環境変数 EURPS_FONT_WIDTH_MODE、および環境設定ファイル EURPS_FONT_WIDTH_MODE が同時に指定されている場合は、次に示す順に優先されます。

- /fwm オプション
- 環境変数 EURPS_FONT_WIDTH_MODE
- 環境設定ファイル EURPS_FONT_WIDTH_MODE

(14)/g オプション

余白へのページ番号を出力するかどうかを指定します。初期値は、「off (出力しない)」です。複数様式で帳票を出力する場合は、/g オプションの指定は無視されます。

表 3-6 /g オプションの指定値

指定値	説 明
on	余白へのページ番号を出力します。
off	余白へのページ番号は出力しません。

複数の帳票セット、または /mrs オプションを指定して出力した場合は、すべての帳票に余白ページ番号の指定があり、かつ /g オプションに「on」を指定したときに、すべての帳票ファイルの余白へページ番号が出力されます。

/g オプションに「on」を指定しても、複数の帳票セットのうち、一帳票ファイルに余白ページ番号の指定がなかったり、帳票ファイルの余白ページ番号の指定に関係なく /g オプションに「off」を指定したりしたときは、各帳票ファイルに保存されている情報で出力されます。

注意

余白へのページ番号は、EUR 帳票作成機能で設定した用紙の余白に、次に示すフォ

3. コマンドからの帳票出力

ント情報で出力されます。

英語ロケールの場合

- ・ フォント種別：Courier New
- ・ フォントのサイズ：約 12 ポイント（148dpi で 24 ドット）

中国語ロケールの場合

- ・ フォント種別：新宋体
- ・ フォントのサイズ：約 12 ポイント（148dpi で 24 ドット）

日本語ロケールの場合

- ・ フォント種別：MS 明朝
- ・ フォントのサイズ：約 12 ポイント（148dpi で 24 ドット）

余白へのページ番号を出力する場合は、プリンタのハードマージンに掛からないように、用紙の余白は余裕を持って設定してください。

用紙の余白は、[用紙の設定] ダイアログの [余白] グループボックスで設定します。用紙の余白の設定については、マニュアル「EUR 帳票設計」を参照してください。

(15) /h オプション

用紙の向きを指定します。

表 3-7 /h オプションの指定値

指定値	説 明
portrait	用紙の向きを縦にして出力します。
landscape	用紙の向きを横にして出力します。

/h オプションの指定を省略した場合は、帳票を定義したときの情報に従います。

複数の帳票セット、または /mrs オプションを指定して出力する場合は、/h オプションの指定は無視されます。用紙サイズ、および用紙の向きが異なっても、それぞれの帳票の用紙サイズ、および用紙の向きで出力されます。

(16) /i オプション

改ページのキーが設定されている場合、そのキーがブレイクするごとにページ番号の開始番号を初期化するかしないかを指定します。ページ番号の初期値は、/f オプションで指定します。/i オプションの指定を省略した場合は、帳票の属性に従います。初期値は、「normal（初期化しない）」です。複数様式で帳票を出力する場合は、/i オプションの指定は無視されます。

表 3-8 /i オプションの指定値

指定値	説 明
reset	初期化します。
normal	初期化しません。

注意

改ページを設定している帳票では、ページ番号と帳票上に配置したページ番号アイテムには、ページ番号の初期化について次のような関係を持っています。

- /i オプションを指定しないと、ページ番号アイテムの形式に n/m 形式、またはそれ以外の形式を設定しても、余白のページ番号は初期化されません。
- /i オプションに「reset」を指定すると、ページ番号アイテムのページ番号も初期化されます。n/m 形式でない場合も、初期化されます。
- 出力する帳票ファイルが、[アイテムのプロパティ] ダイアログの [表示形式 (ページ番号)] タブで、[バージョン 3 形式] が選択されている場合は、/i オプションの指定は無視されます。

(17) /jsc オプション

Acrobat JavaScript 定義ファイル名を指定します。Acrobat JavaScript 定義ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示すフォルダの順に読み込まれます。

Windows 環境の場合

- 環境変数 EURPS_SCRIPTCNTLFILEPATH に設定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_SCRIPTCNTLFILEPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer、または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境変数 EURPS_SCRIPTCNTLFILEPATH に設定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_SCRIPTCNTLFILEPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

注意

- Acrobat JavaScript 定義ファイルが読み込めない場合、エラー (KEEU067-E) となります。
- Acrobat JavaScript 定義ファイルのファイルの内容に誤りがある場合、エラー (KEEU068-E) となります。
- Acrobat JavaScript 定義ファイルで定義された Acrobat JavaScript ファイルが読

3. コマンドからの帳票出力

み込めない場合、エラー（KEEU066-E）となります。

Acrobat JavaScript 定義ファイルについては、「7.19 Acrobat JavaScript 定義ファイル」を参照してください。

(18)/m オプション

Windows 環境の場合

ページ番号の形式を指定します。ページ番号を「*」、最終ページ番号を「\$」で示して出力形式を指定します。ページ番号および最終ページ番号を全角で表示したいときは全角の記号で、半角で表示したいときは半角の記号で指定します。/g オプションの指定を省略した場合、または複数様式で帳票を出力する場合は、/m オプションの指定は無視されます。指定例を次に示します。

表 3-9 Windows 環境での /m オプションの指定例

指定した形式	出力結果
*	1
-*-	-1-
-*/\$-	-1/5-
(*)	(1)

UNIX / Linux 環境の場合

ページ番号の形式を指定します。ページ番号を「*」、最終ページ番号を「\$」で示して出力形式を指定します。ページ番号および最終ページ番号を全角で表示したいときは全角の記号で、半角で表示したいときは半角の記号で指定します。ただし、最終ページ番号を半角で表示したい場合は、「¥\$」と指定してください。-g オプションの指定を省略した場合、または複数様式で帳票を出力する場合は、-m オプションの指定は無視されます。指定例を次に示します。

表 3-10 UNIX/Linux 環境での /m オプションの指定例

指定した形式	出力結果
*	1
-*-	-1-
-*/\$-	-1/5-
(*)	(1)

(19)/mfd オプション

複数様式情報定義ファイル名を指定します。複数様式情報定義ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示すフォルダの順に読み込まれます。

Windows 環境の場合

- 環境変数 EURPS_MULTIFORM_INFODEFPATH に設定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_MULTIFORM_INFODEFPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer , EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境変数 EURPS_MULTIFORM_INFODEFPATH に設定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_MULTIFORM_INFODEFPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

複数様式で帳票を出力する場合は、/mfd オプションを必ず指定してください。/mfd オプションが省略されていると、帳票セット、または帳票セット指定ファイルに指定されている帳票ファイルが順に出力されます。複数様式情報定義ファイルについては、「7.8 複数様式情報定義ファイル」を参照してください。

(20)/mrs オプション

帳票セット指定ファイル名を指定します。複数の帳票セットをファイルに記述できるので、帳票セットの個数やファイル名に指定できる文字数の上限に関係なく指定できます。

帳票セット指定ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示すフォルダの順に読み込まれます。

Windows 環境の場合

- 環境変数 EURPS_MULTI_REPORTSETPATH に設定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_MULTI_REPORTSETPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer , EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境変数 EURPS_MULTI_REPORTSETPATH に設定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_MULTI_REPORTSETPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

/mrs オプションと帳票セットを同時に指定された場合は、/mrs オプションで指定された帳票ファイルのあとに、帳票セットの帳票ファイルを追加して出力されます。帳票セッ

3. コマンドからの帳票出力

ト指定ファイルについては、「7.7 帳票セット指定ファイル」を参照してください。

(21) /n オプション

/c オプションで印刷部数を指定して出力する場合、印刷の単位を指定します。

表 3-11 /n オプションの指定値

指定値	説 明
sort	部単位で出力します。
stack	ページ単位で出力します。

/n オプションの指定を省略した場合は、「sort」が仮定されます。

複数の帳票セット、または /mrs オプションを指定して出力する場合は、/n オプションの指定は無視され、「sort」が仮定されます。

(22) /nomessage | /message オプション

eurps コマンドを実行してエラーが発生したとき、メッセージを出力するかどうかを指定します。

表 3-12 /nomessage オプションと /message オプション

指定値	説 明
/nomessage	メッセージを出力しません。ただし、eurps コマンド実行時のコマンド終了コードは設定されます。
/message	メッセージを標準出力で出力します。

指定を省略した場合は、「/nomessage」が仮定されます。

/nomessage オプションと /message オプションが同時に指定されている場合は、エラー (KEEU011-E) となります。

(23) /o オプション

ページ番号を余白に出力するときの位置を指定します。/g オプションの指定を省略した場合、または複数様式で帳票を出力する場合は、/o オプションの指定は無視されます。/o オプションの指定を省略した場合は、帳票の属性に従います。初期値は、「btmc (中央下)」です。

表 3-13 /o オプションの指定値

指定値	説 明
topr	ページ番号を右上に出力します。
topc	ページ番号を中央上に出力します。

指定値	説 明
topl	ページ番号を左上に出力します。
btmr	ページ番号を右下に出力します。
btmc	ページ番号を中央下に出力します。
btml	ページ番号を左下に出力します。

「btmr」、「btmc」、または「btml」のどれかを指定した場合、データが帳票の途中までしかないときは、用紙下までを空行で埋めて、余白にページ番号が出力されます。

(24)/p オプション

Windows 環境の場合

プリンタ名を指定します。半角空白を含むプリンタ名を指定する場合は、プリンタ名を「"」で囲んでください。半角空白を含むプリンタ名を「"」で囲まないで指定した場合は、エラー（KEEU103-E）になります。

- Windows 対応プリンタに出力する場合

Windows 環境で登録されているプリンタを指定します。/p オプションの指定を省略した場合は、Windows 環境で通常使うプリンタに指定されているプリンタに出力されます。ローカルプリンタに出力する場合は、プリンタ名を指定します。ネットワークプリンタに出力する場合は、¥¥ コンピュータ名 ¥¥ プリンタ名形式で指定します。

システムアカウントで Windows サービスから実行する場合は、必ずプリンタ名を指定してください。

- JP1 と連携して仕分け印刷する場合

JP1/Network Printing System（別製品）での仕分けプリンタを指定します。仕分けプリンタが指定されていない場合、または /p オプションを省略した場合は、JP1 と連携した仕分け印刷は無視されます。

UNIX / Linux 環境の場合

プリンタ定義ファイル中で定義したプリンタ名を指定します。-p オプションは、必ず指定してください。半角空白を含むプリンタ名を指定する場合は、プリンタ名を「"」で囲んでください。半角空白を含むプリンタ名を「"」で囲まないで指定した場合は、エラー（KEEU103-E）になります。

プリンタ定義ファイル中に、指定したプリンタ名がない場合は、エラーになります。また、-p オプションが指定されると、プリンタ定義ファイルのキーワード Command に指定されているコマンドを実行して帳票が出力されます。そのため、キーワード Command が省略されているとエラーになります。

プリンタ定義ファイル名については、「7.6 プリンタ定義ファイル」を参照してください。

(25)/pi オプション

プリンタ定義ファイル名を指定します。プリンタ定義ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。/pi オプションの指定を省略した場合、またはファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示すフォルダの順に読み込みます。

Windows 環境の場合

- 環境変数 EURPS_PRINTERINFPATH に設定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_PRINTERINFPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer , EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境変数 EURPS_PRINTERINFPATH に設定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_PRINTERINFPATH に設定されているディレクトリ
- /etc/opt/eurps ディレクトリ

次の場合は、エラーとなります。

- 指定したプリンタ定義ファイル名が不正な場合 (KEEU009-E)
- 指定したプリンタ定義ファイルを読み込めなかった場合 (KEEU078-E)
- プリンタ定義ファイルのフォーマットが不正な場合 (KEEU012-E , KEEU013-E)

(26)/pf オプション

出力先ファイル名を指定します。

プリンタ出力の場合

- Windows 環境のとき
スプールファイル名を指定します。プリンタドライバのファイル出力機能を使用して印刷結果をファイル出力する場合は、/pf オプションの指定は省略できません。
- UNIX / Linux 環境のとき
PDL ファイル名を指定します。PDL ファイルとして直接出力して保存する場合は、-pf オプションの指定は省略できません。-pf オプションが指定された場合は、プリンタ定義ファイルのキーワード Command の指定は無視されます。
EUR サーバ帳票出力機能では、PDL (ページ記述言語) で書かれたファイルを、PDL ファイルと定義します。PDL ファイルに出力することで、帳票に設定されている文字や画像データを、設計した帳票と同様のイメージで保存できます。

PDF 形式ファイル出力の場合

PDF 形式ファイル名を指定します。/pf オプションの指定は省略できません。

PDF 形式ファイル名を指定するときは、拡張子 (*.pdf) を付けてください。

EUR 形式ファイル出力の場合

EUR 形式ファイル名を指定します。/pf オプションの指定は省略できません。

EUR 形式ファイル名を指定するときは、次に示す拡張子を付けてください。複数の帳票セット、または /mrs オプションを指定する場合、指定できる出力先ファイルは「*.eup」だけです。「*.euv」を指定した場合は、エラー (KEEU700-E) になります。

- *.eup

クライアント側の EUR クライアント帳票出力機能で、直接プリンタに印刷する場合

- *.euv

クライアント側の EUR クライアント帳票出力機能で、プレビューする場合

CSV 形式ファイル出力の場合

CSV 形式ファイル名を指定します。/pf オプションの指定は省略できません。

CSV 形式ファイル名を指定するときは、拡張子 (*.csv) を付けてください。

Excel 形式ファイル出力の場合

Excel 形式ファイル名を指定します。/pf オプションの指定は省略できません。

Excel 形式ファイル名を指定するときは、拡張子 (*.xlsx) を付けてください。

出力先ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定します。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示すフォルダの順に読み込まれます。

Windows 環境の場合

- 環境変数 EURPS_OUTPUTPATH に設定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_OUTPUTPATH に設定されているフォルダ
- 環境変数 TMP に設定されているフォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境変数 EURPS_OUTPUTPATH に設定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_OUTPUTPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

指定できるファイル名は、259 文字以内です。半角空白を含むファイル名を指定する場合は、「"」で囲んでください。

/dsf オプションが指定されている場合は、エラー (KEEU011-E) となります。

なお、指定した出力先ファイル名が同一のフォルダにある場合、問い合わせをしないで

3. コマンドからの帳票出力

上書きされます。既存のファイル名を残しておきたい場合は、別のファイル名を指定してください。

(27) /pnf オプション

出力ページ情報ファイル名を指定します。

出力ページ情報ファイル名は、フルパス、相対パス、あるいはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示すフォルダの順に読み込まれます。

Windows 環境の場合

- 環境変数 EURPS_OUTPUTPATH に設定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_OUTPUTPATH に設定されているフォルダ
- 環境変数 TMP に設定されているフォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境変数 EURPS_OUTPUTPATH に設定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_OUTPUTPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

出力ページ情報ファイルを出力する場合は、/pnf オプションを必ず指定してください。/pnf オプションが省略されていると、出力ページ情報ファイルは出力されません。また、/t オプションのパラメタに「eur」を指定した場合は、エラー (KEEU002-E) になります。

また、出力ページ情報ファイルだけを出力したい場合は、環境変数 EURPS_PRINT に NO を指定してください。

出力ページ情報ファイルについては、「7.24 出力ページ情報ファイル」を参照してください。

(28) /pvp オプション

ビューアプレファレンス定義ファイル名を指定します。ビューアプレファレンス定義ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示すフォルダの順に読み込まれます。

Windows 環境の場合

- 環境変数 EURPS_VIEWERPREFERENCEFILEPATH に設定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数

EURPS_VIEWERPREFERENCEFILEPATH に設定されているフォルダ

- EUR Developer , または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境変数 EURPS_VIEWERPREFERENCEFILEPATH に設定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_VIEWERPREFERENCEFILEPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

注意

- ビューアプレファレンス定義ファイルが読み込めない場合、エラー (KEEU069-E) となります。
- ビューアプレファレンス定義ファイルのファイルの内容に誤りがある場合、エラー (KEEU070-E) となります。

ビューアプレファレンス定義ファイルについては、「7.20 ビューアプレファレンス定義ファイル」を参照してください。

(29)/rif オプション

置き換え表管理情報ファイル名を指定します。

置き換え表管理情報ファイル名は、フルパス、相対パス、あるいはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示すフォルダの順に読み込まれます。

Windows 環境の場合

- 環境変数 EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH に設定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer , EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境変数 EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH に設定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

指定した置き換え表管理情報ファイルがない場合は、エラー (KEEU060-E) になります。

3. コマンドからの帳票出力

/rif オプションを省略すると、帳票ファイルに定義した置き換え表管理情報ファイル名が仮定されます。また、出力する帳票が複数帳票、あるいは複数様式帳票の場合は、先頭の帳票ファイルに定義した置き換え表管理情報ファイル名が仮定されます。帳票ファイルに置き換え表管理情報ファイルの定義をしていない場合は、データの置き換えは行われずに出力されます。

指定した置き換え表管理情報ファイルのファイル形式が正しくない場合は、エラー (KEEU062-E) になります。また、指定した置き換え表管理情報ファイルで定義した置き換え表ファイルのファイル形式が正しくない場合も、エラー (KEEU063-E) になります。

置き換え表管理情報ファイルについては、「7.21 置き換え表管理情報ファイル」を参照してください。

(30) /s オプション

印刷開始ページ (1 ~ 999,999 の整数) を指定します。

/s オプションの指定を省略した場合は、先頭ページから出力されます。

複数の帳票セット、または /mrs オプションを指定して出力する場合は、/s オプションの指定に関係なく、指定した複数の帳票セットの全ページが出力されます。

/pnf オプションを指定した場合は、/s オプションで指定した印刷開始ページからの出力ページ情報が出力されます。出力ページ情報ファイルについては、「7.24 出力ページ情報ファイル」を参照してください。

(31) /t オプション

/t オプションは、帳票の出力タイプを指定します。

/t オプションを省略した場合、プリンタに出力します。

/t オプションのパラメタに「pdf」、「eur」、「csv」、「xlsx」以外の文字を指定した場合は、エラー (KEEU002-E) になります。

(a) PDF 形式ファイル出力の場合

パラメタに「pdf」を指定することで、PDF 形式ファイルに出力することを示します。パラメタの指定は、大文字、小文字を区別しません。/pf オプションに拡張子「*.pdf」のファイルを指定した場合、/t オプションのパラメタに「eur」、「csv」、「xlsx」を指定すると、Adobe Reader で表示できないファイルが出力されます。

(b) EUR 形式ファイル出力の場合

パラメタに「eur」を指定することで、EUR 形式ファイルに出力することを示します。パラメタの指定は、大文字、小文字を区別しません。/pf オプションに拡張子「*.eur」のファイルを指定した場合、/t オプションのパラメタに「pdf」、「csv」、「xlsx」を指定する

と、EUR クライアント帳票出力機能で表示できないファイルが出力されます。また、/t オプションと /pnf オプション（出力ページ情報ファイル名）を同時に指定した場合は、エラー（KEEU002-E）になります。

（c）CSV 形式ファイル出力の場合

パラメタに「csv」を指定することで、csv 形式ファイルに出力することを示します。パラメタの指定は、大文字と小文字を区別しません。/pf オプションに拡張子「*.csv」のファイルを指定した場合、/t オプションのパラメタに「pdf」、「eur」、「xlsx」を指定すると、エラー（KEEU004-E）になります。

（d）Excel 形式ファイル出力の場合

パラメタに「xlsx」を指定することで、Excel 形式ファイルに出力することを示します。パラメタの指定は、大文字、小文字を区別しません。/pf オプションに拡張子「*.xlsx」のファイルを指定した場合、/t オプションのパラメタに「pdf」、「eur」、「csv」を指定すると、Excel で表示できないファイルが出力されます。

（32）/tc オプション

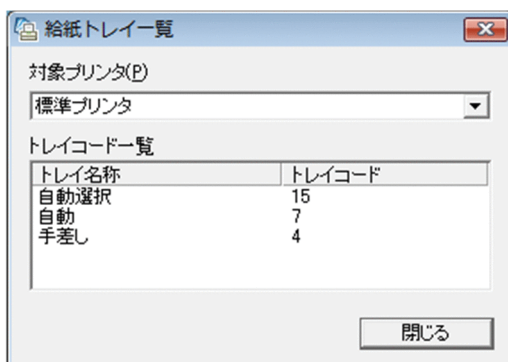
Windows 環境の場合

給紙トレイコードを指定します。指定する給紙トレイコードは、「給紙トレイ一覧ツール」で取得したコードを指定します。

/tc オプションの指定を省略した場合は、プリンタプロパティで指定したデフォルトのトレイから給紙されます。

給紙トレイ一覧ツールの実行ファイル「Eurtyl.exe」は、EUR Developer、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ¥Program¥下にあります。

給紙トレイ一覧ツールの実行ファイル「Eurtyl.exe」をダブルクリックすると、[給紙トレイ一覧] ダイアログが表示されます。[給紙トレイ一覧] ダイアログでは、出力先プリンタをリストボックスから選択すると、そのプリンタの給紙トレイ名と、対応する給紙トレイコードの一覧が表示されます。



複数の帳票セット、または /mrs オプションを指定して出力する場合は、すべての帳

3. コマンドからの帳票出力

票が /tc オプションに指定したトレイから給紙されます。

UNIX / Linux 環境の場合

給紙トレイ情報を指定します。-tc オプションの指定を省略した場合は、プリンタ定義ファイルのキーワード DefaultCassette に指定されているデフォルトのトレイから給紙されます。プリンタ定義ファイルについては、「7.6 プリンタ定義ファイル」を参照してください。

指定する給紙トレイを次に示します。

表 3-14 給紙トレイ情報

指定内容	給紙トレイ（対象給紙装置）
auto	自動給紙します。出力する帳票の用紙サイズからカセットを自動選択します。
manual	手差しトレイから給紙します。
トレイ番号	トレイ番号の給紙カセットから給紙します。トレイ番号は、1 ~ n (n は、プリンタ定義ファイルのキーワード Cassettes で指定した値) で指定します。6 以上の値を指定した場合は、自動給紙となります。

注意

-tc オプションでは次に示すような指定がある場合、帳票の用紙サイズと給紙される紙のサイズが異なるときは、プリンタのハードウェアによって動作が異なります。

- manual が指定されたとき
- トレイ番号が指定されたとき
- auto が指定されたのに、プリンタのパネルで給紙カセットが選択されたとき

帳票の用紙サイズと給紙される紙のサイズを合わせておくか、または帳票の用紙サイズと異なる用紙に出力する場合は、あらかじめ試し印刷をしてプリンタの動作を確認しておいてください。

複数の帳票セット、または -mrs オプションを指定して出力する場合は、すべての帳票が -tc オプションに指定したトレイから給紙されます。

(33) /tint オプション (Windows 環境だけ)

透かし情報ファイル名を指定します。

透かし情報ファイル名は、フルパス、相対パス、あるいはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示すフォルダの順に読み込まれます。

- 環境変数に EURPS_TINTINFOPATH 設定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_TINTINFOPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer、または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

次の場合は、エラーになります。

- 指定した透かし情報ファイルのファイル形式が不正な場合 (KEEU009-E)
- 指定した透かし情報ファイルが読み込めなかった場合 (KEEU080-E)
- 透かし情報ファイルのファイルフォーマットが不正な場合 (KEEU081-E)

透かし情報ファイルについては「7.16 透かし情報ファイル」を参照してください。

(34) /envfile オプション

環境設定ファイル名を指定します。ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。相対パスで指定された場合、カレントディレクトリからの相対パスとして環境設定ファイルを読み込みます。なお、指定された環境設定ファイルを読み込めない場合も帳票は出力されますが、環境設定ファイルで指定した内容は適用されません。

環境設定ファイルについては「7.26 環境設定ファイル」を参照してください。

(35) 帳票セット

「帳票セット」は、帳票ファイルとデータファイルの一まとまりを示します。帳票ファイル名は、必ず指定してください。使用するデータファイルが固定のときは、データファイル名の指定を省略できます。この場合、EUR 帳票作成機能で帳票設計したときに使用したデータファイル名（帳票ファイル中に保存されています）が使用されます。

(a) 帳票セットの形式

帳票セットの形式は、帳票定義時に利用したデータによって、次に示すように異なります。

プリンタ出力、EUR 形式ファイル出力、および CSV 形式ファイル出力のとき

- データファイルからデータを読み込んで設計した帳票の場合
帳票ファイル名 {, [マッピングデータファイル名], [ユーザ定義データファイル名]}
- データベースからデータを読み込んで設計した帳票の場合
帳票ファイル名 {, [マッピングデータの可変記号値定義ファイル名], [ユーザ定義データの可変記号値定義ファイル名]}

PDF 形式ファイル出力のとき

- データファイルからデータを読み込んで設計した帳票の場合
帳票ファイル名 {, [マッピングデータファイル名], [ユーザ定義データファイル名], [しおり定義ファイル名]}
- データベースからデータを読み込んで設計した帳票の場合
帳票ファイル名 {, [マッピングデータの可変記号値定義ファイル名], [ユーザ定義データの可変記号値定義ファイル名], [しおり定義ファイル名]}

3. コマンドからの帳票出力

(b) 帳票セットに可変記号値定義ファイル名を指定する場合の注意事項

- /dif オプションで接続情報ファイルを指定していなければ、可変記号値定義ファイルが指定されていてもデータファイルと見なされます。
- データベースからデータを読み込んで設計した帳票は、次のように指定すると、データファイルからデータを入力して出力できます。

(記述例)

帳票ファイル名 [, [FILE: マッピングデータファイル名], [FILE: ユーザ定義データファイル名]]

(c) ファイル名に指定できる文字数

帳票ファイル名, データファイル名, およびしおり定義ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。

Windows 環境の場合

フルパスのときは 259 文字以内、相対パス、またはファイル名だけのときは 255 文字以内です。

UNIX / Linux 環境の場合

フルパスで 1,023 バイト以内です。

(d) ファイル名の指定のしかた

帳票ファイル名, データファイル名, およびしおり定義ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示すフォルダの順に読み込まれます。

Windows 環境の場合

- 環境変数に設定されているフォルダ
環境変数に設定されているフォルダが読み込まれます。対応する環境変数について、ファイルの種類ごとに次に示します。

ファイルの種類	環境変数
帳票ファイル	EURPS_REPORTPATH
マッピングデータファイル	EURPS_MAPDATAPATH
ユーザ定義データファイル	EURPS_USERDATAPATH
しおり定義ファイル	EURPS_BOOKMARKPATH
マッピングデータの可変記号値定義ファイル	EURPS_MAPDATAPATH
ユーザ定義データの可変記号値定義ファイル	EURPS_USERDATAPATH

- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数に設定されているフォルダ
環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数に設定されているフォルダが読み込まれます。対応する環境設定ファイルの変数について、ファイルの種類ごとに次に示します。

ファイルの種類	環境設定ファイルの変数
帳票ファイル	EURPS_REPORTPATH
マッピングデータファイル	EURPS_MAPDATAPATH
ユーザ定義データファイル	EURPS_USERDATAPATH
しおり定義ファイル	EURPS_BOOKMARKPATH
マッピングデータの可変記号値定義ファイル	EURPS_MAPDATAPATH
ユーザ定義データの可変記号値定義ファイル	EURPS_USERDATAPATH

- EUR Developer , EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境変数に設定されているディレクトリ
環境変数に設定されているフォルダが読み込まれます。対応する環境変数について、ファイルの種類ごとに次に示します。

ファイルの種類	環境変数
帳票ファイル	EURPS_REPORTPATH
マッピングデータファイル	EURPS_MAPDATAPATH
ユーザ定義データファイル	EURPS_USERDATAPATH
しおり定義ファイル	EURPS_BOOKMARKPATH
マッピングデータの可変記号値定義ファイル	EURPS_MAPDATAPATH
ユーザ定義データの可変記号値定義ファイル	EURPS_USERDATAPATH

- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数に設定されているディレクトリ
環境設定ファイル (eurps_env) の変数に設定されているフォルダが読み込まれます。対応する環境設定ファイルの変数について、ファイルの種類ごとに次に示します。

ファイルの種類	環境設定ファイルの変数
帳票ファイル	EURPS_REPORTPATH
マッピングデータファイル	EURPS_MAPDATAPATH
ユーザ定義データファイル	EURPS_USERDATAPATH
しおり定義ファイル	EURPS_BOOKMARKPATH
マッピングデータの可変記号値定義ファイル	EURPS_MAPDATAPATH
ユーザ定義データの可変記号値定義ファイル	EURPS_USERDATAPATH

- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

3. コマンドからの帳票出力

(e) ファイルの指定のしかた

帳票ファイル名，データファイル名，およびしおり定義ファイル名は，コンマ「,」で区切って指定します。

一つの帳票セットを指定する場合

- プリント出力，EUR 形式ファイル出力，および CSV 形式ファイル出力のとき
帳票ファイルとデータファイルは，次のように指定します。

マッピングデータ ファイル	ユーザ定義データ ファイル	記述のしかた
指定	指定	report.fms,mapping.csv,userdata.csv
指定	省略	report.fms,mapping.csv [,]
省略	指定	report.fms,,userdata.csv
省略	省略	report.fms [, ,]

注

マッピングデータファイルを省略する場合は，帳票ファイルの後ろにコンマ「,」が二つ必要です。

帳票ファイルと可変記号値定義ファイルは，次のように指定します。

マッピングデータの可変記号値定義 ファイル	ユーザ定義データの可変記号値定義 ファイル	記述のしかた
指定	指定	/dif dbinfo.txt report.fms,dbvar.txt,userdbvar.txt
指定	省略	/dif dbinfo.txt report.fms,dbvar.txt [,]
省略	指定	/dif dbinfo.txt report.fms,,userdbvar.txt
省略	省略	/dif dbinfo.txt report.fms [, ,]

注

マッピングデータの可変記号値定義ファイルを省略する場合は，帳票ファイルの後ろにコンマ「,」が二つ必要です。

- PDF 形式ファイル出力のとき
データファイルとしおり定義ファイルは，次のように指定します。

マッピングデータ ファイル	ユーザ定義 データファ イル	しおり定義 ファイル	記述のしかた
指定	指定	指定	report.fms,mapping.csv,userdata.csv,bookmark.txt
指定	省略	指定	report.fms,mapping.csv,,bookmark.txt ¹

マッピングデータファイル	ユーザ定義データファイル	しおり定義ファイル	記述のしかた
省略	指定	指定	report.fms,,userdata.csv,bookmark.txt ²
省略	省略	指定	report.fms,,,bookmark.txt ³
指定	指定	省略	report.fms,mapping.csv,userdata.csv [,]
指定	省略	省略	report.fms,mapping.csv [,]
省略	指定	省略	report.fms,,userdata.csv [,]
省略	省略	省略	report.fms [, ,]

注 1

ユーザ定義データファイルだけ省略する場合は、マッピングデータファイルの後ろにコンマ「,」が二つ必要です。

注 2

マッピングデータファイルだけ省略する場合は、帳票ファイルの後ろにコンマ「,」が二つ必要です。

注 3

マッピングデータファイルとユーザ定義データファイルの両方を省略する場合は、帳票ファイルの後ろにコンマ「,」が三つ必要です。

可変記号値定義ファイルとしおり定義ファイルは、次のように指定します。

マッピングデータの可変記号値定義ファイル	ユーザ定義データの可変記号値定義ファイル	しおり定義ファイル	記述のしかた
指定	指定	指定	/dif dbinfo.txt report.fms,dbvar.txt,userdbvar.txt,bookmark.txt
指定	省略	指定	/dif dbinfo.txt report.fms,dbvar.txt,,bookmark.txt ¹
省略	指定	指定	/dif dbinfo.txt report.fms,,userdbvar.txt,bookmark.txt ²
省略	省略	指定	/dif dbinfo.txt report.fms,,,bookmark.txt ³
指定	指定	省略	/dif dbinfo.txt report.fms,dbvar.txt,userdbvar.txt [,]
指定	省略	省略	/dif dbinfo.txt report.fms,dbvar.txt [, ,]
省略	指定	省略	/dif dbinfo.txt report.fms,,userdbvar.txt [,]
省略	省略	省略	/dif dbinfo.txt report.fms [, , ,]

3. コマンドからの帳票出力

注 1

ユーザ定義データの可変記号値定義ファイルだけ省略する場合は、マッピングデータの可変記号値定義ファイルの後ろにコンマ「,」が二つ必要です。

注 2

マッピングデータの可変記号値定義ファイルだけ省略する場合は、帳票ファイルの後ろにコンマ「,」が二つ必要です。

注 3

マッピングデータの可変記号値定義ファイルとユーザ定義データの可変記号値定義ファイルの両方を省略する場合は、帳票ファイルの後ろにコンマ「,」が三つ必要です。

複数の帳票セットを指定する場合

複数の帳票セットを指定して出力する場合は、次のように半角空白で区切って帳票セットを指定します。帳票セットを指定する個数に上限はありませんが、コマンドやシステム関数の引数に指定する文字数は、約 30KB までです。また、データベースから入力できるマッピングデータ、およびユーザ定義データの合計の上限は 10 個です。帳票セットの個数やファイルに指定できる文字数の上限に関係なく指定したい場合は、/mrs オプションで帳票セット指定ファイルを指定することをお勧めします。

帳票ファイルは、指定した帳票セットのファイルの順に出力されます。

表中の は、半角空白を示します。

- プリンタ出力、EUR 形式ファイル出力、および CSV 形式ファイル出力のとき

マッピングデータ ファイル	ユーザ定義データ ファイル	記述のしかた
指定	指定	report1.fms,mapping1.csv,userdata1.csv report2.fms,mapping2.csv,userdata2.csv ...
指定	省略	report1.fms,mapping1.csv {,} report2.fms,mapping2.csv {,} ...
省略	指定	report1.fms,,userdata1.csv report2.fms,,userdata2.csv ...
省略	省略	report1.fms {,,} report2.fms {,,} ...

注

マッピングデータファイルを省略する場合は、帳票ファイルの後ろにコンマ「,」が二つ必要です。

帳票ファイルと可変記号値定義ファイルは、次のように指定します。

マッピングデータの可変記号値定義ファイル	ユーザ定義データの可変記号値定義ファイル	記述のしかた
指定	指定	/dif dbinfo.txt report1.fms,dbvar1.txt,userdbvar3.txt report2.fms,dbvar2.txt,userdbvar3.txt ...
指定	省略	/dif dbinfo.txt report1.fms,dbvar1.txt [,] report2.fms,dbvar2.txt [,] ...
省略	指定	/dif dbinfo.txt report1.fms,,userdbvar1.txt report2.fms,,userdbvar2.txt ...
省略	省略	/dif dbinfo.txt report1.fms [, ,] report2.fms [, ,] ...

注

マッピングデータの可変記号値定義ファイルを省略する場合は、帳票ファイルの後ろにコンマ「,」が二つ必要です。

- PDF 形式ファイル出力のとき

マッピングデータファイル	ユーザ定義データファイル	しおり定義ファイル	記述のしかた
指定	指定	指定	report1.fms,mapping1.csv,userdata1.csv, bookmark1.txt report2.fms,mapping2.csv,userdata2.csv, bookmark2.txt ...
指定	省略	指定	report1.fms,mapping1.csv,bookmark1.txt report2.fms,mapping2.csv,bookmark2.txt ...
省略	指定	指定	report1.fms,,userdata1.csv,bookmark1.txt report2.fms,,userdata2.csv,bookmark2.txt ...
省略	省略	指定	report1.fms,,,bookmark1.txt report2.fms,,,bookmark2.txt ...
指定	指定	省略	report1.fms,mapping1.csv,userdata1.csv [,] report2.fms,mapping2.csv,userdata2.csv [,] ...

3. コマンドからの帳票出力

マッピング データファ イル	ユーザ定 義データ ファイル	しおり定 義ファイ ル	記述のしかた
指定	省略	省略	report1.fms,mapping1.csv [,,] report2.fms,mapping2.csv [,,] ...
省略	指定	省略	report1.fms,,userdata1.csv [,] report2.fms,,userdata2.csv [,] ...
省略	省略	省略	report1.fms [,,,] report2.fms [,,,] ...
指定	指定	指定	/dif dbinfo.txt report1.fms,dbvar1.txt,userdbvar1.txt,bookmark1.txt report2.fms,dbvar2.txt,userdbvar2.txt,bookmark2.txt ...
指定	省略	指定	/dif dbinfo.txt report1.fms,dbvar1.txt,,bookmark1.txt report2.fms,dbvar2.txt,,bookmark2.txt ...
省略	指定	指定	/dif dbinfo.txt report1.fms,,userdbvar1.txt,bookmark1.txt report2.fms,,userdbvar2.txt,bookmark2.txt ...
省略	省略	指定	/dif dbinfo.txt report1.fms,,,bookmark1.txt report2.fms,,,bookmark2.txt ...
指定	指定	省略	/dif dbinfo.txt report1.fms,dbvar1.txt,userdbvar1.txt [,] report2.fms,dbvar2.txt,userdbvar2.txt [,] ...
指定	省略	省略	/dif dbinfo.txt report1.fms,dbvar1.txt [,] report2.fms,dbvar2.txt [,] ...
省略	指定	省略	/dif dbinfo.txt report1.fms,,userdbvar1.txt [,] report2.fms,,userdbvar2.txt [,] ...
省略	省略	省略	/dif dbinfo.txt report1.fms [,,,] report2.fms [,,,] ...

3.3 eurps コマンドのオプション指定時の注意

eurps コマンドのオプションを指定するときの注意事項について説明します。

3.3.1 画像データを使用する場合

画像データを使用する場合は、次のことに注意してください。

(1) 画像ファイルの場所

プリンタ出力、PDF 形式ファイル出力、または CSV 形式ファイル出力のとき

画像ファイルは、環境変数 EURPS_IMAGEPATH で、デフォルトの読み込みディレクトリを指定できます。ファイルは、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

- ファイル名をフルパスで指定した場合
設定されているディレクトリから画像ファイルを読み込みます。
- ファイル名を相対パスで指定した場合
環境変数 EURPS_IMAGEPATH に設定されているディレクトリからの相対パスとして画像ファイルを読み込みます。
- ファイル名だけ指定した場合
環境変数 EURPS_IMAGEPATH に設定されているディレクトリ下の画像ファイルを読み込みます。

環境変数 EURPS_IMAGEPATH が設定されていない場合は、次に示すフォルダの順に読み込まれます。

Windows 環境の場合

- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) 中の変数 EURPS_IMAGEPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer, EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境設定ファイル (eurps_env) 中の変数 EURPS_IMAGEPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

EUR 形式ファイル出力のとき

データファイルに指定する画像ファイルは、ファイル名だけを指定してください。

画像ファイルのパスは、環境変数 EURPS_IMAGEPATH, または環境設定ファイル (Windows 環境の場合は EURPS_ENV, UNIX / Linux 環境の場合は eurps_env) 中の変数 EURPS_IMAGEPATH に指定してください。

(2) 扱える画像データの形式

EUR サーバ帳票出力機能で扱える画像データの形式については、「7.4.2 扱える画像データの形式」を参照してください。

3.3.2 PDF 形式ファイルを出力する場合

PDF 形式ファイルを出力する場合は、次のことに注意してください。

(1) システム構築時にファイルの出力性能を考慮するには

図形（網掛け）のある帳票の場合、PDF 形式ファイルを出力するとき、環境変数 EURPS_PDF_OUTPUT によって、ファイルサイズと印刷スピードのどちらを優先するかを指定できます。

図形（網掛け）のある帳票を PDF 形式ファイルに出力したあと、非 PostScript プリンタから印刷する場合、印刷にかなりの時間が掛かったとき、プリンタによっては、環境変数 EURPS_PDF_OUTPUT に「PRINT_SPEED」を設定しておくことで、印刷時間を短縮できます。

環境変数 EURPS_PDF_OUTPUT への設定値は、すべて半角英大文字で指定してください。

表 3-15 EURPS_PDF_OUTPUT への設定値

環境変数への設定値	説 明
FILE_SIZE	ファイルサイズを優先します（デフォルト）
PRINT_SPEED	印刷スピードを優先します。ただし、「FILE_SIZE」を指定したときよりファイルサイズが大きくなることがあります。

「FILE_SIZE」、「PRINT_SPEED」以外の値を指定した場合は、「FILE_SIZE」が仮定されます。

環境変数 EURPS_PDF_OUTPUT と環境設定ファイル（Windows 環境の場合は EURPS_ENV、UNIX / Linux 環境の場合は eurps_env）中の変数 EURPS_PDF_OUTPUT を同時に設定した場合は、環境変数の値が有効になります。

なお、図形（網掛け）のある帳票を PDF 形式ファイルに出力しても、Adobe Reader で閲覧するだけであったり、PostScript Level2 対応プリンタに出力したりする場合は、環境変数 EURPS_PDF_OUTPUT への設定は意味がありません。

(2) システム構築時にファイルサイズを考慮するには

同一の画像アイテムを複数貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力するとき、ファイルサイズを最適化するかどうかを指定します。

同一の画像アイテムを複数貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合、複数分の画像データを PDF 形式ファイルに出力するため、ファイルサイズが大きくなります。そのため、環境変数 EURPS_PDF_SAMEIMAGE に「OPTIMIZE」を設定すると、一つ分の画像データだけを PDF 形式ファイルに出力するので、ファイルサイズが小さくなります。ただし、別々の画像アイテムを画像データに貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合は、環境変数 EURPS_PDF_SAMEIMAGE に「NO」を設定したときに比べて、PDF 形式ファイルの出力時間が遅くなる場合があります。

環境変数への設定値は、すべて半角英大文字で指定してください。

表 3-16 EURPS_PDF_SAMEIMAGE への設定値

環境変数への設定値	説 明
OPTIMIZE	帳票に同一の画像データが貼り付けてある場合、ファイルサイズを最適化します。
NO	帳票に同一の画像データが貼り付けてある場合、ファイルサイズを最適化しません。

「OPTIMIZE」、「NO」以外の値を指定した場合、または環境変数 EURPS_PDF_SAMEIMAGE に何も設定しなかった場合は、「OPTIMIZE」が仮定されます。

環境変数 EURPS_PDF_SAMEIMAGE と環境設定ファイル EURPS_ENV (UNIX / Linux 環境の場合は eurps_env) 中の変数 EURPS_PDF_SAMEIMAGE を同時に設定した場合は、環境変数の値が有効になります。

なお、Adobe Reader で閲覧する場合や、プリンタに出力する場合には、環境変数 EURPS_PDF_SAMEIMAGE への設定は、何も影響がありません。

(3) システム構築時にメモリリソースの圧迫を回避するには

複数の画像アイテムを貼り付けた帳票、または複数のバーコードアイテムを貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力するとき、メモリリソースを最適化するかどうかを指定できます。

複数の画像アイテムを貼り付けた帳票、または複数のバーコードアイテムを貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合、メモリ上に複数分の画像データ、またはバーコードデータを確保して PDF 形式ファイルを出力するため、メモリリソースを圧迫します。そのため、環境変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE_MEM に「YES」を設定しておく、メモリリソースの圧迫を回避できます。ただし、メモリリソースの最適化処理を行う場合、一時ファイル (Windows 環境の場合は SystemTemp, UNIX / Linux 環境の場合は /tmp) を使用するため、環境変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE_MEM に「YES」を設定しないときに比べて、PDF 形式ファイルの出力時間が遅くなります。

環境変数への設定値は、すべて半角英大文字で指定してください。

3. コマンドからの帳票出力

表 3-17 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM への設定値

環境変数への設定値	説 明
YES	複数の画像アイテムを貼り付けた帳票，または複数のバーコードアイテムを貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力するとき，メモリリソースを最適化にします。

「YES」以外の値を指定した場合，または環境変数

EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM に何も設定しなかった場合は，メモリリソースの最適化はしません。

環境変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM と環境設定ファイル EURPS_ENV (eurps_env) 中の変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM を同時に設定した場合は，環境変数の値が有効になります。

なお，Adobe Reader で閲覧する場合や，プリンタに出力する場合には，環境変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM への設定は，何も影響がありません。

3.4 環境変数，環境設定ファイル

eurps コマンドに指定するファイルのデフォルトの読み込みディレクトリなどを，環境変数，または環境設定ファイル（Windows 環境の場合は EURPS_ENV，UNIX / Linux 環境の場合は eurps_env）に指定できます。

環境変数については，「7.26.1 環境変数一覧」を参照してください。環境設定ファイルについては，「7.26 環境設定ファイル」を参照してください。

3.4.1 ダイアログからの環境設定ファイルの作成

環境設定ファイルは，テキストエディタで直接編集するほかに，[EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログから編集することもできます。[EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログを使用すると，次の利点があります。

- 環境変数が機能別に分類されているので，目的の環境変数を簡単に探せます。
- フォルダやファイルのパスを [参照] ボタンで簡単に指定できます。
- 幾つかの決められた設定値から選択する環境変数の場合，ドロップダウンリストで値を選択できます（直接入力することもできます）。
- 入力した値が正しいかどうかを事前にチェックできます。

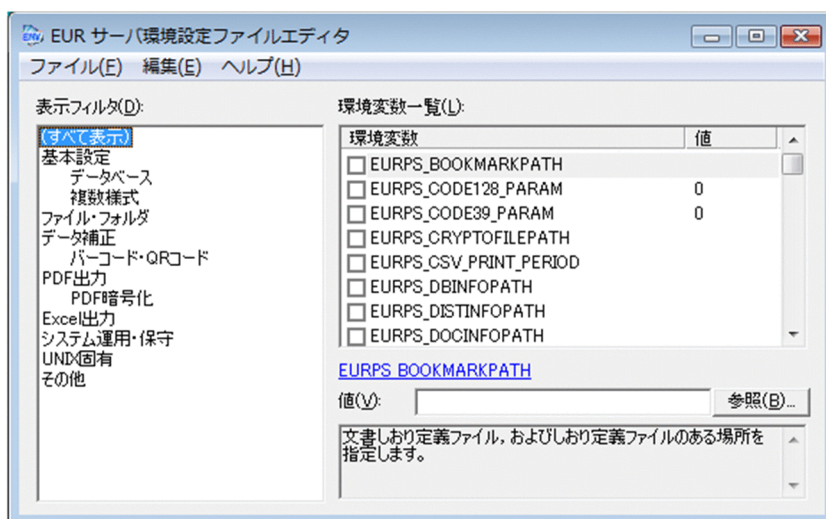
[EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログは，EUR Developer，Windows 版の EUR Print Service，および Windows 版の EUR Print Service Enterprise で使用できます。UNIX / Linux 環境で使用する環境変数も指定できます。環境変数の詳細については「7.26 環境設定ファイル」を参照してください。

ここでは，[EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログで環境設定ファイルを編集する方法について説明します。

(1) [EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログの操作

[EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログは，スタートメニューの [EUR Developer]，[EUR Print Service]，または [EUR Print Service Enterprise] から [EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] を選択すると表示されます。

3. コマンドからの帳票出力



[EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログの操作手順は次のとおりです。

1. 環境設定ファイルを開く。

[ファイル] - [開く] を選択すると、[環境設定ファイルを開く] ダイアログが表示されます。編集したい環境設定ファイルを指定して [開く] ボタンをクリックすると、環境設定ファイルの内容が読み込まれ、ダイアログに反映された状態で表示されます。

環境設定ファイルにすでに環境変数が設定されている場合、値のチェックが実施されます。チェックされる内容については「3.4.1(4) [EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログでチェックされる内容」を参照してください。

2. [表示フィルタ] リストボックスで、フィルタを選択する。

選択したフィルタに分類されている環境変数が、[環境変数一覧] リストボックスに表示されます。

環境変数の分類の詳細については、「3.4.1(3) [EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログでの環境変数の分類」を参照してください。

3. [環境変数一覧] リストボックスで、環境変数を選択する。

選択した環境変数に対応する形式の [値] が表示されます。

4. [値] に設定値を入力する。

環境変数の内容に応じて、[値] は次の形式で表示されます。それぞれの [値] の形式に合わせて設定値を入力します。

- 文字列または数値を指定する環境変数の場合

[値] テキストボックスが表示されます。テキストボックスに直接入力します。

値(V):

- フォルダまたはファイルを指定する環境変数の場合

[値] テキストボックスおよび [参照] ボタンが表示されます。[参照] ボタンをク

リックして、フォルダまたはファイルを選択します。直接入力することもできます。

値(V): 参照(R)...

- 幾つかの決められた設定値から選択する環境変数の場合
[値] ドロップダウンリストが表示されます。リストから設定値を選択します。直接入力することもできます。

値(V):

[値] の入力規則の詳細については、「12.1 [EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログ」を参照してください。

設定値の入力が完了すると、[環境変数一覧] リストボックスでの環境変数名の横に ☒ が付いた状態になります。

5. 環境設定ファイルを保存する。

[ファイル] - [上書き保存] を選択して、環境設定ファイルを上書き保存します。別名で保存するときは [ファイル] - [名前を付けて保存] を選択してください。環境変数の値が正しいかどうかチェックされて、問題がなければ自動的に保存されます。問題がある場合はチェック後に [チェック結果] ダイアログが表示されるので、メッセージを確認してから値を修正してください。ほかのマシンに配布する目的で実行マシンには存在しないパスを設定している場合などは、メッセージを無視して [保存] ボタンをクリックすればファイルを保存できます。

チェックされる内容については「3.4.1(4) [EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログでチェックされる内容」を参照してください。

(2) [EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログの便利な機能

[EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログで環境設定ファイルを編集するときには、次の機能を使用すると効率的に作業できます。

(a) 環境変数の値のチェック

環境変数の値が正しいかどうかは、環境設定ファイルを開く時、および環境設定ファイルを保存する時に自動でチェックされますが、環境設定ファイルの編集途中でもチェックを実施できます。[編集] - [値のチェック] を選択すると、その時点で設定されている環境変数の値に対してチェックを実施します。

なお、チェックされる内容は、環境設定ファイルを開く時、環境設定ファイルを保存する時、および [値のチェック] を選択した時でそれぞれ異なります。詳細については「3.4.1(4) [EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログでチェックされる内容」を参照してください。

(b) パスの一括置換

環境変数で指定されているフォルダまたはファイルのパスを一括で置換できます。[編

3. コマンドからの帳票出力

集] - [パスの置換]を選択すると,[パスの置換]ダイアログが表示されます。

パスの置換

フォルダやファイルを扱う環境変数の値を一括置換します。

検索する文字列(N):

置換後の文字列(P):

☐ 大文字と小文字を区別する(C)

一括置換(R)

キャンセル

[検索する文字列] テキストボックス , および [置換後の文字列] テキストボックスに入力して , [一括置換] ボタンをクリックすると , パスが一括置換されます。

(3) [EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログでの環境変数の分類

[表示フィルタ] リストボックスでは , 環境変数は次の表のとおり分類されます。

表 3-18 [表示フィルタ] リストボックスでの環境変数の分類

分類	環境変数
基本設定	EURPS_IMAGEPATH
	EURPS_MAPDATAPATH
	EURPS_OUTPUTPATH
	EURPS_REPORTPATH
	EURPS_USERDATAPATH
データベース	EURPS_DBINFOPATH
複数様式	EURPS_MULTI_REPORTSETPATH
	EURPS_MULTIFORM_INFODEFPATH
ファイル・フォルダ	EURPS_BOOKMARKPATH
	EURPS_CRYPTOFILEPATH
	EURPS_DBINFOPATH
	EURPS_DISTINFOPATH
	EURPS_DOCINFOPATH
	EURPS_ENVFILE
	EURPS_EXCELTMPPATH
	EURPS_IMAGEPATH
	EURPS_LOGFILEPATH
	EURPS_MAPDATAPATH
	EURPS_MULTI_REPORTSETPATH
	EURPS_MULTIFORM_INFODEFPATH
	EURPS_OUTPUTPATH

分類	環境変数
	EURPS_PDL_EXGOTFONTPATH
	EURPS_PDL_EXMINFONTPATH
	EURPS_PRINTERINFPATH
	EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH
	EURPS_REPLACEITEMPATH
	EURPS_REPORTPATH
	EURPS_SCRIPTCNTLFILEPATH
	EURPS_SCRIPTFILEPATH
	EURPS_TESTPRINTFILE
	EURPS_TINTINFOPATH
	EURPS_TMPPATH
	EURPS_USERDATAPATH
	EURPS_VIEWERPREFERENCEFILEPATH
データ補正	EURPS_CSV_PRINT_PERIOD
	EURPS_FIXOPT
	EURPS_FONT_ROUNDDOWN
	EURPS_FONT_WIDTH_MODE
	EURPS_GAIJIFONT
	EURPS_NOSKIP_OUTPUTSPACE
	EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH
	EURPS_REPLACEITEMPATH
	EURPS_SKIP_OUTPUTSPACE
	EURPS_USE_05_06_FONT_LANG
	EURPS_USE_05_06_FONT_REPLACE
バーコード・QRコード	EURPS_CODE128_PARAM
	EURPS_CODE39_PARAM
	EURPS_QR_CELL_SIZE_D
	EURPS_QR_CELL_SIZE_M
	EURPS_QR_CORRECTION_LEVEL
	EURPS_QR_VERSION
PDF 出力	EURPS_BOOKMARKPATH
	EURPS_DISTINFOPATH
	EURPS_OUTPUTPDF_VER
	EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM
	EURPS_PDF_OUTPUT

3. コマンドからの帳票出力

分類	環境変数
	EURPS_PDF_SAMEIMAGE
	EURPS_SCRIPTCNTLFILEPATH
	EURPS_SCRIPTFILEPATH
	EURPS_SKIP_OUTPUTSPACE
	EURPS_TINTINFOPATH
	EURPS_VIEWERPREFERENCEFILEPATH
PDF 暗号化	EURPS_CRYPTOFILEPATH
Excel 出力	EURPS_EXCELLOGFILELEVEL
	EURPS_EXCELTMPPATH
システム運用・保守	EURPS_ENVFILE
	EURPS_EXCELLOGFILELEVEL
	EURPS_EXCELTMPPATH
	EURPS_LOGFILELEVEL
	EURPS_LOGFILEPATH
	EURPS_LOGSIZE
	EURPS_MAX_SPOOL_PAGES
	EURPS_PRINT
	EURPS_REPORT_LOGERROR
	EURPS_REPORT_WARNING
	EURPS_TESTPRINTFILE
	EURPS_TMPPATH
	EURPS_TRACE
	EURPS_TRACE_DRAWAPI
UNIX 固有	EURPS_J84GA16
	EURPS_J84GA24
	EURPS_J84GA48
	EURPS_J84GA72
	EURPS_J84GA96
	EURPS_J84GK16
	EURPS_J84GK24
	EURPS_J84GK48
	EURPS_J84GK72
	EURPS_J84GK96
	EURPS_J84MA16
	EURPS_J84MA24

分類	環境変数
	EURPS_J84MA48
	EURPS_J84MA72
	EURPS_J84MA96
	EURPS_J84MK16
	EURPS_J84MK24
	EURPS_J84MK48
	EURPS_J84MK72
	EURPS_J84MK96
その他	-

(凡例) - : 該当なし

(4) [EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログでチェックされる内容

[EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログでは、次の三つのタイミングで環境変数の設定値が正しいかどうかチェックされます。

- 環境設定ファイルを開く時
- 環境設定ファイルを保存する時
- [編集] - [値のチェック] を選択した時

それぞれのタイミングでチェックされる内容を、次の表に示します。

表 3-19 各タイミングでチェックされる内容

チェックするタイミング	チェックされる内容
環境設定ファイルを開く時	<ul style="list-style-type: none"> • 環境設定ファイルに同じ環境変数が複数定義されているかどうか • 未サポートの環境変数が存在するかどうか • 環境変数に指定した値¹が範囲内かどうか • フォルダやファイルを指定する環境変数の絶対パスが存在するかどうか²
環境設定ファイルを保存する時	<ul style="list-style-type: none"> • 環境変数に指定した値¹が範囲内かどうか
[編集] - [値のチェック] を選択した時	<ul style="list-style-type: none"> • フォルダやファイルを指定する環境変数の絶対パスが存在するかどうか²

注 1 数値を指定する環境変数、および幾つかの決められた設定値から選択する環境変数に関してチェックします。

注 2 相対パス、および UNIX / Linux のパス (/ で始まるパス) はチェックしません。

(5) [EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログを使用する場合の注意事項

[EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログを使用する場合の注意事項について次に示します。

(a) 使用できるロケール、サポートする文字集合およびエンコーディングについて

[EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログは、英語ロケール、中国語ロケール、および日本語ロケールで使用できます。ロケールごとのサポートする文字集合およびエンコーディングを次の表に示します。

表 3-20 ロケールごとのサポートする文字集合およびエンコーディング

ロケール	文字集合	エンコーディング
英語	Unicode	CP1252
中国語	Unicode	CP936
日本語	Unicode	CP932

なお、それぞれのロケールでサポートしない文字列を [値] に入力した場合、「?」に変換されて表示されます。

(b) [表示フィルタ] リストボックスの「その他」について

未サポートの環境変数が記述されている環境設定ファイルを読み込んだ場合、[表示フィルタ] リストボックスの「その他」を選択すると、次のように表示されます。

- [環境変数一覧] リストボックスには未サポートの環境変数が表示されます。
- [環境変数一覧] リストボックスで環境変数を選択すると、[値] テキストボックスが表示されます。[値] テキストボックスは選択した環境変数の値が入力された状態になっています。

[値] テキストボックスには任意の文字列を入力できます。未サポートの環境変数の値を修正したい場合は、テキストボックスの値を直接編集してください。

ただし、「その他」で指定した内容はチェックされません。

(c) [環境変数一覧] の環境変数名のチェックについて

設定値の入力が完了すると、[環境変数一覧] リストボックスの環境変数名の横に ☒ が付いた状態になります。☒ を再度クリックすると ☐ になりますが、環境変数自体がファイルから削除されるので注意してください。

コメントとして残しておきたい場合は、テキストエディタで直接開いて編集してください。

3.5 eurps コマンド実行時の終了コード

eurps コマンド実行時の終了コードには、次に示す値が返されます。終了コードと対応するエラーの詳細は、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

表 3-21 eurps コマンド実行時の終了コード一覧

終了コード	意 味
0	正常終了しました。
4	警告が発生しました。
8	システムエラーが発生しました。または、出力でエラーが発生しました。
10	データベースアクセスでエラーが発生しました。
12	データエラーが発生しました。
16	コマンドの文法にエラーがあります。
32	上記以外のエラーが発生しました。

注

警告が発生する要因については、「3.5.1 終了コード 4 を返す警告要因」を参照してください。

終了コードは、eurps コマンドで /nomessage オプション（UNIX / Linux 環境の場合は -nomessage オプション）が指定されていても設定されます。ただし、終了コードだけでは、エラーの詳細が判別できないため、/message オプション（UNIX / Linux 環境の場合は -message オプション）を指定して、出力されるメッセージを参照して解析するか、またはログ機能で出力されるエラー情報で調査してください。ログのエラー情報については、「8. ログ機能」、およびマニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

3.5.1 終了コード 4 を返す警告要因

eurps コマンドの実行時に、プリンタ出力、PDF 形式ファイル出力、または Excel 形式ファイル出力で次の表に示す警告要因が検出された場合、終了コード 4 を返し、詳細メッセージを出力して帳票を出力します。EUR 形式ファイル出力の場合は、項番 6 の警告要因以外は終了コード 0 を返します。

表 3-22 終了コード 4 を返す警告要因

項番	警告要因	出力メッセージ	詳細メッセージ
1	文字アイテムのアイテム枠が小さく、指定したデータがアイテム枠内に収まる分だけ出力されたとき。	KEEU300-W	KEEU301-W

3. コマンドからの帳票出力

項番	警告要因	出力メッセージ	詳細メッセージ
2	数値アイテムのアイテム枠が小さく、指定したデータがアイテム枠内に収まらなくて、データが「***」で出力されたとき。		KEEU301-W
3	バーコードアイテムのアイテム枠が小さく、バーコードが出力されないとき。		KEEU301-W
4	アイテムが出力できる範囲を超えているので、まったく出力されないか、または出力できる範囲に収まる分だけ出力されたとき。		KEEU301-W
5	フィールドのデータ型に合わないデータを入力したため、データが欠損値（空白）で出力されたとき。		KEEU302-W
6	画像ファイルがない、EUR サーバ帳票出力機能ではサポートしていない画像ファイルである、または画像ファイルが壊れているとき。		KEEU305-W
7	指定した帳票ファイルが、上位バージョンの機能を使用して作成されているため、実行時の EUR サーバ帳票出力機能のバージョンで出力できる範囲で帳票を出力されたとき。		KEEU304-W
8	バーコードデータに使用できない文字、または誤った桁数を指定したために、バーコードが出力されなかったとき。		KEEU301-W
9	集計行のアイテムが表示できない位置に配置されたとき。		KEEU303-W
10	日付変換用システムファイルが正しくないとき。		KEEU308-W
11	指定した置き換え表ファイルに、置き換えデータを 1 件も登録していなかったとき。		出力しない
12	指定した置き換え表ファイルにキーデータがなかったとき。または不正なデータがあったとき。		出力しない
13	アイテムが不当に重なっていたため、Excel 形式ファイルへ出力できない項目があったとき。	KEEU320-W	出力しない
14	変換するページ数が 100 ページを超えていたとき。	KEEU321-W	出力しない
15	接続先データベースが HiRDB ではないのに、接続情報ファイルのキーワード QueryExclusiveString が指定されたとき。	KEEU350-W	出力しない

警告が発生しても終了コード 4 を返さないようにするには、環境変数、または環境設定ファイル（Windows 環境の場合は EURPS_ENV、UNIX / Linux 環境の場合は eurps_env）中の変数 EURPS_REPORT_WARNING に「NO」を設定してください。

EURPS_REPORT_WARNING に「NO」を設定すると、警告要因があっても、終了コード 0 を返して終了します。メッセージ KEEU300-W、詳細メッセージ（KEEU301-W ~ KEEU308-W）、KEEU320-W ~ KEEU321-W、および KEEU350-W も出力されません。ただし、EUR 形式ファイル出力の場合は、EURPS_REPORT_WARNING の設定に関係なく、項番 6 の警告要因があるときは終了コード 4 を返し、それ以外では 0 を返します。

3.6 コーディング例

eurps コマンドのコーディング例について説明します。

3.6.1 コーディング例で使用しているファイル

eurps コマンドを使用する場合、あらかじめファイルを設定する必要があります。ここでは、コーディング例で使用するファイルについて説明します。

(1) コーディング例で使用しているファイル

コーディング例で使用しているファイル名を次に示します。

表 3-23 コーディング例で使用しているファイル名

ファイルの種類		ファイル名
データファイル		mapping1.csv , mapping2.csv , mapping3.csv
Acrobat JavaScript 定義ファイル		javascript.csv
暗号化設定ファイル		crypto.txt
しおり定義ファイル		bookmark1.txt , bookmark2.txt , bookmark3.txt
PDF 仕分け定義ファイル		shiwake.csv
ビューアプレファレンス定義ファイル		pdfviewer.csv
可変記号値定義ファイル		DBVar1.txt , DBVar2.txt , DBVar3.txt
仕分けプリンタ		nps_pr2
仕分け定義情報ファイル		shiwake.dat
出力プリンタ	Windows 環境の場合	Printer1
	UNIX/Linux 環境の場合	LIPSPR1 , PSPR2 , ESCPPR3
出力先ファイル	印刷ファイルの場合	output.prn
	PDL ファイルの場合	output.ls3 , output.ps2
	PDF 形式ファイルの場合	output.pdf
	CSV 形式ファイルの場合	output.csv
	EUR 形式ファイルの場合	output.eup , output.euv
	Excel 形式ファイルの場合	output.xlsx
接続情報ファイル		DBInfo1.txt , DBInfo2.txt , DBInfo3.txt
帳票セット指定ファイル		formset.txt

3. コマンドからの帳票出力

ファイルの種類	ファイル名
帳票ファイル	sample1.fms , sample2.fms , sample3.fms
複数様式情報定義ファイル	formdef.txt
文書しおり定義ファイル	docbm1.txt , docbm2.txt
文書情報設定ファイル	PDFdoc.txt
出力ページ情報ファイル	pageinfo.csv

(2) ファイルの定義例

コーディング例で使用しているファイルの定義例を次に示します。

表 3-24 ファイルの定義例

指定例に使用したファイル名		定義例
文書情報設定ファイル	PDFdoc.txt	TITLE=" 人事管理 " SUBTITLE="TOKYO-Area" AUTHOR="Jinji1" KEYWORD="Jinji,TOKYO,YOKOHAMA,CHIBA"
文書しおり定義ファイル	docbm1.txt	TITLE=docinfotitle SCALE=150 BOOKMARK=open
	docbm2.txt	TITLE=" 地域別売り上げ " SCALE=120 BOOKMARK=close
しおり定義ファイル	bookmark1.txt	NAME="sample" BREAKFLD=100
	bookmark1.txt	NAME=" 東京 " BREAKFLD=200
	bookmark2.txt	NAME=" 大阪 " BREAKFLD=130
	bookmark3.txt	NAME=" 福岡 " BREAKFLD=80
暗号化設定ファイル	crypto.txt	OwnerPassword=OWNER DisablePrint=Yes UserPassword=HITACHI
PDF 仕分け定義ファイル	shiwake.csv	KEYFIELD,1, 氏名番号 DATA,00000001.pdf,00000001,TARO DATA,00000002.pdf,00000002,HANAKO

指定例に使用したファイル名	定義例
帳票セット指定 ファイル	<div>formset.txt</div> <ul style="list-style-type: none"> データファイルを指定する場合 sample1.fms,mapping1.csv sample2.fms,mapping2.csv sample3.fms,mapping3.csv 可変記号値定義ファイルを指定する場合 sample1.fms,DBVar1.txt sample2.fms,DBVar2.txt sample3.fms,DBVar3.txt
帳票セット指定 ファイル (しおり付き PDF 形式ファイルの場 合)	<div>formset.txt</div> <ul style="list-style-type: none"> データファイルを指定する場合 sample1.fms,mapping1.csv,bookmark1.txt sample2.fms,mapping2.csv,bookmark2.txt sample3.fms,mapping3.csv,bookmark3.txt 可変記号値定義ファイルを指定する場合 sample1.fms,DBVar1.txt,bookmark1.txt sample2.fms,DBVar2.txt,bookmark2.txt sample3.fms,DBVar3.txt,bookmark3.txt
プリンタ定義ファ イル名	<div>LIPSPR1</div> <p>LIPSIII 対応プリンタ, 解像度 300dpi, ハードマージン上下左右 5mm, 2 段カセット, LP プリンタ名は, Printer1 で登録されているプリンタ, 自動給紙, モノクロ印刷</p> <ul style="list-style-type: none"> HP-UX / Linux の場合 [LIPSPR1] PDLType=LIPS3 XDpi=300 YDpi=300 Margin=5:5:5:5 Cassettes=2 Duplex=FALSE Color=FALSE DefaultCassette=Auto Command=/usr/bin/lp -c -oraw -onb -dPrinter1 AIX の場合 [LIPSPR1] PDLType=LIPS3 XDpi=300 YDpi=300 Margin=5:5:5:5 Cassettes=2 Duplex=FALSE Color=FALSE DefaultCassette=Auto Command=/usr/bin/lp -c -onobanner -dPrinter1

3. コマンドからの帳票出力

指定例に使用したファイル名	定義例
PSPR2	<p>PostScript Level2 対応プリンタ，解像度 600dpi，ハードマージン 上下左右 5mm，3 段カセット，LP プリンタ名は，Printer2 で登録されているプリンタ，自動給紙，両面カラー印刷</p> <ul style="list-style-type: none"> HP-UX の場合 <pre>[PSPR2] PDLType=PS2 XDpi=600 YDpi=600 Margin=5:5:5:5 Cassettes=3 Duplex=FALSE Color=TRUE DefaultCassette=Auto Command=/usr/bin/lp -c -oraw -onb -dPrinter2 Font=MS 明朝 :HeiseiMin-W3-90ms-RKSJ-H,MS ゴシック :HeiseiKakugo-W3-90ms-RKSJ-H</pre> AIX，および Linux の場合 <pre>[PSPR2] PDLType=PS2 XDpi=600 YDpi=600 Margin=5:5:5:5 Cassettes=3 Duplex=FALSE Color=TRUE DefaultCassette=Auto Command=/usr/bin/lp -c -onobanner -dPrinter2 Font=MS 明朝 :HeiseiMin-W3-90ms-RKSJ-H,MS ゴシック :HeiseiKakugo-W3-90ms-RKSJ-H</pre>
ESCP3	<p>ESC/P 対応プリンタ，解像度 180dpi，1 段カセット，LP プリンタ名は，Printer3 で登録されているプリンタ，自動給紙，モノクロ印刷</p> <ul style="list-style-type: none"> HP-UX の場合 <pre>[ESCP3] PDLType=ESCP XDpi=180 YDpi=180 Cassettes=1 Duplex=FALSE Color=FALSE DefaultCassette=Auto Command=/usr/bin/lp -c -oraw -onb -dPrinter3</pre> AIX，および Linux の場合 <pre>[ESCP3] PDLType=ESCP XDpi=180 YDpi=180 Cassettes=1 Duplex=FALSE Color=FALSE DefaultCassette=Auto Command=/usr/bin/lp -c -onobanner -dPrinter3</pre>

3.6.2 プリンタ出力の指定例

プリンタ出力するときのコマンド構文を次に示します。

(1) プリンタ出力の場合

Windows 対応のプリンタ，UNIX / Linux 対応の LIPSPR1，PostScript Level2，および ESC/P 対応プリンタに出力する場合のコマンドの指定例を次に示します。

表 3-25 プリンタ出力の場合の指定例

出力方法	Windows 環境	UNIX / Linux 環境
プリンタ出力をするとき	インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /p Printer1 /pi printerinf /pf output.prn /pnf pageinfo.csv /mfd formdef.txt /mrs formset.txt /rif ReplaceItem.csv /df PDFdoc.txt /s 1 /e 300 /c 100 /n sort /h portrait /tc Auto /g off /o btmc /m *- /f 1 /i normal /message /dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt	eurps -p LIPSPR1 -pi printerinf -mfd formdef.txt -mrs formset.txt -rif ReplaceItem.csv -pnf pageinfo.csv -s 1 -e 300 -c 100 -n stack -h landscape -tc Auto -g on -o btml -m * -f 1 -i reset -message -dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt
複数の帳票セットを指定するとき	インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /p Printer1 sample1.fms,mapping1.csv sample2.fms,mapping2.csv sample3.fms,mapping3.csv	/opt/eurps/bin/eurps -p LIPSPR1 sample1.fms,mapping1.csv sample2.fms,mapping2.csv
複数の帳票セットを指定するとき（データベースを使用）	インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /p Printer1 /dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt sample2.fms,DBVar2.txt sample3.fms,DBVar3.txt	/opt/eurps/bin/eurps -p LIPSPR1 -dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt sample2.fms,DBVar2.txt
複数様式情報定義ファイルを指定するとき（帳票セット指定ファイルを使用）	インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /p Printer1 /mfd formdef.txt /mrs formset.txt	/opt/eurps/bin/eurps -p LIPSPR1 -mfd formdef.txt -mrs formset.txt

(2) JP1 と連携した仕分け印刷をする場合

JP1 と連携した仕分け印刷をする場合のコマンドの指定例を次に示します。JP1 と連携した仕分け印刷は、Windows 環境で使用できます。

表 3-26 JP1 と連携した仕分け印刷をする場合の指定例

出力方法	Windows 環境
JP1 と連携した仕分け印刷をするとき	インストール先フォルダ¥Program¥eurps.exe /p nps_pr2 /pi printerinf /ds shiwake.dat /pnf pageinfo.csv /mfd formdef.txt /mrs formset.txt /rif ReplaceItem.csv /df PDFdoc.txt /s 1 /e 200 /g on /o btmc /m * /f 1 /i normal /message /dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt
複数様式情報定義ファイルを指定するとき（帳票セット指定ファイルを使用）	インストール先フォルダ¥Program¥eurps.exe /p nps_pr2 /ds shiwake.dat /mfd formdef.txt /mrs formset.txt

(3) PDL ファイルに出力する場合

PDL ファイルに出力する場合のコマンドの指定例を次に示します。PDL ファイル出力は、UNIX / Linux 環境で使用できます。

表 3-27 PDL ファイルに出力する場合の指定例

出力方法	UNIX / Linux 環境
PDL ファイルに出力するとき	<pre> eurps -p LIPSPR1 -pi printerinf -pf output.es2 -mfd formdef.txt -mrs formset.txt -rif ReplaceItem.csv -pnf pageinfo.csv -s 1 -e 1000 -tc Manual -g on -o btmc -m * -f 1 -i reset -message sample1.fms,mapping1.csv </pre>
複数の帳票セットを指定するとき	<pre> /opt/eurps/bin/eurps -p LIPSPR1 -pf output.ls3 sample1.fms,mapping1.csv sample2.fms,mapping2.csv /opt/eurps/bin/eurps -p PSPR2 -pf output.ps2 sample1.fms,mapping1.csv sample2.fms,mapping2.csv /opt/eurps/bin/eurps -p ESCPPR3 -pf output.es2 sample1.fms,mapping1.csv sample2.fms,mapping2.csv </pre>
複数の帳票セットを指定するとき（データベースを使用）	<pre> /opt/eurps/bin/eurps -p LIPSPR1 -pf output.ls3 -dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt sample2.fms,DBVar2.txt /opt/eurps/bin/eurps -p PSPR2 -pf output.ps2 -dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt sample2.fms,DBVar2.txt /opt/eurps/bin/eurps -p ESCPPR3 -pf output.es2 -dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt sample2.fms,DBVar2.txt </pre>

3. コマンドからの帳票出力

出力方法	UNIX / Linux 環境
複数様式情報定義ファイルを指定するとき（帳票セット指定ファイルを使用）	<pre> /opt/eurps/bin/eurps -p LIPSPR1 -pf output.ls3 -mfd formdef.txt -mrs formset.txt /opt/eurps/bin/eurps -p PSPR2 -pf output.ps2 -mfd formdef.txt -mrs formset.txt /opt/eurps/bin/eurps -p ESCPPR3 -pf output.es2 -mfd formdef.txt -mrs formset.txt </pre>

3.6.3 PDF 形式ファイル出力の指定例

PDF 形式ファイルを出力する場合のコマンドの指定例を次に示します。

（１）PDF 形式ファイル出力の場合

表 3-28 PDF 形式ファイル出力の場合の指定例

出力方法	Windows 環境	UNIX / Linux 環境
PDF 形式ファイル を出力する とき	<pre> インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /t pdf /pf output.pdf /mfd formdef.txt /mrs formset.txt /rif ReplaceItem.csv /pnf pageinfo.csv /df PDFdoc.txt /jsc javascript.csv /pvp pdfviewer.csv /s 1 /e 20000 /g on /o btmc /m * /f 1 /i reset /message /dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt </pre>	<pre> /opt/eurps/bin/eurps -t pdf -pf output.pdf -mfd formdef.txt -mrs formset.txt -rif ReplaceItem.csv -pnf pageinfo.csv -df PDFdoc.txt -jsc javascript.csv -pvp pdfviewer.csv -s 1 -e 2000 -g on -o btmc -m * -f 1 -i reset -message -dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt </pre>

出力方法	Windows 環境	UNIX / Linux 環境
複数の帳票セットを指定するとき	インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /t pdf /pf output.pdf sample1.fms,mapping1.csv sample2.fms,mapping2.csv sample3.fms,mapping3.csv	/opt/eurps/bin/eurps -t pdf -pf output.pdf sample1.fms,mapping1.csv sample2.fms,mapping2.csv sample3.fms,mapping3.csv
複数の帳票セットを指定するとき (データベースを使用)	インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /t pdf /pf output.pdf /dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt sample2.fms,DBVar2.txt sample3.fms,DBVar3.txt	/opt/eurps/bin/eurps -t pdf -pf output.pdf -dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt sample2.fms,DBVar2.txt sample3.fms,DBVar3.txt
複数様式情報定義ファイルを指定するとき (帳票セット指定ファイルを使用)	インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /t pdf /pf output.pdf /mfd formdef.txt /mrs formset.txt	/opt/eurps/bin/eurps -t pdf -pf output.pdf -mfd formdef.txt -mrs formset.txt

(2) PDF 形式ファイルを暗号化する場合

表 3-29 PDF 形式ファイルを暗号化する場合の指定例

出力方法	Windows 環境	UNIX / Linux 環境
PDF 形式 ファイル を出力す るとき	インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /t pdf /pf output.pdf /cry /cryf crypto.txt /mfd formdef.txt /mrs formset.txt /rif ReplaceItem.csv /pnf pageinfo.csv /df PDFdoc.txt /jsc javascript.csv /pvp pdfviewer.csv /ecryp eurpass /s 1 /e 20000 /g on /o btmc /m * /f 1 /i reset /message /dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt	/opt/eurps/bin/eurps -t pdf -pf output.pdf -cry -cryf crypto.txt -mfd formdef.txt -mrs formset.txt -rif ReplaceItem.csv -pnf pageinfo.csv -df PDFdoc.txt -jsc javascript.csv -pvp pdfviewer.csv -ecryp eurpass -s 1 -e 2000 -g on -o btmc -m * -f 1 -i reset -message -dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt
複数の帳 票セット を指定す るとき	インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /t pdf /pf output.pdf /cry /cryf crypto.txt sample1.fms,mapping1.csv sample2.fms,mapping2.csv sample3.fms,mapping3.csv	/opt/eurps/bin/eurps -t pdf -pf output.pdf -cry -cryf crypto.txt sample1.fms,mapping1.csv sample2.fms,mapping2.csv sample3.fms,mapping3.csv
複数の帳 票セット を指定す るとき (データ ベースを 使用)	インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /t pdf /pf output.pdf /cry /cryf crypto.txt /dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt sample2.fms,DBVar2.txt sample3.fms,DBVar3.txt	/opt/eurps/bin/eurps -t pdf -pf output.pdf -cry -cryf crypto.txt -dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt sample2.fms,DBVar2.txt sample3.fms,DBVar3.txt

出力方法	Windows 環境	UNIX / Linux 環境
複数様式 情報定義 ファイル を指定す るとき (帳票 セット指 定ファイ ルを使 用)	インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /t pdf /pf output.pdf /cry /cryf crypto.txt /mfd formdef.txt /mrs formset.txt	/opt/eurps/bin/eurps -t pdf -pf output.pdf -cry -cryf crypto.txt -mfd formdef.txt -mrs formset.txt

(3) しおり付き PDF 形式ファイル出力の場合

表 3-30 しおり付き PDF 形式ファイル出力の場合の指定例

出力方法	Windows 環境	UNIX / Linux 環境
しおり付 き PDF 形式ファ イルを出 力する とき	インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /t pdf /pf output.pdf /bm /bmf docbm1.txt /mfd formdef.txt /mrs formset.txt /rif ReplaceItem.csv /pnf pageinfo.csv /df PDFdoc.txt /jsc javascript.csv /pvp pdfviewer.csv /s 1 /e 1000 /g on /o btmr /m * /f 1 /i normal /message /dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt	/opt/eurps/bin/eurps -t pdf -pf output.pdf -bm -bmf docbm1.txt -mfd formdef.txt -mrs formset.txt -rif ReplaceItem.csv -pnf pageinfo.csv -df PDFdoc.txt -jsc javascript.csv -pvp pdfviewer.csv -s 1 -e 1000 -g on -o btmr -m * -f 1 -i normal -message -dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt

3. コマンドからの帳票出力

出力方法	Windows 環境	UNIX / Linux 環境
複数の帳票セットを指定するとき	インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /t pdf /pf output.pdf /df PDFdoc.txt /bm /bmf docbm1.txt sample1.fms,mapping1.csv,,bookmark1.txt sample2.fms,mapping2.csv,,bookmark2.txt sample3.fms,mapping3.csv,,bookmark3.txt	/opt/eurps/bin/eurps -t pdf -pf output.pdf -df PDFdoc.txt -bm -bmf docbm1.txt sample1.fms,mapping1.csv,,bookmark1.txt sample2.fms,mapping2.csv,,bookmark2.txt sample3.fms,mapping3.csv,,bookmark3.txt
複数の帳票セットを指定するとき (データベースを使用)	インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /t pdf /pf output.pdf /df PDFdoc.txt /bm /bmf docbm1.txt /dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt,,bookmark1.txt sample2.fms,DBVar3.txt,,bookmark2.txt sample3.fms,DBVar3.txt,,bookmark3.txt	/opt/eurps/bin/eurps -t pdf -pf output.pdf -df PDFdoc.txt -bm -bmf docbm1.txt -dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt,,bookmark1.txt sample2.fms,DBVar3.txt,,bookmark2.txt sample3.fms,DBVar3.txt,,bookmark3.txt
複数様式情報定義ファイルを指定するとき (帳票セット指定ファイルを使用)	インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /t pdf /pf output.pdf /bm /bmf docbm1.txt /mfd formdef.txt /mrs formset.txt	/opt/eurps/bin/eurps -t pdf -pf output.pdf -bm -bmf docbm1.txt -mfd formdef.txt -mrs formset.txt

(4) PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合

表 3-31 PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合の指定例

出力方法	Windows 環境	UNIX / Linux 環境
PDF 形式 ファイル を仕分け 出力する とき	インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /t pdf /dsf shiwake.csv /bm /bmf docbm1.txt /mfd formdef.txt /mrs formset.txt /rif ReplaceItem.csv /pnf pageinfo.csv /df PDFdoc.txt /jsc javascript.csv /pvp pdfviewer.csv /s 1 /e 10000 /g on /o btmc /m * /f 1 /i normal /message /dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt	/opt/eurps/bin/eurps -t pdf -dsf shiwake.csv -bm -bmf docbm1.txt -mfd formdef.txt -mrs formset.txt -rif ReplaceItem.csv -pnf pageinfo.csv -df PDFdoc.txt -jsc javascript.csv -pvp pdfviewer.csv -s 1 -e 10000 -g on -o btmc -m * -f 1 -i normal -message -dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt
複数様式 情報定義 ファイル を指定す るとき (帳票 セット指 定ファイ ルを使 用)	インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /t pdf /dsf shiwake.csv /mfd formdef.txt /mrs formset.txt	/opt/eurps/bin/eurps -t pdf -dsf shiwake.csv -mfd formdef.txt -mrs formset.txt

3.6.4 EUR 形式ファイル出力の指定例

EUR 形式ファイルを出力する場合のコマンドの指定例を次に示します。

3. コマンドからの帳票出力

表 3-32 EUR 形式ファイル出力の場合の指定例

出力方法	Windows 環境	UNIX / Linux 環境
EUR 形式ファイルを出力するとき	インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /t eur /pf output.eup /mfd formdef.txt /df PDFdoc.txt /message /rif ReplaceItem.csv /dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt	/opt/eurps/bin/eurps -t eur -pf output.eup -mfd formdef.txt -df PDFdoc.txt -message -rif ReplaceItem.csv -dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt
複数の帳票セットを指定するとき	インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /t eur /pf output.eup sample1.fms,mapping1.csv sample2.fms,mapping2.csv sample3.fms,mapping3.csv	/opt/eurps/bin/eurps -t eur -pf output.eup sample1.fms,mapping1.csv sample2.fms,mapping2.csv sample3.fms,mapping3.csv
複数の帳票セットを指定するとき（データベースを使用）	インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /t eur /pf output.eup /dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt sample2.fms,DBVar2.txt sample3.fms,DBVar3.txt	/opt/eurps/bin/eurps -t eur -pf output.eup -dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt sample2.fms,DBVar2.txt sample3.fms,DBVar3.txt
複数様式情報定義ファイルを指定するとき（帳票セット指定ファイルを使用）	インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /t eur /pf output.eup /mfd formdef.txt /mrs formset.txt	/opt/eurps/bin/eurps -t eur -pf output.eup -mfd formdef.txt -mrs formset.txt

3.6.5 CSV 形式ファイル出力の指定例

CSV 形式ファイルを出力する場合のコマンドの指定例を次に示します。

表 3-33 CSV 形式ファイル出力の場合の指定例

出力方法	Windows 環境	UNIX / Linux 環境
CSV 形式ファイルを出力するとき	インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /t csv /pf output.csv /mfd formdef.txt /mrs formset.txt /rif ReplaceItem.csv /pnf pageinfo.csv /s 100 /e 300 /g on /o btmc /m - * - /f 100 /i normal /message /dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt	/opt/eurps/bin/eurps -t csv -pf output.csv -mfd formdef.txt -mrs formset.txt -rif ReplaceItem.csv -pnf pageinfo.csv -s 100 -e 300 -g on -o btmc -m - * - -f 100 -i normal -message -dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt
複数の帳票セットを指定するとき	インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /t csv /pf output.csv sample1.fms,mapping1.csv sample2.fms,mapping2.csv sample3.fms,mapping3.csv	/opt/eurps/bin/eurps -t csv -pf output.csv sample1.fms,mapping1.csv sample2.fms,mapping2.csv sample3.fms,mapping3.csv
複数の帳票セットを指定するとき（データベースを使用）	インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /t csv /pf output.csv /dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt sample2.fms,DBVar2.txt sample3.fms,DBVar3.txt	/opt/eurps/bin/eurps -t csv -pf output.csv -dif DBInfo1.txt sample1.fms,DBVar1.txt sample2.fms,DBVar2.txt sample3.fms,DBVar3.txt
複数様式情報定義ファイルを指定するとき（帳票セット指定ファイルを使用）	インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /t csv /pf output.csv /mfd formdef.txt /mrs formset.txt	/opt/eurps/bin/eurps -t csv -pf output.csv -mfd formdef.txt -mrs formset.txt

3.6.6 Excel 形式ファイル出力の指定例

Excel 形式ファイルを出力する場合のコマンドの指定例を次に示します。

表 3-34 Excel 形式ファイル出力の場合の指定例

出力方法	Windows 環境	UNIX / Linux 環境
Excel 形式ファイルを出力するとき	インストール先フォルダ ¥Program¥eurps.exe /t xlsx /pf output.xlsx sample1.fms,mapping.csv	/opt/eurps/bin/eurps -t xlsx -pf output.xlsx sample1.fms,mapping.csv

3.6.7 Windows 環境で C 言語のプログラムからコマンド実行する場合

C 言語のプログラムでエラーメッセージ ID を取得する例を出力別に示します。

このプログラム例は、eurps コマンドの標準エラー（メッセージ文）を、パイプを使って取得します。取得したメッセージ文を解析してメッセージ ID を取得します。

(1) プリンタ出力のコーディング例

```
#include<windows.h>
#include<stdio.h>

void main(int argc,char *argv[])
{
    HANDLE hRead,hWrite;
    SECURITY_ATTRIBUTES saAttr;
    DWORD dwRead;
    char sbuf[4096];
    STARTUPINFO          si;
    PROCESS_INFORMATION  pi;
    BOOL                 bRtn;
    CHAR                 szCmdLine[2048];
    DWORD                dwRC;
    CHAR                 szExePath[_MAX_PATH];

    /* eurps.exeのフルパス */
    strcpy(szExePath, "c:¥¥program files¥¥hitachi¥¥eur print
service¥¥program¥¥eurps.exe");

    saAttr.nLength=sizeof(SECURITY_ATTRIBUTES);
    saAttr.bInheritHandle=TRUE;
    saAttr.lpSecurityDescriptor=NULL;

    bRtn=CreatePipe(&hRead,&hWrite,&saAttr,0);
    if (bRtn !=TRUE){          /* CreatePipeに失敗 */
        printf("CreatePipe failed¥n");
        exit(1);
    }

    //  sprintf(szCmdLine,"%s /message /p printer1
sample1.fms,data1.csv", szExePath);
    sprintf(szCmdLine,"%s /message sample1.fms,data1.csv",
szExePath);

    memset(&si, 0x00,sizeof(STARTUPINFO));
    si.cb=sizeof(STARTUPINFO);
    si.dwFlags=STARTF_USESTDHANDLES;
    si.hStdInput=GetStdHandle(STD_INPUT_HANDLE);
    si.hStdOutput=GetStdHandle(STD_OUTPUT_HANDLE);
    si.hStdError=hWrite;
    memset(&pi,0x00,sizeof(pi));
    _putenv("EURPS_REPORTPATH=.");
    _putenv("EURPS_MAPDATAPATH=.");

    bRtn=CreateProcessA(
```



```

        NULL,          //ファイル名
        (LPTSTR) szCmdLine, //ファイル名+コマンド構文
        NULL,          //プロセス・セキュリティ
        NULL,          //スレッド・セキュリティ
        TRUE,          //ハンドルを継承するか?
        DETACHED_PROCESS, //生成フラグ
        NULL,          //継承される環境ブロック
        NULL,          //起動時のフォルダ
        &si,           //スタートアップ情報へのポインタ
        &pi);          //プロセス情報へのポインタ
if (!bRtn) {
    printf("CreateProcess failed¥n");
    exit(1);
}

/* writeパイプをクローズ */
CloseHandle(hWrite);

memset(sbuf, 0x00, sizeof(sbuf));

/* メッセージ文の読み込み */
if (!ReadFile(hRead, sbuf, 4095, &dwRead, NULL)) {
    DWORD dwcode=GetLastError();
    /* BROKEN_PIPEはエラーではない */
    if (dwcode != ERROR_BROKEN_PIPE) {
        /* BROKEN_PIPE以外るとき */
        printf("Read failed¥n");
        exit(1);
    }
}

WaitForSingleObject(pi.hProcess, INFINITE);
GetExitCodeProcess(pi.hProcess, &dwRC);
CloseHandle(pi.hThread);
CloseHandle(pi.hProcess);
CloseHandle(hRead);
printf("eurps process terminated, rc = %d, returns [%s]¥n", dwRC,
sbuf);
if (dwRC>0) {
    /* メッセージ文字列からメッセージIDをerridに取り出す */
    char errid_str[10];
    int errid;

    memset(errid_str, 0x00, sizeof(errid_str));
    strncpy(errid_str, sbuf + strlen("eurps:KEEU"), 3);
    errid=atol(errid_str);
    if (errid==300) {
        /* KEEU300-Wの場合のエラー処理 */
    } else if (errid==5) {
        /* KEEU005-Eの場合のエラー処理 */
    } else if (errid==6) {
        /* KEEU006-Eの場合のエラー処理 */

    } else if (errid== ...{
        :
        /* 以下、そのほかのエラー処理を繰り返す */
    }
}

```

3. コマンドからの帳票出力

```
        exit(1);
    }
}
```

(2) PDF 形式ファイル出力のコーディング例

```
#include<windows.h>
#include<stdio.h>

void main(int argc,char *argv[])
{
    HANDLE hRead,hWrite;
    SECURITY_ATTRIBUTES saAttr;
    DWORD dwRead;
    char sbuf[4096];
    STARTUPINFO          si;
    PROCESS_INFORMATION   pi;
    BOOL                 bRtn;
    CHAR                 szCmdLine[2048];
    DWORD                dwRC;
    CHAR                 szExePath[_MAX_PATH];

    /* eurps.exeのフルパス */
    strcpy(szExePath, "c:¥¥program files¥¥hitachi¥¥eur print
service¥¥program¥¥eurps.exe");

    saAttr.nLength=sizeof(SECURITY_ATTRIBUTES);
    saAttr.bInheritHandle=TRUE;
    saAttr.lpSecurityDescriptor=NULL;

    bRtn=CreatePipe(&hRead,&hWrite,&saAttr,0);
    if (bRtn !=TRUE){          /* CreatePipeに失敗 */
        printf("CreatePipe failed¥n");
        exit(1);
    }

    sprintf(szCmdLine,"%s /message /t pdf /pf output.pdf
sample1.fms,data1.csv", szExePath);

    memset(&si, 0x00,sizeof(STARTUPINFO));
    si.cb=sizeof(STARTUPINFO);
    si.dwFlags=STARTF_USESTDHANDLES;
    si.hStdInput=GetStdHandle(STD_INPUT_HANDLE);
    si.hStdOutput=GetStdHandle(STD_OUTPUT_HANDLE);
    si.hStdError=hWrite;
    memset(&pi,0x00,sizeof(pi));

    _putenv("EURPS_REPORTPATH=.");
    _putenv("EURPS_MAPDATAPATH=.");
    _putenv("EURPS_OUTPUTPATH=.");

    bRtn=CreateProcessA(
        NULL,          //ファイル名
        (LPTSTR) szCmdLine, //ファイル名+コマンド構文
        NULL,          //プロセス・セキュリティ
        NULL,          //スレッド・セキュリティ
        TRUE,          //ハンドルを継承するか？
```

```

        DETACHED_PROCESS,        //生成フラグ
        NULL,                    //継承される環境ブロック
        NULL,                    //起動時のフォルダ
        &si,                      //スタートアップ情報へのポインタ
        &pi);                    //プロセス情報へのポインタ
if (!bRtn) {
    printf("CreateProcess failed¥n");
    exit(1);
}

/* writeパイプをクローズ */
CloseHandle(hWrite);

memset(sbuf, 0x00, sizeof(sbuf));

/* メッセージ文の読み込み */
if (!ReadFile(hRead, sbuf, 4095, &dwRead, NULL)) {
    DWORD dwcode=GetLastError();
    /* BROKEN_PIPEはエラーではない */
    if (dwcode !=ERROR_BROKEN_PIPE) {
        /* BROKEN_PIPE以外のとき */
        printf("Read failed¥n");
        exit(1);
    }
}

WaitForSingleObject(pi.hProcess, INFINITE);
GetExitCodeProcess(pi.hProcess, &dwRC);
CloseHandle(pi.hThread);
CloseHandle(pi.hProcess);
CloseHandle(hRead);
printf("eurps process terminated, rc = %d, returns [%s]¥n", dwRC,
sbuf);
if (dwRC>0) {
    /* メッセージ文字列からメッセージIDをerridに取り出す */
    char errid_str[10];
    int errid;

    memset(errid_str, 0x00, sizeof(errid_str));
    strncpy(errid_str, sbuf + strlen("eurps:KEEU"), 3);
    errid=atol(errid_str);
    if (errid==300) {
        /* KEEU300-Wの場合のエラー処理 */
    } else if (errid==5) {
        /* KEEU005-Eの場合のエラー処理 */
    } else if (errid==6) {
        /* KEEU006-Eの場合のエラー処理 */

    } else if (errid== ...{
        :
        /* 以下, そのほかのエラー処理を繰り返す */
    }
    exit(1);
}
}

```

(3) EUR 形式ファイル出力のコーディング例

```

#include<windows.h>
#include<stdio.h>

void main(int argc,char *argv[])
{
    HANDLE hRead,hWrite;
    SECURITY_ATTRIBUTES saAttr;
    DWORD dwRead;
    char sbuf[4096];
    STARTUPINFO      si;
    PROCESS_INFORMATION pi;
    BOOL              bRtn;
    CHAR              szCmdLine[2048];
    DWORD             dwRC;
    CHAR              szExePath[_MAX_PATH];

    /* eurps.exeのフルパス */
    strcpy(szExePath, "c:\\\\program files\\hitachi\\eur print
service\\program\\eurps.exe");

    saAttr.nLength=sizeof(SECURITY_ATTRIBUTES);
    saAttr.bInheritHandle=TRUE;
    saAttr.lpSecurityDescriptor=NULL;

    bRtn=CreatePipe(&hRead,&hWrite,&saAttr,0);
    if (bRtn !=TRUE){          /* CreatePipeに失敗 */
        printf("CreatePipe failed\\n");
        exit(1);
    }

    sprintf(szCmdLine,"%s /message /t eur /pf output.eup
sample1.fms,data1.csv", szExePath);

    memset(&si, 0x00,sizeof(STARTUPINFO));
    si.cb=sizeof(STARTUPINFO);
    si.dwFlags=STARTF_USESTDHANDLES;
    si.hStdInput=GetStdHandle(STD_INPUT_HANDLE);
    si.hStdOutput=GetStdHandle(STD_OUTPUT_HANDLE);
    si.hStdError=hWrite;
    memset(&pi,0x00,sizeof(pi));

    _putenv("EURPS_REPORTPATH=.");
    _putenv("EURPS_MAPDATAPATH=.");
    _putenv("EURPS_OUTPUTPATH=.");

    bRtn=CreateProcessA(
        NULL,          //ファイル名
        (LPTSTR) szCmdLine, //ファイル名+コマンド構文
        NULL,          //プロセス・セキュリティ
        NULL,          //スレッド・セキュリティ
        TRUE,          //ハンドルを継承するか?
        DETACHED_PROCESS, //生成フラグ
        NULL,          //継承される環境ブロック
        NULL,          //起動時のフォルダ
        &si,            //スタートアップ情報へのポインタ
        &pi);          //プロセス情報へのポインタ

```

```

if (!bRtn) {
    printf("CreateProcess failed¥n");
    exit(1);
}

/* writeパイプをクローズ */
CloseHandle(hWrite);

memset(sbuf, 0x00, sizeof(sbuf));

/* メッセージ文の読み込み */
if (!ReadFile(hRead, sbuf, 4095, &dwRead, NULL)) {
    DWORD dwcode = GetLastError();
    /* BROKEN_PIPEはエラーではない */
    if (dwcode != ERROR_BROKEN_PIPE) {
        /* BROKEN_PIPE以外のとき */
        printf("Read failed¥n");
        exit(1);
    }
}

WaitForSingleObject(pi.hProcess, INFINITE);
GetExitCodeProcess(pi.hProcess, &dwRC);
CloseHandle(pi.hThread);
CloseHandle(pi.hProcess);
CloseHandle(hRead);
printf("eurps process terminated, rc = %d, returns [%s]¥n", dwRC,
sbuf);
if (dwRC > 0) {
    /* メッセージ文字列からメッセージIDをerridに取り出す */
    char errid_str[10];
    int errid;

    memset(errid_str, 0x00, sizeof(errid_str));
    strncpy(errid_str, sbuf + strlen("eurps:KEEU"), 3);
    errid = atol(errid_str);
    if (errid == 300) {
        /* KEEU300-Wの場合のエラー処理 */
    } else if (errid == 5) {
        /* KEEU005-Eの場合のエラー処理 */
    } else if (errid == 6) {
        /* KEEU006-Eの場合のエラー処理 */
    } else if (errid == ...{
        :
        /* 以下、そのほかのエラー処理を繰り返す */
    }
    exit(1);
}
}
}

```

(4) CSV 形式ファイル出力のコーディング例

```

#include<windows.h>
#include<stdio.h>

void main(int argc, char *argv[])

```

3. コマンドからの帳票出力

```
{
    HANDLE hRead,hWrite;
    SECURITY_ATTRIBUTES saAttr;
    DWORD dwRead;
    char sbuf[4096];
    STARTUPINFO          si;
    PROCESS_INFORMATION  pi;
    BOOL                 bRtn;
    CHAR                 szCmdLine[2048];
    DWORD               dwRC;
    CHAR                 szExePath[_MAX_PATH];

    /* eurps.exeのフルパス */
    strcpy(szExePath, "c:¥¥program files¥¥hitachi¥¥eur print
service¥¥program¥¥eurps.exe");

    saAttr.nLength=sizeof(SECURITY_ATTRIBUTES);
    saAttr.bInheritHandle=TRUE;
    saAttr.lpSecurityDescriptor=NULL;

    bRtn=CreatePipe(&hRead,&hWrite,&saAttr,0);
    if (bRtn !=TRUE){          /* CreatePipeに失敗 */
        printf("CreatePipe failed¥n");
        exit(1);
    }

    sprintf(szCmdLine,"%s /message /t csv /pf output.csv
sample1.fms,data1.csv", szExePath);

    memset(&si, 0x00,sizeof(STARTUPINFO));
    si.cb=sizeof(STARTUPINFO);
    si.dwFlags=STARTF_USESTDHANDLES;
    si.hStdInput=GetStdHandle(STD_INPUT_HANDLE);
    si.hStdOutput=GetStdHandle(STD_OUTPUT_HANDLE);
    si.hStdError=hWrite;
    memset(&pi,0x00,sizeof(pi));

    _putenv("EURPS_REPORTPATH=".);
    _putenv("EURPS_MAPDATAPATH=".);
    _putenv("EURPS_OUTPUTPATH=".);

    bRtn=CreateProcessA(
        NULL,          //ファイル名
        (LPTSTR)szCmdLine, //ファイル名+コマンド構文
        NULL,          //プロセス・セキュリティ
        NULL,          //スレッド・セキュリティ
        TRUE,          //ハンドルを継承するか?
        DETACHED_PROCESS, //生成フラグ
        NULL,          //継承される環境ブロック
        NULL,          //起動時のフォルダ
        &si,            //スタートアップ情報へのポインタ
        &pi);          //プロセス情報へのポインタ
    if (!bRtn) {
        printf("CreateProcess failed¥n");
        exit(1);
    }
}
```

```

/* writeパイプをクローズ */
CloseHandle(hWrite);

memset(sbuf, 0x00, sizeof(sbuf));

/* メッセージ文の読み込み */
if (!ReadFile(hRead, sbuf, 4095, &dwRead, NULL)) {
    DWORD dwcode = GetLastError();
    /* BROKEN_PIPEはエラーではない */
    if (dwcode != ERROR_BROKEN_PIPE) {
        /* BROKEN_PIPE以外るとき */
        printf("Read failed¥n");
        exit(1);
    }
}

WaitForSingleObject(pi.hProcess, INFINITE);
GetExitCodeProcess(pi.hProcess, &dwRC);
CloseHandle(pi.hThread);
CloseHandle(pi.hProcess);
CloseHandle(hRead);
printf("eurps process terminated, rc = %d, returns [%s]¥n", dwRC,
sbuf);
if (dwRC > 0) {
    /* メッセージ文字列からメッセージIDをerridに取り出す */
    char errid_str[10];
    int errid;

    memset(errid_str, 0x00, sizeof(errid_str));
    strncpy(errid_str, sbuf + strlen("eurps:KEEU"), 3);
    errid = atol(errid_str);
    if (errid == 300) {
        /* KEEU300-Wの場合のエラー処理 */
    } else if (errid == 5) {
        /* KEEU005-Eの場合のエラー処理 */
    } else if (errid == 6) {
        /* KEEU006-Eの場合のエラー処理 */
    } else if (errid == ...{
        :
        /* 以下、そのほかのエラー処理を繰り返す */
    }
    exit(1);
}
}
}

```

(5) Excel 形式ファイル出力のコーディング例

```

#include<windows.h>
#include<stdio.h>

void main(int argc, char *argv[])
{
    HANDLE hRead, hWrite;
    SECURITY_ATTRIBUTES saAttr;
    DWORD dwRead;
    char sbuf[4096];

```

3. コマンドからの帳票出力

```
STARTUPINFO      si;
PROCESS_INFORMATION pi;
BOOL             bRtn;
CHAR             szCmdLine[2048];
DWORD           dwRC;
CHAR             szExePath[_MAX_PATH];

/* eurps.exeのフルパス */
strcpy(szExePath, "c:\\¥¥program files¥¥hitachi¥¥eur print
service¥¥program¥¥eurps.exe");

saAttr.nLength=sizeof(SECURITy_ATTRIBUTES);
saAttr.bInheritHandle=TRUE;
saAttr.lpSecurityDescriptor=NULL;

bRtn=CreatePipe(&hRead,&hWrite,&saAttr,0);
if (bRtn !=TRUE){          /* CreatePipeに失敗 */
    printf("CreatePipe failed¥¥n");
    exit(1);
}

sprintf(szCmdLine,"%s /message /t xlsx /pf output.xlsx
sample1.fms,data1.csv", szExePath);

memset(&si, 0x00,sizeof(STARTUPINFO));
si.cb=sizeof(STARTUPINFO);
si.dwFlags=STARTF_USESTDHANDLES;
si.hStdInput=GetStdHandle(STD_INPUT_HANDLE);
si.hStdOutput=GetStdHandle(STD_OUTPUT_HANDLE);
si.hStdError=hWrite;
memset(&pi,0x00,sizeof(pi));

_putenv("EURPS_REPORTPATH=.");
_putenv("EURPS_MAPDATAPATH=.");
_putenv("EURPS_OUTPUTPATH=.");

bRtn=CreateProcessA(
    NULL,          //ファイル名
    (LPTSTR) szCmdLine, //ファイル名+コマンド構文
    NULL,          //プロセス・セキュリティ
    NULL,          //スレッド・セキュリティ
    TRUE,          //ハンドルを継承するか?
    DETACHED_PROCESS, //生成フラグ
    NULL,          //継承される環境ブロック
    NULL,          //起動時のフォルダ
    &si,           //スタートアップ情報へのポインタ
    &pi);          //プロセス情報へのポインタ
if (!bRtn) {
    printf("CreateProcess failed¥¥n");
    exit(1);
}

/* writeパイプをクローズ */
CloseHandle(hWrite);

memset(sbuf,0x00,sizeof(sbuf));
```



```

/* メッセージ文の読み込み */
if (!ReadFile(hRead, sbuf, 4095, &dwRead, NULL)) {
    DWORD dwcode=GetLastError();
    /* BROKEN_PIPEはエラーではない */
    if (dwcode !=ERROR_BROKEN_PIPE) {
        /* BROKEN_PIPE以外のとき */
        printf("Read failed\n");
        exit(1);
    }
}

WaitForSingleObject(pi.hProcess, INFINITE);
GetExitCodeProcess(pi.hProcess, &dwRC);
CloseHandle(pi.hThread);
CloseHandle(pi.hProcess);
CloseHandle(hRead);
printf("eurps process terminated, rc = %d, returns [%s]\n", dwRC,
sbuf);
if (dwRC>0) {
    /* メッセージ文字列からメッセージIDをerridに取り出す */
    char errid_str[10];
    int errid;

    memset(errid_str, 0x00, sizeof(errid_str));
    strncpy(errid_str, sbuf + strlen("eurps:KEEU"), 3);
    errid=atol(errid_str);
    if (errid==300) {
        /* KEEU300-Wの場合のエラー処理 */
    } else if (errid==5) {
        /* KEEU005-Eの場合のエラー処理 */
    } else if (errid==6) {
        /* KEEU006-Eの場合のエラー処理 */

    } else if (errid== ...{
        :
        /* 以下, そのほかのエラー処理を繰り返す */
    }
    exit(1);
}
}
}

```

3.6.8 UNIX / Linux 環境でシェルスクリプトからコマンド実行する場合

シェルスクリプトでエラーメッセージ ID を取得する例を出力別に示します。

(1) プリンタ出力のコーディング例

```

#!/bin/sh

/opt/eurps/bin/eurps -message -p printer1
sample1.fms,data1.csv>$$$.log
RC=$?

if [ $RC -gt 0 ];then

```

3. コマンドからの帳票出力

```
ERRID=`awk '{print substr($0,12,3);}' '$$.log`
...メッセージ文字列から
    メッセージIDをERRIDに取り出す
if [ $ERRID -eq 300 ];then      ...KEEU300-Wの場合のエラー処理
elif [ $ERRID -eq 5 ];then     ...KEEU005-Eの場合のエラー処理
elif [ $ERRID -eq 6 ];then     ...KEEU006-Eの場合のエラー処理
elif [ $ERRID -eq ...
    :      ...以下、そのほかのエラー処理を繰り返す
fi
fi

rm $$.log
```

(2) PDF 形式ファイル出力のコーディング例

```
#!/bin/sh

/opt/eurps/bin/eurps -message -t pdf -pf output.pdf
sample1.fms,data1.csv>$$.log
RC=$?

if [ $RC -gt 0 ];then
    ERRID=`awk '{print substr($0,12,3);}' '$$.log`
    ...メッセージ文字列から
        メッセージIDをERRIDに取り出す
    if [ $ERRID -eq 300 ];then      ...KEEU300-Wの場合のエラー処理
    elif [ $ERRID -eq 5 ];then     ...KEEU005-Eの場合のエラー処理
    elif [ $ERRID -eq 6 ];then     ...KEEU006-Eの場合のエラー処理
    elif [ $ERRID -eq ...
        :      ...以下、そのほかのエラー処理を繰り返す
    fi
fi

rm $$.log
```

(3) EUR 形式ファイル出力のコーディング例

```
#!/bin/sh

/opt/eurps/bin/eurps -message -t eur -pf output.eup
sample1.fms,data1.csv>$$.log
RC=$?

if [ $RC -gt 0 ];then
    ERRID=`awk '{print substr($0,12,3);}' '$$.log`
    ...メッセージ文字列から
        メッセージIDをERRIDに取り出す
    if [ $ERRID -eq 300 ];then      ...KEEU300-Wの場合のエラー処理
    elif [ $ERRID -eq 5 ];then     ...KEEU005-Eの場合のエラー処理
    elif [ $ERRID -eq 6 ];then     ...KEEU006-Eの場合のエラー処理
    elif [ $ERRID -eq ...
        :      ...以下、そのほかのエラー処理を繰り返す
    fi
fi

rm $$.log
```

(4) CSV 形式ファイル出力のコーディング例

```
#!/bin/sh

/opt/eurps/bin/eurps -message -t csv -pf output.csv
sample1.fms,data1.csv>$.log
RC=$?

if [ $RC -gt 0 ];then
  ERRID=`awk '{print substr($0,12,3);}' $.log`
  ...メッセージ文字列から
  ...メッセージIDをERRIDに取り出す
  if [ $ERRID -eq 300 ];then      ...KEEU300-Wの場合のエラー処理
  elif [ $ERRID -eq 5 ];then      ...KEEU005-Eの場合のエラー処理
  elif [ $ERRID -eq 6 ];then      ...KEEU006-Eの場合のエラー処理
  elif [ $ERRID -eq ...
    :      ...以下、そのほかのエラー処理を繰り返す
  fi
fi

rm $.log
```

(5) Excel 形式ファイル出力のコーディング例

```
#!/bin/sh

/opt/eurps/bin/eurps -message -t xlsx -pf output.xlsx
sample1.fms,data1.csv>$.log
RC=$?

if [ $RC -gt 0 ];then
  ERRID=`awk '{print substr($0,12,3);}' $.log`
  ...メッセージ文字列から
  ...メッセージIDをERRIDに取り出す
  if [ $ERRID -eq 300 ];then      ...KEEU300-Wの場合のエラー処理
  elif [ $ERRID -eq 5 ];then      ...KEEU005-Eの場合のエラー処理
  elif [ $ERRID -eq 6 ];then      ...KEEU006-Eの場合のエラー処理
  elif [ $ERRID -eq ...
    :      ...以下、そのほかのエラー処理を繰り返す
  fi
fi

rm $.log
```


4

Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

この章では、EUR サーバ帳票出力機能を起動して帳票出力する方法のうち、EUR サーバ帳票出力機能で提供する ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力について説明します。

-
- 4.1 ActiveX オブジェクトで帳票を出力するには
 - 4.2 ActiveX オブジェクトとは
 - 4.3 ActiveX オブジェクトのメソッド、プロパティ一覧
 - 4.4 ActiveX オブジェクトのメソッド仕様
 - 4.5 ActiveX オブジェクトのプロパティ仕様
 - 4.6 環境変数、環境設定ファイル
 - 4.7 ActiveX オブジェクトのエラー情報
 - 4.8 コーディング例（ActiveX オブジェクトの場合）
-

4.1 ActiveX オブジェクトで帳票を出力するには

この節では、ActiveX オブジェクトで帳票を出力する際に作成する API やコーディング例の説明箇所を示します。

(1) API の記載箇所

メソッドおよびプロパティの記載箇所については、「4.3 ActiveX オブジェクトのメソッド、プロパティ一覧」を参照してください。

(2) コーディング例の記載箇所

コーディング例の記載箇所を次の表に示します。

表 4-1 コーディング例の記載箇所 (ActiveX オブジェクトの場合)

出力形式	帳票様式		
	単一様式	複数様式	
		帳票セットを使用	帳票セット指定ファイルを使用 ¹
プリンタへ出力	4.8.2(1) 4.8.2(2) ²	4.8.2(3)	4.8.2(4) 4.8.2(5) ²
PDF 形式ファイルへ出力 + 暗号化出力	4.8.3(3)(a) 4.8.3(3)(b) ²	4.8.3(3)(c)	4.8.3(3)(d) 4.8.3(3)(e) ²
PDF 形式ファイルへ出力 + 暗号化なし	4.8.3(1)(a) 4.8.3(1)(b) ²	4.8.3(1)(c)	4.8.3(1)(d) 4.8.3(1)(e) ²
PDF 形式ファイルへ出力 + 仕分け出力 + 暗号化出力 ³	4.8.3(2)(a) 4.8.3(2)(b) ²	4.8.3(2)(c)	4.8.3(2)(d) 4.8.3(2)(e) ²
PDF 形式ファイルへ出力 + 仕分け出力 + 暗号化なし	4.8.3(2)(a) 4.8.3(2)(b) ²	4.8.3(2)(c)	4.8.3(2)(d) 4.8.3(2)(e) ²
EUR 形式ファイルへ出力	4.8.4(1) 4.8.4(2) ²	4.8.4(3)	4.8.4(4) 4.8.4(5) ²
CSV 形式ファイルへ出力	4.8.5(1) 4.8.5(2) ²	4.8.5(3)	4.8.5(4) 4.8.5(5) ²
Excel 形式ファイルへ出力	4.8.6	-	-

(凡例)

- : 出力できません。

注 1

複数様式情報定義ファイルを組み合わせる場合、コーディング例については「7.8 複数様式情報定義ファイル」を参照してください。

注 2

データベースを使用する場合のコーディング例の記載個所です。

なお、複数様式で帳票セットを使用する場合については、このマニュアルには記載していません(データベースを使用する場合と使用しない場合とで、コーディング内容はほぼ同じのため)。

注 3

「4.8.3(2) PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合」の「PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合」の内容を指定してください。

4.2 ActiveX オブジェクトとは

Web サーバ上の VBScript, Visual Basic および Visual C# で開発するサーバアプリケーションから EUR サーバ帳票出力機能を起動して帳票出力できるように, EUR サーバ帳票出力機能では ActiveX オブジェクトを提供しています。ActiveX オブジェクトを利用することで, Web サーバ上のサーバアプリケーションから帳票を印刷したり, PDF 形式ファイルや EUR 形式ファイルに出力したりできます。

4.2.1 ActiveX オブジェクトのファイル名

EURPSEX.dll

ActiveX サーバコンポーネントです。

このファイルは, EUR Developer, EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ ¥System¥ 下にあります。

4.2.2 ActiveX オブジェクトの構文

ActiveX オブジェクトを使用する場合は, 次のプログラム ID およびタイプライブラリを使用します。それぞれの開発環境で ActiveX オブジェクトを使用する方法については, MSDN ライブラリの COM の利用方法のマニュアルを参照してください。

プログラム ID : EURPS.Exec

タイプライブラリ : EURPS Exec 1.0 Type Library

開発環境ごとに ActiveX オブジェクトを生成するコーディング例を次に示します。

ASP の VBScript で使用する場合

```
Set eurps=Server.CreateObject("EURPS.Exec")
```

Visual Basic .NET 2003, Visual Basic 2005 SP1, または Visual Basic 2008 で使用する場合

Option Strict Off (遅延バインディングを許可する) を設定したとき

```
Dim eurps As Object  
eurps = CreateObject("EURPS.Exec")
```

Option Strict On (遅延バインディングを許可しない) を設定したとき

```
Dim eurps As EURPSEX.Exec  
eurps = New EURPSEX.Exec
```

Visual C# 2005 SP1, または Visual C# 2008 で使用する場合

```
EURPSEX.Exec eurps;
```



```
eurps = new EURPSEX.Exec();
```

4.2.3 ActiveX オブジェクト使用時の注意

ActiveX オブジェクトを使用するときの注意事項について説明します。

(1) 画像データを使用する場合

画像データを使用する場合は、次のことに注意してください。

(a) 画像ファイルの場所

画像ファイルは、環境変数 EURPS_IMAGEPATH で、デフォルトの読み込みフォルダを指定できます。ファイルは、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

ファイル名をフルパスで指定した場合

設定されているフォルダから画像ファイルを読み込みます。

ファイル名を相対パスで指定した場合

環境変数 EURPS_IMAGEPATH に設定されているフォルダからの相対パスとして画像ファイルを読み込みます。

ファイル名だけ指定した場合

環境変数 EURPS_IMAGEPATH に設定されているフォルダ下の画像ファイルを読み込みます。

環境変数 EURPS_IMAGEPATH が設定されていない場合は、次に示す順にファイルを検索します。

- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) 中の変数 EURPS_IMAGEPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer, EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

EUR 形式ファイルを出力する場合、データファイルに指定する画像ファイルは、ファイル名だけを指定してください。画像ファイルのパスは、環境変数 EURPS_IMAGEPATH, または環境設定ファイル (EURPS_ENV) 中の変数 EURPS_IMAGEPATH に指定してください。

(b) 扱える画像データの形式

EUR サーバ帳票出力機能で扱える画像データの形式については、「7.4.2 扱える画像データの形式」を参照してください。

(2) PDF 形式ファイル出力のシステム構築時に出力性能を考慮するには

図形 (網掛け) のある帳票の場合、PDF 形式ファイルを出力するとき、環境変数 EURPS_PDF_OUTPUT によって、ファイルサイズと印刷スピードのどちらを優先する

4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

かを指定できます。

図形（網掛け）のある帳票を PDF 形式ファイルに出力したあと、非 PostScript プリンタから印刷する場合、印刷にかなりの時間が掛かったとき、プリンタによっては、環境変数 EURPS_PDF_OUTPUT に「PRINT_SPEED」を設定しておくことで、印刷時間を短縮できます。

環境変数 EURPS_PDF_OUTPUT への設定値は、すべて半角英大文字で指定してください。

表 4-2 EURPS_PDF_OUTPUT への設定値

環境変数への設定値	説 明
FILE_SIZE	ファイルサイズを優先します（デフォルト）。
PRINT_SPEED	印刷スピードを優先します。ただし、「FILE_SIZE」を指定したときよりファイルサイズが大きくなる場合があります。

「FILE_SIZE」、「PRINT_SPEED」以外の値を指定した場合は、「FILE_SIZE」が仮定されます。

環境変数 EURPS_PDF_OUTPUT と環境設定ファイル EURPS_ENV 中の変数 EURPS_PDF_OUTPUT を同時に設定した場合は、環境変数の値が有効になります。

（3）PDF 形式ファイル出力のシステム構築時にファイルサイズを考慮するには

同一の画像アイテムを複数貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力するとき、ファイルサイズを最適化するかどうかを指定します。

同一の画像アイテムを複数貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合、複数分の画像データを PDF 形式ファイルに出力するため、ファイルサイズが大きくなります。そのため、環境変数 EURPS_PDF_SAMEIMAGE に「OPTIMIZE」を設定すると、一つ分の画像データだけを PDF 形式ファイルに出力するので、ファイルサイズが小さくなります。ただし、別々の画像アイテムを画像データに貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合は、環境変数 EURPS_PDF_SAMEIMAGE に「NO」を設定したときに比べて、PDF 形式ファイルの出力時間が遅くなる場合があります。

環境変数への設定値は、すべて半角英大文字で指定してください。

表 4-3 EURPS_PDF_SAMEIMAGE への設定値

環境変数への設定値	説 明
OPTIMIZE	帳票に同一の画像データが貼り付けてある場合、ファイルサイズを最適化します。
NO	帳票に同一の画像データが貼り付けてある場合、ファイルサイズを最適化しません。

「OPTIMIZE」、「NO」以外の値を指定した場合、または環境変数 EURPS_PDF_SAMEIMAGE に何も設定しなかった場合は、「OPTIMIZE」が仮定されます。

環境変数 EURPS_PDF_SAMEIMAGE と環境設定ファイル EURPS_ENV 中の変数 EURPS_PDF_SAMEIMAGE を同時に設定した場合は、環境変数の値が有効になります。

(4) PDF 形式ファイル出力のシステム構築時にメモリリソースの圧迫を回避するには

複数の画像アイテムを貼り付けた帳票、または複数のバーコードアイテムを貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力するとき、メモリリソースを最適化するかどうかを指定できます。

複数の画像アイテムを貼り付けた帳票、または複数のバーコードアイテムを貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合、メモリ上に複数分の画像データ、またはバーコードデータを確保して PDF 形式ファイルを出力するため、メモリリソースを圧迫します。そのため、環境変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM に「YES」を設定しておく、メモリリソースの圧迫を回避できます。ただし、メモリリソースの最適化処理を行う場合、一時ファイル (SystemTemp) を使用するため、環境変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM に「YES」を設定しないときに比べて、PDF 形式ファイルの出力時間が遅くなります。

環境変数への設定値は、すべて半角英大文字で指定してください。

表 4-4 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM への設定値

環境変数への設定値	説 明
YES	複数の画像アイテムを貼り付けた帳票、または複数のバーコードアイテムを貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力するとき、メモリリソースを最適化にします。

「YES」以外の値を指定した場合、または環境変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM に何も設定しなかった場合は、メモリリソースの最適化はしません。

環境変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM と環境設定ファイル EURPS_ENV 中の変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM を同時に設定した場合は、環境変数の値が有効になります。

(5) 複数の帳票セットを指定して出力するときの文字列の長さ

複数の帳票セットを指定して出力するとき、eurps コマンドの構文に指定できる文字列の長さは、30KB までです。

4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力は、「eurps.exe (EUR サーバ帳票出力機能実行ファイル)」をプロセス起動します。そのため、プロパティやメソッドに指定されたファイル名などの情報が、eurps コマンドの構文に置き換えられたとき、文字列の長さが 30KB を超えると、正しく起動されません。

また、UAP から直接 CreateProcess 関数などを使用してコマンド実行する場合も、eurps コマンドの構文が 30KB を超えると、EUR サーバ帳票出力機能が正しく起動されません。

eurps コマンドの構文が 30KB を超えるような複数の帳票セットを指定する場合は、複数回に分けて実行するか、または複数の帳票セットを記述した帳票セット指定ファイル (MultiReportSetFileName プロパティ) で指定してください。

コマンド構文の長さは、次に示す計算式で求められます。複数の帳票セットを指定する場合は、求められた値が 30KB 以内になるように、eurps コマンドに指定するファイル名長や、出力する帳票ファイルの数を決定してください。計算式の単位は、バイトです。

コマンド構文の長さを求める計算式

- プリンタ出力と EUR 形式ファイル出力の場合

(帳票ファイル名長 + 3 + マッピングデータファイル名長¹ + 3 + ユーザ定義データファイル名長¹ + 3) + (そのほかのオプション名長² + 1)

- PDF 形式ファイル出力の場合

(帳票ファイル名長 + 3 + マッピングデータファイル名長¹ + 3 + ユーザ定義データファイル名長¹ + 3 + しおり定義ファイル名長 + 3) + (そのほかのオプション名長² + 1)

注 1

データベース連携時には、「マッピングデータファイル名長」は「マッピングデータの可変記号値定義ファイル名長」に、「ユーザ定義データファイル名長」は「ユーザ定義データの可変記号値定義ファイル名長」に置き換えて計算してください。

注 2

「そのほかのオプション名」とは、帳票ファイル名、マッピングデータファイル名、ユーザ定義データファイル名、およびしおり定義ファイル名以外のオプション名と指定された文字列の長さです。

4.3 ActiveX オブジェクトのメソッド，プロパティ一覧

ActiveX オブジェクトが提供するメソッドとプロパティの一覧を示します。

4.3.1 ActiveX オブジェクトが提供するメソッド一覧

ActiveX オブジェクトが提供するメソッドの一覧を次に示します。

表 4-5 ActiveX オブジェクトが提供するメソッド

メソッド	概 要
PrintReport	指定したプロパティで帳票を出力します。

4.3.2 ActiveX オブジェクトが提供するプロパティ一覧

ActiveX オブジェクトが提供するプロパティを，出力先別に示します。

(1) Windows 対応プリンタに出力する場合

次の表に，Windows 対応のプリンタに出力するときのプロパティ一覧をアルファベット順で記載します。

表 4-6 Windows 対応プリンタに出力するときに指定できるプロパティ

プロパティ	概 要	データ型	プリンタ出力
DataFileName	マッピングデータ用のデータファイル名または可変記号値定義ファイル名	String String 配列	
DataFilePath	マッピングデータ用のデータファイルまたは可変記号値定義ファイルのある場所	String	
DBInfoFileName	接続情報ファイル名	String	
DBInfoFilePath	接続情報ファイルのある場所	String	
DistributionInfoFile	仕分け定義情報ファイル名	String	
DocInfoFileName	文書情報設定ファイル名	String	
DocInfoFilePath	文書情報設定ファイルのある場所	String	
EurpsEnvFile	環境設定ファイル名	string	
FirstPageNumber	ページ番号の初期値	Integer	
FontWidthMode	文字幅の計算方法	String	
InitPageNumber	ページ番号の開始番号の初期化	Boolean	

4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

プロパティ	概 要	データ型	プリンタ出力
MultiFormInfoDefFileName ¹	複数様式情報定義ファイル名	String	
MultiFormInfoDefFilePath	複数様式情報定義ファイルのある場所	String	
MultiReportSetFileName ²	帳票セット指定ファイル名	String	
MultiReportSetFilePath	帳票セット指定ファイルのある場所	String	
OutFileName ³	出力先ファイル名	String	
OutputType	帳票の出力タイプ	Integer	
PageNumberFormat	ページ番号の形式	String	
PageNumberLocation	余白へのページ番号の印刷位置	Integer	
PaperOrientation ⁴	印刷の向き	Integer	
PrintCopies ⁴	印刷部数	Integer	
PrintedPageNumberFileName	出力ページ情報ファイル名	String	
PrintEndPage ⁴	印刷終了ページ	Integer	
PrinterinfFileName	プリンタ定義ファイル名	String	
PrinterinfFilePath	プリンタ定義ファイルのある場所	String	
PrinterName	出力先プリンタ名	String	
PrintPageNumber	余白へのページ番号印刷	Boolean	
PrintStartPage ⁴	印刷開始ページ	Integer	
ReplaceItemCntlFileName	置き換え表管理情報ファイル名	String	
ReplaceItemCntlFilePath	置き換え表管理情報ファイルのある場所	String	
ReportFileName ²	帳票ファイル名	String String 配列	
ReportFilePath	帳票ファイルのある場所	String	
SortPrint ⁴	部数が複数の場合の印刷単位	Integer	
TrayCode	給紙トレイコード	Integer	
UserDataFileName	ユーザ定義データ用のデータファイル名または可変記号値定義ファイル名	String String 配列	
UserDataFilePath	ユーザ定義データ用のデータファイルまたは可変記号値定義ファイルのある場所	String	

(凡例)

- : 必ず指定するプロパティです。
- : 指定を省略できるプロパティです。

注 1

複数様式で帳票を出力する場合は、MultiFormInfoDefFileName プロパティを必ず指定してください。MultiFormInfoDefFileName プロパティが省略されていると、ReportFileName プロパティで指定されている複数の帳票ファイル、または MultiReportSetFileName プロパティの帳票セット指定ファイルに指定されている帳票ファイルが順に出力されます。

注 2

MultiReportSetFileName プロパティと ReportFileName プロパティを同時に指定された場合は、MultiReportSetFileName プロパティで指定された帳票ファイルのあとに、ReportFileName プロパティで指定された帳票ファイルを追加して出力されます。

注 3

プリンタドライバのファイル出力機能を使用して印刷結果をファイル出力する場合は、OutFileName プロパティを指定してください。

注 4

MultiReportSetFileName プロパティ、または ReportFileName プロパティで複数の帳票ファイルを指定して出力する場合、プロパティの指定は無効になります。

(2) ファイルに出力する場合

次の表に、PDF 形式ファイル、EUR 形式ファイル、CSV 形式ファイルを出力するときのプロパティ一覧をアルファベット順で記載します。

PDF 形式ファイル、EUR 形式ファイルを出力するには、EUR Developer、または EUR Print Service Enterprise が必要です。

また、PDF 形式ファイルを暗号化して出力する場合は、EUR Print Service Enterprise と付加製品の EUR Print Service - Cipher option が必要です。

表中では、出力形式の名称を次のように省略して表記します。

- PDF : PDF 形式ファイル出力
- EUR : EUR 形式ファイル出力
- CSV : CSV 形式ファイル出力
- Excel : Excel 形式ファイル出力

4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

表 4-7 ファイルを出力するときに指定できるプロパティ

プロパティ	概 要	データ 型	PDF				EU R	CS V	Exc el
			フ ァ イ ル	仕 分 け	暗 号 化	暗 号 化 仕 分 け			
BookmarkFileName	しおり定義 ファイル名	String String 配列					×	×	×
BookmarkFilePath	文書しおり定 義ファイルと、 しおり定義 ファイルのあ る場所	String							×
Crypto	PDF 形式ファ イルの暗号化 出力の有無	Boolean							×
CryptoFileName	暗号化設定 ファイル名	String							×
CryptoFilePath	暗号化設定 ファイルのあ る場所	String							×
DataFileName	マッピング データ用の データファイ ル名 または可変記 号値定義ファ イル名	String String 配列							
DataFilePath	マッピング データ用の データファイ ル または可変記 号値定義ファ イルのある場 所	String							
DBInfoFileName	接続情報ファ イル名	String							
DBInfoFilePath	接続情報ファ イルのある場 所	String							
DistributeFileNam e	PDF 仕分け定 義ファイル名	String							×

4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

プロパティ	概 要	データ 型	PDF				EU R	CS V	Exc el
			フ ァ イ ル	仕 分 け	暗 号 化	暗 号 化 仕 分 け			
DistributeFilePath	PDF 仕分け定 義ファイルの ある場所	String							×
DocBookmarkFileN ame	文書しおり定 義ファイル名	String							×
DocInfoFileName	文書情報設定 ファイル名	String							
DocInfoFilePath	文書情報設定 ファイルのあ る場所	String							
EncryptionPasswor dKey	パスワード暗 号化鍵	String							×
EurpsEnvFile	環境設定ファ イル名	string							
FirstPageNumber	ページ番号の 初期値	Integer							
FontWidthMode	文字幅の計算 方法	String							
InitPageNumber	ページ番号の 開始番号の初 期化	Boolean							
MultiFormInfoDef FileName ¹	複数様式情報 定義ファイル 名	String							×
MultiFormInfoDef FilePath	複数様式情報 定義ファイル のある場所	String							×
MultiReportSetFile Name ²	帳票セット指 定ファイル名	String							×
MultiReportSetFile Path	帳票セット指 定ファイルの ある場所	String							×
OutFileName	出力先ファイ ル名	String		×		×			
OutputType	帳票の出力タ イプ	Integer							
PageNumberForma t	ページ番号の 形式	String							

4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

プロパティ	概 要	データ 型	PDF				EU R	CS V	Exc el
			フ ァ イ ル	仕 分 け	暗 号 化	暗 号 化 仕 分 け			
PageNumberLocati on	余白へのページ番号の印刷位置	Integer							
PrintedPageNumbe rFileName	出力ページ情報ファイル名	String					×		×
PrintEndPage ³	印刷終了ページ	Integer							
PrintPageNumber	余白へのページ番号印刷	Boolean							
PrintStartPage ³	印刷開始ページ	Integer							
ReplaceItemCntlFil eName	置き換え表管理情報ファイル名	String							
ReplaceItemCntlFil ePath	置き換え表管理情報ファイルのある場所	String							
ReportFileName ²	帳票ファイル名	String String 配列							
ReportFilePath	帳票ファイルのある場所	String							
ScriptCntlFileNam e	Acrobat JavaScript 定義 ファイル名	String							×
ScriptCntlFilePath	Acrobat JavaScript 定義 ファイルのある 場所	String							×
TintInfoFileName	透かし情報 ファイル名	String			×	×	×	×	×
TintInfoFilePath	透かし情報 ファイルのある 場所	String			×	×	×	×	×

プロパティ	概 要	データ 型	PDF				EU R	CS V	Exc el
			フ ァ イ ル	仕 分 け	暗 号 化	暗 号 化 仕 分 け			
UserDataFileName	ユーザ定義 データ用の データファイ ル名 または可変記 号値定義ファ イル名	String String 配列							
UserDataFilePath	ユーザ定義 データ用の データファイ ル または可変記 号値定義ファ イルのある場 所	String							
ViewerPreferenceFi leName	ビューアプレ ファレンス定 義ファイル名	String							×
ViewerPreferenceFi lePath	ビューアプレ ファレンス定 義ファイルの ある場所	String							×

(凡例)

- : 必ず指定するプロパティです。
- : 指定を省略できるプロパティです。
- : 指定しても無視されるプロパティです。
- × : 指定するとエラーになるプロパティです。

注 1

複数様式で帳票を出力する場合は、MultiFormInfoDefFileName プロパティを必ず指定してください。MultiFormInfoDefFileName プロパティが省略されていると、ReportFileName プロパティで指定されている複数の帳票ファイル、または MultiReportSetFileName プロパティの帳票セット指定ファイルに指定されている帳票ファイルが順に出力されます。

注 2

MultiReportSetFileName プロパティと ReportFileName プロパティを同時に指定した場合は、MultiReportSetFileName プロパティで指定された帳票ファイルが出力されたあとに、ReportFileName プロパティで指定された帳票ファイルが出力さ

れます。

注 3

MultiReportSetFileName プロパティ，または ReportFileName プロパティで複数の帳票ファイルを指定して出力する場合，プロパティの指定は無効になります。

そのほか，PrintCopies プロパティ，SortPrint プロパティ，および PaperOrientation プロパティは指定してもエラーにはなりませんが，プロパティの指定は無効になります。

4.3.3 同時に指定できないプロパティ

同時に指定できないプロパティについて説明します。

ActiveX オブジェクトで次に示す組み合わせを同時に指定すると，メッセージ KEEU503-E「プロパティ（プロパティ名）と同時に指定できないプロパティが指定されています。」が出力されます。

表 4-8 ActiveX オブジェクトで同時に指定できないプロパティ

指定したプロパティ	同時に指定できないプロパティ
OutputType=0 の場合	BookmarkFileName
	CryptoFileName
	DistributeFileName
	DocBookmarkFileName
OutputType=1 かつ OutFileName を指定した場合	DistributeFileName
OutputType=2 の場合	BookmarkFileName
	CryptoFileName
	DistributeFileName
	DistributionInfoFile
	DocBookmarkFileName
	FirstPageNumber
	InitPageNumber
	PageNumberFormat
	PageNumberLocation
	PaperOrientation
	PrintCopies
	PrintedPageNumberFileName
	PrintEndPage
	PrinterinfFileName
	PrinterinfFilePath

指定したプロパティ	同時に指定できないプロパティ
	PrinterName
	PrintPageNumber
	PrintStartPage
	SortPrint
	TrayCode
OutputType=2 かつ OutFileName を指定した場合	DistributeFileName
OutputType=3 の場合	BookmarkFileName
	Crypto
	CryptoFileName
	DistributeFileName
	DistributionInfoFile
	DocBookmarkFileName
OutputType=4 の場合	BookmarkFileName
	BookmarkFilePath
	Crypto
	CryptoFileName
	CryptoFilePath
	DistributeFileName
	DistributeFilePath
	DistributionInfoFile
	DocBookmarkFileName
	EncryptionPasswordKey
	MultiFormInfoDefFileName
	MultiFormInfoDefFilePath
	MultiReportSetFileName
	MultiReportSetFilePath
	PrintedPageNumberFileName
	PrinterName
	ScriptCntlFileName
	ScriptCntlFilePath
	TintInfoFileName
	TintInfoFilePath
	ViewerPreferenceFileName
	ViewerPreferenceFilePath

4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

指定したプロパティ	同時に指定できないプロパティ
DistributionInfoFile を指定した場合	OutFileName
	PaperOrientation
	PrintCopies
	SortPrint
	TrayCode

4.4 ActiveX オブジェクトのメソッド仕様

ActiveX オブジェクトが提供するメソッドの詳細を説明します。

PrintReport メソッド

プロパティで指定した帳票ファイル，データファイル，および印刷属性に従って，帳票を出力します。

形式

PrintReport()

パラメタ

なし

解説

PrintReport メソッドは，次に示す時点で，呼び出し元に制御が戻ります。

- プリントスプールへの出力が終了した時点
- PDF 形式ファイルの出力が完了した時点
- EUR 形式ファイルの出力が完了した時点
- CSV 形式ファイルの出力が完了した時点
- Excel 形式ファイルの出力が完了した時点

戻り値

なし

データ型

Empty

4.5 ActiveX オブジェクトのプロパティ仕様

ActiveX オブジェクトが提供するプロパティの詳細を説明します。

BookmarkFileName プロパティ

しおり定義ファイル名を指定します。

解説

BookmarkFileName プロパティには、ReportFileName プロパティで指定した帳票ファイルに対応するしおり定義ファイルを指定してください。

しおり定義ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

- BookmarkFilePath プロパティで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_BOOKMARKPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー (KEEU009-E) になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス, またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- 存在するファイル, または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり, 読み込み権限のないファイルであったりすると, エラー (KEEU025-E) になります。
- ファイル名には「"」を含めないでください。また, 2 次元以上の配列を指定したり, String, または String 配列以外のデータ型を指定したりしないでください。エラー (KEEU500-E) になります。

データ型

String (一つの帳票セットを指定する場合)

String 配列 (複数の帳票セットを指定する場合)

BookmarkFilePath プロパティ

文書しおり定義ファイル，およびしおり定義ファイルのファイルのある場所を指定します。

解説

指定されたファイルのパスは，DocBookmarkFileName プロパティで指定する文書しおり定義ファイルと，BookmarkFileName プロパティで指定するしおり定義ファイルのデフォルトの場所になります。

帳票出力を実行する前に，指定したファイルのパスを見直してください。

- ファイルのパスに指定できる文字数は，次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは，エラー（KEEU009-E）になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス，またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- 存在するファイル，または読み込み権限のあるファイルのパスを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり，読み込み権限のないファイルであったりすると，エラー（KEEU025-E）になります。
- ファイルのパスには「"」を含めないでください。また，String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー（KEEU500-E）になります。

データ型

String

Crypto プロパティ

PDF 形式ファイルを暗号化にして出力するかどうかを指定します。

表 4-9 Crypto プロパティの指定値

指定値	説 明
True	PDF 形式ファイルを暗号化にします。
False	PDF 形式ファイルを暗号化にしません。

解説

Crypto プロパティの指定は，EUR Print Service Enterprise の付加製品である EUR Print Service - Cipher option が組み込まれているとき有効です。EUR Print Service - Cipher option が組み込まれていない状態で，Crypto プロパティに「True」を指定したときは，エラー（KEEU104-E）になります。

データ型

Boolean

CryptoFileName プロパティ

暗号化設定ファイル名を指定します。

解説

暗号化設定ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

- CryptoFilePath プロパティで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_CRYPTOFILEPATH に設定されているフォルダ
- EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー (KEEU009-E) になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー (KEEU029-E) になります。
- ファイル名には「"」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定したりしないでください。エラー (KEEU500-E) になります。

データ型

String

CryptoFilePath プロパティ

暗号化設定ファイルのファイルのある場所を指定します。

解説

指定されたファイルのパスは、CryptoFileName プロパティで指定する暗号化設定ファイルのデフォルトの場所になります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイルのパスを見直してください。

- ファイルのパスに指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー（KEEU009-E）になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルのパスを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー（KEEU029-E）になります。
- ファイルのパスには「"」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー（KEEU500-E）になります。

データ型

String

DataFileName プロパティ

マッピングデータ用のデータファイル名、または可変記号値定義ファイル名を指定します。

解説

データファイルからデータを入力する場合、ReportFileName プロパティで指定した帳票ファイルに対応するマッピングデータファイル名を指定してください。

データベースからデータを入力する場合は、可変記号値定義ファイル名を指定してください。

ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

- DataFilePath プロパティで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル（EURPS_ENV）の変数 EURPS_MAPDATAPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー（KEEU006-E、または KEEU054-E）になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー（KEEU009-E）になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内

- 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- ファイル名には「"」を含めないでください。また、2 次元以上の配列を指定したり、String、または String 配列以外のデータ型を指定したりしないでください。エラー (KEEU500-E) になります。
- 指定した可変記号値定義ファイルの内容に誤りがある場合は、エラー (KEEU056-E) になります。

データ型

String (一つの帳票セットを指定する場合)

String 配列 (複数の帳票セットを指定する場合)

DataFilePath プロパティ

マッピングデータ用のデータファイル、または可変記号値定義ファイルのある場所を指定します。

解説

DataFileName プロパティで指定するマッピングデータ用のデータファイル、または可変記号値定義ファイルのデフォルトの場所になります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイルのパスを見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルのパスを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー (KEEU006-E、または KEEU054-E) になります。
- ファイルのパスに指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー (KEEU009-E) になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- ファイルのパスには「"」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー (KEEU500-E) になります。
- 指定した可変記号値定義ファイルの内容に誤りがある場合は、エラー (KEEU056-E) になります。

データ型

String

DBInfoFileName プロパティ

データベースからデータを入力する場合、接続情報ファイル名を指定します。

解説

接続情報ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

- DBInfoFilePath プロパティで指定したフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_DBINFOPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer, EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

帳票出力を実行する前に、指定したファイルのパスを見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー (KEEU053-E) になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー (KEEU009-E) になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- ファイルのパスには「"」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー (KEEU500-E) になります。
- 指定したファイルの内容に誤りがある場合は、エラー (KEEU055-E) になります。必ず指定するキーワードが指定されているかどうかを見直してください。

データ型

String

DBInfoFilePath プロパティ

接続情報ファイルがある場所を指定します。

解説

指定されたファイルのパスは、DBInfoFileName プロパティで指定する接続情報ファイルのデフォルトの場所になります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイルのパスを見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルのパスを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー (KEEU053-E) になります。
- ファイルのパスに指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤り

があるときは、エラー（KEEU009-E）になります。

- フルパスで指定するときは 259 文字以内
- 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- ファイルのパスには「」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー（KEEU500-E）になります。
- 指定したファイルの内容に誤りがある場合は、エラー（KEEU055-E）になります。必ず指定するキーワードが指定されているかどうかを見直してください。

データ型

String

DistributeFileName プロパティ

PDF 仕分け定義ファイル名を指定します。

解説

DistributeFileName プロパティを指定して、PDF 形式ファイルを仕分け出力するときは、OutFileName プロパティを指定しないでください。同時に指定すると、エラー（KEEU503-E）になります。

PDF 仕分け定義ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

- DistributeFilePath プロパティで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル（EURPS_ENV）の変数 EURPS_DISTINFOPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer、または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー（KEEU009-E）になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー（KEEU014-E）になります。
- ファイル名には「」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定したりしないでください。エラー（KEEU500-E）になります。

データ型

String

DistributeFilePath プロパティ

PDF 仕分け定義ファイルのファイルのある場所を指定します。

解説

指定されたファイルのパスは、DistributeFileName プロパティで指定する PDF 仕分け定義ファイルのデフォルトの場所になります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイルのパスを見直してください。

- ファイルのパスに指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー（KEEU009-E）になります。
- フルパスで指定するときは 259 文字以内
- 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルのパスを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー（KEEU014-E）になります。
- ファイルのパスには「"」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー（KEEU500-E）になります。

データ型

String

DistributionInfoFile プロパティ

JP1 と連携した仕分け印刷をする場合、仕分け定義情報ファイル名を指定します。

解説

仕分け定義情報ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

- 環境設定ファイル（EURPS_ENV）の変数 EURPS_DISTINFOPATH に設定されているフォルダ
- EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

なお、OutputType プロパティに「1（PDF 形式ファイルに出力）」が指定されている場

合は、DistributionInfoFile プロパティを指定しても無効です。

仕分け定義情報ファイル名には「"」を含めないでください。ファイル名に「"」が含まれていると、エラー（KEEU500-E）になります。

データ型

String

DocBookmarkFileName プロパティ

文書しおり定義ファイル名を指定します。

解説

文書しおり定義ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

- BookmarkFilePath プロパティで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル（EURPS_ENV）の変数 EURPS_BOOKMARKPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer、または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

文書しおり定義ファイルに「docinfotitle」が指定されている場合は、DocInfoFileName プロパティに、キーワード TITLE が指定された文書情報設定ファイルが指定されていないと、DocBookmarkFileName プロパティを指定しても、PDF 形式ファイルにしおりは出力されません。

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー（KEEU009-E）になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー（KEEU025-E）になります。
- ファイルのパスには「"」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー（KEEU500-E）になります。

データ型

String

DocInfoFileName プロパティ

文書情報設定ファイル名を指定します。

解説

文書情報設定ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

- DocInfoFilePath プロパティで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_DOCINFOPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer, EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー (KEEU010-E) になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー (KEEU009-E) になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- ファイル名には「"」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー (KEEU500-E) になります。

データ型

String

DocInfoFilePath プロパティ

文書情報設定ファイルのある場所を指定します。

解説

指定されたファイルのパスは、DocInfoFileName プロパティで指定する文書情報設定ファイルのデフォルトの場所になります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイルのパスを見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルのパスを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー (KEEU010-E) になります。

- ファイルのパスに指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー（KEEU009-E）になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- ファイルのパスには「"」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー（KEEU500-E）になります。

データ型

String

EncryptionPasswordKey プロパティ

オーナーパスワードとユーザパスワードを暗号化した暗号化設定ファイル、または PDF 仕分け定義ファイルを使用して、暗号化した PDF 形式ファイルを出力するときにパスワード暗号化鍵を指定します。

解説

EncryptionPasswordKey プロパティには、オーナーパスワードとユーザパスワードを暗号化したときに指定した、暗号化鍵を指定します。

パスワード暗号化鍵に指定できる文字は、次のとおりです。

- 半角数字
0 ~ 9
- 半角英字
A ~ Z , a ~ z
- 指定できるパスワード復号鍵の長さは、Shift JIS コードで 32 バイトまでです。
- String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー（KEEU500-E）になります。

データ型

String

EurpsEnvFile プロパティ

環境設定ファイル名を指定します。

解説

環境設定ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、プロセスのカレントディレクトリを起点としてファイルを検索します。

ファイル名には「"」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー（KEEU500-E）になります。

なお、指定された環境設定ファイルを読み込めない場合も帳票は出力されますが、環境設定ファイルで指定した内容は適用されません。

データ型

String

FirstPageNumber プロパティ

余白のページ番号を印刷するときの開始値を指定します。開始値として指定できる値は、1 ~ 999,999 です。

解説

FirstPageNumber プロパティの指定は、PrintPageNumber プロパティで「True（余白のページ番号を印刷する）」が指定されているとき有効です。

FirstPageNumber プロパティを指定しない場合は、帳票編集時に「レポートのプロパティ」ダイアログで指定されている値が有効になります。

1 ~ 999,999 の範囲外の値を指定した場合は、エラー（KEEU500-E）になります。

データ型

Integer

FontWidthMode プロパティ

文字幅の計算方法を指定します。

表 4-10 FontWidthMode プロパティの指定値

指定値	説 明
static	固定ピッチフォントを出力するとき、固定値で文字幅を計算します（静的モード）。
dynamic	固定ピッチフォントを出力するとき、使用するフォントに合わせて文字幅を計算します（動的モード）。

解説

FontWidthMode プロパティの指定値は、すべて半角英小文字で指定してください。

「static」または「dynamic」以外を指定した場合、エラー（KEEU500-E）になります。

String 以外のデータ型を指定した場合は、エラー（KEEU500-E）になります。

FontWidthMode プロパティに何も指定しなかった場合は、「static」が仮定されます。

FontWidthMode プロパティ、環境変数 EURPS_FONT_WIDTH_MODE、および環境設定ファイル EURPS_FONT_WIDTH_MODE が同時に指定されている場合は、次に示す順に優先されます。

- FontWidthMode プロパティ
- 環境変数 EURPS_FONT_WIDTH_MODE
- 環境設定ファイル EURPS_FONT_WIDTH_MODE

データ型

String

InitPageNumber プロパティ

改ページのキーが設定されている場合、そのキーがブレイクすることによりページ番号の開始番号を初期化するかどうかを指定します。

表 4-11 InitPageNumber プロパティの指定値

指定値	説 明
True	初期化します。
False	初期化しません。

解説

InitPageNumber プロパティの指定は、PrintPageNumber プロパティで「True（余白のページ番号を印刷する）」が指定されているとき有効です。

ページ番号を初期化する値は、FirstPageNumber プロパティで指定します。

InitPageNumber プロパティを指定しない場合は、帳票編集時に [レポートのプロパティ] ダイアログで指定されている値が有効になります。ただし、帳票編集時に、[アイテムのプロパティ] ダイアログの [表示形式（ページ番号）] タブで [バージョン 3 形式] が選択されているページ番号アイテムに対しては、InitPageNumber プロパティの指定は無視されます。

データ型

Boolean

MultiFormInfoDefFileName プロパティ

複数様式情報定義ファイル名を指定します。

解説

複数の帳票セット，または MultiReportSetFileName プロパティを指定して，複数様式で帳票を出力するとき，MultiFormInfoDefFileName プロパティを指定します。

複数様式で帳票を出力する場合は，MultiFormInfoDefFileName プロパティを必ず指定してください。MultiFormInfoDefFileName プロパティが省略されていると，ReportFileName プロパティで指定されている複数の帳票ファイル，または MultiReportSetFileName プロパティの帳票セット指定ファイルに指定されている帳票ファイルが順に出力されます。

複数帳票情報定義ファイル名は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は，次に示す順にファイルを検索します。

- MultiFormInfoDefFilePath プロパティで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_MULTIFORM_INFODEFPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer，EUR Print Service，または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

帳票出力を実行する前に，指定したファイル名を見直してください。

- 存在するファイル，または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり，読み込み権限のないファイルであったりすると，エラー (KEEU037-E) になります。
- ファイル名に指定できる文字数は，次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは，エラー (KEEU009-E) になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス，またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- ファイル名には「」を含めないでください。また，String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー (KEEU500-E) になります。
- PrintedPageNumberFileName プロパティを指定した場合は，出力ページ情報が出力されます。出力される出力ページ情報の詳細については，「7.24 出力ページ情報ファイル」を参照してください。

データ型

String

MultiFormInfoDefFilePath プロパティ

複数様式情報定義ファイルのある場所を指定します。

解説

指定されたファイルのパスは、MultiFormInfoDefFileName プロパティで指定する複数様式情報定義ファイルのデフォルトの場所になります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイルのパスを見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルのパスを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー（KEEU037-E）になります。
- ファイルのパスに指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー（KEEU009-E）になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- ファイルのパスには「」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー（KEEU500-E）になります。

データ型

String

MultiReportSetFileName プロパティ

帳票セット指定ファイル名を指定します。

解説

ReportFileName プロパティで一つの帳票セット、または複数の帳票セットを指定して出力する場合は、MultiReportSetFileName プロパティの指定は要りません。

MultiReportSetFileName プロパティと ReportFileName プロパティが同時に指定された場合は、MultiReportSetFileName プロパティで指定された帳票ファイルのあとに、ReportFileName プロパティの帳票ファイルを追加して出力されます。

帳票セット指定ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

- MultiReportSetFilePath プロパティで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル（EURPS_ENV）の変数 EURPS_MULTI_REPORTSETPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise のイン

ストール先フォルダ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー（KEEU035-E）になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー（KEEU009-E）になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- ファイル名には「」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー（KEEU500-E）になります。
- PrintedPageNumberFileName プロパティを指定した場合は、出力ページ情報が出力されます。出力される出力ページ情報の詳細については、「7.24 出力ページ情報ファイル」を参照してください。

データ型

String

MultiReportSetFilePath プロパティ

帳票セット指定ファイルのある場所を指定します。

解説

指定されたファイルのパスは、MultiReportSetFileName プロパティで指定する帳票セット指定ファイルのデフォルトの場所になります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイルのパスを見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルのパスを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー（KEEU035-E）になります。
- ファイルのパスに指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー（KEEU009-E）になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- ファイルのパスには「」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー（KEEU500-E）になります。

データ型

String

OutFileName プロパティ

出力先ファイル名を指定します。

解説

OutFileName プロパティは、OutputType プロパティに指定されている出力種別に対応した出力先ファイル名を指定します。

- OutputType プロパティで「0 (プリントに出力)」が指定されている場合
出力するスプールファイル名を指定します。出力先ファイル名を指定しないで帳票出力を実行すると、プリントに出力されます。
- OutputType プロパティで「1 (PDF 形式ファイルに出力)」が指定されている場合
出力する PDF 形式ファイル名を指定します。出力先ファイル名を指定しないで帳票出力を実行すると、エラー (KEEU501-E) になります。
PDF 形式ファイルを仕分け出力するときは、OutFileName プロパティは指定しないでください。OutFileName プロパティと DistributeFileName プロパティを同時に指定すると、エラー (KEEU503-E) になります。
- OutputType プロパティで「2 (EUR 形式ファイルに出力)」が指定されている場合
出力する EUR 形式ファイル名を指定します。出力先ファイル名を指定しないで帳票出力を実行すると、エラー (KEEU501-E) になります。
- OutputType プロパティで「3 (CSV 形式ファイルに出力)」が指定されている場合
出力する CSV 形式ファイル名を指定します。出力先ファイル名を指定しないで帳票出力を実行すると、エラー (KEEU501-E) になります。
- OutputType プロパティで「4 (Excel 形式ファイルに出力)」が指定されている場合
出力する Excel 形式ファイル名を指定します。出力先ファイル名を指定しないで帳票出力を実行すると、エラー (KEEU501-E) になります。

出力先ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_OUTPUTPATH に設定されているフォルダが、デフォルトとして設定されます。

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー (KEEU009-E) になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- ファイル名には「"」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー (KEEU500-E) になります。

データ型

String

OutputType プロパティ

出力種別を指定します。省略した場合は、「0」が仮定されます。

表 4-12 OutputType プロパティの指定値

指定値	説 明
0	プリンタに出力します。
1	PDF 形式ファイルに出力します。
2	EUR 形式ファイルに出力します。
3	CSV 形式ファイルに出力します。
4	Excel 形式ファイルに出力します。

解説

OutputType プロパティに「0」を指定した場合、OutFileName プロパティに出力先ファイルを指定すると、スプールファイルに出力できます。OutFileName プロパティの指定を省略すると、プリンタに出力します。

OutputType プロパティに「1」、「2」、「3」、または「4」を指定した場合は、OutFileName プロパティを指定してください。

OutputType プロパティに「1 (PDF 形式ファイルに出力)」を指定する場合は、EUR Developer、または EUR Print Service Enterprise が必要です。また、PDF 形式ファイルを暗号化出力したり、暗号化仕分け出力したりする場合は、EUR Print Service Enterprise と付加製品の EUR Print Service - Cipher option が必要です。

OutputType プロパティに「2 (EUR 形式ファイルを出力)」を指定する場合は、EUR Developer、または EUR Print Service Enterprise が必要です。

OutputType プロパティに「4 (Excel 形式ファイルを出力)」を指定する場合は、EUR Developer、または EUR Print Service Enterprise が必要です。

EUR Developer、または EUR Print Service Enterprise がインストールされていない環境で、OutputType プロパティに「1」、「2」、または「4」を指定した場合は、エラー (KEEU104-E) になります。

「0」、「1」、「2」、「3」、「4」以外の値を指定すると、エラー (KEEU500-E) になります。

データ型

Integer

PageNumberFormat プロパティ

余白のページ番号の書式を指定します。

解説

PageNumberFormat プロパティの指定は、PrintPageNumber プロパティで「True（余白のページ番号を印刷する）」が指定されているとき有効です。

ページ番号を「*」、最終ページ番号を「\$」で示して印刷形式を指定します。ページ番号、および最終ページ番号を全角で表示したい場合は全角の記号で、半角で表示したい場合は半角の記号で指定します。

表 4-13 ページ番号の書式

指定したページ番号の形式	出力結果例
*	1
-*-	-1-
-*/\$-	-1/5-
(*)	(1)

PageNumberFormat プロパティを指定しない場合は、帳票編集時に [レポートのプロパティ] ダイアログで指定されている値が有効になります。

データ型

String

PageNumberLocation プロパティ

余白のページ番号を印刷する位置を、番号で指定します。

表 4-14 PageNumberLocation プロパティの指定値

指定値	説 明
1	ページ番号を左上に印刷します。
2	ページ番号を中央上に印刷します。
3	ページ番号を右上に印刷します。
4	ページ番号を左下に印刷します。
5	ページ番号を中央下に印刷します。

指定値	説 明
6	ページ番号を右下に印刷します。

解説

PageNumberLocation プロパティの指定は、PrintPageNumber プロパティで「True (余白のページ番号を印刷する)」が指定されているとき有効です。

PageNumberLocation プロパティを指定しない場合は、帳票編集時に [レポートのプロパティ] ダイアログで指定されている値が有効になります。

1 ~ 6 の範囲外の値を指定した場合は、エラー (KEEU500-E) になります。

データ型

Integer

PaperOrientation プロパティ

プリンタに出力するときの用紙の向きを指定します。省略した場合は、0 が仮定されます。

表 4-15 PaperOrientation プロパティの指定値

指定値	説 明
0	帳票を設計したときの属性に従います。
1	縦方向に印刷します。
2	横方向に印刷します。

解説

指定された値が帳票の属性と異なる場合、帳票の一部が出力されないことがあります。

なお、次に示す条件の場合は、PaperOrientation プロパティを指定しても無効です。

- OutputType プロパティに「1 (PDF 形式ファイルに出力)」が指定されている場合
- MultiReportSetFileName プロパティ、または ReportFileName プロパティで複数の帳票セットを指定して出力する場合
用紙のサイズ、および用紙の向きが異なっても、それぞれの帳票の用紙サイズ、および用紙の向きで出力されます。

「0」、「1」、「2」以外の値を指定した場合は、エラー (KEEU500-E) になります。

データ型

Integer

PrintCopies プロパティ

印刷部数を指定します。指定できる部数は、1 ~ 99 です。

解説

PrintCopies プロパティの指定は、一つの帳票セットを出力するときだけ有効です。

PrintCopies プロパティを指定しない場合は、1 部だけ出力されます。

次に示す条件の場合は、PrintCopies プロパティを指定しても無効です。

- OutputType プロパティに「1 (PDF 形式ファイルに出力)」が指定されている場合
- OutputType プロパティに「2 (EUR 形式ファイルに出力)」が指定されている場合
- MultiReportSetFileName プロパティ、または ReportFileName プロパティで複数の帳票セットを指定して出力する場合
PrintCopies プロパティの指定は無視され、1 部数分出力されます。

1 ~ 99 の範囲外の値を指定した場合は、エラー (KEEU500-E) になります。

PrintedPageNumberFileName プロパティを指定した場合は、PrintCopies プロパティで指定する印刷部数に関係なく、1 部数分の出力ページ情報が出力されます。出力ページ情報ファイルについては、「7.24 出力ページ情報ファイル」を参照してください。

データ型

Integer

PrintedPageNumberFileName プロパティ

出力ページ情報ファイル名を指定します。

解説

出力ページ情報ファイルを出力する場合は、PrintedPageNumberFileName プロパティを必ず指定してください。PrintedPageNumberFileName プロパティが省略されていると、出力ページ情報ファイルは出力されません。

出力ページ情報ファイル名は、フルパス、相対パス、あるいはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

- 環境変数 EURPS_OUTPUTPATH に設定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_OUTPUTPATH に設定されているフォルダ
- 環境変数 TMP に設定されているフォルダ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー（KEEU009-E）になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー（KEEU025-E）になります。
- ファイル名には「"」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー（KEEU500-E）になります。
- OutputType プロパティに「2」を指定した場合は、エラー（KEEU503-E）になります。

出力ページ情報ファイルについては、「7.24 出力ページ情報ファイル」を参照してください。

データ型

String

PrintEndPage プロパティ

印刷終了ページを指定します。指定できる値は、0 ~ 999,999 です。

解説

PrintEndPage プロパティを指定しない場合、または指定した値が「0」の場合は、最終ページまで印刷します。

MultiReportSetFileName プロパティ、または ReportFileName プロパティで複数の帳票セットを指定した場合は、PrintEndPage プロパティの指定に関係なく、全ページが印刷されます。

0 ~ 999,999 の範囲外の値を指定した場合は、エラー（KEEU500-E）になります。

PrintedPageNumberFileName プロパティを指定した場合は、PrintEndPage プロパティで指定した印刷終了ページまでの出力ページ情報が出力されます。出力ページ情報ファイルについては、「7.24 出力ページ情報ファイル」を参照してください。

データ型

Integer

PrinterinfFileName プロパティ

プリンタ定義ファイル名を指定します。

解説

プリンタ定義ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

- PrinterinfFilePath プロパティで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_PRINTERINFPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer, EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

PrinterinfFileName プロパティを指定しない場合、プリンタ定義ファイル名は printerinf になります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー (KEEU009-E) になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- ファイル名には「"」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー (KEEU500-E) になります。
- OutputType プロパティに「2」を指定した場合は、エラー (KEEU500-E) になります。

データ型

String

PrinterinfFilePath プロパティ

プリンタ定義ファイルのある場所を指定します。

解説

指定されたファイルのパスは、次に示す場合のプリンタ定義ファイルのデフォルトの場所になります。

- PrinterinfFileName プロパティでプリンタ定義ファイルを相対パスまたはファイル名だけで指定した場合

- PrinterInfFileName プロパティを指定しなかった場合

帳票出力を実行する前に、指定したファイルのパスを見直してください。

- ファイルのパスに指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー（KEEU009-E）になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- ファイルのパスには「"」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー（KEEU500-E）になります。
- OutputType プロパティに「2」を指定した場合は、エラー（KEEU500-E）になります。

データ型

String

PrinterName プロパティ

印刷先のプリンタ名を指定します。

解説

OutputType プロパティに「0（プリンタに出力）」が指定されている場合は、必ず PrinterName プロパティを指定してください。また、ASP 中の VBScript からの実行時など、システムアカウントで Windows サービスから実行する場合も、必ず PrinterName プロパティを指定してください。指定しなかった場合は、エラー（KEEU103-E）になります。

プリンタ名には「"」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー（KEEU500-E）になります。

データ型

String

PrintPageNumber プロパティ

余白へのページ番号を印刷するかどうかを指定します。

表 4-16 PrintPageNumber プロパティの指定値

指定値	説 明
True	余白へのページ番号を印刷します。

指定値	説 明
False	余白へのページ番号は印刷しません。

解説

余白へのページ番号は、EUR 帳票作成機能で設定した用紙の余白に、次に示すフォント情報で印刷されます。

- 英語ロケールの場合
フォント種別：Courier New
フォントのサイズ：約 12 ポイント（148dpi で 24 ドット）
- 中国語ロケールの場合
フォント種別：新宋体
フォントのサイズ：約 12 ポイント（148dpi で 24 ドット）
- 日本語ロケールの場合
フォント種別：MS 明朝
フォントのサイズ：約 12 ポイント（148dpi で 24 ドット）

余白へのページ番号を印刷する場合は、プリンタのハードマージンに掛からないように、用紙の余白は余裕を持って設定してください。

用紙の余白は、[用紙の設定] ダイアログの [余白] グループボックスで設定します。
[用紙の設定] ダイアログについては、マニュアル「EUR 帳票設計」を参照してください。

PrintPageNumber プロパティを指定しない場合は、帳票編集時に [レポートのプロパティ] ダイアログで指定されている値が有効になります。[レポートのプロパティ] ダイアログについては、マニュアル「EUR 帳票設計」を参照してください。

MultiReportSetFileName プロパティ、または ReportFileName プロパティで複数の帳票セットを指定した場合は、すべての帳票に余白ページ番号の指定があり、かつ PrintPageNumber プロパティに「True」が指定されているとき、すべての帳票ファイルの余白へページ番号が印刷されます。

指定した帳票セットのうち、一つの帳票ファイルに余白ページ番号の指定がなくて PrintPageNumber プロパティに「True」を指定したときと、帳票ファイルに余白ページ番号の指定の有無に関係なく PrintPageNumber プロパティに「False」を指定したときは、各帳票ファイルに保存されている情報で印刷されます。

データ型

Boolean

PrintStartPage プロパティ

印刷開始ページを指定します。指定できる値は、0 ~ 999,999 です。

解説

PrintStartPage プロパティを指定しない場合、または指定した値が「0」の場合は、1 ページから印刷します。

MultiReportSetFileName プロパティ、または ReportFileName プロパティで複数の帳票セットを指定した場合は、PrintStartPage プロパティの指定に関係なく、全ページが印刷されます。

0 ~ 999,999 の範囲外の値を指定した場合、または PrintEndPage プロパティで指定した値より大きな値を指定した場合は、エラー (KEEU500-E) になります。

PrintedPageNumberFileName プロパティを指定した場合は、PrintStartPage プロパティで指定した印刷開始ページからの出力ページ情報が出力されます。出力ページ情報ファイルについては、「7.24 出力ページ情報ファイル」を参照してください。

データ型

Integer

ReplaceItemCntlFileName プロパティ

置き換え表管理情報ファイル名を指定します。

解説

置き換え表管理情報ファイル名は、フルパス、相対パス、あるいはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

- ReplaceItemCntlFilePath プロパティで指定されているフォルダ
- 環境変数 EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH に設定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー (KEEU060-E、または KEEU009-E) になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー (KEEU025-E) になります。

- ファイルのパスには「"」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー（KEEU500-E）になります。

ReplaceItemCntlFileName プロパティを省略すると、帳票ファイルに定義した置き換え表管理情報ファイル名が仮定されます。また、出力する帳票が複数帳票、あるいは複数様式帳票の場合は、先頭の帳票ファイルに定義した置き換え表管理情報ファイル名が仮定されます。帳票ファイルに置き換え表管理情報ファイルの定義をしていない場合は、データは置き換えられないで出力されます。

置き換え表管理情報ファイルについては、「7.21 置き換え表管理情報ファイル」を参照してください。

データ型

String

ReplaceItemCntlFilePath プロパティ

置き換え表管理情報ファイルのファイルのある場所を指定します。

解説

指定されたファイルの場所は、ReplaceItemCntlFilePath プロパティで指定する置き換え表管理情報ファイルのデフォルトの場所になります。

ReplaceItemCntlFilePath プロパティの指定を省略した場合は、次に示す順にファイルのある場所を検索します。

- 環境変数 EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH に設定されているフォルダ
- 環境設定ファイル（eurps_env）の変数 EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

帳票出力を実行する前に、指定したファイルのパスを見直してください。

- ファイルのパスに指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー（KEEU009-E）になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルのパスを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー（KEEU014-E）になります。
- ファイルのパスには「"」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー（KEEU500-E）になります。

置き換え表管理情報ファイルについては、「7.21 置き換え表管理情報ファイル」を参照してください。

データ型

String

ReportFileName プロパティ

帳票ファイル名を指定します。

解説

ReportFileName プロパティは、必ず指定してください。省略はできません。ただし、MultiReportSetFileName プロパティで帳票セット指定ファイルを指定した場合は、ReportFileName プロパティを省略できます。

帳票ファイル名を指定しないで帳票出力を実行すると、エラー（KEEU501-E）になります。また、「フォームシートファイル（*.fms）」でない帳票ファイル名が指定されていると、エラー（KEEU007-E）になります。

帳票ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

- ReportFilePath プロパティで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル（EURPS_ENV）の変数 EURPS_REPORTPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー（KEEU005-E）になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー（KEEU009-E）になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- ファイル名には「"」を含めないでください。また、2 次元以上の配列を指定したり、String、または String 配列以外のデータ型を指定したりしないでください。エラー（KEEU500-E）になります。

データ型

String (一つの帳票セットを指定する場合)

String 配列 (複数の帳票セットを指定する場合)

ReportFilePath プロパティ

帳票ファイルのある場所を指定します。

解説

ReportFilePath プロパティで指定するファイルのパスは、ReportFileName プロパティで指定する帳票ファイルのデフォルトの場所になります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイルのパスを見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルのパスを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー (KEEU005-E) になります。
- ファイルのパスに指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー (KEEU009-E) になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- ファイルのパスには「"」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー (KEEU500-E) になります。

データ型

String

ScriptCntlFileName プロパティ

Acrobat JavaScript 定義ファイル名を指定します。

解説

Acrobat JavaScript 定義ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

- ScriptCntlFilePath プロパティで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_SCRIPTCNTLFILEPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルのパスを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー（KEEU067-E）になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー（KEEU009-E）になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- ファイルのパスには「"」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー（KEEU500-E）になります。

データ型

String

ScriptCntlFilePath プロパティ

Acrobat JavaScript 定義ファイルのある場所を指定します。

解説

ScriptCntlFilePath プロパティで指定するファイルのパスは、ScriptCntlFileName プロパティで指定する Acrobat JavaScript 定義ファイルのデフォルトの場所になります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイルのパスを見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルのパスを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー（KEEU067-E）になります。
- ファイルのパスに指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー（KEEU009-E）になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- ファイルのパスには「"」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー（KEEU500-E）になります。

データ型

String

SortPrint プロパティ

複数の部数を印刷するとき、部単位で印刷するか、またはページ単位で印刷するかを指

定します。省略した場合は、「0」が仮定されます。

表 4-17 SortPrint プロパティの指定値

指定値	説明
0	部単位で印刷します。
1	ページ単位で印刷します。

解説

次に示す条件の場合は、SortPrint プロパティを指定しても無効です。

- OutputType プロパティに「1 (PDF 形式ファイルに出力)」が指定されている場合
- OutputType プロパティに「2 (EUR 形式ファイルを出力)」が指定されている場合
- MultiReportSetFileName プロパティ、または ReportFileName プロパティで複数の帳票セットを指定して出力する場合
SortPrint プロパティの指定は無視され、「0」が仮定されます。

「0」、「1」以外の値が指定された場合は、エラー (KEEU500-E) になります。

データ型

Integer

TintInfoFileName プロパティ

透かし情報ファイル名を指定します。

解説

透かし情報ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

- TintInfoFilePath プロパティで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_TINTINFOPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer、または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルのパスを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー (KEEU080-E) になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー (KEEU009-E) になります。

- フルパスで指定するときは 259 文字以内
- 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- ファイル名には「"」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー（KEEU500-E）になります。

データ型

String

TintInfoFilePath プロパティ

透かし情報ファイルのある場所を指定します。

解説

指定されたファイルのパスは、TintInfoFileName プロパティで指定する透かし情報ファイルのデフォルトの場所になります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイルのパスを見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルのパスを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー（KEEU080-E）になります。
- ファイルのパスに指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイルのパスに誤りがあるときは、エラー（KEEU009-E）になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パスで指定するときは 255 文字以内
- ファイルのパスには「"」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー（KEEU500-E）になります。

データ型

String

TrayCode プロパティ

プリンタの給紙トレイコードを指定します。

解説

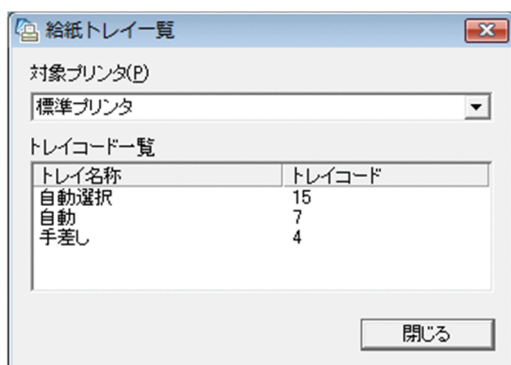
TrayCode プロパティを指定しない場合は、プリンタプロパティで指定したデフォルトのトレイから給紙されます。

給紙トレイコードは、「給紙トレイ一覧ツール」で取得したコードで指定します。[給紙トレイ一覧] ツールの実行ファイル「Eurtyl.exe」は、EUR Developer、EUR Print

4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

Service, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ ¥Program¥ 下にあります。

[給紙トレイ一覧] ツールの実行ファイル「Eurtyl.exe」をダブルクリックすると, [給紙トレイ一覧] ダイアログが表示されます。[給紙トレイ一覧] ダイアログでは, 出力先プリンタをリストボックスから選択すると, そのプリンタの給紙トレイ名と, 対応する給紙トレイコードの一覧が表示されます。



MultiReportSetFileName プロパティ, または ReportFileName プロパティで複数の帳票セットを指定して出力する場合は, すべての帳票が TrayCode プロパティに指定したトレイから給紙されます。

TrayCode プロパティに指定した給紙トレイコードが, 出力先のプリンタで使用できない場合は, エラー (KEEU023-E) になります。

OutputType プロパティに「1 (PDF 形式ファイルに出力)」, および「2 (EUR 形式ファイルに出力)」が指定されている場合は, TrayCode プロパティを指定しても無効です。

データ型

Integer

UserDataFileName プロパティ

ユーザ定義データ用のデータファイル名, または可変記号値定義ファイル名を指定します。

解説

データファイルからデータを入力する場合は, ReportFileName プロパティで指定した帳票ファイルに対応するユーザ定義データファイル名を指定してください。

データベースからデータを入力する場合は, 可変記号値定義ファイル名を指定してください。

ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

- UserDataFilePath プロパティで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_USERDATAPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer, EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー (KEEU006-E, または KEEU054-E) になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー (KEEU009-E) になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- ファイル名には「"」を含めないでください。また、2 次元以上の配列を指定したり、String, または String 配列以外のデータ型を指定したりしないでください。エラー (KEEU500-E) になります。
- 指定した可変記号値定義ファイルの内容に誤りがある場合は、エラー (KEEU056-E) になります。

データ型

String (一つの帳票セットを指定する場合)

String 配列 (複数の帳票セットを指定する場合)

UserDataFilePath プロパティ

ユーザ定義データ用のデータファイル、または可変記号値定義ファイルのある場所を指定します。

解説

UserDataFileName プロパティで指定するユーザ定義データ用ファイル、または可変記号値定義ファイルのデフォルトの場所になります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイルのパスを見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルのパスを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルで

あったりすると、エラー（KEEU006-E、または KEEU054-E）になります。

- ファイルのパスに指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー（KEEU009-E）になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- ファイルのパスには「"」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー（KEEU500-E）になります。
- 指定した可変記号値定義ファイルの内容に誤りがある場合は、エラー（KEEU056-E）になります。

データ型

String

ViewerPreferenceFileName プロパティ

ビューアプレファレンス定義ファイル名を指定します。

解説

ビューアプレファレンス定義ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

- ViewerPreferenceFilePath プロパティで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル（EURPS_ENV）の変数
EURPS_VIEWERPREFERENCEFILEPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer、または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルのパスを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー（KEEU069-E）になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー（KEEU009-E）になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- ファイルのパスには「"」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー（KEEU500-E）になります。

データ型

String

ViewerPreferenceFilePath プロパティ

ビューアプレファレンス定義ファイルのある場所を指定します。

解説

ViewerPreferenceFilePath プロパティで指定するファイルのパスは、ViewerPreferenceFileName プロパティで指定するビューアプレファレンス定義ファイルのデフォルトの場所になります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイルのパスを見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルのパスを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー（KEEU069-E）になります。
- ファイルのパスに指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあるときは、エラー（KEEU009-E）になります。
 - フルパスで指定するときは 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定するときは 255 文字以内
- ファイルのパスには「"」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー（KEEU500-E）になります。

データ型

String

4.6 環境変数，環境設定ファイル

ActiveX オブジェクトで指定するファイルのデフォルトの読み込みフォルダなどを，環境変数，または環境設定ファイル（EURPS_ENV）に指定できます。

環境変数については，「7.26.1 環境変数一覧」を参照してください。環境設定ファイルについては，「7.26 環境設定ファイル」を参照してください。

環境設定ファイルはテキストエディタで編集できますが，[EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログでも編集できます。[EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログを使った環境設定ファイルの編集方法については，「3.4.1 ダイアログからの環境設定ファイルの作成」を参照してください。

4.7 ActiveX オブジェクトのエラー情報

ActiveX オブジェクトを使用して実行している場合にエラーが発生したときは、Err オブジェクトの Number プロパティに終了コード、Description プロパティにメッセージが設定されます。

4.7.1 Err.Number プロパティ

PrintReport メソッドの実行でエラーが発生した場合、Err オブジェクトの Number プロパティに終了コードが設定、または更新されますが、正常終了した場合は、終了コードが更新されません。そのため、PrintReport メソッドの実行後に Number プロパティの終了コードを参照しても正しいエラー判定ができません。

PrintReport メソッドを実行する前は、Number プロパティに終了コードが設定されていない（エラーが発生していない）ことを判定してから PrintReport メソッドを実行することをお勧めします。

Err オブジェクトの Number プロパティに設定される終了コードを次に示します。終了コードと対応するエラーの詳細は、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。2000 番台の終了コードは、ActiveX オブジェクト固有の終了コードです。

表 4-18 ActiveX オブジェクト実行時の終了コード一覧

終了コード	意味
0	正常終了しました。
4	警告が発生しました。
8	システムエラーが発生しました。または、出力でエラーが発生しました。
10	データベースアクセスでエラーが発生しました。
12	データエラーが発生しました。
2008	ActiveX オブジェクトによる起動で、起動時にシステムエラーが発生しました。
2016	ActiveX オブジェクトによる起動で、プロパティの指定でエラーが発生しました。
32	上記以外のエラーが発生しました。

注

警告が発生する要因については、「(1) 終了コード 4 を返す警告要因」を参照してください。

(1) 終了コード 4 を返す警告要因

PrintReport メソッドを実行したとき、次に示す警告要因があると、プリンタ出力、PDF 形式ファイル出力、または Excel 形式ファイル出力は、終了コード 4 を返します。

4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

EUR 形式ファイル出力の場合は、項番 6 の警告要因以外は終了コード 0 を返します。

表 4-19 終了コード 4 を返す警告要因

項番	警告要因	出力メッセージ	詳細メッセージ
1	文字アイテムのアイテム枠が小さく、指定したデータがアイテム枠内に収まる分だけ出力されたとき。	KEEU300-W	KEEU301-W
2	数値アイテムのアイテム枠が小さく、指定したデータがアイテム枠内に収まらなくて、データが「***」で出力されたとき。		KEEU301-W
3	バーコードアイテムのアイテム枠が小さく、バーコードが出力されないとき。		KEEU301-W
4	アイテムが出力できる範囲を超えているので、まったく出力されないか、または出力できる範囲に収まる分だけ出力されたとき。		KEEU301-W
5	フィールドのデータ型に合わないデータを入力したため、データが欠損値（空白）で出力されたとき。		KEEU302-W
6	画像ファイルがない、EUR サーバ帳票出力機能ではサポートしていない画像ファイルである、または画像ファイルが壊れているとき。		KEEU305-W
7	指定した帳票ファイルが、上位バージョンの機能を使用して作成されているため、実行時の EUR サーバ帳票出力機能のバージョンで出力できる範囲で帳票を出力されたとき。		KEEU304-W
8	バーコードデータに使用できない文字、または誤った桁数を指定したために、バーコードが出力されなかったとき。		KEEU301-W
9	集計行のアイテムが表示できない位置に配置されたとき。		KEEU303-W
10	日付変換用システムファイルが正しくないとき。		KEEU308-W
11	指定した置き換え表ファイルに、置き換えデータを 1 件も登録していなかったとき。		出力しない
12	指定した置き換え表ファイルにキーデータがなかったとき。または不正なデータがあったとき。		出力しない
13	アイテムが不当に重なっていたため、Excel 形式ファイルへ出力できない項目があったとき。	KEEU320-W	出力しない
14	変換するページ数が 100 ページを超えていたとき。	KEEU321-W	出力しない
15	接続先データベースが HiRDB ではないのに、接続情報ファイルのキーワード QueryExclusiveString が指定されたとき。	KEEU350-W	出力しない

PrintReport メソッドを実行したとき、警告が発生しても、終了コード 4 を返して帳票は出力されます。

警告が発生しても終了コード 4 を返さないようにするには、環境変数、または環境設定ファイル（EURPS_ENV）中の変数 EURPS_REPORT_WARNING に「NO」を設定してください。EURPS_REPORT_WARNING に「NO」を設定すると、警告要因があつて

も、終了コード 0 を返して終了します。メッセージ KEEU300-W, 詳細メッセージ (KEEU301-W ~ KEEU308-W), KEEU320-W ~ KEEU321-W, および KEEU350-W も出力されません。ただし、EUR 形式ファイル出力の場合は、EURPS_REPORT_WARNING の設定に関係なく、項番 6 の警告要因があるときは終了コード 4 を返し、それ以外では 0 を返します。

4.7.2 Err.Description プロパティ

Err オブジェクトの Description プロパティは、エラー、または警告発生時のメッセージ文が設定されます。メッセージ文については、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

4.8 コーディング例（ActiveX オブジェクトの場合）

ActiveX オブジェクトのコーディング例を次に示します。

4.8.1 コーディング例の読み方

ここではコーディング例の読み方について説明します。

（1）可変領域

ActiveX オブジェクトのコーディング例には、「1. 配列定義領域」、「2. ファイル名指定領域」、「3. エラー番号指定領域」の可変領域があります。必要な設定に合わせて、可変領域を設定してください。


```

<HTML>
<HEAD>
<TITLE>Sample Script of ASP page for EUR Print Service</TITLE>
</HEAD>
<BODY>
<%
    Server.ScriptTimeout=100      ...スクリプトのタイムアウト時間を
                                   100秒に設定

```

1. 配列定義領域

```

On Error Resume Next      ...エラーハンドリングを行う
Set EUR=Server.CreateObject("EURPS.Exec")
                           ...プログラムID「EURPS.Exec」を指定して、
                           ActiveXオブジェクトのインスタンス作成

```

2. ファイル名指定領域

```

If Err.Number <> 0 Then
    Response.Write("EUR実行前に  
エラーが発生しています"& Err.Number & "<BR>")
Else
    EUR.PrintReport()      ...印刷指示
    If Err.Number=0 Then   ...PrintReportメソッドは
                           正常終了かどうかの判定
        Response.Write("印刷終了")
                           ...「印刷終了」をHTMLドキュメントに出力
    Else
        Response.Write("エラーが発生しました。<BR>")
        Response.Write("エラー番号="& Err.Number & "<BR>")
        errid=Cint(Mid(Err.Description, 5, 3))
                           ...メッセージ文字列から
                           メッセージIDをerridに取り出す
    End If
End If

```

3. エラー番号指定領域

```

    End If
End If
End If
%>
</BODY>
</HTML>

```

● ~の場合

1. 配列定義領域

配列定義領域に入力します。

2. ファイル名指定領域

ファイル名指定領域に入力します。

3. エラー番号指定領域

エラー番号指定領域に入力します。

(2) コーディング例で使用しているファイル

コーディング例で使用しているファイル名を次に示します。

表 4-20 コーディング例で使用しているファイル名

ファイルの種類	ファイル名
帳票ファイル	sample1.fms , sample2.fms , sample3.fms

4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

ファイルの種類		ファイル名
マッピングデータファイル		mapping1.csv , mapping2.csv , mapping3.csv
可変記号値定義ファイル		DBVar1.txt , DBVar2.txt
接続情報ファイル		DBInfo1.txt
複数様式情報定義ファイル		formdef.txt
帳票セット指定ファイル		formset.txt
文書情報設定ファイル		pdfdoc.txt
文書しおり定義ファイル		docbm1.txt , docbm2.txt
しおり定義ファイル		bookmark1.txt , bookmark2.txt , bookmark3.txt
PDF 仕分け定義ファイル		shiwake.csv
暗号化設定ファイル		crypto.txt
出力するプリンタ		Printer1
出力先ファイル	PDF 形式ファイルの場合	output.pdf
	EUR 形式ファイルの場合	output.euv , output.eup
	CSV 形式ファイルの場合	output.csv
	Excel 形式ファイルの場合	output.xlsx

(3) ファイルの定義例

コーディング例で使用しているファイルの定義例を次に示します。

表 4-21 ファイルの定義例

コーディング例に使用したファイル名		定義例
可変記号値定義ファイル	DBVar1.txt	代理店 = 横浜 社員番号 =10000
	DBVar2.txt	代理店 = 名古屋 社員番号 =15000
接続情報ファイル	DBInfo1.txt	DABrokerHost=hostname DBType=HiRDB SendBufferSize=64 TimeoutInterval=60 User=USERID QueryExclusiveString=WITH ROLLBACK

4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

コーディング例に使用したファイル名		定義例
複数様式情報定義ファイル	formdef.txt	<pre>group 1 { formtransfercondition { keybreaktopform=ON fieldname=" 社員番号 " } formfilename "sample1.fms" { transfercondition=NPNF printnewpaper=OFF resetpagenumber=ON } formfilename "sample2.fms" { transfercondition=KBNF printnewpaper=OFF resetpagenumber=OFF } }</pre>
帳票セット指定ファイル	formset.txt	<ul style="list-style-type: none"> データファイルを指定する場合 sample1.fms,mapping1.csv sample2.fms,mapping1.csv 可変記号値定義ファイルを指定する場合 sample1.fms,DBVar1.txt sample2.fms,DBVar1.txt
帳票セット指定ファイル（しおり付き PDF 形式ファイルの場合）	formset.txt	<ul style="list-style-type: none"> データファイルを指定する場合 sample1.fms,mapping1.csv,,bookmark1.txt sample2.fms,mapping1.csv,,bookmark2.txt 可変記号値定義ファイルを指定する場合 sample1.fms,DBVar1.txt,,bookmark1.txt sample2.fms,DBVar1.txt,,bookmark2.txt
文書情報設定ファイル	pdfdoc.txt	<pre>TITLE=" 人事管理 " SUBTITLE="TOKYO-Area" AUTHOR="Jinji1" KEYWORD="Jinji,TOKYO,YOKOHAMA,CHIBA"</pre>
文書しおり定義ファイル	docbm1.txt	<pre>TITLE=docinfotitle SCALE=150 BOOKMARK=open</pre>
	docbm2.txt	<pre>TITLE=" 地域別売り上げ " SCALE=120 BOOKMARK=close</pre>
しおり定義ファイル	bookmark1.txt	<pre>NAME=" 東京 " BREAKFLD =200</pre>
	bookmark2.txt	<pre>NAME=" 大阪 " BREAKFLD =130</pre>
	bookmark3.txt	<pre>NAME=" 福岡 " BREAKFLD=80</pre>
PDF 仕分け定義ファイル	shiwake.csv	<pre>KEYFIELD,1, 氏名番号 DATA,000000001.pdf,00000001,TARO DATA,000000002.pdf,00000002,HANAKO</pre>

コーディング例に使用したファイル名		定義例
暗号化設定ファイル	crypto.txt	OwnerPassword=OWNER DisablePrint=Yes UserPassword=HITACHI

4.8.2 プリント出力のコーディング例

Web サーバ上の ASP 環境でスクリプトを指定して、帳票をプリンタに印刷するコーディング例を次に示します。

帳票セットを複数指定する場合（データベースを使用）

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>Sample Script of ASP page for EUR Print Service</TITLE>
</HEAD>
<BODY>
<%
'スクリプトのタイムアウト時間を100秒に設定
Server.ScriptTimeout=100

'*****/// 1. 配列定義領域 開始 ///*****
Dim A,B(1),C(1)
'接続情報ファイル名をAに設定
A="DBInfo1.txt"
'帳票ファイル名を配列Bに設定
B(0)="sample1.fms"
B(1)="sample2.fms"
'可変記号値定義ファイル名を配列Cに設定
C(0)="DBVar1.txt"
C(1)="DBVar2.txt"
'*****/// 1. 配列定義領域 終了 ///*****

'エラーハンドリングを行う
On Error Resume Next
'プログラムID「EURPS.Exec」を指定して、
'ActiveXオブジェクトのインスタンス作成
Set EUR=Server.CreateObject("EURPS.Exec")

'*****/// 2. ファイル名指定領域 開始 ///*****
'接続情報ファイルの指定
EUR.DBInfoFileName=A
'帳票ファイルの指定
EUR.ReportFileName=B
'可変記号値定義ファイルの指定
EUR.DataFileName=C
'出力プリンタの指定
EUR.PrinterName="Printer1"
'*****/// 2. ファイル名指定領域 終了 ///*****

If Err.Number<>0 Then
    Response.Write("EUR実行前にエラーが発生しています"& Err.Number
&"<BR>")
Else
```

```

'印刷指示
EUR.PrintReport()
'PrintReportメソッドは正常終了かどうかの判定
If Err.Number=0 Then
    '「印刷終了」をHTMLドキュメントに出力
    Response.Write("印刷終了")
Else
    Response.Write("エラーが発生しました。<BR>")
    Response.Write("エラー番号=" & Err.Number & "<BR>")
    'メッセージ文字列からメッセージIDをerrridに取り出す
    errrid=Cint(Mid(Err.Description,5,3))

    '*****/// 3. エラー番号指定領域 開始 ///*****
    If errrid=300 Then
        '***/// KEEU300-Wの場合のエラー処理 ///***
        ElseIf errrid=5 Then
            '***/// KEEU005-Eの場合のエラー処理 ///***
            ElseIf errrid=53 Then
                '***/// KEEU053-Eの場合のエラー処理 ///***
    '*****/// 3. エラー番号指定領域 終了 ///*****

    End If
End If
End If
%>
</BODY>
</HTML>

```

そのほかの場合は、「1. 配列定義領域」、「2. ファイル名指定領域」、「3. エラー番号指定領域」のそれぞれに、次に示すコーディング例を当てはめて使用してください。

(1) 帳票セットを指定する場合

1. 配列定義領域
必要ありません。
2. ファイル名指定領域

```

' 帳票ファイルの指定
EUR.ReportFileName="sample1.fms"
' マッピングデータファイルの指定
EUR.DataFileName="mapping1.csv"
' 出力プリンタの指定
EUR.PrinterName="Printer1"

```

3. エラー番号指定領域

```

If errrid=300 Then
    '***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
    ElseIf errrid=5 Then
        '***/// KEEU005-E の場合のエラー処理 ///***
    ElseIf errrid=6 Then
        '***/// KEEU006-E の場合のエラー処理 ///***

```

4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

(2) 帳票セットを指定する場合 (データベースを使用)

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
' 接続情報ファイルの指定
EUR.DBInfoFileName="DBInfo1.txt"
' 帳票ファイルの指定
EUR.ReportFileName="sample1.fms"
' 可変記号値定義ファイルの指定
EUR.DataFileName="DBVar1.txt"
' 出力プリンタの指定
EUR.PrinterName="Printer1"
```

3. エラー番号指定領域

```
If errid=300 Then
'***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=5 Then
'***/// KEEU005-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=53 Then
'***/// KEEU053-E の場合のエラー処理 ///***
```

(3) 帳票セットを複数指定する場合

1. 配列定義領域

```
Dim A(1),B(1)
' 帳票ファイル名を配列 A に設定
A(0)="sample1.fms"
A(1)="sample2.fms"
' マッピングデータファイル名を配列 B に設定
B(0)="mapping1.csv"
B(1)="mapping2.csv"
```

2. ファイル名指定領域

```
' 帳票ファイルの指定
EUR.ReportFileName=A
' マッピングデータファイルの指定
EUR.DataFileName=B
' 出力プリンタの指定
EUR.PrinterName="Printer1"
```

3. エラー番号指定領域

```

If errid=300 Then
'***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=5 Then
'***/// KEEU005-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=6 Then
'***/// KEEU006-E の場合のエラー処理 ///***

```

(4) 帳票セット指定ファイルを指定する場合

1. 配列定義領域
必要ありません。
2. ファイル名指定領域

```

' 複数様式情報定義ファイルの指定
EUR.MultiFormInfoDefFileName="formdef.txt"
' 帳票セット指定ファイルの指定
EUR.MultiReportSetFileName="formset.txt"
' 出力プリンタの指定
EUR.PrinterName="Printer1"

```

3. エラー番号指定領域

```

If errid=300 Then
'***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=35 Then
'***/// KEEU035-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=37 Then
'***/// KEEU037-E の場合のエラー処理 ///***

```

(5) 帳票セット指定ファイルを指定する場合（データベースを使用）

1. 配列定義領域
必要ありません。
2. ファイル名指定領域

```

' 複数様式情報定義ファイルの指定
EUR.MultiFormInfoDefFileName="formdef.txt"
' 接続情報ファイルの指定
EUR.DBInfoFileName="DBInfo01.txt"
' 帳票セット指定ファイルの指定
EUR.MultiReportSetFileName="formset.txt"
' 出力プリンタの指定
EUR.PrinterName="Printer1"

```

3. エラー番号指定領域

4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

```
If errid=300 Then
'***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=35 Then
'***/// KEEU035-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=37 Then
'***/// KEEU037-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=53 Then
'***/// KEEU053-E の場合のエラー処理 ///***
```

4.8.3 PDF 形式ファイル出力のコーディング例

Web サーバ上の ASP 環境でスクリプトを指定して、帳票を PDF 形式ファイルに出力するコーディング例を次に示します。

(1) PDF 形式ファイルに出力する場合

帳票セットを複数指定するとき（データベースを使用）

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>Sample Script for EUR Print Service Enterprise</TITLE>
</HEAD>
<BODY>
<%

'*****/// 1. 配列定義領域 開始 ///*****
'D(2) はしおり付きPDF形式ファイルに出力する場合だけ指定
Dim A,B(2),C(2),D(2)
'接続情報ファイル名をAに設定
A="DBInfo1.txt"
'帳票ファイル名を配列Bに設定
B(0)="sample1.fms"
B(1)="sample2.fms"
B(2)="sample3.fms"
'可変記号値定義ファイル名を配列Cに設定
C(0)="DBVar1.txt"
C(1)="DBVar2.txt"
C(2)="DBVar3.txt"
'***/// しおり付きPDF形式ファイルに出力する場合 開始 ///***
'しおり定義ファイル名を配列Dに設定
D(0)="bookmark1.txt"
D(1)="bookmark2.txt"
D(2)="bookmark3.txt"
'***/// しおり付きPDF形式ファイルに出力する場合 終了 ///***
'*****/// 1. 配列定義領域 終了 ///*****

'エラーハンドリングを行う
On Error Resume Next
'プログラムID「EURPS.Exec」を指定して、
'ActiveXオブジェクトのインスタンス作成
Set EUR=Server.CreateObject("EURPS.Exec")

'*****/// 2. ファイル名指定領域 開始 ///*****
```



```

'出力タイプ(PDF形式ファイル出力)の指定
EUR.OutputType=1
'出力先ファイルの指定
EUR.OutFileName="output.pdf"
'接続情報ファイルの指定
EUR.DBInfoFileName=A
'帳票ファイルの指定
EUR.ReportFileName=B
'可変記号値定義ファイルの指定
EUR.DataFileName=C
'***/// しおり付きPDF形式ファイルに出力する場合 開始 ///***
'文書しおり定義ファイルの指定
EUR.DocBookmarkFileName="docbm2.txt"
'しおり定義ファイルの指定
EUR.BookmarkFileName=D
'***/// しおり付きPDF形式ファイルに出力する場合 終了 ///***
'*****/// 2. ファイル名指定領域 終了 ///*****

If Err.Number<>0 Then
    Response.Write("EUR実行前にエラーが発生しています"& Err.Number
&"<BR>")
Else
    '印刷指示
    EUR.PrintReport()
    'PrintReportメソッドは正常終了かどうかの判定
    If Err.Number=0 Then
        '「PDF形式ファイル出力終了」をHTMLドキュメントに出力
        Response.Write("PDF形式ファイル出力終了")
    Else
        Response.Write("エラーが発生しました。<BR>")
        Response.Write("エラー番号="& Err.Number &"<BR>")
        'メッセージ文字列からメッセージIDをerridに取り出す
        errid=Cint(Mid(Err.Description,5,3))

        '*****/// 3. エラー番号指定領域 開始 ///*****
        If errid=300 Then
            '***/// KEEU300-Wの場合のエラー処理 ///***
        ElseIf errid=5 Then
            '***/// KEEU005-Eの場合のエラー処理 ///***
        ElseIf errid=53 Then
            '***/// KEEU053-Eの場合のエラー処理 ///***
        '*****/// 3. エラー番号指定領域 終了 ///*****
        End If
    End If
End If

%>
</BODY>
</HTML>

```

しおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合は、「しおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合」の領域内の内容も指定してください。

そのほかの場合は、「1. 配列定義領域」、「2. ファイル名指定領域」、「3. エラー番号指定領域」のそれぞれに、次に示すコーディング例を当てはめて使用してください。

4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

(a) 帳票セットを指定するとき

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
' 出力タイプ (PDF 形式ファイル出力) の指定
EUR.OutputType=1
' 出力先ファイルの指定
EUR.OutFileName="output.pdf"
' 帳票ファイルの指定
EUR.ReportFileName="sample1.fms"
' マッピングデータファイルの指定
EUR.DataFileName="mapping1.csv"
' ***/// しおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合 開始 ///***
' 文書情報設定ファイルの指定
EUR.DocInfoFileName="pdfdoc.txt"
' 文書しおり定義ファイルの指定
EUR.DocBookmarkFileName="docbml.txt"
' しおり定義ファイルの指定
EUR.BookmarkFileName="bookmark1.txt"
' ***/// しおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合 終了 ///***
```

3. エラー番号指定領域

```
If errid=300 Then
' ***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=5 Then
' ***/// KEEU005-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=6 Then
' ***/// KEEU006-E の場合のエラー処理 ///***
```

(b) 帳票セットを指定するとき (データベースを使用)

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```

' 出力タイプ (PDF 形式ファイル出力) の指定
EUR.OutputType=1
' 出力先ファイルの指定
EUR.OutFileName="output.pdf"
' 接続情報ファイルの指定
EUR.DBInfoFileName="DBInfo1.txt"
' 帳票ファイルの指定
EUR.ReportFileName="sample1.fms"
' 可変記号値定義ファイルの指定
EUR.DataFileName="DBVar1.txt"
' ***/// しおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合 開始 ///***
' 文書情報設定ファイルの指定
EUR.DocInfoFileName="pdfdoc.txt"
' 文書しおり定義ファイルの指定
EUR.DocBookmarkFileName="docbm1.txt"
' しおり定義ファイルの指定
EUR.BookmarkFileName="bookmark1.txt"
' ***/// しおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合 終了 ///***

```

3. エラー番号指定領域

```

If errid=300 Then
' ***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=5 Then
' ***/// KEEU005-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=53 Then
' ***/// KEEU053-E の場合のエラー処理 ///***

```

(c) 帳票セットを複数指定するとき

1. 配列定義領域

```

' C(2) はしおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合だけ指定
Dim A(2), B(2), C(2)
' 帳票ファイル名を配列 A に設定
A(0)="sample1.fms"
A(1)="sample2.fms"
A(2)="sample3.fms"
' マッピングデータファイル名を配列 B に設定
B(0)="mapping1.csv"
B(1)="mapping2.csv"
B(2)="mapping3.csv"
' ***/// しおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合 開始 ///***
' しおり定義ファイル名を配列 C に設定
C(0)="bookmark1.txt"
C(1)="bookmark2.txt"
C(2)="bookmark3.txt"
' ***/// しおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合 終了 ///***

```

4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

2. ファイル名指定領域

```
' 出力タイプ (PDF 形式ファイル出力) の指定
EUR.OutputType=1
' 出力先ファイルの指定
EUR.OutFileName="output.pdf"
' 帳票ファイルの指定
EUR.ReportFileName=A
' マッピングデータファイルの指定
EUR.DataFileName=B
' ***/// しおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合 開始 ***
' 文書しおり定義ファイルの指定
EUR.DocBookmarkFileName="docbm2.txt"
' しおり定義ファイルの指定
EUR.BookmarkFileName=C
' ***/// しおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合 終了 ***
```

3. エラー番号指定領域

```
If errid=300 Then
' ***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ***
Elseif errid=5 Then
' ***/// KEEU005-E の場合のエラー処理 ***
Elseif errid=6 Then
' ***/// KEEU006-E の場合のエラー処理 ***
```

(d) 帳票セット指定ファイルを指定するとき

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
' 出力タイプ (PDF 形式ファイル出力) の指定
EUR.OutputType=1
' 出力先ファイルの指定
EUR.OutFileName="output.pdf"
' 複数様式情報定義ファイルの指定
EUR.MultiFormInfoDefFileName="formdef.txt"
' 帳票セット指定ファイルの指定
EUR.MultiReportSetFileName="formset.txt"
' ***/// しおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合 開始 ***
' 文書しおり定義ファイルの指定
EUR.DocBookmarkFileName="docbm2.txt"
' ***/// しおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合 終了 ***
```

3. エラー番号指定領域

```
If errid=300 Then
'***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=35 Then
'***/// KEEU035-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=37 Then
'***/// KEEU037-E の場合のエラー処理 ///***
```

(e) 帳票セット指定ファイルを指定するとき (データベースを使用)

1. 配列定義領域
必要ありません。
2. ファイル名指定領域

```
' 出力タイプ (PDF 形式ファイル出力) の指定
EUR.OutputType=1
' 出力先ファイルの指定
EUR.OutFileName="output.pdf"
' 複数様式情報定義ファイルの指定
EUR.MultiFormInfoDefFileName="formdef.txt"
' 接続情報ファイルの指定
EUR.DBInfoFileName="DBInfo1.txt"
' 帳票セット指定ファイルの指定
EUR.MultiReportSetFileName="formset.txt"
'***/// しおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合 開始 ///***
' 文書しおり定義ファイルの指定
EUR.DocBookmarkFileName="docbm2.txt"
'***/// しおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合 終了 ///***
```

3. エラー番号指定領域

```
If errid=300 Then
'***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=35 Then
'***/// KEEU035-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=37 Then
'***/// KEEU037-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=53 Then
'***/// KEEU053-E の場合のエラー処理 ///***
```

(2) PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合

帳票セットを複数指定するとき (データベースを使用)

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>Sample Script for EUR Print Service Enterprise</TITLE>
```

4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

```
</HEAD>
<BODY>
<%

'*****/// 1. 配列定義領域 開始 ///*****
Dim A,B(1),C(1)
'接続情報ファイル名をAに設定
A="DBInfo1.txt"
'帳票ファイル名を配列Bに設定
B(0)="sample1.fms"
B(1)="sample2.fms"
'可変記号値定義ファイル名を配列Cに設定
C(0)="DBVar1.txt"
C(1)="DBVar2.txt"
'*****/// 1. 配列定義領域 終了 ///*****

'エラーハンドリングを行う
On Error Resume Next
'プログラムID「EURPS.Exec」を指定して,
'ActiveXオブジェクトのインスタンス作成
Set EUR=Server.CreateObject("EURPS.Exec")

'*****/// 2. ファイル名指定領域 開始 ///*****
'出力タイプ(PDF形式ファイル出力)の指定
EUR.OutputType=1
'PDF仕分け定義ファイルの指定
EUR.DistributeFileName="shiwake.csv"
'複数様式情報定義ファイルの指定
EUR.MultiFormInfoDefFileName="formdef.txt"
'接続情報ファイルの指定
EUR.DBInfoFileName=A
'帳票ファイルの指定
EUR.ReportFileName=B
'可変記号値定義ファイルの指定
EUR.DataFileName=C
'***/// PDF形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合 開始 ///***
'PDF形式ファイルの暗号化指定
EUR.Crypto=true
'暗号化設定ファイルの指定
EUR.CryptoFileName="crypto.txt"
'***/// PDF形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合 終了 ///***
'*****/// 2. ファイル名指定領域 終了 ///*****

If Err.Number<>0 Then
    Response.Write("EUR実行前にエラーが発生しています"& Err.Number
    &"<BR>")
Else
    '印刷指示
    EUR.PrintReport()
    'PrintReportメソッドは正常終了かどうかの判定
    If Err.Number=0 Then
        '「PDF形式ファイル出力終了」をHTMLドキュメントに出力
        Response.Write("PDF形式ファイル出力終了")
    Else
        Response.Write("エラーが発生しました。<BR>")
        Response.Write("エラー番号="& Err.Number &"<BR>")
        'メッセージ文字列からメッセージIDをerridに取り出す
        errid=Cint(Mid(Err.Description,5,3))
    End If
End If
%>
```

```

'*****/// 3. エラー番号指定領域 開始 ///*****
If errid=300 Then
'***/// KEEU300-Wの場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=5 Then
'***/// KEEU005-Eの場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=53 Then
'***/// KEEU053-Eの場合のエラー処理 ///***
'*****/// 3. エラー番号指定領域 終了 ///*****
End If
End If
End If
%>
</BODY>
</HTML>

```

PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合は、「PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合」の領域内の内容も指定してください。

そのほかの場合は、「1. 配列定義領域」、「2. ファイル名指定領域」、「3. エラー番号指定領域」のそれぞれに、次に示すコーディング例を当てはめて使用してください。

(a) 帳票セットを指定するとき

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```

' 出力タイプ (PDF 形式ファイル出力) の指定
EUR.OutputType=1
' PDF 仕分け定義ファイルの指定
EUR.DistributeFileName="shiwake.csv"
' 帳票ファイルの指定
EUR.ReportFileName="sample1.fms"
' マッピングデータファイルの指定
EUR.DataFileName="mapping1.csv"
'***/// PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合 開始 ///***
' PDF 形式ファイルの暗号化指定
EUR.Crypto=true
' 暗号化設定ファイルの指定
EUR.CryptoFileName="crypto.txt"
'***/// PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合 終了 ///***

```

3. エラー番号指定領域

```

If errid=300 Then
'***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=5 Then
'***/// KEEU005-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=6 Then
'***/// KEEU006-E の場合のエラー処理 ///***

```

4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

(b) 帳票セットを指定するとき（データベースを使用）

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
' 出力タイプ (PDF 形式ファイル出力) の指定
EUR.OutputType=1
' PDF 仕分け定義ファイルの指定
EUR.DistributeFileName="shiwake.csv"
' 接続情報ファイルの指定
EUR.DBInfoFileName="DBInfo1.txt"
' 帳票ファイルの指定
EUR.ReportFileName="sample1.fms"
' 可変記号値定義ファイルの指定
EUR.DataFileName="DBVar1.txt"
' ***/// PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合 開始 ///***
' PDF 形式ファイルの暗号化指定
EUR.Crypto=true
' 暗号化設定ファイルの指定
EUR.CryptoFileName="crypto.txt"
' ***/// PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合 終了 ///***
```

3. エラー番号指定領域

```
If errid=300 Then
' ***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=5 Then
' ***/// KEEU005-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=53 Then
' ***/// KEEU053-E の場合のエラー処理 ///***
```

(c) 帳票セットを複数指定するとき

1. 配列定義領域

```
Dim A(1),B(1)
' 帳票ファイル名を配列 A に設定
A(0)="sample1.fms"
A(1)="sample2.fms"
' マッピングデータファイル名を配列 B に設定
B(0)="mapping1.csv"
B(1)="mapping2.csv"
```

2. ファイル名指定領域


```
' 出力タイプ (PDF 形式ファイル出力) の指定
EUR.OutputType=1
' PDF 仕分け定義ファイルの指定
EUR.DistributeFileName="shiwake.csv"
' 複数様式情報定義ファイルの指定
EUR.MultiFormInfoDefFileName="formdef.txt"
' 帳票ファイルの指定
EUR.ReportFileName=A
' マッピングデータファイルの指定
EUR.DataFileName=B
' ***/// PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合 開始 ///***
' PDF 形式ファイルの暗号化指定 EUR.Crypto=true
' 暗号化設定ファイルの指定 EUR.CryptoFileName="crypto.txt"
' ***/// PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合 終了 ///***
```

3. エラー番号指定領域

```
If errid=300 Then
' ***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=5 Then
' ***/// KEEU005-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=6 Then
' ***/// KEEU006-E の場合のエラー処理 ///***
```

(d) 帳票セット指定ファイルを指定するとき

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
' 出力タイプ (PDF 形式ファイル出力) の指定
EUR.OutputType=1
' PDF 仕分け定義ファイルの指定
EUR.DistributeFileName="shiwake.csv"
' 複数様式情報定義ファイルの指定
EUR.MultiFormInfoDefFileName="formdef.txt"
' 帳票セット指定ファイルの指定
EUR.MultiReportSetFileName="formset.txt"
' ***/// PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合 開始 ///***
' PDF 形式ファイルの暗号化指定 EUR.Crypto=true
' 暗号化設定ファイルの指定 EUR.CryptoFileName="crypto.txt"
' ***/// PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合 終了 ///***
```

3. エラー番号指定領域

4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

```
If errid=300 Then
'***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=35 Then
'***/// KEEU035-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=37 Then
'***/// KEEU037-E の場合のエラー処理 ///***
```

(e) 帳票セット指定ファイルを指定するとき (データベースを使用)

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
' 出力タイプ (PDF 形式ファイル出力) の指定
EUR.OutputType=1
' PDF 仕分け定義ファイルの指定
EUR.DistributeFileName="shiwake.csv"
' 複数様式情報定義ファイルの指定
EUR.MultiFormInfoDefFileName="formdef.txt"
' 接続情報ファイルの指定
EUR.DBInfoFileName="DBInfo1.txt"
' 帳票セット指定ファイルの指定
EUR.MultiReportSetFileName="formset.txt"
'***/// PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合 開始 ///***
' PDF 形式ファイルの暗号化指定 EUR.Crypto=true
' 暗号化設定ファイルの指定 EUR.CryptoFileName="crypto.txt"
'***/// PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合 終了 ///***
```

3. エラー番号指定領域

```
If errid=300 Then
'***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=35 Then
'***/// KEEU035-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=37 Then
'***/// KEEU037-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=53 Then
'***/// KEEU053-E の場合のエラー処理 ///***
```

(3) PDF 形式ファイルを暗号化出力する場合

帳票セットを複数指定するとき (データベースを使用)

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>Sample Script for EUR Print Service Enterprise</TITLE>
```

```

</HEAD>
<BODY>
<%

'*****/// 1. 配列定義領域 開始 ///*****
Dim A,B(1),C(1)
'接続情報ファイル名をAに設定
A="DBInfo1.txt"
'帳票ファイル名を配列Bに設定
B(0)="sample1.fms"
B(1)="sample2.fms"
'可変記号値定義ファイル名を配列Cに設定
C(0)="DBVar1.txt"
C(1)="DBVar2.txt"
'*****/// 1. 配列定義領域 終了 ///*****

'エラーハンドリングを行う
On Error Resume Next
'プログラムID「EURPS.Exec」を指定して、
'ActiveXオブジェクトのインスタンス作成
Set EUR=Server.CreateObject("EURPS.Exec")

'*****/// 2. ファイル名指定領域 開始 ///*****
'出力タイプ(PDF形式ファイル出力)の指定
EUR.OutputType=1
'出力先ファイルの指定
EUR.OutFileName="output.pdf"
'PDF形式ファイルの暗号化指定
EUR.Crypto=true
'暗号化設定ファイルの指定
EUR.CryptoFileName="crypto.txt"
'接続情報ファイルの指定
EUR.DBInfoFileName=A
'帳票ファイルの指定
EUR.ReportFileName=B
'可変記号値定義ファイルの指定
EUR.DataFileName=C
'*****/// 2. ファイル名指定領域 終了 ///*****

If Err.Number<>0 Then
    Response.Write("EUR実行前にエラーが発生しています"& Err.Number
&"<BR>")
Else
    '印刷指示
    EUR.PrintReport()
    'PrintReportメソッドは正常終了かどうかの判定
    If Err.Number=0 Then
        '「PDF形式ファイル出力終了」をHTMLドキュメントに出力
        Response.Write("PDF形式ファイル出力終了")
    Else
        Response.Write("エラーが発生しました。<BR>")
        Response.Write("エラー番号="& Err.Number &"<BR>")
        'メッセージ文字列からメッセージIDをerridに取り出す
        errid=Cint(Mid(Err.Description,5,3))

'*****/// 3. エラー番号指定領域 開始 ///*****
    If errid=300 Then
        '***/// KEEU300-Wの場合のエラー処理 ///***

```

4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

```
Elseif errid=5 Then
  '***/// KEEU005-Eの場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=53 Then
  '***/// KEEU053-Eの場合のエラー処理 ///***
  '*****/// 3. エラー番号指定領域 終了 ///*****
End If
End If
End If
%>
</BODY>
</HTML>
```

そのほかの場合は、「1. 配列定義領域」、「2. ファイル名指定領域」、「3. エラー番号指定領域」のそれぞれに、次に示すコーディング例を当てはめて使用してください。

(a) 帳票セットを指定するとき

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
' 出力タイプ (PDF 形式ファイル出力) の指定
EUR.OutputType=1
' 出力先ファイルの指定
EUR.OutFileName="output.pdf"
' PDF 形式ファイルの暗号化指定
EUR.Crypto=true
' 暗号化設定ファイルの指定
EUR.CryptoFileName="crypto.txt"
' 帳票ファイルの指定
EUR.ReportFileName="sample1.fms"
' マッピングデータファイルの指定
EUR.DataFileName="mapping1.csv"
```

3. エラー番号指定領域

```
If errid=300 Then
  '***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
  Elseif errid=5 Then
    '***/// KEEU005-E の場合のエラー処理 ///***
  Elseif errid=6 Then
    '***/// KEEU006-E の場合のエラー処理 ///***
```

(b) 帳票セットを指定するとき (データベースを使用)

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```

' 出力タイプ (PDF 形式ファイル出力) の指定
EUR.OutputType=1
' 出力先ファイルの指定
EUR.OutFileName="output.pdf"
' PDF 形式ファイルの暗号化指定
EUR.Crypto=true
' 暗号化設定ファイルの指定
EUR.CryptoFileName="crypto.txt"
' 接続情報ファイルの指定
EUR.DBInfoFileName="DBInfo1.txt"
' 帳票ファイルの指定
EUR.ReportFileName="sample1.fms"
' 可変記号値定義ファイルの指定
EUR.DataFileName="DBVar1.txt"

```

3. エラー番号指定領域

```

If errid=300 Then
'***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=5 Then
'***/// KEEU005-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=53 Then
'***/// KEEU053-E の場合のエラー処理 ///***

```

(c) 帳票セットを複数指定するとき

1. 配列定義領域

```

Dim A(1),B(1)
' 帳票ファイル名を配列 A に設定
A(0)="sample1.fms"
A(1)="sample2.fms"
' マッピングデータファイル名を配列 B に設定
B(0)="mapping1.csv"
B(1)="mapping2.csv"

```

2. ファイル名指定領域

4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

′ 出力タイプ (PDF 形式ファイル出力) の指定

EUR.OutputType=1

′ 出力先ファイルの指定

EUR.OutFileName="output.pdf"

′ PDF 形式ファイルの暗号化指定

EUR.Crypto=true

′ 暗号化設定ファイルの指定

EUR.CryptoFileName="crypto.txt"

′ 帳票ファイルの指定

EUR.ReportFileName=A

′ マッピングデータファイルの指定

EUR.DataFileName=B

3. エラー番号指定領域

```
If errid=300 Then
```

```
  '***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
```

```
  ElseIf errid=5 Then
```

```
    '***/// KEEU005-E の場合のエラー処理 ///***
```

```
  ElseIf errid=6 Then
```

```
    '***/// KEEU006-E の場合のエラー処理 ///***
```

(d) 帳票セット指定ファイルを指定するとき

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

′ 出力タイプ (PDF 形式ファイル出力) の指定

EUR.OutputType=1

′ 出力先ファイルの指定

EUR.OutFileName="output.pdf"

′ PDF 形式ファイルの暗号化指定

EUR.Crypto=true

′ 暗号化設定ファイルの指定

EUR.CryptoFileName="crypto.txt"

′ 複数様式情報定義ファイルの指定

EUR.MultiFormInfoDefFileName="formdef.txt"

′ 帳票セット指定ファイルの指定

EUR.MultiReportSetFileName="formset.txt"

3. エラー番号指定領域

```

If errid=300 Then
'***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=35 Then
'***/// KEEU035-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=37 Then
'***/// KEEU037-E の場合のエラー処理 ///***

```

(e) 帳票セット指定ファイルを指定するとき (データベースを使用)

1. 配列定義領域
必要ありません。
2. ファイル名指定領域

```

' 出力タイプ (PDF 形式ファイル出力) の指定
EUR.OutputType=1
' 出力先ファイルの指定
EUR.OutFileName="output.pdf"
' PDF 形式ファイルの暗号化指定
EUR.Crypto=true
' 暗号化設定ファイルの指定
EUR.CryptoFileName="crypto.txt"
' 複数様式情報定義ファイルの指定
EUR.MultiFormInfoDefFileName="formdef.txt"
' 接続情報ファイルの指定
EUR.DBInfoFileName="DBInfo1.txt"
' 帳票セット指定ファイルの指定
EUR.MultiReportSetFileName="formset.txt"

```

3. エラー番号指定領域

```

If errid=300 Then
'***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=35 Then
'***/// KEEU035-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=37 Then
'***/// KEEU037-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=53 Then
'***/// KEEU053-E の場合のエラー処理 ///***

```

4.8.4 EUR 形式ファイル出力のコーディング例

Web サーバ上の ASP 環境でスクリプトを指定して、帳票を EUR 形式ファイルに出力するコーディング例を次に示します。

帳票セットを複数指定する場合 (データベースを使用)

4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>Sample Script for EUR Print Service Enterprise</TITLE>
</HEAD>
<BODY>
<%

    '*****/// 1. 配列定義領域 開始 ///*****
Dim A,B(1),C(1)
'接続情報ファイル名をAに設定
A="DBInfo1.txt"
'帳票ファイル名を配列Bに設定
B(0)="sample1.fms"
B(1)="sample2.fms"
'可変記号値定義ファイル名を配列Cに設定
C(0)="DBVar1.txt"
C(1)="DBVar2.txt"
'*****/// 1. 配列定義領域 終了 ///*****

'エラーハンドリングを行う
On Error Resume Next
'プログラムID「EURPS.Exec」を指定して、
'ActiveXオブジェクトのインスタンス作成
Set EUR=Server.CreateObject("EURPS.Exec")

'*****/// 2. ファイル名指定領域 開始 ///*****
'出力タイプ(EUR形式ファイル出力)の指定
EUR.OutputType=2
'出力先ファイルの指定
EUR.OutFileName="output.eup"
'接続情報ファイルの指定
EUR.DBInfoFileName=A
'帳票ファイルの指定
EUR.ReportFileName=B
'可変記号値定義ファイルの指定
EUR.DataFileName=C
'*****/// 2. ファイル名指定領域 終了 ///*****

If Err.Number<>0 Then
    Response.Write("EUR実行前にエラーが発生しています"& Err.Number
&"<BR>")
Else
    '印刷指示
EUR.PrintReport()
'PrintReportメソッドは正常終了かどうかの判定
If Err.Number=0 Then
    '「EUR形式ファイル出力終了」をHTMLドキュメントに出力
    Response.Write("EUR形式ファイル出力終了")
Else
    Response.Write("エラーが発生しました。<BR>")
    Response.Write("エラー番号="& Err.Number &"<BR>")
    'メッセージ文字列からメッセージIDをerridに取り出す
    errid=Cint(Mid(Err.Description,5,3))

'*****/// 3. エラー番号指定領域 開始 ///*****
If errid=300 Then
    '***/// KEEU300-Wの場合のエラー処理 ///***
```



```

Elseif errid=5 Then
  '***/// KEEU005-Eの場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=53 Then
  '***/// KEEU053-Eの場合のエラー処理 ///***
'*****/// 3. エラー番号指定領域 終了 ///*****

End If
End If
End If
%>
</BODY>
</HTML>

```

そのほかの場合は、「1. 配列定義領域」、「2. ファイル名指定領域」、「3. エラー番号指定領域」のそれぞれに、次に示すコーディング例を当てはめて使用してください。

(1) 帳票セットを指定する場合

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```

' 出力タイプ (EUR 形式ファイル出力) の指定
EUR.OutputType=2
' 出力先ファイルの指定
EUR.OutFileName="output.euv"
' 帳票ファイルの指定
EUR.ReportFileName="sample1.fms"
' マッピングデータファイルの指定
EUR.DataFileName="mapping1.csv"

```

3. エラー番号指定領域

```

If errid=300 Then
  '***/// KEEU300-Wの場合のエラー処理 ///***
  Elseif errid=5 Then
    '***/// KEEU005-Eの場合のエラー処理 ///***
  Elseif errid=6 Then
    '***/// KEEU006-Eの場合のエラー処理 ///***

```

(2) 帳票セットを指定する場合 (データベースを使用)

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

```
' 出力タイプ (EUR 形式ファイル出力) の指定
EUR.OutputType=2
' 出力先ファイルの指定
EUR.OutFileName="output.euv"
' 接続情報ファイルの指定
EUR.DBInfoFileName="DBInfo1.txt"
' 帳票ファイルの指定
EUR.ReportFileName="sample1.fms"
' 可変記号値定義ファイルの指定
EUR.DataFileName="DBVar1.txt"
```

3. エラー番号指定領域

```
If errid=300 Then
'***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=5 Then
'***/// KEEU005-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=53 Then
'***/// KEEU053-E の場合のエラー処理 ///***
```

(3) 帳票セットを複数指定する場合

1. 配列定義領域

```
Dim A(1),B(1)
' 帳票ファイル名を配列 A に設定
A(0)="sample1.fms"
A(1)="sample2.fms"
' マッピングデータファイル名を配列 B に設定
B(0)="mapping1.csv"
B(1)="mapping2.csv"
```

2. ファイル名指定領域

```
' 出力タイプ (EUR 形式ファイル出力) の指定
EUR.OutputType=2
' 出力先ファイルの指定
EUR.OutFileName="output.eup"
' 帳票ファイルの指定
EUR.ReportFileName=A
' マッピングデータファイルの指定
EUR.DataFileName=B
```

3. エラー番号指定領域

```

If errid=300 Then
'***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=5 Then
'***/// KEEU005-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=6 Then
'***/// KEEU006-E の場合のエラー処理 ///***

```

(4) 帳票セット指定ファイルを指定する場合

1. 配列定義領域
必要ありません。
2. ファイル名指定領域

```

' 出力タイプ (EUR 形式ファイル出力) の指定
EUR.OutputType=2
' 出力先ファイルの指定
EUR.OutFileName="output.eup"
' 複数様式情報定義ファイルの指定
EUR.MultiFormInfoDefFileName="formdef.txt"
' 帳票セット指定ファイルの指定
EUR.MultiReportSetFileName="formset.txt"

```

3. エラー番号指定領域

```

If errid=300 Then
'***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=35 Then
'***/// KEEU035-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=37 Then
'***/// KEEU037-E の場合のエラー処理 ///***

```

(5) 帳票セット指定ファイルを指定する場合 (データベースを使用)

1. 配列定義領域
必要ありません。
2. ファイル名指定領域

4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

```
' 出力タイプ (EUR 形式ファイル出力) の指定
EUR.OutputType=2
' 出力先ファイルの指定
EUR.OutFileName="output.eup"
' 複数様式情報定義ファイルの指定
EUR.MultiFormInfoDefFileName="formdef.txt"
' 接続情報ファイルの指定
EUR.DBInfoFileName="DBInfo1.txt"
' 帳票セット指定ファイルの指定
EUR.MultiReportSetFileName="formset.txt"
```

3. エラー番号指定領域

```
If errid=300 Then
'***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=35 Then
'***/// KEEU035-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=37 Then
'***/// KEEU037-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=53 Then
'***/// KEEU053-E の場合のエラー処理 ///***
```

4.8.5 CSV 形式ファイル出力のコーディング例

Web サーバ上の ASP 環境でスクリプトを指定して、帳票を CSV 形式ファイルに出力するコーディング例を次に示します。

帳票セットを複数指定する場合 (データベースを使用)

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>Sample Script for EUR Print Service</TITLE>
</HEAD>
<BODY>
<%

'*****/// 1. 配列定義領域 開始 ///*****
Dim A,B(1),C(1)
'接続情報ファイル名をAに設定
A="DBInfo1.txt"
'帳票ファイル名を配列Bに設定
B(0)="sample1.fms"
B(1)="sample2.fms"
'可変記号値定義ファイル名を配列Cに設定
C(0)="DBVar1.txt"
C(1)="DBVar2.txt"
'*****/// 1. 配列定義領域 終了 ///*****

'エラーハンドリングを行う
On Error Resume Next
```

```

'プログラムID「EURPS.Exec」を指定して、
'ActiveXオブジェクトのインスタンス作成
Set EUR=Server.CreateObject("EURPS.Exec")

'*****/// 2. ファイル名指定領域 開始 ///*****
'出力タイプ(csv形式ファイル出力)の指定
EUR.OutputType=3
'出力先ファイルの指定
EUR.OutFileName="output.csv"
'接続情報ファイルの指定
EUR.DBInfoFileName=A
'帳票ファイルの指定
EUR.ReportFileName=B
'可変記号値定義ファイルの指定
EUR.DataFileName=C
'*****/// 2. ファイル名指定領域 終了 ///*****

If Err.Number<>0 Then
    Response.Write("EUR実行前にエラーが発生しています"& Err.Number
&"<BR>")
Else
    '印刷指示
    EUR.PrintReport()
    'PrintReportメソッドは正常終了かどうかの判定
    If Err.Number=0 Then
        '「CSV形式ファイル出力終了」をHTMLドキュメントに出力
        Response.Write("CSV形式ファイル出力終了")
    Else
        Response.Write("エラーが発生しました。<BR>")
        Response.Write("エラー番号="& Err.Number &"<BR>")
        'メッセージ文字列からメッセージIDをerridに取り出す
        errid=Cint(Mid(Err.Description,5,3))

        '*****/// 3. エラー番号指定領域 開始 ///*****
        If errid=300 Then
            '***/// KEEU300-Wの場合のエラー処理 ///***
            ElseIf errid=5 Then
                '***/// KEEU005-Eの場合のエラー処理 ///***
                ElseIf errid=53 Then
                    '***/// KEEU053-Eの場合のエラー処理 ///***
            '*****/// 3. エラー番号指定領域 終了 ///*****

            End If
        End If
    End If
%>
</BODY>
</HTML>

```

そのほかの場合は、「1. 配列定義領域」、「2. ファイル名指定領域」、「3. エラー番号指定領域」のそれぞれに、次に示すコーディング例を当てはめて使用してください。

(1) 帳票セットを指定する場合

1. 配列定義領域
必要ありません。

4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

2. ファイル名指定領域

```
' 出力タイプ (csv 形式ファイル出力) の指定
EUR.OutputType=3
' 出力先ファイルの指定
EUR.OutFileName="output.csv"
' 帳票ファイルの指定
EUR.ReportFileName="sample1.fms"
' マッピングデータファイルの指定
EUR.DataFileName="mapping1.csv"
```

3. エラー番号指定領域

```
If errid=300 Then
'***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=5 Then
'***/// KEEU005-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=6 Then
'***/// KEEU006-E の場合のエラー処理 ///***
```

(2) 帳票セットを指定する場合 (データベースを使用)

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
' 出力タイプ (csv 形式ファイル出力) の指定
EUR.OutputType=3
' 出力先ファイルの指定
EUR.OutFileName="output.csv"
' 接続情報ファイルの指定
EUR.DBInfoFileName="DBInfo1.txt"
' 帳票ファイルの指定
EUR.ReportFileName="sample1.fms"
' 可変記号値定義ファイルの指定
EUR.DataFileName="DBVar1.txt"
```

3. エラー番号指定領域

```
If errid=300 Then
'***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=5 Then
'***/// KEEU005-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=53 Then
'***/// KEEU053-E の場合のエラー処理 ///***
```

(3) 帳票セットを複数指定する場合

1. 配列定義領域

```
Dim A(1), B(1)
' 帳票ファイル名を配列 A に設定
A(0) = "sample1.fms"
A(1) = "sample2.fms"
' マッピングデータファイル名を配列 B に設定
B(0) = "mapping1.csv"
B(1) = "mapping2.csv"
```

2. ファイル名指定領域

```
' 出力タイプ (CSV 形式ファイル出力) の指定
EUR.OutputType=3
' 出力先ファイルの指定
EUR.OutFileName="output.csv"
' 帳票ファイルの指定
EUR.ReportFileName=A
' マッピングデータファイルの指定
EUR.DataFileName=B
```

3. エラー番号指定領域

```
If errid=300 Then
'***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=5 Then
'***/// KEEU005-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=6 Then
'***/// KEEU006-E の場合のエラー処理 ///***
```

(4) 帳票セット指定ファイルを指定する場合

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
' 出力タイプ (CSV 形式ファイル出力) の指定
EUR.OutputType=3
' 出力先ファイルの指定
EUR.OutFileName="output.csv"
' 複数様式情報定義ファイルの指定
EUR.MultiFormInfoDefFileName="formdef.txt"
' 帳票セット指定ファイルの指定
EUR.MultiReportSetFileName="formset.txt"
```

3. エラー番号指定領域

4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

```
If errid=300 Then
'***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=35 Then
'***/// KEEU035-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=37 Then
'***/// KEEU037-E の場合のエラー処理 ///***
```

(5) 帳票セット指定ファイルを指定する場合 (データベースを使用)

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
' 出力タイプ (csv 形式ファイル出力) の指定
EUR.OutputType=3
' 出力先ファイルの指定
EUR.OutFileName="output.csv"
' 複数様式情報定義ファイルの指定
EUR.MultiFormInfoDefFileName="formdef.txt"
' 接続情報ファイルの指定
EUR.DBInfoFileName="DBInfo1.txt"
' 帳票セット指定ファイルの指定
EUR.MultiReportSetFileName="formset.txt"
```

3. エラー番号指定領域

```
If errid=300 Then
'***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=35 Then
'***/// KEEU035-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=37 Then
'***/// KEEU037-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=53 Then
'***/// KEEU053-E の場合のエラー処理 ///***
```

4.8.6 Excel 形式ファイル出力のコーディング例

Web サーバ上の ASP 環境でスクリプトを指定して、帳票を Excel 形式ファイルに出力するコーディング例を次に示します。

帳票セットを指定する場合 (データベースを使用)

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>Sample Script for EUR Print Service Enterprise</TITLE>
</HEAD>
<BODY>
```



```

<%
'エラーハンドリングを行う
On Error Resume Next
'プログラムID「EURPS.Exec」を指定して、
'ActiveXオブジェクトのインスタンス作成
Set EUR=Server.CreateObject("EURPS.Exec")

'*****/// 2. ファイル名指定領域 開始 ///*****
'出力タイプ(XLSX形式ファイル出力)の指定
EUR.OutputType=4
'出力先ファイルの指定
EUR.OutFileName="output.xlsx"
'接続情報ファイルの指定
EUR.DBInfoFileName="DBInfo1.txt"
'帳票ファイルの指定
EUR.ReportFileName="sample1.fms"
'可変記号値定義ファイルの指定
EUR.DataFileName="DBVar1.txt"
'*****/// 2. ファイル名指定領域 終了 ///*****

If Err.Number<>0 Then
    Response.Write("EUR実行前にエラーが発生しています"& Err.Number
&"<BR>")
Else
    '印刷指示
    EUR.PrintReport()
    'PrintReportメソッドは正常終了かどうかの判定
    If Err.Number=0 Then
        '「XLSX形式ファイル出力終了」をHTMLドキュメントに出力
        Response.Write("XLSX形式ファイル出力終了")
    Else
        Response.Write("エラーが発生しました。<BR>")
        Response.Write("エラー番号="& Err.Number &"<BR>")
        'メッセージ文字列からメッセージIDをerrridに取り出す
        errrid=Cint(Mid(Err.Description,5,3))

'*****/// 3. エラー番号指定領域 開始 ///*****
        If errrid=300 Then
            '***/// KEEU300-Wの場合のエラー処理 ///***
            ElseIf errrid=5 Then
                '***/// KEEU005-Eの場合のエラー処理 ///***
                ElseIf errrid=53 Then
                    '***/// KEEU053-Eの場合のエラー処理 ///***
'*****/// 3. エラー番号指定領域 終了 ///*****

            End If
        End If
    End If
End If
%>
</BODY>
</HTML>

```

帳票セットを指定する場合は、「2. ファイル名指定領域」、「3. エラー番号指定領域」のそれぞれに、次に示すコーディング例を当てはめて使用してください。

4. Windows 環境で ActiveX オブジェクトを使用した帳票出力

(1) 帳票セットを指定する場合

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
' 出力タイプ (Excel 形式ファイル出力) の指定
EUR.OutputType=4
' 出力先ファイルの指定
EUR.OutFileName="output.xlsx"
' 帳票ファイルの指定
EUR.ReportFileName="sample1.fms"
' マッピングデータファイルの指定
EUR.DataFileName="mapping1.csv"
```

3. エラー番号指定領域

```
If errid=300 Then
'***/// KEEU300-W の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=5 Then
'***/// KEEU005-E の場合のエラー処理 ///***
Elseif errid=6 Then
'***/// KEEU006-E の場合のエラー処理 ///***
```

5

JavaBeans を使用した帳票出力

この章では、EUR サーバ帳票出力機能を起動して帳票出力する方法のうち、JavaBeans を使用した帳票出力について説明します。

-
- 5.1 JavaBeans で帳票を出力するには
 - 5.2 JavaBeans 起動部品
 - 5.3 JavaBeans 起動部品が提供するパッケージ
 - 5.4 EURPSManager クラス
 - 5.5 EURPSException クラス
 - 5.6 EURPSManager クラスのメソッド仕様
 - 5.7 EURPSException クラスのメソッド仕様
 - 5.8 環境変数，環境設定ファイル
 - 5.9 JavaBeans 起動部品の例外情報
 - 5.10 コーディング例（JavaBeans 起動部品の場合）
-

5.1 JavaBeans で帳票を出力するには

この節では、JavaBeans で帳票を出力する際に作成する API やコーディング例の説明個所を示します。

(1) API の記載個所

メソッドの記載個所については、「5.4.2 EURPSManager クラスのメソッド一覧」および「5.5.1 EURPSException クラスのメソッド一覧」を参照してください。

(2) コーディング例の記載個所

コーディング例の記載個所を次の表に示します。

表 5-1 コーディング例の記載個所 (JavaBeans の場合)

出力形式	帳票様式		
	単一様式	複数様式	
		帳票セットを使用	帳票セット指定ファイルを使用 ¹
プリンタへ出力	5.10.2(1) 5.10.2(2) 2	5.10.2(3)	5.10.2(4) 5.10.2(5) ²
PDF 形式ファイルへ出力 + 暗号化出力	5.10.3(3)(a) 5.10.3(3)(b) ²	5.10.3(3)(c)	5.10.3(3)(d) 5.10.3(3)(e) ²
PDF 形式ファイルへ出力 + 暗号化なし	5.10.3(1)(a) 5.10.3(1)(b) ²	5.10.3(1)(c)	5.10.3(1)(d) 5.10.3(1)(e) ²
PDF 形式ファイルへ出力 + 仕分け出力 + 暗号化出力 ³	5.10.3(2)(a) 5.10.3(2)(b) ²	5.10.3(2)(c)	5.10.3(2)(d) 5.10.3(2)(e) ²
PDF 形式ファイルへ出力 + 仕分け出力 + 暗号化なし	5.10.3(2)(a) 5.10.3(2)(b) ²	5.10.3(2)(c)	5.10.3(2)(d) 5.10.3(2)(e) ²
EUR 形式ファイルへ出力	5.10.4(1) 5.10.4(2) 2	5.10.4(3)	5.10.4(4) 5.10.4(5) ²
CSV 形式ファイルへ出力	5.10.5(1) 5.10.5(2) 2	5.10.5(3)	5.10.5(4) 5.10.5(5) ²

出力形式	帳票様式		
	単一様式	複数様式	
		帳票セットを使用	帳票セット指定ファイルを使用 ¹
Excel 形式ファイルへ出力	5.10.6	-	-

（凡例）

- ：出力できません。

注 1

複数様式情報定義ファイルを組み合わせる場合、コーディング例については「7.8 複数様式情報定義ファイル」を参照してください。

注 2

データベースを使用する場合のコーディング例の記載箇所です。

なお、複数様式で帳票セットを使用する場合については、このマニュアルには記載していません（データベースを使用する場合と使用しない場合とで、コーディング内容はほぼ同じのため）。

注 3

「5.10.3(2) PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合」の「PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合」の内容を指定してください。

5.2 JavaBeans 起動部品

サーバ側で動作する Java プログラムから、EUR サーバ帳票出力機能を起動して帳票出力できる部品を提供しています。これを、JavaBeans 起動部品といいます。

Web サーバ側のアプリケーション実行環境（Java サブレット、JSP、および EJB）から JavaBeans 起動部品を利用することで、サーバ側のアプリケーションを効率良く作成できます。

JavaBeans 起動部品は、帳票ファイル名などをプロパティで設定し、出力実行メソッドを呼び出して帳票を出力します。

JavaBeans 起動部品を実行すると、エラーログおよびトレースファイルが出力されます。エラーログには、実行時に発生したエラーなどが出力されます。トレースファイルはエラー時の原因調査などに使用します。

エラーログとトレースファイルについては、「8.4 JavaBeans 起動部品のログ」を参照してください。

5.2.1 EUR で提供する JavaBeans 起動部品

JavaBeans 起動部品には、EUR Developer バージョン 08-00 以降、EUR Print Service バージョン 05-05 以降、および EUR Print Service Enterprise バージョン 08-00 以降に対応した JavaBeans 起動部品（EURPSManager_5.jar）があります。

参考

EUR Developer、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise バージョン 08-00 以降が前提とする J2SDK のバージョンは、次のどちらかです。

- Java 2 SDK, Standard Edition 1.4
 - Java 2 Platform Standard Edition Development Kit 5.0
-

5.2.2 JavaBeans 起動部品の構成

JavaBeans 起動部品は、次に示す二つのファイルから構成されます。

- EURPSManager_5.jar：JAR ファイル（JavaBeans 起動部品）
- EURPSManager.properties：プロパティファイル

これらのファイルは、EUR Developer、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise をインストールした場合に、利用する OS によって次に示すディレクトリ下にインストールされます。

Windows 環境の場合

EUR Developer , EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ ¥¥Java

UNIX / Linux 環境の場合

/opt/eurps/java

(1) プロパティファイル (EURPSManager.properties)

JavaBeans 起動部品は、実行時にプロパティファイル (EURPSManager.properties) の設定情報を参照します。

プロパティファイルの構文

キーワード = 値

キーワードに指定できる値を次に示します。

表 5-2 プロパティファイルの設定情報

キーワード	値
CommandPath	<p>EUR Developer , EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise の実行ファイルのフルパスを記述します。 eurps コマンドのパスに空白が含まれる場合も「」などで囲まないで記述してください。</p> <p>JavaBeans 起動部品は、キーワード CommandPath に指定された情報を参照して、eurps コマンドのパスを取得します。</p> <p>EUR Developer , EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise をインストールした場合、次に示す値が設定されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows 環境の場合 インストールした製品によって、次のどれかが設定されます。 EUR Developer のインストール先フォルダ ¥¥EUR Print Service¥¥Program¥¥eurps.exe EUR Print Service のインストール先フォルダ ¥¥Program¥¥eurps.exe EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ ¥¥Program¥¥eurps.exe UNIX / Linux 環境の場合 /opt/eurps/bin/eurps <p>EUR Developer , EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise を任意のディレクトリにインストールしていなければ、プロパティファイルの内容を変更する必要はありません。</p>
TraceFilePrefix	<p>トレースファイルのテキストの先頭に出力する文字列を記述します。</p>
TraceFileDir	<p>トレースファイルを出力するフォルダのフルパスを記述します。 EUR Developer , EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise をインストールした場合、次に示す値が設定されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows 環境の場合 C:¥¥eurpslog UNIX / Linux 環境の場合 /var/opt/eurps
TraceFileSize	<p>トレースファイルサイズを 4,096 ~ 2,147,483,647 バイトの範囲で指定します。</p> <p>省略または範囲外の値を指定した場合は、1,048,576 バイトが仮定されます。</p>

キーワード	値
TraceLogLevel	トレースレベルを、20、30 のどちらかで指定します。 省略または範囲外の値を指定した場合は、20 が仮定されます。
TraceErrorFileDir	エラーログファイルを出力するフォルダのフルパスを記述します。EUR Developer、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise をインストールした場合、次に示す値が設定されています。 <ul style="list-style-type: none"> Windows 環境の場合 C:¥¥eurpslog UNIX / Linux 環境の場合 /var/opt/eurps
TraceErrorFileSize	エラーログファイルを 4,096 ~ 2,147,483,647 バイトの範囲で指定します。 省略または範囲外の値を指定した場合は、1,048,576 バイトが仮定されます。

注

トレースレベルによって出力される項目を次に示します。

20：重要な例外、例外トレース、公開メソッドの開始・終了トレース、障害調査に必要な情報

30：「20」で出力される項目、内部メソッドの開始・終了トレース

プロパティファイルに設定されていないキーワードについては、システムプロパティに設定されているキーワードを参照します。プロパティファイルがない場合は、システムプロパティに設定されているすべてのキーワードを参照します。参照するシステムプロパティのキーワードは、プロパティファイルのキーワードの先頭に「EURPSManager.」を付加したものになります。例えば、「CommandPath」の場合、「EURPSManager.CommandPath」を参照します。

なお、必要なキーワード（CommandPath、TraceFileDir、TraceErrorFileDir）がプロパティファイルにも、システムプロパティにも設定されていない場合は、エラー（KEEU604-E）になります。

システムプロパティの設定方法については、JSP 環境のマニュアルを参照してください。

なお、アプリケーションプログラムからシステムプロパティを設定する場合は、システムプロパティを設定したあと、JavaBeans 起動部品のオブジェクトを生成してください。

5.2.3 JavaBeans 起動部品の設定方法

JavaBeans 起動部品の設定は、次のどちらかの方法で指定してください。

- 設定方法 1

次に示すファイルおよびフォルダのフルパスを、クラスパスに追加します。

- EUR Developer、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ ¥Java¥ 下の EURPSManager_5.jar ファイル、および EURPSManager.properties ファイルのあるフォルダ

- OS インストールドライブ : %Program Files%\Hitachi\HNTRLib2\classes\hntplib2j.jar ファイル

注

インストール後に EURPSManager_5.jar ファイルおよび EURPSManager.properties ファイルを別のフォルダに移動した場合は、移動先の EURPSManager_5.jar ファイル、および EURPSManager.properties ファイルの移動先フォルダを指定してください。

- 設定方法 2

JSP または Java サブレットアプリケーションの JavaBeans 格納フォルダに、次に示すファイルをコピーします。

- EUR Developer, EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ %Java% 下の EURPSManager_5.jar ファイル、および EURPSManager.properties ファイル
- OS インストールドライブ : %Program Files%\Hitachi\classes\hntplib2j.jar ファイル

注

uCosminexus のアプリケーションサーバを使用する場合は、コピーする必要はありません。

なお、JSP または Java サブレットアプリケーションで管理するフォルダやクラスパスの設定については、JSP 環境のマニュアルを参照してください。

5.2.4 JavaBeans 使用時の注意

JavaBeans 起動部品を使用する場合の注意事項について説明します。

(1) JavaBeans 起動部品のエンコーディング

JavaBeans 起動部品がサポートするエンコーディングは、使用する J2SDK のバージョンに依存します。ロケールに対応する文字コードについては、「付録 C 作業環境の言語との対応」を参照してください。

(2) 画像データを使用する場合

(a) 画像ファイルの場所

画像ファイルの参照先は、環境変数 EURPS_IMAGEPATH で、デフォルトの読み込みフォルダを指定できます。画像ファイルの参照先は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

ファイル名をフルパスで指定した場合

設定されているフォルダから画像ファイルを読み込みます。

ファイル名を相対パスで指定した場合

環境変数 EURPS_IMAGEPATH に設定されているフォルダからの相対パスとして画像ファイルを読み込みます。

ファイル名だけ指定した場合

環境変数 EURPS_IMAGEPATH に設定されているフォルダ下の画像ファイルを読み込みます。

環境変数 EURPS_IMAGEPATH が設定されていない場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

1. 環境設定ファイル (EURPS_ENV) 中の変数 EURPS_IMAGEPATH に設定されているフォルダ
2. EUR Developer, EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

1. 環境設定ファイル (eurps_env) 中の変数 EURPS_IMAGEPATH に設定されているディレクトリ
2. ホームディレクトリ (環境変数 HOME で設定したディレクトリ)
3. /var/opt/eurps ディレクトリ

EUR 形式ファイルを出力する場合は、データファイルに指定する画像ファイルは、ファイル名だけを指定してください。画像ファイルのパスは、環境変数 EURPS_IMAGEPATH, または環境設定ファイル (Windows 環境の場合は EURPS_ENV, UNIX / Linux 環境の場合は eurps_env) 中の変数 EURPS_IMAGEPATH に指定してください。

(b) 扱える画像データの形式

EUR サーバ帳票出力機能で扱える画像データの形式については、「7.4.2 扱える画像データの形式」を参照してください。

(3) PDF 形式ファイル出力のシステム構築時に出力性能を考慮するには

図形 (網掛け) のある帳票の場合、PDF 形式ファイルを出力するとき、環境変数 EURPS_PDF_OUTPUT によって、ファイルサイズと印刷スピードのどちらを優先するかを指定できます。

図形 (網掛け) のある帳票を PDF 形式ファイルに出力し、非 PostScript プリンタから印刷する場合、印刷に時間が掛かることがあります。このような場合、環境変数 EURPS_PDF_OUTPUT に「PRINT_SPEED」を設定しておくことで、印刷時間を短縮できます。

環境変数 EURPS_PDF_OUTPUT への設定値には、次に示す文字列を半角英大文字で指

定してください。

表 5-3 EURPS_PDF_OUTPUT の設定値

環境変数への設定値	説 明
FILE_SIZE	ファイルサイズを優先します（デフォルト）。
PRINT_SPEED	印刷スピードを優先します。ただし、「FILE_SIZE」を指定した場合よりファイルサイズが大きくなることがあります。

「FILE_SIZE」、「PRINT_SPEED」以外の値を指定した場合は、「FILE_SIZE」が仮定されます。

環境変数 EURPS_PDF_OUTPUT と環境設定ファイル（Windows 環境の場合は EURPS_ENV、UNIX / Linux 環境の場合は eurps_env）中の変数 EURPS_PDF_OUTPUT を同時に設定した場合は、環境変数の値が優先されます。

（４）PDF 形式ファイル出力のシステム構築時にファイルサイズを考慮するには

同一の画像アイテムを複数貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合、ファイルサイズを最適化するかどうかを指定します。

同一の画像アイテムを複数貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合、複数分の画像データを PDF 形式ファイルに出力するため、ファイルサイズが大きくなります。そのため、環境変数 EURPS_PDF_SAMEIMAGE に「OPTIMIZE」を設定すると、一つ分の画像データだけを PDF 形式ファイルに出力するので、ファイルサイズが小さくなります。ただし、別々の画像アイテムを画像データに貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合は、環境変数 EURPS_PDF_SAMEIMAGE に「NO」を設定したときに比べて、PDF 形式ファイルの出力時間が遅くなる場合があります。

環境変数への設定値には、次に示す文字列をすべて半角英大文字で指定してください。

表 5-4 EURPS_PDF_SAMEIMAGE の設定値

環境変数への設定値	説 明
OPTIMIZE	帳票に同一の画像データが貼り付けてある場合、ファイルサイズを最適化します。
NO	帳票に同一の画像データが貼り付けてある場合、ファイルサイズを最適化しません。

「OPTIMIZE」、「NO」以外の値を指定した場合、または環境変数 EURPS_PDF_SAMEIMAGE に何も設定しなかった場合は、「OPTIMIZE」が仮定されます。

環境変数 EURPS_PDF_SAMEIMAGE と環境設定ファイル（Windows 環境の場合は

EURPS_ENV, UNIX / Linux 環境の場合は eurps_env) 中の変数
EURPS_PDF_SAMEIMAGE を同時に設定した場合は、環境変数の値が優先されます。

(5) PDF 形式ファイル出力のシステム構築時にメモリリソースの圧迫を回避するには

複数の画像アイテムを貼り付けた帳票、または複数のバーコードアイテムを貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合、メモリリソースを最適化するかどうかを指定できます。

複数の画像アイテムを貼り付けた帳票、または複数のバーコードアイテムを貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合、メモリ上に複数分の画像データ、またはバーコードデータを確保して PDF 形式ファイルを出力するため、メモリリソースを圧迫します。そのため、環境変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM に「YES」を設定しておく、メモリリソースの圧迫を回避できます。ただし、メモリリソースの最適化処理を行う場合、一時ファイル (Windows 環境の場合は SystemTemp, UNIX / Linux 環境の場合は /tmp) を使用するため、環境変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM に「YES」を設定しないとときに比べて、PDF 形式ファイルの出力時間が遅くなります。

環境変数への設定値には、次に示す文字列をすべて半角英大文字で指定してください。

表 5-5 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM の設定値

環境変数への設定値	説 明
YES	複数の画像アイテムを貼り付けた帳票、または複数のバーコードアイテムを貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合、メモリリソースを最適化にします。

「YES」以外の値を指定した場合、または環境変数

EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM に何も設定しなかった場合は、メモリリソースの最適化はしません。

環境変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM と環境設定ファイル (Windows 環境の場合は EURPS_ENV, UNIX / Linux 環境の場合は eurps_env) 中の変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM を同時に設定した場合は、環境変数の値が優先されます。

(6) 複数の帳票セットを指定して出力するときの文字列の長さ

複数の帳票セットを指定して出力するとき、eurps コマンドの構文に指定できる文字列の長さは、約 30KB までです。

JavaBeans 起動部品を使用した帳票出力は、「eurps.exe (EUR サーバ帳票出力機能実行ファイル)」をプロセス起動します。そのため、プロパティやメソッドに指定されたファイル名などの情報が、eurps コマンドの構文に置き換えられた場合、文字列の長さが約 30KB を超えると、正しく起動されません。

また、次に示す場合にも、eurps コマンドの構文が約 30KB を超えると、EUR サーバ帳票出力機能が正しく起動されません。

- Windows 環境で、UAP から直接 CreateProcess 関数などを使用してコマンド実行した場合
- UNIX / Linux 環境で、UAP から直接プロセス起動する関数を使用してコマンド実行した場合

eurps コマンドの構文が約 30KB を超えるような複数の帳票セットを指定する場合は、複数回に分けて実行するか、または複数の帳票セットを記述した帳票セット指定ファイル (setMultiReportSetFileName プロパティ) で指定してください。

コマンド構文の長さは、次に示す計算式で求められます。複数の帳票セットを指定する場合は、求められた値が約 30KB 以内になるように、eurps コマンドに指定するファイル名長や、出力する帳票ファイルの数を決定してください。計算式の単位は、バイトです。

コマンド構文の長さを求める計算式

- プリント出力と EUR 形式ファイル出力の場合

(帳票ファイル名長 + 3 + マッピングデータファイル名長¹ + 3 + ユーザ定義データファイル名長¹ + 3) + (その他のオプション名長² + 1)

- PDF 形式ファイル出力の場合

(帳票ファイル名長 + 3 + マッピングデータファイル名長¹ + 3 + ユーザ定義データファイル名長¹ + 3 + しおり定義ファイル名長 + 3) + (その他のオプション名長² + 1)

注 1

データベース連携時には、「マッピングデータファイル名長」は「マッピングデータの変記号値定義ファイル名長」に、「ユーザ定義データファイル名長」は「ユーザ定義データの変記号値定義ファイル名長」に置き換えて計算してください。

注 2

「その他のオプション名」とは、帳票ファイル名、マッピングデータファイル名、ユーザ定義データファイル名、およびしおり定義ファイル名以外のオプション名と指定された文字列の長さです。

(7) J2EE サポート、および WAR ファイル作成時の注意

プロパティファイル (EURPSManager.properties) は、クラスローダ (J2EE 対応) で読み込めるので、JAR ファイル (EURPSManager_5.jar) とプロパティファイルのファイルの場所を同じにすることで、WAR ファイルにできます。ただし、クラスローダでプロパティファイルを読み込めない場合は、環境変数 CLASSPATH からプロパティファイルを読み込みます。

JavaBeans を使用した帳票出力は、「eurps.exe (EUR サーバ帳票出力機能実行ファイル)」をプロセス起動するので、WAR ファイルの作成元と配布先で「eurps.exe」のファイルのパスを同じにしてください。ただし、Windows 環境と UNIX / Linux 環境では、ディレクトリ構造が異なるため、Windows 環境で作成した WAR ファイルを UNIX / Linux 環境に配布したり、UNIX / Linux 環境で作成した WAR ファイルを Windows 環境に配布したりすることはできません。

(8) JavaBeans 起動部品のセキュリティについて

セキュリティマネージャを使用する場合、JavaBeans 起動部品 (EURPSManager_5.jar) を使用するには、アクセス権の許可が必要です。

アクセス権の許可は、ポリシーファイルで設定します。

ポリシーファイルでアクセス権の許可を設定する場合、セキュリティを強化するために、アクセス権の適用範囲を制限します。EURPSManager_5.jar を使用するときは、EUR サーバ帳票出力機能が提供する jar ファイルだけに適用するように、codeBase で指定します。

なお、すでにセキュリティポリシーを設定している場合、適用範囲を限定することで、今まで動作していたプログラムにも影響を与えることがあります。セキュリティポリシーは、システム全体のセキュリティポリシーを検討してから、ポリシーファイルに記述してください。

記述例を次に示します。

```
grant codeBase "file:${ejbserver.http.root}/web/  
${ejbserver.serverName}/eurps/WEB-INF/lib/EURPSManager_5.jar" {  
    permission java.io.FilePermission "C:/Program Files/Hitachi/EUR  
Print Service/Program/eurps.exe", "execute";  
};
```

なお、eurps.home は JavaVM の起動オプションで指定された EUR サーバ帳票出力機能の実行ファイルのインストールパスを示します。

JavaVM の起動オプションの記述例を次に示します。

記述箇所

usrconf.cfg (J2EE サーバ用オプション定義ファイル)

記述例 (Windows の場合)

```
add.jvm.arg=-Deurps.home=C:\Program Files\Hitachi\EUR Print  
Service\Program
```

5.2.5 同時に指定できないメソッド

同時に指定できないメソッドについて説明します。

JavaBeans 起動部品で次に示す組み合わせを同時に指定すると、メッセージ KEEU603-E「同時に指定できないメソッドが指定されています。」が出力されます。

表 5-6 JavaBeans 起動部品で同時に指定できないメソッド

指定したメソッド	同時に指定できないメソッド
setOutputType=0 の場合	setBookmarkFileName
	setCryptoFileName
	setDistributeFileName
	setDocBookmarkFileName
setOutputType=1 かつ setOutFileName を指定した場合	setDistributeFileName
setOutputType=2 の場合	setBookmarkFileName
	setCryptoFileName
	setDistributeFileName
	setDistributionInfoFile
	setDocBookmarkFileName
	setFirstPageNumber
	setInitPageNumber
	setMultiBookmarkFileName
	setPageNumberFormat
	setPageNumberLocation
	setPaperOrientation
	setPrintCopies
	setPrintedPageNumberFileName
	setPrintEndPage
	setPrinterinfFileName
	setPrinterinfFilePath
	setPrinterName
	setPrintPageNumber
	setPrintStartPage
	setScriptCntlFileName
	setSortPrint
	setTrayCode
	setViewerPreferenceFileName
setOutputType=2 かつ setOutFileName を指定した場合	setDistributeFileName
setOutputType=3 の場合	setBookmarkFileName

5. JavaBeans を使用した帳票出力

指定したメソッド	同時に指定できないメソッド
	setCrypto
	setCryptoFileName
	setDistributeFileName
	setDistributionInfoFile
	setDocBookmarkFileName
	setMultiBookmarkFileName
setOutputType=4 の場合	setBookmarkFileName
	setBookmarkFilePath
	setCrypto
	setCryptoFileName
	setCryptoFilePath
	setDistributeFileName
	setDistributeFilePath
	setDistributionInfoFile
	setDocBookmarkFileName
	setEncryptionPasswordKey
	setMultiBookmarkFileName
	setMultiDataFileName
	setMultiFormInfoDefFileName
	setMultiFormInfoDefFilePath
	setMultiReportFileName
	setMultiReportSetFileName
	setMultiReportSetFilePath
	setMultiUserDataFileName
	setPrintedPageNumberFileName
	setPrinterName
	setScriptCntlFileName
	setScriptCntlFilePath
	setTintInfoFileName
	setTintInfoFilePath
	setViewerPreferenceFileName
	setViewerPreferenceFilePath
setDistributionInfoFile を指定した場合	setCryptoFileName
	setDistributeFileName
	setOutFileName

指定したメソッド	同時に指定できないメソッド
	setPaperOrientation
	setPrintCopies
	setSortPrint
	setTrayCode

5.3 JavaBeans 起動部品が提供するパッケージ

JavaBeans 起動部品では、JP.co.Hitachi.soft.EURPS パッケージを提供します。

JP.co.Hitachi.soft.EURPS パッケージは、次に示すクラスを提供します。

帳票出力の制御を行うクラス

EURPSManager：帳票出力を制御するクラス

例外の制御を行うクラス

EURPSException：帳票出力時に発生するエラー（例外）を管理するクラス

5.4 EURPSManager クラス

EURPSManager クラスは、帳票出力を制御するクラスです。

```
public class EURPSManager
```

クラス継承

```
java.lang.Object  
JP.co.Hitachi.soft.EURPS.EURPSManager
```

解説

帳票ファイル、データファイル、出力種別（プリンタ出力、PDF 形式ファイル、EUR 形式ファイル、CSV 形式ファイル、または Excel 形式ファイル）などのプロパティを設定するメソッドと、帳票出力を行うメソッドを提供します。JSP や Java サブレットなどのアプリケーションプログラムからは、次に示す手順で帳票出力をします。

1. CSV 形式ファイルの作成
 2. EURPSManager オブジェクトの作成
 3. プロパティの設定
帳票ファイル、データファイル、出力種別（プリンタ出力、PDF 形式ファイル、または EUR 形式ファイル）などのプロパティを設定するメソッドに情報を設定します。メソッドへの設定内容については、「5.6 EURPSManager クラスのメソッド仕様」を参照してください。
 4. 帳票の出力
帳票出力メソッド（printReport メソッド）を呼び出して帳票を出力します。
3. と 4. の処理で発生したエラー、または発生するエラーは、例外を処理するようにプログラムに記述します。

例外

エラー発生時は、次の EURPSEException 例外が発生します。

表 5-7 EURPSEException 例外

メッセージ ID	説明
KEEU604-E	必須項目が設定されていません。
KEEU605-E	プロパティファイルが読み込めません。または、設定内容が不正です。

5.4.1 EURPSManager クラスのコンストラクタ

EURPSManager クラスのコンストラクタは、EURPSManager オブジェクトを生成します。

```
public EURPSManager() throws EURPSEException
```

解説

ユーザアプリケーションからこのコンストラクタを呼び出すことで、
EURPSManager オブジェクトを生成します。

なお、プロパティファイル (EURPSManager.properties) の設定内容に誤りがある場合は、エラー (KEEU604-E) になります。

引数

なし

例外処理

EURPSException

EURPSManager オブジェクトの生成時にエラーが発生した場合は、
EURPSException クラスの例外が発生します。

5.4.2 EURPSManager クラスのメソッド一覧

EURPSManager クラスのメソッドを、出力別に示します。

(1) プリンタに出力する場合

次の表に、Windows 対応のプリンタ、または UNIX 対応の LIPSIII, PostScript Level2, および ESC/P 対応プリンタに出力する場合のメソッド一覧をアルファベット順で記載します。

表 5-8 プリンタ出力時に使用するメソッド一覧

メソッド	概 要	プリンタ 出力
printReport	帳票の出力	
setDataFileName	マッピングデータ用のデータファイル名または 可変記号値定義ファイル名	
setDataFilePath	マッピングデータ用のデータファイルまたは可 変記号値定義ファイルのある場所	
setDBInfoFileName	接続情報ファイル名	
setDBInfoFilePath	接続情報ファイルのある場所	
setDistributionInfoFile	仕分け定義情報ファイル名	
setDocInfoFileName	文書情報設定ファイル名	
setDocInfoFilePath	文書情報設定ファイルのある場所	
setEurpsEnvFile	環境設定ファイル名	
setFirstPageNumber	ページ番号の初期値	
setFontWidthMode ¹	文字幅の計算方法	
setInitPageNumber	ページ番号の開始番号の初期化	
setMultiDataFileName	複数のマッピングデータ用のデータファイル名 または可変記号値定義ファイル名	

メソッド	概 要	プリンタ 出力
setMultiFormInfoDefFileName ²	複数様式情報定義ファイル名	
setMultiFormInfoDefFilePath	複数様式情報定義ファイルのある場所	
setMultiReportFileName ³	複数の帳票ファイル名	
setMultiReportSetFileName ³	帳票セット指定ファイル名	
setMultiReportSetFilePath	帳票セット指定ファイルのある場所	
setMultiUserDataFileName	複数のユーザ定義データ用のデータファイル名 または可変記号値定義ファイル名	
setOutFileName ⁴	出力先ファイル名	
setOutputType	帳票の出力タイプ	
setPageNumberFormat	ページ番号の形式	
setPageNumberLocation	余白へのページ番号の印刷位置	
setPaperOrientation ⁵	印刷の向き	
setPrintCopies ⁵	印刷部数	
setPrintedPageNumberFileName	出力ページ情報ファイル名	
setPrintEndPage ⁵	印刷終了ページ	
setPrinterinfFileName	プリンタ定義ファイル名	
setPrinterinfFilePath	プリンタ定義ファイルのある場所	
setPrinterName	出力先プリンタ名	
setPrintPageNumber	余白へのページ番号印刷	
setPrintStartPage ⁵	印刷開始ページ	
setReplaceItemCntlFileName	置き換え表管理情報ファイル名	
setReplaceItemCntlFilePath	置き換え表管理情報ファイルのある場所	
setReportFileName ³	帳票ファイル名	
setReportFilePath	帳票ファイルのある場所	
setSortPrint ⁵	部数が複数の場合の印刷単位	
setTrayCode	給紙トレイコード	
setUserDataFileName	ユーザ定義データ用のデータファイル名または 可変記号値定義ファイル名	
setUserDataFilePath	ユーザ定義データ用のデータファイルまたは可 変記号値定義ファイルのある場所	

(凡例)

：必ず指定するメソッドです。

：指定を省略できるメソッドです。

注 1

UNIX / Linux 環境で PostScript Level2 対応プリンタに出力する場合は、
setFontWidthMode メソッドを指定するとエラー（KEEU079-E）になります。
UNIX / Linux 環境で LIPSIII 対応プリンタまたは ESC/P 対応プリンタに出力する
場合は、setFontWidthMode メソッドの指定は無効になります。

注 2

複数様式で帳票を出力する場合は、setMultiFormInfoDefFileName メソッドを必ず
指定してください。setMultiFormInfoDefFileName メソッドが省略されていると、
setMultiReportFileName メソッドで指定されている複数の帳票ファイル、または
setMultiReportSetFileName メソッドの帳票セット指定ファイルに指定されている
帳票ファイルが順に出力されます。

注 3

setMultiReportSetFileName メソッドと setReportFileName メソッド、または
setMultiReportFileName メソッドを同時に指定した場合は、
setMultiReportSetFileName メソッドで指定された帳票ファイルのあとに、
setReportFileName メソッド、または setMultiReportFileName メソッドで指定さ
れた帳票ファイルを追加して出力します。

注 4

プリンタドライバのファイル出力機能を使用して印刷結果をファイル出力する場
合は、setOutFileName メソッドを指定してください。

注 5

setMultiReportSetFileName メソッド、または setMultiReportFileName メソッド
を指定して出力する場合は、メソッドの指定は無効になります。

(2) ファイルに出力する場合

次の表に、PDF 形式ファイル、EUR 形式ファイル、CSV 形式ファイルを出力する場
合のメソッド一覧をアルファベット順で記載します。

PDF 形式ファイル、EUR 形式ファイルに出力するには、EUR Developer、または EUR
Print Service Enterprise が必要です。

また、PDF 形式ファイルを暗号化して出力する場合は、EUR Print Service Enterprise
と付加製品の EUR Print Service - Cipher option が必要です。

表中では、出力形式の名称を次のように省略して表記します。

- PDF：PDF 形式ファイル出力
- EUR：EUR 形式ファイル出力
- CSV：CSV 形式ファイル出力
- Excel：Excel 形式ファイル出力

表 5-9 ファイル出力時に使用するメソッド一覧

メソッド	概 要	PDF				EU R	CS V	Ex cel
		フ ァ イ ル	仕 分 け	暗 号 化	暗 号 化 仕 分 け			
printReport	帳票の出力							
setBookmarkFileName	しおり定義ファイル名					×	×	×
setBookmarkFilePath	文書しおり定義ファイルとしおり定義ファイルのファイルのある場所							×
setCrypto	PDF 形式ファイルの暗号化出力の有無						×	×
setCryptoFileName	暗号化設定ファイル名					×	×	×
setCryptoFilePath	暗号化設定ファイルのある場所							×
setDataFileName	マッピングデータ用のデータファイル名または可変記号値定義ファイル名							
setDataFilePath	マッピングデータ用のデータファイルまたは可変記号値定義ファイルのある場所							
setDBInfoFileName	接続情報ファイル名							
setDBInfoFilePath	接続情報ファイルのある場所							
setDistributeFileName	PDF 仕分け定義ファイル名					×	×	×
setDistributeFilePath	PDF 仕分け定義ファイルのある場所							×
setDocBookmarkFileName	文書しおり定義ファイル名					×	×	×

5. JavaBeans を使用した帳票出力

メソッド	概 要	PDF				EU R	CS V	Ex cel
		フ ァ イ ル	仕 分 け	暗 号 化	暗 号 化 仕 分 け			
setDocInfoFileName	文書情報設定 ファイル名							
setDocInfoFilePath	文書情報設定 ファイルのある 場所							
setEncryptionPasswordKey	パスワード暗号 化鍵							×
setEurpsEnvFile	環境設定ファイ ル名							
setFirstPageNumber	ページ番号の初 期値					×		
setFontWidthMode	文字幅の計算方 法							
setInitPageNumber	ページ番号の開 始番号の初期化					×		
setMultiBookmarkFileName	複数のしおり定 義ファイル名					×	×	×
setMultiDataFileName	複数のマッピン グデータ用の データファイル 名または可変記 号値定義ファイ ル名							
setMultiFormInfoDefFileName ¹	複数様式情報定 義ファイル名							×
setMultiFormInfoDefFilePath	複数様式情報定 義ファイルのあ る場所							×
setMultiReportFileName ²	複数の帳票ファ イル名							×
setMultiReportSetFileName ²	帳票セット指定 ファイル名							×
setMultiReportSetFilePath	帳票セット指定 ファイルのある 場所							×

メソッド	概 要	PDF				EU R	CS V	Ex cel
		フ ァ イ ル	仕 分 け	暗 号 化	暗 号 化 仕 分 け			
setMultiUserDataFileName	複数のユーザ定義データ用のデータファイル名または可変記号値定義ファイル名							×
setOutFileName	出力先ファイル名		×		×			
setOutputType	帳票の出力タイプ							
setPageNumberFormat	ページ番号の形式					×		
setPageNumberLocation	余白へのページ番号の印刷位置					×		
setPrintedPageNumberFileName	出力ページ情報ファイル名					×		×
setPrintEndPage ³	印刷終了ページ					×		
setPrintPageNumber	余白へのページ番号印刷					×		
setPrintStartPage ³	印刷開始ページ					×		
setReplaceItemCntlFileName	置き換え表管理情報ファイル名							
setReplaceItemCntlFilePath	置き換え表管理情報ファイルのある場所							
setReportFileName ²	帳票ファイル名							
setReportFilePath	帳票ファイルのある場所							
setScriptCntlFileName	Acrobat JavaScript 定義ファイル名					×	×	×
setScriptCntlFilePath	Acrobat JavaScript 定義ファイルのある場所							×
setTintInfoFileName	透かし情報ファイル名			×	×	×	×	×

5. JavaBeans を使用した帳票出力

メソッド	概 要	PDF				EU R	CS V	Ex cel
		フ ァ イ ル	仕 分 け	暗 号 化	暗 号 化 仕 分 け			
setTintInfoFilePath	透かし情報ファイルのある場所			×	×	×	×	×
setUserDataFileName	ユーザ定義データ用のデータファイル名または可変記号値定義ファイル名							
setUserDataFilePath	ユーザ定義データ用のデータファイルまたは可変記号値定義ファイルのある場所							
setViewerPreferenceFileName	ビューアプレファレンス定義ファイル名					×	×	×
setViewerPreferenceFilePath	ビューアプレファレンス定義ファイルのある場所							×

(凡例)

- : 必ず指定するメソッドです。
- : 指定を省略できるメソッドです。
- : 指定しても無視されるメソッドです。
- × : 指定するとエラーになるメソッドです。

注 1

複数様式で帳票を出力する場合は、setMultiFormInfoDefFileName メソッドを必ず指定してください。setMultiFormInfoDefFileName メソッドが省略されていると、setMultiReportFileName メソッドで指定されている複数の帳票ファイル、または setMultiReportSetFileName メソッドの帳票セット指定ファイルに指定されている帳票ファイルが順に出力されます。

注 2

setMultiReportSetFileName メソッドと setReportFileName メソッド、または setMultiReportFileName メソッドを同時に指定した場合は、setMultiReportSetFileName メソッドで指定された帳票ファイルのあとに、setReportFileName メソッド、または setMultiReportFileName メソッドで指定さ

れた帳票ファイルを追加して出力します。

注 3

setMultiReportSetFileName メソッド，または setMultiReportFileName メソッドを指定して出力する場合，メソッドの指定は無効になります。

なお，setPrintCopies メソッド，setSortPrint メソッド，および setPaperOrientation メソッドは指定してもエラーにはなりませんが，メソッドの指定は無効になります。

5.5 EURPSEException クラス

EURPSEException クラスは、JavaBeans 起動部品の各メソッドで例外が発生した場合にスローされるクラスです。

```
public class EURPSEException extends java.lang.Exception
```

クラス継承

```
java.lang.Exception
JP.co.Hitachi.soft.EURPS.EURPSEException
```

解説

EURPSEException クラスのオブジェクトは、JavaBeans 起動部品の内部で生成します。
ユーザプログラムは、このオブジェクトを例外ハンドラで受け取り、
getMessage メソッド、または getErrorCode メソッドを呼び出してエラー情報を取得します。

5.5.1 EURPSEException クラスのメソッド一覧

EURPSEException クラスのメソッド一覧を、次に示します。

表 5-10 EURPSEException クラスのメソッド

メソッド	概 要
getErrorCode	エラーコードを取得します。
getMessage	エラーメッセージ文字列を取得します。

5.6 EURPSManager クラスのメソッド仕様

EURPSManager クラスで利用できるメソッドの詳細を説明します。

printReport メソッド

プロパティに指定した帳票ファイル，データファイル，および出力種別に従って，帳票を出力します。

形式

public void printReport() throws EURPSException

引数

なし

解説

PrintReport メソッドは，次に示す時点で，呼び出し元に制御が戻ります。

- ・ プリントスプールへの出力が終了した時点
- ・ PDF 形式ファイルの出力が完了した時点
- ・ EUR 形式ファイルの出力が完了した時点
- ・ CSV 形式ファイルの出力が完了した時点
- ・ Excel 形式ファイルの出力が完了した時点

戻り値

なし

例外

エラー発生時は，次の EURPSException 例外が発生します。

表 5-11 EURPSException 例外

メッセージ ID	説明
KEEU600-E	メソッドの指定値に誤りがあります。
KEEU601-E	メソッドが指定されていません。
KEEU603-E	同時に指定できないメソッドが指定されています。
KEEU607-E	JavaBeans 起動部品の実行中に発生したそのほかのエラーです。

メッセージ ID	説明
KEEUxxx-y	<p>EUR サーバ帳票出力機能の実行中に発生したエラーです。</p> <p>xxx は、メッセージ番号を示します。</p> <p>y は、レベル (I (Information), W (Warning), または E (Error)) を示します。</p> <p>各メッセージの説明は、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。</p>

setBookmarkFileName メソッド

しおり定義ファイル名を指定します。

形式

```
public void setBookmarkFileName(String newBookmarkFileName)
```

引数

newBookmarkFileName

しおり定義ファイル名を指定します。

解説

引数 newBookmarkFileName には、setReportFileName メソッドで指定した帳票ファイルに対応するしおり定義ファイル名を指定してください。

しおり定義ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- setBookmarkFilePath メソッドで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_BOOKMARKPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- setBookmarkFilePath メソッドで指定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_BOOKMARKPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で設定したディレクトリ)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

帳票出力を実行する前に、次に示す内容を基に、指定したファイル名を見直してください。

- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー（KEEU009-E）になります。

Windows 環境の場合

フルパスで指定するときは半角 259 文字以内

相対パス、またはファイル名だけで指定するときは半角 255 文字以内

UNIX / Linux 環境の場合

フルパスで指定するときは 1,023 バイト以内

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したパスにファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー（KEEU025-E）になります。
- ファイル名には「"」を含めないでください。ファイル名に「"」が含まれていると、エラー（KEEU600-E）になります。
- setOutputType メソッドで 0、2 または 3 を指定した場合、setBookmarkFileName メソッドを指定すると、エラー（KEEU603-E）になります。
- setBookmarkFileName メソッドを指定した場合は、必ず setReportFileName メソッドを指定してください。指定しない場合は、エラー（KEEU601-E）になります。

戻り値

なし

setBookmarkFilePath メソッド

文書しおり定義ファイル、およびしおり定義ファイルがあるディレクトリを指定します。

形式

```
public void setBookmarkFilePath(String newBookmarkFilePath)
```

引数

newBookmarkFilePath

文書しおり定義ファイル、およびしおり定義ファイルがあるディレクトリを指定します。

解説

指定されたディレクトリは、setBookmarkFileName メソッドと setMultiBookmarkFileName メソッドで指定するしおり定義ファイル、および setDocBookmarkFileName メソッドで指定する文書しおり定義ファイルのデフォルトのディレクトリになります。

- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー（KEEU009-E）になります。

- Windows 環境の場合
フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
- UNIX / Linux 環境の場合
フルパスで 1,023 バイト以内
- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー（KEEU025-E）になります。
- ディレクトリ名には「/」を含めないでください。ディレクトリ名に「/」が含まれていると、エラー（KEEU600-E）になります。

戻り値

なし

setCrypto メソッド

PDF 形式ファイルを暗号化にして出力するかどうかを指定します。

形式

```
public void setCrypto(boolean newCrypto)
```

引数

newCrypto

PDF 形式ファイルを暗号化にして出力するかどうかを指定します。指定値を次に示します。

表 5-12 setCrypto メソッドの指定値

指定値	説 明
true	PDF 形式ファイルを暗号化にします。
false	PDF 形式ファイルを暗号化にしません。

解説

setCrypto メソッドの指定は、EUR Print Service Enterprise の付加製品である EUR Print Service - Cipher option が組み込まれている場合に有効です。EUR Print Service - Cipher option が組み込まれていない状態で setCrypto メソッドに「true」を指定した場合は、エラー（KEEU104-E）になります。

- setOutputType メソッドで 3 を指定した場合、setCrypto メソッドを指定すると、エラー（KEEU603-E）になります。

- setCrypto メソッドで「true」を指定した場合は、setCryptoFileName メソッドまたは setDistributeFileName メソッドを指定してください。どちらも指定しない場合は、エラー（KEEU600-E）になります。

戻り値

なし

setCryptoFileName メソッド

暗号化設定ファイル名を指定します。

形式

```
public void setCryptoFileName(String newCryptoFileName)
```

引数

newCryptoFileName

暗号化設定ファイル名を指定します。

解説

暗号化設定ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- setCryptoFilePath メソッドで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル（EURPS_ENV）の変数 EURPS_CRYPTOFILEPATH に設定されているフォルダ
- EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- setCryptoFilePath メソッドで指定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル（eurps_env）の変数 EURPS_CRYPTOFILEPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ（環境変数 HOME で指定）
- /var/opt/eurps ディレクトリ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー（KEEU009-E）になります。
- Windows 環境の場合
フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内

相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内

- UNIX / Linux 環境の場合
フルパスで 1,023 バイト以内
- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー（KEEU029-E）になります。
- ファイル名には「"」を含めないでください。ファイル名に「"」が含まれていると、エラー（KEEU600-E）になります。
- setOutputType メソッドで 0、2 または 3 を指定した場合、setCryptoFileName メソッドを指定すると、エラー（KEEU603-E）になります。
- setCryptoFileName メソッドを指定した場合は、必ず setCrypto メソッドを指定してください。指定しない場合は、エラー（KEEU601-E）になります。
- setCrypto メソッドで「false」を指定した場合は、setCryptoFileName メソッドを指定しないでください。指定した場合は、エラー（KEEU600-E）になります。

戻り値

なし

setCryptoFilePath メソッド

暗号化設定ファイルがあるディレクトリを指定します。

形式

```
public void setCryptoFilePath(String newCryptoFilePath)
```

引数

newCryptoFilePath

暗号化設定ファイルがあるディレクトリを指定します。

解説

指定されたディレクトリは、setCryptoFileName メソッドで指定する暗号化設定ファイルのデフォルトのディレクトリになります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイルのパスを見直してください。

- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー（KEEU009-E）になります。
- Windows 環境の場合
フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
- UNIX / Linux 環境の場合

フルパスで 1,023 バイト以内

- 存在するファイル，または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり，読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は，エラー（KEEU029-E）になります。
- ディレクトリ名には「/」を含めないでください。ディレクトリ名に「/」が含まれていると，エラー（KEEU600-E）になります。

戻り値

なし

setDataFileName メソッド

マッピングデータ用のデータファイル名，または可変記号値定義ファイル名を指定します。

形式

```
public void setDataFileName(String newDataFileName)
```

引数

`newDataFileName`

マッピングデータ用のデータファイル名または可変記号値定義ファイル名を指定します。

解説

データファイルからデータを読み込む場合，`setReportFileName` メソッドで指定した帳票ファイルに対応するマッピングデータファイル名を指定してください。

データベースからデータを読み込む場合は，可変記号値定義ファイル名を指定してください。

ファイル名は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は，次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- `setDataFilePath` メソッドで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル（`EURPS_ENV`）の変数 `EURPS_MAPDATAPATH` に設定されているフォルダ
- EUR Developer，EUR Print Service，または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- setDataFilePath メソッドで指定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_MAPDATAPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で設定したディレクトリ)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー (KEEU006-E, または KEEU054-E) になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー (KEEU009-E) になります。
 - Windows 環境の場合
フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
 - UNIX / Linux 環境の場合
フルパスで 1,023 バイト以内
- ファイル名には「"」を含めないでください。ファイル名に「"」が含まれていると、エラー (KEEU600-E) になります。
- 指定した可変記号値定義ファイルの内容に誤りがある場合は、エラー (KEEU056-E) になります。
- setDataFileName メソッドを指定した場合は、必ず setReportFileName メソッドを指定してください。指定しない場合は、エラー (KEEU601-E) になります。

戻り値

なし

setDataFilePath メソッド

マッピングデータ用のデータファイル、または可変記号値定義ファイルのある場所を指定します。

形式

```
public void setDataFilePath(String newDataFilePath)
```

引数

newDataFilePath

マッピングデータ用のデータファイル、または可変記号値定義ファイルのある場所を指定します。

解説

setDataFileName メソッドと setMultiDataFileName メソッドで指定するマッピングデータ用のデータファイル，または可変記号値定義ファイルのデフォルトのディレクトリになります。

帳票出力を実行する前に，指定したファイルのパスを見直してください。

- 存在するファイル，または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり，読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は，エラー（KEEU006-E，または KEEU054-E）になります。
- ファイル名に指定できる文字数は，次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は，エラー（KEEU009-E）になります。
 - Windows 環境の場合
 - フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
 - 相対パス，またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
 - UNIX / Linux 環境の場合
 - フルパスで 1,023 バイト以内
- ディレクトリ名には「"」を含めないでください。ディレクトリ名に「"」が含まれていると，エラー（KEEU600-E）になります。
- 指定した可変記号値定義ファイルの内容に誤りがある場合は，エラー（KEEU056-E）になります。

戻り値

なし

setDBInfoFileName メソッド

データベースからデータを読み込む場合，接続情報ファイル名を指定します。

形式

```
public void setDBInfoFileName (String newDBInfoFileName)
```

引数

newDBInfoFileName

接続情報ファイル名を指定します。

解説

接続情報ファイル名は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は，次に示す順にファイルを探索します。

Windows 環境の場合

- setDBInfoFilePath メソッドで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_DBINFOPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer , EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- setDBInfoFilePath メソッドで指定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_DBINFOPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で設定したディレクトリ)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー (KEEU053-E) になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー (KEEU009-E) になります。
 - Windows 環境の場合
フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
 - UNIX / Linux 環境の場合
フルパスで 1,023 バイト以内
- ファイル名には「"」を含めないでください。ファイル名に「"」が含まれていると、エラー (KEEU600-E) になります。
- 指定したファイルの内容に誤りがある場合は、エラー (KEEU055-E) になります。必ず指定するキーワードが指定されているかどうかを見直してください。

戻り値

なし

setDBInfoFilePath メソッド

接続情報ファイルのある場所を指定します。

形式

```
public void setDBInfoFilePath (String newDBInfoFilePath)
```

引数

`newDBInfoFilePath`

接続情報ファイルのある場所を指定します。

解説

指定されたディレクトリは、`setDBInfoFileName` メソッドで指定するファイルのデフォルトのディレクトリになります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー（KEEU053-E）になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー（KEEU009-E）になります。
 - Windows 環境の場合
 - フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
 - UNIX / Linux 環境の場合
 - フルパスで 1,023 バイト以内
- ディレクトリ名には「`\"`」を含めないでください。ディレクトリ名に「`\"`」が含まれていると、エラー（KEEU600-E）になります。
- 指定したファイルの内容に誤りがある場合は、エラー（KEEU055-E）になります。必ず指定するキーワードが指定されているかどうかを見直してください。

戻り値

なし

setDistributeFileName メソッド

PDF 仕分け定義ファイル名を指定します。

形式

```
public void setDistributeFileName(String newDistributeFileName)
```

引数

`newDistributeFileName`

PDF 仕分け定義ファイル名を指定します。

解説

setDistributeFileName メソッドを指定して、PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合は、setOutFileName メソッドを指定しないでください。同時に指定すると、エラー (KEEU603-E) になります。

PDF 仕分け定義ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- setDistributeFilePath メソッドで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_DISTINFOPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- setDistributeFilePath メソッドで指定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_DISTINFOPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で設定したディレクトリ)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー (KEEU009-E) になります。
 - Windows 環境の場合
フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
- UNIX / Linux 環境の場合
フルパスで 1,023 バイト以内
- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー (KEEU014-E) になります。
- ファイル名には「"」を含めないでください。ファイル名に「"」が含まれていると、エラー (KEEU600-E) になります。
- setOutputType メソッドで 0, 2 または 3 を指定した場合、setDistributeFileName メソッドを指定すると、エラー (KEEU603-E) になります。
- setOutFileName メソッドを指定した場合は、setCryptoFileName メソッドを指定しないでください。指定した場合は、エラー (KEEU603-E) になります。

戻り値

なし

setDistributeFilePath メソッド

PDF 仕分け定義ファイルのある場所を指定します。

形式

```
public void setDistributeFilePath(String newDistributeFilePath)
```

引数

newDistributeFilePath

PDF 仕分け定義ファイルのある場所を指定します。

解説

指定されたディレクトリは、setDistributeFileName メソッドで指定する PDF 仕分け定義ファイルのデフォルトのディレクトリになります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイルのパスを見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー（KEEU006-E）になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー（KEEU009-E）になります。
 - Windows 環境の場合
 - フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
 - UNIX / Linux 環境の場合
 - フルパスで 1,023 バイト以内
- ディレクトリ名には「"」を含めないでください。ディレクトリ名に「"」が含まれていると、エラー（KEEU600-E）になります。

戻り値

なし

setDistributionInfoFile メソッド

JP1 と連携した仕分け印刷をする場合、仕分け定義情報ファイル名を指定します。

Windows 環境の場合だけ指定できます。

形式

```
public void setDistributionInfoFile(String newDistributionInfoFile)
```

引数

newDistributionInfoFile

仕分け定義情報ファイル名を指定します。

解説

仕分け定義情報ファイルは、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_DISTINFOPATH に設定されているフォルダ
- EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

なお, setOutputType メソッドに 1 を指定した場合は, setDistributionInfoFile メソッドを指定しても無効です。2 または 3 を指定した場合は, エラー (KEEU603-E) になります。

仕分け定義情報ファイル名には「"」を含めないでください。ファイル名に「"」が含まれていると, エラー (KEEU600-E) になります。また, UNIX / Linux 環境で setDistributionInfoFile メソッドを指定すると, エラー (KEEU606-E) になります。

次のメソッドと組み合わせて指定すると, エラー (KEEU603-E) になります。

- setPrintCopies メソッド
- setSortPrint メソッド
- setPaperOrientation メソッド
- setTrayCode メソッド
- setCryptoFileName メソッド
- setDistributeFileName メソッド
- setOutFileName メソッド

戻り値

なし

例外

エラー発生時は, 次の EURPSEException 例外が発生します。

表 5-13 EURPSEException 例外

メッセージ ID	説明
KEEU606-E	UNIX/Linux 版で setDistributionInfoFile メソッドを指定しました。

setDocBookmarkFileName メソッド

文書しおり定義ファイル名を指定します。

形式

```
public void setDocBookmarkFileName(String newDocBookmarkFileName)
```

引数

newDocBookmarkFileName

文書しおり定義ファイル名を指定します。

解説

文書しおり定義ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- setBookmarkFilePath メソッドで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の EURPS_BOOKMARKPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- setBookmarkFilePath メソッドで指定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の EURPS_BOOKMARKPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で設定したディレクトリ)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

文書しおり定義ファイルに「docinfotitle」が指定されている場合は、setDocInfoFileName メソッドに、キーワード TITLE が指定された文書情報設定ファイルが指定されていないと、setDocBookmarkFileName メソッドを指定しても、PDF 形式ファイルにしおりは出力されません。

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあ

る場合は、エラー（KEEU009-E）になります。

- Windows 環境の場合

フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内

相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内

- UNIX / Linux 環境の場合

フルパスで 1,023 バイト以内

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー（KEEU025-E）になります。
- ファイル名には「"」を含めないでください。ファイル名に「"」が含まれていると、エラー（KEEU600-E）になります。
- setOutputType メソッドで 0、2 または 3 を指定した場合、setDocBookmarkFileName メソッドを指定すると、エラー（KEEU603-E）になります。
- setDocBookmarkFileName メソッドを指定した場合は、必ず setReportFileName メソッドを指定してください。指定しない場合は、エラー（KEEU601-E）になります。

戻り値

なし

setDocInfoFileName メソッド

文書情報設定ファイル名を指定します。

形式

```
public void setDocInfoFileName(String newDocInfoFileName)
```

引数

newDocInfoFileName

文書情報設定ファイル名を指定します。

解説

文書情報設定ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- setDocInfoFilePath メソッドで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル（EURPS_ENV）の EURPS_DOCINFOPATH に設定されているフォルダ

- EUR Developer , EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- setDocInfoFilePath メソッドで指定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の EURPS_DOCINFOPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で設定したディレクトリ)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー (KEEU009-E) になります。
- Windows 環境の場合
フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
- UNIX / Linux 環境の場合
フルパスで 1,023 バイト以内
- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー (KEEU010-E) になります。
- ファイル名には「"」を含めないでください。ファイル名に「"」が含まれていると、エラー (KEEU600-E) になります。

戻り値

なし

setDocInfoFilePath メソッド

文書情報設定ファイルがあるディレクトリを指定します。

形式

```
public void setDocInfoFilePath(String newDocInfoFilePath)
```

引数

newDocInfoFilePath

文書情報設定ファイルがあるディレクトリを指定します。

解説

指定されたディレクトリは、setDocInfoFileName メソッドで指定する文書情報設定ファ

イルのデフォルトのディレクトリになります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイルのパスを見直してください。

- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー（KEEU009-E）になります。
- Windows 環境の場合
フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
- UNIX / Linux 環境の場合
フルパスで 1,023 バイト以内
- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー（KEEU010-E）になります。
- ディレクトリ名には「」を含めないでください。ディレクトリ名に「」が含まれていると、エラー（KEEU600-E）になります。

戻り値

なし

setEncryptionPasswordKey メソッド

オーナーパスワードとユーザパスワードを暗号化した暗号化設定ファイル、または PDF 仕分け定義ファイルを使用して、暗号化した PDF 形式ファイルを出力する場合にパスワード暗号化鍵を指定します。

形式

```
public void setEncryptionPasswordKey(String newEncryptionPasswordKey)
```

引数

newEncryptionPasswordKey

パスワード暗号化鍵を指定します。

解説

setEncryptionPasswordKey メソッドには、オーナーパスワードとユーザパスワードを暗号化した時に指定した、暗号化鍵を指定します。

- パスワード暗号化鍵に指定できる文字は、次のとおりです。
 - 半角数字
0 ~ 9
 - 半角英字

A ~ Z , a ~ z

- 指定できるパスワード暗号化鍵の長さは、Shift JIS コードで 32 バイトまでです。
- setEncryptionPasswordKey メソッドを指定した場合は、必ず setCrypto メソッドを指定してください。指定しない場合は、エラー（KEEU601-E）になります。
- setCrypto メソッドで「false」を指定した場合は、setEncryptionPasswordKey メソッドを指定しないでください。指定した場合は、エラー（KEEU600-E）になります。

戻り値

なし

setEurpsEnvFile メソッド

環境設定ファイル名を指定します。

形式

```
public void setEurpsEnvFile(String newEurpsEnvFile)
```

引数

newEurpsEnvFile

環境設定ファイル名を指定します。

解説

環境設定ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、プロセスのカレントディレクトリを起点としてファイルを検索します。

ファイルのパスには「"」を含めないでください。また、String 以外のデータ型を指定しないでください。エラー（KEEU500-E）になります。

なお、指定された環境設定ファイルを読み込めない場合も帳票は出力されますが、環境設定ファイルで指定した内容は適用されません。

戻り値

なし

setFirstPageNumber メソッド

余白のページ番号を印刷する場合の開始値を指定します。

形式

```
public void setFirstPageNumber(int newFirstPageNumber)
```

引数

newFirstPageNumber

余白のページ番号を印刷する場合の開始値を指定します。開始値として指定できる値は、1 ~ 999,999 です。

解説

setFirstPageNumber メソッドの指定は、setPrintPageNumber メソッドで「true (余白のページ番号を印刷する)」が指定されている場合に有効です。

setFirstPageNumber メソッドを指定しない場合は、帳票編集時に [レポートのプロパティ] ダイアログで指定されている値が有効になります。

1 ~ 999,999 の範囲外の値を指定した場合は、エラー (KEEU600-E) になります。

setOutputType メソッドに「2」を指定した場合は、エラー (KEEU603-E) になります。

戻り値

なし

setFontWidthMode メソッド

文字幅の計算方法を指定します。

形式

```
public void setFontWidthMode(String newFontWidthMode)
```

引数

newFontWidthMode

文字幅の計算方法を指定します。指定値を次に示します。

表 5-14 setFontWidthMode メソッドの指定値

指定値	説 明
static	固定ピッチフォントを出力する場合、固定値で文字幅を計算します (静的モード)。
dynamic	固定ピッチフォントを出力する場合、使用するフォントに合わせて文字幅を計算します (動的モード)。

解説

setFontWidthMode メソッドの指定値は、すべて半角英小文字で指定してください。

「static」または「dynamic」以外を指定した場合、エラー（KEEU600-E）になります。

setFontWidthMode メソッドに何も指定しなかった場合は、「static」が仮定されます。

setFontWidthMode メソッド、環境変数 EURPS_FONT_WIDTH_MODE、および環境設定ファイル EURPS_FONT_WIDTH_MODE が同時に指定されている場合は、次に示す順に優先されます。

- setFontWidthMode メソッド
- 環境変数 EURPS_FONT_WIDTH_MODE
- 環境設定ファイル EURPS_FONT_WIDTH_MODE

戻り値

なし

setInitPageNumber メソッド

改ページのキーが設定されている場合、そのキーがブレイクすることにページ番号の開始番号を初期化するかどうかを指定します。

形式

public void setInitPageNumber(boolean newInitPageNumber)

引数

newInitPageNumber

改ページのキーが設定されている場合、そのキーがブレイクすることにページ番号の開始番号を初期化するかどうかを指定します。指定値を次に示します。

表 5-15 setInitPageNumber メソッドの指定値

指定値	説 明
true	初期化します。
false	初期化しません。

解説

setInitPageNumber メソッドの指定は、setPrintPageNumber メソッドで「true（余白のページ番号を印刷する）」が指定されている場合に有効です。

ページ番号を初期化する値は、setFirstPageNumber メソッドで指定します。

setInitPageNumber メソッドを指定しない場合は、帳票編集時に [レポートのプロパティ] ダイアログで指定されている値が有効になります。ただし、帳票編集集中に、[アイテムのプロパティ] ダイアログの [表示形式 (ページ番号)] タブで [バージョン 3 形式] が選択されているページ番号アイテムに対しては、setInitPageNumber メソッドの指定は無視されます。

setOutputType メソッドに 2 を指定した場合は、エラー (KEEU603-E) になります。

戻り値

なし

setMultiBookmarkFileName メソッド

setMultiReportFileName メソッドで複数の帳票ファイルを指定して出力する場合、各帳票ファイルに指定するしおり定義ファイルを配列で指定します。帳票との対応づけは、配列の要素順です。

形式

```
public void setMultiBookmarkFileName(String[] newMultiBookmarkFileName)
```

引数

newMultiBookmarkFileName

しおり定義ファイル名を配列で指定します。

setMultiReportFileName メソッドで指定した帳票ファイルと同じ配列要素数のしおり定義ファイルを指定してください。

n 番目 (先頭はゼロ) の帳票に対するしおり定義ファイルを省略したい場合は、配列の n 番目の要素に null を指定してください。

(例) 2 番目の帳票のしおり定義ファイルを省略する場合

```
fms [0] = "Sample1.fms";    // 帳票ファイル名を配列 fms に設定
fms [1] = "Sample2.fms";
fms [2] = "Sample3.fms";

                                // しおり定義ファイル名を配列 bok に設定
bok [0] = "Book1.txt";
bok [1] = null;
bok [2] = "Book3.txt";
```

解説

しおり定義ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- setBookmarkFilePath メソッドで指定されているフォルダ

- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_BOOKMARKPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- setBookmarkFilePath メソッドで指定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_BOOKMARKPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で設定したディレクトリ)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

setBookmarkFileName メソッドと setMultiBookmarkFileName メソッドを同時に指定した場合は, setMultiBookmarkFileName メソッドの指定が有効になります。

帳票出力を実行する前に, 指定したファイル名を見直してください。

- ファイル名に指定できる文字数は, 次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は, エラー (KEEU009-E) になります。
 - Windows 環境の場合
フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
相対パス, またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
 - UNIX / Linux 環境の場合
フルパスで 1,023 バイト以内
- 存在するファイル, または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり, 読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は, エラー (KEEU025-E) になります。
- ファイル名には「"」を含めないでください。ファイル名に「"」が含まれていると, エラー (KEEU600-E) になります。
- setOutputType メソッドで 0, 2 または 3 を指定した場合, setMultiBookmarkFileName メソッドを指定すると, エラー (KEEU603-E) になります。
- setMultiReportFileName メソッドの引数で指定した配列の個数と, setMultiBookmarkFileName メソッドの引数で指定した配列の個数は同じにしてください。異なる場合は, エラー (KEEU600-E) になります。

戻り値

なし

setMultiDataFileName メソッド

setMultiReportFileName メソッドで複数の帳票ファイルを指定して出力する場合, 各

帳票ファイルで使用するマッピングデータ用のデータファイル名、または可変記号値定義ファイル名を配列で指定します。帳票との対応づけは、配列の要素順です。

形式

```
public void setMultiDataFileName(String[] newMultiDataFileName)
```

引数

newMultiDataFileName

マッピングデータ用のデータファイル名、または可変記号値定義ファイル名を配列で指定します。

なお、n 番目（先頭はゼロ）の帳票に対するデータファイルを省略したい場合は、配列の n 番目の要素に null を指定してください。

（例）2 番目の帳票のデータファイルを省略する場合

```
fms[0] = "Sample1.fms";    // 帳票ファイル名を配列 fms に設定
fms[1] = "Sample2.fms";
fms[2] = "Sample3.fms";    // データファイル名を配列 map に設定

map[0] = "Data1.csv";
map[1] = null;
map[2] = "Data3.csv";
```

解説

データファイルからデータを読み込む場合、setMultiReportFileName メソッドで指定した帳票ファイルと同じ配列要素数のデータファイル名を指定してください。

データベースからデータを読み込む場合は、可変記号値定義ファイル名を指定してください。

ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- setDataFilePath メソッドで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_MAPDATAPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer, EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- setDataFilePath メソッドで指定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_MAPDATAPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で設定したディレクトリ)

- /var/opt/eurps ディレクトリ

setDataFileName メソッドと setMultiDataFileName メソッドを同時に指定した場合は、setMultiDataFileName メソッドの指定が有効になります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー（KEEU006-E、または KEEU054-E）になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー（KEEU009-E）になります。
 - Windows 環境の場合
 - フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
 - UNIX / Linux 環境の場合
 - フルパスで 1,023 バイト以内
- ファイル名には「"」を含めないでください。ファイル名に「"」が含まれていると、エラー（KEEU600-E）になります。
- 指定した可変記号値定義ファイルの内容に誤りがある場合は、エラー（KEEU056-E）になります。
- setMultiReportFileName メソッドの引数で指定した配列の個数と、setMultiDataFileName メソッドの引数で指定した配列の個数は同じにしてください。異なる場合は、エラー（KEEU600-E）になります。

戻り値

なし

setMultiFormInfoDefFileName メソッド

複数様式情報定義ファイル名を指定します。

形式

```
public void setMultiFormInfoDefFileName(String newMultiFormInfoDefFileName)
```

引数

newMultiFormInfoDefFileName

複数様式情報定義ファイル名を指定します。

解説

setMultiReportFileName メソッド、または setMultiReportSetFileName メソッドを指

定して、複数様式で帳票を出力する場合、setMultiFormInfoDefFileName メソッドを指定します。

複数様式で帳票を出力する場合は、setMultiFormInfoDefFileName メソッドを必ず指定してください。setMultiFormInfoDefFileName メソッドが省略されていると、setMultiReportFileName メソッドで指定されている複数の帳票ファイル、または setMultiReportSetFileName メソッドの帳票セット指定ファイルに指定されている帳票ファイルが順に出力されます。

複数帳票情報定義ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- setMultiFormInfoDefFilePath メソッドで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_MULTIFORM_INFODEFPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer , EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- setMultiFormInfoDefFilePath メソッドで指定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_MULTIFORM_INFODEFPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で設定したディレクトリ)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー (KEEU037-E) になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー (KEEU009-E) になります。
 - Windows 環境の場合
 - フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
 - UNIX / Linux 環境の場合
 - フルパスで 1,023 バイト以内
- ファイル名には「"」を含めないでください。ファイル名に「"」が含まれていると、エラー (KEEU600-E) になります。
- setPrintedPageNumberFileName メソッドを指定した場合は、出力ページ情報が出力されます。出力される出力ページ情報の詳細については、「7.24 出力ページ情報

ファイル」を参照してください。

戻り値

なし

setMultiFormInfoDefFilePath メソッド

複数様式情報定義ファイルのある場所を指定します。

形式

```
public void setMultiFormInfoDefFilePath(String newMultiFormInfoDefFilePath)
```

引数

newMultiFormInfoDefFilePath

複数様式情報定義ファイルのある場所を指定します。

解説

指定されたディレクトリは、setMultiFormInfoDefFileName メソッドで指定する複数様式情報定義ファイルのデフォルトのディレクトリになります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイルのパスを見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー（KEEU037-E）になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。パスの文字数が上限を超えているなど、指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー（KEEU009-E）になります。
 - Windows 環境の場合
 - フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
 - UNIX / Linux 環境の場合
 - フルパスで 1,023 バイト以内
- ディレクトリ名には「"」を含めないでください。ディレクトリ名に「"」が含まれていると、エラー（KEEU600-E）になります。

戻り値

なし

setMultiReportFileName メソッド

複数の帳票ファイルを指定して出力する場合、帳票ファイル名を配列で指定します。帳票は、配列の要素順に出力されます。

形式

```
public void setMultiReportFileName(String newMultiReportFileName)
```

引数

newMultiReportFileName

帳票ファイル名を配列で指定します。

解説

帳票出力を実行する場合、帳票ファイル名を必ず指定してください。省略はできません。そのため、setReportFileName メソッド、または setMultiReportFileName メソッドのどちらかで、帳票ファイル名を指定してください。帳票ファイル名を指定しないで帳票出力を実行すると、エラー（KEEU601-E）になります。また、「フォームシートファイル（*.fms）」でない帳票ファイル名が指定されていると、エラー（KEEU007-E）になります。ただし、setMultiReportSetFileName メソッドで帳票セット指定ファイルを指定した場合は、setMultiReportFileName メソッドを省略できます。

setReportFileName メソッドと setMultiReportFileName メソッドを同時に指定した場合は、setMultiReportFileName メソッドの指定が有効になります。

帳票ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- setReportFilePath メソッドで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル（EURPS_ENV）の変数 EURPS_REPORTPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- setReportFilePath メソッドで指定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル（eurps_env）の変数 EURPS_REPORTPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ（環境変数 HOME で設定したディレクトリ）
- /var/opt/eurps ディレクトリ

setMultiReportFileName メソッドで指定された帳票ファイルは、

setMultiDataFileName メソッドと setMultiUserDataFileName メソッドで指定されているデータファイルを使用します。setMultiReportFileName メソッドで指定された帳票ファイルが一つであっても、setDataFileName メソッドと setUserDataFileName メソッドで指定されているデータファイルを使用することはありません。

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー（KEEU005-E）になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー（KEEU009-E）になります。
 - Windows 環境の場合
 - フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
 - UNIX / Linux 環境の場合
 - フルパスで 1,023 バイト以内
- ファイル名には「"」を含めないでください。ファイル名に「"」が含まれていると、エラー（KEEU600-E）になります。

戻り値

なし

setMultiReportSetFileName メソッド

帳票セット指定ファイル名を指定します。

形式

```
public void setMultiReportSetFileName(String newMultiReportSetFileName)
```

引数

newMultiReportSetFileName

帳票セット指定ファイル名を指定します。

解説

setReportFileName メソッド、または setMultiReportFileName メソッドを指定して出力する場合は、setMultiReportSetFileName メソッドの指定は要りません。setMultiReportSetFileName メソッドと setReportFileName メソッド、または setMultiReportFileName メソッドが同時に指定された場合は、setMultiReportSetFileName メソッドで指定された帳票ファイルのあとに、setReportFileName メソッドの帳票ファイル、または setMultiReportFileName メソッ

ドの帳票ファイルを追加して出力されます。

帳票セット指定ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- setMultiReportSetFilePath メソッドで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_MULTI_REPORTSETPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer , EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- setMultiReportSetFilePath メソッドで指定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_MULTI_REPORTSETPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で設定したディレクトリ)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー (KEEU035-E) になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー (KEEU009-E) になります。
 - Windows 環境の場合
フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
- UNIX / Linux 環境の場合
フルパスで 1,023 バイト以内
- ファイル名には「"」を含めないでください。ファイル名に「"」が含まれていると、エラー (KEEU600-E) になります。
- setPrintedPageNumberFileName メソッドを指定した場合は、出力ページ情報が出力されます。出力される出力ページ情報の詳細については、「7.24 出力ページ情報ファイル」を参照してください。

戻り値

なし

setMultiReportSetFilePath メソッド

帳票セット指定ファイルのある場所を指定します。

形式

```
public void setMultiReportSetFilePath(String newMultiReportSetFilePath)
```

引数

newMultiReportSetFilePath

帳票セット指定ファイルのある場所を指定します。

解説

指定されたディレクトリは、setMultiReportSetFileName メソッドで指定する帳票セット指定ファイルのデフォルトのディレクトリになります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイルのパスを見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー（KEEU035-E）になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー（KEEU009-E）になります。
 - Windows 環境の場合
 - フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
 - UNIX / Linux 環境の場合
 - フルパスで 1,023 バイト以内
- ディレクトリ名には「"」を含めないでください。ディレクトリ名に「"」が含まれていると、エラー（KEEU600-E）になります。

戻り値

なし

setMultiUserDataFileName メソッド

setMultiReportFileName メソッドで複数の帳票ファイルを指定して出力する場合、各帳票ファイルで使用するユーザ定義データ用のデータファイル名、または可変記号値定義ファイル名を配列で指定します。帳票との対応づけは、配列の要素順です。

形式

```
public void setMultiUserDataFileName(String newMultiUserDataFileName)
```

引数

newMultiUserDataFileName

ユーザ定義データ用のデータファイル名、または可変記号値定義ファイル名を配列で指定します。

なお、n 番目（先頭はゼロ）の帳票に対するデータファイルを省略したい場合は、配列の n 番目の要素に null を指定してください。

（例）2 番目の帳票のデータファイルを省略する場合

```
fms[0] = "Sample1.fms";    // 帳票ファイル名を配列 fms に設定
fms[1] = "Sample2.fms";
fms[2] = "Sample3.fms";    // データファイル名を配列 usr に設定

usr[0] = "Data1.csv";
usr[1] = null;
usr[2] = "Data3.csv";
```

解説

データファイルからデータを読み込む場合、setMultiReportFileName メソッドで指定した帳票ファイルと同じ配列要素数のデータファイル名を指定してください。

データベースからデータを読み込む場合は、可変記号値定義ファイル名を指定してください。

ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- setUserDataFilePath メソッドで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_USERDATAPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer, EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- setUserDataFilePath メソッドで指定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_USERDATAPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で設定したディレクトリ)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

setUserDataFileName メソッドと setMultiUserDataFileName メソッドを同時に指定

した場合は、setMultiUserDataFileName メソッドの指定が有効になります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー（KEEU006-E、または KEEU054-E）になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー（KEEU009-E）になります。
 - Windows 環境の場合
 - フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
 - UNIX / Linux 環境の場合
 - フルパスで 1,023 バイト以内
- ファイル名には「"」を含めないでください。ファイル名に「"」が含まれていると、エラー（KEEU600-E）になります。
- 指定した可変記号値定義ファイルの内容に誤りがある場合は、エラー（KEEU056-E）になります。
- setMultiReportFileName メソッドの引数で指定した配列の個数と、setMultiUserDataFileName メソッドの引数で指定した配列の個数は同じにしてください。異なる場合は、エラー（KEEU600-E）になります。

戻り値

なし

setOutFileName メソッド

出力先ファイル名を指定します。

形式

```
public void setOutFileName(String newOutFileName)
```

引数

newOutFileName

出力先ファイル名を指定します。

解説

setOutFileName メソッドは、setOutputType メソッドに指定されている出力種別に対応した出力先ファイル名を指定します。

PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合は、setOutFileName メソッドは指定しないで

ください。setOutFileName メソッドと setDistributeFileName メソッドを同時に指定すると、エラー (KEEU603-E) になります。

出力先ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、環境設定ファイル (Windows 環境の場合は EURPS_ENV, UNIX / Linux 環境の場合は eurps_env) の変数 EURPS_OUTPUTPATH に設定されているフォルダが、デフォルトとして設定されます。

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。パスの文字数が上限を超えているなど、指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー (KEEU009-E) になります。
 - Windows 環境の場合
フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
 - UNIX / Linux 環境の場合
フルパスで 1,023 バイト以内
- ファイル名には「"」を含めないでください。ファイル名に「"」が含まれていると、エラー (KEEU600-E) になります。
- setOutputType メソッドで「1」、「2」、「3」、または「4」を指定した場合、setOutFileName メソッドを指定しないと、エラー (KEEU601-E) になります。

戻り値

なし

setOutputType メソッド

出力種別を指定します。

形式

```
public void setOutputType(short type)
```

引数

type

出力種別を指定します。省略した場合は、「0」が仮定されます。指定値を次に示します。

表 5-16 setOutputType メソッドの指定値

指定値	出力種別
0	プリンタに出力
1	PDF 形式ファイルに出力
2	EUR 形式ファイルに出力
3	CSV 形式ファイルに出力
4	Excel 形式ファイルに出力

解説

setOutputType メソッドに「0」を指定した場合、setOutFileName メソッドに出力先ファイルを指定すると、PrinterName プロパティで指定したプリンタの印刷形式に従ったファイル（Windows 環境の場合）、または PDL ファイル（UNIX / Linux 環境の場合）に出力できます。setOutFileName メソッドの指定を省略すると、プリンタに出力します。

setOutputType メソッドに「1」、「2」、「3」または「4」を指定した場合は、setOutFileName メソッドを必ず指定してください。

「0」、「1」、「2」、「3」、または「4」以外の値を指定すると、エラー（KEEU600-E）になります。

EUR Developer または EUR Print Service Enterprise がインストールされていない環境で、setOutputType メソッドに「1」、「2」、または「4」を指定した場合は、エラー（KEEU104-E）になります。

戻り値

なし

setPageNumberFormat メソッド

余白のページ番号の書式を指定します。

形式

```
public void setPageNumberFormat(String newPageNumberFormat)
```

引数

newPageNumberFormat

余白のページ番号の書式を指定します。

ページ番号を「*」、最終ページ番号を「\$」で示して印刷形式を指定します。ページ番号、および最終ページ番号を全角で表示したい場合は全角の記号で、半角で表示

したい場合は半角の記号で指定します。ページ番号の書式と出力結果を次に示します。

(例)

表 5-17 ページ番号の書式と出力結果

指定したページ番号の書式	出力結果
*	1
.*.	-1-
.*/\$.	-1/5-
(*)	(1)

解説

setPageNumberFormat メソッドの指定は、setPrintPageNumber メソッドで「True (余白のページ番号を印刷する)」が指定されている場合に有効です。

setPageNumberFormat メソッドを指定しない場合は、帳票編集時に [レポートのプロパティ] ダイアログで指定されている値が有効になります。

setOutputType メソッドで 2 を指定した場合、setPageNumberFormat メソッドを指定すると、エラー (KEEU603-E) になります。

戻り値

なし

setPageNumberLocation メソッド

余白のページ番号を印刷する位置を指定します。

形式

public void setPageNumberLocation(int newPageNumberLocation)

引数

newPageNumberLocation

余白のページ番号を印刷する位置を、番号で指定します。指定値を次に示します。

表 5-18 setPageNumberLocation メソッドの指定値

指定値	説 明
1	ページ番号を左上に印刷します。
2	ページ番号を中央上に印刷します。

指定値	説 明
3	ページ番号を右上に印刷します。
4	ページ番号を左下に印刷します。
5	ページ番号を中央下に印刷します。
6	ページ番号を右下に印刷します。

解説

setPageNumberLocation メソッドの指定は、setPrintPageNumber メソッドで「true（余白のページ番号を印刷する）」が指定されている場合に有効です。

setPageNumberLocation メソッドを指定しない場合は、帳票編集時に [レポートのプロパティ] ダイアログで指定されている値が有効になります。

1 ～ 6 の範囲外の値を指定した場合は、エラー（KEEU600-E）になります。

setOutputType メソッドで 2 を指定した場合、setPageNumberLocation メソッドを指定すると、エラー（KEEU603-E）になります。

戻り値

なし

setPaperOrientation メソッド

プリンタに出力する場合の用紙の向きを指定します。

形式

```
public void setPaperOrientation(int newPaperOrientation)
```

引数

newPaperOrientation

プリンタに出力する場合の用紙の向きを指定します。省略した場合は、「0」が仮定されます。指定値を次に示します。

表 5-19 setPaperOrientation メソッドの指定値

指定値	説 明
0	帳票を設計した時の属性に従います。
1	縦方向に印刷します。
2	横方向に印刷します。

解説

指定された値が帳票の属性と異なる場合、帳票の一部が出力されないことがあります。

なお、次に示す条件の場合は、`setPaperOrientation` メソッドを指定しても無効です。

- `setOutputType` メソッドに 1 が指定されている場合
- `setMultiReportSetFileName` メソッド、または `setMultiReportFileName` メソッドで複数の帳票ファイルを指定して出力する場合
用紙のサイズ、および用紙の向きが異なっている場合、それぞれの帳票の用紙サイズ、および用紙の向きで出力されます。

`setOutputType` メソッドで 2 を指定した場合、`setPaperOrientation` メソッドを指定すると、エラー（KEEU603-E）になります。

戻り値

なし

setPrintCopies メソッド

印刷部数を指定します。

形式

```
public void setPrintCopies(int newPrintCopies)
```

引数

`newPrintCopies`

印刷部数を指定します。指定できる部数は、1 ~ 99 です。

解説

`setPrintCopies` メソッドの指定は、一つの帳票ファイルを出力する場合だけ有効です。

`setPrintCopies` メソッドを指定しない場合は、1 部だけ出力されます。

次に示す条件の場合は、`setPrintCopies` メソッドを指定しても無効です。

- `setOutputType` メソッドに 1 が指定されている場合
- `setMultiReportSetFileName` メソッド、または `setMultiReportFileName` メソッドで複数の帳票ファイルを指定して出力する場合
`setPrintCopies` メソッドの指定は無視され、1 部数分出力されます。

1 ~ 99 の範囲外の値を指定した場合は、エラー（KEEU600-E）になります。

`setOutputType` メソッドで 2 を指定した場合、`setPrintCopies` メソッドを指定すると、

エラー (KEEU603-E) になります。

setPrintedPageNumberFileName メソッドを指定した場合は setPrintCopies メソッドで指定する印刷部数に関係なく、1 部数分の出力ページ情報が出力されます。出力ページ情報ファイルについては、「7.24 出力ページ情報ファイル」を参照してください。

戻り値

なし

setPrintedPageNumberFileName メソッド

出力ページ情報ファイル名を指定します。

形式

```
public void setPrintedPageNumberFileName(String
newPrintedPageNumberFileName)
```

引数

newPrintedPageNumberFileName
出力ページ情報ファイル名を指定します。

解説

setPrintedPageNumberFileName メソッドを指定すると、出力ページ情報が出力されます。

出力ページ情報ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_OUTPUTPATH に設定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_TMPPATH に設定されているフォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_OUTPUTPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で設定したディレクトリ)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー（KEEU009-E）になります。
 - Windows 環境の場合
フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
 - UNIX / Linux 環境の場合
フルパスで 1,023 バイト以内
- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー（KEEU014-E）になります。
- ファイル名には「"」を含めないでください。ファイル名に「"」が含まれていると、エラー（KEEU600-E）になります。
- setOutputType メソッドで 2 を指定した場合、setPrintedPageNumberFileName メソッドを指定すると、エラー（KEEU603-E）になります。

戻り値

なし

setPrintEndPage メソッド

印刷終了ページを指定します。

形式

```
public void setPrintEndPage(int newPrintEndPage)
```

引数

newPrintEndPage

印刷終了ページを指定します。指定できる値は、0 ~ 999,999 です。

解説

setPrintEndPage メソッドを指定しない場合、または指定した値が「0」の場合は、最終ページまで印刷します。

setMultiReportSetFileName メソッド、または setMultiReportFileName メソッドで複数の帳票ファイルを指定した場合は、setPrintEndPage メソッドの指定に関係なく、指定した帳票ファイルの全ページが出力されます。

0 ~ 999,999 の範囲外の値を指定した場合は、エラー（KEEU600-E）になります。

setPrintedPageNumberFileName メソッドを指定した場合は、setPrintEndPage メソッドで指定した印刷終了ページまでの出力ページ情報が出力されます。

setOutputType メソッドで 2 を指定した場合、setPrintEndPage メソッドを指定すると、エラー（KEEU603-E）になります。

戻り値

なし

setPrinterinfFileName メソッド

プリンタ定義ファイル名を指定します。

形式

```
public void setPrinterinfFileName(String newPrinterinfFileName)
```

引数

newPrinterinfFileName

プリンタ定義ファイル名を指定します。

解説

プリンタ定義ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- setPrinterinfFilePath メソッドで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル（EURPS_ENV）の変数 EURPS_PRINTERINFPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer，EUR Print Service，または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- setPrinterinfFilePath メソッドで指定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル（eurps_env）の変数 EURPS_PRINTERINFPATH に設定されているディレクトリ
- /etc/opt/eurps ディレクトリ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー（KEEU009-E）になります。
 - Windows 環境の場合
 - フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内

- UNIX / Linux 環境の場合
フルパスで 1,023 バイト以内
- ファイル名には「"」を含めないでください。ファイル名に「"」が含まれていると、エラー（KEEU600-E）になります。
- setOutputType メソッドで 2 を指定した場合、setPrinterinfFileName メソッドを指定すると、エラー（KEEU603-E）になります。

戻り値

なし

setPrinterinfFilePath メソッド

プリンタ定義ファイルのある場所を指定します。

形式

```
public void setPrinterinfFilePath(String newPrinterinfFilePath)
```

引数

newPrinterinfFilePath

プリンタ定義ファイルのある場所を指定します。

解説

指定されたディレクトリは、次に示す場合のプリンタ定義ファイルのデフォルトの場所になります。

- setPrinterinfFileName メソッドでプリンタ定義ファイルを相対パスまたはファイル名だけで指定した場合
- setPrinterinfFileName メソッドを指定しなかった場合

帳票出力を実行する前に、指定したファイルのパスを見直してください。

- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー（KEEU009-E）になります。
 - Windows 環境の場合
フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
- UNIX / Linux 環境の場合
フルパスで 1,023 バイト以内
- ファイル名には「"」を含めないでください。ファイル名に「"」が含まれていると、エラー（KEEU600-E）になります。
- setOutputType メソッドで 2 を指定した場合、setPrinterinfFilePath メソッドを指定

すると、エラー（KEEU603-E）になります。

戻り値

なし

setPrinterName メソッド

印刷先のプリンタ名を指定します。

形式

```
public void setPrinterName(String newPrinterName)
```

引数

newPrinterName

印刷先のプリンタ名を指定します。

- Windows 環境の場合（プリンタ出力）

通常使うプリンタに指定されているプリンタ以外の任意のプリンタに出力する場合は、プリンタ名を指定してください。setPrinterName メソッドを指定しないで帳票出力を実行すると、Windows 環境で通常使うプリンタに指定されているプリンタ名に出力されます。

- UNIX / Linux 環境の場合

プリンタ定義ファイルで定義したプリンタ名を指定してください。

setOutputType メソッドで 0 を指定した場合、必ず setPrinterName メソッドを指定してください。指定しなかった場合は、エラー（KEEU601-E）になります。

解説

setOutputType メソッドで 2 を指定した場合、setPrinterName メソッドを指定すると、エラー（KEEU603-E）になります。

プリンタ名には「"」を含めないでください。プリンタ名に「"」が含まれていると、エラー（KEEU600-E）になります。

戻り値

なし

setPrintPageNumber メソッド

余白のページ番号を印刷するかどうかを指定します。

形式

```
public void setPrintPageNumber(boolean newPrintPageNumber)
```

引数

newPrintPageNumber

余白のページ番号を印刷するかどうかを指定します。指定値を次に示します。

表 5-20 setPrintPageNumber メソッドの指定値

指定値	説 明
true	余白のページ番号を印刷します。
false	余白のページ番号は印刷しません。

解説

- 余白へのページ番号は、EUR 帳票作成機能で設定した用紙の余白に、次に示すフォント情報で印刷されます。
- 英語ロケールの場合
フォント種別：Courier New
フォントのサイズ：約 12 ポイント（148dpi で 24 ドット）
- 中国語ロケールの場合
フォント種別：新宋体
フォントのサイズ：約 12 ポイント（148dpi で 24 ドット）
- 日本語ロケールの場合
フォント種別：MS 明朝
フォントのサイズ：約 12 ポイント（148dpi で 24 ドット）

余白へのページ番号を印刷する場合は、プリンタのハードマージンに掛からないように、用紙の余白は余裕を持って設定してください。

- setPrintPageNumber メソッドを指定しない場合は、帳票編集時に [レポートのプロパティ] ダイアログで指定されている値が有効になります。
- setMultiReportSetFileName メソッド、または setMultiReportFileName メソッドで複数の帳票ファイルを指定した場合は、すべての帳票に余白ページ番号の指定があり、かつ setPrintPageNumber メソッドに「true」が指定されている場合、すべての帳票ファイルの余白にページ番号が印刷されます。
一方、指定した複数の帳票セットのうち、次に示す場合は、各帳票ファイルに保存されている情報で印刷されますので、注意してください。
- 指定した複数の帳票セットのうち、一つの帳票ファイルに余白ページ番号の指定がなく、setPrintPageNumber メソッドに「true」を指定した場合
- 帳票ファイルに余白ページ番号の指定の有無に関係なく、setPrintPageNumber メソッドに「false」を指定した場合
- setOutputType メソッドで 2 を指定した場合、setPrintPageNumber メソッドを指定

すると、エラー（KEEU603-E）になります。

戻り値

なし

setPrintStartPage メソッド

印刷開始ページを指定します。

形式

```
public void setPrintStartPage(int newPrintStartPage)
```

引数

newPrintStartPage

印刷開始ページを指定します。指定できる値は、0 ~ 999,999 です。

解説

setPrintStartPage メソッドを指定しない場合、または指定した値が「0」の場合は、先頭ページから印刷します。

setMultiReportSetFileName メソッド、または setMultiReportFileName メソッドで複数の帳票ファイルを指定した場合は、setPrintStartPage メソッドの指定に関係なく、指定した帳票ファイルの全ページが出力されます。

0 ~ 999,999 の範囲外の値を指定した場合、または setPrintEndPage メソッドで指定した値より大きな値を指定した場合は、エラー（KEEU600-E）になります。

setPrintedPageNumberFileName メソッドを指定した場合は、setPrintStartPage メソッドで指定した印刷開始ページからの出力ページ情報が出力されます。

setOutputType メソッドで 2 を指定した場合、setPrintStartPage メソッドを指定すると、エラー（KEEU603-E）になります。

戻り値

なし

setReplaceItemCntlFileName メソッド

置き換え表管理情報ファイル名を指定します。

形式

```
public void setReplaceItemCntlFileName(String newReplaceItemCntlFileName)
```

引数

newReplaceItemCntlFileName

置き換え表管理情報ファイル名を指定します。

解説

setReplaceItemCntlFileName メソッドを省略すると、setReportFileName メソッド、setMultiReportFileName メソッド、および setMultiReportSetFileName メソッドで指定する帳票ファイルに定義した置き換え表管理情報ファイル名が仮定されます。ただし、出力する帳票が複数帳票、あるいは複数様式帳票の場合は、先頭の帳票ファイルに定義した置き換え表管理情報ファイル名が仮定されます。

置き換え表管理情報ファイル名は、フルパス、相対パス、あるいはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- setReplaceItemCntlFilePath メソッドで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer , EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- setReplaceItemCntlFilePath メソッドで指定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限のないファイルであったりすると、エラー (KEEU060-E) になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー (KEEU009-E) になります。
 - Windows 環境の場合
フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
- UNIX / Linux 環境の場合

フルパスで 1,023 バイト以内

- ファイル名には「"」を含めないでください。ファイル名に「"」が含まれていると、エラー（KEEU600-E）になります。

戻り値

なし

setReplaceItemCntlFilePath メソッド

置き換え表管理情報ファイルのファイルのある場所を指定します。

形式

```
public void setReplaceItemCntlFilePath (String newReplaceItemCntlFilePath)
```

引数

newReplaceItemCntlFilePath

置き換え表管理情報ファイルのファイルのある場所を指定します。

解説

指定されたディレクトリは、setReplaceItemCntlFileName メソッドで指定するファイルのデフォルトのディレクトリになります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー（KEEU060-E）になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー（KEEU009-E）になります。
 - Windows 環境の場合
 - フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
 - UNIX / Linux 環境の場合
 - フルパスで 1,023 バイト以内
- ディレクトリ名には「"」を含めないでください。ディレクトリ名に「"」が含まれていると、エラー（KEEU600-E）になります。

戻り値

なし

setReportFileName メソッド

帳票ファイル名を指定します。

形式

```
public void setReportFileName(String newReportFileName)
```

引数

newReportFileName

帳票ファイル名を指定します。

解説

EUR サーバ帳票出力機能を実行して帳票を出力する場合、帳票ファイル名は必ず指定してください。省略はできませんので、setReportFileName メソッド、または setMultiReportFileName メソッドのどちらかで指定してください。帳票ファイルを指定せずに帳票出力を実行すると、エラー（エラーコード：KEEU601-E）が返されます。また、「フォームシートファイル (*.fms)」でない帳票ファイル名が指定されていると、エラー（KEEU007-E）になります。ただし、setMultiReportSetFileName メソッドで帳票セット指定ファイルを指定した場合は、setReportFileName メソッドを省略できます。

setReportFileName メソッドを使用する時の注意事項

setReportFileName メソッドで指定された帳票ファイルは、setDataFileName メソッドと setUserDataFileName メソッドで指定されているデータファイルを使用します。setMultiReportFileName メソッドで指定された帳票ファイルが一つであっても、setDataFileName メソッドと setUserDataFileName メソッドで指定されているデータファイルを使用することはありません。

setReportFileName メソッドと setMultiReportFileName メソッドを同時に指定した場合は、setMultiReportFileName メソッドの指定が有効になります。

帳票ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- setReportFilePath メソッドで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル（EURPS_ENV）の変数 EURPS_REPORTPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer , EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- setReportFilePath メソッドで指定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_REPORTPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で設定したディレクトリ)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー (KEEU005-E) になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。パスの文字数が上限を超えているなど、指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー (KEEU009-E) になります。
 - Windows 環境の場合
 - フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
 - UNIX / Linux 環境の場合
 - フルパスで 1,023 バイト以内
- ファイル名には「"」を含めないでください。ファイル名に「"」が含まれていると、エラー (KEEU600-E) になります。

戻り値

なし

setReportFilePath メソッド

帳票ファイルのある場所を指定します。

形式

```
public void setReportFilePath(String newReportFilePath)
```

引数

newReportFilePath

帳票ファイルのある場所を指定します。

解説

setReportFilePath メソッドで指定するファイルのパスは、setReportFileName メソッドと setMultiReportFileName メソッドで指定する帳票ファイルのデフォルトのディレクトリになります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイルのパスを見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー（KEEU005-E）になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー（KEEU009-E）になります。
 - Windows 環境の場合
フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
 - UNIX / Linux 環境の場合
フルパスで 1,023 バイト以内
- ディレクトリ名には「」を含めないでください。ディレクトリ名に「」が含まれていると、エラー（KEEU600-E）になります。

戻り値

なし

setScriptCntlFileName メソッド

Acrobat JavaScript 定義ファイル名を指定します。

形式

```
public void setScriptCntlFileName (String newScriptCntlFileName)
```

引数

newScriptCntlFileName

Acrobat JavaScript 定義ファイル名を指定します。

解説

ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- setScriptCntlFilePath メソッドで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル（EURPS_ENV）の変数 EURPS_SCRIPTCNTLFILEPATH に定されているフォルダ
- EUR Developer、または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- setScriptCntlFilePath メソッドで指定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_SCRIPTCNTLFILEPATH に指定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で設定したディレクトリ)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー (KEEU067-E) になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー (KEEU009-E) になります。
 - Windows 環境の場合
フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
 - UNIX / Linux 環境の場合
フルパスで 1,023 バイト以内
- ファイル名には「"」を含めないでください。ファイル名に「"」が含まれていると、エラー (KEEU600-E) になります。
- setOutputType メソッドで 0, 2 または 3 を指定した場合、setScriptCntlFileName メソッドを指定すると、エラー (KEEU603-E) になります。

戻り値

なし

setScriptCntlFilePath メソッド

Acrobat JavaScript 定義ファイルのある場所を指定します。

形式

```
public void setScriptCntlFilePath (String newScriptCntlFilePath)
```

引数

newScriptCntlFilePath

Acrobat JavaScript 定義ファイルのある場所を指定します。

解説

指定されたディレクトリは、setViewerPreferenceFileName メソッドで指定する

Acrobat JavaScript 定義ファイルのデフォルトのディレクトリになります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイルのパスを見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー（KEEU067-E）になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー（KEEU009-E）になります。
 - Windows 環境の場合
フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
 - UNIX / Linux 環境の場合
フルパスで 1,023 バイト以内
- ディレクトリ名には「」を含めないでください。ディレクトリ名に「」が含まれていると、エラー（KEEU600-E）になります。

戻り値

なし

setSortPrint メソッド

複数の部数を印刷する場合、部単位で印刷するか、またはページ単位で印刷するかを指定します。

形式

```
public void setSortPrint(int newSortPrint)
```

引数

newSortPrint

複数の部数を印刷する場合、部単位で印刷するか、またはページ単位で印刷するかを指定します。省略した場合は、「0」が仮定されます。指定値を次に示します。

表 5-21 setSortPrint メソッドの指定値

指定値	説 明
0	部単位で印刷します。
1	ページ単位で印刷します。

解説

次に示す条件の場合は、setSortPrint メソッドを指定しても無効です。

- setOutputType メソッドに 1 が指定されている場合
- setMultiReportSetFileName メソッド, または setMultiReportFileName メソッドで複数の帳票ファイルを指定して出力する場合
setSortPrint メソッドの指定は無視され, 「0」が仮定されます。

「0」, 「1」以外の値が指定された場合は, エラー (KEEU600-E) になります。

setOutputType メソッドで 2 を指定した場合, setSortPrint メソッドを指定すると, エラー (KEEU603-E) になります。

戻り値

なし

setTintInfoFileName メソッド

透かし情報ファイル名を指定します。

形式

```
public void setTintInfoFileName (String newTintInfoFileName)
```

引数

newTintInfoFileName

透かし情報ファイル名を指定します。

解説

透かし情報ファイル名は, フルパス, 相対パス, またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は, 次に示す順にファイルを検索します。

- setTintInfoFilePath メソッドで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_TINTINFOPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

帳票出力を実行する前に, 指定したファイルのパスを見直してください。

- 存在するファイル, または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり, 読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は, エラー (KEEU080-E) になります。
- ファイル名に指定できる文字数は, 次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は, エラー (KEEU009-E) になります。
 - Windows 環境の場合
フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内

相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内

- ファイル名には「"」を含めないでください。ファイル名に「"」が含まれていると、エラー（KEEU600-E）になります。
- setOutputType メソッドで 0, 2 または 3 を指定した場合、setTintInfoFileName メソッドを指定すると、エラー（KEEU603-E）になります。

戻り値

なし

setTintInfoFilePath メソッド

透かし情報ファイルのある場所を指定します。

形式

```
public void setTintInfoFileName (String newTintInfoFileName)
```

引数

newTintInfoFileName

透かし情報ファイルのある場所を指定します。

解説

指定されたファイルのパスは、setTintInfoFileName メソッドで指定する透かし情報ファイルのデフォルトの場所になります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイルのパスを見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー（KEEU080-E）になります。
- ファイルのパスに指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイルのパスに誤りがある場合は、エラー（KEEU009-E）になります。
 - フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
 - 相対パスで指定する場合は半角 255 文字以内
- ファイルのパスには「"」を含めないでください。ファイルのパスに「"」が含まれていると、エラー（KEEU600-E）になります。

戻り値

なし

setTrayCode メソッド

プリンタの給紙トレイを指定します。

形式

```
public void setTrayCode(int newTrayCode)
```

引数

newTrayCode

プリンタの給紙トレイを指定します。

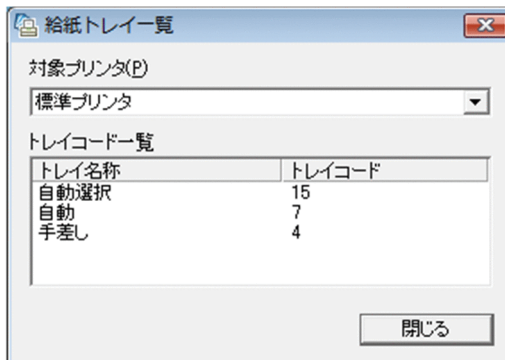
• Windows 環境の場合

Windows 環境の場合は、プリンタの給紙トレイを給紙トレイコードで指定します。setTrayCode メソッドを指定しない場合は、プリンタプロパティで指定したデフォルトのトレイから給紙されます。

給紙トレイコードは、「給紙トレイ一覧ツール」で取得したコードです。

[給紙トレイ一覧] ツールの実行ファイル「Eurtyl.exe」は、EUR Developer、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ ¥Program¥ 下にあります。

[給紙トレイ一覧] ツールの実行ファイル「Eurtyl.exe」をダブルクリックすると、[給紙トレイ一覧] ダイアログが表示されます。[給紙トレイ一覧] ダイアログでは、出力先プリンタをリストボックスから選択すると、そのプリンタの給紙トレイ名と、対応する給紙トレイコードの一覧が表示されます。



• UNIX / Linux 環境の場合

UNIX / Linux 環境の場合は、プリンタの給紙トレイを給紙カセット番号で指定します。setTrayCode メソッドを指定しない場合は、プリンタ定義ファイルにキーワード DefaultCassette で指定したデフォルトのトレイから給紙されます。プリンタ定義ファイルについては、「7.6 プリンタ定義ファイル」を参照してください。

指定する給紙トレイ情報を次に示します。

表 5-22 給紙トレイ情報

指定する情報	給紙トレイ（対象給紙装置）
0	自動給紙します。出力する帳票の用紙サイズからカセットを自動選択します。
-1	手差しトレイから給紙します。
給紙カセット番号	指定したカセット番号の給紙カセットから給紙します。カセット番号は、1 ~ n (n は、プリンタ定義ファイルのキーワード <code>Cassettes</code> で指定した値) で指定します。

注意

次に示す指定がある場合、帳票の用紙サイズと給紙される紙のサイズが異なるときは、プリンタのハードによって動作が異なります。

- -1（手差しトレイ）が指定された場合
- 給紙カセット番号が指定された場合
- 0（自動給紙）が指定されたのに、プリンタのパネルで給紙カセットが選択されている場合

帳票の用紙サイズと給紙される紙のサイズを合わせておくか、または帳票の用紙サイズと異なる用紙に印刷する場合は、あらかじめ試し印刷をしてプリンタの動作を確認しておいてください。

解説

`setOutputType` メソッドに 1 を指定した場合、`setTrayCode` メソッドを指定しても無効です。2 を指定した場合、`setSortPrint` メソッドを指定すると、エラー（KEEU603-E）になります。

`setMultiReportSetFileName` メソッド、または `setMultiReportFileName` メソッドで複数の帳票ファイルを指定して出力する場合は、すべての帳票が `setTrayCode` メソッドに指定したトレイから給紙されます。

戻り値

なし

setUserDataFileName メソッド

ユーザ定義データ用のデータファイル名、または可変記号値定義ファイル名を指定します。

形式

```
public void setUserDataFileName(String newUserDataFileName)
```

引数

`newUserDataFileName`

ユーザ定義データ用のデータファイル名、または可変記号値定義ファイル名を指定します。

解説

データファイルからデータを読み込む場合は、`setReportFileName` メソッドで指定した帳票ファイルに対応するユーザ定義データファイル名を指定してください。

データベースからデータを読み込む場合は、可変記号値定義ファイル名を指定してください。

ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- `setUserDataFilePath` メソッドで指定されているフォルダ
- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) の変数 EURPS_USERDATAPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer, EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- `setUserDataFilePath` メソッドで指定されているディレクトリ
- 環境設定ファイル (eurps_env) の変数 EURPS_USERDATAPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で設定したディレクトリ)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー (KEEU006-E, または KEEU054-E) になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー (KEEU009-E) になります。
 - Windows 環境の場合
 - フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
 - 相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
 - UNIX / Linux 環境の場合
 - フルパスで 1,023 バイト以内
- ファイル名には「"」を含めないでください。ファイル名に「"」が含まれていると、

エラー（KEEU600-E）になります。

- 指定した可変記号値定義ファイルの内容に誤りがある場合は、エラー（KEEU056-E）になります。
- `setUserDataFileName` メソッドを指定した場合は、必ず `setReportFileName` メソッドを指定してください。指定しない場合は、エラー（KEEU601-E）になります。

戻り値

なし

setUserDataFilePath メソッド

ユーザ定義データ用のデータファイル、または可変記号値定義ファイルのある場所を指定します。

形式

```
public void setUserDataFilePath(String newUserDataFilePath)
```

引数

`newUserDataFilePath`

ユーザ定義データ用のデータファイルまたは可変記号値定義ファイルのある場所を指定します。

解説

指定されたディレクトリは、`setUserDataFileName` メソッドと `setMultiUserDataFileName` メソッドで指定するユーザ定義データ用のデータファイル、または可変記号値定義ファイルのデフォルトのディレクトリになります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイルのパスを見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー（KEEU006-E、または KEEU054-E）になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー（KEEU009-E）になります。
 - Windows 環境の場合
フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
 - UNIX / Linux 環境の場合
フルパスで 1,023 バイト以内
- ディレクトリ名には「`\"`」を含めないでください。ディレクトリ名に「`\"`」が含まれていると、エラー（KEEU600-E）になります。

- ・ 指定した可変記号値定義ファイルの内容に誤りがある場合は、エラー（KEEU056-E）になります。

戻り値

なし

setViewerPreferenceFileName メソッド

ビューアプレファレンス定義ファイル名を指定します。

形式

```
public void setViewerPreferenceFileName (String newViewerPreferenceFileName)
```

引数

newViewerPreferenceFileName

ビューアプレファレンス定義ファイル名を指定します。

解説

ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- ・ setViewerPreferenceFilePath メソッドで指定されているフォルダ
- ・ 環境設定ファイル（EURPS_ENV）の変数
EURPS_VIEWERPREFERENCEFILEPATH に設定されているフォルダ
- ・ EUR Developer，または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- ・ setViewerPreferenceFilePath メソッドで指定されているディレクトリ
- ・ 環境設定ファイル（eurps_env）の変数
EURPS_VIEWERPREFERENCEFILEPATH に設定されているディレクトリ
- ・ ホームディレクトリ（環境変数 HOME で設定したディレクトリ）
- ・ /var/opt/eurps ディレクトリ

帳票出力を実行する前に、指定したファイル名を見直してください。

- ・ 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー（KEEU069-E）になります。
- ・ ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがあ

る場合は、エラー（KEEU009-E）になります。

- Windows 環境の場合

フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内

相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内

- UNIX / Linux 環境の場合

フルパスで 1,023 バイト以内

- ファイル名には「"」を含めないでください。ファイル名に「"」が含まれていると、エラー（KEEU600-E）になります。
- `setOutputType` メソッドで 0, 2 または 3 を指定した場合、`setViewerPreferenceFileName` メソッドを指定すると、エラー（KEEU603-E）になります。

戻り値

なし

setViewerPreferenceFilePath メソッド

ビューアプレファレンス定義ファイルのある場所を指定します。

形式

```
public void setViewerPreferenceFilePath (String newViewerPreferenceFilePath)
```

引数

`newViewerPreferenceFilePath`

ビューアプレファレンス定義ファイルのある場所を指定します。

解説

指定されたディレクトリは、`setViewerPreferenceFileName` メソッドで指定するビューアプレファレンス定義ファイルのデフォルトのディレクトリになります。

帳票出力を実行する前に、指定したファイルのパスを見直してください。

- 存在するファイル、または読み込み権限のあるファイルを指定してください。指定したファイルのパスにファイルがなかったり、読み込み権限が与えられていないファイルを指定した場合は、エラー（KEEU069-E）になります。
- ファイル名に指定できる文字数は、次のとおりです。指定したファイル名に誤りがある場合は、エラー（KEEU009-E）になります。
- Windows 環境の場合
フルパスで指定する場合は半角 259 文字以内
相対パス、またはファイル名だけで指定する場合は半角 255 文字以内
- UNIX / Linux 環境の場合

フルパスで 1,023 バイト以内

- ディレクトリ名には「"」を含めないでください。ディレクトリ名に「"」が含まれていると、エラー（KEEU600-E）になります。

戻り値

なし

5.7 EURPSEException クラスのメソッド仕様

EURPSEException クラスで使用できるメソッドの詳細を説明します。

getErrorCode メソッド

エラーコードを取得します。

形式

```
public int getErrorCode()
```

引数

なし

解説

ユーザアプリケーションは、getErrorCode メソッドを呼び出してエラーコードを取得します。

戻り値

エラーコード (eurps コマンドの終了コード) を返します。エラーコードについては、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

getMessage メソッド

エラー、または警告発生時のメッセージ文を取得します。

形式

```
public String getMessage()
```

引数

なし

解説

ユーザアプリケーションは、getMessage メソッドを呼び出してエラーメッセージを取得します。

getErrorCode メソッドで終了コード 4 が返された場合は、getMessage メソッドから KEEU300 番台のメッセージが返されます。KEEU300 番台に該当する警告が複数発生した場合、各メッセージの文字列を連結した文字列が返されます。4 以外の終了コードが

返された場合は、getMessage メソッドから発生したエラー（KEEUnnn-E）のメッセージ文が返されます。

戻り値

エラー，または警告発生時のメッセージ文を返します。メッセージ文については，マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

5.8 環境変数，環境設定ファイル

JavaBeans 起動部品で指定するファイルの入出力フォルダなどを，環境変数，または環境設定ファイル（Windows 環境の場合は EURPS_ENV，UNIX / Linux 環境の場合は eurps_env）に指定できます。

環境変数については，「7.26.1 環境変数一覧」を参照してください。環境設定ファイルについては，「7.26 環境設定ファイル」を参照してください。

環境設定ファイルはテキストエディタで編集できますが，[EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログでも編集できます。[EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログを使った環境設定ファイルの編集方法については，「3.4.1 ダイアログからの環境設定ファイルの作成」を参照してください。

5.9 JavaBeans 起動部品の例外情報

JavaBeans 起動部品を使用して帳票出力を実行している場合にエラーが発生した場合は、例外が発生させます。ユーザプログラムは、EURPSEException オブジェクトによって例外情報を取得します。例外情報には、エラーコードとエラーメッセージが含まれます。

5.9.1 getErrorCode メソッド

EURPSEException オブジェクトの getErrorCode メソッドは、次に示した終了コードを返します。終了コードと対応するエラーの詳細は、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

表 5-23 JavaBeans 起動部品実行時の終了コード一覧

終了コード	意 味
0	正常終了しました。
4	警告が発生しました。
8	システムエラーが発生しました。または、出力でエラーが発生しました。
10	データベースアクセスでエラーが発生しました。
12	データエラーが発生しました。
16	メソッドでの設定値、またはプリンタ定義ファイル内で文法エラーがあります。
32	上記以外のエラーが発生しました。

注

警告が発生する要因については、「(1) 終了コード 4 を返す警告要因」を参照してください。

(1) 終了コード 4 を返す警告要因

JavaBeans 起動部品を使用して帳票出力を実行した場合に発生するおそれがある警告要因を、次に示します。なお、終了コード 4 を返す警告が発生した場合、詳細メッセージも出力されます。

表 5-24 終了コード 4 を返す警告要因

項番	警告要因	出力メッセージ	詳細メッセージ
1	文字アイテムのアイテム枠が小さく、指定したデータがアイテム枠内に収まる分だけ出力された場合。	KEEU300-W	KEEU301-W
2	数値アイテムのアイテム枠が小さく、指定したデータがアイテム枠内に収まらなくて、データが「***」で出力された場合。		KEEU301-W

5. JavaBeans を使用した帳票出力

項番	警告要因	出力メッセージ	詳細メッセージ
3	バーコードアイテムのアイテム枠が小さく、バーコードが出力されない場合。		KEEU301-W
4	アイテムが出力できる範囲を超えているので、まったく出力されないか、または出力できる範囲に収まる分だけ出力された場合。		KEEU301-W
5	フィールドのデータ型に合わないデータを入力したため、データが欠損値（空白）で出力された場合。		KEEU302-W
6	画像ファイルがない、EUR サーバ帳票出力機能ではサポートしていない画像ファイルである、または画像ファイルが壊れている場合。		KEEU305-W
7	指定した帳票ファイルが、上位バージョンの機能を使用して作成されているため、実行時の EUR サーバ帳票出力機能のバージョンで出力できる範囲で帳票を出力された場合。		KEEU304-W
8	バーコードデータに使用できない文字、または誤った桁数を指定したために、バーコードが出力されなかった場合。		KEEU301-W
9	集計行のアイテムが表示できない位置に配置された場合。		KEEU303-W
10	日付変換用システムファイルが正しくない場合。		KEEU308-W
11	指定した置き換え表ファイルに、置き換えデータを 1 件も登録していなかった場合。		出力しない
12	指定した置き換え表ファイルにキーデータがなかった場合。または不正なデータがあった場合。		出力しない
13	アイテムが不当に重なっていたため、Excel 形式ファイルへ出力できない項目があった場合。	KEEU320-W	出力しない
14	変換するページ数が 100 ページを超えていた場合。	KEEU321-W	出力しない
15	接続先データベースが HiRDB ではないのに、接続情報ファイルのキーワード QueryExclusiveString が指定された場合。	KEEU350-W	出力しない

プリンタ出力、PDF 形式ファイル出力、または Excel 形式ファイル出力をする場合に警告要因が発生したときは、終了コード 4 を返します。

EUR 形式ファイルを出力する場合に警告要因が発生したときは、終了コード 4 を返します。ただし、項番 6 の警告要因が発生した場合は、終了コード 0 を返します。

ただし、環境変数、または環境設定ファイル（Windows 環境の場合は EURPS_ENV、UNIX / Linux 環境の場合は eurps_env）中の変数 EURPS_REPORT_WARNING に「NO」を設定すると、警告要因があっても、終了コード 0 を返して終了します。メッセージ KEEU300-W と詳細メッセージ（KEEU301-W ~ KEEU308-W）、KEEU320-W ~ KEEU321-W、KEEU350-W も出力されません。

なお、終了コード 4 が帰ってきた場合、警告は発生しても帳票は出力されます。

警告が発生しても終了コード 4 を返さないようにするには、環境変数、または環境設定

ファイル（Windows 環境の場合は EURPS_ENV，UNIX / Linux 環境の場合は eurps_env）中の変数 EURPS_REPORT_WARNING に「NO」を設定してください。

ただし，EUR 形式ファイル出力の場合は，EURPS_REPORT_WARNING の設定に関係なく，終了コード 0 を返します。ただし，項番 6 の警告要因が発生した場合は，終了コード 4 を返します。

5.9.2 getMessage メソッド

EURPSEException オブジェクトの getMessage メソッドは，エラーメッセージ文字列を返します。

getErrorCode メソッドで終了コード 4 が返された場合は，getMessage メソッドから KEEU300 番台のメッセージが返されます。KEEU300 番台に該当する警告が複数発生した場合，各メッセージの文字列を連結した文字列が返されます。4 以外の終了コードが返された場合は，getMessage メソッドから発生したエラー（KEEUnnn-E）のメッセージ文が返されます。

メッセージ文については，マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

5.10 コーディング例（JavaBeans 起動部品の場合）

JavaBeans 起動部品のコーディング例を次に示します。

5.10.1 コーディング例の読み方

ここではコーディング例の読み方について説明します。

（１）可変領域

JavaBeans 起動部品のコーディング例には、「1. 配列定義領域」、「2. ファイル名指定領域」、「3. エラー番号指定領域」の可変領域があります。必要な設定に合わせて、可変領域を設定してください。

```
import JP.co.Hitachi.soft.EURPS.*;
```

```
try {
    EURPSManager obj=new EURPSManager();
```

1. 配列定義領域

2. ファイル名指定領域

```
//帳票の出力指示
obj.printReport();
}
//エラー処理
catch (EURPSException ce) {
    String erridstr;
    int errid = 0;

    if (ce.getMessage() != null && ce.getMessage().length() >= 8) {
        erridstr = ce.getMessage().substring(4, 7);
        //メッセージIDをerridに取り出す
        errid = Integer.parseInt(erridstr);
    }
}
```

3. エラー番号指定領域

```
}
```

● ~の場合

1. 配列定義領域

配列定義領域に入力します。

2. ファイル名指定領域

ファイル名指定領域に入力します。

3. エラー番号指定領域

エラー番号指定領域に入力します。

(2) コーディング例で使用しているファイル

コーディング例で使用しているファイル名を次に示します。

表 5-25 コーディング例で使用しているファイル名

ファイルの種類		ファイル名
帳票ファイル		sample1.fms , sample2.fms , sample3.fms
マッピングデータファイル		mapping1.csv , mapping2.csv , mapping3.csv
可変記号値定義ファイル		DBVar1.txt , DBVar2.txt , DBVar3.txt
接続情報ファイル		DBInfo1.txt
複数様式情報定義ファイル		formdef.txt
帳票セット指定ファイル		formset.txt
文書情報設定ファイル		pdfdoc.txt
文書しおり定義ファイル		docbm1.txt , docbm2.txt
しおり定義ファイル		bookmark1.txt , bookmark2.txt , bookmark3.txt
PDF 仕分け定義ファイル		shiwake.csv
暗号化設定ファイル		crypto.txt
出力するプリンタ		Printer1
出力先ファイル	PDF 形式ファイルの場合	output.pdf
	EUR 形式ファイルの場合	output.euv , output.eup
	CSV 形式ファイルの場合	output.csv
	Excel 形式ファイルの場合	output.xlsx

(3) ファイルの定義例

コーディング例で使用しているファイルの定義例を次に示します。

表 5-26 ファイルの定義例

コーディング例に使用したファイル名		定義例
可変記号値定義ファイル	DBVar1.txt	代理店 = 横浜 社員番号 = 10000
	DBVar2.txt	代理店 = 名古屋 社員番号 = 15000

5. JavaBeans を使用した帳票出力

コーディング例に使用したファイル名		定義例
接続情報ファイル	DBInfo01.txt	DABrokerHost=hostname DBType=HiRDB SendBufferSize=64 TimeoutInterval=60 User=USERID QueryExclusiveString=WITH ROLLBACK
複数様式情報定義ファイル	formdef.txt	<pre>group 1 { formtransfercondition { keybreaktopform=ON fieldname=" 社員番号 " } formfilename "sample1.fms" { transfercondition=NPNF printnewpaper=OFF resetpagenumber=ON } formfilename "sample2.fms" { transfercondition=KBNF printnewpaper=OFF resetpagenumber=OFF } }</pre>
帳票セット指定ファイル	formset.txt	<ul style="list-style-type: none"> データファイルを指定する場合 sample1.fms,mapping1.csv sample2.fms,mapping1.csv sample3.fms,mapping2.csv 可変記号値定義ファイルを指定する場合 sample1.fms,DBVar1.txt sample2.fms,DBVar1.txt sample3.fms,DBVar2.txt
帳票セット指定ファイル（しおり付きPDF形式ファイルの場合）	formset.txt	<ul style="list-style-type: none"> データファイルを指定する場合 sample1.fms,mapping1.csv,,bookmark1.txt sample2.fms,mapping1.csv,,bookmark2.txt sample3.fms,mapping2.csv,,bookmark3.txt 可変記号値定義ファイルを指定する場合 sample1.fms,DBVar1.txt,,bookmark1.txt sample2.fms,DBVar1.txt,,bookmark2.txt sample3.fms,DBVar2.txt,,bookmark3.txt
文書情報設定ファイル	pdfdoc.txt	TITLE=" 人事管理 " SUBTITLE="TOKYO-Area" AUTHOR="Jinji1" KEYWORD="Jinji,TOKYO,YOKOHAMA,CHIBA"
文書しおり定義ファイル	docbm1.txt	TITLE=docinfotitle SCALE=150 BOOKMARK=open
	docbm2.txt	TITLE=" 地域別売り上げ " SCALE=120 BOOKMARK=close
しおり定義ファイル	bookmark1.txt	NAME=" 東京 " BREAKFLD =200

コーディング例に使用したファイル名	定義例
	bookmark2.txt NAME=" 大阪 " BREAKFLD =130
	bookmark3.txt NAME=" 福岡 " BREAKFLD=80
PDF 仕分け定義ファイル	shiwake.csv KEYFIELD,1, 氏番号 DATA,00000001.pdf,00000001,TARO DATA,00000002.pdf,00000002,HANAKO
暗号化設定ファイル	crypto.txt OwnerPassword=OWNER DisablePrint=Yes UserPassword=HITACHI

5.10.2 プリンタ出力のコーディング例

帳票をプリンタ出力するコーディング例を次に示します。

帳票セットを複数指定する場合（データベースを使用）

```
import JP.co.Hitachi.soft.EURPS.*;

:
try {
    EURPSManager obj=new EURPSManager();

    /***** 1. 配列定義領域 開始 *****/
    String fms[]=new String[3];
    String dbv[]=new String[3];
    //接続情報ファイル名をdbiに設定
    String dbi="DBInfo1.txt";
    //帳票ファイル名を配列fmsに設定
    fms[0]="sample1.fms";
    fms[1]="sample2.fms";
    fms[2]="sample3.fms";
    //可変記号値定義ファイル名を配列dbvに設定
    dbv[0]="DBVar1.txt";
    dbv[1]="DBVar2.txt";
    dbv[2]="DBVar3.txt";
    /***** 1. 配列定義領域 終了 *****/

    /***** 2. ファイル名指定領域 開始 *****/
    //印刷種別を「0（プリンタ出力）」に指定
    obj.setOutputType(0);
    //出力するプリンタ名の指定
    obj.setPrinterName("Printer1");
    //接続情報ファイル名の指定
    obj.setDBInfoFileName(dbi);
    //帳票ファイル名の指定
    obj.setMultiReportFileName(fms);
    //可変記号値定義ファイル名の指定
    obj.setMultiDataFileName(dbv);
    /***** 2. ファイル名指定領域 終了 *****/
    //帳票の出力指示
    obj.printReport();
}
```

5. JavaBeans を使用した帳票出力

```
}
//エラー処理
catch (EURPSEException ce) {
    String erridstr;
    int errid = 0;

    if (ce.getMessage() != null && ce.getMessage().length() >= 8) {
        erridstr = ce.getMessage().substring(4, 7);
        //メッセージIDをerridに取り出す
        errid = Integer.parseInt(erridstr);
    }

    /***** 3. エラー番号指定領域 開始 *****/
    if (errid==300) {
        //KEEU300-Wの場合のエラー処理
    } else if (errid==5) {
        //KEEU005-Eの場合のエラー処理
    } else if (errid==53) {
        //KEEU053-Eの場合のエラー処理
    }
    /***** 3. エラー番号指定領域 終了 *****/
}
```

そのほかの場合は、「1. 配列定義領域」、「2. ファイル名指定領域」、「3. エラー番号指定領域」のそれぞれに、次に示すコーディング例を当てはめて使用してください。

(1) 帳票セットを指定する場合

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
// 印刷種別を「0 (プリンタ出力)」に指定
obj.setOutputType(0);
// 出力するプリンタ名の指定
obj.setPrinterName("Printer1");
// 帳票ファイル名の指定
obj.setReportFileName("sample1.fms");
// マッピングデータファイル名の指定
obj.setDataFileName("mapping1.csv");
```

3. エラー番号指定領域

```
if (errid==300) {
    //KEEU300-Wの場合のエラー処理
} else if (errid==5) {
    //KEEU005-Eの場合のエラー処理
} else if (errid==6) {
    //KEEU006-Eの場合のエラー処理
}
```

(2) 帳票セットを指定する場合 (データベースを使用)

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
// 印刷種別を「0 (プリンタ出力)」に指定
obj.setOutputType(0);
// 出力するプリンタ名の指定
obj.setPrinterName("Printer1");
// 接続情報ファイル名の指定
obj.setDBInfoFileName("DBInfo1.txt");
// 帳票ファイル名の指定
obj.setReportFileName("sample1.fms");
// 可変記号値定義ファイル名の指定
obj.setDataFileName("DBVar1.txt");
```

3. エラー番号指定領域

```
if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==5) {
    //KEEU005-E の場合のエラー処理
} else if (errid==53) {
    //KEEU053-E の場合のエラー処理
}
```

(3) 帳票セットを複数指定する場合

1. 配列定義領域

```
String fms[]=new String[3];
String map[]=new String[3];
// 帳票ファイル名を配列 fms に設定
fms[0]="sample1.fms";
fms[1]="sample2.fms";
fms[2]="sample3.fms";
// マッピングデータファイル名を配列 map に設定
map[0]="mapping1.csv";
map[1]="mapping2.csv";
map[2]="mapping3.csv";
```

2. ファイル名指定領域

5. JavaBeans を使用した帳票出力

```
// 印刷種別を「0 (プリンタ出力)」に指定
obj.setOutputType(0);
// 出力するプリンタ名の指定
obj.setPrinterName("Printer1");
// 帳票ファイル名の指定
obj.setMultiReportFileName(fms);
// マッピングデータファイル名の指定
obj.setMultiDataFileName(map);
```

3. エラー番号指定領域

```
if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==5) {
    //KEEU005-E の場合のエラー処理
} else if (errid==6) {
    //KEEU006-E の場合のエラー処理
}
```

(4) 帳票セット指定ファイルを指定する場合

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
// 印刷種別を「0 (プリンタ出力)」に指定
obj.setOutputType(0);
// 出力するプリンタ名の指定
obj.setPrinterName("Printer1");
// 複数様式情報定義ファイル名の指定
obj.setMultiFormInfoDefFileName("formdef.txt");
// 帳票セット指定ファイル名の指定
obj.setMultiReportSetFileName("formset.txt");
```

3. エラー番号指定領域

```
if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==35) {
    //KEEU035-E の場合のエラー処理
} else if (errid==37) {
    //KEEU037-E の場合のエラー処理
}
```

(5) 帳票セット指定ファイルを指定する場合 (データベースを使用)

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
// 印刷種別を「0 (プリンタ出力)」に指定
obj.setOutputType(0);
// 出力するプリンタ名の指定
obj.setPrinterName("Printer1");
// 複数様式情報定義ファイル名の指定
obj.setMultiFormInfoDefFileName("formdef.txt");
// 接続情報ファイル名の指定
obj.setDBInfoFileName("DBInfo1.txt");
// 帳票セット指定ファイル名の指定
obj.setMultiReportSetFileName("formset.txt");
```

3. エラー番号指定領域

```
if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==35) {
    //KEEU035-E の場合のエラー処理
} else if (errid==37) {
    //KEEU037-E の場合のエラー処理
} else if (errid==53) {
    //KEEU053-E の場合のエラー処理
}
```

5.10.3 PDF 形式ファイル出力のコーディング例

帳票を PDF 形式ファイルに出力するコーディング例を次に示します。

(1) PDF 形式ファイルに出力する場合

帳票セットを複数指定する場合 (データベースを使用)

```
import JP.co.Hitachi.soft.EURPS.*;

:
try {
    EURPSManager obj=new EURPSManager();

    /***** 1. 配列定義領域 開始 *****/
    String fms[]=new String[3];
    String dbv[]=new String[3];
    //bokはしおり付きPDF形式ファイルに出力する場合だけ指定
    String bok[]=new String[3];
    //接続情報ファイル名をdbiに設定
    String dbi="DBInfo1.txt";
    //帳票ファイル名を配列fmsに設定
```

5. JavaBeans を使用した帳票出力

```
fms[0]="sample1.fms";
fms[1]="sample2.fms";
fms[2]="sample3.fms";
//可変記号値定義ファイル名を配列dbvに設定
dbv[0]="DBVar1.txt";
dbv[1]="DBVar2.txt";
dbv[2]="DBVar3.txt";
/**** しおり付きPDF形式ファイルに出力する場合 開始 ****/
//しおり定義ファイル名を配列bokに設定
bok[0]="bookmark1.txt";
bok[1]="bookmark2.txt";
bok[2]="bookmark3.txt";
/**** しおり付きPDF形式ファイルに出力する場合 終了 ****/
/***** 1. 配列定義領域 終了 *****/

/***** 2. ファイル名指定領域 開始 *****/
//印刷種別を「1 (PDF形式ファイルに出力)」に指定
obj.setOutputType(1);
//出力するPDF形式ファイル名の指定
obj.setOutputFileName("output.pdf");
//接続情報ファイル名の指定
obj.setDBInfoFileName(dbi);
//帳票ファイル名の指定
obj.setMultiReportFileName(fms);
//可変記号値定義ファイル名の指定
obj.setMultiDataFileName(dbv);
/**** しおり付きPDF形式ファイルに出力する場合 開始 ****/
//文書しおり定義ファイル名の指定
obj.setDocBookmarkFileName("docbm2.txt");
//しおり定義ファイル名の指定
obj.setMultiBookmarkFileName(bok);
/**** しおり付きPDF形式ファイルに出力する場合 終了 ****/
/***** 2. ファイル名指定領域 終了 *****/
//帳票の出力指示
obj.printReport();

}
//エラー処理
catch (EURPSEException ce) {
    String erridstr;
    int errid = 0;

    if (ce.getMessage() != null && ce.getMessage().length() >= 8) {
        erridstr = ce.getMessage().substring(4, 7);
        //メッセージIDをerridに取り出す
        errid = Integer.parseInt(erridstr);
    }

/***** 3. エラー番号指定領域 開始 *****/
    if (errid==300) {
        //KEEU300-Wの場合のエラー処理
    } else if (errid==5) {
        //KEEU005-Eの場合のエラー処理
    } else if (errid==53) {
        //KEEU053-Eの場合のエラー処理
    }
/***** 3. エラー番号指定領域 終了 *****/
}
```


そのほかの場合は、「1. 配列定義領域」、「2. ファイル名指定領域」、「3. エラー番号指定領域」のそれぞれに、次に示すコーディング例を当てはめて使用してください。

(a) 帳票セットを指定する場合

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
// 印刷種別を「1 (PDF 形式ファイルに出力)」に指定
obj.setOutputType(1);
// 出力する PDF 形式ファイル名の指定
obj.setOutputFileName("output.pdf");
// 帳票ファイル名の指定
obj.setReportFileName("sample1.fms");
// マッピングデータファイル名の指定
obj.setDataFileName("mapping1.csv");
/*** しおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合 開始 ***/
// 文書情報設定ファイル名の指定
obj.setDocInfoFileName("pdfdoc.txt");
// 文書しおり定義ファイル名の指定
obj.setDocBookmarkFileName("docbml.txt");
// しおり定義ファイル名の指定
obj.setBookmarkFileName("bookmark1.txt");
/*** しおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合 終了 ***/
```

3. エラー番号指定領域

```
if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==5) {
    //KEEU005-E の場合のエラー処理
} else if (errid==6) {
    //KEEU006-E の場合のエラー処理
}
```

(b) 帳票セットを指定する場合 (データベースを使用)

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

5. JavaBeans を使用した帳票出力

```
// 印刷種別を「1 (PDF 形式ファイルに出力)」に指定
obj.setOutputType(1);
// 出力する PDF 形式ファイル名の指定
obj.setOutputFileName("output.pdf");
// 接続情報ファイル名の指定
obj.setDBInfoFileName("DBInfo1.txt");
// 帳票ファイル名の指定
obj.setReportFileName("sample1.fms");
// 可変記号値定義ファイル名の指定
obj.setDataFileName("DBVar1.txt");
/**** しおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合 開始 ****/
// 文書情報設定ファイル名の指定
obj.setDocInfoFileName("pdfdoc.txt");
// 文書しおり定義ファイル名の指定
obj.setDocBookmarkFileName("docbm1.txt");
// しおり定義ファイル名の指定
obj.setBookmarkFileName("bookmark1.txt");
/**** しおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合 終了 ****/
```

3. エラー番号指定領域

```
if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==5) {
    //KEEU005-E の場合のエラー処理
} else if (errid==53) {
    //KEEU053-E の場合のエラー処理
}
```

(c) 帳票セットを複数指定する場合

1. 配列定義領域

```

String fms[]=new String[3];
String map[]=new String[3];
//bok はしおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合だけ指定
String bok[]=new String[3];
// 帳票ファイル名を配列 fms に設定
fms[0]="sample1.fms";
fms[1]="sample2.fms";
fms[2]="sample3.fms";
// マッピングデータファイル名を配列 map に設定
map[0]="mapping1.csv";
map[1]="mapping2.csv";
map[2]="mapping3.csv";
/*** しおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合 開始 ***/
// しおり定義ファイル名を配列 bok に設定
bok[0]="bookmark1.txt";
bok[1]="bookmark2.txt";
bok[2]="bookmark3.txt";
/*** しおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合 終了 ***/

```

2. ファイル名指定領域

```

// 印刷種別を「1 ( PDF 形式ファイルに出力 )」に指定
obj.setOutputType(1);
// 出力する PDF 形式ファイル名の指定
obj.setOutFileName("output.pdf");
// 帳票ファイル名の指定
obj.setMultiReportFileName(fms);
// マッピングデータファイル名の指定
obj.setMultiDataFileName(map);
/*** しおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合 開始 ***/
// 文書しおり定義ファイル名の指定
obj.setDocBookmarkFileName("docbm2.txt");
// しおり定義ファイル名の指定
obj.setMultiBookmarkFileName(bok);
/*** しおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合 終了 ***/

```

3. エラー番号指定領域

```

if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==5) {
    //KEEU005-E の場合のエラー処理
} else if (errid==6) {
    //KEEU006-E の場合のエラー処理
}

```

(d) 帳票セット指定ファイルを指定する場合

1. 配列定義領域

5. JavaBeans を使用した帳票出力

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
// 印刷種別を「1 (PDF 形式ファイルに出力)」に指定
obj.setOutputType(1);
// 出力する PDF 形式ファイル名の指定
obj.setOutFileName("output.pdf");
// 複数様式情報定義ファイル名の指定
obj.setMultiFormInfoDefFileName("formdef.txt");
// 帳票セット指定ファイル名の指定
obj.setMultiReportSetFileName("formset.txt");
/*** しおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合 開始 ***/
// 文書しおり定義ファイル名の指定
obj.setDocBookmarkFileName("docbm2.txt");
/*** しおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合 終了 ***/
```

3. エラー番号指定領域

```
if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==35) {
    //KEEU035-E の場合のエラー処理
} else if (errid==37) {
    //KEEU037-E の場合のエラー処理
}
```

(e) 帳票セット指定ファイルを指定する場合 (データベースを使用)

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
// 印刷種別を「1 (PDF 形式ファイルに出力)」に指定
obj.setOutputType(1);
// 出力する PDF 形式ファイル名の指定
obj.setOutFileName("output.pdf");
// 複数様式情報定義ファイル名の指定
obj.setMultiFormInfoDefFileName("formdef.txt");
// 接続情報ファイル名の指定
obj.setDBInfoFileName("DBInfo1.txt");
// 帳票セット指定ファイル名の指定
obj.setMultiReportSetFileName("formset.txt");
/*** しおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合 開始 ***/
// 文書しおり定義ファイル名の指定
obj.setDocBookmarkFileName("docbm2.txt");
/*** しおり付き PDF 形式ファイルに出力する場合 終了 ***/
```

3. エラー番号指定領域

```

if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==35) {
    //KEEU035-E の場合のエラー処理
} else if (errid==37) {
    //KEEU037-E の場合のエラー処理
} else if (errid==53) {
    //KEEU053-E の場合のエラー処理
}

```

(2) PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合

帳票セットを複数指定する場合 (データベースを使用)

```

import JP.co.Hitachi.soft.EURPS.*;

:
try {
    EURPSManager obj=new EURPSManager();

    /***** 1. 配列定義領域 開始 *****/
    String fms[]=new String[3];
    String dbv[]=new String[3];
    //接続情報ファイル名をdbiに設定
    String dbi="DBInfo1.txt";
    //帳票ファイル名を配列fmsに設定
    fms[0]="sample1.fms";
    fms[1]="sample2.fms";
    fms[2]="sample3.fms";
    //可変記号値定義ファイル名を配列dbvに設定
    dbv[0]="DBVar1.txt";
    dbv[1]="DBVar2.txt";
    dbv[2]="DBVar3.txt";
    /***** 1. 配列定義領域 終了 *****/

    /***** 2. ファイル名指定領域 開始 *****/
    //印刷種別を「1 (PDF形式ファイルに出力)」に指定
    obj.setOutputType(1);
    //PDF仕分け定義ファイル名の指定
    obj.setDistributeFileName("shiwake.csv");
    //複数様式情報定義ファイルの指定
    obj.setMultiFormInfoDefFileName("formdef.txt");
    //接続情報ファイル名の指定
    obj.setDBInfoFileName(dbi);
    //帳票ファイル名の指定
    obj.setMultiReportFileName(fms);
    //可変記号値定義ファイル名の指定
    obj.setMultiDataFileName(dbv);
    /*** PDF形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合 開始 ***/
    //PDF形式ファイルの暗号化指定
    obj.setCrypto(true);
    //暗号化設定ファイル名の指定

```

5. JavaBeans を使用した帳票出力

```
obj.setCryptoFileName("crypto.txt");
/*** PDF形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合 終了 ***/
/***** 2. ファイル名指定領域 終了 *****/
//帳票の出力指示
obj.printReport();
}
//エラー処理
catch (EURPSEException ce) {
    String erridstr;
    int errid = 0;

    if (ce.getMessage() != null && ce.getMessage().length() >= 8) {
        erridstr = ce.getMessage().substring(4, 7);
        //メッセージIDをerridに取り出す
        errid = Integer.parseInt(erridstr);
    }

    /***** 3. エラー番号指定領域 開始 *****/
    if (errid==300) {
        //KEEU300-Wの場合のエラー処理
    } else if (errid==5) {
        //KEEU005-Eの場合のエラー処理
    } else if (errid==53) {
        //KEEU053-Eの場合のエラー処理
    }
    /***** 3. エラー番号指定領域 終了 *****/
}
```

そのほかの場合は、「1. 配列定義領域」、「2. ファイル名指定領域」、「3. エラー番号指定領域」のそれぞれに、次に示すコーディング例を当てはめて使用してください。

(a) 帳票セットを指定する場合

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
// 印刷種別を「1 (PDF 形式ファイルに出力)」に指定
obj.setOutputType(1);
//PDF 仕分け定義ファイル名の指定
obj.setDistributeFileName("shiwake.csv");
// 帳票ファイル名の指定
obj.setReportFileName("sample1.fms");
// マッピングデータファイル名の指定
obj.setDataFileName("mapping1.csv");
/*** PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合 開始 ***/
//PDF 形式ファイルの暗号化指定
obj.setCrypto(true);
// 暗号化設定ファイル名の指定
obj.setCryptoFileName("crypto.txt");
/*** PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合 終了 ***/
```

3. エラー番号指定領域

```

if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==5) {
    //KEEU005-E の場合のエラー処理
} else if (errid==6) {
    //KEEU006-E の場合のエラー処理
}

```

(b) 帳票セットを指定する場合 (データベースを使用)

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```

// 印刷種別を「1 (PDF 形式ファイルに出力)」に指定
obj.setOutputType(1);
//PDF 仕分け定義ファイル名の指定
obj.setDistributeFileName("shiwake.csv");
// 接続情報ファイル名の指定
obj.setDBInfoFileName("DBInfo1.txt");
// 帳票ファイル名の指定
obj.setReportFileName("sample1.fms");
// 可変記号値定義ファイル名の指定
obj.setDataFileName("DBVar1.txt");
/*** PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合 開始 ***/
//PDF 形式ファイルの暗号化指定
obj.setCrypto(true);
// 暗号化設定ファイル名の指定
obj.setCryptoFileName("crypto.txt");
/*** PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合 終了 ***/

```

3. エラー番号指定領域

```

if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==5) {
    //KEEU005-E の場合のエラー処理
} else if (errid==53) {
    //KEEU053-E の場合のエラー処理
}

```

(c) 帳票セットを複数指定する場合

1. 配列定義領域

5. JavaBeans を使用した帳票出力

```
String fms[]=new String[3];
String map[]=new String[3];
// 帳票ファイル名を配列 fms に設定
fms[0]="sample1.fms";
fms[1]="sample2.fms";
fms[2]="sample3.fms";
// マッピングデータファイル名を配列 map に設定
map[0]="mapping1.csv";
map[1]="mapping2.csv";
map[2]="mapping3.csv";
```

2. ファイル名指定領域

```
// 印刷種別を「1 (PDF 形式ファイルに出力)」に指定
obj.setOutputType(1);
//PDF 仕分け定義ファイル名の指定
obj.setDistributeFileName("shiwake.csv");
// 複数様式情報定義ファイルの指定
obj.setMultiFormInfoDefFileName("formdef.txt");
// 帳票ファイル名の指定
obj.setMultiReportFileName(fms);
// マッピングデータファイル名の指定
obj.setMultiDataFileName(map);
/*** PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合 開始 ***/
//PDF 形式ファイルの暗号化指定
obj.setCrypto(true);
// 暗号化設定ファイル名の指定
obj.setCryptoFileName("crypto.txt");
/*** PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合 終了 ***/
```

3. エラー番号指定領域

```
if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==5) {
    //KEEU005-E の場合のエラー処理
} else if (errid==6) {
    //KEEU006-E の場合のエラー処理
}
```

(d) 帳票セット指定ファイルを指定する場合

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域


```
// 印刷種別を「1 ( PDF 形式ファイルに出力 )」に指定
obj.setOutputType(1);
//PDF 仕分け定義ファイル名の指定
obj.setDistributeFileName("shiwake.csv");
// 複数様式情報定義ファイル名の指定
obj.setMultiFormInfoDefFileName("formdef.txt");
// 帳票セット指定ファイル名の指定
obj.setMultiReportSetFileName("formset.txt");
/*** PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合 開始 ***/
//PDF 形式ファイルの暗号化指定
obj.setCrypto(true);
// 暗号化設定ファイル名の指定
obj.setCryptoFileName("crypto.txt");
/*** PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合 終了 ***/
```

3. エラー番号指定領域

```
if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==35) {
    //KEEU035-E の場合のエラー処理
} else if (errid==37) {
    //KEEU037-E の場合のエラー処理
}
```

(e) 帳票セット指定ファイルを指定する場合 (データベースを使用)

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
// 印刷種別を「1 ( PDF 形式ファイルに出力 )」に指定
obj.setOutputType(1);
//PDF 仕分け定義ファイル名の指定
obj.setDistributeFileName("shiwake.csv");
// 複数様式情報定義ファイル名の指定
obj.setMultiFormInfoDefFileName("formdef.txt");
// 接続情報ファイル名の指定
obj.setDBInfoFileName("DBInfo1.txt");
// 帳票セット指定ファイル名の指定
obj.setMultiReportSetFileName("formset.txt");
/*** PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合 開始 ***/
//PDF 形式ファイルの暗号化指定
obj.setCrypto(true);
// 暗号化設定ファイル名の指定
obj.setCryptoFileName("crypto.txt");
/*** PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合 終了 ***/
```

3. エラー番号指定領域

```

if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==35) {
    //KEEU035-E の場合のエラー処理
} else if (errid==37) {
    //KEEU037-E の場合のエラー処理
} else if (errid==53) {
    //KEEU053-E の場合のエラー処理
}

```

(3) PDF 形式ファイルを暗号化出力する場合

帳票セットを複数指定する場合（データベースを使用）

```

import JP.co.Hitachi.soft.EURPS.*;

:
try {
    EURPSManager obj=new EURPSManager();

    /***** 1. 配列定義領域 開始 *****/
    String fms[]=new String[3];
    String dbv[]=new String[3];
    //接続情報ファイル名をdbiに設定
    String dbi="DBInfo1.txt";
    //帳票ファイル名を配列fmsに設定
    fms[0]="sample1.fms";
    fms[1]="sample2.fms";
    fms[2]="sample3.fms";
    //可変記号値定義ファイル名を配列dbvに設定
    dbv[0]="DBVar1.txt";
    dbv[1]="DBVar2.txt";
    dbv[2]="DBVar3.txt";
    /***** 1. 配列定義領域 終了 *****/

    /***** 2. ファイル名指定領域 開始 *****/
    //印刷種別を「1（PDF形式ファイルに出力）」に指定
    obj.setOutputType(1);
    //出力するPDF形式ファイル名の指定
    obj.setOutFileName("output.pdf");
    //PDF形式ファイルの暗号化指定
    obj.setCrypto(true);
    //暗号化設定ファイル名の指定
    obj.setCryptoFileName("crypto.txt");
    //接続情報ファイル名の指定
    obj.setDBInfoFileName(dbi);
    //帳票ファイル名の指定
    obj.setMultiReportFileName(fms);
    //可変記号値定義ファイル名の指定
    obj.setMultiDataFileName(dbv);
    /***** 2. ファイル名指定領域 終了 *****/
}

```

```

//帳票の出力指示
obj.printReport();

}
//エラー処理
catch (EURPSEException ce) {
    String erridstr;
    int errid = 0;

    if (ce.getMessage() != null && ce.getMessage().length() >= 8) {
        erridstr = ce.getMessage().substring(4, 7);
        //メッセージIDをerridに取り出す
        errid = Integer.parseInt(erridstr);
    }

    /***** 3. エラー番号指定領域 開始 *****/
    if (errid==300) {
        //KEEU300-Wの場合のエラー処理
    } else if (errid==5) {
        //KEEU005-Eの場合のエラー処理
    } else if (errid==53) {
        //KEEU053-Eの場合のエラー処理
    }
    /***** 3. エラー番号指定領域 終了 *****/
}

```

そのほかの場合は、「1. 配列定義領域」、「2. ファイル名指定領域」、「3. エラー番号指定領域」のそれぞれに、次に示すコーディング例を当てはめて使用してください。

(a) 帳票セットを指定する場合

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```

// 印刷種別を「1 (PDF 形式ファイルに出力)」に指定
obj.setOutputType(1);
// 出力する PDF 形式ファイル名の指定
obj.setOutFileName("output.pdf");
//PDF 形式ファイルの暗号化指定
obj.setCrypto(true);
// 暗号化設定ファイル名の指定
obj.setCryptoFileName("crypto.txt");
// 帳票ファイル名の指定
obj.setReportFileName("sample1.fms");
// マッピングデータファイル名の指定
obj.setDataFileName("mapping1.csv");

```

3. エラー番号指定領域

5. JavaBeans を使用した帳票出力

```
if (errid==300) {  
    //KEEU300-W の場合のエラー処理  
} else if (errid==5) {  
    //KEEU005-E の場合のエラー処理  
} else if (errid==6) {  
    //KEEU006-E の場合のエラー処理  
}
```

(b) 帳票セットを指定する場合 (データベースを使用)

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
// 印刷種別を「1 (PDF 形式ファイルに出力)」に指定  
obj.setOutputType(1);  
// 出力する PDF 形式ファイル名の指定  
obj.setOutFileName("output.pdf");  
//PDF 形式ファイルの暗号化指定  
obj.setCrypto(true);  
// 暗号化設定ファイル名の指定  
obj.setCryptoFileName("crypto.txt");  
// 接続情報ファイル名の指定  
obj.setDBInfoFileName("DBInfo1.txt");  
// 帳票ファイル名の指定  
obj.setReportFileName("sample1.fms");  
// 可変記号値定義ファイル名の指定  
obj.setDataFileName("DBVar1.txt");
```

3. エラー番号指定領域

```
if (errid==300) {  
    //KEEU300-W の場合のエラー処理  
} else if (errid==5) {  
    //KEEU005-E の場合のエラー処理  
} else if (errid==53) {  
    //KEEU053-E の場合のエラー処理  
}
```

(c) 帳票セットを複数指定する場合

1. 配列定義領域

```
String fms[]=new String[3];
String map[]=new String[3];
// 帳票ファイル名を配列 fms に設定
fms[0]="sample1.fms";
fms[1]="sample2.fms";
fms[2]="sample3.fms";
// マッピングデータファイル名を配列 map に設定
map[0]="mapping1.csv";
map[1]="mapping2.csv";
map[2]="mapping3.csv";
```

2. ファイル名指定領域

```
// 印刷種別を「1 (PDF 形式ファイルに出力)」に指定
obj.setOutputType(1);
// 出力する PDF 形式ファイル名の指定
obj.setOutFileName("output.pdf");
//PDF 形式ファイルの暗号化指定
obj.setCrypto(true);
// 暗号化設定ファイル名の指定
obj.setCryptoFileName("crypto.txt");
// 複数様式情報定義ファイルの指定
obj.setMultiFormInfoDefFileName("formdef.txt");
// 帳票ファイル名の指定
obj.setMultiReportFileName(fms);
// マッピングデータファイル名の指定
obj.setMultiDataFileName(map);
```

3. エラー番号指定領域

```
if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==5) {
    //KEEU005-E の場合のエラー処理
} else if (errid==6) {
    //KEEU006-E の場合のエラー処理
}
```

(d) 帳票セット指定ファイルを指定する場合

1. 配列定義領域
必要ありません。
2. ファイル名指定領域

5. JavaBeans を使用した帳票出力

```
// 印刷種別を「1 (PDF 形式ファイルに出力)」に指定
obj.setOutputType(1);
// 出力する PDF 形式ファイル名の指定
obj.setOutputFileName("output.pdf");
//PDF 形式ファイルの暗号化指定
obj.setCrypto(true);
// 暗号化設定ファイル名の指定
obj.setCryptoFileName("crypto.txt");
// 複数様式情報定義ファイルの指定
obj.setMultiFormInfoDefFileName("formdef.txt");
// 帳票セット指定ファイル名の指定
obj.setMultiReportSetFileName("formset.txt");
```

3. エラー番号指定領域

```
if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==35) {
    //KEEU035-E の場合のエラー処理
} else if (errid==37) {
    //KEEU037-E の場合のエラー処理
}
```

(e) 帳票セット指定ファイルを指定する場合 (データベースを使用)

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
// 印刷種別を「1 (PDF 形式ファイルに出力)」に指定
obj.setOutputType(1);
// 出力する PDF 形式ファイル名の指定
obj.setOutputFileName("output.pdf");
//PDF 形式ファイルの暗号化指定
obj.setCrypto(true);
// 暗号化設定ファイル名の指定
obj.setCryptoFileName("crypto.txt");
// 複数様式情報定義ファイル名の指定
obj.setMultiFormInfoDefFileName("formdef.txt");
// 接続情報ファイル名の指定
obj.setDBInfoFileName("DBInfo1.txt");
// 帳票セット指定ファイル名の指定
obj.setMultiReportSetFileName("formset.txt");
```

3. エラー番号指定領域

```

if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==35) {
    //KEEU035-E の場合のエラー処理
} else if (errid==37) {
    //KEEU037-E の場合のエラー処理
} else if (errid==53) {
    //KEEU053-E の場合のエラー処理
}

```

5.10.4 EUR 形式ファイル出力のコーディング例

帳票を EUR 形式ファイルに出力するコーディング例を次に示します。

帳票セットを複数指定する場合（データベースを使用）

```

import JP.co.Hitachi.soft.EURPS.*;

:
try {
    EURPSManager obj=new EURPSManager();

    /***** 1. 配列定義領域 開始 *****/
    String fms[]=new String[3];
    String dbv[]=new String[3];
    //接続情報ファイル名をdbiに設定
    String dbi="DBInfo1.txt";
    //帳票ファイル名を配列fmsに設定
    fms[0]="sample1.fms";
    fms[1]="sample2.fms";
    fms[2]="sample3.fms";
    //可変記号値定義ファイル名を配列dbvに設定
    dbv[0]="DBVar1.txt";
    dbv[1]="DBVar2.txt";
    dbv[2]="DBVar3.txt";
    /***** 1. 配列定義領域 終了 *****/

    /***** 2. ファイル名指定領域 開始 *****/
    //印刷種別を「2（EUR形式ファイルに出力）」に指定
    obj.setOutputType(2);
    //出力するEUR形式ファイル名の指定
    obj.setOutFileName("output.eup");
    //接続情報ファイル名の指定
    obj.setDBInfoFileName(dbi);
    //帳票ファイル名の指定
    obj.setMultiReportFileName(fms);
    //可変記号値定義ファイル名の指定
    obj.setMultiDataFileName(dbv);
    /***** 2. ファイル名指定領域 終了 *****/
    //帳票の出力指示
    obj.printReport();

}
//エラー処理

```

5. JavaBeans を使用した帳票出力

```
catch (EURPSEException ce) {
    String erridstr;
    int errid = 0;

    if (ce.getMessage() != null && ce.getMessage().length() >= 8) {
        erridstr = ce.getMessage().substring(4, 7);
        //メッセージIDをerridに取り出す
        errid = Integer.parseInt(erridstr);
    }

    /***** 3. エラー番号指定領域 開始 *****/
    if (errid==300) {
        //KEEU300-Wの場合のエラー処理
    } else if (errid==5) {
        //KEEU005-Eの場合のエラー処理
    } else if (errid==53) {
        //KEEU053-Eの場合のエラー処理
    }
    /***** 3. エラー番号指定領域 終了 *****/
}
```

そのほかの場合は、「1. 配列定義領域」、「2. ファイル名指定領域」、「3. エラー番号指定領域」のそれぞれに、次に示すコーディング例を当てはめて使用してください。

(1) 帳票セットを指定する場合

1. 配列定義領域
必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
// 印刷種別を「2 (EUR 形式ファイルに出力)」に指定
obj.setOutputType(2);
// 出力する EUR 形式ファイル名の指定
obj.setOutFileName("output.euv");
// 帳票ファイル名の指定
obj.setReportFileName("sample1.fms");
// マッピングデータファイル名の指定
obj.setDataFileName("mapping1.csv");
```

3. エラー番号指定領域

```
if (errid==300) {
    //KEEU300-Wの場合のエラー処理
} else if (errid==5) {
    //KEEU005-Eの場合のエラー処理
} else if (errid==6) {
    //KEEU006-Eの場合のエラー処理
}
```


(2) 帳票セットを指定する場合 (データベースを使用)

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
// 印刷種別を「2 (EUR 形式ファイルに出力)」に指定
obj.setOutputType(2);
// 出力する EUR 形式ファイル名の指定
obj.setOutFileName("output.euv");
// 接続情報ファイル名の指定
obj.setDBInfoFileName("DBInfo01.txt");
// 帳票ファイル名の指定
obj.setReportFileName("sample1.fms");
// 可変記号値定義ファイル名の指定
obj.setDataFileName("DBVar1.txt");
```

3. エラー番号指定領域

```
if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==5) {
    //KEEU005-E の場合のエラー処理
} else if (errid==53) {
    //KEEU053-E の場合のエラー処理
}
```

(3) 帳票セットを複数指定する場合

1. 配列定義領域

```
String fms[]=new String[3];
String map[]=new String[3];
// 帳票ファイル名を配列 fms に設定
fms[0]="sample1.fms";
fms[1]="sample2.fms";
fms[2]="sample3.fms";
// マッピングデータファイル名を配列 map に設定
map[0]="mapping1.csv";
map[1]="mapping2.csv";
map[2]="mapping3.csv";
```

2. ファイル名指定領域

5. JavaBeans を使用した帳票出力

```
// 印刷種別を「2 (EUR 形式ファイルに出力)」に指定
obj.setOutputType(2);
// 出力する EUR 形式ファイル名の指定
obj.setOutputFileName("output.eup");
// 帳票ファイル名の指定
obj.setMultiReportFileName(fms);
// マッピングデータファイル名の指定
obj.setMultiDataFileName(map);
```

3. エラー番号指定領域

```
if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==5) {
    //KEEU005-E の場合のエラー処理
} else if (errid==6) {
    //KEEU006-E の場合のエラー処理
}
```

(4) 帳票セット指定ファイルを指定する場合

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
// 印刷種別を「2 (EUR 形式ファイルに出力)」に指定
obj.setOutputType(2);
// 出力する EUR 形式ファイル名の指定
obj.setOutputFileName("output.eup");
// 複数様式情報定義ファイル名の指定
obj.setMultiFormInfoDefFileName("formdef.txt");
// 帳票セット指定ファイル名の指定
obj.setMultiReportSetFileName("formset.txt");
```

3. エラー番号指定領域

```
if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==35) {
    //KEEU035-E の場合のエラー処理
} else if (errid==37) {
    //KEEU037-E の場合のエラー処理
}
```

(5) 帳票セット指定ファイルを指定する場合 (データベースを使用)

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
// 印刷種別を「2 (EUR 形式ファイルに出力)」に指定
obj.setOutputType(2);
// 出力する EUR 形式ファイル名の指定
obj.setOutFileName("output.eup");
// 複数様式情報定義ファイル名の指定
obj.setMultiFormInfoDefFileName("formdef.txt");
// 接続情報ファイル名の指定
obj.setDBInfoFileName("DBInfol.txt");
// 帳票セット指定ファイル名の指定
obj.setMultiReportSetFileName("formset.txt");
```

3. エラー番号指定領域

```
if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==35) {
    //KEEU035-E の場合のエラー処理
} else if (errid==37) {
    //KEEU037-E の場合のエラー処理
} else if (errid==53) {
    //KEEU053-E の場合のエラー処理
}
```

5.10.5 CSV 形式ファイル出力のコーディング例

帳票を CSV 形式ファイルに出力するコーディング例を次に示します。

帳票セットを複数指定する場合 (データベースを使用)

```
import JP.co.Hitachi.soft.EURPS.*;

:
try {
    EURPSManager obj=new EURPSManager();

    /***** 1. 配列定義領域 開始 *****/
    String fms[]=new String[3];
    String dbv[]=new String[3];
    //接続情報ファイル名をdbiに設定
    String dbi="DBInfol.txt";
    //帳票ファイル名を配列fmsに設定
    fms[0]="sample1.fms";
    fms[1]="sample2.fms";
    fms[2]="sample3.fms";
    //可変記号値定義ファイル名を配列dbvに設定
    dbv[0]="DBVar1.txt";
```

5. JavaBeans を使用した帳票出力

```
        dbv[1]="DBVar2.txt";
        dbv[2]="DBVar3.txt";
/***** 1. 配列定義領域 終了 *****/

/***** 2. ファイル名指定領域 開始 *****/
//印刷種別を「3 (CSV形式ファイルに出力)」に指定
obj.setOutputType(3);
//出力するCSV形式ファイル名の指定
obj.setOutputFileName("output.csv");
//接続情報ファイル名の指定
obj.setDBInfoFileName(dbi);
//帳票ファイル名の指定
obj.setMultiReportFileName(fms);
//可変記号値定義ファイル名の指定
obj.setMultiDataFileName(dbv);
/***** 2. ファイル名指定領域 終了 *****/
//帳票の出力指示
obj.printReport();

}
//エラー処理
catch (EURPSEException ce) {
    String erridstr;
    int errid = 0;

    if (ce.getMessage() != null && ce.getMessage().length() >= 8) {
        erridstr = ce.getMessage().substring(4, 7);
        //メッセージIDをerridに取り出す
        errid = Integer.parseInt(erridstr);
    }

/***** 3. エラー番号指定領域 開始 *****/
    if (errid==300) {
        //KEEU300-Wの場合のエラー処理
    } else if (errid==5) {
        //KEEU005-Eの場合のエラー処理
    } else if (errid==53) {
        //KEEU053-Eの場合のエラー処理
    }
/***** 3. エラー番号指定領域 終了 *****/
}
```

そのほかの場合は、「1. 配列定義領域」、「2. ファイル名指定領域」、「3. エラー番号指定領域」のそれぞれに、次に示すコーディング例を当てはめて使用してください。

(1) 帳票セットを指定する場合

1. 配列定義領域
必要ありません。
2. ファイル名指定領域

```
// 印刷種別を「3 (CSV 形式ファイルに出力)」に指定
obj.setOutputType(3);
// 出力する CSV 形式ファイル名の指定
obj.setOutFileName("output.csv");
// 帳票ファイル名の指定
obj.setReportFileName("sample1.fms");
// マッピングデータファイル名の指定
obj.setDataFileName("mapping1.csv");
```

3. エラー番号指定領域

```
if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==5) {
    //KEEU005-E の場合のエラー処理
} else if (errid==6) {
    //KEEU006-E の場合のエラー処理
}
```

(2) 帳票セットを指定する場合 (データベースを使用)

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
// 印刷種別を「3 (CSV 形式ファイルに出力)」に指定
obj.setOutputType(3);
// 出力する CSV 形式ファイル名の指定
obj.setOutFileName("output.csv");
// 接続情報ファイル名の指定
obj.setDBInfoFileName("DBInfo1.txt");
// 帳票ファイル名の指定
obj.setReportFileName("sample1.fms");
// 可変記号値定義ファイル名の指定
obj.setDataFileName("DBVar1.txt");
```

3. エラー番号指定領域

```
if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==5) {
    //KEEU005-E の場合のエラー処理
} else if (errid==53) {
    //KEEU053-E の場合のエラー処理
}
```

(3) 帳票セットを複数指定する場合

1. 配列定義領域

```
String fms[]=new String[3];
String map[]=new String[3];
// 帳票ファイル名を配列 fms に設定
fms[0]="sample1.fms";
fms[1]="sample2.fms";
fms[2]="sample3.fms";
// マッピングデータファイル名を配列 map に設定
map[0]="mapping1.csv";
map[1]="mapping2.csv";
map[2]="mapping3.csv";
```

2. ファイル名指定領域

```
// 印刷種別を「3 (CSV 形式ファイルに出力)」に指定
obj.setOutputType(3);
// 出力する CSV 形式ファイル名の指定
obj.setOutFileName("output.csv");
// 帳票ファイル名の指定
obj.setMultiReportFileName(fms);
// マッピングデータファイル名の指定
obj.setMultiDataFileName(map);
```

3. エラー番号指定領域

```
if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==5) {
    //KEEU005-E の場合のエラー処理
} else if (errid==6) {
    //KEEU006-E の場合のエラー処理
}
```

(4) 帳票セット指定ファイルを指定する場合

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
// 印刷種別を「3 (CSV 形式ファイルに出力)」に指定
obj.setOutputType(3);
// 出力する CSV 形式ファイル名の指定
obj.setOutFileName("output.csv");
// 複数様式情報定義ファイル名の指定
obj.setMultiFormInfoDefFileName("formdef.txt");
// 帳票セット指定ファイル名の指定
obj.setMultiReportSetFileName("formset.txt");
```

3. エラー番号指定領域

```
if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==35) {
    //KEEU035-E の場合のエラー処理
} else if (errid==37) {
    //KEEU037-E の場合のエラー処理
}
```

(5) 帳票セット指定ファイルを指定する場合 (データベースを使用)

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
// 印刷種別を「3 (CSV 形式ファイルに出力)」に指定
obj.setOutputType(3);
// 出力する CSV 形式ファイル名の指定
obj.setOutFileName("output.csv");
// 複数様式情報定義ファイル名の指定
obj.setMultiFormInfoDefFileName("formdef.txt");
// 接続情報ファイル名の指定
obj.setDBInfoFileName("DBInfo1.txt");
// 帳票セット指定ファイル名の指定
obj.setMultiReportSetFileName("formset.txt");
```

3. エラー番号指定領域

```
if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==35) {
    //KEEU035-E の場合のエラー処理
} else if (errid==37) {
    //KEEU037-E の場合のエラー処理
} else if (errid==53) {
    //KEEU053-E の場合のエラー処理
}
```

5.10.6 Excel 形式ファイル出力のコーディング例

帳票を Excel 形式ファイルに出力するコーディング例を次に示します。

帳票セットを指定する場合（データベースを使用）

```
import JP.co.Hitachi.soft.EURPS.*;

:
try {
    EURPSManager obj=new EURPSManager();

    /***** 2. ファイル名指定領域 開始 *****/
    //印刷種別を「4（Excel形式ファイルに出力）」に指定
    obj.setOutputType(4);
    //出力するExcel形式ファイル名の指定
    obj.setOutFileName("output.xlsx");
    //接続情報ファイル名の指定
    obj.setDBInfoFileName("DBInfo1.txt");
    //帳票ファイル名の指定
    obj.setReportFileName("sample1.fms");
    //可変記号値定義ファイル名の指定
    obj.setDataFileName("DBVar1.txt");
    /***** 2. ファイル名指定領域 終了 *****/
    //帳票の出力指示
    obj.printReport();

}
//エラー処理
catch (EURPSException ce) {
    String erridstr;
    int errid = 0;

    if (ce.getMessage() != null && ce.getMessage().length() >= 8) {
        erridstr = ce.getMessage().substring(4, 7);
        //メッセージIDをerridに取り出す
        errid = Integer.parseInt(erridstr);
    }

    /***** 3. エラー番号指定領域 開始 *****/
    if (errid==300) {
        //KEEU300-Wの場合のエラー処理
    } else if (errid==5) {
        //KEEU005-Eの場合のエラー処理
    } else if (errid==53) {
        //KEEU053-Eの場合のエラー処理
    }
    /***** 3. エラー番号指定領域 終了 *****/
}
```

帳票セットを指定する場合は、「2. ファイル名指定領域」、「3. エラー番号指定領域」のそれぞれに、次に示すコーディング例を当てはめて使用してください。

(1) 帳票セットを指定する場合

1. 配列定義領域

必要ありません。

2. ファイル名指定領域

```
// 印刷種別を「4 (Excel 形式ファイルに出力)」に指定
obj.setOutputType(4);
// 出力する Excel 形式ファイル名の指定
obj.setOutFileName("output.xlsx");
// 帳票ファイル名の指定
obj.setReportFileName("sample1.fms");
// マッピングデータファイル名の指定
obj.setDataFileName("mapping1.csv");
```

3. エラー番号指定領域

```
if (errid==300) {
    //KEEU300-W の場合のエラー処理
} else if (errid==5) {
    //KEEU005-E の場合のエラー処理
} else if (errid==6) {
    //KEEU006-E の場合のエラー処理
}
```


6

ファイルへの出力

この章では、EUR サーバ帳票出力機能を使って帳票をファイルへ出力する場合の、出力形式ごとの概要、制限事項、注意事項などを説明します。

6.1 Excel 形式ファイルへの出力

6.1 Excel 形式ファイルへの出力

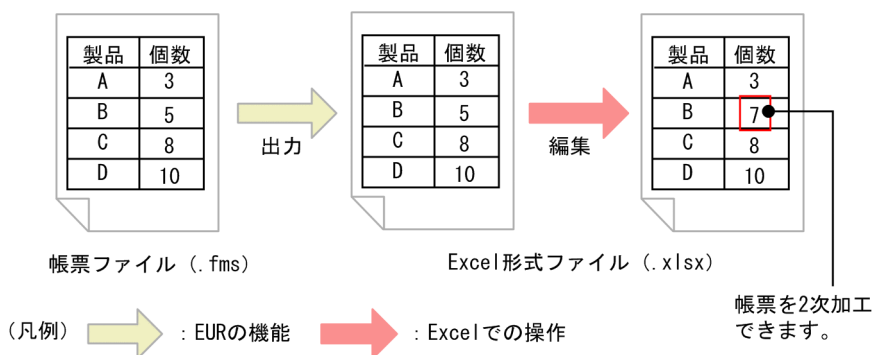
ここでは、Excel 形式ファイル出力の概要、Excel 形式ファイル (*.xlsx) へ出力される帳票定義情報、および Excel 形式ファイルだけに出力される情報について説明します。

6.1.1 Excel 形式ファイル出力の概要

EUR サーバ帳票出力機能では、EUR 帳票作成機能で設計した帳票ファイル (*.fms) を Excel 形式ファイル (*.xlsx) へ出力できます。

帳票ファイルを Excel 形式ファイルに出力すると、帳票の内容を編集したり、コメントやグラフを挿入したりするなど、Excel を使って帳票ファイルを 2 次加工できます。

帳票ファイルから Excel 形式ファイルへの出力の概要を次に示します。



帳票ファイルを Excel 形式ファイルへ出力した場合、Excel 形式ファイルのセルの高さおよび幅は、どちらも 16 ピクセルになります。

帳票ファイル上の文字や線などのアイテムは、Excel のセル区切りに合わせて配置されます。アイテムの座標値は、EUR 帳票作成機能で設計した帳票の座標に最も近いセル区切りの位置に補正されます。Excel 形式ファイル上でのアイテムの座標は、セル A1 の左上のセル区切りを原点とします。

補正の結果、EUR 帳票作成機能で設計した帳票を Excel 形式ファイルへ出力すると、アイテムの配置が異なる場合があります。アイテムの配置の詳細については、「6.1.1(1) 文字アイテムの出力規則」、「6.1.1(2) 線アイテムの出力規則」、および「6.1.1(3) 図形アイテムの出力規則」を参照してください。

なお、Excel 形式ファイルに出力されなかったアイテムについては、メッセージ (KEEU320-W) を出力し、出力されなかったアイテムの情報を EPS-XLSX ログに出力します。EPS-XLSX ログに出力される項目の詳細については、「8.7 EPS-XLSX ログ」を参照してください。

また、Excel 形式ファイルへ出力した場合、次のような注意事項があります。

- EUR 帳票作成機能で表示した場合と比べて帳票の見た目が異なる
- 出力できない帳票がある
- 使用できない機能がある

注意事項の詳細については、「11.2.10 Excel 形式ファイルを出力するときの注意」を参照してください。

(1) 文字アイテムの出力規則

Excel 形式ファイルへ出力した場合、文字アイテムの出力は次の規則に従います。

フィールドの種別とアイテムの種類の変換規則

セルへの配置規則

セルの結合規則

重なっている文字アイテムの出力規則

それぞれの規則について説明します。

(a) フィールドの種別とアイテムの種類の変換規則

Excel 形式ファイルに出力する場合、EUR 帳票作成機能で定義したフィールドの種別およびアイテムの種類と Excel での書式の表示形式が異なることがあります。

EUR 帳票作成機能で定義した内容と Excel での書式の表示形式の対応を次に示します。

表 6-1 EUR 帳票作成機能で定義した内容と Excel での書式の表示形式の対応

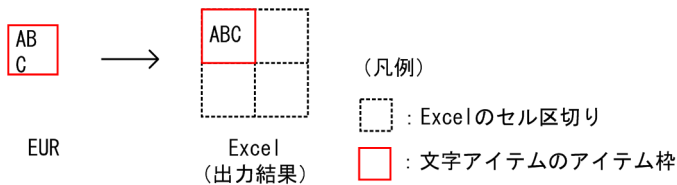
EUR 帳票作成機能で定義した内容		Excel での書式の表示形式
文字アイテムの フィールドの種別	文字列	文字列
	数値	数値
	日付	文字列
	和暦	文字列
	バーコード	-
アイテムの種類	印刷日付・印刷時刻・ページ番号	文字列

(凡例)

- : 出力しません。

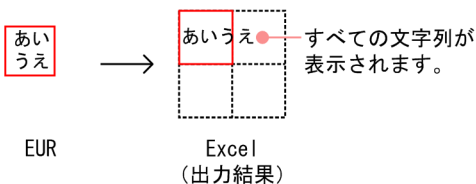
なお、帳票設計時、文字アイテムの枠の大きさまたは改行コードにより、文字アイテムが複数行にわたる場合があります。この場合、Excel 形式ファイルに出力すると文字アイテムは 1 行で出力されます。

6. ファイルへの出力

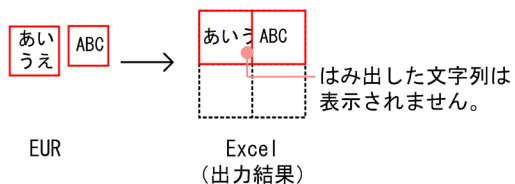


文字列が Excel のセルからはみ出した場合、隣のセルにアイテムが配置されていないときは、すべての文字列が表示されます。ほかのアイテムが配置されているときは、はみ出した文字列は表示されません。

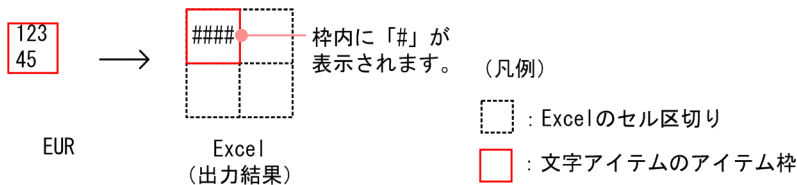
●隣のセルにアイテムが配置されていないとき



●隣のセルにアイテムが配置されているとき



また、数値が Excel のセルからはみ出した場合は、枠内に「#」が表示されます。



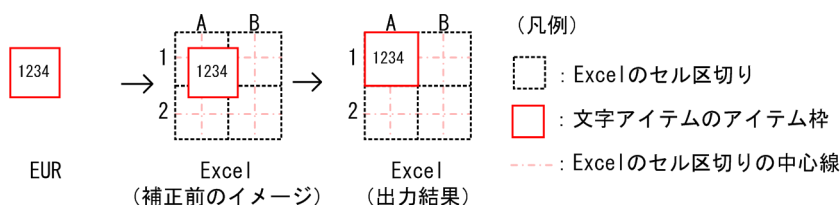
Excel での書式の表示形式は、Excel の [セルの書式設定] ダイアログの [表示形式] タブで確認できます。[セルの書式設定] ダイアログは、Excel のセルを右クリックして表示されるメニューから、[セルの書式設定] を選択して表示します。

(b) セルへの配置規則

EUR 帳票作成機能で定義した文字アイテムの四隅の座標は、それぞれいちばん近いセル区切りの座標に合わせて出力されます。文字アイテムの高さおよび幅は、アイテムの四隅が、どのセル区切りに合わせて出力されるかによって決まります。

(例 1)

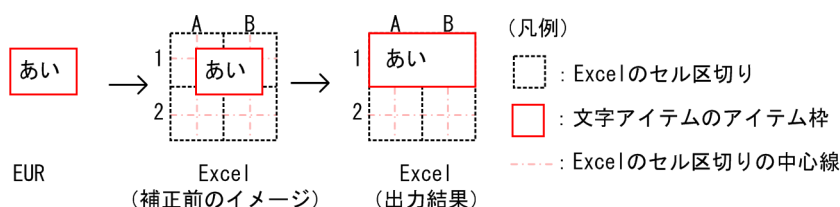
文字アイテムの左上、左下、右上、右下が、それぞれ A1 の左上、左下、右上、右下のセル区切りに合わせて出力されます。この文字アイテムは文字のフォントサイズおよびアイテム枠の大きさが小さく、Excel のセル一つ分に収まるため、文字アイテムは A1 だけに配置されます。



なお、文字アイテムの四隅の座標値がちょうどセルの中心に位置する場合は、座標値の小さい方のセル区切り位置に合わせて出力されます。

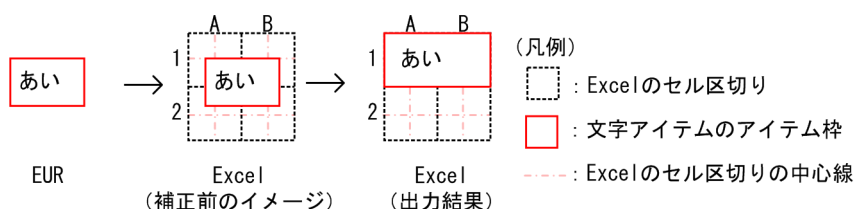
(例2)

次の図は文字アイテムの左端がセルの中心に位置しています。この場合、文字アイテムの左上はA1の左上のセル区切りに、文字アイテムの左下はA1の左下のセル区切りに合わせて出力されます。文字アイテムの右上、右下はそれぞれB1の右上、右下のセル区切りに合わせて出力されます。この文字アイテムは文字のフォントサイズおよびアイテム枠の大きさが大きく、A1とB1の二つのセルにわたるため、セルが結合されます。その結果、文字アイテムはA1とB1の結合セルに配置されます。セルの結合の詳細については、「6.1.1(1)(c) セルの結合規則」を参照してください。



(例3)

次の図は文字アイテムの上端がセルの中心に位置しています。この場合、文字アイテムの左上はA1の左上のセル区切りに、文字アイテムの右上はB1の右上のセル区切りに合わせて出力されます。文字アイテムの左下、右下はそれぞれA1の左下、B1の右下のセル区切りに合わせて出力されます。その結果、文字アイテムはA1とB1の結合セルに配置されます。

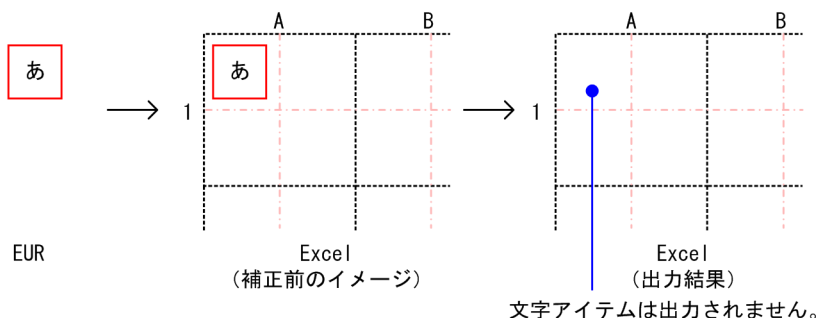


また、文字アイテムが小さく、四隅のうちどれかの角が同じ場所に出力される場合、文字アイテムは出力されません。

(例4)

6. ファイルへの出力

文字アイテムの四隅の座標すべてがセルの左上のセル区切りに合わせて出力されるため、文字アイテムは出力されません。



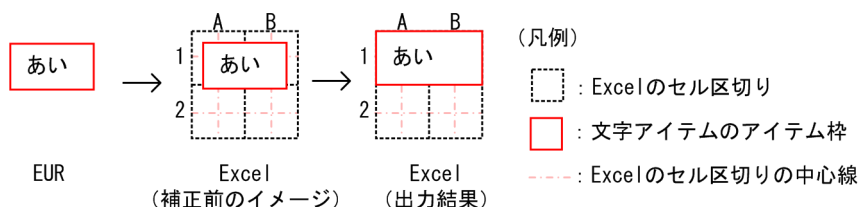
(凡例) : Excelのセル区切り : 文字アイテムのアイテム枠
---- : Excelのセル区切りの中心線

(c) セルの結合規則

文字アイテムの四隅の位置をそれぞれいちばん近いセル区切りに合わせた場合、アイテムが複数のセルにわたるときは、セルが結合されます。

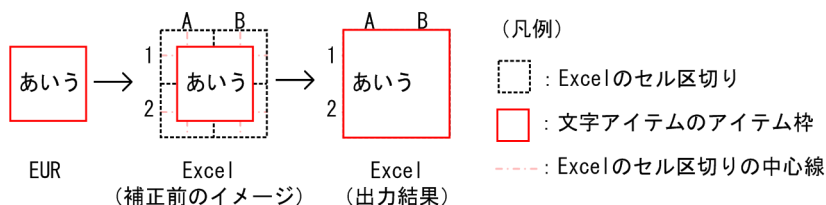
(例 1)

文字アイテムの左上、左下、右上、右下がそれぞれ A1 の左上、A1 の左下、B1 の右上、B1 の右下のセル区切りに合わせて出力されます。その結果、文字アイテムは A1 と B1 の二つのセルにわたるため、セルが結合されます。



(例 2)

文字アイテムの左上、左下、右上、右下がそれぞれ A1 の左上、A2 の左下、B1 の右上、B2 の右下のセル区切りに合わせて出力されます。その結果、文字アイテムは A1、A2、B1 および B2 の四つのセルにわたるため、セルが結合されます。

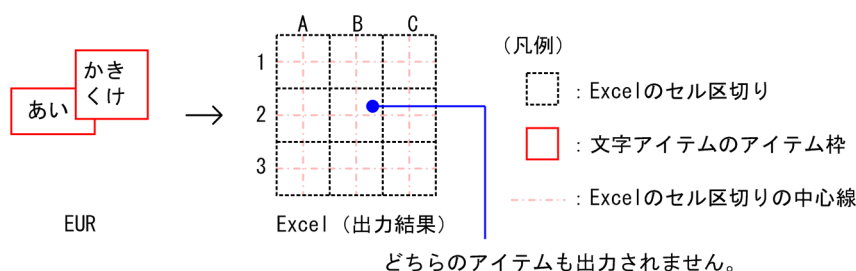


(d) 重なっている文字アイテムの出力規則

EUR 帳票作成機能で帳票を設計した時に重なっている文字アイテムは、すべて出力されません。

(例)

次の図で文字アイテム「あい」と「かきくけ」は重なっているため、どちらも出力されません。



ほかのアイテムと重なっていないように見える文字アイテムが出力されない場合

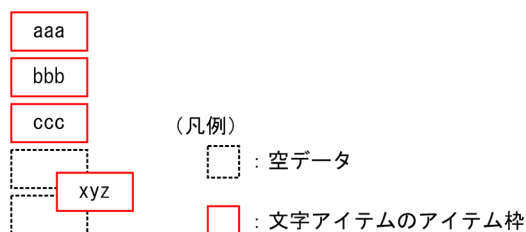
帳票設計時にほかのアイテムと重なっていないように見える文字アイテムが、Excel 形式ファイルに出力されないことがあります。これは、文字アイテムが空データ（値のないデータ）の配置された繰り返し領域と重なっているためです。空データはアイテム枠もなく、帳票に表示されません。

空データは繰り返しを設定した時に帳票に配置されます。

次に示す図のように、空データが配置された繰り返し領域に別の文字アイテムが重なって配置されることがあります。

「aaa」、「bbb」、および「ccc」は繰り返し設定されたマッピングデータアイテム、「xyz」は任意の文字アイテムを示します。

この場合、文字アイテム「xyz」は Excel 形式ファイルに出力されません。



ただし、集計行のアイテムと空データの配置された繰り返し領域が重なっている場合、集計行のアイテムは Excel 形式ファイルに出力されます。

空データは、繰り返し回数や下限 / 右限の指定の有無に関係なく配置されることがあります。空データが配置される場合を次に示します。

マッピングデータの個数が帳票ファイルの貼付域の限界に満たない場合

繰り返し回数を指定しない場合、マッピングデータが帳票ファイルの貼付域の限界に満たない回数でも、繰り返し領域は貼付域の限界まで設定されます。

このため、データがない領域には空データが配置されます。

6. ファイルへの出力

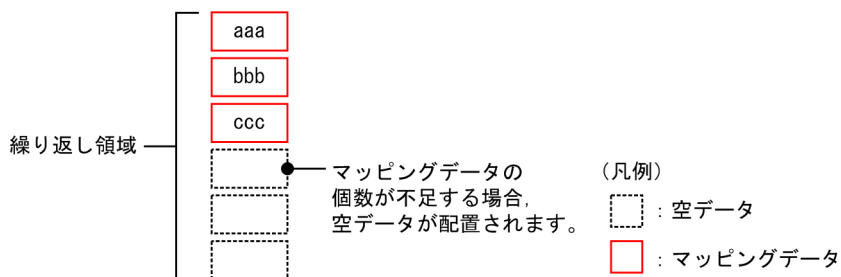
また、データに欠損値（空白）が含まれていて、帳票には表示されなくても、繰り返し領域として設定されます。

マッピングデータの個数が繰り返し個数や繰り返しの下限 / 右限に満たない場合
繰り返し個数を指定した場合、マッピングデータの個数が指定した個数より少なくても、繰り返し領域は指定した個数分設定されます。

また、繰り返しの下限 / 右限を設定した場合は、マッピングデータが設定した繰り返しの下限 / 右限に満たない個数でも、繰り返し領域は設定された位置まで設定されます。

このため、データがない領域には空データが配置されます。

空データが配置された例を次に示します。



(2) 線アイテムの出力規則

Excel 形式ファイルへ出力した場合、線アイテムの出力は次の規則に従います。

線種および線の傾きの出力規則

線幅の変換規則

セルへの配置規則

複数の線アイテムの同一セルへの配置規則

結合セルに重なる線アイテムの配置規則

それぞれの規則について説明します。

(a) 線種および線の傾きの出力規則

Excel 形式ファイルには、実線、点線、破線、一点鎖線、二点鎖線、点線（丸）、点線（角）が出力できます。ただし、点線、点線（丸）、および点線（角）はすべて同じ線種に変換されます。出力結果の詳細については、「6.1.2(3) 線」を参照してください。

水平線または垂直線だけが Excel 形式ファイルに出力できます。斜線は出力できません。

(b) 線幅の変換規則

Excel のセル罫線は、線幅を数値で指定できません。

実線は、EUR 帳票作成機能で定義した線幅によって 3 種類の線幅を持つ実線のどれかに変換されます。

0.1 ~ 1.4 ポイントの実線

Excel のセル罫線の中でいちばん細い実線に変換されます。

1.5 ~ 2.4 ポイントの実線

Excel のセル罫線の中で 2 番目に細い実線に変換されます。

2.5 ~ 10.0 ポイントの実線

Excel のセル罫線の中でいちばん太い実線に変換されます。

実線以外の線種は、すべて Excel でサポートされる線種のセル罫線として出力されます。実線以外の Excel の線種はそれぞれ 1 種類の線幅しか持たないため、EUR で線幅を指定してもすべて同じ線幅で出力されます。

出力結果の詳細については、「6.1.2(3) 線」を参照してください。

(c) セルへの配置規則

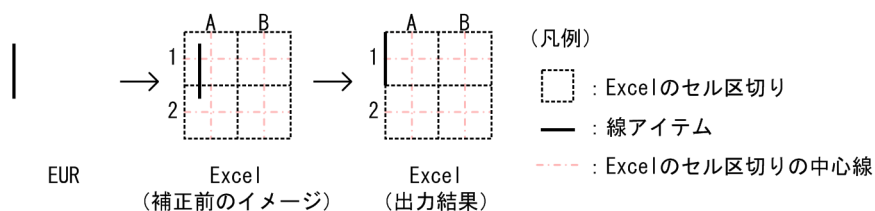
EUR 帳票作成機能で定義した線アイテムは Excel 形式ファイルのセル罫線として出力されます。線アイテムの位置および長さは、アイテムの始点と終点が Excel のセル区切りのどこに出力されるかによって決まります。

線アイテムの始点と終点は、帳票ファイルでの座標値にいちばん近いセル区切りに合わせて出力されます。

その結果、線アイテムの長さが帳票設計時と異なる場合があります。線アイテムの長さは、始点が配置されたセル区切りから終点が配置されたセル区切りまでの長さになります。

(例 1)

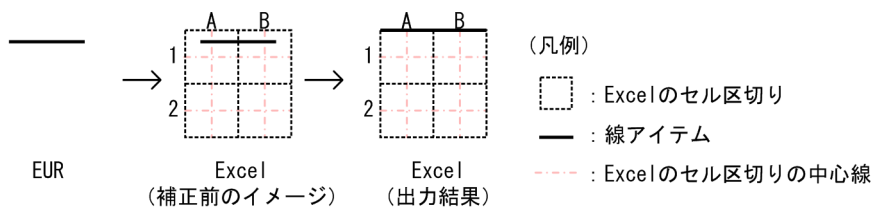
線アイテムの始点の座標は A1 の左上のセル区切りに、終点の座標は A1 の左下のセル区切りに合わせて出力されます。その結果、線アイテムは A1 の左罫線として配置され、長さは Excel のセル一つ分になります。



(例 2)

線アイテムの始点の座標は A1 の左上のセル区切りに、終点の座標は B1 の右上のセル区切りに合わせて出力されます。その結果、線アイテムは A1 と B1 の上罫線として配置され、長さは Excel のセル二つ分になります。

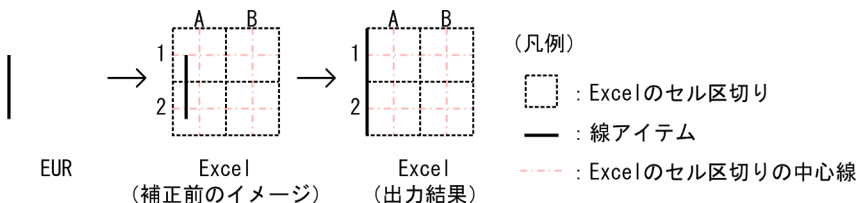
6. ファイルへの出力



なお、線アイテムの始点または終点の座標値がちょうどセルの中心に位置する場合は、座標値の小さい方のセル区切りに合わせて出力されます。

(例3)

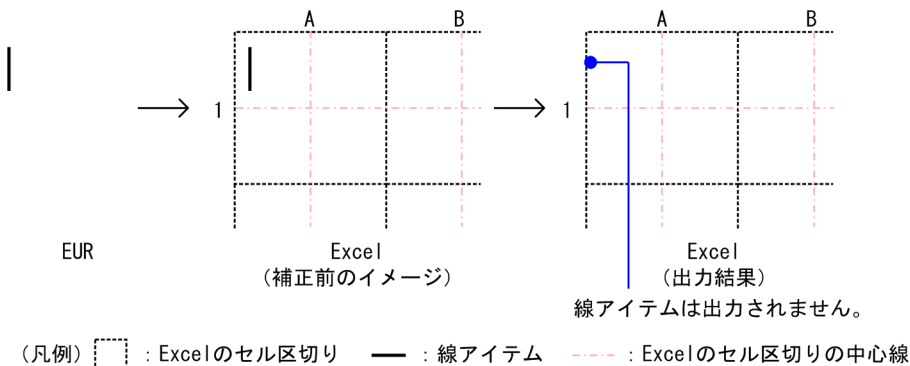
次の図は線アイテムの始点がセルの中心に位置しています。この場合、線アイテムの始点の座標はA1の左上のセル区切りに、終点の座標はA2の左下のセル区切りに合わせて出力されます。その結果、線アイテムはA1とA2の左罫線として配置され、長さはExcelのセル二つ分になります。



なお、線アイテムの始点と終点の座標が同じ座標に配置される場合、線アイテムは出力されません。

(例4)

線アイテムの始点と終点の座標は、どちらも左上のセル区切りに合わせて出力されます。線アイテムの始点と終点の座標が重なってしまうため、この線アイテムは出力されません。

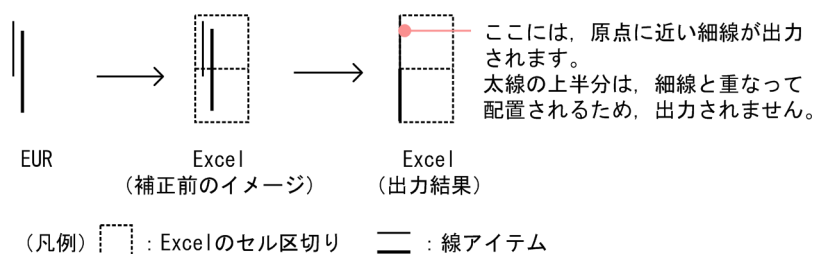


(d) 複数の線アイテムの同一セルへの配置規則

Excel 形式ファイル出力時に、線アイテムの出力位置が補正された結果、複数の線アイテムが同じセルの同じ位置に配置されることがあります。しかし、セル罫線には 1 種類の情報しか設定できないため、同じセル罫線には、線アイテムを一つだけ出力します。

線アイテム同士が同じセル罫線に配置された場合、線の開始位置座標が最も左上にある（原点に近い）線アイテムが出力されます。開始位置座標が原点から同じ距離にある場合は、座標値が最も左にある線アイテムを出力します。

線アイテムの一部だけがほかの線アイテムと重なって配置される場合、線アイテムの重なっていない部分は優先順位と関係なく出力されます。

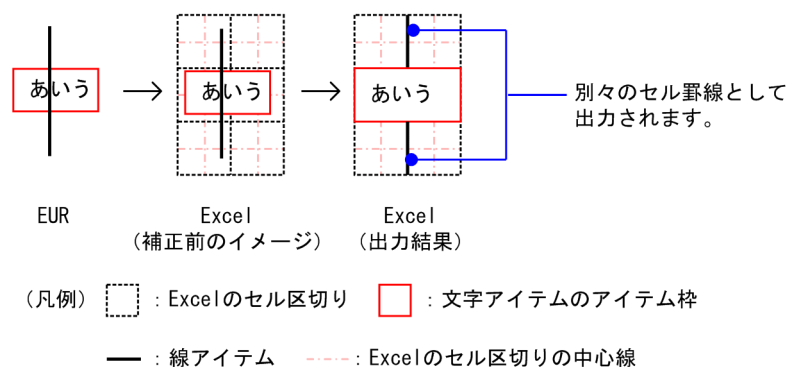


(e) 結合セルに重なる線アイテムの配置規則

文字アイテムの大きさによって、セルが結合される場合があります。線アイテムの出力位置を補正した結果、出力位置が結合セルの内部となった場合は、線アイテムの結合セルと重なる部分は出力されません。結合セルと重ならない部分は別々のセル罫線として出力されます。

結合セルと線アイテムが重なった場合の出力結果を次に示します。

図 6-1 結合セルと線アイテムが重なった場合の出力結果



(3) 図形アイテムの出力規則

Excel 形式ファイルへ出力した場合、図形アイテムの出力は次の規則に従います。

6. ファイルへの出力

図形アイテムの種類別の出力規則

網掛けアイテムの出力規則

複数の網掛けアイテムの同一セルへの配置規則

結合セルの塗りつぶしパターンの出力規則

それぞれの規則について説明します。

(a) 図形アイテムの種類別の出力規則

EUR 帳票作成機能で定義できる図形アイテムは、網掛けアイテム、角丸四角アイテム、円 / 楕円アイテム、および多角形アイテムの 4 種類です。

図形アイテムの種類別の Excel 形式ファイルへの出力結果を次に示します。

表 6-2 図形アイテムの種類別の Excel 形式ファイルへの出力結果

図形アイテムの種類	出力結果
網掛けアイテム	
角丸四角アイテム	
円 / 楕円アイテム	×
多角形アイテム	×

(凡例)

：出力できます。

×：出力できません。

注

角丸め情報は出力されません。網掛けアイテムと同様に出力されます。

角丸四角アイテムは網掛けアイテムと同じ出力規則に従います。

(b) 網掛けアイテムの出力規則

網掛けアイテムは Excel 形式ファイルのセル区切りに合わせて出力されます。

網掛けアイテムの四隅の座標は、それぞれいちばん近いセル区切りの座標に合わせて出力されます。四隅の座標値がちょうどセルの中心に位置する場合は、座標値の小さい方のセル区切り位置に合わせて出力されます。

網掛けアイテムの領域が複数のセルにわたっても、セルは結合されません。

EUR 帳票作成機能で設定した網掛けのパターンは、Excel のセルの塗りつぶしパターンとして出力されます。EUR での網掛けパターンと Excel のセルの塗りつぶしパターンの対応については、「6.1.2(4)(a) 出力結果の詳細」を参照してください。

枠線については、線アイテムと同様に Excel 形式ファイルのセル罫線として出力されます。線アイテムの出力方法については、「6.1.1(2) 線アイテムの出力規則」を参照して

ください。

(c) 複数の網掛けアイテムの同一セルへの配置規則

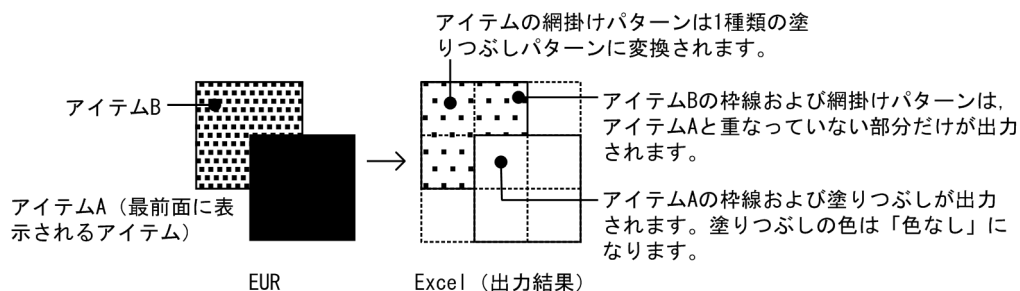
Excel 形式ファイル出力時に、網掛けアイテムの出力位置が補正された結果、同じセルに複数のアイテムが配置される場合があります。この場合、EUR での帳票設計時に最前面に表示されるアイテムの枠線および網掛けパターンが出力され、背面に表示されるアイテムの枠線および網掛けパターンは出力されません。

同じセルに配置された網掛けアイテムのうち、最前面に表示されるアイテム以外の枠線および網掛けパターンは、重なっていない部分だけが出力されます。

また、網掛けアイテムの網掛けパターンは、Excel 形式ファイル出力時に 1 種類の塗りつぶしパターンに変換されます。また、帳票設計時に塗りつぶしを選択した場合は、Excel 形式ファイル出力時に塗りつぶしの色が「色なし」になります。

EUR での網掛けパターンと Excel のセルの塗りつぶしパターンの対応については、「6.1.2(4)(a) 出力結果の詳細」を参照してください。

図 6-2 同じセルに二つの網掛けアイテムが配置された場合の例



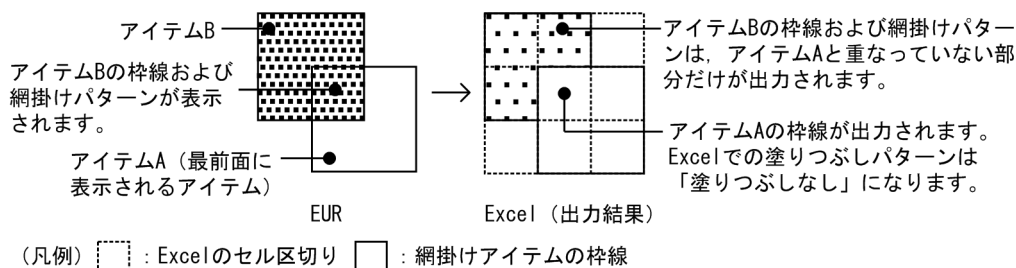
(凡例) : Excelのセル区切り : 網掛けアイテムの枠線

最前面に表示される網掛けアイテムの網掛けのパターンが透明（塗りつぶしなし）の場合、帳票設計時、アイテムが重なる部分には背面に表示される網掛けアイテムの枠線や網掛けパターンが表示されます。しかし、Excel 形式ファイルに出力すると、アイテムの重なっている部分には最前面に表示されるアイテムの枠線が出力され、背面に表示される網掛けアイテムの枠線や網掛けパターンは表示されません。

網掛けアイテムの網掛けのパターンが透明（塗りつぶしなし）の場合、Excel での塗りつぶしパターンは「塗りつぶしなし」になります。

6. ファイルへの出力

図 6-3 最前面に表示されるアイテムの網掛けのパターンが透明（塗りつぶしなし）の場合

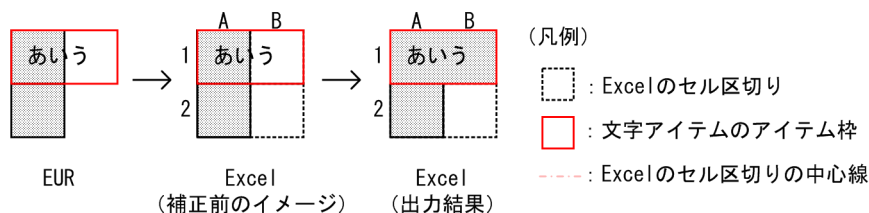


(d) 結合セルの塗りつぶしパターンの出力規則

Excel 形式ファイル出力時に、網掛けアイテムの出力位置が補正された結果、文字アイテムが出力された結合セルに、網掛けアイテムが出力される場合があります。この場合、結合セルの塗りつぶしパターンは、網掛けアイテムが出力されるセルの位置によって、次のように出力されます。

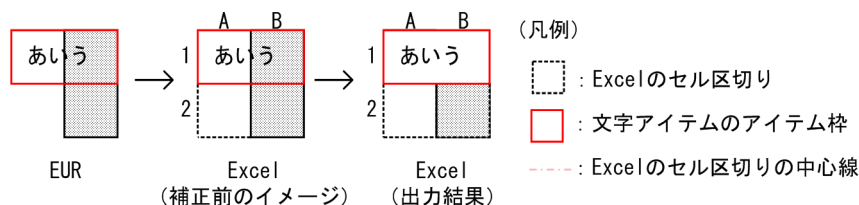
結合セル中の最も左上のセルと重なっている場合

結合されたセルの塗りつぶしパターンは、出力する網掛けアイテムの塗りつぶしパターンとなります。



結合セル中の最も左上のセルと重なっていない場合

結合されたセルの塗りつぶしパターンは変換されません。



6.1.2 Excel 形式ファイルへ出力される情報

ここでは、Excel 形式ファイルへ出力される帳票定義情報について説明します。

(1) 用紙

情報の種類		帳票ファイルに定義された内容		出力結果	
用紙サイズ		A3			
		A4			
		A5			
		レター			
		リーガル			
		B4		A4	
		B5			
		ハガキ			
		10 × 14 インチシート			
		11 × 17 インチシート			
		15 × 11 インチシート			
		12 × 8.5 インチシート			
		ユーザ定義	幅（ 1/10mm 単位 ）		
			長さ（ 1/10mm 単位 ）		
印刷の向き		縦			
		横			
用紙の余白サイズ	上余白	数値（ 0mm 以上 ）		1 cm	
	下余白				
	右余白				
	左余白				

(凡例)

: 定義内容のとおりに反映されます。

注

Excel 画面上での単位の表記は、Windows の設定によって異なることがあります。単位の表記の詳細については、「11.2.10 Excel 形式ファイルを出力するときの注意」を参照してください。

用紙の情報の出力結果は、Excel 画面の次に示す個所で確認できます。

情報の種類	Excel 画面の表示箇所
用紙サイズ	[ページレイアウト] - [サイズ]
印刷の向き	[ページレイアウト] - [印刷の向き]
用紙の余白サイズ	[ページレイアウト] - [余白]

(2) 文字

固定文字列

機能			出力結果	参照先
配置	横位置 / 縦位置			6.1.2(2)(a)
フォント	フォント名	M S 明朝		6.1.2(2)(d)
		M S 明朝以外		
	スタイル	標準		
		太字		
		斜体		
		太字斜体		
	サイズ	3 ~ 256pt		
	色	フルカラー		
	フォント縦横比補正を行う		×	
文字配置	バージョン 2 以前の文字配置を行う		×	6.1.2(2)(d)
	文字の方向	上向き左から右		
		上向き上から下		
		左向き下から上		
		右向き上から下		
		左向き左から右		
	文字間隔	-10.0 ~ 100.0pt	×	
	行間隔	-10.0 ~ 100.0pt	×	
	ワードラップを行う			6.1.2(2)(c)
CPI 指定		×		
出力ページ				6.1.2(2)(a)
条件付きアイテム表示 / 非表示切り替え				6.1.2(2)(a)

(凡例)

: 出力されます。

: 加工して出力されます。

× : 出力されません。

マッピングデータ文字列

機能		出力結果	参照先
表示形式	前付加文字列		6.1.2(2)(c) 表 6-4
	後付加文字列		
	任意書式指定		
配置			6.1.2(2)(a)
フォント			6.1.2(2)(d)
文字配置			6.1.2(2)(d)
アイテムの桁数指定			6.1.2(2)(c) 表 6-7
縮小して全体を表示			6.1.2(2)(c)
置き換え表			6.1.2(2)(a)
出力ページ			6.1.2(2)(a)
条件付きアイテム表示 / 非表示切り替え			6.1.2(2)(a)
CPI 指定		×	6.1.2(2)(c)

(凡例)

：出力されます。

：加工して出力されます。

×：出力されません。

注

下位項目は「固定文字列」と同じになります。

マッピングデータ，数値，数値（集計対象外）

機能		出力結果	参照先
表示形式	前付加文字列		6.1.2(2)(c) 表 6-5
	後付加文字列		
	ゼロ埋め桁数		
	負符号文字		
	小数点文字		
	コンマ表示		
	指数表示		
	小数点以下桁揃え		
	小数点以下桁数		
配置			6.1.2(2)(a)
フォント			6.1.2(2)(d)
文字配置			6.1.2(2)(d)

6. ファイルへの出力

機能	出力結果	参照先
0 のとき 0 表示 / 表示しない / ハイフン表示		6.1.2(2)(c) 表 6-5
空データのとき表示しない / ハイフン表示		6.1.2(2)(c) 表 6-5
アイテムの桁数指定		6.1.2(2)(c) 表 6-7
縮小して全体を表示		6.1.2(2)(c)
置き換え表		6.1.2(2)(a)
ワードラップを行う		6.1.2(2)(c)
出力ページ		6.1.2(2)(a)
条件付きアイテム表示 / 非表示切り替え		6.1.2(2)(a)
CPI 指定	×	6.1.2(2)(c)

(凡例)

：出力されます。

：加工して出力されます。

×：出力されません。

注

下位項目は「固定文字列」と同じになります。

マッピングデータ，日付時刻

機能	出力結果	参照先
表示形式	レポートファイル形式	和暦 / 西暦
表示形式		6.1.2(2)(c) 表 6-6
配置		6.1.2(2)(a)
フォント		6.1.2(2)(d)
文字配置		6.1.2(2)(d)
縮小して全体を表示		6.1.2(2)(c)
出力ページ		6.1.2(2)(a)
条件付きアイテム表示 / 非表示切り替え		6.1.2(2)(a)
CPI 指定	×	6.1.2(2)(c)

(凡例)

：出力されます。

：加工して出力されます。

×：出力されません。

注

下位項目は「固定文字列」と同じになります。

マッピングデータ，日次 / 月次 / 年次

機能			出力結果	参照先
表示形式	レポートファイル形式	和暦 / 西暦		6.1.2(2)(c) 表 6-6
	フォームシートファイル形式	和暦 / 西暦		
配置				6.1.2(2)(a)
フォント				6.1.2(2)(d)
文字配置				6.1.2(2)(d)
縮小して全体を表示				6.1.2(2)(c)
ワードラップを行う				6.1.2(2)(c)
出力ページ				6.1.2(2)(a)
条件付きアイテム表示 / 非表示切り替え				6.1.2(2)(a)
CPI 指定			×	6.1.2(2)(c)

(凡例)

- : 出力されます。
- △ : 加工して出力されます。
- ×

注

下位項目は「固定文字列」と同じになります。

マッピングデータ , 和暦 (日次) / 和暦 (月次) / 和暦 (年次)

機能			出力結果	参照先
表示形式	レポートファイル形式	和暦		6.1.2(2)(c) 表 6-6
	フォームシートファイル形式	和暦		
配置				6.1.2(2)(a)
フォント				6.1.2(2)(d)
文字配置				6.1.2(2)(d)
縮小して全体を表示				6.1.2(2)(c)
ワードラップを行う				6.1.2(2)(c)
出力ページ				6.1.2(2)(a)
条件付きアイテム表示 / 非表示切り替え				6.1.2(2)(a)
CPI 指定			×	6.1.2(2)(c)

(凡例)

- : 出力されます。
- △ : 加工して出力されます。

6. ファイルへの出力

×：出力されません。

注

下位項目は「固定文字列」と同じになります。

印刷日付・印刷時刻

機能		出力結果	参照先
表示形式	西暦 / 和暦		6.1.2(2)(b) 表 6-3
配置			6.1.2(2)(a)
フォント			6.1.2(2)(d)
文字配置			6.1.2(2)(d)
ワードラップを行う			6.1.2(2)(c)
出力ページ			6.1.2(2)(a)
条件付きアイテム表示 / 非表示切り替え			6.1.2(2)(a)

(凡例)

：出力されます。

：加工して出力されます。

注

下位項目は「固定文字列」と同じになります。

ページ番号

機能				出力結果	参照先
表示形式	最大ページ桁数	任意 / 1 / 2 / 3 / 4 / 5			6.1.2(2)(b) 表 6-3
	バージョン 2 形式	ページ番号			
		ページ数			
	バージョン 3 形式	初期化あり	ページ番号		
			ページ数		
		初期化なし	ページ番号		
			ページ数		
配置					6.1.2(2)(a)
フォント					6.1.2(2)(d)

機能	出力結果	参照先
文字配置		6.1.2(2)(d)
ワードラップを行う		6.1.2(2)(c)
出力ページ		6.1.2(2)(a)
条件付きアイテム表示 / 非表示切り替え		6.1.2(2)(a)

(凡例)

：出力されます。

：加工して出力されます。

注

下位項目は「固定文字列」と同じになります。

(a) 出力結果の詳細 (アイテムの表示に関するもの)

説明	設定値	出力結果
繰り返し種別	非繰り返し, 見出し, 繰り返し	
水平方向の文字揃え ¹	左揃え, 中央揃え, 右揃え, 均等配置	左詰め (インデント), 中央揃え, 右詰め (インデント), 均等割り付け (インデント)
垂直方向の文字揃え ¹	上揃え, 中揃え, 下揃え, 均等配置	上詰め, 中央揃え, 下詰め, 均等割り付け
まとめ表示の優先順位	階層あり / 階層なし	セルを結合します。
まとめ表示 ²	まとめ表示をする / しない	セルを結合します。
	罫線をまとめる / まとめない	
表示・印刷ページ	[全てのページに出力する] オプションボタン, [先頭のページだけに出力する] オプションボタン, または [最終ページだけに出力する] オプションボタンの指定	
表示条件	[アイテムの表示条件] ダイアログの設定値	
置き換え表 ³	[置き換え表] タブの設定値	

(凡例)

：帳票設計時に表示されているとおりに出力されます。

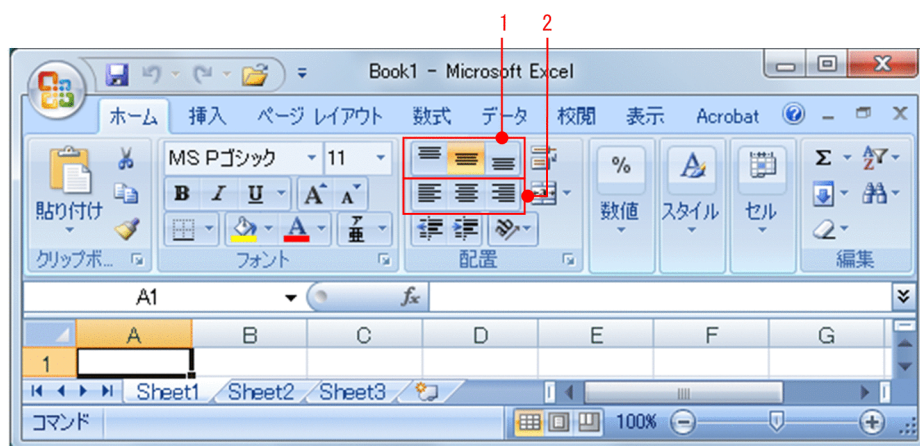
注 1

縦 / 横方向の配置の出力結果は, Excel 画面の次に示す表示で確認できます。

6. ファイルへの出力

情報の種類	Excel 画面の表示
縦 / 横方向の配置	<p>[ホーム] - [配置]</p> <p>上段：図 6-4 の 1 縦方向配置設定で、左から順に上揃え、中央揃え、下揃えとなります。</p> <p>下段：図 6-4 の 2 横方向配置設定で、左から順に左揃え、中央揃え、右揃えとなります。</p>

図 6-4 Excel 画面の表示



均等割り付けに関しては、[セルの書式設定] - [配置] タブの縦 / 横位置のプルダウンリストから選択します。

注 2

罫線をまとめた場合の、まとめ表示の表示結果を次に示します。

図 6-5 まとめ表示の表示結果（罫線をまとめた場合）

旅費精算書 平成 21年 1月30日

月	日	手 続	発 車 駅	時 刻	着 駅	時 刻	運 賃	乗 車 賃	日 当
1/	9	電車	武蔵中原駅	8:00	鹿島田駅	8:10	130	0	0
		電車	鹿島田駅	18:00	武蔵中原	18:10	130	0	0
1/	13	電車	武蔵中原駅	7:50	大森駅	8:25	150	0	0
1/	22	電車	大森駅	11:30	東戸塚駅	11:40	320	0	0
		電車	武蔵中原駅	8:15	鹿島田駅	8:25	130	0	0
		電車	新川崎駅	17:30	東戸塚駅	17:50	150	0	0
1/	23	電車	武蔵中原駅	8:20	鹿島田駅	8:30	130	0	0
1/	28	電車	武蔵中原駅	7:00	戸塚駅	8:00	300	0	0
		電車	戸塚駅	12:00	東戸塚駅	12:05	130	0	0
1/	29	新幹線	東京駅	10:30	越後湯沢駅	12:00	10800	10000	5000
		特急	越後湯沢駅	12:30	金沢駅	15:00	1910	10000	5000
		合計					14280	20000	10000

まとも表示

まとも表示でのセルの結合は、まとも表示されたキーの繰り返しの先頭位置から終了位置までの領域を結合します。

まとも表示されたキーの出力位置は、結合されたセルの領域内に、キーが持っている縦／横方向の文字揃え位置（左寄せなど）で出力します。

また、まとも表示を設定したセルに対し、罫線をまとめるかどうかも設定できます。罫線をまとめない場合の、まとも表示の表示結果を次に示します。

6. ファイルへの出力

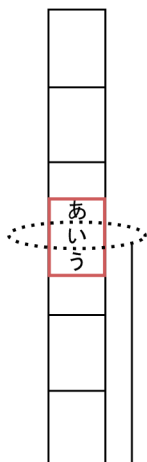
図 6-6 まとめ表示の表示結果（罫線をまとめない場合）

月	日	手段	発着駅	時刻	到着駅	時刻	運賃	乗込費	日当
1/	9	電車	武蔵中原駅	8:00	鹿島田駅	8:10	190	0	0
		電車	鹿島田駅	18:00	武蔵中原	18:10	190	0	0
1/19		電車	武蔵中原駅	7:50	大森駅	8:25	150	0	0
1/22		電車	大森駅	11:30	東戸塚駅	11:40	320	0	0
		電車	武蔵中原駅	8:15	鹿島田駅	8:25	190	0	0
		電車	新川崎駅	17:30	東戸塚駅	17:50	150	0	0
1/23		電車	武蔵中原駅	8:20	鹿島田駅	8:30	190	0	0
1/28		電車	武蔵中原駅	7:00	戸塚駅	8:00	300	0	0
		電車	戸塚駅	12:00	東戸塚駅	12:05	190	0	0
1/29		新幹線	東京駅	10:30	越後湯沢駅	12:00	10800	10000	5000
		特急	越後湯沢駅	12:30	金沢駅	15:00	1910	10000	5000
合計							14280	20000	10000

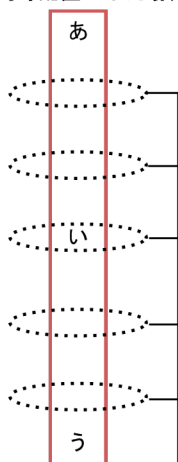
罫線をまとめない設定をしたため、罫線が表示されている。

まとめ表示のセルに対して罫線をまとめる設定をしないと、次の例のように、罫線が結合セルの文字アイテムに隠れて表示されない場合があります。この場合、ログにメッセージが出力されます。

文字アイテムを
中央寄せにした場合



文字アイテムを
均等配置にした場合



文字アイテムに隠れて
罫線が表示されない

注 3

置き換え表で置き換えられた値はすべて文字列として出力します。

(b) 出力結果の詳細 (アイテム種別によるもの)

印刷日付・印刷時刻アイテム, ページ番号アイテム

表 6-3 印刷日付・印刷時刻アイテム, ページ番号アイテムの出力結果

説明	設定値	出力結果
印刷日付・印刷時刻アイテム, ページ番号アイテムの表示フォーマット	[定義] テキストボックスの指定値	文字列として出力します。
印刷日付・印刷時刻アイテム, ページ番号アイテムの種別	日付アイテム 時刻アイテム ページ番号アイテム	文字列として出力します。 印刷日付・印刷時刻は, Excel 形式ファイル出力時の日時を出力します。
ページ番号アイテムの表示形式	[バージョン 2 形式] オプションボタンまたは [バージョン 3 形式] オプションボタンの指定	×
ページ番号アイテムのときのページ番号桁数	[最大ページ桁数] リストボックスの指定値	×

(凡例)

× : 定義内容は反映されません。

(c) 出力結果の詳細 (データ装飾)

文字列データ

前付加文字列, 後付加文字列, 任意書式指定に関しては, 文字列の書式として設定するのではなく, これらの書式を一つの文字列として出力します。

表 6-4 文字列データの出力結果

説明	設定値	出力結果
前付加文字列	[前付加文字] テキストボックスの指定値	
後付加文字列	[後付加文字] テキストボックスの指定値	
任意書式指定	[任意書式指定] テキストボックスの指定値	

(凡例)

: 帳票設計時に表示されているとおりに出力されます。

数値データ

6. ファイルへの出力

表 6-5 数値データの出力結果

説明	設定値	出力結果
前付加文字列	[前付加文字] テキストボックスの指定値	前付加文字列として出力します。
後付加文字列	[後付加文字] テキストボックスの指定値	後付加文字列として出力します。
コンマ表示	[コンマ表示] チェックボックスの ON / OFF	ON の場合、桁区切り属性として出力します。
小数点以下桁数	[小数点以下桁数] テキストボックスの指定値	指定の桁数を書式に設定します。 ¹
小数点文字	[小数点文字] テキストボックスの指定値	"," (ピリオド) に統一します。
四捨五入	四捨五入， 切り捨て， 切り上げ	帳票設計時に表示されているとおりに出力します。
ゼロ埋め桁数	[ゼロ埋め桁数] テキストボックスの指定値	書式情報に出力します。
指数表示	[指数表示] チェックボックスの ON / OFF	ON の場合、書式情報に出力します。 ²
負符号文字	[負符号文字] テキストボックスの ON / OFF	書式情報に出力します。
0 を表示，非表示，"- " 表示	[値が 0 の場合] グループボックスの指定値	書式情報に出力します。ただし、「0 を表示しない」の場合は何も表示しません。
欠損値を非表示，"- " 表示	[値が空データの場合] グループボックスの指定値	「表示しない」の場合 何も表示しません。 「"- "」表示の場合 文字 "- " を出力します。

注 1

帳票設計時に小数点以下桁数を指定しないで Excel 形式ファイルに小数値を出力した場合、小数点以下が表示されないで整数値として表示されます。数式バーでは小数点以下の数値も表示されます。

小数を Excel 形式ファイルに出力したい場合、[小数点以下桁数] テキストボックスで小数点以下の桁数を指定してください。桁数を指定しないと、Excel 出力時に小数点以下の桁数はデフォルトの「0」が設定されます。

注 2

帳票設計時に指数表示を設定している場合、[小数点以下桁数] テキストボックスで小数点以下の桁数を指定してください。桁数を指定しないと、Excel 出力時に小数点以下の桁数はデフォルトの「0」が設定されます。

日付・時刻データ

日付・時刻アイテムは文字列として出力します。

表 6-6 日付・時刻データの出力結果

説明	設定値	出力結果
日付フォーマット	[定義] テキストボックス での指定値	
日付の表示形式	日次, 月次, 年次, 日付・時刻 日次 (和暦), 月次 (和暦), 年次 (和暦)	
元号年 1 年を元年と表示 するかどうか	[元号年 1 年を元年と表示する] チェックボックスの ON / OFF	

(凡例)

: 帳票設計時に表示されているとおりに出力されます。

機能ごとの出力結果

桁数の指定

桁数指定が指定されていれば, 指定された桁数で出力します。この場合, 文字数が桁数を上回っているとエラー (KEEU050-E) となります。

表 6-7 桁数の指定の出力結果

説明	設定値	出力結果
アイテム枠内に入力できる 桁数の指定	[桁数を指定] チェックボックスの ON / OFF	OFF の場合は何も しません。 ON の場合, 指定され た桁数で出力します。
アイテムの桁数	1 以上の整数値	

縮小して全体を表示

「縮小して全体を表示」が設定されていた場合, EUR では設定したポイント数より小さい状態で表示されます。Excel 形式ファイルに出力する文字列は, 小さくなったポイント数で帳票設計時に表示されているとおりに出力します。Excel でも「縮小して全体を表示する」という項目はありますが, この項目は設定しません。

ワードラップを行う

ワードラップは, Excel 形式ファイルに属性としては出力されません。Excel 上で文字列の折り返しがある場合, 自動的に折り返されますが, EUR サーバ帳票出力機能を使って Excel 形式ファイルに出力する場合, 文字列は 1 行として出力されます。

文字の折り返しに関する注意事項については, 「11.2.10 Excel 形式ファイルを出力するときの注意」を参照してください。

CPI 指定

CPI で指定した内容は, Excel 形式ファイルに属性としては出力されません。

6. ファイルへの出力

(d) 出力結果の詳細 (フォント, 文字方向に関するもの)

説明	設定値		出力結果
フォントの高さ (単位: 1pt)	3 ~ 256		ポイント数として出力します。
フォントの太さ	[スタイル] コンボボックスの設定		「標準」を設定した場合: 太字を設定しません。 「太字」を設定した場合: 太字を設定します。
フォントの傾き	[スタイル] コンボボックスの設定		「標準」を設定した場合: 斜体を設定しません。 「斜体」を設定した場合: 斜体を設定します。
書体名	[フォント名] コンボボックスの設定		日本語ロケール: "MS 明朝" 中国語ロケール: "NSimSun" 上記以外のロケール: "Courier New"
フォントの色	[色] リストボックスの設定		RGB 値をフォントの色として出力します。
文字描画方法	[文字の方向] グループボックスの設定	上向き左から右	Excel のデフォルト
		上向き上から下	縦書き
		左向き下から上	左へ 90 度回転
		右向き上から下	右へ 90 度回転
		左向き左から右	Excel のデフォルト
バージョン 2 以前の文字配置を行うかどうか	[バージョン 2 以前の文字配置を行う] チェックボックスの ON / OFF		×
文字幅間隔 (単位: 1pt)	ポイント数		×
文字行間隔 (単位: 1pt)	ポイント数		×
文字幅間隔指定	標準, 狭く, 広く		×
文字行間隔指定	標準, 狭く, 広く		×

説明	設定値	出力結果
文字の縦横比を 2:1 に補正するか	[フォント縦横比補正を行う] チェックボックスの ON / OFF	×

(凡例)

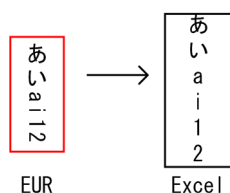
× : 定義内容は反映されません。

注

フォント属性の出力結果は、Excel 画面の次に示す個所で確認できます。

情報の種類	Excel 画面の表示個所
フォントの高さ	[書式設定] ツールバー
フォントの太さ	
フォントの傾き	[書式] - [セル] の「配置」
書体名	[書式設定] ツールバー
フォントの色	
文字描画方法	

なお、EUR での「上向き、上から下」と Excel での「縦書き」では、見え方が異なります。EUR での「上向き、上から下」では半角英字、半角数字は右向き、それ以外の文字は上向きで表示されますが、Excel での「縦書き」ではすべて上向きで表示されます。EUR での「上向き、上から下」と Excel での「縦書き」の見え方の違いを次に示します。



(3) 線

機能				出力結果	参照先
水平線 垂直線	線	線種	実線		6.1.2(3)(a) 表 6-8
			破線		
			点線		
			一点鎖線		
			二点鎖線		
			点線 (丸)		
			点線 (角)		

6. ファイルへの出力

機能				出力結果	参照先
		線幅	細線 / 中線 / 太線 / 極太線		
			任意サイズ 0.1 ~ 10pt		
		線色	フルカラー		
		繰り返し			
	出力ページ				
斜線				×	

(凡例)

- : 出力されます。
- : 加工して出力されます。
- × : 出力されません。

(a) 出力結果の詳細

EUR での線アイテムは、Excel でのセル罫線として出力されます。セル罫線は線幅という概念がなく、線種と線幅を合わせて一つのパターンとなります。そのため、線種は表 6-9 の対応表に従って出力し、線幅は線種によって一意に決定されます。

表 6-8 線アイテムの出力結果

情報の種類		設定値	出力結果
座標	線種	実線 破線 点線 一点鎖線 二点鎖線	表 6-9 参照
		破線 点線 一点鎖線 二点鎖線 点線 (丸) 点線 (角)	表 6-9 参照
	線幅	細線 中線 太線 極太線	表 6-9 参照
	任意線幅	1pt 単位, 0.1 ~ 10.0 ポイント	表 6-9 参照
	線色	線の色	RGB 値を線色として出力します。

情報の種類		設定値	出力結果
	線の繰り返し	非繰り返し, 見出し, 繰り返し	
	線の表示・印刷ページ	[全てのページに出力する] オプションボタン, [先頭のページだけに出力する] オプションボタン, または [最終ページだけに出力する] オプションボタンの指定	
	アイテムの配置	[繰り返し領域の左上を基準] または, [貼付域の左上を基準] の設定	

(凡例)


: 帳票設計時に表示されているとおりに出力されます。

線種と線色の出力結果は, Excel 画面の次に示す個所で確認できます。

情報の種類	Excel 画面の表示箇所
線種	[罫線] - [線のスタイル]
線色	[罫線] - [線の色]

EUR の線種と Excel 形式ファイルでの線種の対応を次の表に示します。

表 6-9 EUR の線種と Excel 形式ファイルでの線種との対応

EUR		Excel
線種	線幅	線種
実線 	1 (細線)	図 6-7 の 5
	2 (中線)	図 6-7 の 5
	3 (太線)	図 6-7 の 6
	4 (極太線)	図 6-7 の 6
	任意サイズ : 0.1pt ~ 1.4pt	図 6-7 の 5
	任意サイズ : 1.5pt ~ 2.4pt	図 6-7 の 6
	任意サイズ : 2.5pt ~ 10.0pt	図 6-7 の 7
破線 		図 6-7 の 4

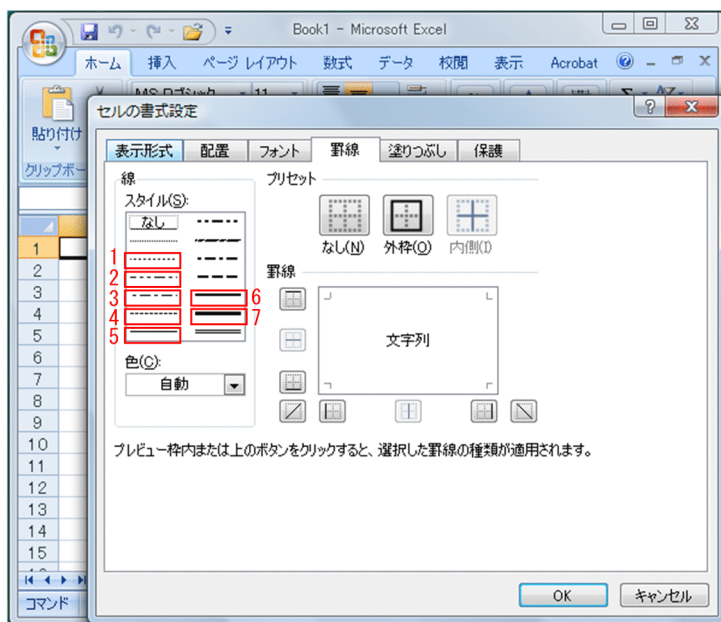
6. ファイルへの出力

EUR		Excel
線種	線幅	線種
点線	-----	図 6-7 の 1
一点鎖線	- - - - -	図 6-7 の 3
二点鎖線	- · - · -	図 6-7 の 2
点線（丸）	·····	図 6-7 の 1
点線（角）	·····	図 6-7 の 1

注

点線・点線（丸）・点線（角）は、Excel の枠線の属性としては区別がないため、すべて同じ線種に出力されます。

図 6-7 Excel 形式ファイルでの線種



(4) 図形

機能		出力結果	参照先
網掛け	パターン	14 種類	6.1.2(4)(a) 表 6-11
	繰り返し		
	枠線表示	枠線種	

機能			出力結果	参照先
		枠線幅	2	
		枠線色	2	
	背景色	フルカラー		
	前景色	フルカラー		
角丸四角	角丸め			
	パターン ¹ 繰り返し 枠線 ¹ 色 ¹			
円 / 楕円 ¹			×	
多角形 ¹			×	
出力ページ				
条件付きアイテム表示 / 非表示切り替え				

（凡例）

：出力されます。

×：出力されません。

：加工して出力されます。

注 1

下位項目は「網掛け」欄と同じになります。

注 2

出力結果は線アイテムと同じになります。

（a）出力結果の詳細

網掛けアイテムの場合，次に示す表の対応づけに従ってセルの塗りつぶしパターンを決定します。この場合，背景色は「色なし」で，パターンの色は「自動」で統一します。

表 6-10 EUR での網掛けパターンと Excel のセルの塗りつぶしパターンの対応

EUR	Excel
薄い網掛け	6.25% 灰色（図 6-8 の 2）
やや濃い網掛け	
やや薄い網掛け	
濃い網掛け	
濃い左上り点線	
濃い右上り点線	
左上り点線	
右上り点線	

6. ファイルへの出力

EUR	Excel
透明（塗りつぶしなし）	塗りつぶしなし
塗りつぶし	塗りつぶし（図 6-8 の 1）
横縞	6.25% 灰色（図 6-8 の 2）
縦縞	
濃い横縞	
濃い縦縞	

図 6-8 Excel のセルの塗りつぶしパターン

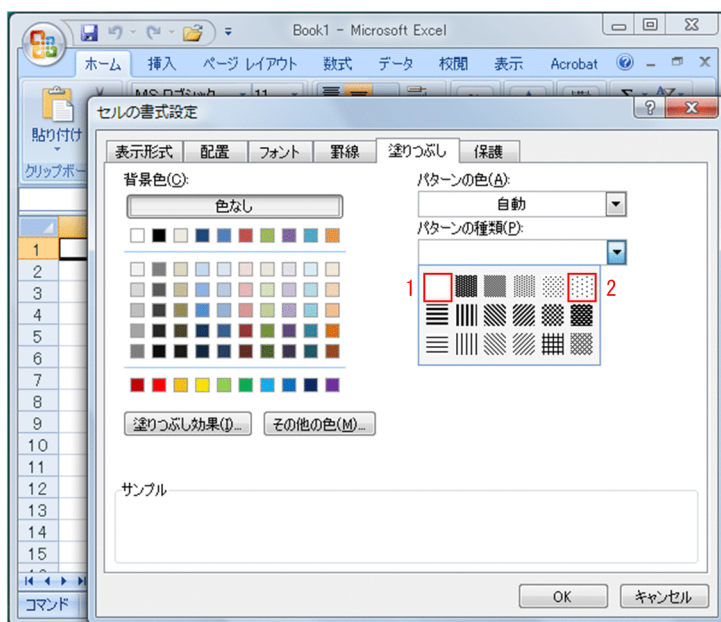


表 6-11 図形アイテムの出力結果

説明	設定値	出力結果
網掛けのパターン	薄い網掛け やや濃い網掛け やや薄い網掛け 濃い網掛け 濃い左上り点線 濃い右上り点線 左上り点線 右上り点線 透明（塗りつぶしなし） 塗りつぶし 横縞 縦縞 濃い横縞 濃い縦縞	網掛けアイテムの場合，表 6-10 を参照してください。

説明	設定値	出力結果
図形の繰り返し	非繰り返し, 見出し, 繰り返し	
表示・印刷ページ	[全てのページに出力する] オプションボタン, [先頭のページだけに出力する] オプションボタン, または [最終ページだけに出力する] オプションボタンの指定	
表示条件	[アイテムの表示条件] ダイアログの設定値	
背景色 ¹	[背景色] リストボックスの指定値	背景色として RGB 値を出力します。
前景色 ¹	[前景色] リストボックスの指定値	パターンの色として RGB 値に変換して出力します。
枠線 ¹	[枠線表示] チェックボックスの ON / OFF	ON : 枠線を表示します。 OFF : 枠線を表示しません。
枠線種 ¹	実線 破線 点線 一点鎖線 二点鎖線 点線 (丸) 点線 (角)	網掛けアイテムの場合はセル属性になるので, 「6.1.2(3)(a) 出力結果の詳細」を参照してください。
枠線幅 ¹	1 (細線), 2 (中線), 3 (太線), 4 (極太線)	網掛けアイテムの場合はセル属性になるので, 「6.1.2(3)(a) 出力結果の詳細」を参照してください。
枠線色	[枠線色] リストボックスの指定値	セル罫線として RGB 値を出力します。
丸め半径 X ²	[丸め] テキストボックスの指定値	×
丸め半径 Y ²	[丸め] テキストボックスの指定値	×
枠影有無	[影付き] チェックボックスの ON / OFF	×
丸める角	[左上], [左下], [右上], [右下] チェックボックスの ON / OFF	×

(凡例)

: 帳票設計時に表示されているとおりに出力されます。

× : 定義内容は反映されません。

注 1

セルの色設定, 図形の線, 図形の枠線の出力結果は, Excel 画面の次に示す個所で確認できます。

6. ファイルへの出力

情報の種類	Excel 画面の表示箇所
セルの背景色・パターンの色・パターンの種類	[書式] - [セル] ・「背景色」:「背景色」に対応 ・「パターンの色」:「前景色」に対応 ・「パターンの種類」: XML 属性値では表 6-10 に示すとおりに対応づけられています。ただし、網掛けは Excel 形式ファイルでの出力先とならない属性です。
図形の枠線種・線幅	[図形の書式設定] - [線のスタイル] - [幅] [図形の書式設定] - [線のスタイル] - [線の先端] 線種の設定（実線 / 点線）は次の順に並んでいます。 <ul style="list-style-type: none"> ・実線 ・点線（丸） ・点線（角） ・破線 ・一点鎖線 ・長破線 ・長一点鎖線 ・長二点鎖線 点線（丸）は、枠線の先端を設定する必要があります。
図形の枠線の先端設定	[図形の書式設定] - [線のスタイル] - [線の先端] デフォルトは「四角」です。設定を「丸」へ変更すると、枠線種の点線（丸）になります。

注 2

丸め半径 X および丸め半径 Y は、角丸四角アイテムの場合の属性値です。Excel 形式ファイル出力では、角丸四角アイテムは網掛けアイテムとするため、これらの属性は出力されません。

(5) 集計アイテム

機能		出力結果	参照先
種別	キー集計		6.1.2(5)(a)
	ヘッダ集計		
	総集計		
集計種別	合計 / 平均 / 最大 / 最小 / 件数		6.1.2(5)(a)
配置			6.1.2(2)(a)
フォント			6.1.2(2)(d)
文字配置			6.1.2(2)(d)
ワードラップを行う			6.1.2(2)(c)
出力ページ			6.1.2(2)(a)
条件付きアイテム表示 / 非表示切り替え			6.1.2(2)(a)

（凡例）

：出力されます。

: 加工して出力されます。

注

下位項目は「6.1.2(2) 文字」の固定文字列と同じになります。

(a) 出力結果の詳細

EUR の集計アイテムおよび Excel のセルは、最大有効桁数が 15 桁です。そのため、集計関数を適用した結果、値が正しく表示できないことがあります。

説明	設定値	出力結果
集計アイテム	合計 平均 最大 最小 件数	集計結果を数値として出力します。

(6) 繰り返し

繰り返しは、帳票設計時に表示されているとおりに出力されます。

(a) 出力結果の詳細

まとめ表示に関するもの

まとめ表示の表示結果については、「6.1.2(2)(a) 出力結果の詳細 (アイテムの表示に関するもの)」を参照してください。

説明	設定値	出力結果
集計行を分断して表示するか	[集計行で分断しない] の ON / OFF	帳票設計時に表示されているとおりに出力されます。

(7) ブレイク

帳票設計時にデータ中の特定のフィールドをキーとしてブレイクを設定すると、キーとなるデータの値が変化した時点で改ブロックまたは改ページされます。改ブロックまたは改ページされた帳票は、帳票設計時に表示されているとおりに Excel 形式ファイルに出力されます。

(8) 帳票ヘッダ

機能	出力結果	参照先
ヘッダ領域	あり / なし	6.1.2(8)(a)
ヘッダアイテム	あり / なし	
アイテムの配置規準	貼り付け域 / 繰り返し領域	

(凡例)

6. ファイルへの出力

: 加工して出力されます。

(a) 出力結果の詳細

EUR での帳票ヘッダ領域に相当する Excel の機能はありません。見た目は、帳票設計時に表示されているとおりに出力します。

説明	設定値	出力結果
帳票ヘッダ領域幅	帳票ヘッダ領域の設定	
帳票ヘッダ領域の表示・非表示	ON / OFF	
アイテムの配置	[繰り返し領域の左上を基準] または , [貼付域の左上を基準] の設定	

(凡例)

: 帳票設計時に表示されているとおりに出力されます。

(9) 集計行

集計行は、帳票設計時に表示されているとおりに出力されます。

6.1.3 Excel 形式ファイルだけに出力される情報

ここでは、Excel 形式ファイルに出力される情報のうち、帳票定義情報以外の情報について説明します。

(1) ファイル作成日時

Excel 形式ファイル出力実行時の日付・時刻を、Excel 形式ファイル作成日時としてファイルに埋め込みます。ファイル作成日時は、Excel 画面の [ドキュメントのプロパティ] - [詳細情報] タブの「作成日時」に出力されます。

(2) フォームシートバージョン、EUR Print Service Enterprise バージョン

Excel 形式ファイル出力時に、フォームシートバージョンおよびライブラリ (Windows 環境の場合は LibXLS.dll, UNIX / Linux 環境の場合は libxls.so) のバージョンを Excel 画面の [ドキュメントのプロパティ] の「コメント」欄に出力します。

フォームシートバージョンについては、「10.2.1 帳票の互換性」を参照してください。

出力形式

Formsheet Vxx.x
PRODUCTCODE VV-RR-SS

xx.x: フォームシートのバージョン番号

PRODUCTCODE: EUR Print Service Enterprise の形名

VV-RR-SS: ライブラリのバージョン番号 (VV), リビジョン番号 (RR), 限定番号 (SS)

出力例

Formsheet V12.0
P-24D2-5984 08-10

6.1.4 出力される Excel 形式ファイルの形式

(1) ファイル名・シート名

出力する Excel 形式ファイルのファイル名は、コマンド実行時に /pf オプションで指定します。

帳票が複数ページにわたる場合、ページごとにシートを分けて出力します。シート名は、「sheet+ ページ番号」となります。

例：2 ページの帳票を出力した場合

- 出力された帳票の 1 ページ目
シート名：「sheet1」
- 出力された帳票の 2 ページ目
シート名：「sheet2」

(2) ページ

(a) ページが指定されたアイテムの出力

アイテムの出力ページが指定されていた場合、そのアイテムは指定したページに該当するシートだけに出力されます。

(b) 出力シート数の制限

出力するシート数の上限は 100 とします。出力しようとするページ数が 100 を超えた場合、先頭（最初のページまたは /s オプションで指定されたページ）から 100 ページだけを出力し、メッセージ（KEEU321-W）を出力して終了します。

6.1.5 UNIX / Linux 環境で Excel 形式ファイルを出力する場合に必要なロケール

UNIX / Linux 環境で Excel 形式ファイルを出力する場合は、実行環境ごとに次の表に示すロケールをインストールしてください。

必要なロケールがインストールされていない場合は、エラー（KEEU124-E）になります。

表 6-12 UNIX / Linux 環境で Excel 形式ファイルを出力する場合に必要なロケール

実行環境		必要なロケール
OS	言語	
HP-UX (IPF)	英語	en_US.utf8
	中国語	zh_CN.utf8
	日本語	ja_JP.utf8
AIX	英語	EN_US.UTF-8
	中国語	ZH_CN.UTF-8
	日本語	JA_JP.UTF-8
Linux	英語	en_US.utf8
	中国語	zh_CN.utf8
	日本語	ja_JP.utf8

7

帳票出力で使用するファイル

この章では、EUR サーバ帳票出力機能で扱えるファイルの種類とデータファイルの形式について説明します。

7.1 ファイル名に使用できる文字

7.2 帳票ファイル

7.3 データファイル

7.4 画像ファイル

7.5 文書情報設定ファイル

7.6 プリンタ定義ファイル

7.7 帳票セット指定ファイル

7.8 複数様式情報定義ファイル

7.9 接続情報ファイル

7.10 可変記号値定義ファイル

7.11 仕分け定義情報ファイル

7.12 PDF 仕分け定義ファイル

7.13 文書しおり定義ファイル

7.14 しおり定義ファイル

7.15 暗号化設定ファイル

7. 帳票出力で使用するファイル

7.16 透かし情報ファイル

7.17 テスト印刷設定ファイル

7.18 Acrobat JavaScript ファイル

7.19 Acrobat JavaScript 定義ファイル

7.20 ビューアプレファレンス定義ファイル

7.21 置き換え表管理情報ファイル

7.22 置き換え表ファイル

7.23 EUR フォントファイル

7.24 出力ページ情報ファイル

7.25 トレースファイル

7.26 環境設定ファイル

7.1 ファイル名に使用できる文字

ファイル名に指定できる文字数（フルパス）を、次に示します。

表 7-1 ファイル名に指定できる文字数

適用 OS	ファイル名に指定できる文字数
Windows	259 文字以内
HP-UX	1,023 バイト以内
AIX	1,023 バイト以内
Linux	1,023 バイト以内

注

Windows 環境で相対パス、またはファイル名だけを指定する場合は、255 文字以内です。

ファイル名は、EUR サーバ帳票出力機能が稼働する OS のファイルシステムのファイル名称規則に従って指定してください。なお、EUR サーバ帳票出力機能を実行する UNIX 環境の文字ロケールが Shift JIS の場合、NEC 選定 IBM 特殊文字（89 区～92 区）の文字を使用したファイル名のファイルは、使用できません。

ほかの OS から転送した帳票ファイルやデータファイルを使用する場合は、使用できる文字数やファイル名称規則が異なるので注意してください。

7.2 帳票ファイル

EUR サーバ帳票出力機能で扱える帳票ファイルは、フォームシートファイル形式（*.fms）だけです。

帳票ファイルの作成については、マニュアル「EUR 帳票設計」を参照してください。

7.3 データファイル

EUR サーバ帳票出力機能で扱えるデータファイルは、CSV 形式 (*.csv)、DAT 形式 (*.dat)、および FIX 形式 (*.fix) があります。

注意

- データファイルのフィールドの区切り方法やフィールド定義などは、EUR 帳票作成機能で帳票を設計する時に指定してください。
- データファイル中のタブコードは、半角空白一つと見なして読み込まれます。ただし、データファイルの 1 行目をフィールド名として扱う場合は、そのままタブコードとして読み込まれます。
- EUR サーバ帳票出力機能では、DAT 形式ファイルは CSV 形式ファイルと同じと見なします。

7.3.1 CSV 形式 (DAT 形式) のデータ形式

CSV 形式 (DAT 形式) のデータファイルは、フィールドとフィールドの間を区切り記号で区切ったファイルです。区切り記号は、EUR 帳票作成機能で帳票設計する時に、データのプロパティで指定できます。区切り記号のデフォルトは「,(コンマ)」です。指定した区切り文字は、帳票ファイル中に保存されます。

CSV 形式 (DAT 形式) のデータファイルのファイルサイズ、およびレコードの上限値を、次に示します。

表 7-2 CSV 形式 (DAT 形式) データファイルの上限値

項目	上限値
ファイルサイズ	2GB を上限とします。
レコード数	上限はありません。
レコード長	上限はありません。
フィールド数	上限はありません。
1 フィールドの長さ	上限はありません。

次に、ファイル形式を示します。

7. 帳票出力で使用するファイル

1, "レーザディスク", "LD1.tif", 98000, 20010523, 4901234567894, 0	...	第1レコードの情報
2, "テレビ", "TV1.tif", 150000, 20010523, 4901234567894, 0	...	第2レコードの情報
3, "カメラ", "CA1.gif", 50000, 20010524, 4901234567894, 1	...	第3レコードの情報
4, "ビデオデッキ", "VTR.gif", 120000, 20010522, 4901234567894, 0	...	第4レコードの情報
5, "レイゾウコ", "COOL.gif", 200000, 20010523, 4901234567894, 1	...	第5レコードの情報

└─┐	└─┐	└─┐	└─┐	└─┐	└─┐
(1)	(2)	(3)	(1)	(4)	(5) (6)

データ型：

- (1) 数値データ
- (2) 文字データ
- (3) 画像データ
- (4) 日付データ
- (5) バーコードデータ
- (6) 特殊編集レベルデータ

(1) 数値データ

数値は、そのまま記述するか、または「"」で囲みます。

- ・先頭に一つ以上の半角空白のある数値データの両端を「"」で囲んで記述した場合、先頭の半角空白を除いたデータが、入力データとなります。

(例)

「" 126"」と記述した場合は、「126」が入力データとなります。

「" -126 "」と記述した場合は、「-126」が入力データとなります。

- ・「"」で囲んでいない場合、前後の空白を除いたデータが、入力データとなります。

(例)

「 315 」と入力した場合は、「315」が入力データとなります。

(2) 文字データ

文字列を記述します。文字列は、そのまま記述するか、または「"」で囲みます。

- ・「"」を文字データとして使用する場合は、「"」を二つ続けて記述し、文字データの両端を「"」で囲んでください。

(例)

「E"UR」とする場合は、「"E""UR"」と指定します。

- ・「"」で囲んでいない場合、前後の空白を除いたデータが、入力データとなります。

(例)

「 EUR 」と入力した場合は、「EUR」が入力データとなります。

- ・区切り文字を文字データとして記述する場合は、文字列の両端を「"」で囲んでください。

(例)

「,」が区切り文字の場合、「EU,R」とするときは、「"EU,R"」と指定します。

- ・「"」で囲まれていない文字列の終端は、区切り文字、改行コード、または¥0 (Null : 0x00) にしてください。
- ・「"」で囲まれている文字列の終端は、改行コード、または¥0 (Null : 0x00) にしてください。

- ・文字列中のタブコードは、半角空白一つに変換されます。ただし、タブコードが区切り文字として使用されている場合は、区切り文字として扱われます。
- ・「"」で囲まれた文字列中の改行コードは、文字として扱われます。

(3) 画像データ

画像ファイル名をそのまま記述するか、または「"」で囲んで指定します。

(4) 日付データ

日付データは、西暦または和暦を数値で指定します。

日付データには、入力データの桁数と、指定したいデータ種別の桁数が一致するように入力データを指定してください。入力データの桁数とデータ種別の桁数が合っていないと、マッピングデータウィンドウに表示されないことがあります。

(a) 西暦

西暦を数値で記述します。指定できるデータの種別と桁数を次に示します。

データ種別	桁数	指定例 (2004年5月23日12時10分05秒)
日付(年次)	4桁	2004
日付(月次)	6桁	200405
日付(日次)	8桁	20040523
日付(日付・時刻)	年4桁 月2桁 日2桁 時2桁 分2桁 秒2桁	2004/05/23 12:10:05

注

- ・日付は「/」で、時刻は「:」で区切り、日付と時刻の間は半角空白一つで区切ってください。
- ・日付は省略できませんが、時刻は省略できます。時刻を省略した場合は、00:00:00 が仮定されます。

(b) 和暦

和暦を指定する場合、1桁目に元号を次の数値で指定します。

元号	指定値
平成	4
昭和	3
大正	2

7. 帳票出力で使用するファイル

元号	指定値
明治	1

指定できるデータ種別と桁数を次に示します。

データ種別	桁数	指定例	
		「平成 21 年 1 月 1 日」を表示させる場合	「昭和 64 年 1 月 1 日」を表示させる場合
和暦（年次）	3 桁	421	364
和暦（月次）	5 桁	42101	36401
和暦（日次）	7 桁	4210101	3640101

和暦日付は、「平成元年 1 月 1 日」のような架空の日付も表示できます。また、[アイテムのプロパティ] ダイアログの [表示形式] (日付・時刻データ) タブで、日付の表示形式を次のように設定することもできます。

- 「平成 1 年」を「平成元年」と表示できます。
- 「平成 21 年」を「H21」と表示できます。

[アイテムのプロパティ] ダイアログについては、マニュアル「EUR 帳票設計」を参照してください。

(c) 日付データの補足説明

年号を表すデータは 4 桁で認識されます。そのため、[コントロールパネル] の [地域のオプション] の設定で、年号を 2 桁に設定している場合は、[日付] ページの [短い形式] のリストボックスから、年号を 4 桁で表示する形式「yyyy」に選択し直してください。[区切り記号] は、「/」を指定してください。また、Windows の時刻表示を 12 時間制の形式に設定している場合は、[時刻] ページの [時間の形式] のリストボックスから、24 時間制の形式に選択し直してください。この場合、午前、または午後を表す「t」の付く形式は設定しないでください。

(5) バーコードデータ

バーコードで使用するデータを指定します。

バーコードで使用するデータは、バーコードの種類によって異なります。指定するデータの桁数が合っていないと、帳票に貼り付けた時に、バーコードが表示されないことがあります。バーコードのデータについては、マニュアル「EUR 帳票設計」を参照してください。

(6) 特殊編集レベルデータ

繰り返し機能で、帳票に読み込んだデータに対して、レコード単位で任意に編集したい

場合は、特殊編集レベルを 1 ~ 99 の範囲で記述します。

- 複数レコードに同一レベルを指定した場合、一つのレコードを編集すると、同一レベルのレコードすべてが編集されます。
- 編集しない場合は、省略するか、または「0」もしくは空白を指定してください。

(7) 区切り文字

データは、EUR 帳票作成機能で帳票を設計した時に、データのプロパティで指定した区切り文字で区切ります。

なお、「"」は、区切り文字には使用できません。

CSV 形式のデータファイルに空データを指定する場合は、次のように指定します。次の例では、区切り文字として「,(コンマ)」を指定しています。

(a) コンマを並べて指定した場合

コンマを並べて指定した場合、コンマの間が空データになります。

(例)

指定したデータ："あか","きいろ","あお"

入力されるデータ

一つ目のデータ：あか

二つ目のデータ：きいろ

三つ目のデータ：(空データ)

四つ目のデータ：あお

指定したデータ：,,,500

入力されるデータ

一つ目のデータ：(空データ)

二つ目のデータ：(空データ)

三つ目のデータ：(空データ)

四つ目のデータ：500

(b) コンマの間に一つ以上の半角空白を指定した場合

コンマの間に一つ以上の半角空白を指定した場合、指定した半角空白の数に関係なくコンマの間が空データになります(は半角空白を示します)。

(例)

指定したデータ："あか","きいろ", ,"あお"

入力されるデータ

一つ目のデータ：あか

二つ目のデータ：きいろ

三つ目のデータ：(空データ)

7. 帳票出力で使用するファイル

四つ目のデータ：あお

指定したデータ： , , ,500

入力されるデータ

一つ目のデータ：(空データ)

二つ目のデータ：(空データ)

三つ目のデータ：(空データ)

四つ目のデータ：500

(c) 複数フィールドで n 番目以降にコンマだけを並べて指定した場合

複数フィールドで n 番目以降にコンマだけを並べて指定した場合、n 番目以降のフィールドが空データになります。

(例)

指定したデータ："あか","きいろ",,,

入力されるデータ

一つ目のデータ：あか

二つ目のデータ：きいろ

三つ目のデータ：(空データ)

四つ目のデータ：(空データ)

このように、n 番目以降にコンマだけを並べて指定する場合、帳票を定義するときに項目数を定義してあれば、コンマを省略することもできます。項目数を 4 とした場合、次のようになります。

(例)

指定したデータ："あか"

入力されるデータ

一つ目のデータ：あか

二つ目のデータ：(空データ)

三つ目のデータ：(空データ)

四つ目のデータ：(空データ)

指定したデータ：,500

入力されるデータ

一つ目のデータ：(空データ)

二つ目のデータ：500

三つ目のデータ：(空データ)

四つ目のデータ：(空データ)

(d) 1 行すべてのフィールドを空データにする場合

1 行すべてのフィールドを空データにする場合は、コンマだけを指定するか、または改行

コードだけを指定します。

(例)

指定したデータ：,,,

入力されるデータ

一つ目のデータ:(空データ)

二つ目のデータ:(空データ)

三つ目のデータ:(空データ)

四つ目のデータ:(空データ)

指定したデータ：改行コード

入力されるデータ

一つ目のデータ:(空データ)

二つ目のデータ:(空データ)

三つ目のデータ:(空データ)

四つ目のデータ:(空データ)

7.3.2 FIX 形式のデータ形式

FIX 形式のデータファイルは、レコード中に区切り文字がなく、すべてのレコードの、フィールドの開始位置とデータ長が固定である形式を持つファイルです。フィールドの区切り位置と長さは、EUR 帳票作成機能のデータのプロパティで指定した情報を使います。指定した区切り位置と長さは、帳票ファイル中に保存されます。

FIX 形式のデータファイルのファイルサイズ、およびレコードの上限値を、次に示します。

表 7-3 FIX 形式データファイルの上限値

項目	上限値
ファイルサイズ	2GB を上限とします。
レコード数	上限はありません。
レコード長	改行を含めないで 100,000 バイトを上限とします。
フィールド数	1 レコードの上限が 100,000 バイトなので、その範囲内では制限なしと見なします。
1 フィールドの長さ	100,000 バイトを上限とします。

次に、ファイル形式を示します。

7. 帳票出力で使用するファイル

1	レーザーディスク	LD1.tif	98000	20010523	4901234567894	0	…第1レコードの情報
2	テレビ	TV1.tif	150000	20010523	4901234567894	0	…第2レコードの情報
3	カメラ	CA1.gif	50000	20010524	4901234567894	1	…第3レコードの情報
4	ビデオデッキ	VTR.gif	120000	20010522	4901234567894	0	…第4レコードの情報
5	レイゾウコ	COOL.gif	200000	20010523	4901234567894	1	…第5レコードの情報
(1)	(2)	(3)	(1)	(4)	(5)	(6)	

データ型：

- (1) 数値データ
- (2) 文字データ
- (3) 画像データ
- (4) 日付データ
- (5) バーコードデータ
- (6) 特殊編集レベルデータ

(1) 数値データ

数値をそのまま記述します。

(2) 文字データ

文字列をそのまま記述します。文字列中のタブコードは、半角空白一つに変換されます。

(3) 画像データ

画像ファイル名をそのまま記述します。

(4) 日付データ

日付データは、西暦または和暦を数値で指定します。

日付データには、入力データの桁数と、指定したいデータ種別の桁数が一致するように入力データを指定してください。入力データの桁数とデータ種別の桁数が合っていないと、マッピングデータウィンドウに表示されないことがあります。

(a) 西暦

西暦を数値で記述します。指定できるデータの種別と桁数を次に示します。

フィールド種別	データ形式	指定例 (2004年5月23日12時10分05秒)
日付(年次)	4桁	2004
日付(月次)	6桁	200405
日付(日次)	8桁	20040523
日付(日付・時刻)	年4桁 月2桁 日2桁 時2桁 分2桁 秒2桁	2004/05/23 12:10:05

注

- 日付は「/」で、時刻は「:」で区切り、日付と時刻の間は半角空白一つで区切ってください。
- 日付は省略できませんが、時刻は省略できます。時刻を省略した場合は、00:00:00 が仮定されます。

(b) 和暦

和暦を指定する場合、1桁目に元号を次の数値で指定します。

元号	指定値
平成	4
昭和	3
大正	2
明治	1

指定できるデータ種別と桁数を次に示します。

データ種別	桁数	指定例	
		「平成 21 年 1 月 1 日」を表示させる場合	「昭和 64 年 1 月 1 日」を表示させる場合
和暦（年次）	3 桁	421	364
和暦（月次）	5 桁	42101	36401
和暦（日次）	7 桁	4210101	3640101

和暦日付は、「平成元年 1 月 1 日」のような架空の日付も表示できます。また、[アイテムのプロパティ] ダイアログの [表示形式] (日付・時刻データ) タブで、日付の表示形式を次のように設定することもできます。

- 「平成 1 年」を「平成元年」と表示できます。
- 「平成 21 年」を「H21」と表示できます。

[アイテムのプロパティ] ダイアログについては、マニュアル「EUR 帳票設計」を参照してください。

(c) 日付データの補足説明

年号を表すデータは 4 桁で認識されます。そのため、[コントロールパネル] の [地域のオプション] の設定で、年号を 2 桁に設定している場合は、[日付] ページの [短い形式] のリストボックスから、年号を 4 桁で表示する形式「yyyy」に選択し直してください。[区切り記号] は、「/」を指定してください。また、Windows の時刻表示を 12 時間制の形式に設定している場合は、[時刻] ページの [時間の形式] のリストボックスから、24 時間制の形式に選択し直してください。この場合、午前、または午後を表す「t」

の付く形式は設定しないでください。

(5) バーコードデータ

バーコードで使用するデータを指定します。

バーコードで使用するデータは、バーコードの種類によって異なります。指定するデータの桁数が合っていないと、帳票に貼り付けた時に、バーコードが表示されないことがあります。バーコードのデータについては、マニュアル「EUR 帳票設計」を参照してください。

(6) 特殊編集レベルデータ

繰り返し機能で、帳票に読み込んだデータに対して、レコード単位で任意に編集したい場合は、特殊編集レベルを 1 ~ 99 の範囲で記述します。

- 複数レコードに同一レベルを指定した場合、一つのレコードを編集すると、同一レベルのレコードすべてが編集されます。
- 編集しない場合は、省略するか、または「0」もしくは空白を指定してください。

(7) 区切り文字

データの区切りは、データの開始位置で決まるため、区切り文字は使用しません。

なお、データ中に「,」などを記述すると、データとして扱われます。

FIX 形式のデータファイルに空データを指定する場合は、次のように指定します（ は半角空白を示します）。

(a) あるフィールドのデータに、データ長分の半角空白を並べて指定した場合

あるフィールドのデータに、データ長分の半角空白を並べて指定した場合、そのフィールドは空データになります。データ長を 4 とした場合、次のようになります。

(例)

指定したデータ：あかしろ あお

入力されるデータ

- 一つ目のデータ：あか
- 二つ目のデータ：しろ
- 三つ目のデータ：(空データ)
- 四つ目のデータ：あお

指定したデータ： 500

入力されるデータ

- 一つ目のデータ：(空データ)
- 二つ目のデータ：(空データ)
- 三つ目のデータ：500

四つ目のデータ:(空データ)

(b) n 番目以降のデータに、データ長分の半角空白を並べて指定した場合

n 番目以降のデータに、データ長分の半角空白を並べて指定した場合、n 番目以降のフィールドがすべて空データになります。データ長を 4 とした場合、次のようになります。

(例)

指定したデータ:あかしろ

入力されるデータ

一つ目のデータ:あか

二つ目のデータ:しろ

三つ目のデータ:(空データ)

四つ目のデータ:(空データ)

このように、n 番目以降のデータに、データ長分の半角空白を並べて指定する場合、半角空白は省略できます。

(例)

指定したデータ:500 1000

入力されるデータ

一つ目のデータ:500

二つ目のデータ:1000

三つ目のデータ:(空データ)

四つ目のデータ:(空データ)

(c) 1 行すべてのフィールドを空データにする場合

1 行すべてのフィールドを空データにする場合は、半角空白だけを指定するか、または改行コードだけを指定します。

(例)

データの指定:

入力されるデータ

一つ目のデータ:(空データ)

二つ目のデータ:(空データ)

三つ目のデータ:(空データ)

四つ目のデータ:(空データ)

指定したデータ:

入力されるデータ

一つ目のデータ:(空データ)

二つ目のデータ:(空データ)

7. 帳票出力で使用するファイル

三つ目のデータ：(空データ)

四つ目のデータ：(空データ)

指定したデータ：改行コード

入力されるデータ

一つ目のデータ：(空データ)

二つ目のデータ：(空データ)

三つ目のデータ：(空データ)

四つ目のデータ：(空データ)

7.4 画像ファイル

7.4.1 画像ファイルの場所

画像ファイルは、環境変数 `EURPS_IMAGEPATH` で、デフォルトの読み込みフォルダを指定できます。ファイルは、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

ファイル名をフルパスで指定した場合
設定されているフォルダから画像ファイルを読み込みます。

ファイル名を相対パスで指定した場合
環境変数 `EURPS_IMAGEPATH` に設定されているフォルダからの相対パスとして画像ファイルを読み込みます。

ファイル名だけ指定した場合
環境変数 `EURPS_IMAGEPATH` に設定されているフォルダ下の画像ファイルを読み込みます。

環境変数 `EURPS_IMAGEPATH` が設定されていない場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- 環境設定ファイル (`EURPS_ENV`) 中の変数 `EURPS_IMAGEPATH` に設定されているフォルダ
- EUR Developer, EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境設定ファイル (`eurps_env`) 中の変数 `EURPS_IMAGEPATH` に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 `HOME` で指定)
- `/var/opt/eurps` ディレクトリ

指定されたフォルダがない場合は、画像は出力されません。

EUR 形式ファイルを出力する場合、データファイルに指定する画像ファイルは、ファイル名だけを指定してください。画像ファイルのパスは、環境変数 `EURPS_IMAGEPATH`、または環境設定ファイル (Windows 環境の場合は `EURPS_ENV`、UNIX / Linux 環境の場合は `eurps_env`) 中の変数 `EURPS_IMAGEPATH` に指定してください。

7.4.2 扱える画像データの形式

EUR サーバ帳票出力機能で扱える画像データの形式は次のとおりです。

7. 帳票出力で使用するファイル

- Windows BITMAP
- JPEG
- GIF (GIF GIF87a , GIF GIF89a)
- TIFF (TIFF 6.0)

画像データの詳細形式を、次に示します。

表 7-4 EUR サーバ帳票出力機能で扱える画像データの形式

画像データの形式	詳細形式
Windows BITMAP (*.bmp)	2 色モノクロ
	16 色パレットカラー
	256 色パレットカラー
	24 ビットフルカラー
	16 色 RLE 圧縮 Windows 環境のプリンタ印刷では出力できますが、次に示す場合には出力できません。 <ul style="list-style-type: none"> • Windows 環境での PDF 形式ファイル出力 • UNIX / Linux 環境でのプリンタ印刷, PDL ファイル出力、および PDF 形式ファイル出力
	256 色 RLE 圧縮 Windows 環境のプリンタ印刷では出力できますが、次に示す場合には出力できません。 <ul style="list-style-type: none"> • Windows 環境での PDF 形式ファイル出力 • UNIX / Linux 環境でのプリンタ印刷, PDL ファイル出力、および PDF 形式ファイル出力
JPEG (*.jpg / *.jpe / *.jpeg)	Windows 3.0 以前のビットマップ形式
	JFIF フォーマット基本 DCT (ベースライン) フルカラー
GIF GIF87a (*.gif)	JFIF フォーマット基本 DCT (ベースライン) 256 色グレイスケール
	2 色モノクロ ノンインタレース
	2 色モノクロ インタレース
	4 色パレットカラー ノンインタレース
	4 色パレットカラー インタレース
	16 色パレットカラー ノンインタレース
	16 色パレットカラー インタレース
	256 色パレットカラー ノンインタレース
GIF GIF89a (*.gif)	256 色パレットカラー インタレース
	2 色モノクロ ノンインタレース
	2 色モノクロ インタレース
	4 色パレットカラー ノンインタレース

画像データの形式	詳細形式
	4 色パレットカラー インタレース
	16 色パレットカラー ノンインタレース
	16 色パレットカラー インタレース
	256 色パレットカラー ノンインタレース
	256 色パレットカラー インタレース
	透明色指定 上記の 8 フォーマット（色 4 種×インタレース 2 種）それぞれで透明色の有無の指定ができます。ただし、透明部分は、GIF 画像中の背景色が使用されます。
	アニメーション 上記の 8 フォーマット（色 4 種×インタレース 2 種）それぞれでアニメーションの有無の指定ができます。ただし、先頭の 1 枚目だけが使用されます。
TIFF 6.0 (*.tif / *.tiff)	2 色モノクロ 非圧縮
	2 色モノクロ ハフマン圧縮
	2 色モノクロ G3/G4 Fax 互換圧縮
	16 色 非圧縮
	256 色 非圧縮
	24 ビット色 非圧縮
	グレイスケール 非圧縮
	カラー：RGB 指定
	カラー：YCbCr 指定
	複数画像（ただし、先頭の 1 枚だけを対象とします）
	ストリップ形式（カラー TIFF のストリップも使用できます）

注意

画像が正しく出力されない場合、画像データの内容に問題があることがあります。
このような場合は、画像を作成したソフトウェアとは別のソフトウェアで、画像を
保存し直すことをお勧めします。

7.5 文書情報設定ファイル

帳票をプリンタ出力、PDF 形式ファイル出力、および EUR 形式ファイル出力する場合、出力先に表示する帳票名を指定したり、PDF 文書情報を指定したりできます。

帳票名や PDF 文書情報は、文書情報設定ファイルに設定します。

文書情報設定ファイル名は、eurps コマンド、ActiveX オブジェクト、および JavaBeans 起動部品に指定します。

文書情報設定ファイルは、メモ帳など、テキストファイルが編集できるエディタを起動して編集します。任意の拡張子のファイルを使用できます。

7.5.1 文書情報設定ファイルの作成

文書情報設定ファイルの指定方法を説明します。

(1) 文書情報設定ファイルの構文

キーワード = 値

キーワードに指定できる値を次に示します。

表 7-5 文書情報設定ファイルの構文と対応するプリンタ

キーワード	値	プリンタ出力	PDF 形式 ファイル出力	EUR 形式 ファイル出力
TITLE	出力先に表示する帳票名、または PDF 文書情報に表示するタイトルの文字列を指定します。			
SUBTITLE	サブタイトルの文字列を指定します。	×		×
AUTHOR	ファイルの作成者を指定します。	×		×
KEYWORD	キーワードを指定します。	×		×

(凡例)

: 指定は有効です。

×: 指定は無視されます。

(2) 文書情報設定ファイルのキーワード

文書情報設定ファイルに指定するキーワードは、大文字で指定します。大文字と小文字を混在させたり、小文字で指定したりした場合は、指定が無視されます。

また、キーワードを複数指定した場合は、最初に指定した情報が有効になります。

(a) TITLE

プリンタ出力と EUR 形式ファイル出力の場合は、出力先に表示する帳票名の文字列を指定します。

PDF 形式ファイル出力の場合は、PDF 文書情報に表示するタイトルの文字列を指定します。

キーワード TITLE の形式

TITLE=" 文字列 "

文字列

帳票名、または PDF 文書情報に表示するタイトルを「"」で囲んで指定します。「"」で囲まれていない場合、または「"'」のように空の文字列で指定されている場合は、指定を無効と見なします。

文字列中に「"」を指定したい場合は、「"」を二つ続けて記述して、文字列の両端を「"」で囲んでください。例えば、「E"UR」とする場合は、「"E""UR"」と指定します。

ただし、EUR 形式ファイルでは二つ続けて「"」を記述すると、ファイルが開けません。

- 文字列に使用できる文字コード

文字列に使用できる文字コードについては、「2.1 EUR が使用する文字コード」を参照してください。

文字列は、任意の文字列で指定できますが、制御文字、ベンダ定義文字

(IBM 拡張文字と NEC 選定 IBM 拡張文字)、および外字は指定できません。

ベンダ定義文字を使用する場合は、Windows 特殊文字 (0x8740 ~ 0x87FC) を使用してください。

- 指定できる文字列の長さ

指定できる文字列の長さは、出力方法によって異なります。

プリンタ出力の場合

指定できる文字列の長さに制限はありません。指定された文字列はプリンタスプールのジョブ名になります。しかし、プリンタスプールのジョブ名に表示される文字列は、259 文字までです。ただし、プリンタドライバによっては、指定した文字列が 259 文字以下でも、正常に印刷できないことがあります。指定できる文字列長の最大値は、プリンタによって異なりますのでご注意ください。

PDF 形式ファイル出力の場合

指定できる文字列の長さに制限はありません。指定された文字列はすべて保存されます。ただし、指定した文字列がすべて表示されるかどうかは、Adobe Reader によって異なります。指定した文字列をすべて表示したい場合は、Adobe Reader で表示できる長さを確認してから、文字列を指定されることをお勧めします。

EUR 形式ファイル出力の場合

指定できる文字列の長さに制限はありませんが、259 文字までの文字列しか

保存したり、表示したりされません。

(b) SUBTITLE

PDF 形式ファイル出力の場合、PDF 文書情報に表示するサブタイトルの文字列を指定できます。プリンタ出力と EUR 形式ファイル出力の場合は、キーワード SUBTITLE を指定しても無視されます。

キーワード SUBTITLE の形式

SUBTITLE=" 文字列 "

文字列

PDF 文書情報に表示するサブタイトルを「"」で囲んで指定します。「"」で囲まれていない場合、または「""」のように空の文字列で指定されている場合は、指定を無効と見なします。

文字列中に「"」を指定したい場合は、「"」を二つ続けて記述して、文字列の両端を「"」で囲んでください。例えば、「E"UR」とする場合は、「"E""UR"」と指定します。

- 文字列に使用できる文字コード

文字列に使用できる文字コードについては、「2.1 EUR が使用する文字コード」を参照してください。

文字列は、任意の文字列（日本語も含む）で指定できますが、制御文字、ペンダ定義文字（IBM 拡張文字と NEC 選定 IBM 拡張文字）、および外字は指定できません。ペンダ定義文字を使用する場合は、Windows 特殊文字（0x8740 ~ 0x87FC）を使用してください。

- 指定できる文字列の長さ

指定できる文字列の長さに制限はありません。指定された文字列はすべて保存されます。ただし、指定した文字列がすべて表示されるかどうかは、Adobe Reader によって異なります。指定した文字列をすべて表示したい場合は、Adobe Reader で表示できる長さを確認してから、文字列を指定されることをお勧めします。

(c) AUTHOR

PDF 形式ファイル出力の場合、PDF 文書情報に表示するファイルの作成者を指定できます。プリンタ出力と EUR 形式ファイル出力の場合は、キーワード AUTHOR を指定しても無視されます。

キーワード AUTHOR の形式

AUTHOR=" 文字列 "

文字列

PDF 文書情報に表示するファイルの作成者を「"」で囲んで指定します。「"」で囲まれていない場合、または「""」のように空の文字列で指定されている場合は、指定を無効と見なします。

文字列中に「"」を指定したい場合は、「"」を二つ続けて記述して、文字列の両

端を「"」で囲んでください。例えば、「E"UR」とする場合は、「"E""UR"」と指定します。

- 文字列に使用できる文字コード
文字列に使用できる文字コードについては、「2.1 EUR が使用する文字コード」を参照してください。
文字列は、任意の文字列（日本語も含む）で指定できますが、制御文字、ペング定義文字（IBM 拡張文字と NEC 選定 IBM 拡張文字）、および外字は指定できません。ペング定義文字を使用する場合は、Windows 特殊文字（0x8740 ~ 0x87FC）を使用してください。
- 指定できる文字列の長さ
指定できる文字列の長さに制限はありません。指定された文字列はすべて保存されます。ただし、指定した文字列がすべて表示されるかどうかは、Adobe Reader によって異なります。指定した文字列をすべて表示したい場合は、Adobe Reader で表示できる長さを確認してから、文字列を指定されることをお勧めします。

(d) KEYWORD

PDF 形式ファイル出力の場合、PDF 文書情報に表示するキーワードを指定できます。プリンタ出力と EUR 形式ファイル出力の場合は、キーワード KEYWORD を指定しても無視されます。

キーワード KEYWORD の形式

KEYWORD=" 文字列 "

文字列

PDF 文書情報に表示するキーワードを「"」で囲んで指定します。「"」で囲まれていない場合、または「"'」のように空の文字列で指定されている場合は、指定を無効と見なします。

文字列中に「"」を指定したい場合は、「"」を二つ続けて記述して、文字列の両端を「"」で囲んでください。例えば、「E"UR」とする場合は、「"E""UR"」と指定します。

- 文字列に使用できる文字コード
文字列に使用できる文字コードについては、「2.1 EUR が使用する文字コード」を参照してください。
文字列は、任意の文字列（日本語も含む）で指定できますが、制御文字、ペング定義文字（IBM 拡張文字と NEC 選定 IBM 拡張文字）、および外字は指定できません。ペング定義文字を使用する場合は、Windows 特殊文字（0x8740 ~ 0x87FC）を使用してください。
- 指定できる文字列の長さ
指定できる文字列の長さに制限はありません。指定された文字列はすべて保存されます。ただし、指定した文字列がすべて表示されるかどうかは、Adobe Reader によって異なります。指定した文字列をすべて表示したい場合は、Adobe Reader で表示できる長さを確認してから、文字列を指定されるこ

とお勧めします。

(3) 文書情報設定ファイル名の指定先

文書情報設定ファイル名の指定先を、次に示します。

- eurps コマンドの /df オプション (UNIX / Linux 環境の場合は -df オプション)
ただし、UNIX / Linux 環境のプリンタ出力では、文書情報設定ファイル名の指定はできません。
- ActiveX オブジェクトの DocInfoFileName プロパティ
- JavaBeans 起動部品の setDocInfoFileName メソッド

文書情報設定ファイル名を指定すると、出力先では次のように表示されます。

(a) プリンタ出力の場合

文書情報設定ファイル名を指定すると、文書情報設定ファイルに設定されている帳票名 (キーワード TITLE に指定されている文字列) が、プリンタの印刷待ち状態を確認する一覧ウィンドウの「ドキュメント名」や、通信/ジョブ状態を示す確認画面などに表示されます。ただし、帳票名に表示される文字列は、259 文字までです。

文書情報設定ファイル名を指定しなかったり、文書情報設定ファイルの指定が無効であったりした場合、出力先には、次に示す情報が表示されます。表示される文字列の長さは、Shift JIS コードでのバイト数です。

- Windows 対応プリンタに出力する場合
HITACHI Report - 帳票ファイル名
表示される文字列は、帳票ファイル名を含めた、31 バイトまでです。帳票ファイル名が長くて 31 バイトを超える場合は、31 バイトまでを表示します。31 バイト目が 2 バイト文字の場合は、30 バイトまでの文字列を表示します。
- JP1 と連携して仕分け印刷する場合
EURPS 帳票ファイル名 - 時刻情報
表示される文字列は、時刻情報 11 バイトを含めた、31 バイトまでです。帳票ファイル名が長くて 31 バイトを超える場合は、帳票ファイル名の後ろを切り詰めて 31 バイトまでを表示します。31 バイト目が 2 バイト文字の場合は、30 バイトまでの文字列を表示します。

(b) PDF 形式ファイル出力の場合

文書情報設定ファイル名を指定すると、文書情報設定ファイルに設定されている文書情報 (タイトル, サブタイトル, 作成者, およびキーワード) が、PDF 文書情報に表示されます。

文書情報設定ファイル名を指定しないと、PDF 文書情報は空表示になりますが、次に示す PDF 文書情報は自動設定されます。

表 7-6 自動設定される PDF 文書情報

項目	設定される文字列
作成 (Creator)	「Windows EUR (形名)VV-RR」 帳票を作成した EUR の製品・バージョン番号が設定されます。VV-RR は、バージョン、リビジョン番号です。
PDF 変換 (Producer)	「EUR Print Service VVRR」 PDF 形式ファイルを出力した製品名が設定されます。VVRR は、バージョン、リビジョン番号です。
作成日時	PDF 形式ファイルの作成日時が設定されます。

(c) EUR 形式ファイル出力の場合

文書情報設定ファイル名を指定すると、文書情報設定ファイルに設定されている帳票名 (キーワード TITLE に指定されている文字列) が、プリンタの印刷待ち状態を確認する一覧ウィンドウの「ドキュメント名」や、プレビューウィンドウに表示されます。

文書情報設定ファイル名を指定しないと、EUR 形式ファイル (拡張子なし) が表示されます。

(4) 文書情報設定ファイルの指定例

文書情報設定ファイルの指定例を次に示します。

- プリンタ出力、および EUR 形式ファイル出力の場合

TITLE="横浜支社の人事管理"

- PDF 形式ファイル出力の場合

TITLE="人事管理"
SUBTITLE="TOKYO-Area"
AUTHOR="Jinjil"
KEYWORD="Jinji, TOKYO, YOKOHAMA, CHIBA"

7.6 プリンタ定義ファイル

プリンタ定義ファイルには、次に示す情報を定義します。

印刷位置補正情報 (Windows / UNIX/Linux 環境)

印刷で使用するプリンタの情報 (Windows / UNIX/Linux 環境)

PDF 形式ファイルを印刷するときの解像度情報 (Windows / UNIX/Linux 環境)

CODE39/GS1-128 (UCC/EAN-128) /CODE128 バーコードのバーコード補正情報
(Windows / UNIX/Linux 環境)

QR コードのセルサイズ (Windows / UNIX/Linux 環境)

PDF 形式ファイルへのフォント埋め込み (Windows / UNIX/Linux 環境)

印刷位置補正情報

帳票印刷時に印刷位置を補正するために、水平方向と垂直方向のシフト量をプリンタ定義ファイルに定義します。

例えば、プレプリント用紙を使用した場合、出力先プリンタのハードの給紙精度によって印刷位置がずれることがあります。プリンタごとの補正情報をプリンタ定義ファイルに定義しておくことで、印刷位置がずれることなく印刷できます。

印刷位置を補正できるのは、GDI 印刷、および PDF ファイル出力の場合です。

印刷で使用するプリンタの情報

UNIX での印刷で使用するプリンタ情報をプリンタ定義ファイルに定義します。

プリンタ定義ファイルは、Windows 環境でのプリンタアイコンの代わりになるものです。プリンタのハード情報 (PDL 言語、解像度、マージンなど) や、プリンタアイコンのプロパティで指定できる内容 (給紙トレイ、両面印刷など) を定義します。ひとつのプリンタ定義ファイルには、複数のプリンタ情報を登録できます。

PDF 形式ファイルを印刷するときの解像度情報

バーコードのある PDF 形式ファイルを印刷するとき、使用するプリンタの解像度をプリンタ定義ファイルに定義します。

バーコードのある PDF 形式ファイルは、使用するプリンタの解像度に合わせて印刷されます。見た目は変わりありませんが、バーコードリーダで正しく読み取れないことがあります。

プリンタ定義ファイルに、使用するプリンタの解像度を指定することで、プリンタの解像度に合わせたバーコードを印刷できます。バーコードのある PDF 形式ファイルを印刷する場合は、必ず指定することをお勧めします。

CODE39/GS1-128 (UCC/EAN-128) /CODE128 バーコードのバーコード補正情報

CODE39/GS1-128 (UCC/EAN-128) /CODE128 バーコードの要素やバーの幅を指定できます。バーコードのサイズを自由に換えられるので、作成した帳票に合わせたバーコードのカスタマイズができます。

QR コードのセルサイズ

QR コードのセルサイズを指定できます。QR コードのセルサイズを指定することによって、QR コードのサイズを自由に変えられるので、作成した帳票に合わせた QR コードのカスタマイズができます。

PDF 形式ファイルへのフォント埋め込み

PDF 形式ファイルにフォントを埋め込んで出力できます。フォントを埋め込むことによって、PDF 形式ファイルを出力するマシンにインストールされていないフォントも出力できるようになります。

7.6.1 プリンタ定義ファイルの作成

プリンタ定義ファイルは、システム管理者が作成してください。

(1) プリンタ定義ファイルの保存場所

プリンタ定義ファイルの保存場所は、コマンドオプション、環境変数、または環境設定ファイルで指定できます。コマンドオプション、環境変数、または環境設定ファイルでプリンタ定義ファイルの保存場所を指定した場合は、指定した場所にプリンタ定義ファイルを保存してください。コマンドオプションで指定する方法については「3.2.3(25) / pi オプション」を、環境変数または環境設定ファイルで指定する方法については「7.26.44 EURPS_PRINTERINFPATH」を参照してください。

プリンタ定義ファイルの保存場所を指定していない場合は、次に示す場所に保存してください。

Windows 環境の場合

プリンタ定義ファイルは、メモ帳などのテキストエディタを開いて編集したあと、EUR Developer、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ下に、ファイル名「printerinf」で保存してください。

UNIX / Linux 環境の場合

プリンタ定義ファイルは、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise をインストールすると、/opt/eurps/sample 下にサンプル（ファイル名「printerinf」）が提供されます。このサンプルを参考にしてファイルの内容をカスタマイズしたあと、/etc/opt/eurps 下に、ファイル名「printerinf」で保存してから利用してください。

(2) プリンタ定義ファイルの構文

[エントリ名]
キーワード=値

キーワードに指定できる値を次に示します。

表 7-7 プリンタ定義ファイルの構文

構 文	説 明
エントリ名	<ul style="list-style-type: none"> 「印刷位置補正情報」、または「UNIX での印刷で使用するプリンタの情報」を設定する場合は、次に示すプリンタ名を指定します。 Windows 環境の場合：Windows で登録されているプリンタ名 UNIX/Linux 環境の場合：任意のプリンタ名 eurps コマンドの /p オプション（UNIX/Linux 環境の場合は -p オプション）に指定するプリンタ定義ファイル中のプリンタ名とは、ここで指定する [プリンタ名] のプリンタ名です。 半角空白を含むプリンタ名を指定する場合は、プリンタ名を「"」で囲んで指定してください。半角空白を含むプリンタ名を「"」で囲まないで指定した場合は、エラー（KEEU103-E）になります。 「PDF 形式ファイルを印刷するときの解像度情報」を設定する場合は、半角英字の大文字で「PDF」と指定します。
キーワード = 値	プリンタ情報を「キーワード = 値」の形式で記述します。

構文中に空白を指定する場合の注意

構文中に空白（ ）を指定する場合は、次のように指定してください。

1 [エントリ名] 2

1 キーワード 1 = 1 値 1

空白（ ）の説明

1：0 個以上のタブ、半角空白、または全角空白を示します。

2：これ以降、改行コード（¥r¥n、または ¥n）までを無視します。

(3) UNIX / Linux 環境の EUR サーバ帳票出力機能で印刷するときの運用手順

UNIX / Linux 環境の EUR サーバ帳票出力機能で印刷するときは、プリンタ定義ファイルを指定しただけでは印刷できません。EUR サーバ帳票出力機能をインストールしたあと、稼働する OS でプリンタ定義をする必要があります。

1. OS でのプリンタ定義

OS でのプリンタ定義は、スーパーユーザでログインしたあと、次に示す手順で行います。

HP-UX 環境の場合

/usr/sbin/lpshtut (プリンタのスケジューラが動作している場合)

/usr/sbin/lpadmin (プリンタ定義)

/usr/lib/lpsched (プリンタのスケジューラを起動)

AIX 環境の場合

/usr/sbin/lpshtut (プリンタのスケジューラが動作している場合)

/usr/sbin/lpadmin (プリンタ定義)

/usr/lib/lp/lpsched (プリンタのスケジューラを起動)

Linux 環境の場合

Linux 環境の場合は、`printconf-gui`、または `printconf-tui` ツールを使用します。
`printconf-gui`、または `printconf-tui` ツールについては、Linux のドキュメント
を参照してください。

2. プリンタ定義ファイルの指定

1. で定義したプリンタ名を、プリンタ定義ファイルのキーワード `Command` に指定します。

3. 印刷の実行

2. で指定したプリンタ名を指定します。

注

プリンタ定義は、ローカルプリンタとリモートプリンタで定義が次のように異なります。

• HP-UX 環境の場合

ローカルプリンタのとき

`lpadmin` コマンドを使用して、ローカルプリンタをプリンタスプールシステムに追加します。例えば、プリンタ名 `Printer1` とする場合は、次のように定義します。
スペシャルファイルとして、`/dev/lp0` を使用しています。

```
# /usr/sbin/lpadmin -pPrinter1 -v/dev/lp0 -mLIPS3
```

リモートプリンタのとき

`lpadmin` コマンドを使用して、リモートプリンタをプリンタスプールシステムに追加します。例えば、ホスト名 `HOST1` に接続されているプリンタ（プリンタ名 = `LBPA4`）をプリンタ名 `Printer1` とする場合は、次のように定義します。

```
# /usr/sbin/lpadmin -pPrinter1 -v/dev/null -ocmrcmodel  
-osmrmodel -ormHOST1 -orplBPA4 -mrmodel
```

• AIX 環境の場合

ローカルプリンタのとき

`lpadmin` コマンドを使用して、ローカルプリンタをプリンタスプールシステムに追加します。例えば、プリンタ名 `Printer1` とする場合は、次のように定義します。
スペシャルファイルとして、`/dev/lp0` を使用しています。

```
# /usr/sbin/lpadmin -pPrinter1 -v/dev/lp0 -onobanner  
# /usr/sbin/accept Printer1  
# /usr/bin/enable Printer1
```

リモートプリンタのとき

`lpadmin` コマンドを使用して、リモートプリンタをプリンタスプールシステムに追加します。例えば、ホスト名 `HOST1` に接続されているプリンタ（プリンタ名 =

RemotePR) をプリンタ名 Printer1 とする場合は、次のように定義します。ただし、ネットワークの構成などによって指定方法が異なる場合があります。プリンタを定義する場合は、あらかじめ AIX のマニュアルで確認することをお勧めします。

```
# /usr/sbin/lpsystem HOST1
# /usr/sbin/lpadmin -pPrinter1 -sHOST1!RemotePR
# /usr/sbin/accept Printer1
# /usr/bin/enable Printer1
```

- Linux 環境の場合

ローカルプリンタのとき

プリンタタイプを LOCAL に設定して、ドライバは直接プリンタキューを指定してください。

リモートプリンタのとき

プリンタタイプを LPD に設定して、ドライバは直接プリンタキューを指定してください。

7.6.2 プリンタ定義ファイルのキーワード

プリンタ定義ファイルに記述するキーワード一覧を次に示します。プリンタ定義ファイルのキーワードは、大文字、小文字の区別をしません。

表 7-8 プリンタ定義ファイルのキーワード一覧

エントリ名	キーワード	説明	指定の有効 / 無効	
			Windows	UNIX / Linux
プリンタ名	PDLType	プリンタがサポートしている PDL の種類を指定します。	×	
	XDPI	プリンタの横解像度を指定します。	×	
	YDPI	プリンタの縦解像度を指定します。	×	
	Margin	プリンタのハードマージンを指定します。	×	
	Duplex	両面印刷するかどうかを指定します。		
	DuplexBinding	両面印刷する場合に、用紙のとじ代の方向を指定します。		
	BindingAdjust	両面印刷する場合、偶数ページを印刷するときに用紙の余白の位置を入れ替えるかどうかを指定します。		
	Cassettes	プリンタにセットされている用紙カセットの数を指定します。	×	
	DefaultCassette	使用する給紙トレイを指定します。	×	
	Color	カラー印刷するかどうかを指定します。	×	

エントリ名	キーワード	説明	指定の有効 / 無効	
			Windows	UNIX / Linux
	Command	生成した PDL ファイルを出力するコマンドを指定します。	×	
	PaperShiftX	横方向の印刷位置補正値を指定します。		
	PaperShiftY	縦方向の印刷位置補正値を指定します。		
	Font	フォントの置き換え情報を指定します (PostScript Level2 対応プリンタに出力する場合)。	×	
	CODE39PARAM	CODE39 バーコードのバーコード補正情報を指定します。		
	CODE128PARAM	CODE128 バーコードのバーコード補正情報を指定します。		
	CODE128PATTERN	GS1-128 (UCC/EAN-128) バーコードチューニングのパターンファイル名を指定します。		
	QRCellSizeD	生成される QR コードのセルサイズをドット単位で指定します。		
	QRCellSizeM	生成される QR コードのセルサイズを 100 分の 1 ミリメートル単位で指定します。		
	GenTextMode	PostScript 対応プリンタで Unicode を出力するために、PostScript 対応プリンタとデバイスフォントに対応した PS2 形式ファイルを作成します。	×	
PDF	YDPI	PDF 形式ファイルを印刷するプリンタの解像度を指定します。		
	PaperShiftX	PDF 出力時の横方向の位置補正値を指定します。		
	PaperShiftY	PDF 出力時の縦方向の位置補正値を指定します。		
	CODE39PARAM	CODE39 バーコードのバーコード補正情報を指定します。		
	CODE128PATTERN	GS1-128 (UCC/EAN-128) バーコードチューニングのパターンファイル名を指定します。		
	EmbedCount	埋め込むフォントの数を指定します。		
	Embed1 , Embed2 , ... EmbedN	書体名と、それに対応するフォントファイル名を指定します。		
	QRCellSizeD	生成される QR コードのセルサイズをドット単位で指定します。		

7. 帳票出力で使用するファイル

エントリ名	キーワード	説明	指定の有効 / 無効	
			Windows	UNIX / Linux
	QRCellSizeM	生成される QR コードのセルサイズを 100 分の 1 ミリメートル単位で指定します。		

(凡例)

：有効 (省略できません)

：有効 (省略できます)

× : 無効

(1) PDLType

プリンタがサポートしている PDL の種類を指定します。

表 7-9 PDLType の指定値

指定値	説 明
LIPS3	LIPSIH 対応プリンタを使用します。
PS2	PostScript Level2 対応プリンタを使用します。
ESCP	ESC/P プリンタを使用します。

「LIPS3」, 「PS2」と「ESCP」は、大文字、小文字を区別しません

LIPSIH 対応プリンタに、PostScript Level2 対応プリンタを示す「PS2」を指定した場合など、プリンタがサポートしている PDL と異なる PDL を指定した場合は、印刷結果を保証しません。

(2) XDPI

プリンタの横解像度を指定します。単位は、dpi です。

(3) YDPI

エントリ名がプリンタ名の場合

プリンタの縦解像度を指定します。単位は、dpi です。

エントリ名が PDF の場合

PDF 形式ファイル出力の縦解像度を指定します。単位は、dpi です。指定できる値は「300」, 「600」, および「720」です。省略した場合は、「720」が仮定されます。

(4) Margin

プリンタのハードマージンを指定します。単位は、mm (ミリメートル) です。ハードマージンは、上下左右の順に「:」で区切って指定します。省略した場合は、「0:0:0:0」が

仮定されます。

指定値は、LIPSIII 対応プリンタの場合に有効となります。ESC/P プリンタの場合は、印刷ライブラリでハードマージンを「0:0:0:0」で固定しているため、指定しても無視されます。

(例) 上下左右のハードマージンを 5mm とする場合

Margin=5:5:5:5

(5) Duplex

両面印刷するかどうかを指定します。

表 7-10 Duplex の指定値

指定値	説 明
true	両面印刷します。
false	両面印刷しません。

「true」と「false」は、大文字、小文字を区別しません。

Windows 環境で「true」、「false」以外の値を指定したり、指定を省略したりした場合は、プリンタの印刷設定に従います。

UNIX/Linux 環境で「true」、「false」以外の値を指定したり、指定を省略したりした場合は、「false (両面印刷しません)」が仮定されます。

注意

- Windows 環境の場合、両面印刷ができないプリンタに対してもキーワード Duplex を設定できますが、出力結果は保証しません。
- UNIX / Linux 環境で PDL ファイルに出力する場合、ESC/P 対応プリンタ、または LIPS 対応プリンタでもキーワード Duplex を設定できますが、両面印刷はできません。
両面印刷ができないプリンタに「true」を指定した場合、出力結果は保証しません。

(6) DuplexBinding

両面印刷する場合の、用紙のとじ代の方向を指定します。キーワード Duplex で「true」を指定した場合、またはプリンタの印刷設定が両面印刷になっている場合に有効です。

表 7-11 DuplexBinding の指定値

指定値	説 明
Short	用紙の短辺にとじ代を設定します。
Long	用紙の長辺にとじ代を設定します。

7. 帳票出力で使用するファイル

「Short」と「Long」は、大文字、小文字を区別しません。

Windows 環境で「Short」、「Long」以外の値を指定したり、指定を省略したりした場合は、キーワード Duplex の設定、およびプリンタの印刷設定によって次のように仮定されます。

Duplex が「true」かつ、プリンタ設定が両面印刷の場合
プリンタで指定されたとじ代の方向が仮定されます。

Duplex が「true」かつ、プリンタ設定が片面印刷の場合
「Long（用紙の長辺にとじ代を設定します）」が仮定されます。

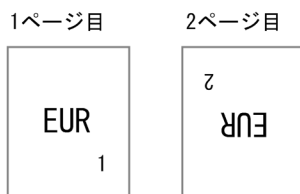
Duplex の値が省略されている場合
プリンタで指定されたとじ代の方向が仮定されます。

UNIX/Linux 環境で「Short」、「Long」以外の値を指定したり、指定を省略したりした場合は、「Long（用紙の長辺にとじ代を設定します）」が仮定されます。

印刷結果は、DuplexBinding の指定値と、用紙の印刷の向きとの組み合わせによって次のように異なります。

図 7-1 DuplexBinding の指定値と用紙の印刷の向きとの組み合わせでの印刷結果の違い

■印刷の向きが縦で、DuplexBindingが「Short」の場合



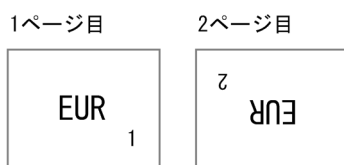
■印刷の向きが縦で、DuplexBindingが「Long」の場合



■印刷の向きが横で、DuplexBindingが「Short」の場合



■印刷の向きが横で、DuplexBindingが「Long」の場合



注意

PostScript 対応プリンタで出力する場合、バージョン 08-30 以前では用紙の短辺にとじ代を設定していた帳票が、バージョン 08-50 以降では用紙の長辺にとじ代を設定されることがあります。このとき、キーワード DuplexBinding に「Short (用紙の短辺にとじ代を設定します)」を指定してください。

(7) BindingAdjust

両面印刷を行う場合、偶数ページを印刷するときに用紙の余白の位置を入れ替えるかどうかを指定します。

表 7-12 BindingAdjust の指定値

指定値	説 明
true	余白を入れ替えます。
false	余白を入れ替えません。









「true」と「false」は、大文字、小文字を区別しません。

指定を省略した場合は「FALSE」が仮定されます。









余白の位置を入れ替えると、とじ代が必要な帳票を両面印刷する場合に、とじ代を含んだ余白を帳票の左右または上下のどちらかだけに設定して印刷できます。左右または上下のどちらの余白を入れ替えるかは、BindingAdjust の指定値と、とじ代の方向（キーワード DuplexBinding またはプリンタで設定）との組み合わせで次のように異なります。


図 7-2 とじ代を含む余白の設定例

■縦長の帳票の場合

BindingAdjust の設定	とじ代の設定			
	用紙の長辺		用紙の短辺	
TRUE	奇数ページ 	偶数ページ 	奇数ページ 	偶数ページ 
	奇数ページ 	偶数ページ 	奇数ページ 	偶数ページ 

■横長の帳票の場合

BindingAdjust の設定	とじ代の設定			
	用紙の長辺		用紙の短辺	
TRUE	奇数ページ 	偶数ページ 	奇数ページ 	偶数ページ 
	奇数ページ 	偶数ページ 	奇数ページ 	偶数ページ 

(凡例)  : とじ代を含む余白

注意

キーワード BindingAdjust を指定すると、最初に印刷されるページを奇数ページ、次に印刷されるページを偶数ページとして扱います。

例えば、eurps コマンドで「/s 2」と指定し、帳票の 2 ページ目から印刷を開始しても、最初に印刷されるページ（2 ページ目）は奇数ページ、次に印刷されるページ

(3 ページ目) は偶数ページとして扱います。

(8) Cassettes

プリンタにセットされている用紙カセットの数を指定します。省略した場合は、「1」が仮定されます。

(例) 2 段カセットのプリンタの場合

Cassettes=2

(9) DefaultCassette

印刷時に使用する給紙トレイを指定します。省略した場合は、「Auto (自動給紙をします)」が仮定されます。

表 7-13 DefaultCassette の指定値

指定値	説 明
Auto	自動給紙します。 自動給紙を設定した場合は、次のように動作します。ただし、プリンタハードごとに動作が異なるため、試し印刷で動作確認されることをお勧めします。 <ul style="list-style-type: none"> プリンタのプロパティで給紙方法に自動給紙を設定されている場合は、出力する帳票の用紙サイズと同じ用紙サイズのカセットを自動選択します。 プリンタのプロパティで給紙方法にカセットを設定されている場合は、そのカセットから給紙します。
Manual	手差しトレイから給紙します。
1 ~ n	トレイ番号の給紙カセットから給紙します。トレイ番号は、1 ~ n (n は、キーワード Cassettes で指定した値) で指定します。6 以上の値を指定した場合は、自動給紙となります。

「Auto」と「Manual」は、大文字、小文字を区別しません。

eurps コマンドの -tc オプションが指定されている場合は、-tc オプションの指定が優先されます。

注意

帳票の用紙サイズと給紙される用紙サイズが異なる場合、プリンタによって動作が異なります。使用するプリンタのマニュアルで確認してください。

(10) Color

カラー印刷するか、またはモノクロ印刷するかのどちらかを指定します。省略した場合は、「false (モノクロ印刷をします)」が仮定されます。

表 7-14 Color の指定値

指定値	説 明
true	カラー印刷をします。
false	モノクロ印刷をします。

「true」と「false」は、大文字、小文字を区別しません。

PostScript Level2 対応カラープリンタに「true」を指定した場合は、カラー印刷されます。

PostScript Level2 対応カラープリンタに「false」を指定した場合は、モノクロ印刷されます。

PostScript Level2 対応モノクロプリンタ、LIPSIII 対応プリンタ、および ESC/P 対応プリンタに「true」を指定した場合は、モノクロ印刷されます。

モノクロ印刷をする場合、帳票の色指定されたアイテムは、モノクロ 2 値に変換して出力されます。

(11) Command

キーワード PDLType で指定した PDL 種別で作成されたファイルを、実際にプリンタへ出力して印刷を実行する場合、または JP1/NQSEXEC 出力キュー登録によって JP1/Network Printing System 経由で出力する場合に、その出力コマンドを指定します。

プリンタへ印刷する場合

lp 出力コマンドで、次に示す形式で指定します。

/usr/bin/lp -d 出力先プリンタ名

出力先プリンタ名には、動作する OS 上で定義したプリンタ名を指定します。

(例)

Command=/usr/bin/lp -dPR1

JP1/NQSEXEC 出力キュー登録によって JP1/Network Printing System 経由で出力する場合

qprx コマンドで、次に示す形式で指定します。

/usr/bin/nqs/qprx -q 出力キュー名

出力キュー名には、JP1/Network Printing System 上で管理された出力キュー名を指定します。

(例)

Command=/usr/bin/nqs/qprx -q Q1

なお、eurps コマンドでキーワード Command を指定したプリンタ定義名に「-p プリンタ定義名 -pf 出力する PDL ファイル名」を指定した場合、UNIX での印刷を実行したときは、キーワード Command に指定されたコマンドの文字列は実行されないで、ファイ

7. 帳票出力で使用するファイル

ルだけ出力されます。

また、PDL ファイルとして直接出力して保存することを目的とする場合は、キーワード Command の指定を省略できます。ただし、eurps コマンドで、-p オプション（プリンタ定義名）指定して、-pf オプション（出力 PDL ファイル名）の指定を省略した場合は、キーワード Command の文字列が省略されているとエラーになります。

(12) PaperShiftX

横方向の出力位置補正値を、小数点以下 1 桁（nn.n 形式）で指定します。出力位置の補正値は、0.1mm 単位で -10.0 ~ 10.0 で指定します。省略した場合は、「0.0」が仮定されます。

出力位置を左方向にシフトする場合は負数、右方向にシフトする場合は正数を指定します。

エントリ名がプリンタ名の場合

出力位置を補正しても、ハードマージンには印刷できません。

また、プリンタハードによっては、出力位置を補正することで、一部のオブジェクトがハードマージンに掛かってしまった場合、印刷が欠けることがあります。試し印刷で動作確認することをお勧めします。

エントリ名が PDF の場合

出力印刷位置を補正することで、一部のオブジェクトが用紙の外にはみ出した場合、出力結果が欠けることがあります。事前に出力内容を確認することをお勧めします。

(13) PaperShiftY

縦方向の出力位置補正値を、小数点以下 1 桁（nn.n 形式）で指定します。出力位置の補正値は、0.1mm 単位で -10.0 ~ 10.0 で指定します。省略した場合は、「0.0」が仮定されます。

出力位置を上方向にシフトする場合は負数、下方向にシフトする場合は正数を指定します。

エントリ名がプリンタ名の場合

出力位置を補正しても、ハードマージンには印刷できません。

また、プリンタハードによっては、出力位置を補正することで、一部のオブジェクトがハードマージンに掛かってしまった場合、印刷が欠けることがあります。試し印刷で動作確認することをお勧めします。

エントリ名が PDF の場合

出力印刷位置を補正することで、一部のオブジェクトが用紙の外にはみ出した場合、出力結果が欠けることがあります。事前に出力内容を確認することをお勧めします。

(14) Font

PostScript Level2 対応プリンタは、リウミン L-KL、または中ゴシック BBB でしか印

刷できません。設計した帳票に使用されているフォントのまま、PostScript Level2 対応プリンタで帳票を印刷する場合は、置き換えるフォント情報を、次に示す形式で指定します。複数指定する場合は、コンマ「,」で区切ります。

Font=置き換え前フォント名:置き換え後フォント名
 [[,置き換え前フォント名:置き換え後フォント名] ...]

置き換え前フォント名

EUR 帳票作成機能で帳票を設計した時に、[アイテムのプロパティ] ダイアログの [フォント] ページに設定したフォント名を指定します。

置き換え後フォント名

プリンタに搭載されている PostScript フォント名をそのまま指定します。

日本語のフォントを指定する場合は、「Ryumin-Light-90ms-RKSJ-H」のように、文字セット、エンコード、および縦横指定を含んだ PostScript フォント名にしてください。

置き換え前フォントが、縦横指定のあるフォント（末尾が・H、または・V）の場合は、置き換え後フォントも合わせて、縦横指定のあるフォントで指定してください。置き換え後フォントに欧文フォントを指定する場合は、次に示すように、EUR 帳票作成機能で帳票を設計してください。

- 欧文フォントなど、縦横比が 2:1 ではないフォントを指定すると、文字がアイテム枠からはみ出して印刷されます。帳票を正しく印刷するには、あらかじめアイテム枠を大きめに定義してください。
- [アイテムのプロパティ] ダイアログの [文字配置] タブで設定する [文字の方向] は、「上向きで、左から右へ」、「左向きで、下から上へ」、または「右向きで、上から下へ」のどれかで指定してください。「上向きで、上から下へ」と「左向きで、左から右へ」を指定すると、正しく印刷されません。

キーワード Font の指定を省略した場合、帳票に使用されているフォントは、次のように置き換えて印刷されます。

表 7-15 帳票フォントの置き換え

帳票に使用されているフォント	置き換えられるフォント
M S ゴシック	中ゴシック BBB
M S 明朝	リュウミン L-KL
それ以外のフォント	リュウミン L-KL

指定できるフォント名の長さは 128 文字までです。128 文字よりも長い名称を指定すると、エラー (KEEU102-E) になります。

(15) CODE39PARAM

CODE39 バーコードのバーコード補正情報を指定します。次に示す形式で指定します。

7. 帳票出力で使用するファイル

type { , { エlement幅比 } , { Param } }

type

Element幅の求め方を指定します。

指定値	説明
0	細Elementのサイズから計算された 1 文字の幅から、細Element、太Elementを計算します。 計算の結果、発生したずれはすべてキャラクタ間ギャップに追加されるため、サイズは自由に調整できます。
1	細Elementのサイズをドット単位に変換した値と、細Element、太Element、キャラクタ間ギャップの比から、各バーの太さを計算します。 各バーの太さはドットで計算されるため、サイズの調整は段階的になります。
2	1 を指定した場合の計算方法に加えて、バーコードの線の太さを補正します。

省略した場合、または 0 ~ 2 以外の値を指定した場合は、「0」が仮定されます。

Element幅比

細Element、太Element、およびキャラクタ間ギャップの比率を指定します。
次に示す形式で指定します。

細Element：太Element：キャラクタ間ギャップ

細Elementには、1 以上の値を指定してください。

太Elementには、細Elementの 2.0 ~ 3.0 倍の値を指定してください。

キャラクタ間ギャップには、細Elementの値以上の値を指定してください。

Element幅比を正しく指定していない場合、Element幅は type に 0 が指定されたときの方法で計算されます。

Param

type に 2 を指定した場合、バーコードの線の太さを細く補正する幅をミリメートル単位で指定します。指定した値をドット単位に変換して四捨五入した値が補正されます。計算されたドット数の分だけ黒バーが細く、白バーが太くなります。

バーコードの線の太さは、補正するドット数の計算結果が 1 以上の場合に補正されます。

解像度 300dpi の場合、補正するドット数の計算結果を次に示します。

表 7-16 解像度 300dpi の場合に補正するドット数

Param に指定する値 (ミリメートル)	補正するドット数 (ドット)
0.04	0.972441
0.041	0.984252
0.042	0.996063
0.043	1.007874
0.044	1.019685

Param に指定する値 (ミリメートル)	補正するドット数 (ドット)
0.045	1.031496
0.046	1.043307

解像度 600dpi の場合、補正するドット数の計算結果を次に示します。

表 7-17 解像度 600dpi の場合に補正するドット数

Param に指定する値 (ミリメートル)	補正するドット数 (ドット)
0.02	0.972441
0.021	0.996063
0.022	1.019685
0.023	1.043307
0.024	1.066929
0.025	1.090551
0.026	1.114173

Param には 1 モジュール以上のドット数の幅は指定できません。Param に指定した値が 1 モジュール以上のドット数になる場合は、1 ドットが指定されます。

type に 2 を指定しても、Param を指定していない場合、エレメント幅は type に 1 が指定されたときの方法で計算されます。エレメント幅比を正しく指定していない場合、エレメント幅は type に 0 が指定されたときの方法で計算されます。

CODE39PARAM は、バージョン 05-06 以降で指定できます。05-05 以前のバージョンでは、自動的に type に 0 が指定された場合と同じ計算方法でエレメント幅が決定します。CODE39 バーコードのバーコード補正情報の指定例を次に示します。

(例) CODE39 バーコードの細エレメント、太エレメント、キャラクタ間ギャップの幅の比を 1 対 2.5 対 1 に変更し、黒バーの太さを 0.04mm 細く補正する場合

CODE39PARAM=2,1:2.5:1,0.04

! 注意事項

CODE39 バーコードのバーコード補正情報は、プリンタ定義ファイルのほかに、環境変数でも指定できます。プリンタ定義ファイルと環境変数のどちらも指定された場合は、プリンタ定義ファイルの内容が優先されます。

(16) CODE128PARAM

CODE128 バーコードのバーコード補正情報を指定します。次に示す形式で指定します。

type [, [Param1] , [Param2]]

7. 帳票出力で使用するファイル

環境変数 EURPS_CODE128_PARAM とプリンタ定義ファイルのキーワード CODE128PARAM が同時に指定された場合は、プリンタ定義ファイルの指定が有効になります。

type

バーコードの描画方式を指定します。

指定値	説明
0	ミリメートル (mm) で指定したモジュールサイズからバーキャラクタサイズを計算します。モジュールサイズ × 11 (mm) を超えないドット数でバーキャラクタを描画します。ストップキャラクタは、モジュールサイズ × 13 (mm) を超えないドット数で描画します。1 を指定した場合と比べて、サイズを細かく指定できますが、バーコードの質は落ちます。
1	ミリメートル (mm) で指定したモジュールサイズを超えないドット数を求め、その 11 倍をバーキャラクタのサイズにします。1 ドットの大きさを超えるまではバーコードの大きさは変わりません。プリンタ解像度によって補正するドット数が変わります。
2	1 を指定した場合の計算方法に加えて、param1 で指定した幅に相当するドット数分だけ黒バーを細く、白バーを太くします。 param2 を指定した場合は、param1 で指定した値で補正した状態のスタートキャラクタとストップキャラクタに param2 で指定した値でさらに補正します。

省略した場合、または 0, 1, 2 以外の値を指定した場合は、0 が仮定されます。指定値が 0 の場合、Param1、および Param2 に指定した値は無視されます。

Param1

type に 2 を指定した場合、バーを調整する幅をミリメートルで指定します。指定した値をドット単位に変換して四捨五入した値が補正されます。補正するドット数の計算結果が 1 以上の場合だけ補正されます。

解像度 300dpi の場合、補正するドット数の計算結果を次に示します。

表 7-18 解像度 300dpi の場合に補正するドット数

Param1 または Param2 に指定する値 (ミリメートル)	補正するドット数 (ドット)
0.04	0.972441
0.041	0.984252
0.042	0.996063
0.043	1.007874
0.044	1.019685
0.045	1.031496
0.046	1.043307

解像度 600dpi の場合、補正するドット数の計算結果を次に示します。

表 7-19 解像度 600dpi の場合に補正するドット数

Param1 または Param2 に指定する値 (ミリメートル)	補正するドット数 (ドット)
0.02	0.972441
0.021	0.996063
0.022	1.019685
0.023	1.043307
0.024	1.066929
0.025	1.090551
0.026	1.114173

Param2

type に 2 を指定した場合, param1 で指定した値で補正したスタートキャラクタとストップキャラクタを調整する幅をミリメートルで指定します。指定した値をドット単位に変換して四捨五入した値が補正されます。補正するドット数の計算結果が 1 以上の場合だけ補正されます。解像度別の補正するドット数については, 表 7-17, 表 7-18 を参照してください。

! 注意事項

- パーの幅を超える値を指定した場合は, パーの幅を 1 ドットに設定します。
- type に 1 を指定した場合でも, param1 に数値を指定して, param2 を省略したときは 0 が仮定されます。
- type に 2 を指定した場合でも, 次のときは 0 が仮定されます。
 - ・ param1 を指定しなかったとき
 - ・ param1 が数値以外, または 0 以下だったとき
- type に 2 を指定した場合でも, param1 に 0 より大きい値, param2 に 0 以下の値を指定したときは param2 は無視されます。

(17)CODE128PATTERN

バーコードパターンファイル名をフルパスで指定します。CODE128PARAM または環境変数 EURPS_CODE128_PARAM と同時に指定した場合は, CODE128PATTERN キーワードで指定されたパターンファイルを使用してチューニングされます。

CODE128PATTERN=バーコードパターンファイル名

(18)EmbedCount

埋め込むフォントの数を指定します。1 以上の数値を指定します。1 以上の数値以外が指定された場合, フォントを埋め込みません。

7. 帳票出力で使用するファイル

(例) 埋め込むフォントが三つの場合

EmbedCount=3

(19) Embed1, Embed2, ... EmbedN

複数の書体名と、それに対応するフォントファイル名を指定します。EmbedN の「N」には、1 から EmbedCount で指定した数値までを指定します。書体名とフォントファイル名はコロン (:) で区切ります。

Embed1=書体名1:フォントファイル名1
Embed2=書体名2:フォントファイル名2
:
EmbedN=書体名N:フォントファイル名N

書体名

帳票定義に指定している書体名です。EUR 帳票作成機能の [アイテムのプロパティ] ダイアログに表示される名称を指定します。

フォントファイル名

TrueType フォントファイル, TrueType コレクションフォントファイル, または TrueType の OpenType フォントファイルをフルパスで指定します。

1 から EmbedCount で指定した数値の間の定義だけが有効となり、それ以外が指定された場合、指定は無視されます。

(例) EmbedCount=3 の場合 (Embed2 が指定されていないとき)

次の指定は有効です。

Embed1=書体名1:フォントファイル名1
Embed3=書体名3:フォントファイル名3

この場合、指定した二つのフォントが埋め込まれます。

(例) EmbedCount=3 の場合 (Embed4 が指定されいるとき)

次の指定は Embed4 が無効です。

Embed1=書体名1:フォントファイル名1
Embed3=書体名3:フォントファイル名3
Embed4=書体名4:フォントファイル名4

注意事項

使用するフォントや文字によって、埋め込みができない場合があります。埋め込みに使用するフォントは、次の点を確認してから使用してください。

- ・ フォントファイルの属性に埋め込みが許可されているか
- ・ フォントの埋め込みについてライセンス許諾があるか
- ・ フォントを埋め込んだ PDF ファイルを配布する場合、フォントの再配布についてライセンス許諾があるか

(20) QRCellSizeD

生成される QR コードのセルサイズ (1 セル当たりの大きさ) をドット単位で指定しま

す。

表 7-20 QRCellSizeD の設定値

環境変数の設定値	説明
0	セルサイズはアイテムの大きさとバージョンから自動的に決定されます。
5 ~ 10	指定した値がセルサイズになります。

0 または 5 ~ 10 以外の値を指定した場合、または QRCellSizeD に何も指定しなかった場合は、「0」が仮定されます。

QRCellSizeD と QRCellSizeM を同時に指定した場合は、QRCellSizeM の指定値が有効となります。

プリンタ定義ファイルのキーワード QRCellSizeD と環境変数

EURPS_QR_CELL_SIZE_D でセルサイズを同時に指定した場合は、プリンタ定義ファイルのキーワード QRCellSizeD の指定値が有効となります。

(21) QRCellSizeM

生成される QR コードのセルサイズ (1 セル当たりの大きさ) を 100 分の 1 ミリメートル単位で指定します。

表 7-21 QRCellSizeM の設定値

環境変数の設定値	説明
0	セルサイズはアイテムの大きさとバージョンから自動的に決定されます。
21 ~ 126	指定した値がセルサイズになります。

0 または 21 ~ 126 以外の値を指定した場合、または QRCellSizeM に何も指定しなかった場合は、「0」が仮定されます。

QRCellSizeM と QRCellSizeD を同時に指定した場合は、QRCellSizeM の指定値が有効となります。

プリンタ定義ファイルのキーワード QRCellSizeM と環境変数

EURPS_QR_CELL_SIZE_M でセルサイズを同時に指定した場合は、プリンタ定義ファイルのキーワード QRCellSizeM の指定値が有効となります。

(22) GenTextMode

日立の JISX0213:2004 フォントを搭載した PostScript 対応プリンタで、JISX0213:2004 の文字集合の文字を出力するために、PostScript 対応プリンタとデバイスフォントに対応した PS2 形式ファイルを作成します。

7. 帳票出力で使用するファイル

GenTextMode の指定は、PDLType に「PS2」を指定した時だけ有効です。

表 7-22 GenTextMode の設定値

環境変数の設定値	文字コード
RPS2004M-UTF16	UTF-16 エンコーディングの文字を出力します。 PostScript 対応プリンタで出力する JIS2004 字形は、 MS 明朝・MS ゴシック Ver.5.0 の字形に準拠しています。

7.6.3 プリンタ定義ファイルの指定例

(1) 「印刷位置補正情報」を設定する場合

Windows 環境の場合

印刷位置を、右方向に 5.0 (mm) シフトするプリンタ定義ファイルの指定例を次に示します。

```
[Printer1]
  PaperShiftX=5.0
  PaperShiftY=0.0
```

UNIX / Linux 環境の場合

印刷位置を、上方向に 5.0 (mm) シフトするプリンタ定義ファイルの指定例を次に示します。

```
[LIPSPR1]
  PaperShiftX=0.0
  PaperShiftY=-5.0
```

(2) 「UNIX での印刷で使用するプリンタの情報」を設定する場合

3 台のプリンタを使用した、プリンタ定義ファイルの指定例を次に示します。

LIPSPR1 の定義内容

LIPSIII 対応プリンタ、解像度 300dpi、ハードマージン上下左右 5mm、2 段カセット、LP プリンタ名は、Printer1 で登録されているプリンタ、自動給紙、モノクロ印刷、CODE39 バーコードの細エレメント、太エレメント、キャラクタ間ギャップの幅の比を 1 対 2.5 対 1 に変更し、黒バーの太さを 0.04mm 補正、QR コードのセルサイズに 5 ドットを指定し、QR コードのセルサイズに 30(1/100mm) を指定

PSPR2 の定義内容

PostScript Level2 対応プリンタ、解像度 600dpi、ハードマージン上下左右 5mm、両面印刷、用紙の長辺にとじ代を設定、3 段カセット、LP プリンタ名は、Printer2 で登録されているプリンタ、自動給紙、両面カラー印刷、MS 明朝を HeiseiMin-W3-90ms-RKSJ-H に置き換え、MS ゴシックを HeiseiKakugo-W3-90ms-RKSJ-H に置き換え、CODE39 バーコードの細エレメント、太エレメント、キャラクタ間ギャップの幅の比を 1 対 2 対 1 に変更、QR コードのセ

ルサイズに 10 ドットを指定し、QR コードのセルサイズに 50(1/100mm) を指定

ESCP3 の定義内容

ESC/P 対応プリンタ、解像度 180dpi、1 段カセット、LP プリンタ名は、Printer3 で登録されているプリンタ、自動給紙、モノクロ印刷、CODE39 バーコードの細エメント、太エメント、キャラクタ間ギャップの幅の比を 1 対 3 対 1 に変更し、黒バーの太さを 0.05mm 補正、QR コードのセルサイズに 9 ドットを指定し、QR コードのセルサイズに 100(1/100mm) を指定

HP-UX 環境の場合

```
[LIPSPR1]
PDLType=LIPS3
XDpi=300
YDpi=300
Margin=5:5:5:5
Duplex=FALSE
Cassettes=2
DefaultCassette=Auto
Color=FALSE
Command=/usr/bin/lp -c -oraw -onb -dPrinter1
CODE39PARAM=2,1:2.5:1,0.04
QRCellSizeD=5
QRCellSizeM=30

[PSPR2]
PDLType=PS2
XDpi=600
YDpi=600
Margin=5:5:5:5
Duplex=TRUE
DuplexBinding=Long
Cassettes=3
DefaultCassette=Auto
Color=TRUE
Command=/usr/bin/lp -c -oraw -onb -dPrinter2
Font=MS明朝:HeiseiMin-W3-90ms-RKSJ-H,MSゴシック
:HeiseiKakugo-W3-90ms-RKSJ-H
CODE39PARAM=2,1:2:1
QRCellSizeD=10
QRCellSizeM=50

[ESCP3]
PDLType=ESCP
XDpi=180
YDpi=180
Duplex=FALSE
Cassettes=1
DefaultCassette=Auto
Color=FALSE
Command=/usr/bin/lp -c -oraw -onb -dPrinter3
CODE39PARAM=2,1:3:1,0.05
QRCellSizeD=9
QRCellSizeM=100
```

7. 帳票出力で使用するファイル

AIX , および Linux 環境の場合

```
[LIPSPR1]
  PDLType=LIPS3
  XDpi=300
  YDpi=300
  Margin=5:5:5:5
  Duplex=FALSE
  Cassettes=2
  DefaultCassette=Auto
  Color=FALSE
  Command=/usr/bin/lp -c -onobanner -dPrinter1
  CODE39PARAM=2,1:2.5:1,0.04
  QRCellSizeD=5
  QRCellSizeM=30

[PSPR2]
  PDLType=PS2
  XDpi=600
  YDpi=600
  Margin=5:5:5:5
  Duplex=TRUE
  DuplexBinding=Long
  Cassettes=3
  DefaultCassette=Auto
  Color=TRUE
  Command=/usr/bin/lp -c -onobanner -dPrinter2
  Font=MS明朝:HeiseiMin-W3-90ms-RKSJ-H,MSゴシック
:HeiseiKakugo-W3-90ms-RKSJ-H
  CODE39PARAM=2,1:2:1
  QRCellSizeD=6
  QRCellSizeM=50

[ESCPPR3]
  PDLType=ESCP
  XDpi=180
  YDpi=180
  Duplex=FALSE
  Cassettes=1
  DefaultCassette=Auto
  Color=FALSE
  Command=/usr/bin/lp -c -onobanner -dPrinter3
  CODE39PARAM=2,1:3:1,0.05
  QRCellSizeD=9
  QRCellSizeM=100
```

(3) 「PDF 形式ファイルを印刷するときの解像度情報」を設定する場合

UNIX / Linux 環境の場合

PDF 形式ファイルを印刷するプリンタの解像度が 600 (dpi) の場合の , プリンタ定義ファイルの指定例を次に示します。

```
[PDF]
  YDPI=600
```

(4) 「CODE39 バーコードのバーコード補正情報」を設定する場合

CODE39 バーコードの細エレメント, 太エレメント, キャラクタ間ギャップの幅の比を 1 対 2.5 対 1 に変更し, 黒バーの太さを 0.04mm 補正するプリンタ定義ファイルの指定例を次に示します。

Windows 環境の場合

```
[Printer1]
CODE39PARAM=2,1:2.5:1,0.04
```

UNIX / Linux 環境の場合

```
[LIPSPR1]
CODE39PARAM=2,1:2.5:1,0.04
```

(5) Windows 環境で「PDF 形式ファイルにフォントを埋め込む」を設定する場合

PDF 形式ファイルに, 二つのフォントを埋め込み, MS 明朝および MS ゴシックを指定する場合の, プリンタ定義ファイルの指定例を次に示します。

```
[PDF]
EmbedCount=2
Embed1=MS 明朝:c:\windows\fonts\msmincho.ttf
Embed2=MS ゴシック:c:\windows\fonts\msgothic.ttf
```

(6) 「QR コードのセルサイズ」をドット単位で設定する場合

QR コードのセルサイズを 7 ドットにするプリンタ定義ファイルの指定例を次に示します。

Windows 環境の場合

```
[Printer1]
QRCellSizeD=7
```

UNIX / Linux 環境の場合

```
[LIPSPR1]
QRCellSizeD=7
```

(7) 「QR コードのセルサイズ」を 100 分の 1 ミリメートル単位で設定する場合

QR コードのセルサイズを 0.7 ミリメートルにするプリンタ定義ファイルの指定例を次に示します。

Windows 環境の場合

```
[Printer1]
QRCellSizeM=70
```

UNIX / Linux 環境の場合

```
[LIPSPR1]
```

7. 帳票出力で使用するファイル

QRCellSizeM=70

(8) PostScript 対応プリンタで JISX0213:2004 の文字集合の文字を出力する場合

日立の JISX0213:2004 フォントを搭載した PostScript 対応プリンタで、JISX0213:2004 の文字集合の文字を出力するプリンタ定義ファイルの指定例を次に示します。

UNIX / Linux 環境の場合

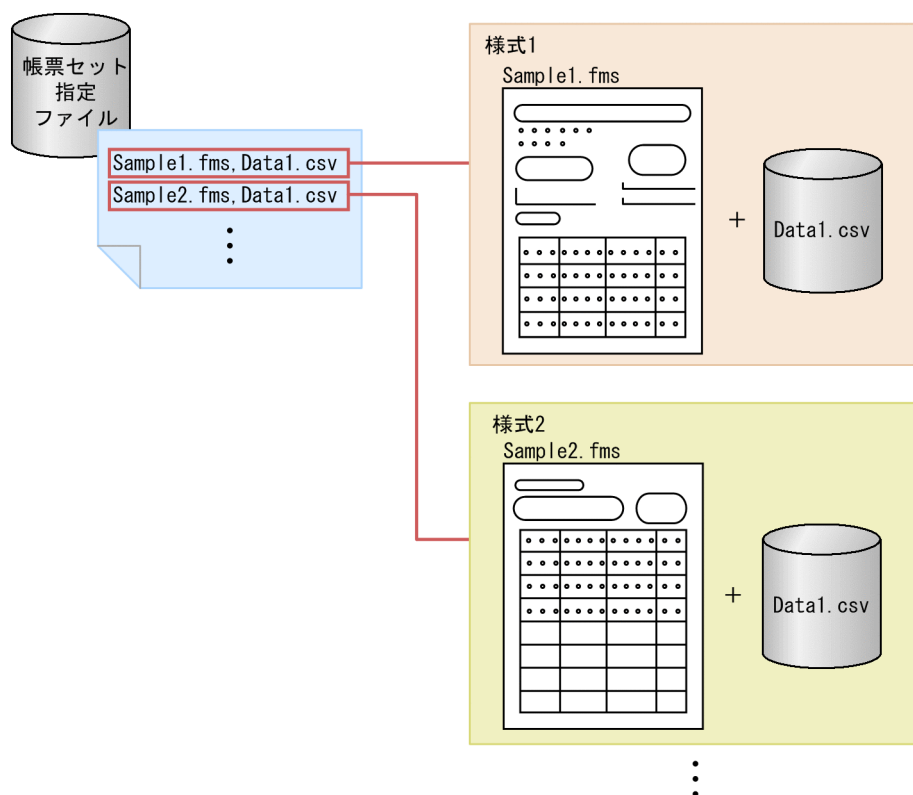
```
[PSPR2]
PDLType=PS2
XDPI=720
YDPI=720
GenTextMode=RPS2004M-UTF16
```

7.7 帳票セット指定ファイル

EUR サーバ帳票出力機能では、複数の帳票ファイルを帳票セットで指定することもできますが、帳票セットで指定する場合は、個数の上限はなくても、コマンドやシステム関数の引数に指定する文字数に制限があります。帳票セットの個数やファイルに指定できる文字数の上限に関係なく指定したい場合は、帳票セットを帳票セット指定ファイルに指定することをお勧めします。

帳票セット指定ファイルは、次のように複数の帳票ファイルを統合する順番と帳票に読み込むデータファイルを指定しておくファイルです。

図 7-3 帳票セット指定ファイル



7.7.1 帳票セット指定ファイルの作成

帳票セット指定ファイルは、メモ帳などのテキストエディタを開いて作成、または編集してください。任意の拡張子のファイルを使用できます。

(1) 帳票セット指定ファイルの形式

帳票セット指定ファイルの形式を次に示します。

7. 帳票出力で使用するファイル

帳票セット₁ ₁ { ₂
 [帳票セット₂ ₁] } { ₂
 :
 [帳票セット_n ₁] }

(凡例)

₁: 0 個以上のタブ, または半角空白を示します。

₂: 改行コード (¥n) を示します。

(2) 帳票セット指定ファイルの編集

帳票セット指定ファイルの編集方法を説明します。

帳票セットの形式

帳票ファイル名 n {, [マッピングデータ n], [ユーザ定義データ n], [しおり定義ファイル]}

「マッピングデータ」と「ユーザ定義データ」に指定するファイル情報は、帳票を設計する時に使用したデータによって、次のように異なります。

- データファイルから読み込んだデータの場合
データファイル名を指定します。省略した場合は、帳票設計時に指定したデータファイル名が入力されます。帳票設計時に指定したデータファイル名は、EUR 帳票作成機能の [データのプロパティ] ダイアログの [データ情報] タブで確認できます。
- データベースアクセス定義で抽出したデータを読み込んだ場合
可変記号値定義ファイル名を指定します。データベースアクセス定義で可変記号を設定しなかった場合、または可変記号の初期値で実行する場合は、可変記号値定義ファイル名の指定を省略できます。
誤ってデータファイル名を指定した場合は、データファイル名が指定されたと見なされます。また、オプション記述ファイルのキーワード「DBInfoFileName」に接続情報ファイルが指定されていない場合は、可変記号値定義ファイルを指定しても、データファイルと見なされます。データベースに接続して帳票にデータを読み込む場合は、「DBInfoFileName」に接続情報ファイルを指定してください。

帳票セットの指定方法

- 帳票セットは、一つ以上指定してください。一つ以上の帳票セットが指定されていない場合は、エラー (KEEU036-E) になります。指定できる帳票セットの上限はありません。
- 帳票セットは、「"」で囲まないでください。帳票セットを「"」で囲んだ場合は、すべてのファイルを帳票ファイルと見なします。
- 「 n」は、ファイル名を区切るコンマ「,」の前に、0 個以上の半角空白、または 0 個以上の改行コード (¥t) が指定できることを示します。
- 帳票ファイルは必ず指定してください。帳票ファイルが指定されていない場合は、エラー (KEEU036-E) になります。

ファイルの指定のしかた

- ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。ファイル名を相対パス、またはファイル名だけで指定した場合、帳票セット指定ファイルのフォルダは、環境変数、または環境設定ファイル（Windows 環境の場合は EURPS_ENV、UNIX / Linux 環境の場合は eurps_env）の EURPS_MULTI_REPORTSETPATH に設定されているフォルダとなります。環境変数 EURPS_MULTI_REPORTSETPATH については、「7.26.12 EURPS_MULTI_REPORTSETPATH」を参照してください。
- ファイル名に空白が含まれている場合は、個々のファイルを「"」で囲んでください。例えば、帳票ファイル名に空白が含まれている場合は、「"Report 1.fms",Mapdata.csv」のように指定します。

7.7.2 帳票セット指定ファイルの指定例

EUR 帳票作成機能で提供されている帳票セット指定ファイルのサンプル例を示します。

（１）サンプル帳票「請求書」の場合

サンプル帳票「請求書」を出力する時に指定する、サンプル帳票セット指定ファイル（formset01（複数様式帳票例１）.txt）の指定例を示します。

一つのデータファイルを二つの異なる様式（帳票）で共有しています。

サンプル帳票セット指定ファイル（formset01（複数様式帳票例１）.txt）の内容

表紙次紙形式の帳票__表紙（複数様式帳票例１）.fms, 表紙次紙形式の帳票__表紙（複数様式帳票例１）.csv

表紙次紙形式の帳票__次紙（複数様式帳票例１）.fms, 表紙次紙形式の帳票__表紙（複数様式帳票例１）.csv

（２）サンプル帳票「従業員勤務歴カード」の場合

サンプル帳票「従業員勤務歴カード」を出力する時に指定する、サンプル帳票セット指定ファイル（formset02（複数様式帳票例２）.txt）の指定例を示します。

二つのデータファイルと三つの異なる様式（帳票）を使用しています。

サンプル帳票セット指定ファイル（formset02（複数様式帳票例２）.txt）の内容

従業員勤務歴１（複数様式帳票例２）.fms, 従業員勤務歴１（複数様式帳票例２）.csv

従業員勤務歴１ - 次紙（複数様式帳票例２）.fms, 従業員勤務歴１（複数様式帳票例２）.csv

従業員勤務歴２（複数様式帳票例２）.fms, 従業員勤務歴２（複数様式帳票例２）.csv

(3) サンプル帳票「保険申込書」の場合

サンプル帳票「保険申込書」を出力する時に指定する、サンプル帳票セット指定ファイル (formset03 (複数様式帳票例3) .txt) の指定例を示します。

一つのデータファイルを三つの異なる様式 (帳票) で共有しています。

サンプル帳票セット指定ファイル (formset03 (複数様式帳票例3) .txt) の内容

保険申込書 (複数様式帳票例3) .fms, 保険申込書 (複数様式帳票例3) .csv

保険申込書__代理店控 (複数様式帳票例3) .fms, 保険申込書 (複数様式帳票例3) .csv

保険申込書__契約者控 (複数様式帳票例3) .fms, 保険申込書 (複数様式帳票例3) .csv

7.8 複数様式情報定義ファイル

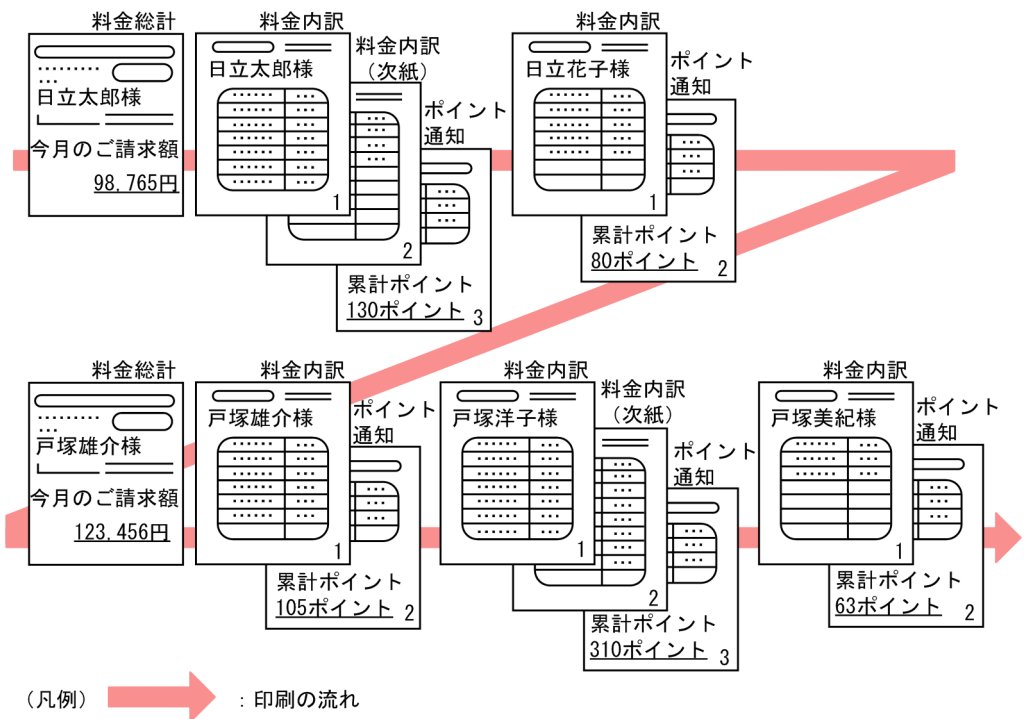
帳票セット、または帳票セット指定ファイルを指定した帳票出力は、指定されている帳票ファイルが順に出力されますが、複数様式情報定義ファイルを指定することで、複数の異なる様式（帳票）を一つの帳票として出力できます。これを「複数様式で帳票を出力する」といいます。

複数様式情報定義ファイルは、様式（帳票フォーマット）や読み込むデータを切り替える条件と、切り替え時の動作を定義しておくファイルです。

同じ様式で出力するデータのまとまりを様式グループといいます。様式グループの中にも様式グループを定義することができます。これをサブ様式グループといいます。サブ様式グループを定義すると、様式グループのデータを細かく切り分けて、それぞれ異なるフォーマットの帳票に出力できます。

サブ様式グループを定義した帳票の出力例を次に示します。

図 7-4 サブ様式グループを定義した帳票の出力例



この出力例では、日立家のデータをすべて出力してから、戸塚家のデータを出力します。一家族分のデータからは、まず家族全員の総計を出力してから、個人の明細を出力します。

7.8.1 複数様式情報定義ファイルの編集

複数様式情報定義ファイルは、メモ帳など、テキストファイルが編集できるエディタを起動して編集します。任意の拡張子のファイルを使用できます。

複数様式情報定義ファイルに指定するキーワードとオプションは、大文字、小文字の区別をしません。

複数様式情報定義ファイルの形式を次に示します。

```
group 様式グループ番号 {
  {grouptransfercondition {
    transfercondition={KBNF|EOFN}
    {fieldname="フィールド名"}
  }}
  {formtransfercondition {
    keybreaktopform={ON|OFF}
    {fieldname="フィールド名"}
  }}
  {formfilename "帳票ファイル名" {
    transfercondition={NPNF|KBNF|EOFN}
    printnewpaper={ON|OFF}
    resetpagenumber={ON|OFF}
    {traycode=給紙トレイ番号}
  }}
  {subgroup サブ様式グループ番号 {
    grouptransfercondition {
      transfercondition=KBNF
      fieldname="フィールド名"
    }
    {formtransfercondition {
      keybreaktopform={ON|OFF}
      {fieldname="フィールド名"}
    }}
    formfilename "帳票ファイル名" {
      transfercondition={NPNF|KBNF}
      printnewpaper={ON|OFF}
      resetpagenumber={ON|OFF}
      {traycode=給紙トレイ番号}
    }
  }}
}
```

:

複数様式情報定義ファイルで指定するキーワードは、次のとおりです。

表 7-23 複数様式情報定義ファイルのキーワード

キーワード	説明	キーワードの省略可否
group	グルーピングした出力様式（様式グループ）を識別する番号を指定します。	×
grouptransfercondition	グループごとに様式を切り替える条件（様式グループ遷移条件）を指定します。	

キーワード	説明	キーワードの省略可否
formtransfercondition	フィールドごとに様式を切り替える条件（様式間遷移条件）を指定します。	
formfilename	様式遷移情報を指定します。 ここでは、様式を切り替える条件、両面印刷時の白紙挿入の条件、ページ番号の指定方法などを設定します。	
subgroup	サブ様式グループを識別する番号を指定します。	

（凡例）

：指定を省略できるキーワードです

×：必ず指定するキーワードです

！ 注意事項

- ・ サブ様式グループは、先頭の様式グループには指定できません。先頭の様式グループに指定してもエラーにはなりませんが、帳票は正しく出力されません。
- ・ 様式グループ、またはサブ様式グループの先頭に定義した様式の帳票は、必ず出力されるように設定する必要があります。様式グループ、またはサブ様式グループの先頭に定義した様式の帳票が出力されない場合、帳票は正しく出力されません。

（1）group

様式グループを識別する番号を指定します。

group の形式

group 様式グループ番号

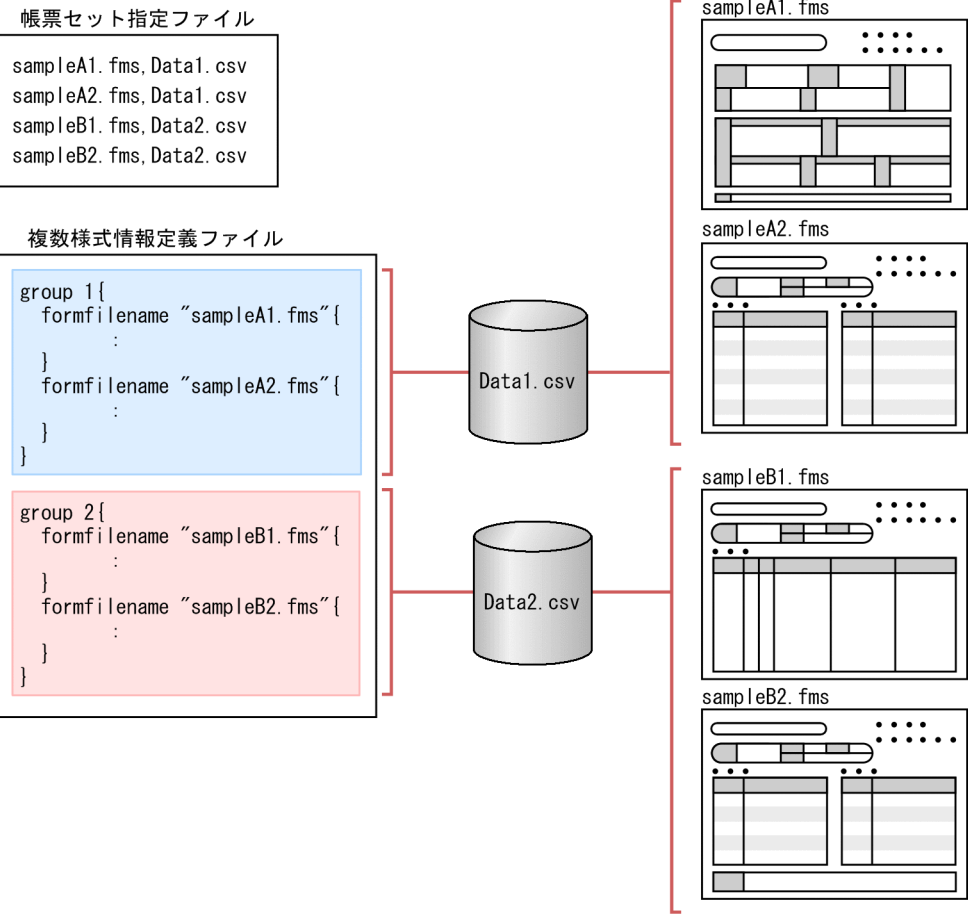
様式グループ番号

様式グループ番号を 1 以上の整数で指定します。様式グループ番号は、様式グループ間で同じ番号がないように指定してください。同じ様式グループ番号がある場合、または様式グループ番号が昇順で指定されていない場合は、エラー（KEEU038-E）になります。

様式グループは、次に示すように、読み込むデータファイルごとに作成します。

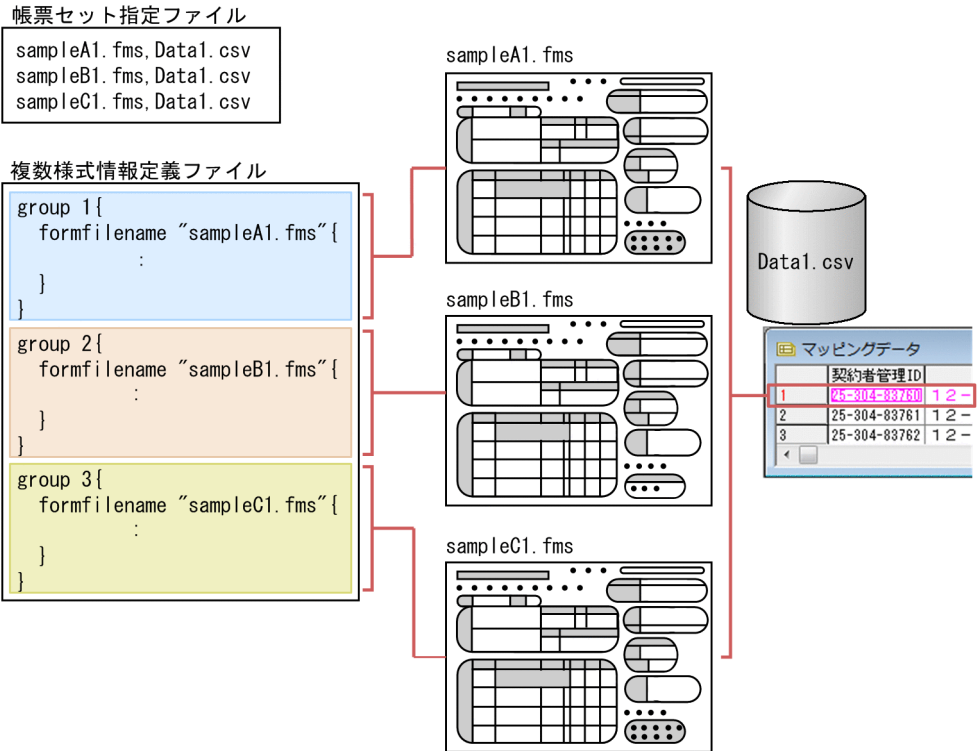
7. 帳票出力で使用するファイル

図 7-5 複数様式情報定義ファイルとデータファイルの例（様式グループを読み込むデータファイルごとに作成する場合）



連票形式の帳票のように，一つのデータファイルを3様式で共有していても，様式ごとに1レコードのデータを読み込む場合は，様式グループは三つになります。

図 7-6 複数様式情報定義ファイルとデータファイルの例（様式ごとに 1 レコードのデータを読み込む場合）



(2) grouptransfercondition

様式グループを切り替える条件を指定します。grouptransfercondition は、指定を省略できます。

grouptransfercondition の形式

```
{ grouptransfercondition {
  transfercondition={KBNF| EOFN}
  { fieldname=" フィールド名 " }
}}
```

キーワード transfercondition の構文

```
transfercondition={KBNF| EOFN}
```

KBNF | EOFN

様式グループを次の様式グループに切り替える条件を指定します。複数様式の PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合は、KBNF を指定してください。

サブ様式グループを切り替える場合は、KBNF を指定します。

- KBNF

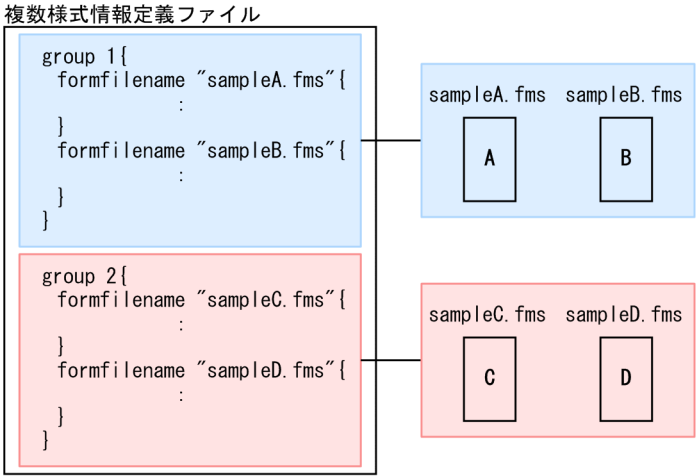
7. 帳票出力で使用するファイル

キーブレイクのタイミングで次の様式グループに切り替えます。KBNF を指定した場合は、キーワード fieldname で、キーブレイクするフィールド名を指定してください。

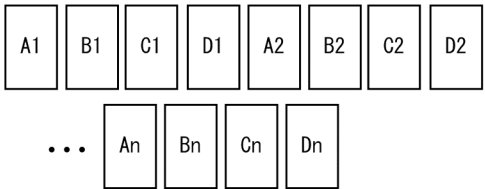
KBNF を指定する場合は、様式グループの formfilename に指定する帳票を設計するとき、フィールド名とフィールド属性が同じになるように指定しておいてください。

- EOFN
様式グループの formfilename に指定されているすべての帳票ファイルを印刷したあと、次の様式グループに切り替えます。

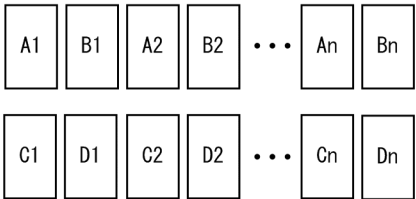
図 7-7 transfercondition の値による様式グループ切り分けタイミングの違い



● 「transfercondition=KBNF」の場合



● 「transfercondition=EOFNF」の場合



キーワード fieldname の構文

fieldname=" フィールド名 "

フィールド名

キーブレイクの対象となるフィールド名を「"」で囲んで指定します。

キーワード `transfercondition` に `KBNF` を指定した場合は、フィールド名を指定してください。

各様式グループに指定されたフィールドが同じ名称でない場合は、エラー (KEEU047-E) になります。また、同じフィールド属性でない場合は、エラー (KEEU049-E) になります。

様式グループとサブ様式グループに指定されたフィールド名が同じ名称の場合は、エラー (KEEU038-E) になります。

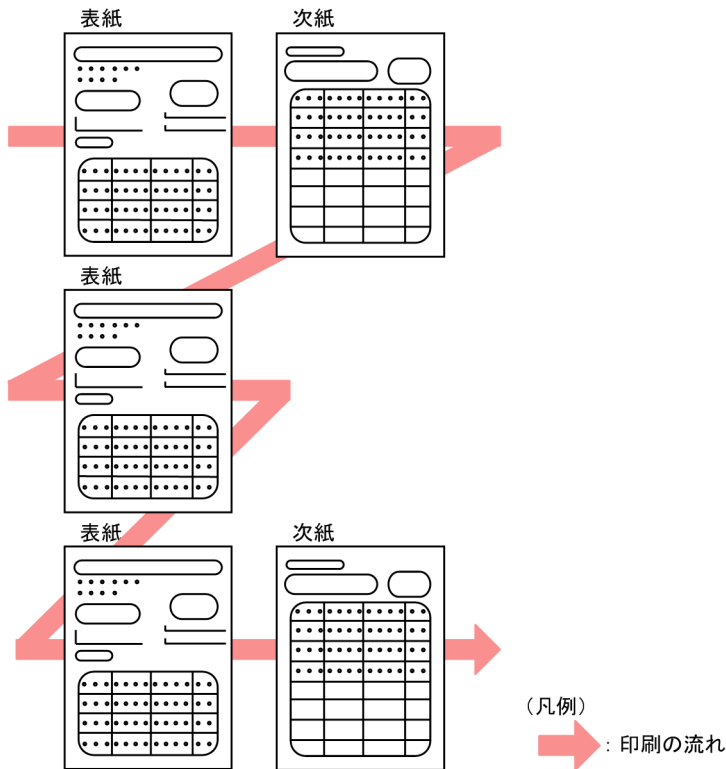
(3) `formtransfercondition`

`grouptransfercondition` は、キーブレイクの対象となるフィールドのデータが変わった時点で次の様式グループに切り替えますが、`formtransfercondition` は、キーブレイクの対象となるフィールドのデータが変わった時点で先頭の様式に切り替えるかどうかを指定します。

例えば、請求書のように、次のような条件で帳票出力する場合、`formtransfercondition` を指定します。

- 様式 1 は必ず出力します。
- 様式 1 に納まらないデータがある場合、続きのデータを様式 2 に出力して、請求先のデータが変わった時点で、様式 1 に戻るようにします。
- 様式 1 の出力で請求先のデータが変わった場合は、様式 1 に戻ります。

図 7-8 formtransfercondition の指定例



このように、先頭の様式を出力したあと、次の様式に続きのデータを出力しなくて済む場合は、formtransfercondition を指定しておく便利です。

formtransfercondition を指定した場合、同じ様式グループ内に subgroup は指定できません。formtransfercondition と subgroup を同時に指定した場合は、エラー (KEEU038-E) になります。

formtransfercondition の形式

```
[ formtransfercondition {
  keybreaktopform={ON|OFF}
  [ fieldname=" フィールド名 " ]
}]
```

キーワード keybreaktopform の構文

keybreaktopform={ON|OFF}

ON | OFF

先頭の様式に切り替えるかどうかを指定します。

- ON

キーブレイクのタイミングで先頭の様式に切り替えます。ON を指定した場

合は、キーワード `fieldname` で、キーブレイクするフィールド名を指定してください。

先頭の様式を出力する場合、ページ番号の開始番号を初期化するときは、先頭の様式の遷移条件でキーワード `formfilename` の `resetpagenumber` に ON を指定しておいてください。

- OFF

先頭への様式には切り替えません。キーワード `formfilename` の `transfercondition` で指定されている各様式の遷移条件での動作になります。

補足説明

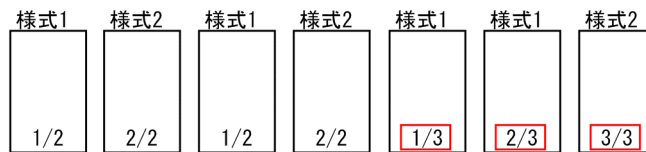
キーワード `transfercondition` で `NPNF` が設定されている場合、先頭の様式でページ番号の開始番号を初期化するときは、キーワード `keybreaktopform` に ON を指定しておいてください。OFF が指定されている場合は、ページ番号が初期化されません。

図 7-9 `keybreaktopform` の値による様式切り替えの違い

- 「`keybreaktopform=ON`」の場合



- 「`keybreaktopform=OFF`」の場合



キーワード `fieldname` の構文

`fieldname="フィールド名"`

フィールド名

キーブレイク対象フィールド名を「`"`」で囲んで指定します。

キーワード `keybreaktopform` に ON を指定した場合は、フィールド名を指定してください。指定されていない場合は、エラー（KEEU038-E）になります。

(4) `formfilename`

様式を次の様式に切り替える条件を指定します。

`formfilename` を指定した場合、同じ様式グループ内に `subgroup` は指定できません。
`formfilename` と `subgroup` を両方指定した場合、またはどちらも指定しなかった場合は、エラー（KEEU038-E）になります。

7. 帳票出力で使用するファイル

formfilename は、様式グループ内に指定する様式の数分を繰り返し指定します。

formfilename の形式

```
formfilename " 帳票ファイル名 " {  
  transfercondition={NPNF|KBNF|EOFN}  
  printnewpaper={ON|OFF}  
  resetpagenumber={ON|OFF}  
  [traycode= 給紙トレイ番号 ]  
}
```

帳票ファイル名

帳票ファイル名を「"」で囲んで指定します。パスの指定は要りません。

指定する帳票ファイル名は、様式グループ間で同じ名称がないように指定してください。同じ名称の帳票ファイルがある場合、または帳票ファイル名をパス指定された場合は、エラー（KEEU038-E）になります。

複数様式で出力する場合は、一組にする帳票すべてに同じキーフィールドで改ページするように設計しておいてください。

帳票ヘッダのある帳票は、複数様式では出力できません。

キーワード transfercondition の構文

```
transfercondition={NPNF|KBNF|EOFN}
```

NPNF | KBNF | EOFN

様式を切り替える条件を指定します。

サブ様式グループの様式を切り替える場合は、NPNF と KBNF が指定できません。

- NPNF（ページエンド改ページ）

キーブレイク以外の改ページのタイミングで、次の様式に切り替えます。

- KBNF（キーブレイク改ページ）

キーブレイクのタイミングで、次の様式に切り替えます。

KBNF を指定した場合、grouptransfercondition もしくは

formtransfercondition のキーワード fieldname に指定されているキーブレイク対象フィールド、または帳票に設定されている改ページのキーフィールドによって様式を切り替えます。

KBNF を指定する場合は、帳票ファイル名に指定する帳票を設計するとき、フィールド名とフィールド属性が同じになるように指定しておいてください。

- EOFN（ファイル終端）

すべての様式のデータを印刷したあと、次の様式に切り替えます。

キーワード printnewpaper の構文

```
printnewpaper={ON|OFF}
```

ON | OFF

様式を両面印刷する場合、空白ページを挿入するかどうかを指定します。

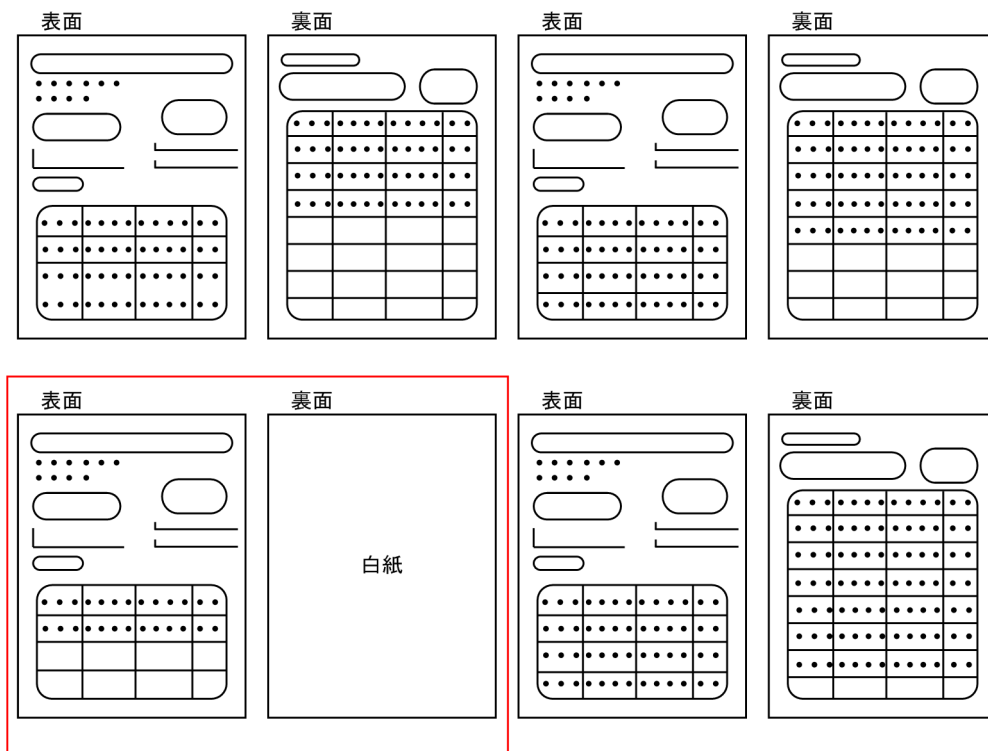
また、両面印刷する場合は、[印刷] ダイアログのプロパティで、用紙の両面に

印刷する指定をしてください。

- ON

必ず奇数ページから印刷されるように、空白ページを挿入します。

図 7-10 printnewpaper が ON の場合の例

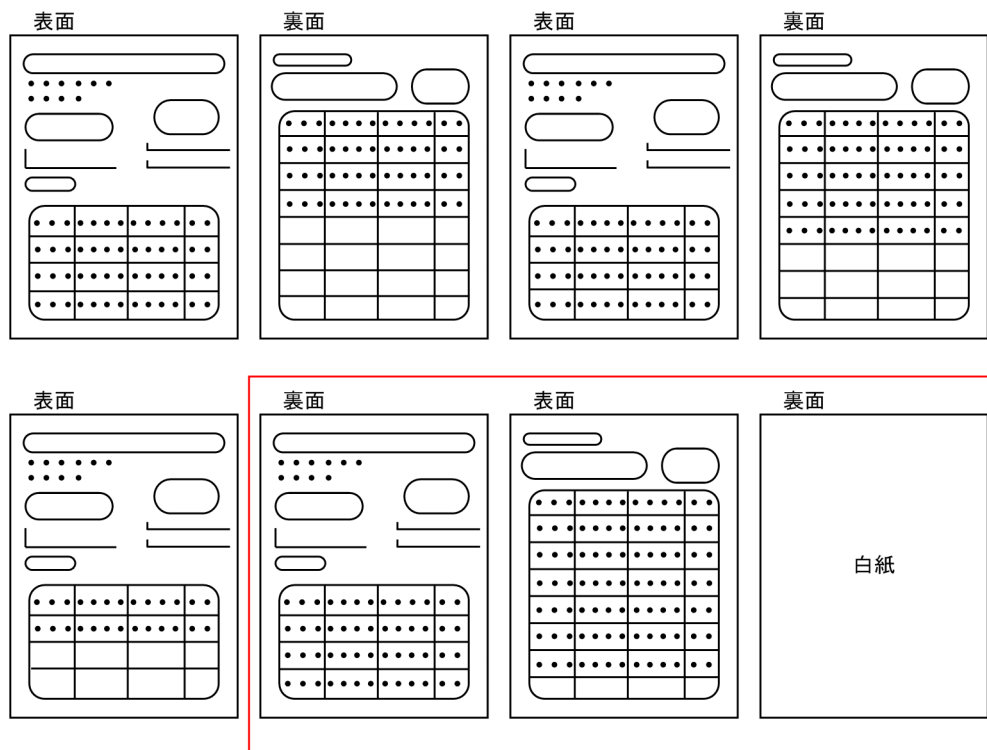


- OFF

印刷している様式に偶数ページがない場合、次の様式を続けて印刷します。

7. 帳票出力で使用するファイル

図 7-11 printnewpaper が OFF の場合の例



キーワード resetpagenumber の構文

resetpagenumber={ON|OFF}

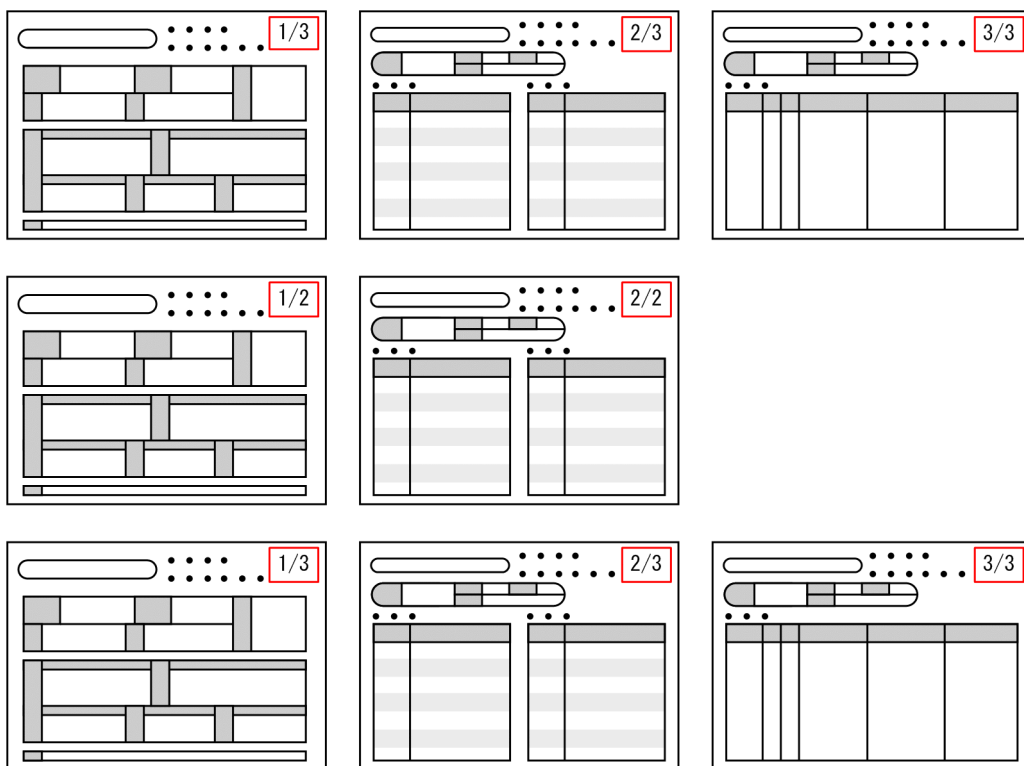
ON | OFF

キーとなるフィールドのデータが変わった時点で、ページ番号の開始番号を初期化するかどうかを指定します。

- ON

キーとなるフィールドのデータが変わった時点で、ページ番号を初期化します。

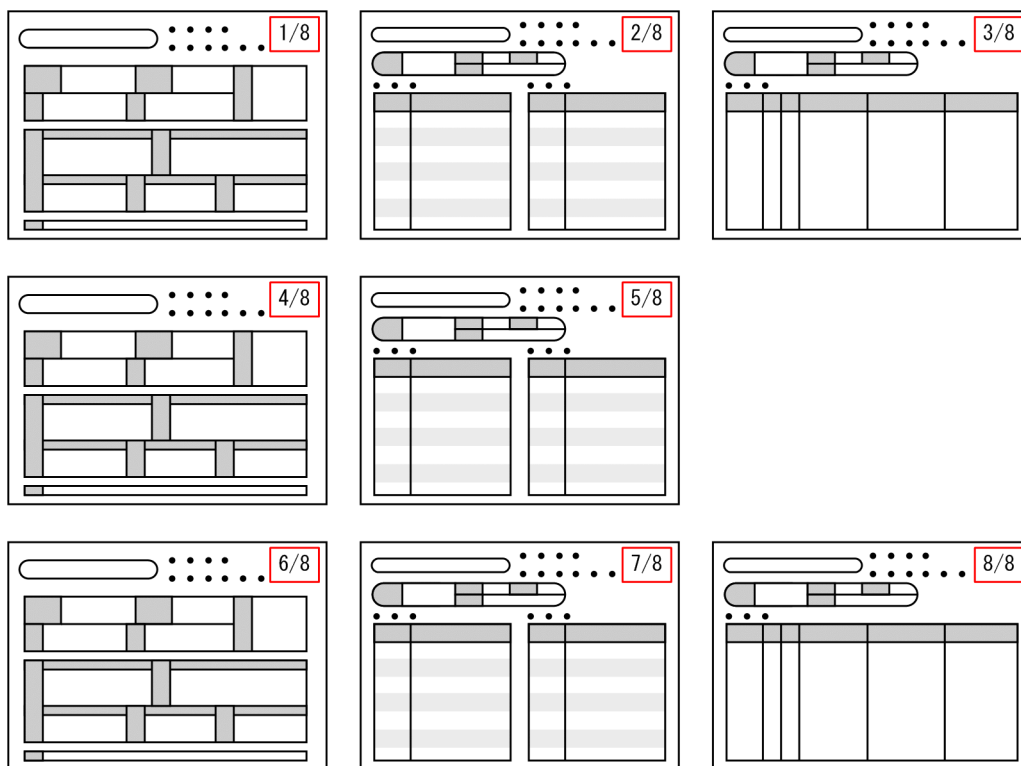
図 7-12 resetpagenumber が ON の場合の例



- OFF

ページ番号は初期化しません。通し番号になります。

図 7-13 resetpagenumber が OFF の場合の例



補足説明

複数様式の帳票の場合、帳票設計時の改ページの設定ではページ番号を初期化するかどうかは有効になりません。キーワード `resetpagenumber` の設定だけが有効になります。

キーワード `traycode` の構文

給紙トレイ番号を指定します。`/tc` オプションを同時に指定した場合、`traycode` の指定が優先されます。

`traycode= 給紙トレイ番号`

給紙トレイ番号

この様式を印刷する場合の給紙トレイ番号を指定します。

• Windows 環境の場合

給紙トレイ番号は、トレイコード表示ツールで表示されるトレイコードを指定してください。省略した場合は、デフォルトの給紙トレイから給紙されます。

• UNIX / Linux 環境の場合

給紙カセットのカセット番号を指定してください。カセット番号は、1 ~ n (n は、プリンタに設定されているカセット番号) で指定します。6 以上の値を指定した場合は、自動給紙となります。省略した場合は、プリンタ定義

ファイルの DefaultCassette キーで指定された方法で給紙します。

(5) subgroup

サブ様式グループを識別する番号を指定します。

subgroup と formfilename は、どちらかを指定してください。subgroup と formfilename を両方指定した場合、またはどちらも指定しなかった場合は、エラー (KEEU038-E) になります。

subgroup を指定すると、formtransfercondition は指定できません。subgroup と formtransfercondition を同時に指定した場合は、エラー (KEEU038-E) になります。

group 文と subgroup 文の様式グループ遷移条件 (grouptransfercondition) のフィールド名 (fieldname) には異なる文字列を指定してください。同じ文字列を指定すると、エラー (KEEU038-E) になります。

subgroup の形式

subgroup サブ様式グループ番号

サブ様式グループ番号

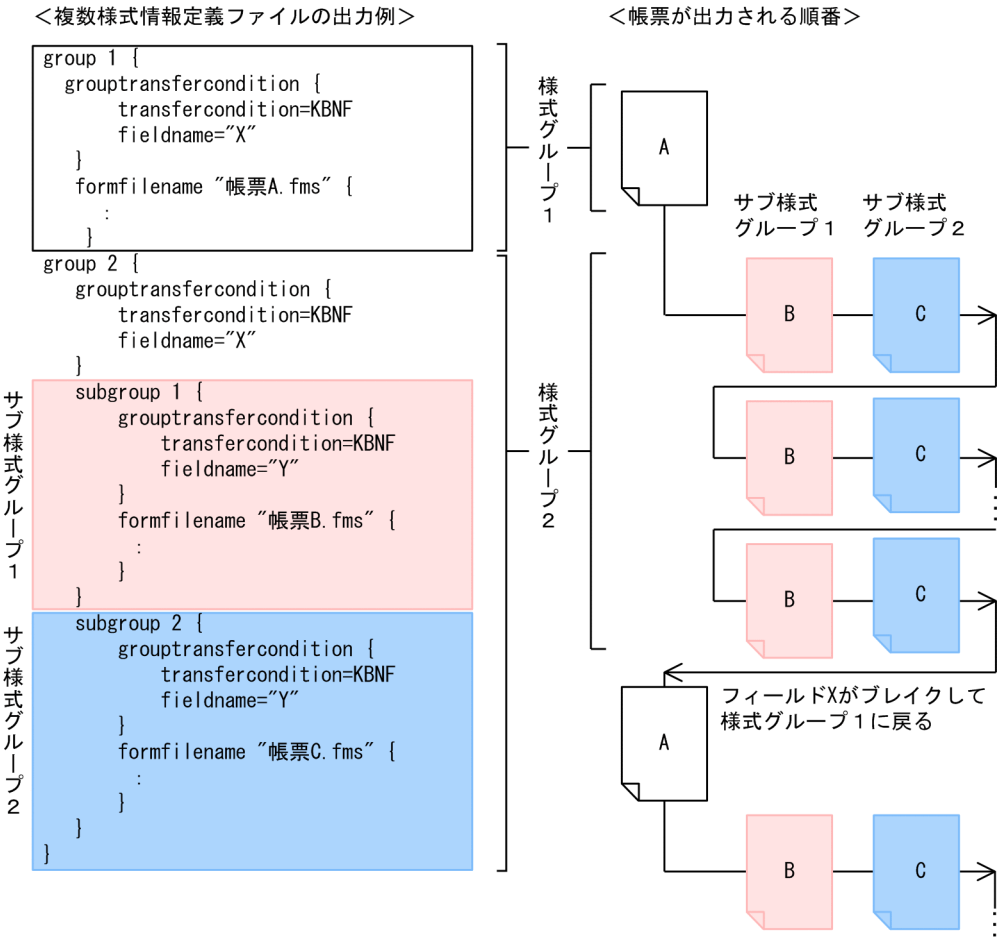
サブ様式グループ番号を 1 以上の整数で指定します。サブ様式グループは、様式グループの中にだけ指定できます。様式グループの中以外に指定した場合は、エラー (KEEU038-E) になります。

また、サブ様式グループ番号は、サブ様式グループ間で同じ番号がないように指定してください。同じサブ様式グループ番号がある場合、またはサブ様式グループ番号が昇順で指定されていない場合は、エラー (KEEU038-E) になります。

サブ様式グループを定義した場合、どのように帳票が出力されるかを次に示します。

7. 帳票出力で使用するファイル

図 7-14 サブ様式グループを定義した場合の帳票の出力例



! 注意事項

サブ様式グループを定義したファイルは、次に示すバージョンの製品で読み込んでください。

製品	バージョン
EUR Designer	08-00 以降
EUR Developer	08-00 以降
EUR Print Service Enterprise	08-00 以降
EUR Professional Edition	05-06 以降
EUR Print Service	05-06 以降

バージョン 05-05 以前の EUR または EUR Print Service で読み込んだ場合はエラー (KEEU038-E) になります。

7.8.2 複数様式情報定義ファイルの指定例

EUR 帳票作成機能で提供されている複数様式のサンプルを基に、複数様式情報定義ファイルの指定内容を示します。

(1) サンプル帳票「請求書」の場合

複数様式のサンプル帳票「請求書」の出力時に指定する、サンプル複数様式情報定義ファイル (formdef01 (複数様式帳票例 1) .txt) の指定例を示します。

```
group 1 {
  formtransfercondition {
    keybreaktopform=ON          ...フィールド「請求書番号」が
                                キーブレイクしたら、
                                先頭の様式 (表紙) に戻ります

    fieldname="請求書番号"
  }
  formfilename "表紙次紙形式の帳票__表紙 (複数様式帳票例 1) .fms" {
    transfercondition=NPNF      ...表紙を1ページ出力すると
                                次紙に移ります

    printnewpaper=OFF
    resetpagenumber=ON         ...次紙から表紙に戻った時に、
                                ページ番号を初期化します
  }
  formfilename "表紙次紙形式の帳票__次紙 (複数様式帳票例 1) .fms" {
    transfercondition=KBNF      ...キーブレイクしたら、
                                表紙に戻ります

    printnewpaper=OFF
    resetpagenumber=OFF        ...表紙からの続きのページ番号を
                                出力します
  }
}
```

注

両面印刷する場合、「表紙次紙形式の帳票__表紙」を表面に印刷したいときは、次のように指定してください。「表紙次紙形式の帳票__次紙」に出力するデータがない場合は、裏面を白紙にします。

7. 帳票出力で使用するファイル

printnewpaper = ON

(2) サンプル帳票「従業員勤務歴カード」の場合

複数様式のサンプル帳票「従業員勤務歴カード」の出力時に指定する、サンプル複数様式情報定義ファイルの指定例（formdef02（複数様式帳票例2）.txt）を示します。

```
group 1 {
    ...「従業員勤務歴カード[I]」と、
    「従業員勤務歴カード[I]（続き）」の
    様式グループです
    grouptransfercondition {
        transfercondition=KBNF
        ...二つの様式は、
        フィールド「従業員番号」が
        キーブレイクしたら、
        様式を切り替えます

        fieldname="従業員番号"
    }
    formfilename "従業員勤務歴 1（複数様式帳票例2）.fms" {
        transfercondition=NPNF
        ...従業員勤務歴 1 が出力されると
        次紙に移ります
        次紙を出力しないで済む場合は
        group 2の従業員勤務歴 2に移ります

        printnewpaper=OFF
        resetpagenumber=ON
        ...従業員勤務歴 1 の出力時は、
        ページ番号を初期化します
    }
    formfilename "従業員勤務歴 1 - 次紙（複数様式帳票例2）.fms" {
        transfercondition=KBNF
        ...フィールド「従業員番号」が
        キーブレイクしたら、
        従業員勤務歴 2 に移ります

        printnewpaper=OFF
        resetpagenumber=OFF
        ...従業員勤務歴 1 からの
        続きのページ番号を出力します
    }
}
group 2 {
    ...「従業員勤務歴カード[II]」の
    様式グループです
    grouptransfercondition {
        transfercondition=KBNF
        ...フィールド「従業員番号」が
        キーブレイクしたら、group 1の
        従業員勤務歴 1 に戻ります

        fieldname="従業員番号"
    }
    formfilename "従業員勤務歴 2（複数様式帳票例2）.fms" {
        transfercondition=KBNF
        printnewpaper=OFF
        resetpagenumber=OFF
        ...従業員勤務歴 1，または次紙からの
        続きのページ番号を出力します
    }
}
```

注

両面印刷する場合、「従業員勤務歴カード[I]」を表面に印刷したいときは、次のように指定してください。

```
printnewpaper = ON
```

(3) サンプル帳票「保険申込書」の場合

複数様式のサンプル帳票「保険申込書」の出力時に指定する、サンプル複数様式情報定義ファイル (formdef03 (複数様式帳票例3) .txt) の指定例を示します。

```
group 1 {
  formfilename "保険申込書 (複数様式帳票例3) .fms" {
    transfercondition=KBNF      ...キーブレイクしたら、
                                group 2の代理店控に移ります
    printnewpaper=OFF
    resetpagenumber=ON          ...保険申込書の出力時は、
                                ページ番号を初期化します
  }
}
group 2 {
  formfilename "保険申込書__代理店控 (複数様式帳票例3) .fms" {
    transfercondition=KBNF      ...キーブレイクしたら、
                                group 3の契約者控に移ります
    printnewpaper=OFF
    resetpagenumber=OFF        ...前の様式からの続きのページ番号を
                                出力します
  }
}
group 3 {
  formfilename "保険申込書__契約者控 (複数様式帳票例3) .fms" {
    transfercondition=KBNF      ...キーブレイクしたら、
                                group 1の保険申込書に戻ります
    printnewpaper=OFF
    resetpagenumber=OFF        ...前の様式からの続きのページ番号を
                                出力します
  }
}
```

(4) サブ様式グループを指定した場合

サブ様式グループを指定した複数様式の帳票の出力時に指定する、複数様式情報定義ファイルの指定例を示します。

```
group 1 {
  ... 「sample1」の様式グループです
  grouptransfercondition {
    transfercondition=KBNF      ...フィールド「A」がキーブレイクしたら、
                                様式を切り替えます
    fieldname="A"
  }
  formfilename "sample1.fms" {
    transfercondition=NPNF      ...sample1が出力されると
                                subgroup 1のsample2に移ります
    printnewpaper=OFF
    resetpagenumber=ON          ...sample1の出力時は、
                                ページ番号を初期化します
  }
}
```

7. 帳票出力で使用するファイル

```
group 2 {                                ...「sample2」と「sample3」の
                                         様式グループです
  grouptransfercondition {
    transfercondition=KBNF              ...フィールド「A」がキーブレイクしたら、
                                         group 1のsample1に戻ります。
    fieldname="A"
  }
  subgroup 1 {                          ...「sample2」の
                                         サブ様式グループです
    grouptransfercondition {
      transfercondition=KBNF            ...フィールド「B」がキーブレイクしたら、
                                         様式を切り替えます
      fieldname="B"
    }
    formfilename "sample2.fms" {
      transfercondition=NPNF            ...sample2が出力されると
                                         subgroup 2のsample3に移ります
      printnewpaper=OFF
      resetpagenumber=ON               ...sample2の出力時は、
                                         ページ番号を初期化します
    }
  }
  subgroup 2 {                          ...「sample3」の
                                         サブ様式グループです
    grouptransfercondition {
      transfercondition=KBNF            ...フィールド「B」が
                                         キーブレイクしたら、group 1の
                                         sample1に戻ります
      fieldname="B"
    }
    formfilename "sample3.fms" {
      transfercondition=NPNF
      printnewpaper=OFF
      resetpagenumber=ON               ...sample3の出力時は、
                                         ページ番号を初期化します
    }
  }
}
```

7.9 接続情報ファイル

接続情報ファイルは、データベースと接続するために必要な情報を定義するファイルです。入力データをデータベースから読み込んで帳票を出力する場合に、接続するデータベースの情報を接続情報ファイルに定義します。

接続情報ファイルは、一つの接続先について一つ作成します。EUR サーバ帳票出力機能の実行時には、接続情報ファイルを一つだけ指定できます。

7.9.1 接続情報ファイルの作成

接続情報ファイルは、メモ帳などのテキストエディタを開いて作成、または編集してください。任意の拡張子のファイルを使用できます。

(1) 接続情報ファイルの形式

キーワード = 値

(凡例)

: 0 個以上のタブ、半角空白、または全角空白を示します。

(2) 接続情報ファイルのキーワード

接続情報ファイルに記述するキーワードを次に示します。接続情報ファイルに指定するキーワードは、大文字、小文字を区別します。

なお、不正なキーワードが指定された場合は、エラー (KEEU055-E) になります。

表 7-24 接続情報ファイルのキーワード

キーワード	値	省略の可否
DABrokerHost	DABroker のホスト名または IP アドレスを指定します。	×
DBType	データベースの種別を指定します。指定できる種別 ¹ は、「HiRDB」「ORACLE」または「SQLServer」です。	×
SendBufferSize	送受信領域サイズを、1 ~ 16,000 (KB) の値で指定します。	×
TimeoutInterval	応答監視時間を、0 ~ 3,600 (秒) の値で指定します。	×
Hostname ²	データベースの種別ごとに、データベースホスト名を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・「HiRDB」の場合：ホスト名または IP アドレス ・「ORACLE」の場合：ネットサービス名 (省略可) ・「SQLServer」の場合：ODBC データソース名 	
HostInfo ²	データベースの種別ごとに、データベース識別子を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・「HiRDB」の場合：接続ポート名 ・「ORACLE」の場合：指定不要 ・「SQLServer」の場合：指定不要 	

7. 帳票出力で使用するファイル

キーワード	値	省略の可否
User ^{2, 3}	ユーザ ID を指定します。	×
Password ^{2, 3}	パスワードを指定します。暗号化したパスワードも指定できます。パスワードの暗号化については、「7.9.1(5) パスワードの暗号化」を参照してください。	
QueryExclusiveString ²	<ul style="list-style-type: none"> データを抽出する時のデータベースへの排他オプションを指定します。ここで指定した文字列は、EUR サーバ帳票出力機能が作成した SQL の最後に付加されます。 キーワード QueryExclusiveString の指定は、接続先データベースが HiRDB の場合に有効です。排他オプションの詳細については、マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。 	
EncryptPassword	パスワードが、暗号化されているかされていないかが設定されます。このキーワードは、接続情報パスワード暗号化ツールを実行すると自動的に設定されるので、指定および変更をしないでください。	

(凡例)

- ： 指定を省略できるキーワードです。
- ： 指定および変更してはいけないキーワードです。
- × : 必ず指定するキーワードです。

注 1

XDM/RD E2 に接続する場合は、HiRDB を指定してください。

注 2

キーワードの指定は、接続先データベースに依存します。そのため、指定を省略できるキーワードでも、接続先データベースでは指定が必要な場合もあります。接続情報ファイルに記述するキーワードの指定規則については、接続先データベースのマニュアルを参照してください。

注 3

EUR サーバ帳票出力機能は、指定されたユーザ ID およびパスワードを、直接データベースに渡します。指定する文字列の規則については、接続先データベースのマニュアルを参照してください。

(3) 接続情報ファイルの指定例

接続情報ファイルの指定例を次に示します。

```
DABrokerHost = hostname
DBType = HiRDB
SendBufferSize = 64
TimeoutInterval = 60
User = USERID
QueryExclusiveString = WITH ROLLBACK
```


(4) 接続情報ファイルでの注意事項

各データベースへ接続する場合の注意事項について説明します。データベースの接続設定については、「付録 B DABroker の利用」を参照してください。

(a) DABroker と HiRDB を別マシンにインストールしているときの注意

DABroker がインストールされているマシンに、HiRDB のクライアントの設定をしてください。そこで設定したホスト名、IP アドレスまたは接続ポート名を、キーワード Hostname に指定してください。HiRDB のクライアントの設定については、マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。

(b) DABroker と Oracle を別マシンにインストールしているときの注意

DABroker がインストールされているマシンに、Oracle のクライアントの設定をしてください。そこで設定したネットサービス名称を、キーワード Hostname に指定してください。Oracle のクライアントの設定については、Oracle のマニュアルを参照してください。

(c) SQL Server を使用するときの注意

DABroker がインストールされているマシンで、システムデータソースとして、SQL Server の ODBC データソースを追加してください。

SQL Server の ODBC データソース追加時の設定で、「SQL Server が、ログイン ID の権限の確認を行う方法は？」に「ユーザーが入力する SQL Server 用のログイン ID とパスワードを使う」を選択してください。

追加した SQL Server の ODBC データソース名を、キーワード Hostname に指定してください。

(5) パスワードの暗号化

セキュリティを強化するために、接続情報ファイルに設定されたキーワード Password のパスワードを暗号化できます。パスワードを暗号化すると、接続情報ファイルのキーワード「EncryptPassword」に「TRUE」が設定されます。

(a) パスワードを暗号化する方法

パスワードの暗号化は、接続情報パスワード暗号化ツールで行います。接続情報パスワード暗号化ツールは、EUR Developer、EUR Print Service、および EUR Print Service Enterprise に同梱されています。

Windows 環境のファイルを暗号化する場合

Windows 環境の接続情報ファイルのパスワードを暗号化する場合は、接続情報パスワード暗号化ツール「eurecdif.exe」を使用します。「eurecdif.exe」は EUR Developer、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise のインストー

7. 帳票出力で使用するファイル

ル先フォルダ ¥Program¥ 下にあります。

- コマンドの構文

```
eurecdif.exe  
    /if 暗号化対象ファイルパス  
    /of 出力先ファイルパス
```

- /if オプション

パスワードを暗号化する接続情報ファイル名のフルパスを、259 文字以内で指定します。

- /of オプション

パスワードを暗号化したデータを出力するファイルのフルパスを、259 文字以内で指定します。

UNIX / Linux 環境のファイルを暗号化する場合

UNIX / Linux 環境の接続情報ファイルを暗号化する場合は、接続情報パスワード暗号化ツール「eurecdif」を使用します。「eurecdif」は、/opt/eurps/bin/ 下にあります。

- コマンドの構文

```
eurecdif  
    -if 暗号化対象ファイルパス  
    -of 出力先ファイルパス
```

- -if オプション

パスワードを暗号化する接続情報ファイル名のフルパスを、1,023 バイト以内で指定します。

- -of オプション

パスワードを暗号化したデータを出力するファイルのフルパスを、1,023 バイト以内で指定します。

(b) 出力されるファイル

パスワード暗号化ツールのコマンドを実行すると、接続情報ファイルの中のパスワードだけを暗号化し、指定したファイルに出力されます。暗号化前のファイルへの上書きはできません。

7.10 可変記号値定義ファイル

データベースから抽出したデータを使って帳票を出力したい場合は、データファイルを指定するプロパティに可変記号値定義ファイルを指定します。

可変記号値定義ファイルは、データベースからデータを検索し、条件に合ったデータを抽出する時に必要な、検索条件の可変記号とその値（可変記号値）を定義するためのファイルです。可変記号は、条件式の条件値だけを変更する場合に使います。

帳票を設計した時に設定された可変記号に、可変記号値を定義することで、条件に合った抽出データで帳票を出力できます。接続情報ファイルと組み合わせて使用します。

可変記号値定義ファイルは、一つの帳票ファイルに対して、マッピングデータ用とユーザ定義データ用にそれぞれ一つずつ作成します。

7.10.1 可変記号値定義ファイルの作成

可変記号値定義ファイルは、メモ帳などのテキストエディタを開いて作成、または編集してください。任意の拡張子のファイルを使用できます。

(1) 可変記号値定義ファイルの形式

```
可変記号1 = 値1
可変記号2 = 値2
      :
可変記号n = 値n
```

(凡例)

: 0 個以上のタブ、半角空白または全角空白を示します。

n : 複数指定ができることを示します。

可変記号

可変記号には、EUR 帳票作成機能で [可変記号入力] ダイアログに設定した可変記号の文字列を指定します。指定できる可変記号の数は、255 個までです。1 個の可変記号の文字列長は、254 バイトまでです。同一名の可変記号は指定できません。指定された場合、最初に記述した可変記号名だけが有効となり、2 番目以降の記述は無視されます。

可変記号に指定できる文字は、次のとおりです。半角空白は指定できません。

- 全角文字：漢字、ひらがな、カタカナ、英字（A ～ Z）、数字（0 ～ 9）
- 半角カタカナ
- 半角英字：A ～ Z
- 半角数字：0 ～ 9

先頭 1 文字目は、全角文字、半角カタカナ、または半角英字を指定してください。

先頭 1 文字目に、半角数字は指定できません。

可変記号値

7. 帳票出力で使用するファイル

検索条件の文字列を指定します。

可変記号値については、各データベースの仕様に依存します。

(2) 可変記号値定義ファイルの指定例

可変記号値定義ファイルの指定例を次に示します。

代理店 = 横浜
請求書番号 = 100

(3) 使用できる文字

データベース接続で利用できる文字についての注意を次に示します。

HiRDB および Oracle は、Shift JIS と UTF-8 に対応しています。XDM/RD E2 および SQL Server は Shift JIS に対応しています。

Shift JIS データベースの場合

データベースに格納されているデータは、Shift JIS で取り出してください。

Shift JIS コードの文字とは、次のような文字です。

- ・ 1 バイト文字で 0x20 ~ 0x7E, または 0xA1 ~ 0xDF
- ・ 2 バイト文字で 1 バイト目が, 0x81 ~ 0x9F, または 0xE0 ~ 0xFC
- ・ 2 バイト文字で 2 バイト目が, 0x40 ~ 0x7E, または 0x80 ~ 0xFC

例えば、CHAR 属性の列に 0x00 が入っている場合は、0x00 以降のデータは取り出されません。データを取り出す対象となる列に 0x00 から始まるデータが格納されている場合は、NULL 値となります。

データを取り出す対象となる列にバイナリデータが格納されている場合は、文字列として取り出されます。

Unicode データベースの場合

データベースに格納されているデータは、UTF-8 で取り出してください。UTF-8 は、次のような文字です。

UTF-8			文字の種類
1 バイト目	2 バイト目	3 バイト目	
00-7F	-	-	制御コード ASCII 文字
C0-DF	80-BF	-	UCS-2 マルチバイト文字 (0x0080-0x07FF)
E0-EF	80-BF	80-BF	UCS-2 マルチバイト文字 (0x0800-0xFFFF)

サポート文字は、ASCII 文字 (X'20' ~ X'7E'), UCS-2 マルチバイト文字 (0x0080-0x07FF, 0x0800-0xFFFF) の範囲です。サロゲートペアにも対応します。

サポートしていない文字が指定されていた場合、データベースに格納されているデータと異なる文字で出力されることがあります。

0 バイト定数と NULL 値を区別しないでください。

データベース接続では、0 バイト定数と NULL 値はどちらも NULL 値として扱われ、区別されません。

表名や列名に引用符 (") が含まれている場合は、正しく動作しません。

上記範囲外の文字コードを含むデータを抽出した場合の動作は、保証しません。

7.11 仕分け定義情報ファイル

Windows 版 EUR サーバ帳票出力機能では、JP1/Network Printing System を利用することで、JP1 と連携した仕分け印刷が実現できます。

仕分け印刷とは、EUR 帳票作成機能で定義した帳票を、配布先のプリンタごとに仕分けして出力することです。例えば、地区、フロアをキーにして印刷を実行すると、各地区、各フロアにあるプリンタへ、配布先ごとのデータに仕分けして印刷できます。

仕分け印刷をする場合は、仕分け定義情報ファイルが必要です。仕分け定義情報ファイルは、EUR 帳票作成機能の [仕分けキーフィールド選択] ダイアログで仕分けキーフィールドを設定したあと、メモ帳などの編集エディタで配布先名称などを編集します。任意の拡張子のファイルを使用できます。

7.11.1 JP1 と連携して仕分け印刷する場合

JP1 と連携して仕分け印刷する場合の仕分け定義情報ファイルの指定方法を次に示します。

(1) 仕分け定義情報ファイルの編集手順

EUR 帳票作成機能で定義した仕分け定義情報ファイルの編集手順を次に示します。

1. 仕分け定義情報ファイルの転送

仕分け定義情報ファイルを、EUR サーバ帳票出力機能で仕分けを実行する PC に転送します。

2. 編集エディタの起動

メモ帳など、テキストファイルが編集できるエディタを起動します。

3. 仕分け定義情報ファイルの編集

仕分け定義情報ファイルを開き、配布先名称などを指定します。

"HOLD" : 保留オプションの指定

"HOLD" 行は、JP1 と連携して仕分け印刷する場合に使用される情報です。

JP1 と連携して仕分け印刷したあと、仕分け元の帳票を仕分けプリンタに保留するかどうかを指定します。保留する場合は「on」、保留しない場合は「off」を指定します。デフォルトは「off」です。

"KEYFIELD" : 仕分けキーフィールドの情報

"KEYFIELD" 行には、EUR 帳票作成機能で [仕分けキーフィールド選択] ダイアログに設定した仕分けキーフィールドの情報が、次のように表示されます。

"KEYFIELD" 行の形式

"KEYFIELD"," キー数 "," 仕分けキーフィールド 1 "," 仕分けキーフィールド 2 ",...

"UNDEFDEST" : 未定義ページ情報

"UNDEFDEST" 行には、未定義ページの扱いを指定します。

未定義ページとは、出力する帳票が何ページもある場合、指定したキーフィールドのデータでキーワード情報に定義されていないデータが現れたページのことを指します。"UNDEFDEST" 行には、未定義ページの扱いを次のように指定します。

- 未定義ページがあった場合、すべてのページを配布しないとき
3 行目を「"UNDEFDEST","no distribution"」と指定します。
- 前ページと同じ配布先に未定義ページを出力する場合
4 行目を「"UNDEFDEST","same as prev"」と指定します。
- 未定義ページだけ特定の配布先に出力する場合
5 行目を「"UNDEFDEST","default dest"," 配布先名称 」」と指定します。
なお、"UNDEFDEST" 行の先頭すべてが「"#UNDEFDEST"」の場合は、未定義ページを配布しません。

"DEST": 配布先の指定

"DEST" 行には、各キーワードに対応する配布先レコードを指定します。

"DEST" 行の形式

"DEST"," 配布先名称 "," 仕分けキーフィールド 1 のデータ "," 仕分けキーフィールド 2 のデータ "

"DEST" 行は、仕分け先に合わせて、行を追加したり、削除したりすることもできます。

2 番目の項目「 配布先名称 」は必ず指定してください。

「 配布先名称 」には、配布先プリンタ名、または印刷実行するユーザで定義した JP1/Network Printing System の仕分け定義情報の配布先情報名を指定します。

配布先名称は、次のような形式で記述します。

¥¥ マシン名 ¥¥ プリンタ名

- 配布先プリンタ名を指定する場合
配布先プリンタ名は、システム環境、名称などの制約がありますので、システム構築の内容を確認してから指定してください。
配布先プリンタは、JP1/Network Printing System の [定義項目の選択] ダイアログの [配布先定義] タブに指定できるプリンタを指定します。配布先プリンタを指定すると、JP1/Network Printing System の仕分け定義情報の、配布先情報名の定義が要らないので、作業が軽減できます。
なお、この場合は、配布される帳票の仕分けオプションは、次のようになります。
 - ・ 配布先ユーザ名の指定はできません。EUR サーバ帳票出力機能の印刷実行ユーザと同一のユーザ名で配布されます。
 - ・ 印刷部数の指定はできません。1 部（固定）で配布されます。
 - ・ セパレータを出力しません。
 - ・ 配布先に保留しません。
- JP1/Network Printing System の仕分け定義情報の配布先情報名を指定する場合
配布先情報名を指定する場合は、帳票の仕分けオプション（配布先ユーザ名の指定、印刷部数、セパレータ出力、配布先に保留）の指定が、JP1/Network Printing System の [定義項目の選択] ダイアログの [配布先定義] タブでできます。配布

7. 帳票出力で使用するファイル

先のプリンタも、配布先情報を指定する時に指定できるかどうかチェックされるので、定義ミスがありません。また、配布先のプリンタ名称などが変更になった場合は、仕分け定義情報ファイルの定義内容を変更しなくても、[配布先定義] ダイアログの内容を変更するだけで、仕分け印刷されます。仕分け配布のシステム構築については、JP1のマニュアル、またはヘルプを参照してください。

4. 仕分け定義情報ファイルの保存

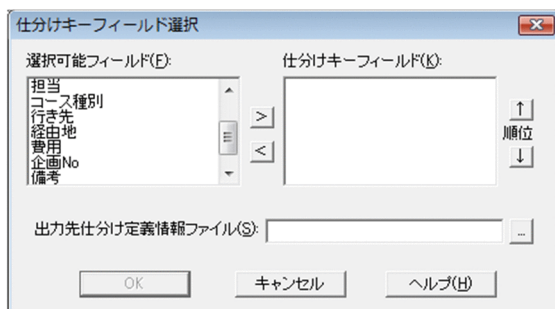
(2) 仕分け定義情報ファイルの編集例

「地区」と「フロア」フィールドを仕分けキーフィールドに指定して、次のように仕分けする場合の仕分け定義情報ファイルの例を示します。

- ・「地区」が「東京」で、「フロア」が「1」の場合
仕分け先「東京支店 PR1 への配布」に出力します
- ・「地区」が「東京」で、「フロア」が「2」の場合
仕分け先「東京支店 PR2 への配布」に出力します
- ・「地区」が「横浜」で、「フロア」が「1」の場合
仕分け先「横浜支店 PR1 への配布」に出力します
- ・「地区」が「横浜」で、「フロア」が「2」の場合
仕分け先「横浜支店 PR2 への配布」に出力します

1. 仕分けキーフィールドの指定

EUR 帳票作成機能の [仕分けキーフィールド選択] ダイアログで、「地区」と「フロア」フィールドを仕分けキーフィールドに指定します。



2. 編集エディタで仕分け定義情報ファイルを開く

仕分け定義情報ファイルを EUR サーバ帳票出力機能に転送し、編集エディタで開くと、次のように表示されます。

"HOLD","off"

"KEYFIELD"," 2","地区","フロア"

"#UNDEFDEST","no distribution"

"#UNDEFDEST","same as prev"

"#UNDEFDEST","default dest",""

"DEST","","東京","1"


```
"DEST","","東京","2"
```

```
"DEST","","横浜","1"
```

```
"DEST","","横浜","2"
```

```
:
```

3. 仕分け定義情報ファイルの編集

未定義ページの扱いを指定したり、配布先名称などを指定したりして、仕分け定義情報ファイルを次のように編集します。ここでは、未定義ページを「本店 PR1 への配布」に出力するようにしています。

```
"HOLD","off"
```

```
"KEYFIELD","2","地区","フロア"
```

```
"#UNDEFDEST","no distribution"
```

```
"#UNDEFDEST","same as prev"
```

```
"UNDEFDEST","default dest","本店 PR1 への配布"
```

```
"DEST","東京支店 PR1 への配布","東京","1"
```

```
"DEST","東京支店 PR2 への配布","東京","2"
```

```
"DEST","横浜支店 PR1 への配布","横浜","1"
```

```
"DEST","横浜支店 PR2 への配布","横浜","2"
```

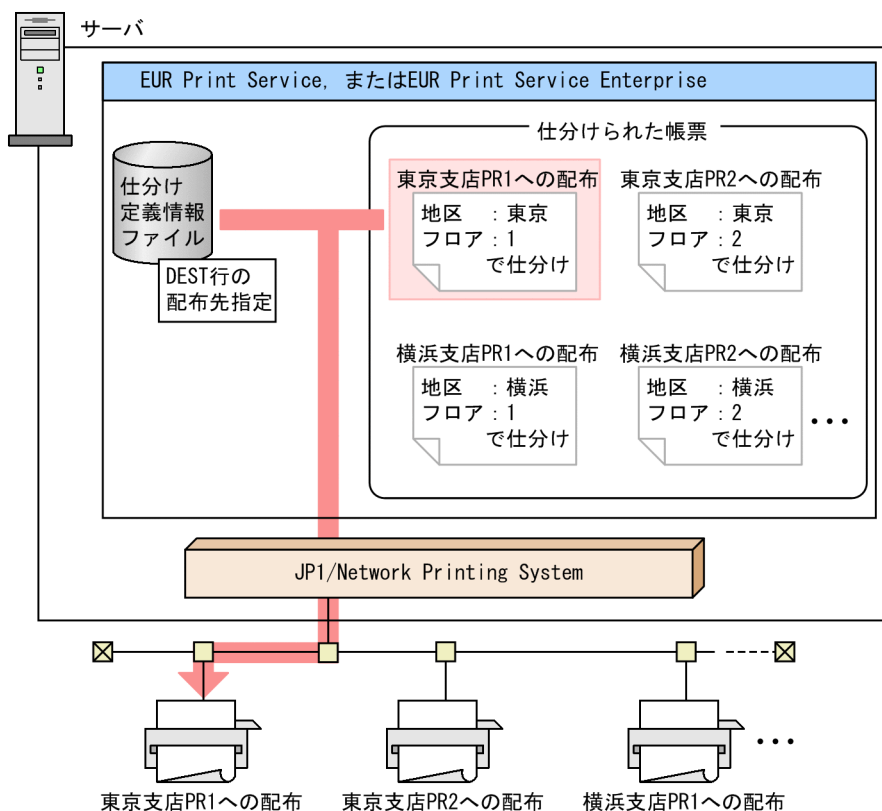
```
:
```

JP1 と連携して仕分け印刷する流れ

JP1 と連携して仕分け印刷する流れを次に示します。

仕分け定義情報ファイルの配布先名称に JP1/Network Printing System で指定した配布先プリンタ名, または配布先情報名を設定することで, 仕分けられた帳票が出力されます。

図 7-15 仕分け印刷の流れ



(3) 仕分け印刷の実行

JP1 と連携した仕分け印刷は, eurps コマンドから実行できます。

eurps コマンドの /p オプションに仕分けプリンタ名, /ds オプションに仕分け定義情報ファイルを指定します。

eurps コマンドの構文については, 「3.2.2 eurps コマンドのオプション一覧」を参照してください。

注意

仕分け定義情報ファイルは, フルパス, 相対パス, またはファイル名だけのどれかで指定します。相対パス, またはファイル名だけで指定する場合, 仕分け定義情報ファイルのフォルダは, 環境変数, または環境設定ファイル (EURPS_ENV) の

EURPS_DISTINFOPATH に設定されているフォルダとなります。環境変数 EURPS_DISTINFOPATH については、「7.26.9 EURPS_DISTINFOPATH」を参照してください。

7.11.2 仕分け印刷するときの注意

仕分けキーフィールドの指定は、ページごとにキーフィールドのデータと仕分け情報を比較して、仕分けされます。次のような帳票の場合は、仕分け印刷をするときに注意してください。

- 1 ページ中に仕分けキーフィールドのデータが、複数繰り返して表示されている帳票の場合
仕分け印刷は、ページ単位に仕分けをします。そのため、1 ページに複数の情報があっても、分別して配布することはできません。フィールドのデータごとに分別して配布したい場合は、仕分けをする前に改ページをして、1 ページに 1 仕分けキーフィールドのデータだけが表示されるように設計してください。
1 ページ中に仕分けキーフィールドのデータが複数繰り返して表示されている場合は、そのページの最初のデータが仕分けの判定対象になります。
例えば、1 ページに東京と横浜のデータが繰り返して表示されていると、東京には横浜のデータも一緒に配布されますが、横浜には配布されません。
- 集計ページのある帳票の場合
集計ページは、前ページの最後のデータを仕分けの判定対象にします。
例えば、前ページが横浜のデータであれば、集計ページも横浜に配布されます。
キー集計と総集計の集計ページがある場合、前ページが横浜のデータであれば、総集計の集計ページは横浜だけに配布されます。総集計のデータを配布先すべてに出力する場合は、総集計アイテムをすべてのキー集計の集計ページに貼り付けてください。
- JP1 連携で両面仕分け印刷する場合
仕分け元と仕分け先は、異なる名称を指定してください。同じ名称を指定すると、正しい仕分けができません。

7.12 PDF 仕分け定義ファイル

EUR サーバ帳票出力機能では、PDF 形式ファイルを仕分け出力できます。

PDF 形式ファイルの仕分け出力とは、キーとなるフィールドごとに、異なる PDF 形式ファイルに分類して出力することです。

PDF 形式ファイルを仕分け出力するには、PDF 仕分け定義ファイルが必要です。

PDF 仕分け定義ファイルは、PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合と PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合とで定義内容が異なります。

7.12.1 PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合

PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合の PDF 仕分け定義ファイルの指定方法を次に示します。

(1) PDF 仕分け定義ファイルの形式

PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合の PDF 仕分け定義ファイルの形式を次に示します。項目は、コンマ「,」で区切って記述します。

KEYFIELD, キー数, 仕分けキーフィールド名1...	- KEYFIELD行
[TOTAL, 出力先ファイル名]	- TOTAL行
DATA, 出力先ファイル名, 仕分けキーフィールド名1のデータ1...	- DATA行
[DATA, 出力先ファイル名, 仕分けキーフィールド名1のデータ2...	- DATA行
[DATA, 出力先ファイル名, 仕分けキーフィールド名1のデータ3...	- DATA行
[DATA, 出力先ファイル名, 仕分けキーフィールド名1のデータ4...	- DATA行
⋮	

(2) PDF 仕分け定義ファイルの編集

PDF 仕分け定義ファイルは、メモ帳など、テキストファイルが編集できるエディタを起動して編集します。任意の拡張子のファイルを使用できます。

PDF 仕分け定義ファイルに指定するキーワードは、大文字、小文字の区別をしません。

(a) KEYFIELD 行

KEYFIELD 行は、必ず 1 行目に指定してください。1 行目が KEYFIELD 行でなかったり、KEYFIELD 行が複数指定されていたりした場合は、エラー（KEEU020-E）になります。

KEYFIELD 行の形式

KEYFIELD, キー数, 仕分けキーフィールド名 1 [(, 仕分けキーフィールド名 2),

...}

KEYFIELD

キーワード KEYFIELD を指定します。指定を省略した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

キー数

仕分けするキーの数を、1 以上の整数で指定します。0 を指定した場合、または指定を省略した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

仕分けキーフィールド名

仕分けするキーフィールド名を、「キー数」で指定した数だけコンマ「,」で区切って指定します。指定を省略した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

また、指定されたフィールド名の数と「キー数」で指定した数が合わなかったり、仕分けキーフィールド名に同じフィールド名を複数指定したりした場合も、エラー (KEEU020-E) になります。

指定した仕分けキーフィールド名に一致するフィールドがない場合は、エラー (KEEU019-E) になります。

(b) TOTAL 行

PDF 仕分け定義ファイルの TOTAL 行は、省略できます。ただし、総集計ページがある場合や、総集計ページを別ファイルにする場合は、指定してください。

TOTAL 行が複数指定されている場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

TOTAL 行の形式

{ TOTAL, 出力先ファイル名 }

TOTAL

キーワード TOTAL を指定します。指定を省略した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

出力先ファイル名

総集計ページを出力する PDF 形式ファイル名を指定します。指定を省略した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

(c) DATA 行

DATA 行に指定した「仕分けキーフィールド名のデータ」とすべて同じ行が複数指定されている場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

DATA 行の形式

DATA, 出力先ファイル名, 仕分けキーフィールド名 1 のデータ 1 [{, 仕分けキーフィールド名 2 のデータ 1} ...]

[DATA, 出力先ファイル名, 仕分けキーフィールド名 1 のデータ 2 [{, 仕分けキーフィールド名 2 のデータ 2} ...]]

:

DATA

キーワード DATA を指定します。指定を省略した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

出力先ファイル名

仕分けするページを出力する PDF 形式ファイル名を指定します。指定を省略した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

仕分けキーフィールド名のデータ

KEYFIELD 行の「仕分けキーフィールド名」に対応するデータを、「キー数」で指定した数だけコンマ「,」で区切って指定します。指定されたすべてのデータで、マッピングデータファイルと照合して仕分けされます。指定を省略した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

また、指定された仕分けキーフィールド名のデータ数と「キー数」で指定した数が合わなかった場合も、エラー (KEEU020-E) になります。

データの指定のしかた

- データの文字列は、そのまま記述するか、または「"」で囲みます。
- データ中に「"」が使用されている場合は、「"」を二つ続けて記述し、データの両端を「"」で囲んでください。
「E"UR」とする場合は、「"E""UR"」と指定します。
- データ中に区切り文字が使用されている場合は、文字列の両端を「"」で囲んでください。
「,」が区切り文字の場合、「EU,R」とするときは、「"EU,R"」と指定します。

(3) PDF 仕分け定義ファイルの指定例

指定内容

- PDF 仕分け定義ファイル (shiwake.csv) の定義内容
KEYFIELD,1,F1
DATA,Alunch.pdf,A
DATA,Blunch.pdf,B
- マッピングデータファイル (menu.csv) の内容
F1,F2,F3
A,Fish, タイ
A,Fish, サケ
A,Fish, マグロ
B,Meat, 牛肉
B,Meat, 豚肉
- eurps コマンドの指定
eurps /t pdf /dsf shiwake.csv menu.fms,menu.csv

出力結果

「Alunch.pdf」には、「Fish タイ」「Fish サケ」「Fish マグロ」が表示されます。
 「Blunch.pdf」には、「Meat 牛肉」「Meat 豚肉」が表示されます。

7.12.2 PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合

PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合の PDF 仕分け定義ファイルの指定方法を次に示します。

(1) PDF 仕分け定義ファイルの形式

PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合の PDF 仕分け定義ファイルの形式を次に示します。項目は、コンマ「,」で区切って記述します。

KEYFIELD, キー数, 仕分けキーフィールド名1...	- KEYFIELD行
[TOTAL, 出力先ファイル名[, userpassword]]	- TOTAL行
DATA, 出力先ファイル名, 仕分けキーフィールド名1のデータ1...[, userpassword]	- DATA行
[DATA, 出力先ファイル名, 仕分けキーフィールド名1のデータ2...[, userpassword]]	- DATA行
[DATA, 出力先ファイル名, 仕分けキーフィールド名1のデータ3...[, userpassword]]	- DATA行
[DATA, 出力先ファイル名, 仕分けキーフィールド名1のデータ4...[, userpassword]]	- DATA行
⋮	

(2) PDF 仕分け定義ファイルの編集

PDF 仕分け定義ファイルは、メモ帳など、テキストファイルが編集できるエディタを起動して編集します。

PDF 仕分け定義ファイルに指定するキーワードは、大文字、小文字の区別をしません。

(a) KEYFIELD 行

KEYFIELD 行は、必ず 1 行目に指定してください。1 行目が KEYFIELD 行でなかったり、KEYFIELD 行が複数指定されていたりした場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

KEYFIELD 行の形式

KEYFIELD, キー数, 仕分けキーフィールド名 1 [{, 仕分けキーフィールド名 2}, ...]

KEYFIELD

キーワード KEYFIELD を指定します。指定を省略した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

キー数

仕分けするキーの数を、1 以上の整数で指定します。0 を指定した場合、または指定を省略した場合は、エラー (KEEU020-E) になります。

仕分けキーフィールド名

仕分けするキーフィールド名を、「キー数」で指定した数だけコンマ「,」で区切って指定します。指定を省略した場合は、エラー（KEEU020-E）になります。

また、指定されたフィールド名の数と「キー数」で指定した数が合わなかったり、仕分けキーフィールド名に同じフィールド名を複数指定したりした場合も、エラー（KEEU020-E）になります。

指定した仕分けキーフィールド名に一致するフィールドがない場合は、エラー（KEEU019-E）になります。

(b) TOTAL 行

TOTAL 行は、省略できます。ただし、総集計ページがある場合や、総集計ページを別ファイルにする場合は、指定してください。

TOTAL 行を複数指定されている場合は、エラー（KEEU020-E）になります。

TOTAL 行の形式

[TOTAL, 出力先ファイル名[,userpassword]]

TOTAL

キーワード TOTAL を指定します。指定を省略した場合は、エラー（KEEU020-E）になります。

出力先ファイル名

総集計ページを出力する PDF 形式ファイル名を指定します。指定を省略した場合は、エラー（KEEU020-E）になります。

userpassword

「出力先ファイル名」で指定した PDF 形式ファイルに対するユーザパスワードを指定します。暗号化したパスワードも指定できます。パスワードの暗号化については、「7.15.2(4) パスワードの暗号化」を参照してください。

「userpassword」の指定は省略できます。指定を省略する場合は、

「userpassword」の直前のコンマ「,」も省略できます。

ユーザパスワードの文字列に指定できる文字

文字列に指定できる文字は、次のとおりです。指定できない文字を使用した場合は、エラー（KEEU020-E）になります。

• 半角数字

0 ~ 9

• 半角英字

A ~ Z , a ~ z

• 半角記号

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[¥]^_`{|}~

文字列にコンマ「,」を指定する場合は、コンマ「,」を「"」で囲んでください。

• 半角空白

ユーザパスワードの文字列長

指定できる文字列の長さは、Shift JIS コードで 32 バイトまでです。32 バイトを超えた場合は、エラー（KEEU020-E）になります。

(c) DATA 行

DATA 行に指定した「仕分けキーフィールド名のデータ」とすべて同じ行が複数指定されている場合は、エラー（KEEU020-E）になります。

DATA 行の形式

```
DATA, 出力先ファイル名, 仕分けキーフィールド名 1 のデータ 1 [{, 仕分けキー  
フィールド名 2 のデータ 1} ... ] {, userpassword}  
[ DATA, 出力先ファイル名, 仕分けキーフィールド名 1 のデータ 2 [{, 仕分けキー  
フィールド名 2 のデータ 2} ... ] {, userpassword} ]  
:
```

DATA

キーワード DATA を指定します。指定を省略した場合は、エラー（KEEU020-E）になります。

出力先ファイル名

仕分けするページを出力する PDF 形式ファイル名を指定します。指定を省略した場合は、エラー（KEEU020-E）になります。

仕分けキーフィールド名のデータ

KEYFIELD 行の「仕分けキーフィールド名」に対応するデータを、「キー数」で指定した数だけコンマ「,」で区切って指定します。指定されたすべてのデータで、マッピングデータファイルと照合して仕分けされます。指定を省略した場合は、エラー（KEEU020-E）になります。

また、指定された仕分けキーフィールド名のデータ数と「キー数」で指定した数が合わなかった場合も、エラー（KEEU020-E）になります。

データの指定のしかた

- データの文字列は、そのまま記述するか、または「"」で囲みます。
- データ中に「"」が使用されている場合は、「"」を二つ続けて記述し、データの両端を「"」で囲んでください。
- 「E"UR」とする場合は、「E""UR"」と指定します。
- データ中に区切り文字が使用されている場合は、文字列の両端を「"」で囲んでください。
- 「,」が区切り文字の場合、「EU,R」とするときは、「"EU,R"」と指定します。

userpassword

「出力先ファイル名」で指定した、仕分けするページを出力する PDF 形式ファイルに対するユーザパスワードを指定します。暗号化したパスワードも指定できます。パスワードの暗号化については、「7.15.2(4) パスワードの暗号化」を参照してください。

「userpassword」の指定は省略できます。指定を省略する場合は、
「userpassword」の直前のコンマ「,」も省略できます。

ユーザパスワードの文字列に指定できる文字

文字列に指定できる文字は、次のとおりです。指定できない文字を使用した場合は、エラー（KEEU020-E）になります。

- 半角数字
0 ~ 9
- 半角英字
A ~ Z, a ~ z
- 半角記号
!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[¥]^_`{|}~
- 半角空白

文字列にコンマ「,」を指定する場合は、コンマ「,」を「"」で囲ってください。

ユーザパスワードの文字列長

指定できる文字列の長さは、Shift JIS コードで 32 バイトまでです。32 バイトを超えた場合は、エラー（KEEU020-E）になります。

（3）PDF 仕分け定義ファイルに指定する userpassword の注意

PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合、PDF 仕分け定義ファイルの userpassword を指定するときは、次に示す注意があります。

- ユーザパスワードは、PDF 仕分け定義ファイルの userpassword で指定します。暗号化設定ファイルのキーワード UserPassword の指定はいりません。指定されていても無視されます。
- パスワードは、暗号化設定ファイルのキーワード OwnerPassword、または PDF 仕分け定義ファイルの userpassword のどちらかを指定してください。どちらも指定していない場合は、エラー（KEEU033-E）になります。
- 暗号化設定ファイルで指定する OwnerPassword と、PDF 仕分け定義ファイルで指定する userpassword は、異なるパスワードを指定してください。同じパスワードが指定されている場合は、エラー（KEEU034-E）になります。

（4）設定されているパスワードの違い

暗号化仕分けされた PDF 形式ファイルを開こうとすると、パスワードの入力を求められます。どのパスワードを入力して開くかによって、PDF 形式ファイルの表示は次のように異なります。

- 暗号化設定ファイルのキーワード OwnerPassword だけ設定されている場合
パスワードの入力を求められません。
自由にファイルを開けますが、暗号化設定ファイルに設定されているセキュリティ属性は有効です。
- PDF 仕分け定義ファイルの userpassword だけ設定されている場合

パスワードの入力を求められます。

ユーザパスワードが通知されている閲覧者だけファイルを開けます。また、暗号化設定ファイルに設定されているセキュリティ属性も有効です。

- 暗号化設定ファイルのキーワード OwnerPassword と PDF 仕分け定義ファイルの userpassword の両方が設定されている場合

パスワードの入力を求められます。入力するパスワードは、オーナーパスワードとユーザパスワードのどちらでもかまいません。ただし、どちらのパスワードを入力するかによって、セキュリティ属性は次のように異なります。

- オーナパスワードを入力したとき
暗号化設定ファイルに設定されているセキュリティ属性は、すべて解除した状態で表示されます。
- ユーザパスワードを入力したとき
暗号化設定ファイルに設定されているセキュリティ属性は有効です。

セキュリティ属性を変更する場合の注意

PDF 形式ファイルのセキュリティ属性を変更する場合は、暗号化設定ファイルから行ってください。Adobe Acrobat で PDF 形式ファイルを開き、オーナーパスワードを入力することで文書のセキュリティを変更できますが、この場合 EUR では動作を保証しません。

(5) PDF 仕分け定義ファイルの指定例

ユーザパスワードを指定して、PDF からの印刷を禁止する場合の指定例を示します。

指定内容

- 暗号化設定ファイル (cipher.txt) の定義内容
OwnerPassword=OWNER
DisablePrint=Yes
- PDF 仕分け定義ファイル (shiwake.csv) の定義内容
KEYFIELD,1, 氏名番号
DATA,00000001.pdf,00000001,TARO
DATA,00000002.pdf,00000002,HANAKO
- マッピングデータファイル (shikyuu.csv) の内容
所属, 氏名番号, 氏名, 支給額
勤労課,00000001, 日立太郎,250000
勤労課,00000002, 日立花子,200000
- eurps コマンドの指定
eurps /t pdf /cry /cryf cipher.txt /dsf shiwake.csv shikyuu.fms,shikyuu.csv

出力結果

「00000001.pdf」には「勤労課 日立太郎 250,000 円」が表示され、

「00000002.pdf」には「勤労課 日立花子 200,000 円」が表示されます。

どちらも、ファイルを開こうとすると、パスワードの入力を求められます。

また、ファイルを開くと、[文書のセキュリティ] ダイアログには次のように表示さ

れます。

ユーザパスワード：はい

オーナーパスワード：はい

印刷：許可しない

7.12.3 PDF 仕分け定義ファイルの保存場所

PDF 仕分け定義ファイルは、任意のフォルダに保存してください。この保存先フォルダを、次に示す PDF 仕分け定義ファイルのデフォルトの読み込みフォルダに設定してください。

- 環境変数、および環境設定ファイルの変数「EURPS_DISTINFOPATH」
- ActiveX オブジェクトの「DistributeFilePath」
- JavaBeans 起動部品の「setDistributeFilePath」

7.12.4 PDF 仕分けをするときの注意

仕分けキーフィールドの指定は、ページごとにキーフィールドのデータと仕分け情報を比較して、仕分けされます。次のような帳票の場合は、仕分けをするときに注意してください。

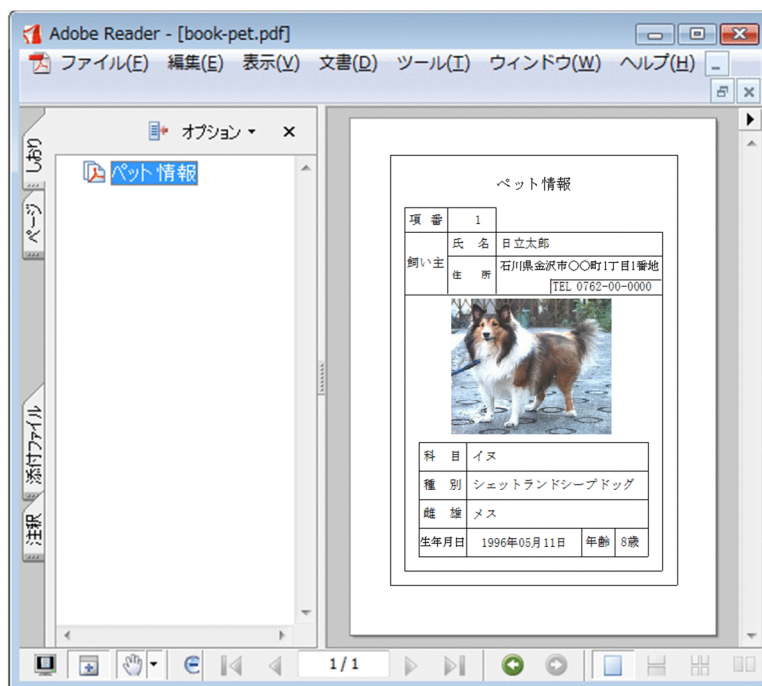
- 1 ページ中に仕分けキーフィールドのデータが、複数繰り返して表示されている帳票の場合
仕分け印刷は、ページ単位に仕分けをします。そのため、1 ページに複数の情報があっても、分別して配布することはできません。フィールドのデータごとに分別して配布したい場合は、仕分けをする前に改ページをして、1 ページに 1 仕分けキーフィールドのデータだけが表示されるように設計してください。
1 ページ中に仕分けキーフィールドのデータが複数繰り返して表示されている場合は、そのページの最初のデータが仕分けの判定対象になります。
例えば、1 ページに東京と横浜のデータが繰り返して表示されていると、東京には横浜のデータも一緒に配布されますが、横浜には配布されません。
- 集計ページのある帳票の場合
集計ページは、前ページの最後のデータを仕分けの判定対象にします。
例えば、前ページが横浜のデータであれば、集計ページも横浜に配布されます。
キー集計と総集計の集計ページがある場合、前ページが横浜のデータであれば、総集計の集計ページは横浜だけに配布されます。総集計のデータを配布先すべてに出力する場合は、総集計アイテムをすべてのキー集計の集計ページに貼り付けてください。
- JP1 連携で両面仕分け印刷する場合
仕分け元と仕分け先は、異なる名称を指定してください。同じ名称を指定すると、正しい仕分けができません。
 - PDF 仕分け定義ファイルに指定されたデータがない場合は、エラー（KEEU031-E）となります。
 - すでに同じ名称のファイルがあった場合は、エラー（KEEU032-E）となります。

7.13 文書しおり定義ファイル

EUR サーバ帳票出力機能では、PDF 形式ファイルにしおりを付けられます。

しおりには、「PDF 形式ファイルを示すしおり」と「サブ文書の情報を示すしおり」があります。「PDF 形式ファイルを示すしおり」を付ける場合は、文書しおり定義ファイルに情報を設定します。

文書しおり定義ファイルに「PDF 形式ファイルを示すしおり」が設定されていると、PDF 形式ファイルを開いた場合、次のように表示されます。



文書しおり定義ファイルは、メモ帳など、テキストファイルが編集できるエディタを起動して編集します。任意の拡張子のファイルを使用できます。

7.13.1 文書しおり定義ファイルの作成

文書しおり定義ファイルには、「PDF 形式ファイルを示すしおり」となる文字列と PDF 形式ファイルのページの表示方法を設定します。

(1) 文書しおり定義ファイルの構文

キーワード = 値

キーワードに指定できる値を次に示します。

表 7-25 文書しおり定義ファイルの構文

キーワード	値
TITLE	「PDF 形式ファイルを示すしおり」の文字列を指定します。
SCALE	ページの表示方法を指定します。
BOOKMARK	しおりを開いた状態で表示するか、閉じた状態で表示するかを指定します。

(2) 文書しおり定義ファイルのキーワード

文書しおり定義ファイルに指定するキーワード TITLE と SCALE は、出力する PDF 形式ファイルごとに 1 組だけ指定します。一つの PDF 形式ファイルに複数組のキーワードを指定した場合は、エラー (KEEU028-E) になります。

文書しおり定義ファイルに指定するキーワードとオプションは、大文字、小文字の区別をしません。

(a) TITLE

「PDF 形式ファイルを示すしおり」の文字列を指定します。「PDF 形式ファイルを示すしおり」は、文書情報設定ファイルに設定したタイトルをそのまま利用することもできますし、任意の文字列を設定することもできます。

キーワード TITLE の形式

TITLE={docinfotitle | " 文字列 "}

docinfotitle

文書情報設定ファイルのキーワード TITLE に指定されている文字列を、PDF 形式ファイルを示すタイトルとします。

オプション docinfotitle を指定したのに文書情報設定ファイルのキーワード TITLE に文字列が指定されていない場合は、しおりパレットにはタイトルを表示しません。文書情報設定ファイルについては、「7.5 文書情報設定ファイル」を参照してください。

文字列

「PDF 形式ファイルを示すしおり」に任意の文字列を指定する場合は、文字列を「」で囲んで指定します。文字列が「」で囲まれていない場合、または「'''」のように空の文字列で指定されている場合は、エラー (KEEU028-E) になります。

文字列中に「」を指定したい場合は、「」を二つ続けて記述して、文字列の両端を「」で囲んでください。例えば、「E"UR」とする場合は、「E""UR」と指定します。

- 文字列に使用できる文字コード

文字列に使用できる文字コードについては、「2.1 EUR が使用する文字コード」を参照してください。

文字列は、任意の文字列で指定できますが、制御文字は指定できません。文字列に制御文字を指定した場合は、半角空白に置き換えて出力されます。

- 指定できる文字列の長さ
指定できる文字列の長さに制限はありません。

(b) SCALE

ページの表示方法を指定します。キーワード SCALE の指定を省略した場合は、100 (%) で表示されます。実際の大きさで表示する場合は、キーワード SCALE の指定を省略するか、またはキーワード SCALE に「100」を指定してください。

ページの表示位置は、Adobe Reader の仕様と同じです。

キーワード SCALE の形式

SCALE = { 倍率 | fit | fith }

倍率

表示するページの倍率を、10 ~ 1,600 (%) の整数で指定します。

fit

ページ全体が、表示ウィンドウに収まるサイズで表示されます。

オプション fit を「"」で囲んで指定すると、エラー (KEEU028-E) になります。

fith

ページの横幅が、表示ウィンドウの横幅と一致するように表示されます。

オプション fith を「"」で囲んで指定すると、エラー (KEEU028-E) になります。

(c) BOOKMARK

しおりを開いた状態で表示するか、閉じた状態で表示するかを指定します。省略した場合は、open が仮定されます。open, close 以外を指定した場合、およびオプションを「"」で囲んだ場合はエラー (KEEU028-E) となります。open, close は半角文字で指定してください。

キーワード BOOKMARK の形式

BOOKMARK = { open | close }

open

しおりが開いた状態で表示されます。

close

しおりが閉じた状態で表示されます。

7.13.2 文書しおり定義ファイルの保存場所

文書しおり定義ファイルは、しおり定義ファイルと同じフォルダに保存してください。この保存先フォルダを、次に示す文書しおり定義ファイルのデフォルトの読み込みフォ

7. 帳票出力で使用するファイル

ルダに設定してください。

- 環境変数, および環境設定ファイルの変数「EURPS_BOOKMARKPATH」
- ActiveX オブジェクトの「BookmarkFilePath」
- JavaBeans 起動部品の「setBookmarkFilePath」

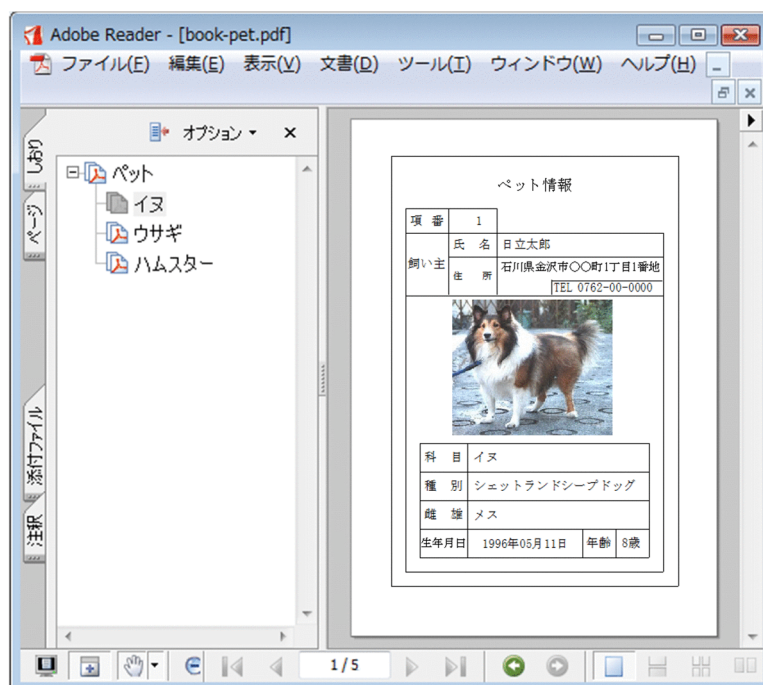
しおり定義ファイルについては,「7.14 しおり定義ファイル」を参照してください。

7.14 しおり定義ファイル

EUR サーバ帳票出力機能では、PDF 形式ファイルにしおりを付けられます。

しおりには、「PDF 形式ファイルを示すしおり」と「サブ文書の情報を示すしおり」があります。「サブ文書の情報を示すしおり」を付ける場合は、しおり定義ファイルに情報を設定します。

しおり定義ファイルに「サブ文書の情報を示すしおり」の情報が設定されていると、PDF 形式ファイルを開いた場合、次のように表示されます。



サブ文書の情報には、「PDF 形式ファイルを構成するサブ文書（帳票）を示すしおり」と「（帳票に出力する）データのまとまりを表す項目のしおり」があります。

しおり定義ファイルは、メモ帳など、テキストファイルが編集できるエディタを起動して編集します。任意の拡張子のファイルを使用できます。

7.14.1 しおり定義ファイルの作成

しおり定義ファイルには、「PDF 形式ファイルを構成するサブ文書（帳票）を示すしおり」と「（帳票に出力する）データのまとまりを表す項目のしおり」の文字列と PDF 形式ファイルのページの表示方法を設定します。

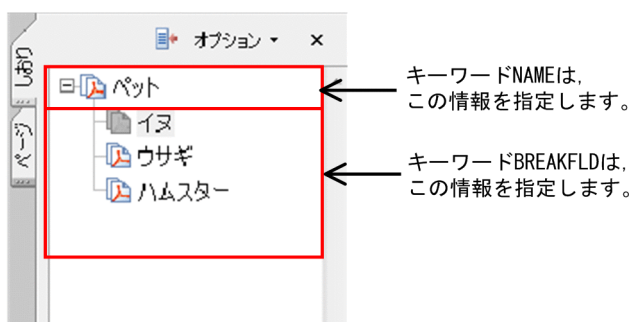
(1) しおり定義ファイルの構文

キーワード = 値

キーワードに指定できる値を次に示します。

表 7-26 しおり定義ファイルの構文

キーワード	値
NAME	「PDF 形式ファイルを構成するサブ文書（帳票）を示すしおり」を指定します。
BREAKFLD	「（帳票に出力する）データのまとまりを表す項目のしおり」を指定します。



(2) しおり定義ファイルのキーワード

しおり定義ファイルに指定するキーワードとオプションは、大文字、小文字の区別をしません。

(a) NAME

「PDF 形式ファイルを構成するサブ文書（帳票）を示すしおり」の文字列（帳票名）を指定します。NAME キーワードは、出力する帳票ファイルごとに一つだけ指定します。一つの帳票ファイルに複数の NAME キーワードを指定した場合は、エラー（KEEU027-E）になります。

キーワード NAME の形式

NAME=" 文字列 " [, 倍率 | ,fit | ,fith]

文字列

「PDF 形式ファイルを構成するサブ文書（帳票）を示すしおり」の文字列（帳票名）を「"」で囲んで指定します。文字列が「"」で囲まれていない場合、または「""」のように空の文字列で指定されている場合は、エラー（KEEU027-E）になります。

文字列中に「"」を指定したい場合は、「"」を二つ続けて記述して、文字列の両端を「"」で囲んでください。例えば、「E"UR」とする場合は、「"E""UR"」と指定します。

- 文字列に使用できる文字コード
文字列に使用できる文字コードについては、「2.1 EUR が使用する文字コード」を参照してください。
文字列は、任意の文字列で指定できますが、制御文字は指定できません。文字列に制御文字を指定した場合は、半角空白に置き換えて出力されます。
- 指定できる文字列の長さ
指定できる文字列の長さに制限はありません。

倍率 | fit | fith

ページの表示方法を指定します。指定を省略した場合は、100 (%) で表示されます。

実際の大きさで表示する場合は、表示方法の指定を省略するか、または「100」を指定してください。

ページの表示位置は、Adobe Reader の仕様と同じです。

倍率

表示するページの倍率を、10 ~ 1,600 (%) の整数で指定します。

fit

ページ全体が、表示ウィンドウに収まるサイズで表示されます。

オプション fit を「"」で囲んで指定すると、エラー (KEEU027-E) になります。

fith

ページの横幅が、表示ウィンドウの横幅と一致するように表示されます。

オプション fith を「"」で囲んで指定すると、エラー (KEEU027-E) になります。

(b) BREAKFLD

「(帳票に出力する) データのまとまりを表す項目のしおり」のキーとなるフィールド名を指定します。

キーワード BREAKFLD は、5 行まで (5 階層表示) 指定できます。6 行以上指定した場合は、エラー (KEEU027-E) になります。階層は、キーワード BREAKFLD に指定したフィールド順です。キーワード BREAKFLD に指定したフィールド中のデータが直前のデータと異なる値の場合 (一番目のデータも含む)、その値が階層の中を分類する文字列として表示されます。

キーワード BREAKFLD の形式

BREAKFLD=" フィールド名 1" [, 倍率 1 | ,fit | ,fith]

BREAKFLD=" フィールド名 2" [, 倍率 2 | ,fit | ,fith]

:

BREAKFLD=" フィールド名 5" [, 倍率 5 | ,fit | ,fith]

フィールド名

「(帳票に出力する) データのまとまりを表す項目のしおり」のキーとなるフィールド名を「"」で囲んで指定します。フィールド名が「"」で囲まれていない場合は、エラー (KEEU027-E) になります。

キーとなるフィールド名には、出力するデータのどのフィールドを指定してもかまいませんが、帳票を設計した時に設定された改ページや改ブロックのキーとなるフィールドと同じフィールド名を指定すると、帳票を設計した時と同じ情報の帳票を表示できます。どのフィールドが改ページや改ブロックのキーとなるフィールドに設定されているかを知るには、EUR 帳票作成機能で確認してください。

指定したフィールドのデータが画像データの場合は、画像ファイル名がしおりとして表示されます。

また、指定したフィールドのデータが空データだった場合は、「(空データ)」がしおりとして表示されます。

次に示すフィールド名をキーワード BREAKFLD に指定した場合、エラーにはなりません、指定した n 番目のしおりは出力されません。

- 帳票を設計した時にフィールド定義されていないフィールド名
- 帳票に貼り付けられていないフィールド名

倍率 | fit | fith

ページの表示方法を指定します。指定を省略した場合は、100 (%) で表示されます。

実際の大きさで表示する場合は、表示方法の指定を省略するか、または「100」を指定してください。

ページの表示位置は、Adobe Reader の仕様と同じです。

倍率

表示するページの倍率を、10 ~ 1,600 (%) の整数で指定します。

fit

ページ全体が、表示ウィンドウに収まるサイズで表示されます。

オプション fit を「"」で囲んで指定すると、エラー (KEEU027-E) になります。

fith

ページの横幅が、表示ウィンドウの横幅と一致するように表示されます。

オプション fith を「"」で囲んで指定すると、エラー (KEEU027-E) になります。

7.14.2 しおり定義ファイルの保存場所

しおり定義ファイルは、文書しおり定義ファイルと同じフォルダに保存してください。この保存先フォルダを、次に示すしおり定義ファイルのデフォルトの読み込みフォルダに設定してください。

- 環境変数、および環境設定ファイルの変数「EURPS_BOOKMARKPATH」

- ActiveX オブジェクトの「BookmarkFilePath」
- JavaBeans 起動部品の「setBookmarkFilePath」

文書しおり定義ファイルについては、「7.13 文書しおり定義ファイル」を参照してください。

7.14.3 しおり定義ファイルの指定例

しおり定義ファイルの指定例と、その表示例を次に示します。

文書しおり定義ファイルの定義内容

TITLE=" ペット情報 "

SCALE=fit

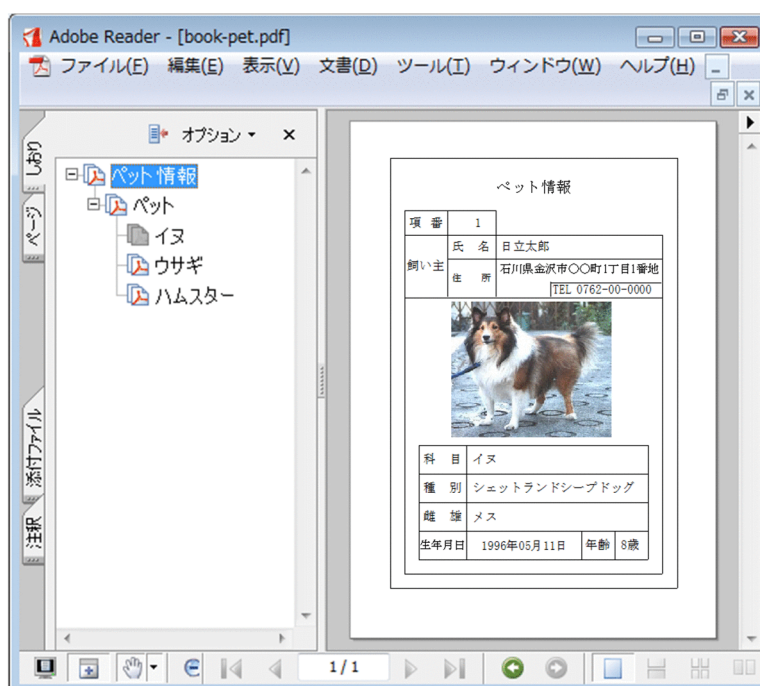
BOOKMARK=open

しおり定義ファイルの定義内容

NAME=" ペット "

BREAKFLD=" 科目 ",fit

表示例



フィールド名「科目」のデータのまとまりを示す項目「イヌ」、「ウサギ」、および「ハムスター」をクリックすると、直接ページを開けます。

7.15 暗号化設定ファイル

EUR サーバ帳票出力機能では、PDF 形式ファイルの改ざん、および給与明細など情報の漏えいを防ぐために、PDF 形式ファイルを暗号化できます。

PDF 形式ファイルを暗号化するには、セキュリティ属性を暗号化設定ファイルに設定します。

7.15.1 暗号化設定ファイルに設定できる属性

暗号化設定ファイルには、次に示すセキュリティ属性を設定できます。

- ユーザパスワード
PDF 形式ファイルを閲覧する時に入力するパスワードを指定します。ユーザパスワードが指定されていると、PDF 形式ファイルを閲覧する時に、パスワード入力及要求されます。
- オーナパスワード
セキュリティ属性を設定、または変更したり、PDF に権限を設定したりする時に入力するパスワードを指定します。
Adobe Reader 7 の、「マスタパスワード」に該当するものです。
- 印刷
PDF から印刷することを禁止します。
- 文書の変更
PDF 文書情報の変更を禁止します。
- 内容のコピー、または抽出
内容のコピー、または抽出を禁止します。
- 注釈とフォームフィールドの作成
注釈とフォームフィールドの作成を禁止します。

7.15.2 暗号化設定ファイルの編集

暗号化設定ファイルは、メモ帳など、テキストファイルが編集できるエディタを起動して編集します。任意の拡張子のファイルを使用できます。

(1) 暗号化設定ファイルの構文

キーワード = 値

セキュリティ属性を、「キーワード = 値」の形式で記述します。キーワードに指定できる値を次に示します。

表 7-27 暗号化設定ファイルの構文

キーワード	値
OwnerPassword	PDF に、セキュリティ属性と権限を設定する時のパスワードを指定します。
DisablePrint	PDF からの印刷を禁止するかどうかを指定します。
DisableChange	PDF 文書情報の変更を禁止するかどうかを指定します。
DisableCopy	PDF 中の内容のコピー，または抽出を禁止するかどうかを指定します。
DisableAdd	注釈とフォームフィールドの作成を禁止するかどうかを指定します。
UserPassword	PDF 形式ファイルを閲覧する時のパスワードを指定します。
EncryptionMode	PDF ファイルを暗号化する時の暗号化モードを指定します。

キーワードの指定は、PDF 形式ファイルを暗号化出力する場合と、PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合とで異なります。キーワードと対応する出力方法について、次に示します。

表 7-28 キーワードと対応する出力方法

キーワード	PDF 形式ファイルを暗号化出力する場合	PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合
OwnerPassword		1
DisablePrint		
DisableChange		
DisableCopy		
DisableAdd		
UserPassword		2
EncryptionMode		

(凡例)

- : 必ず指定するキーワードです。
- : 指定を省略できるキーワードです。

注 1

PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合、暗号化設定ファイルの指定は省略できますが、暗号化設定ファイルを指定するときは、キーワード OwnerPassword を必ず指定してください。省略した場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

注 2

PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合は、PDF 仕分け定義ファイルでユーザパスワードを指定します。そのため、暗号化設定ファイルのキーワード UserPassword は、指定されていても無視されます。

(2) 暗号化設定ファイルのキーワード

暗号化設定ファイルに指定するキーワードは、大文字、小文字の区別をしません。

(a) OwnerPassword

PDF に、セキュリティ属性と権限を設定する場合のパスワードを指定します。暗号化したパスワードも指定できます。パスワードを複数指定した場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

PDF 形式ファイルを暗号化出力する場合、パスワードは、キーワード OwnerPassword、またはキーワード UserPassword のどちらかを指定してください。どちらも指定していない場合は、エラー (KEEU033-E) になります。

また、キーワード OwnerPassword とキーワード UserPassword には、異なるパスワードを指定してください。同じパスワードを指定した場合は、エラー (KEEU034-E) になります。

キーワード OwnerPassword の形式

OwnerPassword= 文字列

文字列

パスワード文字列を指定します。

文字列に指定できる文字は、次のとおりです。指定できない文字を使用した場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

- 半角数字
0 ~ 9
- 半角英字
A ~ Z, a ~ z
- 半角記号
!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\] ^ _ ` { | } ~
- 半角空白

指定できる文字列の長さは、Shift JIS コードで 32 バイトまでです。32 バイトを超えた場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

パスワードの暗号化については、「7.15.2(4) パスワードの暗号化」を参照してください。

(b) DisablePrint

PDF からの印刷を禁止するかどうかを指定します。複数指定した場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

キーワード DisablePrint の形式

DisablePrint= { Yes | No }

Yes | No

Yes を指定すると、PDF からの印刷を禁止します。ただし、キーワード OwnerPassword が設定されていない場合は、エラー（KEEU030-E）になります。

No を指定すると、PDF からの印刷を許可します。

オプションは、大文字と小文字を区別しています。「Yes」または「No」で指定してください。正しく指定されていない場合は、エラー（KEEU030-E）になります。

（c）DisableChange

PDF 文書情報の変更を禁止するかどうかを指定します。複数指定した場合は、エラー（KEEU030-E）になります。

キーワード DisableChange の形式

DisableChange= { Yes | No }

Yes | No

Yes を指定すると、PDF 文書情報の変更を禁止します。ただし、キーワード OwnerPassword が設定されていない場合は、エラー（KEEU030-E）になります。

No を指定すると、PDF 文書情報の変更を許可します。

オプションは、大文字と小文字を区別しています。「Yes」または「No」で指定してください。正しく指定されていない場合は、エラー（KEEU030-E）になります。

（d）DisableCopy

PDF 中の内容のコピー、または抽出を禁止するかどうかを指定します。複数指定した場合は、エラー（KEEU030-E）になります。

キーワード DisableCopy の形式

DisableCopy= { Yes | No }

Yes | No

Yes を指定すると、PDF 中の内容のコピー、または抽出を禁止します。ただし、キーワード OwnerPassword が設定されていない場合は、エラー（KEEU030-E）になります。

No を指定すると、PDF 中の内容のコピー、または抽出を許可します。

オプションは、大文字と小文字を区別しています。「Yes」または「No」で指定してください。正しく指定されていない場合は、エラー（KEEU030-E）になります。

（e）DisableAdd

注釈とフォームフィールドの作成を禁止するかどうかを指定します。複数指定した場合は、エラー（KEEU030-E）になります。

7. 帳票出力で使用するファイル

キーワード DisableAdd の形式

DisableAdd= { Yes | No }

Yes | No

Yes を指定すると、注釈とフォームフィールドの作成を禁止します。ただし、キーワード OwnerPassword が設定されていない場合は、エラー

(KEEU030-E) になります。

No を指定すると、注釈とフォームフィールドの作成を許可します。

オプションは、大文字と小文字を区別しています。「Yes」または「No」で指定してください。正しく指定されていない場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

(f) UserPassword

PDF 形式ファイルを閲覧する時のパスワードを指定します。パスワードには、暗号化したパスワードも指定できます。パスワードを複数指定した場合は、エラー (KEEU030-E) になります。

• PDF 形式ファイルを暗号化出力する場合

PDF 形式ファイルを暗号化出力する場合、パスワードは、暗号化設定ファイルのキーワード OwnerPassword、またはキーワード UserPassword のどちらかを指定してください。どちらも指定していない場合は、エラー (KEEU033-E) になります。

また、キーワード OwnerPassword とキーワード UserPassword には、異なるパスワードを指定してください。同じパスワードを指定した場合は、エラー (KEEU034-E) になります。

• PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合

PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合は、ユーザパスワードを PDF 仕分け定義ファイルの userpassword で指定します。そのため、暗号化設定ファイルのキーワード UserPassword の指定は要りません。指定されていても無視されます。

パスワードは、暗号化設定ファイルのキーワード OwnerPassword、または PDF 仕分け定義ファイルの userpassword のどちらかを指定してください。どちらも指定していない場合は、エラー (KEEU033-E) になります。

また、暗号化設定ファイルのキーワード OwnerPassword と PDF 仕分け定義ファイルの userpassword には、異なるパスワードを指定してください。同じパスワードを指定した場合は、エラー (KEEU034-E) になります。

PDF 仕分け定義ファイルについては、「7.12.2 PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合」を参照してください。

キーワード UserPassword の形式

UserPassword= 文字列

文字列

パスワードの文字列を指定します。

文字列に指定できる文字は、次のとおりです。指定できない文字を使用した場

合は、エラー（KEEU030-E）になります。

- 半角数字
0 ~ 9
- 半角英字
A ~ Z, a ~ z
- 半角記号
!"#\$%&'()*+,-./:;<=>@[¥]^_`{|}~
- 半角空白

指定できる文字列の長さは、Shift JIS コードで 32 バイトまでです。32 バイトを超えた場合は、エラー（KEEU030-E）になります。

パスワードの暗号化については、「7.15.2(4) パスワードの暗号化」を参照してください。

(g) EncryptionMode

PDF ファイルを暗号化する場合の暗号化モードを指定します。

キーワード EncryptionMode の形式

EncryptionMode= { 1 | 2 }

1 | 2

暗号化モードを設定します。

指定値とその説明を次に示します。

表 7-29 キーワード EncryptionMode の指定値

指定値	鍵長	作成される PDF ファイルのバージョン	暗号強度
1	40 ビット	バージョン 1.2	弱い
2	128 ビット	バージョン 1.4	強い

キーワード EncryptionMode の指定を省略した場合は、128 ビットの鍵長で PDF ファイルを暗号化します。

指定できる文字は、半角数字の「1」または「2」です。指定できない文字を使用した場合は、エラー（KEEU030-E）になります。

(3) OwnerPassword と UserPassword の違い

暗号化された PDF 形式ファイルを開こうとすると、パスワードの入力を求められます。どのパスワードを入力して開くかによって、PDF 形式ファイルの表示は次のように異なります。

- キーワード OwnerPassword だけ設定されている場合
パスワードの入力を求められません。
自由にファイルを開けますが、暗号化設定ファイルに設定されているセキュリティ属

性は有効です。

- キーワード UserPassword だけ設定されている場合
パスワードの入力を求められます。
ユーザパスワードが通知されている閲覧者だけファイルを開けます。また、暗号化設定ファイルに設定されているセキュリティ属性も有効です。
- キーワード OwnerPassword と UserPassword の両方が設定されている場合
パスワードの入力を求められます。入力するパスワードは、オーナパスワードとユーザパスワードのどちらでもかまいません。ただし、どちらのパスワードを入力するかによって、セキュリティ属性は次のように異なります。
- オーナパスワードを入力したとき
暗号化設定ファイルに設定されているセキュリティ属性を、すべて解除した状態で表示されます。
- ユーザパスワードを入力したとき
暗号化設定ファイルに設定されているセキュリティ属性は有効です。

セキュリティ属性を変更する場合の注意

PDF 形式ファイルのセキュリティ属性を変更する場合は、暗号化設定ファイルをエディタで開き、設定を変更してください。Adobe Acrobat で PDF 形式ファイルを開き、オーナパスワードを入力することで文書のセキュリティを変更できますが、この場合 EUR では動作を保証しません。

(4) パスワードの暗号化

セキュリティを強化するために、暗号化設定ファイル、および PDF 仕分け定義ファイルに設定されたキーワード OwnerPassword と UserPassword のパスワードを暗号化できます。

(a) パスワードを暗号化する方法

パスワードの暗号化は、PDF パスワード暗号化ツールで行います。PDF パスワード暗号化ツールは、EUR Print Service - Cipher option に同梱されています。

Windows 環境のファイルを暗号化する場合

Windows 環境の暗号化設定ファイル、および PDF 仕分け定義ファイルのパスワードを暗号化する場合は、PDF パスワード暗号化ツール「eurecpdf.exe」を使用します。「eurecpdf.exe」は EUR Print Service - Cipher option のインストール先フォルダ¥Program¥下にあります。

• コマンドの構文

```
eurecpdf.exe  
  /t 暗号化対象ファイル種別  
  /if 暗号化対象ファイルパス  
  /of 出力先ファイルパス  
  /es 暗号化鍵
```

• /t オプション

暗号化するファイルの種別を指定します。指定できるファイル種別を次に示します。

cr: 暗号化設定ファイル

pd: PDF 仕分け定義ファイル

大文字と小文字の区別はしません。「cr」、「pd」以外の文字を指定すると、エラーになります。

- /if オプション

パスワードを暗号化する暗号化設定ファイル名、または PDF 仕分け定義ファイル名のフルパスを、259 文字以内で指定します。

- /of オプション

パスワードを暗号化したデータを出力するファイルのフルパスを、259 文字以内で指定します。

- /es オプション

暗号化したパスワードから元のパスワードを読み出すための、暗号化鍵を指定します。パスワード暗号化鍵に指定できる文字は、次のとおりです。

- 半角数字

0 ~ 9

- 半角英字

A ~ Z, a ~ z

指定できるパスワード暗号化鍵の長さは、Shift JIS コードで 32 バイトまでです。32 バイトを超えた場合は、エラー (KEEU806-E) になります。また、パスワード暗号化鍵に指定できない文字を指定した場合も、エラー (KEEU806-E) になります。

UNIX / Linux 環境のファイルを暗号化する場合

UNIX / Linux 環境の暗号化設定ファイル、および PDF 仕分け定義ファイルのパスワードを暗号化する場合、PDF パスワード暗号化ツール「eurecpdf」を使用します。「eurecpdf」は、/opt/eurps/bin/ 下にあります。

- コマンドの構文

```
eurecpdf
  -t 暗号化対象ファイル種別
  -if 暗号化対象ファイルパス
  -of 出力先ファイルパス
  -es 暗号化鍵
```

- -t オプション

暗号化するファイルの種別を指定します。指定できるファイル種別を次に示します。

cr: 暗号化設定ファイル

pd: PDF 仕分け定義ファイル

大文字と小文字の区別はしません。「cr」、「pd」以外の文字を指定すると、エラーになります。

- -if オプション

パスワードを暗号化する暗号化設定ファイル名、または PDF 仕分け定義ファイル名のフルパスを、1,023 バイト以内で指定します。

7. 帳票出力で使用するファイル

- -of オプション

パスワードを暗号化したデータを出力するファイルのフルパスを、1,023 バイト以内で指定します。

- -es オプション

暗号化したパスワードから元のパスワードを読み出すための、暗号化鍵を指定します。パスワード暗号化鍵に指定できる文字は、次のとおりです。

- 半角数字

0 ~ 9

- 半角英字

A ~ Z , a ~ z

指定できるパスワード暗号化鍵の長さは、Shift JIS コードで 32 バイトまでです。32 バイトを超えた場合は、エラー (KEEU002-E) になります。また、パスワード暗号化鍵に指定できない文字を指定した場合も、エラー (KEEU002-E) になります。

(b) 出力されるファイル

パスワード暗号化ツールのコマンドを実行すると、暗号化設定ファイルまたは PDF 仕分け定義ファイルの中のパスワードだけが暗号化され、指定したファイルに出力されます。暗号化前のファイルへの上書きはできません。

7.15.3 暗号化設定ファイルの保存場所

暗号化設定ファイルは、任意のフォルダに保存してください。この保存先フォルダを、次に示す暗号化設定ファイルのデフォルトの読み込みフォルダに設定してください。

- 環境変数、および環境設定ファイルの変数「EURPS_CRYPTOFILEPATH」
- ActiveX オブジェクトの「CryptoFilePath」
- JavaBeans 起動部品の「setCryptoFilePath」

7.15.4 暗号化設定ファイルの指定例

暗号化設定ファイルの指定例を次に示します。

(1) PDF 形式ファイルを暗号化出力する場合

出力先ファイル「OUTPUT.pdf」に、次に示す指定をします。

- ファイルを開く時、パスワードの入力を求めます。
- PDF からの印刷を禁止します。

指定内容

- 暗号化設定ファイル (cipher.txt) の定義内容
OwnerPassword=OWNER
DisablePrint=Yes
UserPassword=HITACHI

- マッピングデータファイル (shikyuu.csv) の内容
所属, 氏名, 支給額
勤労課, 日立太郎, 250000
勤労課, 日立花子, 200000
- eurps コマンドの指定
eurps /t pdf /cry /cryf cipher.txt /pf OUTPUT.pdf shikyuu.fms,shikyuu.csv

出力結果

「OUTPUT.pdf」には、「勤労課 日立太郎 250,000 円」と「勤労課 日立花子 200,000 円」が出力されます。

「OUTPUT.pdf」を開こうとすると、パスワードの入力を求められます。

「OUTPUT.pdf」を開くと、[文書のセキュリティ] ダイアログには次のように表示されます。

ユーザパスワード：はい

マスタパスワード：はい

印刷：許可しない

(2) PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合

仕分けしたファイルに、次に示す指定をします。

- ファイルを閲覧する時、パスワードの入力を求めます。
- PDF からの印刷を禁止します。

指定内容

- 暗号化設定ファイル (cipher.txt) の定義内容
OwnerPassword=OWNER
DisablePrint=Yes
- PDF 仕分け定義ファイル (shiwake.csv) の内容
KEYFIELD,1, 氏名番号
DATA,00000001.pdf,00000001,TARO
DATA,00000002.pdf,00000002,HANAKO
- マッピングデータファイル (shikyuu.csv) の内容
所属, 氏名番号, 氏名, 支給額
勤労課, 00000001, 日立太郎, 250000
勤労課, 00000002, 日立花子, 200000
- eurps コマンドの指定
eurps /t pdf /cry /cryf cipher.txt /dsf shiwake.csv shikyuu.fms,shikyuu.csv

出力結果

「00000001.pdf」には「勤労課 日立太郎 250,000 円」が出力され、

「00000002.pdf」には「勤労課 日立花子 200,000 円」が出力されます。

どちらも、ファイルを開こうとすると、パスワードの入力を求められます。

また、ファイルを開くと、[文書のセキュリティ] ダイアログには次のように表示さ

7. 帳票出力で使用するファイル

れます。

ユーザパスワード：はい

マスタパスワード：はい

印刷：許可しない

7.16 透かし情報ファイル

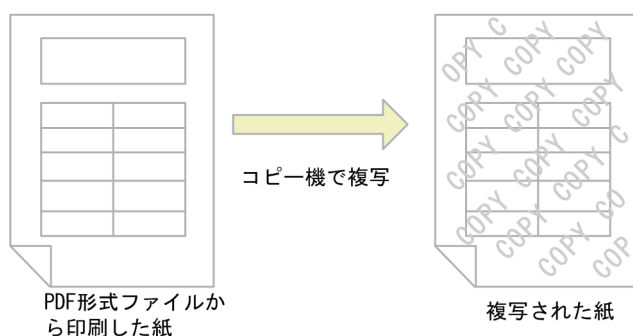
透かし情報ファイルは、PDF 形式ファイルの印刷後の複写、偽造および改ざんを検知するための情報を指定したファイルです。

PDF 形式ファイルに透かし情報ファイルの情報を埋め込むには、Windows の日本語環境に、紙の番人の PDF 機能がインストールされている必要があります。

透かし情報ファイルを設定すると、使用できる機能を次に示します。

複写検知機能

PDF 形式ファイルを印刷した紙を複写すると、複写された紙に複写模様が表示されます。PDF 形式ファイルから印刷した紙と複写された紙は見た目が異なるため、複写による不正な持ち出しを防止できます。



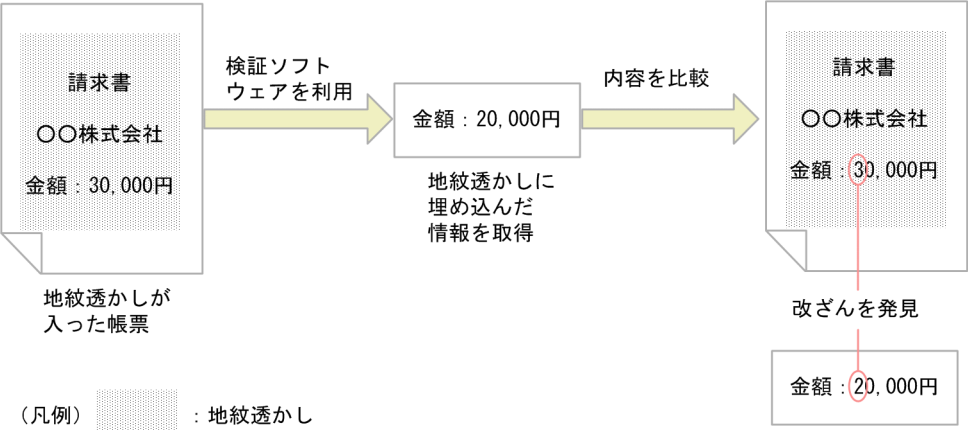
EUR サーバ帳票出力機能では、PDF 形式ファイルに埋め込む画像ファイル、および画像ファイルの表示方法を指定できます。

複写検知機能で PDF 形式ファイルに埋め込める画像形式の詳細については、紙の番人のドキュメントを参照してください。

7. 帳票出力で使用するファイル

偽造・改ざん検知機能

PDF 形式ファイルを印刷する時、用紙内の指定した部分に地紋透かしを印刷します。専用の検証ソフトウェアを利用すると、地紋透かしに埋め込んだ情報を取り出すことができます。用紙に印刷した情報を地紋透かしに埋め込んでおくことで、元の文書から偽造または改ざんされているかどうか調べられます。



EUR サーバ帳票出力機能では、PDF 形式ファイルに埋め込むデータ、色、濃さ、および位置を指定できます。

検証ソフトウェアの詳細については、紙の番人のドキュメントを参照してください。

7.16.1 透かし情報ファイルの作成

透かし情報ファイルは、メモ帳など、テキストファイルが編集できるエディタを起動して編集します。任意の拡張子のファイルを使用できます。

(1) 透かし情報ファイルの構文

キーワード=値
キーワード=値
:

(凡例)

: 改行コードまたは EOF を示します。

注

改行コードだけの行は無視されます。

キーワードに指定できる値を次に示します。

表 7-30 透かし情報ファイルの構文

キーワード	値
IMAGE_FILE	複写検知用の画像ファイルを指定します。
IMAGE_STYLE	複写検知用の画像ファイルの展開方法を指定します。

キーワード	値
IMAGE_STARTPOS	複写検知用の画像を貼り付ける開始座標を指定します。
IMAGE_ENDPOS	複写検知用の画像を貼り付ける終了座標を指定します。
TINT_DATA	地紋透かしとして埋め込むデータを指定します。
TINT_COLOR	地紋透かしの色を指定します。
TINT_DENSITY	地紋透かしの濃度を指定します。
TINT_STARTPOS	地紋透かしの埋め込む領域の左右を指定します。
TINT_ENDPOS	地紋透かしの埋め込む領域の上下を指定します。

キーワードの指定は、PDF 形式ファイルに複写検知機能を追加する場合と、PDF 形式ファイルに偽造・改ざん検知機能を追加する場合とで異なります。キーワードと対応する出力機能について、次に示します。

必ず指定するキーワードを省略した場合は、エラー（KEEU081-E）になります。複写検知機能と偽造・改ざん検知機能のどちらか、または両方を指定できます。どちらも指定しない場合は、エラー（KEEU081-E）になります。

表 7-31 キーワードと対応する出力機能

キーワード	複写検知機能	偽造・改ざん検知機能
IMAGE_FILE		
IMAGE_STYLE		
IMAGE_STARTPOS		
IMAGE_ENDPOS		
TINT_DATA		
TINT_COLOR		
TINT_DENSITY		
TINT_STARTPOS		
TINT_ENDPOS		

（凡例）

- ：必ず指定するキーワードです。
- ：指定を省略できるキーワードです。
- ：指定しても無視されるキーワードです。

（2）透かし情報ファイルのキーワード

（a）IMAGE_FILE

複写検知用の画像ファイルを指定します。複数指定した場合は、エラー（KEEU081-E）

になります。

キーワード IMAGE_FILE の形式

IMAGE_FILE= 画像ファイル名

画像ファイル名

PDF 形式ファイルに埋め込む画像ファイル名を指定します。

指定できるファイル名は、フルパスの場合は 259 文字以内、相対パスまたはファイル名だけの場合は 255 文字以内です。

なお、相対パスまたはファイル名が指定されている場合は、環境変数

EURPS_IMAGEPATH を参照してフルパスにします。環境変数

EURPS_IMAGEPATH が設定されていない場合は、EUR Developer、または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダが設定されます。

指定できる画像ファイルのデータ形式は、Windows BITMAP (Windows 3.0 以前のビットマップ形式を除く) または JPEG です。

Windows BITMAP または JPEG 以外の形式の画像ファイルを指定した場合は、エラー (KEEU082-E) になります。GIF または TIFF を指定した場合は、エラー (KEEU081-E) になります。

指定できる画像ファイルの詳細については、紙の番人のドキュメントを参照してください。

(b) IMAGE_STYLE

複写検知用の画像ファイルの展開方法を指定します。複数指定した場合は、エラー (KEEU081-E) になります。

キーワード IMAGE_STYLE の形式

IMAGE_STYLE= { ONE | TILE }

ONE

指定開始座標の位置へ貼り付けます。

TILE

指定開始座標から終了座標までタイリングで貼り付けます。

(c) IMAGE_STARTPOS

複写検知用の画像を貼り付ける開始座標を指定します。用紙の左上を原点とした X 座標と Y 座標で指定します。単位はミリメートルです。複数指定した場合は、エラー (KEEU081-E) になります。

キーワード IMAGE_STARTPOS の形式

IMAGE_STARTPOS=x,y

x

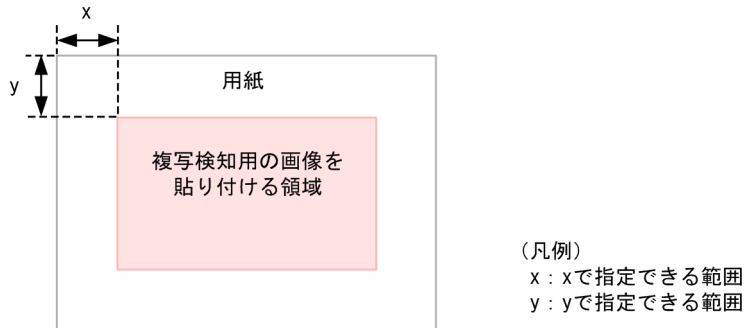
開始座標の X 座標を、3 桁以内の正の整数値で指定します。

y

開始座標の Y 座標を、3 桁以内の正の整数値で指定します。

注

キーワード IMAGE_STARTPOS で指定できる範囲を、次に示します。



(d) IMAGE_ENDPOS

複写検知用の画像を貼り付ける終了座標を指定します。用紙の左上を原点とした X 座標と Y 座標で指定します。単位はミリメートルです。複数指定した場合は、エラー (KEEU081-E) になります。

キーワード IMAGE_ENDPOS の形式

IMAGE_ENDPOS=x,y

x

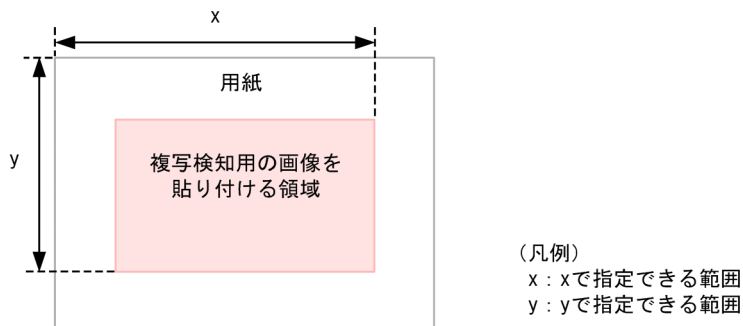
終了座標の X 座標を、3 桁以内の正の整数値で指定します。

y

終了座標の Y 座標を、3 桁以内の正の整数値で指定します。

注

キーワード IMAGE_ENDPOS で指定できる範囲を、次に示します。



なお、キーワード IMAGE_STYLE に「ONE」を指定した場合、キーワード IMAGE_ENDPOS は省略できます。キーワード IMAGE_STYLE に「TILE」を指定した場合、キーワード IMAGE_ENDPOS を省略すると「ONE」を指定した場合

7. 帳票出力で使用するファイル

と同じ動作になります。

(e) TINT_DATA

地紋透かしとして埋め込む文字を指定します。複数指定した場合は、エラー (KEEU081-E) になります。

キーワード TINT_DATA の形式

TINT_DATA= 文字列

文字列

PDF 形式ファイルに埋め込む地紋透かしの文字を指定します。Shift JIS 範囲内の文字集合の文字を指定できます。Shift JIS 範囲外の文字集合の文字を指定した場合、「?」に変換されて出力されます。指定できる文字列は、Shift JIS エンコード後の文字列で 1,024 バイトまでです。

(f) TINT_COLOR

地紋透かしの色を指定します。複数指定した場合は、エラー (KEEU081-E) になります。

キーワード TINT_COLOR の形式

TINT_COLOR= { B | Y }

B

地紋透かしの色を黒に指定します。

Y

地紋透かしの色を黄色に指定します。

(g) TINT_DENSITY

地紋透かしの濃度を指定します。複数指定した場合は、エラー (KEEU081-E) になります。

キーワード TINT_DENSITY の形式

TINT_DENSITY= { D | L }

D

地紋透かしの濃度を「濃い」に指定します。

L

地紋透かしの濃度を「薄い」に指定します。

(h) TINT_STARTPOS

地紋透かしを埋め込む領域の左右を指定します。用紙の左右の端から、地紋透かしを埋め込む領域の左右の端までの距離で指定します。単位はミリメートルです。複数指定した場合は、エラー (KEEU081-E) になります。

キーワード TINT_STARTPOS の形式

TINT_STARTPOS=x,y

x

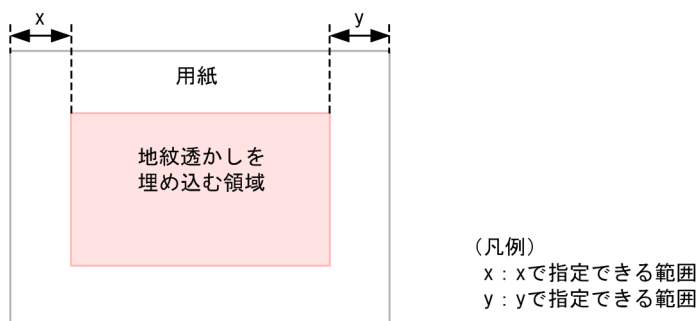
用紙の左端から、地紋透かしを埋め込む領域の左端までの距離を、3 桁以内の正の整数値で指定します。

y

用紙の右端から、地紋透かしを埋め込む領域の右端までの距離を、3 桁以内の正の整数値で指定します。

注

キーワード TINT_STARTPOS で指定できる範囲を、次に示します。



(i) TINT_ENDPOS

地紋透かしを埋め込む領域の上下を指定します。用紙の上下の端から、地紋透かしを埋め込む領域の上下の端までの距離で指定します。単位はミリメートルです。複数指定した場合は、エラー (KEEU081-E) になります。

キーワード TINT_ENDPOS の形式

TINT_ENDPOS=x,y

x

用紙の上端から、地紋透かしを埋め込む領域の上端までの距離を、3 桁以内の正の整数値で指定します。

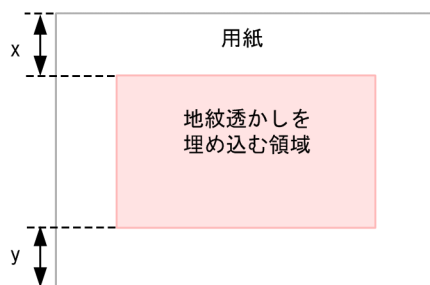
y

用紙の下端から、地紋透かしを埋め込む領域の下端までの距離を、3 桁以内の正の整数値で指定します。

注

キーワード TINT_ENDPOS で指定できる範囲を、次に示します。

7. 帳票出力で使用するファイル



(凡例)
x : xで指定できる範囲
y : yで指定できる範囲

(3) 透かし情報ファイルの文字コード

透かし情報ファイルの文字コードを次に示します。

表 7-32 透かしファイルの文字コード

Windows 環境の場合	UNIX / Linux 環境の場合
CP932 (Shift JIS エンコード) UTF-8 UTF-16	-

(凡例)

- : 該当する項目はありません。

注

日本語環境限定です。

(4) 透かし情報ファイルの注意事項

複写検知機能と偽造・改ざん検知機能を同時に設定する場合

複写検知用の画像ファイルと偽造・改ざん検知用の地紋透かしを埋め込む位置は、重ならないように指定してください。重なって指定された場合は、複写模様が表示されなかったり、偽造・改ざん検知用のデータが取得できなかったりします。

PDF 仕分け出力をする場合

仕分けされた PDF 形式ファイルには、すべて同じ透かし情報ファイルの設定が埋め込まれます。PDF 形式ファイルの仕分け先ごとに、それぞれ透かし情報ファイルを指定することはできません。

複数帳票の一括出力または複数様式での帳票出力を実行する場合

紙の番人を使用して複数帳票の一括出力または複数様式での帳票出力を実行する場合、すべての帳票で同じ用紙サイズを設定してください。紙の番人を使用する透かし情報の設定は、複数の用紙サイズが混在する出力では使用できないため、出力結果が不正になります。すべての帳票で同じ用紙サイズが設定されているか、事前に確認してください。

帳票に地紋透かしを与える場合

地紋透かしを与えた帳票は、事前に必ず検証してください。検証用データおよび検証内容に関しては、紙の番人の仕様を確認してください。

地紋透かしの文字に指定できるデータ

地紋透かしの文字に指定できるデータは、Shift JIS 範囲内の文字集合の文字です。

Shift JIS 範囲外の文字集合の文字を指定した場合、「?」に置き換えて地紋データを生成します。

7.16.2 透かし情報ファイルの保存場所

透かし情報ファイルは、任意のフォルダに保存してください。この保存先フォルダを、次に示す透かし情報ファイルのデフォルトの読み込みフォルダに設定してください。

- 環境変数、および環境設定ファイルの変数「EURPS_TINTINFOPATH」
- ActiveX オブジェクトの「TintInfoFilePath」
- JavaBeans 起動部品の「setTintInfoFilePath」

7.16.3 透かし情報ファイルの指定例

透かし情報ファイルの指定例を次に示します。

(1) 複写検知機能を追加する場合

余白上下左右 5mm を残した A4 縦の用紙全体に、複写検知画像をタイリングして埋め込む場合

```
IMAGE_FILE=copyng.jpg
IMAGE_STYLE=TILE
IMAGE_STARTPOS=5,5
IMAGE_ENDPOS=292,205
```

A4 縦の用紙の左上から横 5mm、縦 5mm の位置を開始座標として複写検知画像を埋め込む場合

```
IMAGE_FILE=copyng.jpg
IMAGE_STYLE=ONE
IMAGE_STARTPOS=5,5
```

(2) 偽造・改ざん検知機能を追加する場合

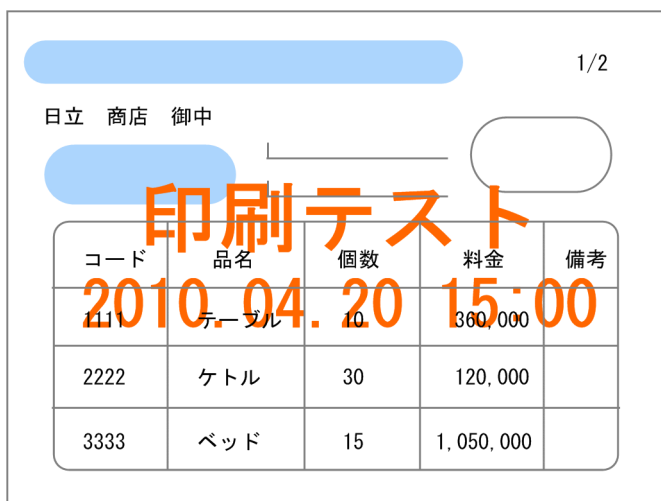
余白上下左右 5mm を残した A4 縦の用紙全体に、偽造・改ざん検知データを薄い黄色の地紋透かしで埋め込む場合

```
TINT_DATA=C1C2C3C4
TINT_COLOR=Y
TINT_DENSITY=L
TINT_STARTPOS=5,5
TINT_ENDPOS=5,5
```

7.17 テスト印刷設定ファイル

テスト印刷設定ファイルは、テスト印刷で出力した帳票の不正使用を防ぐ目的で、テスト印刷用の文字列を重ねて出力するための情報を指定したファイルです。

テスト印刷用の文字列を重ねて出力した帳票のイメージを次に示します。



1/2

日立 商店 御中

コード	品名	個数	料金	備考
1111	テーブル	10	360,000	
2222	ケトル	30	120,000	
3333	ベッド	15	1,050,000	

テスト印刷設定ファイルでは、テスト印刷用の文字列についての次の内容を設定できます。

文字列の内容

文字のフォント名

文字の大きさ

文字列の出力位置

文字の色

日付 / 時刻の書式

テスト印刷用の文字とほかのアイテムの重なりについて

帳票上にテスト印刷用の文字列を出力した場合、線アイテムと文字アイテムはテスト印刷用の文字列よりも上に出力されるため、テスト印刷用の文字列に隠れることはありません。図形と画像はテスト印刷用の文字列に隠れます。これは、異なる種類のアイテムの重なるの順序に決まりがあり、テスト印刷用の文字列は図形アイテムと線アイテムの間に出力されるためです。アイテムの重なるの詳細については、マニュアル「EUR 帳票設計」を参照してください。

7.17.1 テスト印刷設定ファイルの作成

テスト印刷設定ファイルは、メモ帳など、テキストファイルが編集できるエディタを起動して編集します。任意の拡張子のファイルを使用できます。

(1) テスト印刷設定ファイルの構文

```
[TESTPRINT]
SECTIONS=セクション名1,セクション名2, ...
[セクション名1]
キー=値
:
[セクション名2]
キー=値
:
```

テスト印刷設定ファイルの構文で使用される属性は次のとおりです。

属性	セクション名	説明	省略
TESTPRINT	TESTPRINT	TEST 属性のセクション名を指定します。	1
TEST	SECTIONS キーで指定したセクション名	テスト印刷の内容を設定します。 SECTIONS キーで指定したセクション名を指定します。	2

(凡例)

: 必ず指定するキーワードです。

注 1 TESTPRINT セクションを省略した場合、エラー (KEEU087-E) となります。

注 2 SECTIONS キーで指定したセクション名を TEST 属性のセクションに記載しなかった場合、エラー (KEEU089-E) となります。

また、属性に設定する内容については、次の注意事項があります。

セクション名の大文字・小文字は区別されません。

TESTPRINT 属性で指定していないセクション名を指定した場合、そのセクションの設定内容は無視されます。

同じセクションを複数記載した場合、先に記載した内容が有効となります。

テスト印刷設定ファイルで指定するキーワードの内容を次に示します。

表 7-33 テスト印刷設定ファイルで指定するキーワード

属性	キー	内容	省略
TESTPRINT	SECTIONS	TEST 属性のセクション名を指定します。	
TEST	TEXT	テスト印刷用に出力する文字列を指定します。	
	FONT	文字のフォント名を指定します。	
	SIZE	文字の大きさを指定します。(単位 : ポイント)	

7. 帳票出力で使用するファイル

属性	キー	内容	省略
	POS	テスト印刷用の文字列を出力する時の出力位置を指定します。	
	COLOR	文字の色を指定します。	
	DATETIMEFORMAT	TEXT キーで「%d (日付)」が指定された時、「%d」の書式を指定します。	

(凡例)

: 必ず指定するキーワードです。

: 指定を省略できるキーワードです。

必ず指定するキーワードを指定しなかった場合は、エラー (KEEU088-E) となります。

(2) テスト印刷設定ファイルのキーワード

(a) SECTIONS

TEST 属性のセクション名を指定します。

キーワード SECTIONS の形式

SECTIONS= セクション名

セクション名

セクション名を 32 文字以下の文字で指定します。

「セクション名 1, セクション名 2,...」のようにコンマで区切って複数のセクション名を指定できます。

32 文字を超えた場合、SECTIONS キーの値に何も指定しなかった場合、またはコンマの両隣にセクション名を指定しなかった場合は、エラー (KEEU086-E) になります。

(b) TEXT

テスト印刷用の文字として帳票上に表示される文字列を指定します。

キーワード TEXT の形式

TEXT= 文字列

文字列

テスト印刷用の文字列を指定します。259 文字までの文字列が有効となります。

260 文字以上の文字を指定してもエラーにはなりませんが、260 文字目以降の文字列は無視されます。

指定した文字はそのまま出力されます。

ただし、「%d」「%m」「% 文字」は以下のように変換して出力されます。

- %d

テスト印刷実行時の日付 / 時刻に変換されます。DATETIMEFORMAT キーで指定した書式で変換されます。

- %m
テスト印刷実行時のマシン名に変換されます。
- % 文字 (「d」および「m」以外)
文字が出力されます。

帳票には、変換後の文字列で 512 文字まで出力されます。512 文字を超えた場合、513 文字目以降の文字列は出力されません。
TEXT キーの値に何も指定しなかった場合、エラー (KEEU086-E) となります。

(c) FONT

テスト印刷用の文字列のフォントを指定します。

キーワード FONT の形式

FONT= フォント名

フォント名

フォント名を指定します。31 文字までの文字列が有効となります。32 文字以上の文字を指定してもエラーにはなりませんが、32 文字目以降の文字列は無視されます。

指定できるフォント名は、文字アイテムのフォントで指定できるものと同じです。

また、出力形式によっては指定したフォントが対応していない場合があります。この場合は、別のフォントに置き換えて出力されます。

FONT キーの記載がない場合、または FONT キーに何も指定しなかった場合は、「MS ゴシック」が仮定されます。

(d) SIZE

テスト印刷用の文字の大きさを指定します。

キーワード SIZE の形式

SIZE= フォントサイズ

フォントサイズ

文字の大きさを指定します。単位は、ポイントです。

3 ~ 256 の整数値を指定できます。小数値や範囲外の値を指定した場合は、エラー (KEEU086-E) になります。

SIZE キーの記載がない場合、または SIZE キーに何も指定しなかった場合、12 ポイントが仮定されます。

(e) POS

テスト印刷用の文字列を出力する場合の出力位置を指定します。

キーワード POS の形式

POS= { topl | topc | topr | botl | botc | botr | cenl | cenc | cenr | X,Y }

7. 帳票出力で使用するファイル

topl

テスト印刷用の文字列を貼付域の左上に出力します。

topc

テスト印刷用の文字列を貼付域の中央上に出力します。

topr

テスト印刷用の文字列を貼付域の右上に出力します。

botl

テスト印刷用の文字列を貼付域の左下に出力します。

botc

テスト印刷用の文字列を貼付域の中央下に出力します。

botr

テスト印刷用文字列を貼付域の右下に出力します。

cenl

テスト印刷用文字列を貼付域の中央左に出力します。

cenc

テスト印刷用文字列を貼付域の中央に出力します。

cenr

テスト印刷用文字列を貼付域の中央右に出力します。

X,Y

テスト印刷用の文字列を、貼付域の左上を原点とした X 座標値、Y 座標値で指定した位置に出力します。

0 ~ 999 の整数値を指定できます。単位は、ミリメートルです。

0 ~ 999 以外の値を指定した場合、エラー (KEEU086-E) となります。

「topl」「topc」「topr」「botl」「botc」「botr」「cenl」「cenc」「cenr」「X,Y」以外の値を指定した場合は、エラー (KEEU086-E) になります。

(f) COLOR

テスト印刷用の文字列の色を指定します。

キーワード COLOR の形式

COLOR= 色

色

文字色を 16 進数の 6 桁の数値で指定します。

1 ~ 2 桁は赤色の明度、3 ~ 4 桁は緑色の明度、5 ~ 6 桁は青色の明度を表します。

(例)

000000 : 黒色

FF0000 : 赤色

16 進数の 6 桁以外を指定した場合、エラー（KEEU086-E）となります。

COLOR キーの記載がない場合、または COLOR キーに何も指定しなかった場合、「薄いグレー（A3A3A3）」が仮定されます。

なお、出力形式によっては指定した色とは別の色で出力されることがあります。

（g）DATETIMEFORMAT

TEXT キーで「%d」（日付）が指定された場合に、「%d」に適用する書式を指定します。

キーワード DATETIMEFORMAT の形式

DATETIMEFORMAT= 日付の書式

日付の書式

日付の書式を、レポートファイル形式の表示形式で指定します。259 文字までの文字列が有効となります。260 文字以上の文字を指定してもエラーにはなりません、260 文字目以降の文字列は無視されます。

DATETIMEFORMAT キーの記載がない場合、または DATETIMEFORMAT キーに何も指定しなかった場合、「%Y/%M/%D %h:%m:%s」が仮定されます（「」は、半角空白を意味します）。

レポートファイル形式の詳細については、マニュアル「EUR 帳票設計」を参照してください。

（3）テスト印刷設定ファイルの文字コード

テスト印刷設定ファイルの文字コードを次に示します。

表 7-34 テスト印刷設定ファイルの文字コード

Windows 環境の場合	UNIX / Linux 環境の場合
ロケールのエンコード UTF-8 UTF-16	ロケールのエンコード UTF-16

（4）テスト印刷設定ファイルの注意事項

テスト印刷用の文字列が貼付域をはみ出る場合の注意

テスト印刷用の文字列が貼付域をはみ出る場合、はみ出た分の文字列は切れてしまい、出力されません。ただし、文字列の先頭が貼付け領域の左端を超えることはないため、「topr」「botr」「cenr」を指定していても、必ず文字列の後ろ（右端）が切れます。この場合、エラーメッセージやワーニングメッセージは出力されません。

例えば、キーワード「POS」に「topr」を指定した帳票で、テスト印刷用の文字列が貼付域をはみ出た場合は次のように印刷されます。

7. 帳票出力で使用するファイル

■テスト印刷用の文字の配置イメージ

EUR帳票印刷用テスト 1/2

日立 商店 御中

コード	品名	個数	料金	備考
1111	テーブル	10	360,000	
2222	ケトル	30	120,000	
3333	ベッド	15	1,050,000	

文字列の後ろ
「スト」がはみ出る

貼付域

■実際に出力される帳票

EUR帳票印刷用テ 1/2

日立 商店 御中

コード	品名	個数	料金	備考
1111	テーブル	10	360,000	
2222	ケトル	30	120,000	
3333	ベッド	15	1,050,000	

「EUR帳票印刷用テ」
までが出力される。

テスト印刷用の文字列の文字幅

テスト印刷用の文字列は縦横比が2:1の固定ピッチで出力されます。静的モードで縦横比が2:1のフォントは固定アイテムと同じように出力されますが、縦横比が2:1のフォント以外は文字と文字の間が広くなったり、文字同士が重なったりすることがあります。

7.17.2 テスト印刷設定ファイルの保存場所

テスト印刷設定ファイルは、任意のフォルダに保存してください。この保存先フォルダを、次に示すテスト印刷設定ファイルのデフォルトの読み込みフォルダに設定してください。

- 環境変数，および環境設定ファイルの変数「EURPS_TESTPRINTFILE」

7.17.3 テスト印刷設定ファイルの指定例

テスト印刷設定ファイルの指定例を次に示します。

```
[TESTPRINT]
SECTIONS=TEST1,TEST2
[TEST1]
TEXT=TEST
FONT=M S ゴシック
SIZE=20
POS=topc
COLOR=000000
[TEST2]
TEXT=%d
FONT=M S ゴシック
SIZE=12
POS=botc
COLOR=000000
DATETIMEFORMAT=%4Y/%02M/%02D %02h/%02m/%02s
```

7.18 Acrobat JavaScript ファイル

Acrobat JavaScript ファイルは、PDF 形式ファイルに埋め込まれる JavaScript プログラムを指定したファイルです。Acrobat JavaScript ファイルを使用すると、Adobe Reader の「ページを開く」などのメニューを操作した時に、エラーを出力したり、メールを送信したりするなどの機能が設定できます。

Acrobat JavaScript ファイルを PDF 形式ファイルに埋め込むには、Acrobat JavaScript 定義ファイルが必要です。

7.18.1 Acrobat JavaScript ファイルの作成

Acrobat JavaScript ファイルは、メモ帳など、テキストファイルが編集できるエディタを起動して編集します。任意の拡張子のファイルを使用できます。

Acrobat JavaScript ファイルの文字コードを次に示します。

表 7-35 Acrobat JavaScript ファイルの文字コード

Windows 環境の場合	UNIX / Linux 環境の場合
UTF-8 UTF-16 ロケールの文字コード	UTF-16 ロケールの文字コード

Acrobat JavaScript ファイルの構文については、Adobe のマニュアルを参照してください。

7.18.2 Acrobat JavaScript ファイルの保存場所

Acrobat JavaScript ファイルは、任意のフォルダに保存してください。環境変数、および環境設定ファイルの変数「EURPS_SCRIPTFILEPATH」に指定したパスが、Acrobat JavaScript ファイルのデフォルトの読み込みフォルダになります。

7.19 Acrobat JavaScript 定義ファイル

PDF ファイルに埋め込む Acrobat JavaScript ファイル名を指定します。

Acrobat JavaScript ファイルを埋め込むと、Adobe Reader の「ページを開く」などのメニューを操作した時に、エラーを出したり、メールを送信したりするなど、Acrobat JavaScript で指定した機能を実行できます。

7.19.1 Acrobat JavaScript 定義ファイルの作成

Acrobat JavaScript 定義ファイルは、CSV 形式で作成します。

(1) Acrobat JavaScript 定義ファイルの形式

イベント名, Acrobat JavaScriptファイル名
イベント名, Acrobat JavaScriptファイル名
:

(凡例)

: 改行コードを示します。

イベント名

Acrobat JavaScript ファイル名に対応するイベント名を指定します。指定したイベントを実行した場合、対応する JavaScript を実行します。指定できるイベント名と対応する操作を次に示します。

表 7-36 イベント名と対応する操作

項番	イベント名	操作
1	O	「ページを開く」操作をした場合
2	C	「ページを閉じる」操作をした場合
3	WC	「文書を閉じる」操作をした場合
4	WS	「文書を保存する」操作をした場合
5	DS	「文書を保存した」操作をした場合
6	WP	「文書を印刷する」操作をした場合
7	DP	「文書を印刷した」操作をした場合

Acrobat JavaScript ファイル名

PDF 形式ファイルに埋め込む Acrobat JavaScript ファイル名を指定します。同じ名称の Acrobat JavaScript ファイルを複数指定できます。指定できるファイル名は、Windows 環境の場合、フルパスで 256 文字、相対パスまたはファイル名は 255 文字までです。UNIX 環境の場合、フルパスで 1,023 バイトまでです。

注意事項

7. 帳票出力で使用するファイル

- データに、空白およびコンマ「,」が含まれる場合は、「"」で囲ってください。
- イベント名が重複している場合、および指定した Acrobat JavaScript ファイルの指定がない場合は、エラーとなります。
- Acrobat JavaScript 定義ファイルの 1 行に三つ以上のデータを指定していた場合、最初の二つがデータとして入力されます。
- イベント名を「"」で囲んだ場合は、エラーとなります。
- イベント名 WS、および DS は、Adobe Acrobat で「保存」を実行した場合に Acrobat JavaScript が実行されます。Adobe Reader で「コピーを保存」を実行しても実行されません。

(2) Acrobat JavaScript 定義ファイルの文字コード

Acrobat JavaScript 定義ファイルの文字コードを次に示します。

表 7-37 Acrobat JavaScript 定義ファイルの文字コード

Windows 環境の場合	UNIX / Linux 環境の場合
UTF-8 UTF-16 ロケールの文字コード	UTF-16 ロケールの文字コード

7.19.2 Acrobat JavaScript 定義ファイルの保存場所

Acrobat JavaScript 定義ファイルは、任意のフォルダに保存してください。この保存先フォルダを、次に示す Acrobat JavaScript 定義ファイルのデフォルトの読み込みフォルダに設定してください。

- 環境変数、および環境設定ファイルの変数「EURPS_SCRIPTCNTLFILEPATH」
- ActiveX オブジェクトの「ScriptCntlFilePath」
- JavaBeans 起動部品の「setScriptCntlFilePath」

7.20 ビューアプレファレンス定義ファイル

ビューアプレファレンス定義ファイルは、出力した PDF 形式ファイルを開いた時に実行するビューアプレファレンスを指定するファイルです。

ビューアプレファレンスを使用すると、Adobe Reader で PDF 形式ファイルを開いた時、「ツールバー」や「メニューバー」などの Adobe Reader の GUI を制御できます。

7.20.1 ビューアプレファレンス定義ファイルの作成

ビューアプレファレンス定義ファイルは、CSV 形式で作成します。

(1) ビューアプレファレンス定義ファイルの形式

```
キー名, 設定値
キー名, 設定値
:
```

(凡例)

: 改行コードを示します。

キー名・設定値

ビューアプレファレンスのキーと設定値を指定します。キー名と設定値を次に示します。

表 7-38 ビューアプレファレンスのキーと設定値

キー名	設定値	内容
HIDETOOLBAR	YES	ツールバーを非表示に設定します。
	NO	ツールバーを表示します。
HIDEMENUBAR	YES	メニューバーを非表示に設定します。
	NO	メニューバーを表示します。
HIDEWINDOWUI	YES	ウィンドウコントロールを非表示に設定します。
	NO	ウィンドウコントロールを表示します。
FITWINDOW	YES	ページにウィンドウサイズを合わせます。
	NO	ページにウィンドウサイズを合わせません。
CENTERWINDOW	YES	ウィンドウを画面中央に配置します。
	NO	ウィンドウを画面中央に配置しません。
PAGEMODE	OUTLINE	ウィンドウコントロールにしおりを表示します。
	THUMB	ウィンドウコントロールにサムネイルを表示します。
	PAGE	ページだけ表示します。
	FULLSCREEN	全画面表示にします。
PRINTSCALING	NONE	ページの拡大 / 縮小を「なし」に設定します。

7. 帳票出力で使用するファイル

キー名	設定値	内容
	DEFAULT	Adobe Reader の設定に従います。
PICKTRAYBYPDFSIZE	YES	「PDF のページサイズに合わせて用紙を選択」チェックボックスを「オン」に設定します。
	NO	Adobe Reader の設定に従います。

注意事項

- キーを指定しなかった場合は、Adobe Reader の設定に従います。
- 設定値以外を指定した場合は、エラーとなります。
- 同じキーを複数指定した場合はエラーとなります。
- ビューアプレファレンス定義ファイルの 1 行に三つ以上のデータを指定していた場合、最初の二つがデータとして入力されます。
- キー名および設定値を「"」で囲んだ場合は、エラーとなります。

(2) ビューアプレファレンス定義ファイルの文字コード

ビューアプレファレンス定義ファイルの文字コードを次に示します。

表 7-39 ビューアプレファレンス定義ファイルの文字コード

Windows 環境の場合	UNIX / Linux 環境の場合
UTF-8 UTF-16 ロケールの文字コード	UTF-16 ロケールの文字コード

7.20.2 ビューアプレファレンス定義ファイルの保存場所

ビューアプレファレンス定義ファイルは、任意のフォルダに保存してください。この保存先フォルダを、次に示すビューアプレファレンス定義ファイルのデフォルトの読み込みフォルダに設定してください。

- 環境変数、および環境設定ファイルの変数
「EURPS_VIEWERPREFERENCEFILEPATH」
- ActiveX オブジェクトの「ViewerPreferenceFilePath」
- JavaBeans 起動部品の「setViewerPreferenceFilePath」

7.21 置き換え表管理情報ファイル

EUR では、アイテムのデータを指定したデータに置き換えて、出力できます。

置き換え表管理情報ファイルは、帳票を設計した時に設定された置き換え表名と、置き換え表ファイルの対応を定義したファイルです。

7.21.1 置き換え表管理情報ファイルの作成

置き換え表管理情報ファイルは、CSV 形式で作成します。

(1) 置き換え表管理情報ファイルの形式

置き換え表名,置き換え表ファイル名
置き換え表名,置き換え表ファイル名
:

(凡例)

: 改行コードを示します。

置き換え表名

置き換え表ファイルを区別するために付けた名称を指定します。指定できる置き換え表名数は、50 個までです。同一の置き換え表名が指定された場合、最初に記述した置き換え表名が有効となり、2 番目以降の記述は無視されます。

置き換え表名に、空白、コンマ(,)を使用している場合は、その文字を引用符(")で囲んで指定してください。引用符(")を使用している場合は、引用符(")を続けて二つ指定してください。

置き換え表ファイル名

置き換え表名に対応する置き換え表ファイル名を指定します。フルパス、相対パスは指定できません。ファイル名の文字列長は、Windows 環境の場合は 256 文字までです。UNIX / Linux 環境の場合は 1,023 バイトまでです。

7.21.2 置き換え表管理情報ファイルの保存場所

置き換え表管理情報ファイルは、任意のフォルダに保存してください。この保存先フォルダが、次に示す置き換え表管理情報ファイルのデフォルトの読み込みフォルダになります。

- 環境変数、および環境設定ファイルの変数「EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH」
- ActiveX オブジェクトの「ReplaceItemCntlFilePath」
- JavaBeans 起動部品の「setReplaceItemCntlFilePath」

7.22 置き換え表ファイル

EUR では、アイテムのデータを指定したデータに置き換えて、出力できます。

置き換え表ファイルは、アイテムのデータを置き換えて出力する場合に、1 フィールドごとの置き換え対象のデータと、置き換えて出力するデータを定義したファイルです。

7.22.1 置き換え表ファイルの作成

置き換え表ファイルは、CSV 形式で作成します。

(1) 置き換え表ファイルの形式

キーデータ,置き換えデータ

キーデータ,置き換えデータ

:

(凡例)

: 改行コードを示します。

キーデータ

置き換えの対象とする文字列を指定します。指定できる文字列長は、256 文字までです。同一のキーデータが指定された場合、最初に記述したキーデータが有効となり、2 番目以降の記述は無視されます。

文字列に、空白、コンマ(,)を使用している場合は、その文字を引用符(")で囲んで指定してください。引用符(")を使用している場合は、引用符(")を続けて二つ指定してください。

置き換えデータ

置き換えて出力する文字列を指定します。指定できる文字列長は、256 文字までです。

文字列に、空白、コンマ(,)を使用している場合は、その文字を引用符(")で囲んで指定してください。引用符(")を使用している場合は、引用符(")を続けて二つ指定してください。

空データの置き換えもできます。空データは次のように指定します。

- 空データを文字列に置き換える場合
"置き換え空データ 1" または
""置き換え空データ 2"
- 文字列を空データに置き換える場合
"置き換えキーデータ 1", または
"置き換えキーデータ 2", ""

置き換え表ファイルには、キーデータおよび置き換えデータを一つ以上指定してください。データを指定しない場合は、エラー (KEEU300-W) になります。

キーデータと置き換えデータは、置き換え対象の 1 フィールドのデータ中にある文字列ごとに指定してください。置き換え対象に、キーデータに指定されていないデータがある場合は、エラー（KEEU300-W）になります。

7.22.2 置き換え表ファイルの保存場所

置き換え表ファイルは、任意のフォルダに保存してください。この保存先フォルダが、次に示す置き換え表ファイルのデフォルトの読み込みフォルダになります。

- 環境変数、および環境設定ファイルの変数「EURPS_REPLACEITEMPATH」

7.23 EUR フォントファイル

EUR フォントファイル (*.edf) は、Windows 環境で作成した外字を UNIX / Linux 環境で出力できるように変換したものです。EUR フォントファイルの作成時には、指定した文字が画像として収録されます。

EUR フォントファイルの作成には、EUR フォントファイル作成ツール (expedf32.exe) を使用します。

EUR フォントファイル作成ツールを同梱している製品

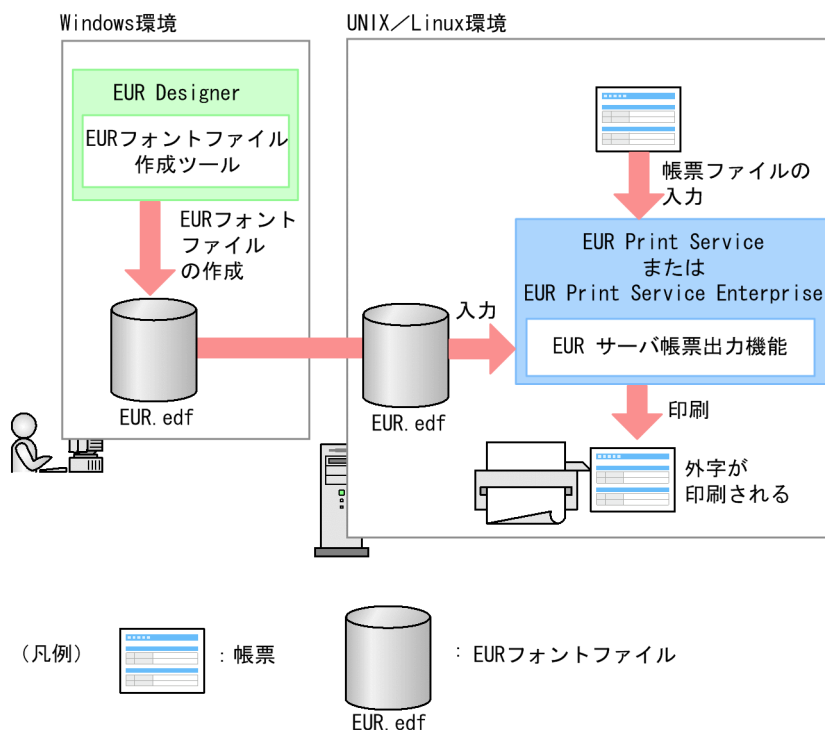
EUR Designer, EUR Developer, Windows 環境の EUR Print Service および Windows 環境の EUR Print Service Enterprise に同梱されています。

製品ごとのツールのインストール先

- EUR Designer, EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise の場合
EUR Designer, EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ ¥Program¥ 下にインストールされます。
- EUR Developer の場合
EUR Developer のインストール先フォルダ ¥EUR Designer¥Program¥ 下にインストールされます。

外字ファイルに登録された外字を EUR フォントファイルに収録して、UNIX / Linux 環境で出力する場合のイメージを次の図に示します。なお、図中では例として EUR 帳票作成機能を使用しています。

図 7-16 EUR フォントファイルを使用した外字の出力



7.23.1 EUR フォントファイルの作成

EUR フォントファイル作成ツールは、コマンドラインで起動して使用します。EUR フォントファイル作成ツールのコマンドの構文、オプション、および指定例を説明します。

(1) EUR フォントファイル作成ツールのコマンドの構文

EUR フォントファイル作成ツールのコマンドの構文を次に示します。

```
expedf32.exe
  /eudc 外字ファイル名      /base ベースフォント名
  /size ピクセルサイズ
  /out EURフォントファイル名
```

(2) オプションの説明

EUR フォントファイル作成ツールで指定するオプションを説明します。オプションの文字列は、大文字、小文字を区別しません。

7. 帳票出力で使用するファイル

(a) /eudc オプション

外字ファイル (*.tte) を指定します。

/eudc オプションを指定した場合は、フォントであらかじめ定義されている符号位置にも、外字ファイルで定義した文字が収録されます。

(b) /base オプション

外字ファイル (*.tte) を指定する代わりに、Windows の外字エディタでの外字登録時に「指定したフォントにリンクする」として選択したフォント名(「MS 明朝」や「MS ゴシック」など)を指定します。指定したフォントにリンクする外字が EUR フォントファイルに収録されます。

不正なフォント名称を指定した場合、Windows によってデフォルトフォントが仮定されます。このとき、エラー (KEEU F0601-W) を出力して仮定したフォント名が通知されます。

なお、指定するフォントによっては、登録した外字が収録されない場合があります。

(c) /size オプション

8 から 96 までの 8 の整数倍の値を指定します。

指定したサイズが大きいほど、鮮明な文字を出力できますが、ファイルの容量が大きくなり、処理も遅くなるのでご注意ください。

(d) /out オプション

作成する EUR フォントファイル名を指定します。フォントの出力時に区別しやすいように、明朝体として作成したファイルか、ゴシック体として作成したファイルかがわかるようなファイル名にしておくとう便利です。

(3) 指定例

指定内容および指定例を次に示します。

(a) Windows の外字ファイルから、明朝体として使用する EUR フォントファイルを作成する場合

指定内容

外字ファイル名 : C:\WINDOWS\Fonts\EUDC.TTE

サイズ : 24 ピクセル

EUR フォントファイル名 : msmin24.edf

指定例

```
インストール先フォルダ¥Program¥expedf32.exe
/eudc C:\WINDOWS\Fonts\EUDC.TTE
/size 24
```

```
/out C:¥TEMP¥msmin24.edf
```

- (b) MS 明朝にリンクされた外字から、明朝体として使用する EUR フォントファイルを作成する場合

指定内容

```
ベースフォントファイル  : MS 明朝
サイズ                  : 24 ピクセル
EUR フォントファイル名   : msmin24.edf
```

指定例

```
インストール先フォルダ¥Program¥expedf32.exe
                        /base "MS 明朝"
                        /size 24
                        /out C:¥TEMP¥msmin24.edf
```

7.23.2 EUR フォントファイルの使用方法

作成した EUR フォントファイルを使用する場合、使用する EUR フォントファイルを次に示す環境変数に指定する必要があります。

- EURPS_PDL_EXMINFONTPATH
明朝体用として作成した EUR フォントファイル (*.edf) を指定します。
- EURPS_PDL_EXGOTFONTPATH
ゴシック体用として作成した EUR フォントファイルを指定します。

EUR フォントファイルの設定例

```
EURPS_PDL_EXMINFONTPATH=/opt/eurps/min24.edf
EURPS_PDL_EXGOTFONTPATH=/opt/eurps/got24.edf
```

また、EUR フォントファイルの設定を解除したい場合、次に示すように環境変数の EUR フォントファイルの指定を削除してください。

EUR フォントファイルの解除例

```
EURPS_PDL_EXMINFONTPATH=
EURPS_PDL_EXGOTFONTPATH=
```

環境変数の詳細は、「7.26 環境設定ファイル」を参照してください。

7.23.3 EUR フォントファイルを使用するときの注意

EUR フォントファイルを使用するときの注意事項を次に示します。

EUR フォントファイルを使用する場合、出力される文字については出力先別に次の制限があります。

7. 帳票出力で使用するファイル

PDF：ボールド属性は適用されません。

PostScript：ボールド属性は適用されません。

LIPS：ボールド属性，イタリック属性は適用されません。

ESC/P：ボールド属性，イタリック属性は適用されません。

出力する文字が EUR フォントファイルに収録されていない場合は，「」（全角空白）」を出力します。

環境変数「EURPS_GAIJIFONT」で OS ごとに用意された外字フォントファイルを指定した場合は，EUR フォントファイルは使用できません。

7.24 出力ページ情報ファイル

出力ページ情報ファイルは、帳票をプリンタやファイルに出力した場合に、出力したページ数を取得するファイルです。CSV 形式で出力されます。文字コードは、次に示すエンコーディングで出力されます。変換できない文字は、「？」で出力されます。

- Windows 環境の場合：UTF-16
- UNIX / Linux 環境の場合：設定されている文字ロケール環境に依存します。

出力ページ情報ファイルだけを出力したい場合は、環境変数 EURPS_PRINT に NO を指定してください。

取得する出力ページ数は、帳票の印刷条件によって異なります。印刷条件による出力ページ数を次に示します。

表 7-40 印刷条件と出力ページ数

印刷条件		出力ページ数
単一様式		印刷したページ数
複数帳票の一括出力		印刷した帳票ごとのページ数
複数様式	両面印刷（空白ページあり）	空白ページ以外の印刷したページ数
	表紙次紙形式の帳票	キーデータで分けた様式グループごとに印刷したページ数
	連票（サブ様式グループ指定なし）	キーデータで分けた様式グループごとに印刷したページ数
	連票（サブ様式グループ指定あり）	キーデータで分けたサブ様式グループごとに印刷したページ数
	複数の帳票セット出力	様式グループごとに印刷したページ数
	複数様式で 0 件データの場合	0
仕分け出力	JP1 と連携した出力	仕分けで出力したすべてのページ数
	PDF 形式ファイルへの出力	
0 件データ	フィールド定義なし	1
	フィールド定義あり	
印刷開始 / 終了ページ指定		指定された開始ページから終了ページまでのページ数
部数指定		1 部数分のページ数

7.24.1 出力ページ情報の出力形式

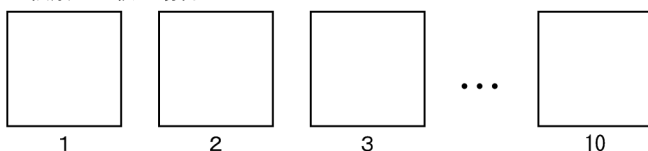
出力ページ情報は次の形式で、出力ページ情報ファイルに出力されます。

(1) 単一様式の場合

単一様式では、次のように出力したページ数をすべてカウントします。

図 7-17 単一様式のページ数カウント例

・帳票が10枚の場合



出力ページ数：10ページ

出力ページ情報ファイルへの出力形式

出力ページ数, 帳票ファイル名

(凡例)

出力ページ数：出力した帳票のページ数

帳票ファイル名：出力した帳票ファイル名

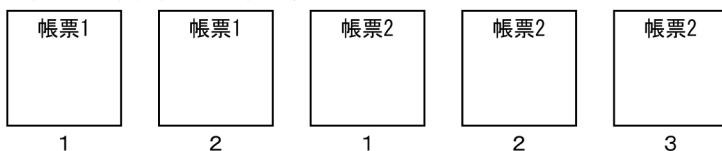
：改行コード

(2) 複数帳票の一括出力の場合

複数帳票では、次のように出力する帳票単位にカウントします。

図 7-18 複数帳票のページ数カウント例

・帳票1が2枚, 帳票2が3枚の場合



出力ページ数：帳票1 2ページ
帳票2 3ページ

出力ページ情報ファイルへの出力形式

出力ページ数₁, 帳票ファイル名₁

出力ページ数₂, 帳票ファイル名₂

：

(凡例)

出力ページ数 *n*：出力した帳票 *n* のページ数

帳票ファイル名 *n*：出力された帳票 *n* の帳票ファイル名

：改行コード

(3) 複数様式の場合

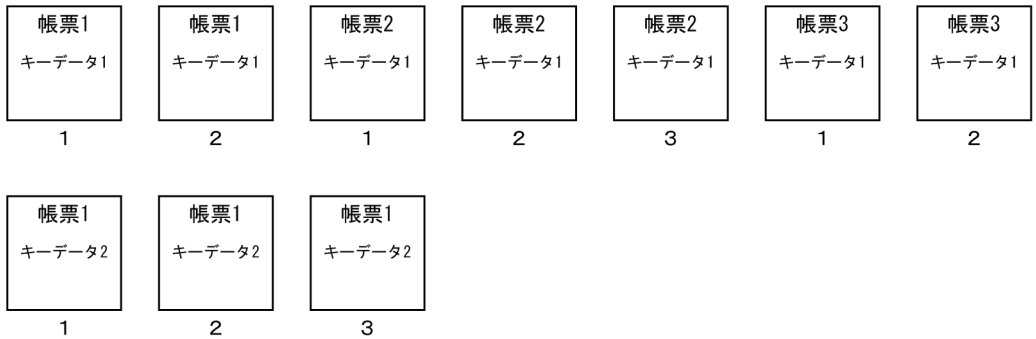
複数様式の各形式でのページ数のカウント方法は、様式によって異なります。なお、両面印刷で、空白を挿入している場合は、挿入した空白ページはカウントされません。

(a) 連票形式の帳票の場合

連票形式の帳票では、次のように複数帳票をキーデータ単位にカウントします。

図 7-19 連票形式のページ数カウント例

- ・ 帳票1のキーデータ1対応が2枚、帳票2のキーデータ1対応が3枚、帳票3のキーデータ1対応が2枚、
帳票1のキーデータ2対応が3枚の場合



出力ページ数： 帳票1のキーデータ1対応 2 ページ
 帳票2のキーデータ1対応 3 ページ
 帳票3のキーデータ1対応 2 ページ
 帳票1のキーデータ2対応 3 ページ

出力ページ情報ファイルへの出力形式

出力ページ数1, 帳票ファイル名1, キーデータ1
 出力ページ数2, 帳票ファイル名2, キーデータ2
 :

(凡例)

出力ページ数 n：出力した帳票 n のページ数
 帳票ファイル名 n：出力された帳票 n の帳票ファイル名
 キーデータ n：データを分けたキーデータ
 : 改行コード

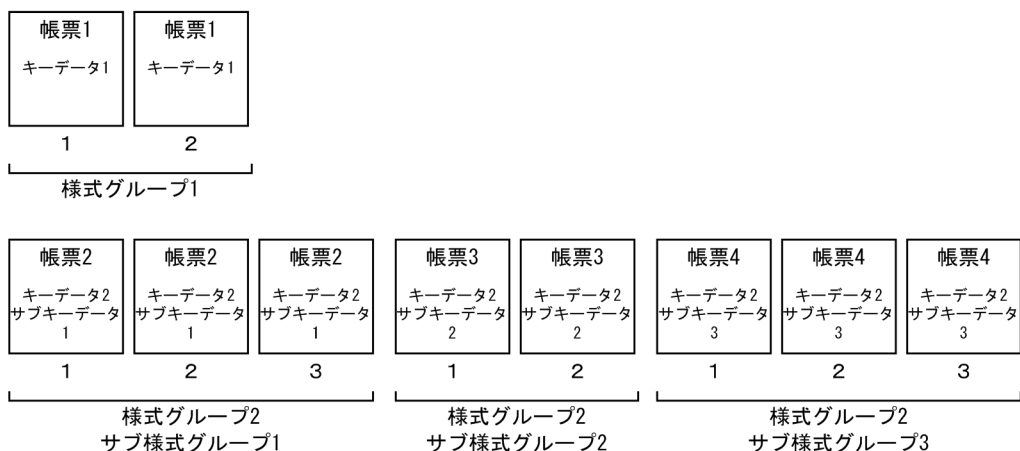
(b) サブ様式グループを指定した連票形式の帳票の場合

サブ様式グループを指定した連票形式の帳票では、複数帳票を次のように様式グループ、およびサブ様式グループ単位にカウントします。

7. 帳票出力で使用するファイル

図 7-20 サブ様式グループを指定した連票形式のページ数カウント例

- ・ 様式グループが二つ、様式グループ2のサブ様式グループが三つの場合



出力ページ数：帳票1の様式グループ 2 ページ
 帳票2のサブ様式グループ 3 ページ
 帳票3のサブ様式グループ 2 ページ
 帳票4のサブ様式グループ 3 ページ

出力ページ情報ファイルへの出力形式

出力ページ数₁, 様式グループ番号₁, キーデータ₁
 出力ページ数₂, 様式グループ番号₂, キーデータ₁, サブ様式グループ番号₁, サブ
 キーデータ₁
 出力ページ数₃, 様式グループ番号₂, キーデータ₁, サブ様式グループ番号₂, サブ
 キーデータ₂
 出力ページ数₄, 様式グループ番号₁, キーデータ₂
 出力ページ数₅, 様式グループ番号₂, キーデータ₂, サブ様式グループ番号₁, サブ
 キーデータ₃
 出力ページ数₆, 様式グループ番号₂, キーデータ₂, サブ様式グループ番号₂, サブ
 キーデータ₄
 :

(凡例)

出力ページ数 n : 出力した帳票 n のページ数

様式グループ番号 n : 複数様式情報定義ファイルに定義された様式グループ番
 号

サブ様式グループ番号 n : 複数様式情報定義ファイルに定義されたサブ様式グ
 ループ番号

キーデータ n : データを分けたキーデータ

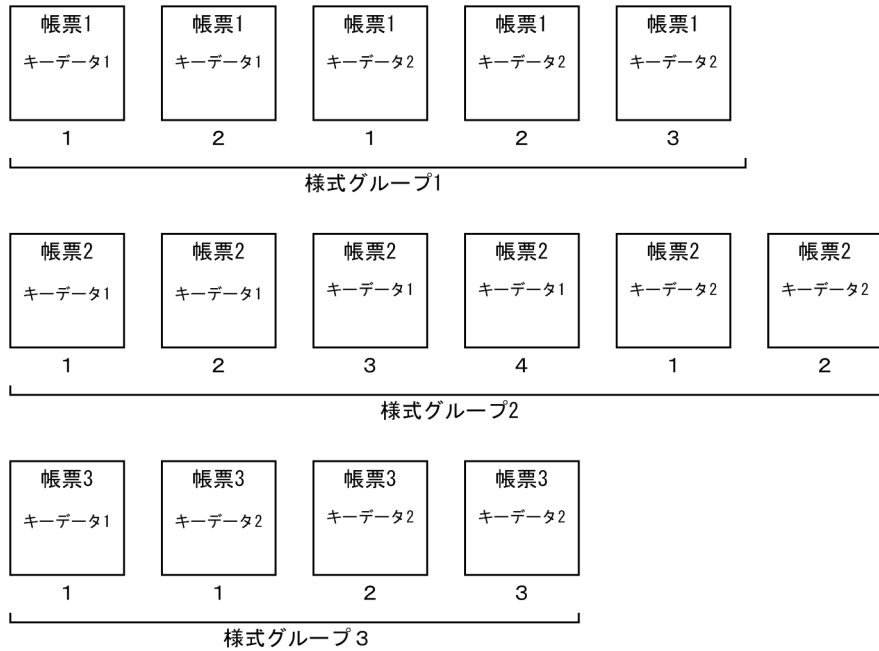
: 改行コード

(c) 複数の帳票セット出力の場合

複数の帳票セット出力では、次のように様式グループ単位にカウントします。

図 7-21 複数の帳票セット出力のページ数カウント例

・帳票セットの様式グループが三つの場合



出力ページ数：帳票1のグループ 5 ページ
 帳票2のグループ 6 ページ
 帳票3のグループ 4 ページ

出力ページ情報ファイルへの出力形式

出力ページ数1, 様式グループ番号1
 出力ページ数2, 様式グループ番号2
 :

(凡例)

出力ページ数 n : 出力した様式グループ n のページ数

様式グループ番号 n : 複数様式情報定義ファイルに定義された様式グループ番号

: 改行コード

7.24.2 出力ページ情報の出力先

出力ページ情報は、次のプロパティおよびメソッドで指定したファイルに出力されます。

- eurps コマンドの「/pnf オプション」
- ActiveX オブジェクトの「PrintedPageNumberFileName」
- JavaBeans 起動部品の「setPrintedPageNumberFileName」

7. 帳票出力で使用するファイル

出力先フォルダは、環境変数、および環境設定ファイルの変数「EURPS_OUTPUTPATH」で指定します。

7.25 トレースファイル

EUR サーバ帳票出力機能では、帳票をプリンタや PDF 形式ファイルに出力するごとに、トレース情報をトレースファイルに採取します。

トレース情報は、次の障害が発生した場合の障害調査に役立ちます。

- EUR サーバ帳票出力機能がエラー終了し、帳票が出力されなかった場合。
- EUR サーバ帳票出力機能は正常終了したが、帳票が出力されない、または出力結果が不正だった場合。

(1) 採取するトレース情報

次のトレース情報を採取します。

- 関数を呼び出す前のトレース
- エラーが発生した時のトレース
- 正常終了時のトレース

(2) トレースファイルの出力場所

出力されるトレースファイルの名称と、出力場所を次に示します。

トレースファイル名

次の名称で出力されます。

```
EurtrcYYYYMMDDhhmmsslll_pppppppppp.log
```

(凡例)

YYYY : 実行時の年

MM : 実行時の月

DD : 実行時の日

hh : 実行時の時

mm : 実行時の分

ss : 実行時の秒

lll : 実行時のミリ秒

pppppppppp : プロセス ID

出力場所

環境変数 EURPS_LOGFILEPATH で指定されたフォルダ (ディレクトリ) に出力します。

Windows 環境の場合

環境変数 EURPS_LOGFILEPATH が設定されていない場合は、次に示す順にファイルを検索します。

- EUR Developer , EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise

7. 帳票出力で使用するファイル

のインストール時に、[ログ出力先の指定] ダイアログに指定されたフォルダデフォルトは「C:\eurpslog」です。

- MS-DOS(R) 環境の環境変数 TMP で指定されたフォルダ環境変数 EURPS_LOGFILEPATH と環境設定ファイル (EURPS_ENV) 中の変数 EURPS_LOGFILEPATH を同時に設定した場合は、環境変数の値が有効になります。

UNIX / Linux 環境の場合

環境変数 EURPS_LOGFILEPATH が設定されていない場合は、「/var/opt/eurps」ディレクトリに出力します。

注意

トレースファイルは、EUR サーバ帳票出力機能を実行することに作成されます。既存ファイルへ上書きされませんので、必要に応じて削除してください。

(3) トレースファイルの文字コード

トレースファイルの文字コードは、ロケールの文字コードに従います。ロケールに対応する文字コードについては、「付録 C 作業環境の言語との対応」を参照してください。

(4) トレース情報採取の指定

トレース情報を採取するか、採取しないかを指定できます。トレース情報の採取は、環境変数「EURPS_TRACE」で指定します。

API のトレース情報を採取するか採取しないかも指定できます。API のトレース情報の採取は、環境変数「EURPS_TRACE_DRAWAPI」で指定します。

7.26 環境設定ファイル

環境設定ファイルは、環境変数と同じ変数名と値を指定することで、動作環境を設定できます。

ただし、EUR の環境設定ファイルには、Windows または UNIX / Linux の環境変数は指定できません。

環境設定ファイルに指定する情報は、「"」で囲まないでください。同じ環境変数は複数指定できません。複数指定した場合は、あとに指定した環境変数が有効となります。

指定した環境変数および環境設定ファイルは、eurps コマンド、ActiveX 起動部品、および JavaBeans 起動部品から起動した場合に有効となります。

環境設定ファイルの格納先

Windows 環境の場合

環境設定ファイル (EURPS_ENV) は、EUR Developer、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ下に作成されます。このとき、環境設定ファイルには EURPS_LOGFILEPATH が設定されています。

また、任意の名前で任意のフォルダに格納した環境設定ファイルも指定できます。次の環境変数、コマンド、または API で指定してください。

- 環境変数 EURPS_ENVFILE
- eurps コマンドの /envfile オプション
- ActiveX オブジェクトの EurpsEnvFile プロパティ
- JavaBeans 起動部品の SetEurpsEnvfile メソッド

なお、複数の環境変数が指定されている場合、次の優先順位で設定内容が適用されます。

1. eurps コマンドの /envfile オプションで指定した環境設定ファイルの内容
2. 環境変数 EURPS_ENVFILE で指定した環境設定ファイルの内容
3. 環境変数で指定した内容
4. インストール先フォルダ直下の環境設定ファイルで指定した内容

UNIX / Linux 環境の場合

環境設定ファイル (eurps_env) は、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise をインストールした時、/opt/eurps/sample 下にサンプルが提供されています。

提供されているサンプルを参考にしてファイルの内容をカスタマイズしたあと、/etc/opt/eurps 下に保存してから使用してください。

環境設定ファイルの場所は、次の環境変数、コマンド、または API で指定できます。

- 環境変数 EURPS_ENVFILE
- eurps コマンドの -envfile オプション
- JavaBeans 起動部品の SetEurpsEnvfile メソッド

7. 帳票出力で使用するファイル

なお、複数の環境設定ファイルや環境変数が存在する場合、次の優先順位で設定内容が適用されます。

1. eurps コマンドの -envfile オプションで指定した環境設定ファイルの内容
2. 環境変数 EURPS_ENVFILE で指定した環境設定ファイルの内容
3. 環境変数で指定した内容
4. /etc/opt/eurps 下の環境設定ファイルで指定した内容

環境設定ファイルの編集

環境設定ファイルの内容を追加、変更する場合は、次のどちらかの方法で編集してください。

- メモ帳などのテキストエディタを開いて編集する
- [EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログで編集する

なお、[EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログでの編集方法については、「3.4.1 ダイアログからの環境設定ファイルの作成」を参照してください。

環境設定ファイルの構文

変数名 = 値

注意

Windows 環境の場合、環境設定ファイル (EURPS_ENV) は、EUR Developer、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise のアンインストールを実行しても削除されません。環境設定ファイルを削除する場合は、エクスプローラなどから直接環境設定ファイルを削除してください。

UNIX、および Linux 対応の EUR Print Service、および EUR Print Service Enterprise のアンインストールについては、製品に添付されているリリースノートを参照してください。

帳票出力の機能に応じた環境変数を次の表に示します。

機能	環境変数
• プリンタへ出力 • PDF 形式ファイルへ出力 + 暗号化なし • EUR 形式ファイルへ出力 • CSV 形式ファイルへ出力	EURPS_REPORTPATH
	EURPS_MAPDATAPATH
	EURPS_USERDATAPATH
	EURPS_IMAGEPATH
	EURPS_OUTPUTPATH
• PDF 形式ファイルへ出力 + 暗号化出力	EURPS_REPORTPATH
	EURPS_MAPDATAPATH
	EURPS_USERDATAPATH
	EURPS_IMAGEPATH
	EURPS_OUTPUTPATH
	EURPS_CRYPTOFILEPATH

機能	環境変数
<ul style="list-style-type: none"> PDF 形式ファイルへ出力 + 仕分け出力 + 暗号化出力 	EURPS_REPORTPATH
	EURPS_MAPDATAPATH
	EURPS_USERDATAPATH
	EURPS_IMAGEPATH
	EURPS_OUTPUTPATH
	EURPS_DISTINFOPATH
	EURPS_CRYPTOFILEPATH
<ul style="list-style-type: none"> PDF 形式ファイルへ出力 + 仕分け出力 + 暗号化なし 	EURPS_REPORTPATH
	EURPS_MAPDATAPATH
	EURPS_USERDATAPATH
	EURPS_IMAGEPATH
	EURPS_OUTPUTPATH
	EURPS_DISTINFOPATH
<ul style="list-style-type: none"> Excel 形式ファイルへ出力 	EURPS_REPORTPATH
	EURPS_MAPDATAPATH
	EURPS_USERDATAPATH
	EURPS_OUTPUTPATH

帳票様式の流れの結果によっては、次の環境変数も追加で指定してください。

帳票様式	追加で指定する環境変数
<ul style="list-style-type: none"> 単一様式 帳票セットを使用 	なし
<ul style="list-style-type: none"> 複数様式（帳票セット指定ファイルを使用） 	EURPS_MULTI_REPORTSETPATH
<ul style="list-style-type: none"> 複数様式（帳票セット指定ファイルを使用） + 複数様式情報定義ファイル 	EURPS_MULTI_REPORTSETPATH
	EURPS_MULTIFORM_INFODEFPATH

7.26.1 環境変数一覧

この項では、次項以降で説明する環境変数を用途別に一覧表で示します。それぞれの表の環境変数はアルファベット順で記載しています。

(1) EUR サーバ帳票出力機能の環境変数

EUR サーバ帳票出力機能の環境変数を次に示します。

7. 帳票出力で使用するファイル

表 7-41 EUR サーバ帳票出力機能の環境変数

環境変数	説明
EURPS_CODE128_PARAM	CODE128 バーコードのバーコード補正情報を指定します。
EURPS_CODE39_PARAM	CODE39 バーコードのバーコード補正情報を指定します。
EURPS_CSV_PRINT_PERIOD	小数点文字が設定されていない帳票ファイルを CSV 形式ファイルに出力する場合、小数点文字を「.」で出力するかどうかを指定します。
EURPS_DBINFOPATH	接続情報ファイルのある場所を指定します。
EURPS_DISTINFOPATH	仕分け定義情報ファイルのある場所を指定します。
EURPS_DOCINFOPATH	文書情報設定ファイルのある場所を指定します。
EURPS_ENVFILE	環境設定ファイル名を指定します。
EURPS_FIXOPT	データファイル（FIX 形式）の区切り位置をバイトで区切るか、桁で区切るかを指定します。
EURPS_FONT_ROUNDDOWN	帳票印刷時に使用するフォントサイズについて、帳票設計時に指定された数値の小数部を切り捨てるかどうかを指定します。
EURPS_FONT_WIDTH_MODE	文字幅の計算方法を指定します。
EURPS_GAIJIFONT	フォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_IMAGEPATH	画像ファイルのある場所を指定します。
EURPS_J84GA16 ¹ ²	ゴシック体アंक 8 × 16 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84GA24 ¹ ²	ゴシック体アंक 12 × 24 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84GA48 ¹	ゴシック体アंक 24 × 48 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84GA72 ¹	ゴシック体アंक 36 × 72 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84GA96 ¹	ゴシック体アंक 48 × 96 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84GK16 ¹ ²	ゴシック体漢字 16 × 16 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84GK24 ¹ ²	ゴシック体漢字 24 × 24 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84GK48 ¹	ゴシック体漢字 48 × 48 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。

環境変数	説明
EURPS_J84GK72 ¹	ゴシック体漢字 72 × 72 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84GK96 ¹	ゴシック体漢字 96 × 96 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84MA16 ^{1 2}	明朝体アंक 8 × 16 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84MA24 ^{1 2}	明朝体アंक 12 × 24 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84MA48 ¹	明朝体アंक 24 × 48 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84MA72 ¹	明朝体アंक 36 × 72 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84MA96 ¹	明朝体アंक 48 × 96 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84MK16 ^{1 2}	明朝体漢字 16 × 16 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84MK24 ^{1 2}	明朝体漢字 24 × 24 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84MK48 ¹	明朝体漢字 48 × 48 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84MK72 ¹	明朝体漢字 72 × 72 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_J84MK96 ¹	明朝体漢字 96 × 96 ドットのフォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_LOGFILELEVEL	ログファイルへのメッセージ出力レベルを指定します。
EURPS_LOGFILEPATH	ログファイルの出力先の場所を指定します。
EURPS_LOGSIZE	ログファイルのファイルサイズを指定します。
EURPS_MAPDATAPATH	マッピングデータ用のデータファイル、または可変記号値定義ファイルのある場所を指定します。
EURPS_MAX_SPOOL_PAGES	印刷ジョブの最大ページ数を指定します。
EURPS_MULTI_REPORTSETPATH	帳票セット指定ファイルのある場所を指定します。
EURPS_MULTIFORM_INFODEFPATH	複数様式情報定義ファイルのある場所を指定します。
EURPS_NOSKIP_OUTPUTSPACE	LIPSIII, および PostScript Level2 対応プリンタへ出力する場合に、空白をスキップするかどうかを指定します。
EURPS_OUTPUTPATH	ファイル出力の場所を指定します。

7. 帳票出力で使用するファイル

環境変数	説明
EURPS_PDL_EXGOTFONTPATH	ゴシック体の EUR フォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_PDL_EXMINFONTPATH	明朝体の EUR フォントファイルのファイル名を指定します。
EURPS_PRINT	出力ページ情報ファイルを出力する場合に、帳票出力をするかどうかを指定します。
EURPS_PRINTERINFPATH	プリンタ定義ファイルパスを指定します。
EURPS_QR_CELL_SIZE_D	生成される QR コードのセルサイズをドット単位で指定します。
EURPS_QR_CELL_SIZE_M	生成される QR コードのセルサイズを 100 分の 1 ミリメートル単位で指定します。
EURPS_QR_CORRECTION_LEVEL	QR コードの訂正レベルを指定します。
EURPS_QR_VERSION	生成される QR コードの最低のバージョンを指定します。
EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH	置き換え表管理情報ファイルのある場所を指定します。
EURPS_REPLACEITEMPATH	置き換え表ファイルのある場所を指定します。
EURPS_REPORT_LOGERROR	eurps ログを出力できなかった場合に、イベントログや syslog にメッセージを出力するかどうかを指定します。
EURPS_REPORT_WARNING	警告要因を記録するかどうかを指定します。
EURPS_REPORTPATH	帳票ファイルのある場所を指定します。
EURPS_TESTPRINTFILE	テスト印刷設定ファイル名を指定します。
EURPS_TMPPATH	一時ファイル出力先フォルダをフルパスで指定します。
EURPS_TRACE	トレースファイルを出力するかどうかを指定します。
EURPS_TRACE_DRAWAPI	描画系 API のトレースファイルを出力するかどうかを指定します。
EURPS_USE_05_06_FONT_LANG	フォントの半角全角判定を文字コードごとにするか、フォントごとにするかどうかを指定します。
EURPS_USE_05_06_FONT_REPLACE	「フォント縦横比を補正する」が設定されていて、文字列アイテムのフォントが MS ゴシックでない場合、バージョン 05-06 以前の動作にするかどうかを指定します。
EURPS_USERDATAPATH	ユーザ定義データ用のデータファイル、または可変記号値定義ファイルのある場所を指定します。

注 1

ESC/P 対応プリンタ出力用の環境変数です。

注 2

ESC/P 対応プリンタに出力する場合は、必ず設定してください。

(2) PDF 形式ファイルに出力する場合に使用する環境変数

PDF 形式ファイルに出力する場合の環境変数を次に示します。

表 7-42 PDF 形式ファイルに出力する場合の環境変数

環境変数	説明
EURPS_BOOKMARKPATH	文書しおり定義ファイル、およびしおり定義ファイルのある場所を指定します。
EURPS_OUTPUTPDF_VER	出力する PDF 形式ファイルのバージョンを指定します。
EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM	複数の画像アイテムを貼り付けた帳票、または複数のバーコードアイテムを貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合、メモリリソースを最適化するかどうかを指定します。
EURPS_PDF_OUTPUT	PDF 形式ファイルを印刷する場合、ファイルサイズと印刷スピードのどちらを優先するかを指定します。
EURPS_PDF_SAMEIMAGE	同一の画像アイテムを複数貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合、ファイルサイズを最適化するかどうかを指定します。
EURPS_SCRIPTCNTLFILEPATH	Acrobat JavaScript 定義ファイルのある場所を指定します。
EURPS_SCRIPTFILEPATH	Acrobat JavaScript ファイルのある場所を指定します。
EURPS_SKIP_OUTPUTSPACE	PDF 形式ファイルへ出力する場合に、空白をスキップするかどうかを指定します。
EURPS_TINTINFOPATH	透かし情報ファイルのある場所を指定します。
EURPS_VIEWERPREFERENCEFILEPATH	ビューアプレファレンス定義ファイルのある場所を指定します。

(3) PDF 形式ファイルを暗号化して出力する場合に使用する環境変数

PDF 形式ファイルを暗号化して出力する場合の環境変数を次に示します。

表 7-43 PDF 形式ファイルを暗号化して出力する場合の環境変数

環境変数	説明
EURPS_CRYPTOFILEPATH	PDF 形式ファイルを暗号化出力したり、暗号化仕分け出力したりする場合、暗号化設定ファイルのある場所を指定します。

(4) Excel 形式ファイルに出力する場合に使用する環境変数

Excel 形式ファイルに出力する場合の環境変数を次に示します。

表 7-44 Excel 形式ファイルに出力する場合の環境変数

環境変数	説明
EURPS_EXCELLOGFILELEVEL	Excel 形式ファイルへ出力する場合に、ログファイルへのメッセージ出力レベルを指定します。
EURPS_EXCELTMPMPATH	Excel 形式ファイルへ出力する場合の、一時フォルダの場所を指定します。

7.26.2 EURPS_REPORTPATH

帳票ファイルのデフォルトの読み込みフォルダを指定します。ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

ファイル名をフルパスで指定した場合

設定されているフォルダから帳票ファイルを読み込みます。

ファイル名を相対パスで指定した場合

環境変数 EURPS_REPORTPATH に設定されているフォルダからの相対パスとして帳票ファイルを読み込みます。

ファイル名だけ指定した場合

環境変数 EURPS_REPORTPATH に設定されているフォルダ下の帳票ファイルを読み込みます。

環境変数 EURPS_REPORTPATH が設定されていない場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) 中の変数 EURPS_REPORTPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer, EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境設定ファイル (eurps_env) 中の変数 EURPS_REPORTPATH に設定されているディレクトリ

- ホームディレクトリ（環境変数 HOME で指定）
- /var/opt/eurps ディレクトリ

7.26.3 EURPS_MAPDATAPATH

マッピングデータファイル，または可変記号値定義ファイルのデフォルトの読み込みフォルダを指定します。ファイル名は，フルパス，相対パス，またはファイル名だけのどれかで指定してください。

ファイル名をフルパスで指定した場合
設定されているフォルダからファイルを読み込みます。

ファイル名を相対パスで指定した場合
環境変数 EURPS_MAPDATAPATH に設定されているフォルダからの相対パスとして
ファイルを読み込みます。

ファイル名だけ指定した場合
環境変数 EURPS_MAPDATAPATH に設定されているフォルダ下のファイルを読み込み
ます。

環境変数 EURPS_MAPDATAPATH が設定されていない場合は，次に示す順にファイル
を検索します。

Windows 環境の場合

- 環境設定ファイル（EURPS_ENV）中の変数 EURPS_MAPDATAPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer，EUR Print Service，または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境設定ファイル（eurps_env）中の変数 EURPS_MAPDATAPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ（環境変数 HOME で指定）
- /var/opt/eurps ディレクトリ

7.26.4 EURPS_USERDATAPATH

ユーザ定義データ用のデータファイル，または可変記号値定義ファイルのデフォルトとして，読み込みフォルダを指定します。フォルダ名は，フルパス，相対パス，またはフォルダ名だけのどれかで指定してください。

フォルダ名をフルパスで指定した場合
設定されているフォルダからファイルを読み込みます。

フォルダ名を相対パスで指定した場合
環境変数 EURPS_USERDATAPATH に設定されているフォルダからの相対パスとし

てファイルを読み込みます。

フォルダ名だけ指定した場合

環境変数 EURPS_USERDATAPATH に設定されているフォルダ下のファイルを読み込みます。

環境変数 EURPS_USERDATAPATH が設定されていない場合は、次に示す順にフォルダを検索します。

Windows 環境の場合

- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) 中の変数 EURPS_USERDATAPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer, EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境設定ファイル (eurps_env) 中の変数 EURPS_USERDATAPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

7.26.5 EURPS_OUTPUTPATH

出力先ファイル, PDF 仕分け定義ファイル, または出力ページ情報ファイルに指定する出力先ファイルのデフォルトのフォルダを指定します。ファイル名は, フルパス, 相対パス, またはファイル名だけのどれかで指定してください。

ファイルをフルパスで設定した場合

設定されているフォルダの出力先ファイルに出力します。

ファイルを相対パスで指定した場合

環境変数 EURPS_OUTPUTPATH に設定されているフォルダからの相対パスの出力先ファイルに出力します。

ファイル名だけで指定した場合

環境変数 EURPS_OUTPUTPATH に設定されているフォルダ下の出力先ファイルに出力します。

環境変数 EURPS_OUTPUTPATH が設定されていない場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) 中の変数 EURPS_OUTPUTPATH に設定されているフォルダ
- MS-DOS 環境の環境変数 TMP に設定されているディレクトリ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境設定ファイル (eurps_env) 中の変数 EURPS_OUTPUTPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

7.26.6 EURPS_LOGFILEPATH

ログファイル (eurps.log および EPS-XLSX ログ) の出力先フォルダを指定します。出力先フォルダは、フルパスで指定してください。

環境変数 EURPS_LOGFILEPATH に設定されているフォルダがない場合は、指定した出力先フォルダが自動的に作成されます。

出力先フォルダの作成については、「8.6.1 コマンド実行時に eurps ログの出力先フォルダを作成する機能」を参照してください。

環境変数 EURPS_LOGFILEPATH が設定されていない場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- EUR Developer, EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise のインストール時に、[ログ出力先の指定] ダイアログに指定されたフォルダ
デフォルトは「C:\%eurpslog」です。
- MS-DOS 環境の環境変数 TMP で指定されたディレクトリ

UNIX / Linux 環境の場合

- /var/opt/eurps ディレクトリ

環境変数 EURPS_LOGFILEPATH と環境設定ファイル (Windows 環境の場合は EURPS_ENV, UNIX / Linux 環境の場合は eurps_env) 中の変数 EURPS_LOGFILEPATH を同時に設定した場合は、環境変数の値が優先されます。

Windows 環境の場合は、環境変数 EURPS_LOGFILEPATH を設定したあとは、次の事項を確認してください。

- 指定した出力先フォルダに、実行、および書き込み権限があるかどうかを確認
出力先フォルダには、書き込み権限を与えてください。
- 指定した出力先フォルダに既存のログファイルがある場合、そのログファイルに書き込み権限があるかどうかを確認
既存のログファイルに上書きする場合は、書き込み権限を与えてください。

7.26.7 EURPS_LOGSIZE

ログファイル (eurps.log) のファイルサイズを指定します。単位は KB で、指定できるファイルサイズは、3,000 ~ 2,000,000 です。指定できるファイルサイズの範囲外の値を

指定した場合、または環境変数 EURPS_LOGSIZE の指定を省略した場合は、3,000 が仮定されます。

ログファイルのファイルサイズは、印刷ページ総数量ではなく、印刷要求数（印刷ジョブ数）に依存してログの採取量が変わります。そのため、業務システム上の一日当たりの印刷要求数などを目安にしたり、システム保守上、保存できる期限も考慮したりして、ログファイルのファイルサイズを見積もってください。

例えば、印刷要求数の一日平均を 1,000 回、1 回の実行で出力するファイル容量を 1.5KB とした場合、5 日間分のログを記録するためには、

「 $1.5 \text{ (KB)} \times 1,000 \text{ (回)} \times 5 \text{ (日)} = 7,500 \text{ (KB)}$ 」のファイルサイズが必要になります。

なお、ログファイルには、指定したファイルサイズを超えた場合、ログをバックアップファイルに保存する機能があります。そのため、7,500KB のファイルサイズが必要な場合、ログファイルのファイルサイズは 3,750KB で済みます。余裕を持ってファイルサイズを設定するならば、この場合は 4,000KB 程度とすることをお勧めします。

7.26.8 EURPS_LOGFILELEVEL

ログファイル (eurps.log) へのメッセージ出力レベルを指定します。

次に示す 2 種類のメッセージ出力レベルを指定することで、出力されるメッセージの内容を選択できます。

表 7-45 メッセージ出力レベル

環境変数の設定値	出力されるメッセージの内容
INFO	エラーレベル (Error (Err)) と情報レベル (Information (Inf)) のログを出力します (デフォルト)。
ERROR	エラーレベル (Error (Err)) だけを出力します。

警告発生時のエラー (Warning (War)) を出力する場合は、「INFO」を指定します。

環境変数 EURPS_LOGFILELEVEL と環境設定ファイル (Windows 環境の場合は EURPS_ENV, UNIX / Linux 環境の場合は eurps_env) 中の変数 EURPS_LOGFILELEVEL を同時に設定した場合は、環境変数の値が優先されます。

7.26.9 EURPS_DISTINFOPATH

仕分け定義情報ファイル、または PDF 仕分け定義ファイルのデフォルトの読み込みフォルダを指定します。

(1) JP1 と連携して仕分け印刷する場合

仕分け定義情報ファイルのデフォルトの読み込みフォルダを指定します。ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

ファイル名をフルパスで指定した場合

設定されているフォルダから仕分け定義情報ファイルを読み込みます。

ファイル名を相対パスで指定した場合

環境変数 EURPS_DISTINFOPATH に設定されているフォルダからの相対パスとして仕分け定義情報ファイルを読み込みます。

ファイル名だけ指定した場合

環境変数 EURPS_DISTINFOPATH に設定されているフォルダ下の仕分け定義情報ファイルを読み込みます。

環境変数 EURPS_DISTINFOPATH が設定されていない場合は、次に示す順にファイルを検索します。

- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) 中の変数 EURPS_DISTINFOPATH に設定されているフォルダ
- EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

(2) PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合

PDF 仕分け定義ファイルのデフォルトの読み込みフォルダを指定します。ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

ファイル名をフルパスで指定した場合

設定されているフォルダから PDF 仕分け定義ファイルを読み込みます。

ファイル名を相対パスで指定した場合

環境変数 EURPS_DISTINFOPATH に設定されているフォルダからの相対パスとして PDF 仕分け定義ファイルを読み込みます。

ファイル名だけ指定した場合

環境変数 EURPS_DISTINFOPATH に設定されているフォルダ下の PDF 仕分け定義ファイルを読み込みます。

環境変数 EURPS_DISTINFOPATH が設定されていない場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) 中の変数 EURPS_DISTINFOPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

7. 帳票出力で使用するファイル

- 環境設定ファイル (eurps_env) 中の変数 EURPS_DISTINFOPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

7.26.10 EURPS_IMAGEPATH

画像ファイルのデフォルトの読み込みフォルダを指定します。ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

ファイル名をフルパスで指定した場合
設定されているフォルダから画像ファイルを読み込みます。

ファイル名を相対パスで指定した場合
環境変数 EURPS_IMAGEPATH に設定されているフォルダからの相対パスとして画像ファイルを読み込みます。

ファイル名だけ指定した場合
環境変数 EURPS_IMAGEPATH に設定されているフォルダ下の画像ファイルを読み込みます。

環境変数 EURPS_IMAGEPATH が設定されていない場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) 中の変数 EURPS_IMAGEPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer , EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境設定ファイル (eurps_env) 中の変数 EURPS_IMAGEPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

7.26.11 EURPS_REPORT_WARNING

警告要因を記録するかどうかを指定します。

EUR サーバ帳票出力機能では、コマンドを実行した時に警告要因があっても、終了コード 4 を返してコマンドは正しく終了し、帳票出力も正常に行われます。そのため、環境変数 EURPS_REPORT_WARNING は、警告要因を知らせる必要がある場合だけ、終了コード 4 を返すように設定できます。終了コードについては、「3.5 eurps コマンド実行時の終了コード」、「4.7.1 Err.Number プロパティ」、または「5.9.1 getErrorCode メ

ソッド」を参照してください。

環境変数の設定値は、すべて半角英大文字で指定してください。

表 7-46 EURPS_REPORT_WARNING の設定値

環境変数の設定値	警告発生時の状況
YES	警告要因がある場合、終了コード 4 を返して終了します（デフォルト）。 終了コード 4 を返すことで、何らかのエラー要因があったことを示します。
NO	警告要因があっても、終了コード 0 を返して終了します。

「YES」、「NO」以外の値を指定した場合は、「YES」が仮定されます。

環境変数 EURPS_REPORT_WARNING と環境設定ファイル（Windows 環境の場合は EURPS_ENV、UNIX / Linux 環境の場合は eurps_env）中の変数 EURPS_REPORT_WARNING を同時に設定した場合は、環境変数の値が優先されます。

なお、環境変数 EURPS_REPORT_WARNING の設定は、プリンタに出力する場合、および PDF 形式ファイルへ出力する場合に効果があります。EUR 形式ファイルへ出力する場合は、環境変数 EURPS_REPORT_WARNING に「YES」を指定しても、終了コード 0 を返して終了します。

7.26.12 EURPS_MULTI_REPORTSETPATH

帳票セット指定ファイルのデフォルトの読み込みフォルダを指定します。ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

ファイル名をフルパスで指定した場合

設定されているフォルダから帳票セット指定ファイルを読み込みます。

ファイル名を相対パスで指定した場合

環境変数 EURPS_MULTI_REPORTSETPATH に設定されているフォルダからの相対パスとして帳票セット指定ファイルを読み込みます。

ファイル名だけ指定した場合

環境変数 EURPS_MULTI_REPORTSETPATH に設定されているフォルダ下の帳票セット指定ファイルを読み込みます。

環境変数 EURPS_MULTI_REPORTSETPATH が設定されていない場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- 環境設定ファイル（EURPS_ENV）中の変数 EURPS_MULTI_REPORTSETPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise のイ

インストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境設定ファイル (eurps_env) 中の変数 EURPS_MULTI_REPORTSETPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

7.26.13 EURPS_MULTIFORM_INFODEFPATH

複数様式情報定義ファイルのデフォルトの読み込みフォルダを指定します。ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

ファイル名をフルパスで指定した場合

設定されているフォルダから複数様式情報定義ファイルを読み込みます。

ファイル名を相対パスで指定した場合

環境変数 EURPS_MULTIFORM_INFODEFPATH に設定されているフォルダからの相対パスとして複数様式情報定義ファイルを読み込みます。

ファイル名だけ指定した場合

環境変数 EURPS_MULTIFORM_INFODEFPATH に設定されているフォルダ下の複数様式情報定義ファイルを読み込みます。

環境変数 EURPS_MULTIFORM_INFODEFPATH が設定されていない場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) 中の変数 EURPS_MULTIFORM_INFODEFPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer , EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境設定ファイル (eurps_env) 中の変数 EURPS_MULTIFORM_INFODEFPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

7.26.14 EURPS_GAIJIFONT

Windows 環境 , HP-UX 環境 , または AIX 環境の場合 , 外字を定義したファイルを指定します。

EUR Print Manager - Client などのビューアが存在する製品と連携している場合は , EURPS_GAIJIFONT の指定が無効になります。ビューアの存在する環境に外字を定義

したファイルを用意してください。

Windows 環境の場合

外字ファイル (*.tte) をフルパス、相対パス、またはファイル名で指定します。ファイル名をフルパスで指定しなかった場合は、カレントディレクトリを起点としてファイルを検索します。

HP-UX 環境の場合

HP-UX 外字ツールを使用して作成したフォントファイル (*.pcf) をフルパスで指定します。

AIX 環境の場合

AIX 外字ツールを使用して登録したフォントファイル (*.pcf) をフルパスで指定します。フォントファイルは圧縮形式ファイルです。そのため、EUR サーバ帳票出力機能でできるように、非圧縮形式ファイルに解凍してから環境変数「EURPS_GALJIFONT」に設定します。

7.26.15 EURPS_BOOKMARKPATH

文書しおり定義ファイル、およびしおり定義ファイルのデフォルトの読み込みフォルダを指定します。ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

ファイル名をフルパスで指定した場合

設定されているフォルダから、文書しおり定義ファイル、およびしおり定義ファイルを読み込みます。

ファイル名を相対パスで指定した場合

環境変数 EURPS_BOOKMARKPATH に設定されているフォルダからの相対パスとして、文書しおり定義ファイル、およびしおり定義ファイルを読み込みます。

ファイル名だけ指定した場合

環境変数 EURPS_BOOKMARKPATH に設定されているフォルダ下の文書しおり定義ファイル、およびしおり定義ファイルを読み込みます。

環境変数 EURPS_BOOKMARKPATH が設定されていない場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) 中の変数 EURPS_BOOKMARKPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境設定ファイル (eurps_env) 中の変数 EURPS_BOOKMARKPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)

7. 帳票出力で使用するファイル

- /var/opt/eurps ディレクトリ

7.26.16 EURPS_PDF_OUTPUT

PDF 形式ファイルを印刷する場合、ファイルサイズと印刷スピードのどちらを優先するかを指定します。

図形（網掛け）のある帳票を PDF 形式ファイルに出力し、非 PostScript プリンタから印刷する場合、印刷に時間が掛かることがあります。このような場合、環境変数 EURPS_PDF_OUTPUT に「PRINT_SPEED」を設定しておくことで、印刷時間を短縮できます。

環境変数の設定値は、すべて半角英大文字で指定してください。

表 7-47 EURPS_PDF_OUTPUT の設定値

環境変数の設定値	説 明
FILE_SIZE	ファイルサイズを優先します（デフォルト）
PRINT_SPEED	印刷スピードを優先します。ただし、「FILE_SIZE」を指定した時よりファイルサイズが大きくなる場合があります。

「FILE_SIZE」、「PRINT_SPEED」以外の値を指定した場合は、「FILE_SIZE」が仮定されます。

環境変数 EURPS_PDF_OUTPUT と環境設定ファイル（Windows 環境の場合は EURPS_ENV、UNIX / Linux 環境の場合は eurps_env）中の変数 EURPS_PDF_OUTPUT を同時に設定した場合は、環境変数の値が優先されます。

なお、図形（網掛け）のある帳票を PDF 形式ファイルに出力しても、次に示す場合は、環境変数 EURPS_PDF_OUTPUT の設定内容は有効になりませんのでご注意ください。

- Adobe Reader で閲覧する場合
- PostScript Level2 対応プリンタに出力する場合

7.26.17 EURPS_PDF_SAMEIMAGE

同一の画像アイテムを複数貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合、ファイルサイズを最適化するかどうかを指定します。

同一の画像アイテムを複数貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合、複数分の画像データを PDF 形式ファイルに出力するため、ファイルサイズが大きくなります。そのため、環境変数 EURPS_PDF_SAMEIMAGE に「OPTIMIZE」を設定すると、一つ分の画像データだけを PDF 形式ファイルに出力するので、ファイルサイズが小さくなります。ただし、別々の画像アイテムを画像データに貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合は、環境変数 EURPS_PDF_SAMEIMAGE に「NO」を設定したとき

に比べて、PDF 形式ファイルの出力時間が遅くなる場合があります。

環境変数の設定値は、すべて半角英大文字で指定してください。

表 7-48 EURPS_PDF_SAMEIMAGE の設定値

環境変数の設定値	説 明
OPTIMIZE	帳票に同一の画像データが貼り付けてある場合、ファイルサイズを最適化します。
NO	帳票に同一の画像データが貼り付けてある場合、ファイルサイズを最適化しません。

「OPTIMIZE」、「NO」以外の値を指定した場合、または環境変数 EURPS_PDF_SAMEIMAGE に何も設定しなかった場合は、「OPTIMIZE」が仮定されます。

環境変数 EURPS_PDF_SAMEIMAGE と環境設定ファイル（Windows 環境の場合は EURPS_ENV、UNIX / Linux 環境の場合は eurps_env）中の変数 EURPS_PDF_SAMEIMAGE を同時に設定した場合は、環境変数の値が優先されます。

なお、Adobe Reader で閲覧する場合や、プリンタに出力する場合には、環境変数 EURPS_PDF_SAMEIMAGE への設定は、何も影響がありません。

7.26.18 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZEMEM

複数の画像アイテムを貼り付けた帳票、または複数のバーコードアイテムを貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合、メモリリソースを最適化するかどうかを指定します。

複数の画像アイテムを貼り付けた帳票、または複数のバーコードアイテムを貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合、メモリ上に複数分の画像データ、またはバーコードデータを確保して PDF 形式ファイルを出力するため、メモリリソースを圧迫します。そのため、環境変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZEMEM に「YES」を設定しておく、メモリリソースの圧迫を回避できます。ただし、メモリリソースの最適化処理を行う場合、一時ファイル（Windows 環境の場合は SystemTemp、UNIX / Linux 環境の場合は /tmp）を使用するため、環境変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZEMEM に「YES」を設定しないときに比べて、PDF 形式ファイルの出力時間が遅くなります。

環境変数の設定値は、すべて半角英大文字で指定してください。

表 7-49 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZEMEM の設定値

環境変数の設定値	説 明
YES	複数の画像アイテムを貼り付けた帳票、または複数のバーコードアイテムを貼り付けた帳票を PDF 形式ファイルに出力する時、メモリリソースを最適化にします。

「YES」以外の値を指定した場合、または環境変数

EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM に何も設定しなかった場合は、メモリリソースの最適化はしません。

環境変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM と環境設定ファイル（Windows 環境の場合は EURPS_ENV, UNIX / Linux 環境の場合は eurps_env）中の変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM を同時に設定した場合は、環境変数の値が優先されます。

なお、Adobe Reader で閲覧する場合や、プリンタに出力する場合には、環境変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM への設定は、何も影響がありません。

また、環境変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM は、1 ページの帳票には効果がありません。2 ページ以上の帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合に、効果があります。

7.26.19 EURPS_CRYPTOFILEPATH

暗号化設定ファイルのデフォルトの読み込みフォルダを指定します。ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

ファイル名をフルパスで指定した場合

設定されているフォルダから暗号化設定ファイルを読み込みます。

ファイル名を相対パスで指定した場合

環境変数 EURPS_CRYPTOFILEPATH に設定されているフォルダからの相対パスとして暗号化設定ファイルを読み込みます。

ファイル名だけ指定した場合

環境変数 EURPS_CRYPTOFILEPATH に設定されているフォルダ下の暗号化設定ファイルを読み込みます。

環境変数 EURPS_CRYPTOFILEPATH が設定されていない場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- 環境設定ファイル（EURPS_ENV）中の変数 EURPS_CRYPTOFILEPATH に設定されているフォルダ
- EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境設定ファイル（eurps_env）中の変数 EURPS_CRYPTOFILEPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ（環境変数 HOME で指定）
- /var/opt/eurps ディレクトリ

7.26.20 EURPS_DOCINFOPATH

文書情報設定ファイルのデフォルトの読み込みフォルダを指定します。ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

ファイル名をフルパスで指定した場合

設定されているフォルダから文書情報設定ファイルを読み込みます。

ファイル名を相対パスで指定した場合

環境変数 EURPS_DOCINFOPATH に設定されているフォルダからの相対パスとして文書情報設定ファイルを読み込みます。

ファイル名だけ指定した場合

環境変数 EURPS_DOCINFOPATH に設定されているフォルダ下の文書情報設定ファイルを読み込みます。

環境変数 EURPS_DOCINFOPATH が設定されていない場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) 中の変数 EURPS_DOCINFOPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer, EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境設定ファイル (eurps_env) 中の変数 EURPS_DOCINFOPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

7.26.21 EURPS_CSV_PRINT_PERIOD

数値データの修飾で、小数点文字に何も指定されていない帳票を CSV 形式ファイルに出力する場合に、小数点文字を「.」で出力するかどうかを指定します。

数値データの修飾で、小数点文字に何も指定されていない帳票を、プリンタから印刷した場合は、「nnn n (は半角空白)」のように、小数点文字を半角空白に置き換えられます。しかし、CSV 形式ファイルに出力した場合は、小数点文字の部分を詰めて出力されるため、整数部分と小数部分が区別できません。そのため、環境変数 EURPS_CSV_PRINT_PERIOD に「YES」を設定しておく、小数点文字を「.」で出力できます。

環境変数の設定値は、すべて半角英大文字で指定してください。

表 7-50 EURPS_CSV_PRINT_PERIOD の設定値

環境変数の設定値	説 明
YES	数値データの修飾で、小数点文字に何も指定されていない帳票を CSV 形式ファイルに出力する場合、小数点文字を「.」で出力します。

「YES」以外の値を指定した場合、または環境変数 EURPS_CSV_PRINT_PERIOD に何も設定しなかった場合は、小数点文字は出力されません。

環境変数 EURPS_CSV_PRINT_PERIOD と環境設定ファイル（Windows 環境の場合は EURPS_ENV、UNIX / Linux 環境の場合は eurps_env）中の変数 EURPS_CSV_PRINT_PERIOD を同時に設定した場合は、環境変数の値が優先されます。

なお、数値データの修飾で、小数点文字が指定されている場合は、環境変数 EURPS_CSV_PRINT_PERIOD の指定に関係なく、指定されている小数点文字で CSV 形式ファイルに出力されます。また、プリンタ出力、PDF 形式ファイル出力、および EUR 形式ファイル出力する場合は、環境変数 EURPS_CSV_PRINT_PERIOD の指定は無視されます。

注意事項

環境変数 EURPS_CSV_PRINT_PERIOD に「YES」を指定して、CSV 形式ファイルに出力する場合、アイテム枠から文字列がはみ出して出力される場合があります。例えば、小数点文字を指定しないで、6 桁のデータが出力されるようにアイテム枠の幅を設定している場合、環境変数 EURPS_CSV_PRINT_PERIOD に「YES」を指定して CSV 形式ファイルに出力すると、「123.456」のデータは、小数点文字「.」を含んだ 7 桁と見なされるため、アイテム枠からはみ出て出力されてしまいます。しかし、アイテム枠から文字列がはみ出しても、アイテム枠の高さによって、折り曲げて表示したり、「*****」で出力したりしないで、そのまま「123.456」が CSV 形式ファイルに出力されます。

また、数値データに桁数が指定されている場合、指定された桁数を超えてしまっても、指定されている桁数無視して CSV 形式ファイルに出力されます。

どちらの場合も、EUR サーバ帳票出力機能は正常終了と見なして、終了コード 0 を返します。

7.26.22 EURPS_TMPPATH

一時ファイルの出力先フォルダをフルパスで指定します。

次に示す場合、環境変数 EURPS_TMPPATH に設定されているフォルダに、一時ファイルが出力されます。

- 画像ファイルまたはバーコードを含む PDF 形式ファイルを出力する場合
- データベースと連携してファイル出力する場合

- EUR Print Manager と連携してファイル出力する場合
- UNIX / Linux 環境での PDF 出力で、環境変数
EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM に「YES」を指定した場合

なお、環境変数 EURPS_TMPPATH を指定しない場合のデフォルトの一時フォルダは、システムの一時フォルダです。

7.26.23 EURPS_DBINFOPATH

接続情報ファイルのデフォルトの読み込みフォルダを指定します。ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

ファイル名をフルパスで指定した場合

設定されているフォルダから、接続情報ファイルを読み込みます。

ファイル名を相対パスで指定した場合

環境変数 EURPS_DBINFOPATH に設定されているフォルダからの相対パスとして、接続情報ファイルを読み込みます。

ファイル名だけ指定した場合

環境変数 EURPS_DBINFOPATH に設定されているフォルダ下の、指定した接続情報ファイルを読み込みます。

環境変数 EURPS_DBINFOPATH が設定されていない場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) 中の変数 EURPS_DBINFOPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer, EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境設定ファイル (eurps_env) 中の変数 EURPS_DBINFOPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

7.26.24 EURPS_PDL_EXMINFONTPATH

帳票出力で出力できない文字 (外字) がある場合に、出力できない文字を収録した明朝体の EUR フォントファイル (*.edf) を、フルパスで指定します。

EUR フォントファイルを指定すると、出力できない文字の文字イメージが EUR フォントファイルから取得され、画像データとして出力されます。該当する文字パターンが収録されていない場合は、空白が出力されます。

7. 帳票出力で使用するファイル

EUR フォントファイルは、EUR フォントファイル作成ツールを使用して作成します。
EUR フォントファイルの作成については、「7.23.1 EUR フォントファイルの作成」を参照してください。

7.26.25 EURPS_PDL_EXGOTFONTPATH

帳票出力で出力できない文字（外字）がある場合に、出力できない文字を収録したゴシック体の EUR フォントファイル (*.edf) を、フルパスで指定します。

EUR フォントファイルを指定すると、出力できない文字の文字イメージが EUR フォントファイルから取得され、画像データとして出力されます。該当する文字パターンが収録されていない場合は、空白が出力されます。

EUR フォントファイルは、EUR フォントファイル作成ツールを使用して作成します。
EUR フォントファイルの作成については、「7.23.1 EUR フォントファイルの作成」を参照してください。

7.26.26 EURPS_TRACE

トレースファイルを出力するかどうかを指定します。

トレースファイルについては、「7.25 トレースファイル」を参照してください。

環境変数の設定値は、すべて半角英大文字で指定してください。

表 7-51 EURPS_TRACE の設定値

環境変数の設定値	説明
YES	トレースファイルを出力します。
NO	トレースファイルを出力しません。

「YES」、「NO」以外の値を指定した場合、または環境変数 EURPS_TRACE に何も設定しなかった場合は、「YES」が仮定されます。

7.26.27 EURPS_TRACE_DRAWAPI

描画系 API のトレースファイルを出力するかどうかを指定します。

トレースファイルについては、「7.25 トレースファイル」を参照してください。

環境変数の設定値は、すべて半角英大文字で指定してください。

表 7-52 EURPS_TRACE_DRAWAPI の設定値

環境変数の設定値	説明
YES	描画系 API のトレースファイルを出力します。
NO	描画系 API のトレースファイルを出力しません。

「YES」、「NO」以外の値を指定した場合、または環境変数 EURPS_TRACE_DRAWAPI に何も設定しなかった場合は、「NO」が仮定されます。

7.26.28 EURPS_REPORT_LOGERROR

eurps ログを出力できなかった場合に、Windows 環境のときはイベントログ、UNIX / Linux 環境のときは syslog に、メッセージを出力するかどうかを指定します。

eurps ログについては、「8.6 eurps ログ」を参照してください。

環境変数の設定値は、すべて半角英大文字で指定してください。

表 7-53 EURPS_REPORT_LOGERROR の設定値

環境変数の設定値	説明
YES	イベントログにメッセージを出力します。
NO	イベントログにメッセージを出力しません。

「YES」、「NO」以外の値を指定した場合、または環境変数 EURPS_TRACE に何も設定しなかった場合は、「YES」が仮定されます。

7.26.29 EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH

置き換え表管理情報ファイルのデフォルトの読み込みフォルダを指定します。ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

ファイル名をフルパスで指定した場合
設定されているフォルダから置き換え表ファイルを読み込みます。

ファイル名を相対パスで指定した場合
環境変数 EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH に設定されているフォルダからの相対パスとして置き換え表ファイルを読み込みます。

ファイル名だけ指定した場合
環境変数 EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH に設定されているフォルダ下の置き換え表ファイルを読み込みます。

環境変数 EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH が設定されていない場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) 中の変数
EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer , EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境設定ファイル (eurps_env) 中の変数 EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

環境変数 EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH に設定されているフォルダが存在しない場合は、エラー (KEEU060-E) になります。

7.26.30 EURPS_REPLACEITEMPATH

置き換え表ファイルのデフォルトの読み込みフォルダを指定します。ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

ファイル名をフルパスで指定した場合

設定されているフォルダから置き換え表ファイルを読み込みます。

ファイル名を相対パスで指定した場合

環境変数 EURPS_REPLACEITEMPATH に設定されているフォルダからの相対パスとして置き換え表ファイルを読み込みます。

ファイル名だけ指定した場合

環境変数 EURPS_REPLACEITEMPATH に設定されているフォルダ下の置き換え表ファイルを読み込みます。

環境変数 EURPS_REPLACEITEMPATH が設定されていない場合は、次に示す順にファイルを検索します。

Windows 環境の場合

- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) 中の変数 EURPS_REPLACEITEMPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer , EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境設定ファイル (eurps_env) 中の変数 EURPS_REPLACEITEMPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

環境変数 EURPS_REPLACEITEMPATH に設定されているフォルダが存在しない場合は、エラー（KEEU060-E）になります。

7.26.31 EURPS_SKIP_OUTPUTSPACE

帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合、空白をスキップするかどうかを指定します。

環境変数の設定値は、すべて半角英大文字で指定してください。

表 7-54 EURPS_SKIP_OUTPUTSPACE の設定値

環境変数の設定値	説明
YES	空白をスキップします。
NO	空白をスキップしません。

「YES」を指定すると不要な空白が削除されるため、PDF 形式ファイルに出力する速度が上がります。また、ファイルサイズも小さくなります。

「YES」、「NO」以外の値を指定した場合、または環境変数 EURPS_SKIP_OUTPUTSPACE に何も設定しなかった場合は、「YES」が仮定されます。

環境変数 EURPS_SKIP_OUTPUTSPACE は、桁数指定があるアイテムにだけ有効な指定です。

7.26.32 EURPS_PRINT

出力ページ情報ファイル出力時に帳票出力を行うかどうかを指定します。

表 7-55 EURPS_PRINT の設定値

環境変数の設定値	説明
YES	出力ページ情報ファイル出力時に帳票出力を行います。
NO	出力ページ情報ファイル出力時に帳票出力を行いません。

「YES」、「NO」以外の値を指定した場合、または環境変数 EURPS_PRINT に何も設定しなかった場合は、「YES」が仮定されます。

環境変数 EURPS_PRINT を設定していない場合は、環境設定ファイル（EURPS_ENV）中の変数 EURPS_PRINT に設定されている値で指定されます。環境変数 EURPS_PRINT と環境設定ファイル（Windows 環境の場合は EURPS_ENV、UNIX / Linux 環境の場合は eurps_env）中の変数 EURPS_PRINT のどちらも指定されていない場合は、「YES」が仮定されます。

出力ページ情報ファイル出力の指定がない場合は、環境変数 EURPS_PRINT の指定は無

効となり、帳票出力が行われます。

7.26.33 EURPS_CODE39_PARAM

CODE39 バーコードのバーコード補正情報を指定します。次に示す形式で指定します。

type { , { エlement幅比 } , { Param } }

type

Element幅の求め方を指定します。

指定値	説明
0	細Elementのサイズから計算された1文字の幅から、細Element、太Elementを計算します。 計算の結果発生したずれはすべてキャラクタ間ギャップに追加されるため、サイズは自由に調整できます。
1	細Elementのサイズをドット単位に変換した値と、細Element、太Element、キャラクタ間ギャップの比から、各バーの太さを計算します。 各バーの太さはドットで計算されるため、サイズの調整は段階的になります。
2	1を指定した場合の計算方法に加えて、バーコードの線の太さを補正します。

省略した場合、または0～2以外の値を指定した場合は、「0」が仮定されます。

Element幅比

細Element、太Element、およびキャラクタ間ギャップの比率を指定します。
次に示す形式で指定します。

細Element：太Element：キャラクタ間ギャップ

細Elementには、1以上の値を指定してください。

太Elementには、細Elementの2.0～3.0倍の値を指定してください。

キャラクタ間ギャップには、細Elementの値以上の値を指定してください。

Element幅比を正しく指定していない場合、Element幅はtypeに0が指定されたときの方法で計算されます。

Param

typeに2を指定した場合、バーコードの線の太さを細く補正する幅をミリメートル単位で指定します。指定した値をドット単位に変換して四捨五入した値が補正されます。計算されたドット数の分だけ黒バーが細く、白バーが太くなります。
バーコードの線の太さは、補正するドット数の計算結果が1以上の場合に補正されます。

解像度300dpiの場合、補正するドット数の計算結果を次に示します。

表 7-56 解像度 300dpi の場合に補正するドット数

Param に指定する値 (ミリメートル)	補正するドット数 (ドット)
0.04	0.972441
0.041	0.984252
0.042	0.996063
0.043	1.007874
0.044	1.019685
0.045	1.031496
0.046	1.043307

解像度 600dpi の場合、補正するドット数の計算結果を次に示します。

表 7-57 解像度 600dpi の場合に補正するドット数

Param に指定する値 (ミリメートル)	補正するドット数 (ドット)
0.02	0.972441
0.021	0.996063
0.022	1.019685
0.023	1.043307
0.024	1.066929
0.025	1.090551
0.026	1.114173

Param には 1 モジュール以上のドット数の幅は指定できません。Param に指定した値が 1 モジュール以上のドット数になる場合は、1 ドットが指定されます。

type に 2 を指定しても、Param を指定していない場合、エレメント幅は type に 1 が指定されたときの方法で計算されます。エレメント幅比を正しく指定していない場合、エレメント幅は type に 0 が指定されたときの方法で計算されます。

EURPS_CODE39_PARAM は、バージョン 05-06 以降で指定できます。05-05 以前のバージョンでは、自動的に type に 0 が指定された場合と同じ計算方法でエレメント幅が決定します。

！ 注意事項

CODE39 バーコードのバーコード補正情報は、環境変数のほかに、プリンタ定義ファイルでも指定できます。環境変数とプリンタ定義ファイルのどちらも指定された場合は、プリンタ定義ファイルの内容が優先されます。

7.26.34 EURPS_CODE128_PARAM

CODE128 バーコードのバーコード補正情報を指定します。次に示す形式で指定します。

type { , { Param1 } , { Param2 } }

環境変数 EURPS_CODE128_PARAM とプリンタ定義ファイルのキーワード CODE128PARAM が同時に指定された場合は、プリンタ定義ファイルの指定が有効になります。

type

バーコードの描画方式を指定します。

指定値	説明
0	ミリメートル (mm) で指定したモジュールサイズからバーキャラクタサイズを計算します。モジュールサイズ × 11 (mm) を超えないドット数でバーキャラクタを描画します。ストップキャラクタは、モジュールサイズ × 13 (mm) を超えないドット数で描画します。1 を指定した場合と比べて、サイズを細かく指定できますが、バーコードの質は落ちます。
1	ミリメートル (mm) で指定したモジュールサイズを超えないドット数を求め、その 11 倍をバーキャラクタのサイズにします。1 ドットの大きさを超えるまではバーコードの大きさは変わりません。プリンタ解像度によって補正するドット数が変わります。
2	1 を指定した場合の計算方法に加えて、param1 で指定した幅に相当するドット数分だけ黒バーを細く、白バーを太くします。 param2 を指定した場合は、param1 で指定した値で補正した状態のスタートキャラクタとストップキャラクタに param2 で指定した値でさらに補正します。

省略した場合、または 0, 1, 2 以外の値を指定した場合は、0 が仮定されます。指定値が 0 の場合、Param1、および Param2 に指定した値は無視されます。

Param1

type に 2 を指定した場合、バーを調整する幅をミリメートルで指定します。指定した値をドット単位に変換して四捨五入した値が補正されます。補正するドット数の計算結果が 1 以上の場合だけ補正されます。

解像度 300dpi の場合、補正するドット数の計算結果を次に示します。

表 7-58 解像度 300dpi の場合に補正するドット数

Param1 または Param2 に指定する値 (ミリメートル)	補正するドット数 (ドット)
0.04	0.972441
0.041	0.984252
0.042	0.996063
0.043	1.007874
0.044	1.019685

Param1 または Param2 に指定する値（ミリメートル）	補正するドット数（ドット）
0.045	1.031496
0.046	1.043307

解像度 600dpi の場合、補正するドット数の計算結果を次に示します。

表 7-59 解像度 600dpi の場合に補正するドット数

Param1 または Param2 に指定する値（ミリメートル）	補正するドット数（ドット）
0.02	0.972441
0.021	0.996063
0.022	1.019685
0.023	1.043307
0.024	1.066929
0.025	1.090551
0.026	1.114173

Param2

type に 2 を指定した場合、param1 で指定した値で補正したスタートキャラクタとストップキャラクタを調整する幅をミリメートルで指定します。指定した値をドット単位に変換して四捨五入した値が補正されます。補正するドット数の計算結果が 1 以上の場合だけ補正されます。解像度別の補正するドット数については、Param1 の表を参照してください。

！ 注意事項

- バーの幅を超える値を指定した場合は、バーの幅を 1 ドットに設定します。
- type に 1 を指定した場合でも、param1 に数値を指定して、param2 を省略したときは 0 が仮定されます。
- type に 2 を指定した場合でも、次のときは 0 が仮定されます。
 - ・ param1 を指定しなかったとき
 - ・ param1 が数値以外、または 0 以下だったとき
- type に 2 を指定した場合でも、param1 に 0 より大きい値、param2 に 0 以下の値を指定したときは param2 は無視されます。

7.26.35 EURPS_QR_CORRECTION_LEVEL

QR コードの訂正レベルを指定します。

表 7-60 EURPS_QR_CORRECTION_LEVEL の設定値

環境変数の設定値	説明
M	訂正レベル M で QR コードを生成します。
Q	訂正レベル Q で QR コードを生成します。

「M」、「Q」以外の値を指定した場合、または環境変数 EURPS_QR_CORRECTION_LEVEL に何も設定しなかった場合は、「M」が仮定されます。

7.26.36 EURPS_QR_VERSION

生成される QR コードの最低のバージョンを指定します。

表 7-61 EURPS_QR_VERSION の設定値

環境変数の設定値	説明
0	最低のバージョンは入力データから自動的に決定されます。
1 ~ 40	指定した値が最低のバージョンになります。

0 ~ 40 以外の値を指定した場合、または環境変数 EURPS_QR_VERSION に何も指定しなかった場合は、「0」が仮定されます。

7.26.37 EURPS_NOSKIP_OUTPUTSPACE

LIPSIII、および PostScript Level2 対応プリンタへ出力する場合に、空白をスキップするかどうかを指定します。

表 7-62 EURPS_NOSKIP_OUTPUTSPACE の設定値

環境変数の設定値	説明
YES	LIPSIII、および PostScript Level2 対応プリンタへ出力する場合に、空白をスキップしません。
NO	LIPSIII、および PostScript Level2 対応プリンタへ出力する場合に、空白をスキップします。

「YES」を指定すると不要な空白が削除されるため、LIPSIII、および PostScript Level2 対応プリンタに出力する速度が上がります。また、UNIX で出力する場合は、ファイルサイズが小さくなります。

「YES」、「NO」以外の値を指定した場合、または環境変数 EURPS_NOSKIP_OUTPUTSPACE に何も設定しなかった場合は、「YES」が仮定されます。

7.26.38 EURPS_QR_CELL_SIZE_D

生成される QR コードのセルサイズ（1 セル当たりの大きさ）をドット単位で指定します。

表 7-63 EURPS_QR_CELL_SIZE_D の設定値

環境変数の設定値	説明
0	セルサイズはアイテムの大きさとバージョンから自動的に決定されます。
5 ~ 10	指定した値がセルサイズになります。

0 または 5 ~ 10 以外の値を指定した場合、または環境変数 EURPS_QR_CELL_SIZE_D に何も指定しなかった場合は、「0」が仮定されます。

EURPS_QR_CELL_SIZE_D と EURPS_QR_CELL_SIZE_M を同時に指定した場合は、EURPS_QR_CELL_SIZE_M の指定値が有効となります。

環境変数 EURPS_QR_CELL_SIZE_D とプリンタ定義ファイルのキーワード QRCellSizeD でセルサイズを同時に指定した場合は、プリンタ定義ファイルのキーワード QRCellSizeD の指定値が有効となります。

7.26.39 EURPS_QR_CELL_SIZE_M

生成される QR コードのセルサイズ（1 セル当たりの大きさ）を 100 分の 1 ミリメートル単位で指定します。

表 7-64 EURPS_QR_CELL_SIZE_M の設定値

環境変数の設定値	説明
0	セルサイズはアイテムの大きさとバージョンから自動的に決定されます。
21 ~ 126	指定した値がセルサイズになります。

0 または 21 ~ 126 以外の値を指定した場合、または環境変数 EURPS_QR_CELL_SIZE_M に何も指定しなかった場合は、「0」が仮定されます。

EURPS_QR_CELL_SIZE_M と EURPS_QR_CELL_SIZE_D を同時に指定した場合は、EURPS_QR_CELL_SIZE_M の指定値が有効となります。

環境変数 EURPS_QR_CELL_SIZE_M とプリンタ定義ファイルのキーワード QRCellSizeM でセルサイズを同時に指定した場合は、プリンタ定義ファイルのキーワード QRCellSizeM の指定値が有効となります。

7.26.40 EURPS_SCRIPTFILEPATH

Acrobat JavaScript ファイルのデフォルトの読み込みフォルダを指定します。ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

ファイル名をフルパスで指定した場合

設定されているフォルダから Acrobat JavaScript ファイルを読み込みます。

ファイル名を相対パスで指定した場合

環境変数 EURPS_SCRIPTFILEPATH に設定されているフォルダからの相対パスとして Acrobat JavaScript ファイルを読み込みます。

ファイル名だけ指定した場合

環境変数 EURPS_SCRIPTFILEPATH に設定されているフォルダ下の Acrobat JavaScript ファイルを読み込みます。

環境変数 EURPS_SCRIPTFILEPATH が設定されていない場合は、次に示すフォルダの順に読み込みます。

Windows 環境の場合

- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) 中の変数 EURPS_SCRIPTFILEPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer、または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境設定ファイル (eurps_env) 中の変数 EURPS_SCRIPTFILEPATH に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 HOME で指定)
- /var/opt/eurps ディレクトリ

環境変数 EURPS_SCRIPTFILEPATH に設定されているフォルダが存在しない場合は、エラー (KEEU066-E) になります。

7.26.41 EURPS_SCRIPTCNTLFILEPATH

Acrobat JavaScript 定義ファイルのデフォルトの読み込みフォルダを指定します。ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

ファイル名をフルパスで指定した場合

設定されているフォルダから Acrobat JavaScript 定義ファイルを読み込みます。

ファイル名を相対パスで指定した場合

環境変数 EURPS_SCRIPTCNTLFILEPATH に設定されているフォルダからの相対パスとして Acrobat JavaScript 定義ファイルを読み込みます。

ファイル名だけ指定した場合

環境変数 EURPS_SCRIPTCNTLFILEPATH に設定されているフォルダ下の Acrobat

JavaScript 定義ファイルを読み込みます。

環境変数 `EURPS_SCRIPTCNTLFILEPATH` が設定されていない場合は、次に示すフォルダの順に読み込みます。

Windows 環境の場合

- 環境設定ファイル (`EURPS_ENV`) 中の変数 `EURPS_SCRIPTCNTLFILEPATH` に設定されているフォルダ
- EUR Developer , または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境設定ファイル (`eurps_env`) 中の変数 `EURPS_SCRIPTCNTLFILEPATH` に設定されているディレクトリ
- ホームディレクトリ (環境変数 `HOME` で指定)
- `/var/opt/eurps` ディレクトリ

環境変数 `EURPS_SCRIPTCNTLFILEPATH` に設定されているフォルダが存在しない場合は、エラー (`KEEU067-E`) になります。

7.26.42 EURPS_VIEWERPREFERENCEFILEPATH

ビューアプレファレンス定義ファイルのデフォルトの読み込みフォルダを指定します。ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。

ファイル名をフルパスで指定した場合

設定されているフォルダからビューアプレファレンス定義ファイルを読み込みます。

ファイル名を相対パスで指定した場合

環境変数 `EURPS_VIEWERPREFERENCEFILEPATH` に設定されているフォルダからの相対パスとしてビューアプレファレンス定義ファイルを読み込みます。

ファイル名だけ指定した場合

環境変数 `EURPS_VIEWERPREFERENCEFILEPATH` に設定されているフォルダ下のビューアプレファレンス定義ファイルを読み込みます。

環境変数 `EURPS_VIEWERPREFERENCEFILEPATH` が設定されていない場合は、次に示すフォルダの順に読み込みます。

Windows 環境の場合

- 環境設定ファイル (`EURPS_ENV`) 中の変数 `EURPS_VIEWERPREFERENCEFILEPATH` に設定されているフォルダ
- EUR Developer , または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境設定ファイル (`eurps_env`) 中の変数

EURPS_VIEWERPREFERENCEFILEPATH に設定されているディレクトリ

- ホームディレクトリ（環境変数 HOME で指定）
- /var/opt/eurps ディレクトリ

環境変数 EURPS_VIEWERPREFERENCEFILEPATH に設定されているフォルダが存在しない場合は、エラー（KEEU069-E）になります。

7.26.43 EURPS_FIXOPT

データファイル（FIX 形式）の場合、区切り位置をバイトで区切るか、桁で区切るかを指定します。

表 7-65 EURPS_FIXOPT の設定値

環境変数の設定値	説明
BYTE	区切り位置をバイトで区切ります。
COLUMN	区切り位置を桁で区切ります。

大文字、小文字の区別をしません。省略した場合は BYTE が仮定されます。

データファイルが UTF-16 の場合、区切り位置情報をバイトで出力します。ただし、環境変数 EURPS_FIXOPT に COLUMN が指定されると、バージョン 05-06 以前に作成されたフォームシートと同じように、フォームシートの区切り位置情報を桁で出力します。また、フォームシートに設定されている区切り位置の情報には桁が設定されます。

7.26.44 EURPS_PRINTERINFPATH

プリンタ定義ファイルのデフォルトの読み込みフォルダを指定します。ファイル名は、フルパスで指定してください。

次に示す場合、環境変数 EURPS_PRINTERINFPATH に設定されているフォルダからプリンタ定義ファイルを読み込みます。

- /pi オプションでプリンタ定義ファイルを相対パスで指定している場合
- /pi オプションでプリンタ定義ファイルをファイル名だけで指定している場合
- /pi オプションの指定を省略している場合

/pi オプションでプリンタ定義ファイルをフルパスで指定している場合、/pi オプション（UNIX / Linux 環境の場合は -pi オプション）で設定されているフォルダからプリンタ定義ファイルを読み込みます。

環境変数 EURPS_PRINTERINFPATH が設定されていない場合は、次に示すフォルダの順に読み込みます。

Windows 環境の場合

- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) 中の変数 EURPS_PRINTERINFPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer, EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

UNIX / Linux 環境の場合

- 環境設定ファイル (eurps_env) 中の変数 EURPS_PRINTERINFPATH に設定されているディレクトリ
- /etc/opt/eurps ディレクトリ

環境変数 EURPS_PRINTERINFPATH に設定されているフォルダが存在しない場合は、エラー (KEEU078-E) になります。

7.26.45 EURPS_USE_05_06_FONT_LANG

フォントの半角全角判定を文字コードごとにするか、フォントごとにするかどうかを指定します。

表 7-66 EURPS_USE_05_06_FONT_LANG の設定値

環境変数の設定値	説明
YES	文字コードごとに半角全角判定をします (05-06 以前の方式)。
NO	フォントごとに半角全角判定をします。

省略したり、YES, NO 以外の値を指定したりした場合は、NO が仮定されます。

文字コードごとに半角全角判定をすると、欧文フォントではラテン基本文字と同じ幅の文字 (記号, ギリシャ文字, キリル文字など JISX0208 に含まれる文字) が、全角 (ラテン基本文字の 2 倍の文字幅) で出力されます。また、日本語で半角の文字が中国語 (簡体字) では正しく出力できない場合があります。欧文フォント, 簡体字中国語フォントを使用する場合は、NO を指定することをお勧めします。

半角全角判定の文字幅は、英語フォントでは Courier, 簡体字中国語フォントでは新宋体, 繁体字中国語フォントでは細明体, 日本語フォントでは M S 明朝の文字幅が適用されます。フォントの言語を判定できない場合は、中国語 (簡体字) ロケールでは新宋体, 日本語ロケールでは M S 明朝, その他のロケールでは Courier の文字幅が適用されます。

バージョン 05-06 の帳票をバージョン 05-08 以降で開いた場合、EURPS_USE_05_06_FONT_LANG に YES 以外の値を指定すると、帳票の見た目が異なって表示されることがあります。

バージョン 08-00 以降の場合、EURPS_USE_05_06_FONT_LANG は次に示す条件で帳票を出力した場合にフォントの文字幅計算に適用されます。

表 7-67 バージョン 08-00 以降で EURPS_USE_05_06_FONT_LANG が文字幅計算に適用される出力

出力環境	出力形式	帳票アイテムの フォント	文字幅計算方法 の指定
Windows 環境	プリンタ出力	固定ピッチフォント	静的，または指定なし
	PDF 出力 (フォント埋め込みなし)		
UNIX / Linux 環境	PDF 出力 (フォント埋め込みなし)		

EUR サーバ帳票出力機能で出力されるフォントの詳細については「2.5 EUR サーバ帳票出力機能でのプロポーショナルフォントの出力」を参照してください。

7.26.46 EURPS_OUTPUTPDF_VER

PDF 形式ファイルで，最初の行のヘッダに記述されている PDF バージョン番号を指定します。PDF バージョン番号は，PDF 形式ファイルをテキストで開いた時に，最初の行「%PDF-1.x」で確認できます。

表 7-68 EURPS_OUTPUTPDF_VER の設定値

環境変数の設定値	説明
1.2	PDF バージョン番号を 1.2 で出力します。
1.3	PDF バージョン番号を 1.3 で出力します。
1.4	PDF バージョン番号を 1.4 で出力します。
1.5	PDF バージョン番号を 1.5 で出力します。
1.6	PDF バージョン番号を 1.6 で出力します。
1.7	PDF バージョン番号を 1.7 で出力します。

省略したり，設定値以外の値を指定したりした場合は，1.6 が仮定されます。

環境変数 EURPS_OUTPUTPDF_VER で作成した PDF 形式ファイルより下位バージョンの PDF バージョン番号を指定しても，ファイル内で使用している上位バージョンの機能が制限されることはありません。

7.26.47 EURPS_USE_05_06_FONT_REPLACE

「フォント縦横比を補正する」が設定されていて，文字列アイテムのフォントが MS ゴシックでない場合，バージョン 05-06 以前の動作（リュウミン L-KL に置き換える）にするかどうかを指定します。

表 7-69 EURPS_USE_05_06_FONT_REPLACE の設定値

環境変数の設定値	説明
YES	「フォント縦横比を補正する」が設定されていて、文字列アイテムのフォントが MS ゴシックでない場合に、リュウミン L-KL に置き換えます（05-06 以前の方式）。
NO	置き換えをしません。

省略したり、YES、NO 以外の値を指定したりした場合は、NO が仮定されます。

7.26.48 EURPS_TINTINFOPATH

透かし情報ファイルのデフォルトの読み込みフォルダを指定します。ファイル名は、フルパスを指定してください。

次に示す場合、環境変数 EURPS_TINTINFOPATH に設定されているフォルダから透かし情報ファイルを読み込みます。

- /tint オプションで透かし情報ファイルを相対パスで指定している場合
- /tint オプションで透かし情報ファイルをファイル名だけで指定している場合

/tint オプションで透かし情報ファイルをフルパスで指定している場合、/tint オプションで設定されているフォルダから透かし情報ファイルを読み込みます。

環境変数 EURPS_TINTINFOPATH が設定されていない場合は、次に示すフォルダの順に読み込みます。

Windows 環境の場合

- 環境設定ファイル (EURPS_ENV) 中の変数 EURPS_TINTINFOPATH に設定されているフォルダ
- EUR Developer , または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

環境変数 EURPS_TINTINFOPATH に設定されているフォルダが読み込めなかった場合は、エラー (KEEU080-E) になります。

7.26.49 EURPS_FONT_WIDTH_MODE

文字幅の計算方法を指定します。

環境変数 EURPS_FONT_WIDTH_MODE の設定値は、すべて半角英大文字で指定してください。

表 7-70 EURPS_FONT_WIDTH_MODE の設定値

環境変数の設定値	説明
STATIC	固定ピッチフォントを出力する場合、固定値で文字幅を計算します。(静的モード)
DYNAMIC	固定ピッチフォントを出力する場合、使用するフォントに合わせて文字幅を計算します。(動的モード)

「STATIC」、「DYNAMIC」以外の値を指定した場合、または環境変数 EURPS_FONT_WIDTH_MODE に何も指定しなかった場合は、「STATIC」が仮定されます。

eurps コマンドの /fwm オプション、ActiveX オブジェクトの FontWidthMode プロパティ、JavaBeans 起動部品の setFontWidthMode メソッド、環境変数 EURPS_FONT_WIDTH_MODE、および環境設定ファイル EURPS_FONT_WIDTH_MODE が同時に指定されている場合は、次に示す順に優先されます。

- eurps コマンドの /fwm オプション、ActiveX オブジェクトの FontWidthMode プロパティ、または JavaBeans 起動部品の setFontWidthMode メソッド
- 環境変数 EURPS_FONT_WIDTH_MODE
- 環境設定ファイル EURPS_FONT_WIDTH_MODE

7.26.50 EURPS_EXCELLOGFILELEVEL

Excel 形式ファイルに出力する場合、ログファイル (EPS-XLSX ログ) へのメッセージ出力レベルを指定します。

次に示す 2 種類のメッセージ出力レベルを指定することで、出力されるメッセージの内容を選択できます。

メッセージ出力レベルの設定の詳細については「8.7 EPS-XLSX ログ」を参照してください。

表 7-71 メッセージ出力レベル

環境変数の設定値	出力されるメッセージの内容
INFO	エラーレベル (Error (Err)) とワーニングレベル (Warning (War)) のログを出力します (デフォルト)。
ERROR	エラーレベル (Error (Err)) だけを出力します。

省略した場合、または「INFO」、「ERROR」以外の値が指定された場合は、INFO が仮定されます。

環境変数 `EURPS_EXCELLOGFILELEVEL` と環境設定ファイル（Windows 環境の場合は `EURPS_ENV` , UNIX / Linux 環境の場合は `eurps_env`）中の変数 `EURPS_EXCELLOGFILELEVEL` を同時に設定した場合は、環境変数の値が優先されます。

7.26.51 EURPS_EXCELTMPATH

Excel 形式ファイルに出力する場合に使用する一時フォルダのパスを指定します。

- パス名は、ASCII 文字だけで構成されたパスを指定してください。
- 存在するファイルのパスを指定してください。
- フルパスで指定してください。
- パス名に指定できる文字数は、次のとおりです。指摘できる文字数を越えた場合は、エラー（KEEU125-E）になります。
 - Windows 環境の場合
フルパスで半角 199 文字以内
 - UNIX / Linux 環境の場合
フルパスで 67 バイト以内
- ネットワークパスは指定できません。ネットワークパスを指定した場合は、エラー（KEEU125-E）になります。

7.26.52 EURPS_ENVFILE

環境設定ファイル名を指定します。ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。相対パスで指定した場合、カレントディレクトリからの相対パスとして環境設定ファイルを読み込みます。

7.26.53 EURPS_TESTPRINTFILE

テスト印刷設定ファイル名を指定します。ファイル名は、フルパス、相対パス、またはファイル名だけのどれかで指定してください。相対パスで指定した場合、カレントディレクトリからの相対パスとしてテスト印刷設定ファイルを読み込みます。

7.26.54 EURPS_FONT_ROUNDDOWN

帳票印刷時に使用するフォントサイズについて、帳票設計時に指定された数値の小数部を切り捨てるかどうかを指定します。

表 7-72 EURPS_FONT_ROUNDDOWN の設定値

環境変数の設定値	説明
YES	帳票設計時に指定された数値の小数部を切り捨てたフォントサイズで印刷します。文字間隔は、帳票設計時のフォントサイズで印刷した場合と変わりません。
NO	帳票設計時に指定された数値のフォントサイズを使用して印刷します。

EURPS_FONT_ROUNDDOWN を指定しない場合は、帳票設計時に指定された数値のフォントサイズを使用して印刷します。

7.26.55 EURPS_MAX_SPOOL_PAGES

印刷ジョブの最大ページ数を 1 ~ 2,147,483,646 の範囲で指定します。印刷ジョブはこの環境変数に指定したページ数ごとに分割され、複数の印刷ジョブとなって出力されます。

この環境変数は、プリンタでの印刷で使用できます。JP1 仕分け印刷で使用しても無効です。

指定値として次の値を指定した場合は、印刷ジョブの分割は実施されません。

- 範囲外の値を指定した場合
- 半角数字以外の文字を指定した場合
- 0 を指定した場合

この環境変数を指定した場合、印刷ジョブ名は OS の環境によって次のように異なります。

- Windows 環境で印刷するとき
印刷ジョブ名の末尾に「.n」(n は 1 から始まる連番) が付加されます。印刷ジョブの分割が発生しなかった場合も「.1」が付加されます。
文書情報設定ファイルのキーワード TITLE を設定している場合は、キーワード TITLE に指定した文字列 + 「.n」の先頭の 259 文字分が印刷ジョブ名になります。設定していない場合は、帳票ファイル名 + 「.n」の先頭の 259 文字分が印刷ジョブ名になります。
印刷ジョブ名については「(1) 印刷ジョブ名の設定」もあわせて参照してください。
- UNIX / Linux 環境で印刷するとき
EUR では印刷ジョブ名を設定しません。分割されたジョブごとに、プリンタ定義ファイルのキーワード Command で指定された出力コマンドが実行されます。

部数を指定して印刷した場合、出力枚数ではなく印刷ジョブのページ数が分割されます。また、プリンタに部数機能があるかどうかによって次のように結果が異なります。

- プリンタに部数機能がある場合

印刷ジョブの出力ページ数は、環境変数 EURPS_MAX_SPOOL_PAGES で指定した印刷ジョブ最大ページ数×部数となります。

- プリンタに部数機能がない場合
印刷ジョブには帳票が指定部数の数だけ繰り返し出力されますが、環境変数 EURPS_MAX_SPOOL_PAGES で指定された印刷ジョブ最大ページ数は印刷ジョブに対して作用するため、部をまたがって区切られます。

複数様式帳票の場合、printnewpaper=ON の指定によって生成された空白ページを枚数として数えます。

なお、印刷ジョブ最大ページ数に奇数値を指定して両面印刷すると、分割されたページ以降は、表面と裏面のページが逆となって印刷されます。表面と裏面を区別する帳票の場合は、印刷ジョブ最大ページ数に偶数値を指定するなど注意してください。

(1) 印刷ジョブ名の設定

EURPS_MAX_SPOOL_PAGES を設定したとき、文書情報設定ファイルのキーワード TITLE に書式開始文字 % から始まる次の書式を設定すれば、EURPS_MAX_SPOOL_PAGES を設定した場合に印刷ジョブ名に付く連番の表示形式を変更できます。

%j

「1」から始まる連番を出力します。

%j 以外

「%」のあとに指定された文字を出力し、末尾に連番「.n」を付与します。

指定例

キーワード TITLE の指定内容	印刷ジョブ名の例
TITLE="EUR 帳票 %j"	EUR 帳票 1
TITLE="EUR 帳票 %x"	EUR 帳票 x.1

文書情報設定ファイルの作成方法の詳細については、「7.5 文書情報設定ファイル」を参照してください。

7.26.56 ESC/P 対応プリンタ出力用の環境変数

ESC/P 対応プリンタで使用するフォントファイルを指定します。ファイル名は、フルパスで指定してください。

注意事項

指定されたフルパスが 1,023 バイトを超えた場合は、エラー (KEEU009-E) になります。また、指定したファイルが読み込めない場合も、エラー (KEEU024-E) になります。

ESC/P 対応プリンタ出力用の環境変数を次に示します。

表 7-73 ESC/P 対応プリンタ出力用の環境変数

環境変数	説 明
EURPS_J84MA16	明朝体アンク 8 × 16 ドットのフォントファイル (*.pcf) をフルパスで指定します。
EURPS_J84MA24	明朝体アンク 12 × 24 ドットのフォントファイル (*.pcf) をフルパスで指定します。
EURPS_J84MA48	明朝体アンク 24 × 48 ドットのフォントファイル (*.pcf) をフルパスで指定します。
EURPS_J84MA72	明朝体アンク 36 × 72 ドットのフォントファイル (*.pcf) をフルパスで指定します。
EURPS_J84MA96	明朝体アンク 48 × 96 ドットのフォントファイル (*.pcf) をフルパスで指定します。
EURPS_J84MK16	明朝体漢字 16 × 16 ドットのフォントファイル (*.pcf) をフルパスで指定します。
EURPS_J84MK24	明朝体漢字 24 × 24 ドットのフォントファイル (*.pcf) をフルパスで指定します。
EURPS_J84MK48	明朝体漢字 48 × 48 ドットのフォントファイル (*.pcf) をフルパスで指定します。
EURPS_J84MK72	明朝体漢字 72 × 72 ドットのフォントファイル (*.pcf) をフルパスで指定します。
EURPS_J84MK96	明朝体漢字 96 × 96 ドットのフォントファイル (*.pcf) をフルパスで指定します。
EURPS_J84GA16	ゴシック体アンク 8 × 16 ドットのフォントファイル (*.pcf) をフルパスで指定します。
EURPS_J84GA24	ゴシック体アンク 12 × 24 ドットのフォントファイル (*.pcf) をフルパスで指定します。
EURPS_J84GA48	ゴシック体アンク 24 × 48 ドットのフォントファイル (*.pcf) をフルパスで指定します。
EURPS_J84GA72	ゴシック体アンク 36 × 72 ドットのフォントファイル (*.pcf) をフルパスで指定します。
EURPS_J84GA96	ゴシック体アンク 48 × 96 ドットのフォントファイル (*.pcf) をフルパスで指定します。
EURPS_J84GK16	ゴシック体漢字 16 × 16 ドットのフォントファイル (*.pcf) をフルパスで指定します。
EURPS_J84GK24	ゴシック体漢字 24 × 24 ドットのフォントファイル (*.pcf) をフルパスで指定します。
EURPS_J84GK48	ゴシック体漢字 48 × 48 ドットのフォントファイル (*.pcf) をフルパスで指定します。
EURPS_J84GK72	ゴシック体漢字 72 × 72 ドットのフォントファイル (*.pcf) をフルパスで指定します。

環境変数	説 明
EURPS_J84GK96	ゴシック体漢字 96 × 96 ドットのフォントファイル (*.pcf) をフルパスで指定します。

環境変数や環境設定ファイル (eurps_env) 中にフォントファイルの指定がない場合は、指定されたフォントサイズに最も近い、次のデフォルトフォントを拡大・縮小して印刷します。

HP-UX の場合

- 明朝体アंक 8 × 16 : /usr/openwin/lib/X11/hitachi/8x16rk.pcf
- 明朝体アंक 12 × 24 : /usr/openwin/lib/X11/hitachi/12x24rk.pcf
- 明朝体漢字 16 × 16 : /usr/openwin/lib/X11/hitachi/jiskan16.pcf
- 明朝体漢字 24 × 24 : /usr/openwin/lib/X11/hitachi/jiskan24.pcf
- ゴシック体アंक 8 × 16 : /usr/openwin/lib/X11/hitachi/8x16rk.pcf
- ゴシック体アंक 12 × 24 : /usr/openwin/lib/X11/hitachi/12x24rk.pcf
- ゴシック体漢字 16 × 16 : /usr/openwin/lib/X11/hitachi/jiskan16.pcf
- ゴシック体漢字 24 × 24 : /usr/openwin/lib/X11/hitachi/jiskan24.pcf

AIX の場合

- 明朝体アंक 8 × 16 : /usr/lib/X11/hitachi/RomanKn12S.pcf
- 明朝体アंक 12 × 24 : /usr/lib/X11/hitachi/RomanKn17S.pcf
- 明朝体漢字 16 × 16 : /usr/lib/X11/hitachi/Kanji12S.pcf
- 明朝体漢字 24 × 24 : /usr/lib/X11/hitachi/Kanji17S.pcf
- ゴシック体アंक 8 × 16 : /usr/lib/X11/hitachi/RomanKn12S.pcf
- ゴシック体アंक 12 × 24 : /usr/lib/X11/hitachi/RomanKn17S.pcf
- ゴシック体漢字 16 × 16 : /usr/lib/X11/hitachi/Kanji12S.pcf
- ゴシック体漢字 24 × 24 : /usr/lib/X11/hitachi/Kanji17S.pcf

Linux の場合

- 明朝体アंक 8 × 16 : /usr/lib/X11/fonts/hitachi/8x16rk.pcf
- 明朝体アंक 12 × 24 : /usr/lib/X11/fonts/hitachi/12x24rk.pcf
- 明朝体漢字 16 × 16 : /usr/lib/X11/fonts/hitachi/jiskan16.pcf
- 明朝体漢字 24 × 24 : /usr/lib/X11/fonts/hitachi/jiskan24.pcf
- ゴシック体アंक 8 × 16 : /usr/lib/X11/fonts/hitachi/8x16rk.pcf
- ゴシック体アंक 12 × 24 : /usr/lib/X11/fonts/hitachi/12x24rk.pcf
- ゴシック体漢字 16 × 16 : /usr/lib/X11/fonts/hitachi/

7. 帳票出力で使用するファイル

```
jiskan16.pcf
• ゴシック体漢字 24 × 24 : /usr/lib/X11/fonts/hitachi/
jiskan24.pcf
```

(1) デフォルトフォントファイルの解凍手順

AIX, および Linux 環境で使用するデフォルトフォントは、圧縮形式で提供しています。フォントファイル用のディレクトリを作成し、デフォルトフォントファイルを複写して、解凍してください。解凍する手順を次に示します。

(a) AIX 環境の場合

1. デフォルトフォントディレクトリの作成

```
# mkdir /usr/lib/X11/fonts/hitachi
```

2. デフォルトフォントファイル (圧縮形式) の複写

```
# cd /usr/lib/X11/fonts
# cp RomanKn12S.pcf.Z /usr/lib/X11/fonts/hitachi/
RomanKn12S.pcf.Z
# cp RomanKn17S.pcf.Z /usr/lib/X11/fonts/hitachi/
RomanKn17S.pcf.Z
# cp Kanji12S.pcf.Z /usr/lib/X11/fonts/hitachi/Kanji12S.pcf.Z
# cp Kanji17S.pcf.Z /usr/lib/X11/fonts/hitachi/Kanji17S.pcf.Z
```

3. デフォルトフォントファイルの解凍

```
# cd /usr/openwin/lib/X11/fonts/hitachi
# uncompress RomanKn12S.pcf.Z
# uncompress RomanKn17S.pcf.Z
# uncompress Kanji12S.pcf.Z
# uncompress Kanji17S.pcf.Z
```

(b) Linux 環境の場合

1. デフォルトフォントディレクトリの作成

```
# mkdir /usr/lib/X11/fonts/hitachi
```

2. デフォルトフォントファイル (圧縮形式) の複写

```
# cd /usr/lib/X11/fonts/misc
# cp 8x16rk.pcf.gz /usr/lib/X11/fonts/hitachi/8x16rk.pcf.gz
# cp jiskan16.pcf.gz /usr/lib/X11/fonts/hitachi/jiskan16.pcf.gz
# cp 12x24rk.pcf.gz /usr/lib/X11/fonts/hitachi/12x24rk.pcf.gz
# cp jiskan24.pcf.gz /usr/lib/X11/fonts/hitachi/jiskan24.pcf.gz
```

3. デフォルトフォントファイルの解凍

```
# cd /usr/lib/X11/fonts/hitachi
# gunzip 8x16rk.pcf.gz
# gunzip jiskan16.pcf.gz
# gunzip 12x24rk.pcf.gz
# gunzip jiskan24.pcf.gz
```

7.26.57 環境設定ファイルの指定例

(1) Windows 環境の場合

```

EURPS_REPORTPATH=C:\PROGRAM FILES\EURPS\REPORTS
EURPS_MAPDATAPATH=C:\PROGRAM FILES\EURPS\MAPDATA
EURPS_USERDATAPATH=C:\PROGRAM FILES\EURPS\USERDATA
EURPS_OUTPUTPATH=C:\PROGRAM FILES\EURPS\OUTPUT
EURPS_LOGFILEPATH=C:\PROGRAM FILES\EURPSLOG
EURPS_LOGSIZE=3000
EURPS_LOGFILELEVEL=INFO
EURPS_DISTINFOPATH=C:\PROGRAM FILES\EURPS\DISTINFO
EURPS_IMAGEPATH=C:\PROGRAM FILES\EURPS\IMAGE
EURPS_REPORT_WARNING=NO
EURPS_MULTI_REPORTSETPATH=C:\PROGRAM FILES\EURPS\MULTIREPORTSET
EURPS_MULTIFORM_INFODEFPATH=C:\PROGRAM FILES\EURPS\MULTIFORM
EURPS_GAIJIFONT=C:\PROGRAM FILES\EURPS\EUDC.TTE
EURPS_BOOKMARKPATH=C:\PROGRAM FILES\EURPS\BOOKMARK
EURPS_PDF_OUTPUT=FILE_SIZE
EURPS_PDF_SAMEIMAGE=OPTIMIZE
EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE=MEM=YES
EURPS_CRYPTOFILEPATH=C:\PROGRAM FILES\EURPS\CRYPTO
EURPS_DOCINFOPATH=C:\PROGRAM FILES\EURPS\DOCINFO
EURPS_CSV_PRINT_PERIOD=YES
EURPS_DBINFOPATH=C:\PROGRAM FILES\EURPS\DBINFO
EURPS_TRACE=YES
EURPS_TRACE_DRAWAPI=NO
EURPS_REPORT_LOGERROR=YES
EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH=C:\PROGRAM FILES\EURPS\REPLACEITEMCNTL
EURPS_REPLACEITEMPATH=C:\PROGRAM FILES\EURPS\REPLACEITEM
EURPS_SKIP_OUTPUTSPACE=YES
EURPS_PRINT=NO
EURPS_CODE39_PARAM=1,1:2.5:1,0.04
EURPS_CODE128_PARAM=2,0.04,0.04
EURPS_QR_CORRECTION_LEVEL=Q
EURPS_QR_VERSION=15
EURPS_NOSKIP_OUTPUTSPACE=YES
EURPS_QR_CELL_SIZE_D=7
EURPS_QR_CELL_SIZE_M=30
EURPS_SCRIPTFILEPATH=C:\PROGRAM FILES\EURPS\SCRIPT
EURPS_SCRIPTCNTLFILEPATH=C:\PROGRAM FILES\EURPS\SCRIPT
EURPS_VIEWERPREFERENCEFILEPATH=C:\PROGRAM FILES\EURPS\PDFVIEWER
EURPS_FIXOPT=BYTE
EURPS_USE_05_06_FONT_LANG=YES
EURPS_OUTPUTPDF_VER=1.6
EURPS_PRINTERINFPATH=C:\PROGRAM FILES\EURPS\PRINTER.INF
EURPS_USE_05_06_FONT_REPLACE=YES
EURPS_TINTINFOPATH=C:\PROGRAM FILES\EURPS\TINTINFOPATH
EURPS_FONT_WIDTH_MODE=STATIC
EURPS_ENVFILE=C:\PROGRAM FILES\EURPS\TEST\EURPS_ENV
EURPS_TESTPRINTFILE=C:\EURPS\TESTPRINTFILE\TESTPRINTFILE.txt
EURPS_FONT_ROUNDDOWN=NO
EURPS_MAX_SPOOL_PAGES=2000

```

(2) HP-UX 環境の場合

```
EURPS_REPORTPATH=/home/eurps/reports
```

7. 帳票出力で使用するファイル

```
EURPS_MAPDATAPATH=/home/eurps/mapdata
EURPS_USERDATAPATH=/home/eurps/userdata
EURPS_OUTPUTPATH=/home/eurps/output
EURPS_LOGFILEPATH=/var/opt/eurps
EURPS_LOGSIZE=3000
EURPS_LOGFILELEVEL=INFO
EURPS_IMAGEPATH=/home/eurps/image
EURPS_REPORT_WARNING=NO
EURPS_MULTI_REPORTSETPATH=/home/eurps/multireportset
EURPS_MULTIFORM_INFODEFPATH=/home/eurps/multiform
EURPS_GAIJIFONT=/home/eurps/gaijifont/udc24.pcf
EURPS_BOOKMARKPATH=/home/eurps/bookmark
EURPS_PDF_OUTPUT=FILE_SIZE
EURPS_PDF_SAMEIMAGE=OPTIMIZE
EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE=MEM=YES
EURPS_CRYPTOPATH=/home/eurps/crypto
EURPS_DOCINFOPATH=/home/eurps/docinfo
EURPS_CSV_PRINT_PERIOD=YES
EURPS_DBINFOPATH=/home/eurps/dbinfo
EURPS_TRACE=YES
EURPS_TRACE_DRAWAPI=NO
EURPS_REPORT_LOGERROR=YES
EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH=/home/eurps/replaceitemcntl
EURPS_REPLACEITEMPATH=/home/eurps/replaceitem
EURPS_SKIP_OUTPUTSPACE=YES
EURPS_PRINT=NO
EURPS_CODE39_PARAM=1,1:2.5:1,0.03
EURPS_CODE128_PARAM=2,0.04,0.04
EURPS_QR_CORRECTION_LEVEL=Q
EURPS_QR_VERSION=15
EURPS_NOSKIP_OUTPUTSPACE=YES
EURPS_QR_CELL_SIZE_D=7
EURPS_QR_CELL_SIZE_M=30
EURPS_SCRIPTFILEPATH=/home/eurps/script
EURPS_SCRIPTCNTLFILEPATH=/home/eurps/script
EURPS_VIEWERPREFERENCEFILEPATH=/home/eurps/pdfviewer
EURPS_FIXOPT=BYTE
EURPS_USE_05_06_FONT_LANG=YES
EURPS_OUTPUTPDF_VER=1.6
EURPS_J84MA16=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/min16a.pcf
EURPS_J84MA24=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/min24a.pcf
EURPS_J84MA48=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/min48a.pcf
EURPS_J84MA72=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/min72a.pcf
EURPS_J84MA96=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/min96a.pcf
EURPS_J84MK16=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/min16k.pcf
EURPS_J84MK24=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/min24k.pcf
EURPS_J84MK48=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/min48k.pcf
EURPS_J84MK72=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/min72k.pcf
EURPS_J84MK96=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/min96k.pcf
EURPS_J84GA16=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/got16a.pcf
EURPS_J84GA24=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/got24a.pcf
EURPS_J84GA48=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/got48a.pcf
EURPS_J84GA72=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/got72a.pcf
EURPS_J84GA96=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/got96a.pcf
EURPS_J84GK16=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/got16k.pcf
EURPS_J84GK24=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/got24k.pcf
EURPS_J84GK48=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/got48k.pcf
```

```

EURPS_J84GK72=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/got72k.pcf
EURPS_J84GK96=/usr/openwin/lib/X11/hitachi/got96k.pcf
EURPS_PRINTERINFPATH=/home/eurps/printerinf
EURPS_USE_05_06_FONT_REPLACE=YES
EURPS_FONT_WIDTH_MODE=STATIC
EURPS_ENVFILE=/home/eurps/test/eurps_env
EURPS_TESTPRINTFILE=/home/eurps/testprintfile/testprintfile.txt
EURPS_FONT_ROUNDDOWN=NO
EURPS_MAX_SPOOL_PAGES=2000

```

(3) AIX 環境の場合

```

EURPS_REPORTPATH=/home/eurps/reports
EURPS_MAPDATAPATH=/home/eurps/mapdata
EURPS_USERDATAPATH=/home/eurps/userdata
EURPS_OUTPUTPATH=/home/eurps/output
EURPS_LOGFILEPATH=/var/opt/eurps
EURPS_LOGSIZE=3000
EURPS_LOGFILELEVEL=INFO
EURPS_IMAGEPATH=/home/eurps/image
EURPS_REPORT_WARNING=NO
EURPS_MULTI_REPORTSETPATH=/home/eurps/multireportset
EURPS_MULTIFORM_INFODEFPATH=/home/eurps/multiform
EURPS_GAIJIFONT=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/IBM_JPN17C.pcf
EURPS_BOOKMARKPATH=/home/eurps/bookmark
EURPS_PDF_OUTPUT=FILE_SIZE
EURPS_PDF_SAMEIMAGE=OPTIMIZE
EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZEMEM=YES
EURPS_CRYPTOFILEPATH=/home/eurps/crypto
EURPS_DOCINFOPATH=/home/eurps/docinfo
EURPS_CSV_PRINT_PERIOD=YES
EURPS_DBINFOPATH=/home/eurps/dbinfo
EURPS_TRACE=YES
EURPS_TRACE_DRAWAPI=NO
EURPS_REPORT_LOGERROR=YES
EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH=/home/eurps/replaceitemcntl
EURPS_REPLACEITEMPATH=/home/eurps/replaceitem
EURPS_SKIP_OUTPUTSPACE=YES
EURPS_PRINT=NO
EURPS_CODE39_PARAM=1,1:2.5:1,0.03
EURPS_CODE128_PARAM=2,0.04,0.04
EURPS_QR_CORRECTION_LEVEL=Q
EURPS_QR_VERSION=15
EURPS_NOSKIP_OUTPUTSPACE=YES
EURPS_QR_CELL_SIZE_D=7
EURPS_QR_CELL_SIZE_M=30
EURPS_SCRIPTFILEPATH=/home/eurps/script
EURPS_SCRIPTCNTLFILEPATH=/home/eurps/script
EURPS_VIEWERPREFERENCEFILEPATH=/home/eurps/pdfviewer
EURPS_FIXOPT=BYTE
EURPS_USE_05_06_FONT_LANG=YES
EURPS_OUTPUTPDF_VER=1.6
EURPS_J84MA16=/usr/lib/X11/hitachi/min16a.pcf
EURPS_J84MA24=/usr/lib/X11/hitachi/min24a.pcf
EURPS_J84MA48=/usr/lib/X11/hitachi/min48a.pcf
EURPS_J84MA72=/usr/lib/X11/hitachi/min72a.pcf
EURPS_J84MA96=/usr/lib/X11/hitachi/min96a.pcf

```

7. 帳票出力で使用するファイル

```
EURPS_J84MK16=/usr/lib/X11/hitachi/min16k.pcf
EURPS_J84MK24=/usr/lib/X11/hitachi/min24k.pcf
EURPS_J84MK48=/usr/lib/X11/hitachi/min48k.pcf
EURPS_J84MK72=/usr/lib/X11/hitachi/min72k.pcf
EURPS_J84MK96=/usr/lib/X11/hitachi/min96k.pcf
EURPS_J84GA16=/usr/lib/X11/hitachi/got16a.pcf
EURPS_J84GA24=/usr/lib/X11/hitachi/got24a.pcf
EURPS_J84GA48=/usr/lib/X11/hitachi/got48a.pcf
EURPS_J84GA72=/usr/lib/X11/hitachi/got72a.pcf
EURPS_J84GA96=/usr/lib/X11/hitachi/got96a.pcf
EURPS_J84GK16=/usr/lib/X11/hitachi/got16k.pcf
EURPS_J84GK24=/usr/lib/X11/hitachi/got24k.pcf
EURPS_J84GK48=/usr/lib/X11/hitachi/got48k.pcf
EURPS_J84GK72=/usr/lib/X11/hitachi/got72k.pcf
EURPS_J84GK96=/usr/lib/X11/hitachi/got96k.pcf
EURPS_PRINTERINFPATH=/home/eurps/printerinf
EURPS_USE_05_06_FONT_REPLACE=YES
EURPS_FONT_WIDTH_MODE=STATIC
EURPS_ENVFILE=/home/eurps/test/eurps_env
EURPS_TESTPRINTFILE=/home/eurps/testprintfile/testprintfile.txt
EURPS_FONT_ROUNDDOWN=NO
EURPS_MAX_SPOOL_PAGES=2000
```

(4) Linux 環境の場合

```
EURPS_REPORTPATH=/home/eurps/reports
EURPS_MAPDATAPATH=/home/eurps/mapdata
EURPS_USERDATAPATH=/home/eurps/userdata
EURPS_OUTPUTPATH=/home/eurps/output
EURPS_LOGFILEPATH=/var/opt/eurps
EURPS_LOGSIZE=3000
EURPS_LOGFILELEVEL=INFO
EURPS_IMAGEPATH=/home/eurps/image
EURPS_REPORT_WARNING=NO
EURPS_MULTIREPORTSETPATH=/home/eurps/multireportset
EURPS_MULTIFORM_INFODEFPATH=/home/eurps/multiform
EURPS_BOOKMARKPATH=/home/eurps/bookmark
EURPS_PDF_OUTPUT=FILE_SIZE
EURPS_PDF_SAMEIMAGE=OPTIMIZE
EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZEYES=YES
EURPS_CRYPTOPATH=/home/eurps/crypto
EURPS_DOCINFOPATH=/home/eurps/docinfo
EURPS_CSV_PRINT_PERIOD=YES
EURPS_DBINFOPATH=/home/eurps/dbinfo
EURPS_TRACE=YES
EURPS_TRACE_DRAWAPI=NO
EURPS_REPORT_LOGERROR=YES
EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH=/home/eurps/replaceitemcntl
EURPS_REPLACEITEMPATH=/home/eurps/replaceitem
EURPS_SKIP_OUTPUTSPACE=YES
EURPS_PRINT=NO
EURPS_CODE39_PARAM=1,1:2.5:1,0.03
EURPS_CODE128_PARAM=2,0.04,0.04
EURPS_QR_CORRECTION_LEVEL=Q
EURPS_QR_VERSION=15
EURPS_NOSKIP_OUTPUTSPACE=YES
EURPS_QR_CELL_SIZE_D=7
```



```
EURPS_QR_CELL_SIZE_M=30
EURPS_SCRIPTFILEPATH=/home/eurps/script
EURPS_SCRIPTCNTLFILEPATH=/home/eurps/script
EURPS_VIEWERREFERENCEFILEPATH=/home/eurps/pdfviewer
EURPS_FIXOPT=BYTE
EURPS_USE_05_06_FONT_LANG=YES
EURPS_OUTPUTPDF_VER=1.6
EURPS_J84MA16=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/min16a.pcf
EURPS_J84MA24=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/min24a.pcf
EURPS_J84MA48=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/min48a.pcf
EURPS_J84MA72=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/min72a.pcf
EURPS_J84MA96=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/min96a.pcf
EURPS_J84MK16=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/min16k.pcf
EURPS_J84MK24=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/min24k.pcf
EURPS_J84MK48=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/min48k.pcf
EURPS_J84MK72=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/min72k.pcf
EURPS_J84MK96=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/min96k.pcf
EURPS_J84GA16=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/got16a.pcf
EURPS_J84GA24=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/got24a.pcf
EURPS_J84GA48=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/got48a.pcf
EURPS_J84GA72=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/got72a.pcf
EURPS_J84GA96=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/got96a.pcf
EURPS_J84GK16=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/got16k.pcf
EURPS_J84GK24=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/got24k.pcf
EURPS_J84GK48=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/got48k.pcf
EURPS_J84GK72=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/got72k.pcf
EURPS_J84GK96=/usr/lib/X11/fonts/hitachi/got96k.pcf
EURPS_PRINTERINFPATH=/home/eurps/printerinf
EURPS_USE_05_06_FONT_REPLACE=YES
EURPS_FONT_WIDTH_MODE=STATIC
EURPS_ENVFILE=/home/eurps/test/eurps_env
EURPS_TESTPRINTFILE=/home/eurps/testprintfile/testprintfile.txt
EURPS_FONT_ROUNDDOWN=NO
EURPS_MAX_SPOOL_PAGES=2000
```


8

ログ機能

EUR サーバ帳票出力機能では、実行時に発生したエラーなどを、メッセージやログに出力します。
この章では、出力されるログについて説明します。

8.1 標準エラー出力

8.2 ActiveX オブジェクトのエラー出力

8.3 JavaBeans 起動部品のエラー出力

8.4 JavaBeans 起動部品のログ

8.5 イベントログ

8.6 eurps ログ

8.7 EPS-XLSX ログ

8.8 ログの出力例

8.1 標準エラー出力

eurps コマンドを実行している時にエラーが発生した場合、標準ではメッセージは出力されません。/message オプション (UNIX / Linux の場合は -message オプション) を指定すると、メッセージが出力されます。出力されるメッセージについては、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

なお、出力されるメッセージは、次に示すエンコーディングで出力されます。変換できない文字は、「？」で出力されます。

- Windows 環境の場合：Windows-31J
- UNIX / Linux 環境の場合：設定されている文字ロケール環境に依存します。

8.2 ActiveX オブジェクトのエラー出力

ActiveX オブジェクトでエラーが発生した場合は、Err オブジェクトの Description プロパティにメッセージが出力されます。出力されるメッセージについては、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

8.3 JavaBeans 起動部品のエラー出力

JavaBeans 起動部品の実行中にエラーが発生した場合は、`EURPSEException` オブジェクトの `getMessage` メソッドでメッセージを取得できます。メッセージについては、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

8.4 JavaBeans 起動部品のログ

EUR サーバ帳票出力機能を、JavaBeans 起動部品で起動した場合、実行ログを出力します。実行ログには、次の 2 種類があります。

エラーログ

JavaBeans 起動部品の実行中に障害が発生した場合、障害情報としてメッセージとスタックトレースを出力します。

エラーログファイル名

ログファイル名は、EURPSJavaError_〔1-2〕.log です。

エラーログファイルの出力先の指定

プロパティファイル、またはシステムプロパティの TraceErrorFileDir (エラーログファイル出力フォルダ) で指定します。

エラーログファイルの文字コード

エラーログファイルの文字コードは、次に示すエンコーディングで出力されます。変換できない文字は、「?」で出力されます。

Windows 環境の場合：Windows-31J

UNIX / Linux 環境の場合：設定されている文字ロケール環境に依存します。

エラーログファイルのファイルサイズの指定

エラーログファイルのファイルサイズの標準は、1,048,576 バイトです。

エラーログファイルのファイルサイズは、プロパティファイル、またはシステムプロパティの TraceErrorFileSize で変更できます。

指定できるファイルサイズは、4,096 ~ 2,147,483,647 バイトです。

エラーログが指定したファイルサイズを超えた場合、EURPSJavaError_1.log, EURPSJavaError_2.log の順番でファイルを作成します。2 ファイルを作成したあと、最初に作成したファイルから上書きしますのでご注意ください。

トレースログ

JavaBeans 起動部品の稼働状態などを出力します。

トレースファイル名

トレースファイル名は、EURPSJavaTrace (プレフィックス文字列)(プロセス ID)_〔1-16〕.log です。

プレフィックス文字列は、プロパティファイル、またはシステムプロパティの TraceFilePrefix に指定した文字列です。

トレースファイルの出力先の指定

プロパティファイル、またはシステムプロパティの TraceFileDir (トレースファイル出力フォルダ) で指定します。

トレースファイルの文字コード

トレースファイルの文字コードは、ロケールの文字コードに従います。ロケールに対応する文字コードについては、「付録 C 作業環境の言語との対応」を参照し

てください。

トレースファイルのファイルサイズの指定

トレースファイルのファイルサイズの標準は、1,048,576 バイトです。

トレースログファイルのファイルサイズは、プロパティファイル、またはシステムプロパティの TraceFileSize で変更できます。

指定できるファイルサイズは、4,096 ~ 2,147,483,647 バイトです。

トレースファイルが指定したファイルサイズを超えた場合、ファイル名の末尾の数字 1 ~ 16 の順番でファイルを作成します。16 ファイルを作成したあと、最初に作成したファイルから上書きしますのでご注意ください。

トレースログの出力形式

トレースログの出力形式を次に示します。

番号 日付 時刻 AP 名 pid tid 種別 メッセージ 改行コード

番号：トレースコードの通番を示す 4 桁の番号が出力されます。

日付：トレースの取得日付が「yyyy/mm/dd」の形式で出力されます。

時刻：トレースの取得時刻が「hh:mm:ss:sss」の形式で出力されます。

AP 名：「EURPrintService」固定で出力されます。

pid：プロセス ID が出力されます。

tid：スレッド ID が出力されます。

種別：トレース出力の契機となったイベント情報が出力されます。

"FB"：関数の開始

"FE"：関数の終了

"EC"：例外の発生

メッセージ：メッセージが出力されます。

8.5 イベントログ

EUR サーバ帳票出力機能では、実行中にエラーが発生した場合、エラーレベル（レベル：Error）のメッセージを、Windows のイベントログへアプリケーションのイベントとして出力します。ログには、エラーの発生要因となったエラーメッセージのメッセージ文に加えて、詳細情報が出力されます。

なお、イベントログの参照は、Windows 上の管理ツールのイベント ビューアで参照できます。

イベントログは、次に示す形式でメッセージを出力します。

メッセージ ID メッセージ文：詳細情報

メッセージ ID

メッセージ ID は、KEEUxxx-y の形式で示します。xxx は、メッセージ番号を 3 桁で示します。y は、レベル（I（Information）、W（Warning）、または E（Error））を示します。

メッセージ文

メッセージ文を示します。メッセージ文については、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。メッセージ文は、各ロケールの文字コードに従います。

詳細情報

イベントログに出力される詳細情報を示します。詳細情報については、マニュアル「EUR メッセージ」を参照してください。

なお、ログファイルへ出力できなかった場合にイベントログに出力するメッセージ KEEU405-I、KEEU406-I、KEEU407-I は、インフォメーションレベル（レベル：INFO）で出力します。

8.6 eurps ログ

システム上で動作する EUR サーバ帳票出力機能の帳票出力要求の実行ログを出力します。ログ採取レベルは、環境変数 EURPS_LOGFILELEVEL で変更できます。実行時のログ情報には、メッセージ文のほか、出力日時、プロセス番号などの共通情報が付加されて出力されます。

ログファイル名

ログファイル名は、eurps.log です。

ログファイルの出力先の指定

環境変数、または環境設定ファイルの EURPS_LOGFILEPATH で指定します。指定したログファイルの出力先が存在しない場合、またはログファイルの出力先が指定されていない場合は、出力先フォルダを自動的に作成し、ログファイルを出力します。

EURPS_LOGFILEPATH については、「7.26.6 EURPS_LOGFILEPATH」を参照してください。

ログファイルの出力先の自動生成については、「8.6.1 コマンド実行時に eurps ログの出力先フォルダを作成する機能」を参照してください。

環境変数 EURPS_LOGFILEPATH が設定されていない場合は、次に示すファイルを検索します。

・ Windows 環境の場合

MS-DOS 環境の環境変数 TMP で指定されたフォルダ環境変数

・ UNIX / Linux 環境の場合

/var/opt/eurps ディレクトリ

EURPS_LOGFILEPATH と環境設定ファイル (Windows 環境の場合は

EURPS_ENV, UNIX / Linux 環境の場合は eurps_env) 中の変数

EURPS_LOGFILEPATH を同時に設定した場合は、環境変数の値が有効になります。

注意

環境変数 EURPS_LOGFILEPATH で、ログファイルを指定した場合は、次の事項を確認してください。

- ・ 指定した出力先フォルダに、実行、および書き込み権限があるかどうかを確認してください。
- ・ 出力先フォルダには、書き込み権限を与えてください。
- ・ 指定した出力先フォルダに既存のログファイルがある場合、そのログファイルに書き込み権限があるかどうかを確認してください。
- ・ 既存のログファイルに上書きする場合は、書き込み権限を与えてください。

ログファイルのファイルサイズの指定

ログファイルのファイルサイズの標準は、3,000KB です。指定できるファイルサイズは、3,000 ~ 2,000,000KB です。

ログファイルのファイルサイズは、環境変数 EURPS_LOGSIZE で変更できます。ログファイルのファイルサイズは、印刷ページ総数量ではなく、印刷要求数（印刷ジョブ数）に依存してログの採取量が変わります。そのため、業務システム上の一日当たりの印刷要求数などを目安にしたり、システム保守上、保存できる期限も考慮したりして、ログファイルのファイルサイズを見積もってください。

例えば、印刷要求数の一日平均を 1,000 回、1 回の実行で出力するファイル容量を 0.5KB とした場合、15 日間分のログを記録するためには、

「 $0.5 \text{ (KB)} \times 1,000 \text{ (回)} \times 15 \text{ (日)} = 7,500 \text{ (KB)}$ 」のファイルサイズが必要になります。

なお、ログファイルには、指定したファイルサイズを超えた場合、ログをバックアップファイルに保存する機能があります。そのため、7,500KB のファイルサイズが必要な場合、ログファイルのファイルサイズは 3,750KB で済みます。余裕を持ってファイルサイズを設定するならば、この場合は 4,000KB 程度とすることをお勧めします。

ログファイルの切り替え

採取したログが、指定したファイルサイズを超えた場合は、ログファイルの名前を eurps.old と変更して保存し、新たにログファイル eurps.log を作成してメッセージの採取を続けます。すでに eurps.old がある場合は、その eurps.old に上書き保存されます。

EUR サーバ帳票出力機能では、ログファイルを eurps.log（最新情報）と eurps.old（一つ前の情報）の 2 世代で管理します。

ログファイルへのメッセージ出力レベルの指定

ログファイルに出力するメッセージは、メッセージ出力レベルの指定によって出力する内容を変更できます。メッセージ出力レベルは、環境変数

EURPS_LOGFILELEVEL に設定します。次に示す 2 種類のメッセージ出力レベルを設定することで、出力されるメッセージの内容を選択できます。

表 8-1 EURPS_LOGFILELEVEL の設定値

環境変数への設定値	出力されるメッセージの内容
INFO	エラーレベル（Error（Err））と情報レベル（Information（Inf））のログを出力します（デフォルト）。
ERROR	エラーレベル（Error（Err））だけを出力します。

ログファイルへのメッセージ出力レベルの標準は、「INFO」です。警告発生時のエラー（Warning（War））を出力する場合は、「INFO」を指定してください。

ログファイルに出力されるメッセージは、次に示す文字コードで表示されます。なお、変換できない文字は、「？」で出力されます。

- Windows 環境の場合：UTF-16 で表示されます。
- UNIX / Linux 環境の場合：設定されている文字ロケール環境に依存します。

8.6.1 コマンド実行時に eurps ログの出力先フォルダを作成する機能

eurps.exe コマンドを実行した時に、eurps ログの出力先フォルダが存在しない場合、出力先のフォルダを作成してから、eurps ログを出力します。

作成されるフォルダは、環境変数 EURPS_LOGFILEPATH に指定されたフォルダです。

8.6.2 eurps ログが出力できないときにユーザに通知する機能

eurps.exe コマンドを実行したときに eurps ログが出力できない場合、Windows 環境では、eurps ログが出力できないことをイベントログで通知します。

eurps ログが出力できない場合を次に示します。

- eurps ログの出力時に出力先フォルダを作成できなくて、eurps ログが出力できなかったとき。
- 出力先フォルダは存在するが、eurps.log を出力できなかったとき。
- 出力先フォルダは存在するが、eurps.lock（排他を制御するファイル）を出力できなかったとき。
- 出力先ディレクトリが存在するが、eurps.old（バックアップファイル）を出力できなかったとき。

8.7 EPS-XLSX ログ

EUR サーバ帳票出力機能を使って帳票を Excel 形式ファイルに出力する場合に、エラーレベルまたはワーニングレベルのメッセージを出力します。ログ採取レベルは、環境変数 EURPS_EXCELLOGFILELEVEL で変更できます。

ログファイルに出力する情報

ヘッダ情報として、Excel 形式ファイル出力を実行した製品の形名、およびライブラリ（Windows 環境の場合は LibXLS.dll、UNIX / Linux 環境の場合は libxls.so）のバージョン、リビジョン番号が出力されます。

ワーニングレベルのメッセージとして、複数のアイテムが同一セルに配置された場合に、出力されないアイテムの情報が出力されます。

エラーレベルのメッセージとして、Excel 形式ファイル出力時に発生したエラーメッセージが出力されます。

ログファイルの出力形式の詳細については、「8.7.1 EPS-XLSX ログの出力形式」を参照してください。

ログファイル名

ログファイルは次の名称で出力されます。

eurpsxlsxYYYYMMDDhhmmssIII_PPPPPPPPPP.log

YYYY

実行時刻の西暦年を示します。

MM

実行時刻の月を示します。

DD

実行時刻の日を示します。

hh

実行時刻の時を示します。

mm

実行時刻の分を示します。

ss

実行時刻の秒を示します。

III

実行時刻のミリ秒を示します。

PPPPPPPPPP

実行時のプロセス ID を示します。

ログファイルの出力先の指定

環境変数、または環境設定ファイルの EURPS_LOGFILEPATH で指定した

eurps.log の出力先フォルダと同じフォルダに出力します。指定したログファイルの

出力先が存在しない場合、またはログファイルの出力先が指定されていない場合は、出力先フォルダを自動的に作成し、ログファイルを出力します。

EURPS_LOGFILEPATH については、「7.26.6 EURPS_LOGFILEPATH」を参照してください。

ログファイルの出力先の自動生成については、「8.6.1 コマンド実行時に eurps ログの出力先フォルダを作成する機能」を参照してください。

環境変数 EURPS_LOGFILEPATH が設定されていない場合は、次に示すファイルを検索します。

- ・ Windows 環境の場合

MS-DOS 環境の環境変数 TMP で指定されたフォルダ環境変数

- ・ UNIX / Linux 環境の場合

/var/opt/eurps ディレクトリ

EURPS_LOGFILEPATH と環境設定ファイル EURPS_ENV 中の変数

EURPS_LOGFILEPATH を同時に設定した場合は、環境変数の値が有効になります。

注意

環境変数 EURPS_LOGFILEPATH で、ログファイルを指定した場合は、次の事項を確認してください。

- ・ 指定した出力先フォルダに、実行、および書き込み権限があるかどうかを確認してください。
- ・ 出力先フォルダには、書き込み権限を与えてください。
- ・ 指定した出力先フォルダに既存のログファイルがある場合、そのログファイルに書き込み権限があるかどうかを確認してください。
- ・ 既存のログファイルに上書きする場合は、書き込み権限を与えてください。

ログファイルの出力単位

ログファイルは、Excel 形式ファイルを出力するたびに、エラーレベルまたはワーニングレベルのメッセージと一緒に一つのファイルとして出力されます。Excel 形式ファイルを複数回出力すると、出力した回数だけログファイルが出力されます。ただし、出力するエラーレベルまたはワーニングレベルのメッセージがない場合は、ログファイルは出力されません。

ログファイルの容量

出力される EPS-XLSX ログファイルの最大ファイル容量は 2GB です。採取したログの容量が 2GB を超えた場合は、2GB まではログファイルに出力されます。それ以降のログは出力されません。

ログファイルへのメッセージ出力レベルの指定

ログファイルに出力するメッセージは、メッセージ出力レベルの指定によって出力する内容を変更できます。メッセージ出力レベルは、環境変数 EURPS_EXCELLOGFILELEVEL に設定します。次に示す 2 種類のメッセージ出力レベルを設定することで、出力されるメッセージの内容を選択できます。

表 8-2 メッセージ出力レベル

環境変数の設定値	出力されるメッセージの内容
INFO	エラーレベル (Error (Err)) とワーニングレベル (Warning (War)) のログを出力します (デフォルト)。
ERROR	エラーレベル (Error (Err)) だけを出力します。

ログファイルに出力されるメッセージの内容を次に示します。

エラーレベル

Excel 形式ファイル出力時に発生したエラーメッセージを出力します。

ワーニングレベル

複数のアイテムが同一セルに配置された場合に、出力されないアイテムの情報を出力します。

ログファイルに出力される情報の詳細については、「8.7.1 EPS-XLSX ログの出力形式」を参照してください。

ログファイルに出力されるメッセージは、次に示す文字コードで表示されます。なお、変換できない文字は、「？」で出力されます。

- Windows 環境の場合：UTF-16 で表示されます。
- UNIX / Linux 環境の場合：設定されている文字ロケール環境に依存します。

8.7.1 EPS-XLSX ログの出力形式

EPS-XLSX ログの出力形式について、次に示します。

(1) ヘッダ情報

EPS-XLSX ログは、次に示す形式でヘッダ情報を出力します。

PP VV-RR [Ret]
[Ret]

PP

Excel 形式ファイル出力を実行した製品の形名を示します。

VV

ライブラリ (Windows 環境の場合は LibXLS.dll, UNIX / Linux 環境の場合は libxls.so) のバージョン番号を示します。

RR

ライブラリ (Windows 環境の場合は LibXLS.dll, UNIX / Linux 環境の場合は libxls.so) のリビジョン番号を示します。

[Ret]

8. ログ機能

改行コード（Windows 環境の場合 CR+LF，UNIX / Linux 環境の場合 LF）を示します。

半角空白を示します。

（２）メッセージ情報

EPS-XLSX ログは、次に示す形式でメッセージ情報を出力します。

YY/MM/DD HH:MM:SS PPPPPPPPPP 状態 実メッセージ [Ret]

YY

実行時刻の西暦下 2 桁を示します。

MM

実行時刻の月を示します。

DD

実行時刻の日を示します。

HH

実行時刻の時を示します。

MM

実行時刻の分を示します。

SS

実行時刻の秒を示します。

PPPPPPPPPP

実行時のプロセス ID を示します。

状態

メッセージのレベル（エラー（Err）またはワーニング（War））を示します。

実メッセージ

EPS-XLSX ログに出力される詳細情報を示します。詳細情報については、
「8.7.1(2)(a) エラーレベルのメッセージ」および「8.7.1(2)(b) ワーニングレベル
のメッセージ」を参照してください。

[Ret]

改行コード（Windows 環境の場合 CR+LF，UNIX / Linux 環境の場合 LF）を示
します。

半角空白を示します。

(a) エラーレベルのメッセージ

メッセージのレベルが「Err」(エラーレベル)のログについて、実メッセージに出力される情報を次に示します。

```
APINAME:reason(0xFFFFFFFF):module(0xFFFFFFFF):pos(0xFFFFFFFF):errno(xx):message(xx)
```

なお、「errno(xx)」および「message(xx)」は、システムエラーの場合だけ出力されません。

APINAME

エラーが発生した API 名を示します。

```
reason(0xFFFFFFFF)
```

エラーが発生した場合の理由コードを示します。

```
module(0xFFFFFFFF)
```

メンテナンスコードのモジュール番号を示します。

```
pos(0xFFFFFFFF)
```

メンテナンスコードのエラー出力位置を示します。

```
errno(xx)
```

エラーコードを示します。「xx」は、Windows 環境の場合は、GetLastError 関数で返ってきた値、UNIX / Linux 環境の場合は、errno に設定されている値を示します。

```
message(xx)
```

errno(xx) で取得したエラーコードに対応するシステムエラーメッセージを示します。Windows 環境の場合は、FormatMessage 関数で返ってきた値、UNIX / Linux 環境の場合は、strerror 関数で取得した値を示します。

(b) ワーニングレベルのメッセージ

メッセージのレベルが「War」(ワーニングレベル)のログについて、実メッセージに出力される情報を説明します。

複数のアイテムが同一セルに配置された結果、出力されなかったアイテムの情報はアイテムごとに 1 行で記述されます。

出力されないアイテムごとの、実メッセージに出力される情報を次に示します。

文字アイテム (固定文字列、マッピングデータ (文字列型、日付型)、またはユーザ定義データ (文字列型、日付型))

```
KEEU320-W type=String, sheet=SHEET, rc=RC[Ret]
```

type

アイテム種別を示します。固定文字列、マッピングデータ（文字列型、日付型）、およびユーザ定義データ（文字列型、日付型）の場合は、「String」になります。

sheet

シート番号を示します。

rc

出力されなかったアイテムが本来配置されるはずだった、Excel のセルの行列番号を示します。

[Ret]

改行コード（Windows 環境の場合 CR+LF、UNIX / Linux 環境の場合 LF）を示します。

半角空白を示します。

文字アイテム（マッピングデータ（数値型）、またはユーザ定義データ（数値型））

```
KEEU320-W type=Numeric, sheet=SHEET, rc=RC [Ret]
```

type

アイテム種別を示します。マッピングデータ（数値型）、およびユーザ定義データ（数値型）の場合は、「Numeric」になります。

sheet

シート番号を示します。

rc

出力されなかったアイテムが、本来配置されるはずだった Excel のセルの行列番号を示します。

[Ret]

改行コード（Windows 環境の場合 CR+LF、UNIX / Linux 環境の場合 LF）を示します。

半角空白を示します。

線アイテム

```
KEEU320-W type=Line, sheet=SHEET, rc=RC, btrl=D,  
Color="RRGGBB", pattern="PAT" [Ret]
```

type

アイテム種別を示します。線アイテムの場合は、「Line」になります。

sheet

シート番号を示します。

rc

出力されなかったアイテムが、本来配置されるはずだった Excel のセルの行列番号を示します。

btrl

出力されなかったアイテムが rc で示したセルのどの位置の罫線として配置されるはずだったかを示します。D には bottom (下罫線), top (上罫線), right (右罫線), left (左罫線) のどれかが表示されます。

Color

線アイテムの色を 16 進数表記の RGB 値で示します。

pattern

線アイテムの線種を示します。PAT には Excel 形式ファイルに出力した場合の線種が表示されます。

[Ret]

改行コード (Windows 環境の場合 CR+LF, UNIX / Linux 環境の場合 LF) を示します。

半角空白を示します。

網掛けアイテム, 角丸四角アイテム

```
KEEU320-W type=Rectangle, sheet=SHEET, rc=RC,
bgColor="RRGGBB", pattern="PAT" [Ret]
```

type

アイテム種別を示します。網掛けアイテム, 角丸四角アイテムの場合は, 「Rectangle」になります。

sheet

シート番号を示します。

rc

出力されなかったアイテムが、本来配置されるはずだった Excel のセルの行列番号を示します。

bgColor

網掛けアイテム, 角丸四角アイテムの背景色を 16 進数表記の RGB 値で示します。

pattern

網掛けアイテム, 角丸四角アイテムの塗りつぶしパターンを示します。PAT には Excel 形式ファイルに出力した場合の塗りつぶしパターンが表示されます。

[Ret]

8. ログ機能

改行コード（Windows 環境の場合 CR+LF , UNIX / Linux 環境の場合 LF）を示します。

半角空白を示します。

8.8 ログの出力例

EUR サーバ帳票出力機能が出力するログの出力例を次に示します。

8.8.1 イベントログの出力例

イベントログの出力例を次に示します。ここで説明するイベントログの出力例では、半角カタカナを全角カタカナで示しています。実際にイベントログが出力される時は、半角カタカナで表示されます。

イベントログの出力レベルは、ERROR レベルがデフォルトになります。

(1) メッセージレベルが Error の場合

Windows 環境の場合

KEEU101-E PDF変換中にエラーが発生しました。(13)

また、ログファイル、トレースファイルが出力できない場合は、次の information レベルのメッセージが出力されます。

KEEU405-I ログファイルの出力先フォルダ(C:\EURPSLOG)が作成できません。
(13)

KEEU406-I ログファイル(eurps.log)に書き込みできません。(13)

KEEU407-I トレースファイルに書き込みできません。(13)

UNIX / Linux 環境の場合

KEEU101-E PDF変換中にエラーが発生しました。(13)

また、ログファイル、トレースファイルが出力できない場合は、次の information レベルのメッセージが出力されます。

KEEU405-I cannot create log directory /var/opt/eurps(13)

KEEU406-I cannot write eurps.log(13)

KEEU407-I cannot write trace file(13)

8.8.2 eurps ログの出力例

eurps ログの出力例を次に示します。ここで説明する eurps ログの出力例では、半角カタカナを全角カタカナで示しています。実際に eurps ログが出力される時は、半角カタカナで表示されます。

時刻の後ろに表示されている [nnnn] の数値は、実行したプロセス番号を示します。例えば、EUR サーバ帳票出力機能の ActiveX オブジェクトを利用してサーバアプリケーションから実行した場合は、実行したアプリケーションのプロセス番号が表示されます。

(1) メッセージレベルが Information の場合

(a) 正常終了の場合

Windows 環境の場合

```
04/09/07 17:15:00 [      2532] Inf KEEU400-I EUR Print Serviceを
起動しました。 : ユーザ=UserAccount : コマンド=eurps
formsheet.fms,mapdata.csv,usrdata.csv /t pdf /pf output.pdf
04/09/07 17:15:00 [      2532] Inf KEEU401-I EUR Print Serviceの
出力が終了しました。 : ユーザ=UserAccount : 終了コード=0 : ページ数=8 :
コマンド= eurps formsheet.fms,mapdata.csv,usrdata.csv /t pdf /pf
output.pdf
```

UNIX / Linux 環境の場合

```
04/09/07 17:15:00 [      2532] Inf KEEU400-I EUR Print Serviceを
起動しました。 : ユーザ=UserAccount : コマンド=eurps
formsheet.fms,mapdata.csv,usrdata.csv -t pdf -pf output.pdf
04/09/07 17:15:00 [      2532] Inf KEEU401-I EUR Print Serviceの
出力が終了しました。 : ユーザ=UserAccount : 終了コード=0 : ページ数=8 :
コマンド= eurps formsheet.fms,mapdata.csv,usrdata.csv -t pdf -pf
output.pdf
```

(b) 警告が発生した場合

Windows 環境の場合

```
04/09/07 17:15:00 [      2532] Inf KEEU400-I EUR Print Serviceを
起動しました。 : ユーザ=UserAccount : コマンド=eurps
formsheet.fms,mapdata.csv,usrdata.csv /t pdf /pf output.pdf
04/09/07 17:15:00 [      2532] War KEEU300-W 帳票に正しく出力されない
項目がありました。 : ユーザ=UserAccount : コマンド= eurps
formsheet.fms,mapdata.csv,usrdata.csv /t pdf /pf output.pdf
04/09/07 17:15:00 [      2532] Inf KEEU401-I EUR Print Serviceの
出力が終了しました。 : ユーザ=UserAccount : 終了コード=4 : ページ数=8 :
コマンド= eurps formsheet.fms,mapdata.csv,usrdata.csv /t pdf /pf
output.pdf
```

UNIX / Linux 環境の場合

```
04/09/07 17:15:00 [      2532] Inf KEEU400-I EUR Print Serviceを
起動しました。 : ユーザ=UserAccount : コマンド=eurps
formsheet.fms,mapdata.csv,usrdata.csv -t pdf -pf output.pdf
04/09/07 17:15:00 [      2532] War KEEU300-W 帳票に正しく出力されない
項目がありました。 : ユーザ=UserAccount : コマンド= eurps
formsheet.fms,mapdata.csv,usrdata.csv -t pdf -pf output.pdf
04/09/07 17:15:00 [      2532] Inf KEEU401-I EUR Print Serviceの
出力が終了しました。 : ユーザ=UserAccount : 終了コード=4 : ページ数=8 :
コマンド= eurps formsheet.fms,mapdata.csv,usrdata.csv -t pdf -pf
output.pdf
```

(2) メッセージレベルが Error の場合

出力レベル「Err」のあと、メッセージ ID (KEEUxxx-y) が付加されていない情報は、製品内の保守情報です。出力されるログによって、障害の切り分けを行う場合は、メッセージ ID が付加されているログ情報を参照してください。

Windows 環境の場合

出力例 1

```
04/09/07 17:15:00 [          2532] Err Category=001, Detail=0001,
StartDoc HANDLE=0x0012facc, DOCINFO=0x00130110 CPIError
reason:0x00000000 module:0x00000000 position:0x00000000
errorno:13
04/09/07 17:15:00 [          2532] Err KEEU101-E PDF変換中にエラーが発生
しました。(13) : ユーザ=UserAccount : コマンド=eurps
formsheet.fms,mapdata.csv,usrdata.csv /t pdf /pf output.pdf
```

出力例 2

```
04/09/07 17:15:00 [          2532] Err Category=002, Detail=0001,
C:¥EURPS¥DATAFILE¥usrdata error = 2
04/09/07 17:15:00 [          2532] Err KEEU006-E 指定したデータファイル
(usrdata)を読み込めません。(2) : ユーザ=UserAccount : コマンド
=eurps formsheet.fms,mapdata.csv,usrdata.csv /t pdf /pf
output.pdf
```

UNIX / Linux 環境の場合

出力例 1

```
04/09/07 17:15:00 [          2532] Err Category=001, Detail=0001,
StartDoc HANDLE=0x0012facc, DOCINFO=0x00130110 CPIError
reason:0x00000000 module:0x00000000 position:0x00000000
errorno:13
04/09/07 17:15:00 [          2532] Err KEEU101-E PDF変換中にエラーが発生
しました。(13) : ユーザ=UserAccount : コマンド=eurps
formsheet.fms,mapdata.csv,usrdata.csv -t pdf -pf output.pdf
```

出力例 2

```
04/09/07 17:15:00 [          2532] Err Category=002, Detail=0001, /
eurps/datafile/usrdata error = 2
04/09/07 17:15:00 [          2532] Err KEEU006-E 指定したデータファイル
(usrdata)を読み込めません。(2) : ユーザ=UserAccount : コマンド
=eurps formsheet.fms,mapdata.csv,usrdata.csv -t pdf -pf
output.pdf
```

8.8.3 JavaBeans 起動部品のエラーログの出力例

JavaBeans 起動部品のエラーログの出力例を分類して次に示します。ここで説明する JavaBeans 起動部品のエラーログの出力例では、半角カタカナを全角カタカナで示しています。実際に JavaBeans 起動部品のエラーログが出力される時は、半角カタカナで表示されます。

**** AIX 1 5 2005/06/06 16:01:58.056	TZ=Japan			1
yyyy/mm/dd hh:mm:ss.sss message (LANG=ja)	pid	tid	message-id	2

8. ログ機能

0013 2005/06/06 16:01:58.131	EURPrintService 164F1D0D 60723D7C	3
EC KEEU601-Eメソッドが指定されていません。(OutFileName)		
0014 2005/06/06 16:01:58.133	EURPrintService 164F1D0D 60723D7C	4
EC JP.co.Hitachi.soft.EURPS.EURPSException: KEEU601-E メソッドが指定されてい ません。(OutFileName)		
0015 2005/06/06 16:01:58.135	EURPrintService 164F1D0D 60723D7C	5
EC at JP.co.Hitachi.soft.EURPS.EURPSManager.printReport(EURPSManager.java:965)		
0016 2005/06/06 16:01:58.136	EURPrintService 164F1D0D 60723D7C	
EC at eurptest.main(eurptest.java:25)		
	:	
	:	

出力例の分類を次に示します。

表 8-3 エラーログの出力例の分類

分類の番号	名称	内容
1	ヘッダ	エラーログファイルのヘッダ
2	サブヘッダ	情報のヘッダ
3	メッセージ	エラーメッセージ
4	Exception メッセージ	Exception が発生したことを通知するメッセージと Exception メッセージ
5	スタックトレース	エラーが発生した個所からのスタックトレース

8.8.4 JavaBeans 起動部品のトレースファイルの出力例

JavaBeans 起動部品のトレースファイルの出力例を分類して次に示します。ここで説明
する JavaBeans 起動部品のトレースファイルの出力例では、半角カタカナを全角カタ
カナで示しています。実際に JavaBeans 起動部品のトレースファイルが出力される時は、
半角カタカナで表示されます。

**** AIX 1 5	TZ=Japan	1
2005/06/06 16:01:58.067		
yyyy/mm/dd hh:mm:ss.sss	pid tid message-id	2
message (LANG=ja)		
0008 2005/06/06 16:01:58.081	EURPrintService 164F1D0D 60723D7C	3
EURPSManager.printReport		FB
0009 2005/06/06 16:01:58.124	EURPrintService 164F1D0D 60723D7C	EC
KEEU601-Eメソッドが指定されていません。(OutFileName)		
0010 2005/06/06 16:01:58.128	EURPrintService 164F1D0D 60723D7C	4
EC JP.co.Hitachi.soft.EURPS.EURPSException: KEEU601-E メソッドが指定されていま せぬ。(OutFileName)		
0011 2005/06/06 16:01:58.129	EURPrintService 164F1D0D 60723D7C	5
EC at JP.co.Hitachi.soft.EURPS.EURPSManager.printReport(EURPSManager.java:965)		
0012 2005/06/06 16:01:58.131	EURPrintService 164F1D0D 60723D7C	EC
at eurptest.main(eurptest.java:25)		

出力例の分類を次に示します。

表 8-4 トレースファイルの出力例の分類

分類の番号	名称	内容
1	ヘッダ	トレースファイルのヘッダ
2	サブヘッダ	情報のヘッダ
3	メッセージ	トレース情報
4	Exception メッセージ	Exception が発生したことを通知するメッセージと Exception メッセージ
5	スタックトレース	エラーが発生した個所からのスタックトレース

8.8.5 EPS-XLSX ログの出力例

EPS-XLSX ログの出力例を次に示します。

(1) メッセージレベルが INFO の場合

- (a) 文字アイテム（固定文字列、マッピングデータ（文字列型、日付型）、またはユーザ定義データ（文字列型、日付型））が出力されない場合

Excel の 1 シート目でセル A1 に出力されるはずだった文字アイテム（固定文字列、マッピングデータ（文字列型、日付型）、またはユーザ定義データ（文字列型、日付型））が、ほかのアイテムと同一セルに配置された結果、出力されなかった場合の出力例を次に示します。

出力例

```
09/02/06 15:13:29 [      3356] War KEEU320-W type=String, sheet=1, rc=A1
```

- (b) 文字アイテム（マッピングデータ（数値型）、またはユーザ定義データ（数値型））が出力されない場合

Excel の 1 シート目でセル A1 に出力されるはずだった文字アイテム（マッピングデータ（数値型）、またはユーザ定義データ（数値型））が、ほかのアイテムと同一セルに配置された結果、出力されなかった場合の出力例を次に示します。

出力例

```
09/02/06 15:13:29 [      3356] War KEEU320-W type=Numeric, sheet=1, rc=A1
```

- (c) 線アイテムが出力されない場合

Excel の 1 シート目でセル A1 の左罫線に出力されるはずだった線アイテム（色：黒、線種：実線、線幅：細線）が、ほかのアイテムと同一セルに配置された結果、出力されなかった場合の出力例を次に示します。

出力例

8. ログ機能

```
09/02/06 15:13:30 [      3420] War KEEU320-W type=Line, sheet=1,  
rc=A1, btrl=left, Color="auto", pattern="thin"
```

(d) 網掛けアイテム, 角丸四角アイテムが出力されない場合

Excel の 1 シート目でセル A1 に出力されるはずだった網掛けアイテム (色: 白, 網掛けパターン: 薄い網掛け) が, ほかのアイテムと同一セルに配置された結果, 出力されなかった場合の出力例を次に示します。

出力例

```
09/02/06 15:13:29 [      128] War KEEU320-W type=Rectangle,  
sheet=1, rc=A1, bgColor="auto", pattern="gray0625"
```

(2) メッセージレベルが ERROR の場合

出力例

```
09/02/06 15:13:30 [      3220] Err  
_AbortDoc:reason(0x20001000):module(0xfc000001):pos(0x433):errn  
o(87):message(パラメータが間違っています。)
```

9

障害対策

この章では、障害が発生した場合の対処方法について説明します。

9.1 保守情報の採取

9.1 保守情報の採取

障害が発生した場合は、次に示す保守情報をできるだけ採取して、保守員に連絡してください。

9.1.1 連絡時に必要な保守情報

連絡時に必要な保守情報を次に示します。

OS、製品のバージョン情報（修正情報およびパッチ情報を含む）

システム構成（ハードウェア構成、ソフトウェア構成）

障害情報（画面のハードコピー、印刷結果、出力ファイルなど）

障害の発生時刻

障害の再現性の有無

障害発生時のオペレーション（コマンド実行時のオプション、ActiveX オブジェクト実行時のプロパティ情報、JavaBeans 実行時のメソッドの引数情報）

動作環境

- EUR サーバ帳票出力機能の動作環境を設定している環境設定ファイル
環境設定ファイルについては、「7.26 環境設定ファイル」を参照してください。
- プリント定義ファイル
プリント定義ファイルについては、「7.6 プリント定義ファイル」を参照してください。

ログファイル、トレースファイル

- EUR サーバ帳票出力機能が出力したログファイルとトレースファイル
ログファイルについては、「8.6 eurps ログ」を参照してください。
Excel 形式ファイルを出力した場合のログファイルについては、「8.7 EPS-XLSX ログ」を参照してください。
トレースファイルについては、「7.25 トレースファイル」を参照してください。
- JavaBeans 起動部品のログファイルとトレースファイル
JavaBeans 起動部品のログファイルおよびトレースファイルについては、「8.4 JavaBeans 起動部品のログ」を参照してください。

イベントログファイル

- Windows 環境の場合、イベントログ
イベントログについては、「8.5 イベントログ」を参照してください。
- UNIX / Linux 環境の場合、syslog

プリンタ情報

出力先プリンタの次の情報を採取します。

- メーカー名

- プリンタの名称と型番
- ドライバの名称とバージョン情報

入出力ファイル

次のファイルのうち、帳票出力時に指定した入力ファイルおよび出力ファイルを採取します。

- 入力ファイル
「7. 帳票出力で使用するファイル」に記載されているファイルを参照してください。
- 出力ファイル
出力ページ情報ファイル、PDF 形式ファイル、EUR 形式ファイル、CSV 形式ファイル、Excel 形式ファイル

ダンプファイル

異常終了した場合は、次に示す情報も採取してください。

- Windows 環境の場合、ワトソン博士のログ、クラッシュダンプ
- UNIX / Linux 環境の場合、core ファイル

9.1.2 障害が再現する場合に追加採取する保守情報

障害が再現する場合は、次に示す情報も採取してください。

PDL ファイル（スプールファイル）

印刷結果が不正な場合に採取します。

採取する方法は、起動方法によって異なりますので、次の個所を参照してください。

- コマンドで起動する場合：「3.2.3(26) /pf オプション」
- ActiveX オブジェクトで起動する場合：「4.5 ActiveX オブジェクトのプロパティ仕様」の「OutFileName プロパティ」
- JavaBeans で起動する場合：「5.6 EURPSManager クラスのメソッド仕様」の「setOutFileName メソッド」

詳細ログ

API のトレース情報（採取する方法については、「7.25 トレースファイル」を参照してください）

9.1.3 データベースと接続している場合に採取する保守情報

データベースに接続して帳票を出力している場合は、次に示す情報も採取してください。

接続先データベースの種別とバージョン

DABroker の動作環境の設定内容

DABroker のトレース情報

10 帳票出力の互換性

この章では、EUR サーバ帳票出力機能での互換性について説明します。

10.1 Windows 版 EUR 旧製品からの互換性

10.2 UNIX 版 EUR との互換性

10.3 バージョン 7 以前で作成した帳票との互換性

10.4 EUR サーバ帳票出力機能で出力できる帳票の設計

10.1 Windows 版 EUR 旧製品からの互換性

Windows 版 EUR の旧製品で使用した帳票，および UAP の互換性を説明します。

10.1.1 帳票の互換性

EUR サーバ帳票出力機能は，次の製品で，フォームシートファイル形式で保存した帳票はそのまま使用できます。それ以外の帳票ファイルを使用する場合は，次に示すバージョンの EUR 帳票作成機能でフォームシートファイル形式に保存し直すことで使用できます。

- P-26D2-5684 uCosminexus EUR Designer 08-00 以降
- P-26D2-5784 uCosminexus EUR Developer 08-00 以降
- P-26D2-3274 EUR Professional Edition 07-50 以降
- P-26D2-3254 EUR Professional Edition 05-00 以降
- P-26D2-3244 EUR Professional Edition 04-01 以降
- P-26D2-3134 EUR 03-00 以降
- P-26D2-3234 EUR Professional Edition 03-00 以降
- P-2651-8534 SEWB+/EUR Professional Edition 03-00 以降

使用できる機能は，EUR 帳票作成機能の各バージョンで使用できる範囲とします。

10.1.2 UAP の互換性

JP1/Network Printing System/EUR Print Server for Windows NT(R) から EUR サーバ帳票出力機能へ移行する場合，コマンド実行時のコマンドファイル名が変更になっています。ただし，EUR サーバ帳票出力機能は，オプション記述ファイルでの実行時オプションの指定ができません。実行時オプションは，eurps コマンド，環境変数，または環境設定ファイルで指定します。

また，EUR サーバ帳票出力機能は，DLL 起動部品も提供しておりません。そのため，JP1/Network Printing System/EUR Print Service for Windows NT(R) を起動する場合に，DLL 起動部品を使用しているときは，eurps コマンド，ActiveX オブジェクト，および JavaBeans 起動部品による起動に変更が必要です。

10.2 UNIX 版 EUR との互換性

UNIX 版 EUR の旧製品で使用した帳票，および UAP の互換性を説明します。

10.2.1 帳票の互換性

UNIX 版 EUR 旧製品で設計した帳票は，Windows 版 EUR のバージョン 3，またはバージョン 4 以降でフォームシートファイル形式に保存し直すことで使用できます。ただし，Windows 版 EUR のバージョン 3，またはバージョン 4 以降でフォームシートファイル形式に保存し直すことで，出力結果が少し異なる場合があります。そのため，試し印刷をしてレイアウトを確認されることをお勧めします。元の出力結果が必要な場合は，UNIX 版 EUR を利用してください。

10.2.2 UAP の互換性

EXCEED3/W-EUR を使用した UAP の互換性はありません。

UNIX 版 EUR を使用した UAP については，コマンド起動を使用することで互換性があります。ただし，コマンド構文が異なりますので，EUR サーバ帳票出力機能のコマンド構文に合わせた UAP の修正が必要です。

10.3 バージョン 7 以前で作成した帳票との互換性

バージョン 7 以前の EUR 帳票作成機能で設計した帳票は、静的モードで出力してください。動的モードを指定して出力した場合、フォントの印字や表示の位置が異なる場合があります。

なお、静的モードまたは動的モードの指定を省略した場合は、静的モードで出力します。

静的モードと動的モードの詳細については「2.5.1 文字幅の計算方法」を参照してください。

10.4 EUR サーバ帳票出力機能で出力できる帳票の設計

(1) バーコード

バーコードを貼り付けた帳票を EUR サーバ帳票出力機能で出力する場合、次に示す機能差があります。

EUR Professional Edition のバージョン 4 以降で新規に作成したり、EUR のバージョン 3 で定義した帳票をバージョン 4 以降で編集し直したりした帳票を EUR サーバ帳票出力機能で出力すると、バーコードのサイズが数パーセント小さくなる場合があります。

EUR のバージョン 3 で定義した帳票を、そのまま EUR サーバ帳票出力機能で出力すると、バーコードのサイズが約 1 パーセント大きくなる場合があります。

EUR のバージョン 3 では、バーコードの色を指定できましたが、EUR サーバ帳票出力機能では、黒固定で出力します。

(2) 画像データ

16 色 RLE 圧縮と 256 色 RLE 圧縮の Windows BITMAP 画像データが使用された帳票を EUR サーバ帳票出力機能で出力するとき、プリンタ印刷では出力できますが、次に示す場合には出力できません。

Windows 環境での PDF 形式ファイル出力

UNIX / Linux 環境でのプリンタ印刷、PDL ファイル出力、および PDF 形式ファイル出力

(3) データ関係

EUR サーバ帳票出力機能で扱えるデータファイルは、CSV 形式および DAT 形式、FIX 形式です。

EUR サーバ帳票出力機能では、ディクショナリファイルを使用することはできません。フィールド定義は、ディクショナリファイルを使用しないで、「標準」の定義方法で定義してください。ディクショナリファイルを使用している場合は、[データのプロパティ] ダイアログの [データ情報] ページでフィールド定義情報の定義方法を「標準」にしてから、フォームシートファイルに保存してください。

EUR 帳票作成機能では、サンプルデータを使って帳票を設計できますが、EUR サーバ帳票出力機能では、使用したサンプルデータを読み込むことはできません。

EUR サーバ帳票出力機能では、クリップボードから読み込んだデータを使用することはできません。

EUR サーバ帳票出力機能では、稼働環境によって使用できる入力ファイルでの文字コードと外字の扱いが異なります。入力ファイルの文字コード、および外字の扱いについては、「2. EUR で使用できる文字」を参照してください。

(4) 帳票出力

JP1/Network Printing System/EUR Print Service for Windows NT(R) で、JP1 と連携した仕分け印刷と大量印刷を提供していましたが、バージョン 4 以降は、EUR サーバ帳票出力機能で実行環境を提供します。ただし、次に示す機能差があります。

連携する JP1 のバージョンは 6.0 以降、Windows Server 2003 の場合はバージョン 7.0 以降です。

仕分け定義情報ファイルのバージョン情報がなくなりましたが、バージョン 3 で定義した仕分け定義情報ファイルは読み込めます。バージョン 4 以降で定義した仕分け定義情報ファイルは、JP1/Network Printing System/EUR Print Service for Windows NT(R) では読み込めませんので、注意してください。

JP1/Network Printing System/EUR Print Service for Windows NT(R) から EUR サーバ帳票出力機能へ移行する場合、コマンド実行時のコマンドファイル名が変更になっています。ただし、EUR サーバ帳票出力機能は、オプション記述ファイルでの実行時オプションの指定ができません。実行時オプションは、eurps コマンド、環境変数、または環境設定ファイルで指定します。

また、EUR サーバ帳票出力機能は、DLL 起動部品も提供しておりません。そのため、JP1/Network Printing System/EUR Print Service for Windows NT(R) を起動する場合に、DLL 起動部品を使用しているときは、eurps コマンド、ActiveX オブジェクト、および JavaBeans 起動部品による起動に変更が必要です。

11

EUR サーバ帳票出力機能での使用上の注意

この章では、EUR サーバ帳票出力機能での使用上の注意を説明します。

11.1 帳票出力するときの注意

11.2 出力形式別の注意

11.3 フォントについての注意

11.4 バーコードについての注意

11.5 プリンタについての注意

11.6 出力環境についての注意

11.7 ログ・トレースの注意

11.8 インストール、アンインストール時の注意

11.9 ヘルプについての注意

11.1 帳票出力するときの注意

11.1.1 使用できない機能

(1) 特定の OS で使用できない EUR サーバ帳票出力の機能

特定の OS に EUR をインストールした場合、一部の機能が使用できなくなります。

(a) JP1 と連携した仕分け印刷

次の OS で使用する場合、JP1 と連携した仕分け印刷はできません。

- Windows Server 2003 R2
- Windows Server 2003 x64
- Windows Server 2003 R2 x64
- Windows Server 2008
- Windows Server 2008 R2

(b) ActiveX 起動部品を使用した帳票出力

次の OS で使用する場合、ActiveX 起動部品を使用した帳票出力はできません。

- Windows Server 2003 x64
- Windows Server 2003 R2 x64
- Windows Server 2008
- Windows Server 2008 R2

11.1.2 Windows Server 2003 x64 および Windows Server 2003 R2 x64 で出力する場合の注意

Windows Server 2003 x64 および Windows Server 2003 R2 x64 で、次に示す場合は、OS の仕様により印刷に失敗することがあります。

32 ビット印刷プログラム（EUR サーバ帳票出力機能を含む）で、印刷を複数回実行した場合（実行する印刷プログラムが同じプログラムかどうかは関係ありません）

先に実行したユーザと異なる実行ユーザ ID で印刷した場合

この場合、印刷プログラムの実行ユーザ ID を一つにすることで印刷できます。

次のことに注意してください。

EUR サーバ帳票出力機能では実行ユーザを変更しません。そのため、EUR サーバ帳票出力機能の実行ユーザ ID は、起動元のプログラムから引き継がれます。

EUR サーバ帳票出力機能の起動元プログラムがサービスプログラムのとき、デフォルト

トの実行ユーザ ID はローカルシステムアカウントになります。サービスの設定で実行ユーザ ID を変更してください。

なお、実行ユーザ ID を変更する方法については、各サービスプログラムのマニュアルを参照してください。

11.1.3 ネットワークドライブや共有フォルダにアクセスする場合の注意

Windows の仕様により、EUR のログインユーザをローカルシステムアカウントとしてサービスから起動すると、ネットワークドライブおよび共有フォルダなどの共有リソースにアクセスできません。

11.1.4 コマンドに指定したデータの優先順位

コマンドにフルパスで指定されている場合は、そのパスが優先されます。

コマンドにファイル名だけが指定されている場合は、環境変数、環境設定ファイル、インストールパスの順に読み込まれます。EUR サーバ帳票出力機能は、EUR 帳票作成機能のオプション指定でのパスは引き継がれません。

11.1.5 画像ファイルの扱い

TIFF 形式のモノクロ画像、GIF 形式のモノクロ画像、および EUR 形式はカラープリンタがサポートしていない画像形式のため印刷できない場合があります。ただし、エラーにはなりません。

256 色以上のカラー画像を帳票上に貼り付けた場合、画像の色が実際の色と異なることがあります。プリンタ出力では画像データで設定されている色に従って印刷されます。

プリンタがサポートしていない画像ファイルのある帳票を OLE オートメーション、または提供関数で印刷しても出力されません。

11.1.6 フルパスの指定方法

EUR が読み込むファイルのフルパスは、次の形式が指定できます。

ローカルドライブの指定
(例) C:¥ABC¥EUR.fms

ネットワークパスの指定
(例) ¥¥COMP¥ABC¥EUR.fms

11.1.7 入力データファイルに関する注意

改行コード (0x0a (1 バイト) または 0x0d0x0a (2 バイト)) をレコードの区切りとして扱います。改行コードまでを 1 レコードとして読み込みます。

¥0 以外の制御コード (改行コードを除く 0x01 ~ 0x1f のコード) は、半角スペース (0x20) に置き換えて出力し、正常データとして扱います。

帳票定義属性 (文字列、数値、日付など) と入力データ属性が一致しない場合は、データ欠損として扱います。該当する部分のデータだけ出力されません。終了時はリターンコード 4 で警告終了します。

11.1.8 出力先ファイル名の注意

印刷ファイルに出力する場合、出力先ファイル名 (スプールファイル名) は、存在しないファイル名を指定するか、または書き込み権限のあるファイル名を指定してください。書き込み権限のないファイル名を指定した場合は、ファイルの上書きができないので、プリンタドライバがファイル名を入力するダイアログを表示し、ユーザの応答待ちになります。

11.1.9 出力ページ数の上限値

(1) Windows 環境の場合

Windows 環境で出力できるページ数の上限を次に示します。

表 11-1 出力ページ数の上限値

出力先	出力ページ数の上限値
Windows 対応プリンタ	999,999 ページ
JP1/Network Printing System での仕分けプリンタ	65,534 ページ
CSV 形式ファイル	999,999 ページ
PDF 形式ファイル	999,999 ページ
EUR 形式ファイル (*.eup)	32,767 ページ
EUR 形式ファイル (*.euv)	65,534 ページ
Excel 形式ファイル	100 ページ

注

出力するときに使用する、EUR クライアント帳票出力機能の上限ページです。

プリンタ出力、CSV 形式ファイル、および PDF 形式ファイル出力の場合、出力ページ数の上限値までしか出力しません。出力ページ数の上限値を超えた場合は、エラー (KEEU123-E) になります。

Excel 形式ファイル出力の場合、出力ページ数の上限値を超えると、上限値まで出力し、エラー（KEEU321-W）になります。

出力ページ数の上限値は、帳票を印刷する場合の制限です。EUR 形式ファイルは、ファイルサイズが 2GB 以内であれば、ページ数の制限なく作成できます。ただし、ファイルの出力先、スプールのディスク、およびディスクの空き容量に制限されることがあります。

（２）UNIX / Linux 環境の場合

UNIX / Linux 環境で出力できるページ数の上限を次に示します。

表 11-2 出力ページ数の上限値

出力先	出力ページ数の上限値
LIPSIII, PostScript Level2, および ESC/P 対応プリンタ	999,999 ページ
PDL ファイル	999,999 ページ
CSV 形式ファイル	999,999 ページ
PDF 形式ファイル	999,999 ページ
EUR 形式ファイル（*.eup）	32,767 ページ
EUR 形式ファイル（*.euv）	65,534 ページ

注

出力するときに使用する、EUR クライアント帳票出力機能の上限ページです。

プリンタ出力、CSV 形式ファイル、および PDF 形式ファイル出力の場合、出力ページ数の上限値までしか出力しません。出力ページ数の上限値を超えた場合は、エラー（KEEU123-E）になります。

EUR 形式ファイル出力の場合は、出力ページ数の上限値を超えると、エラーメッセージ「EUR 帳票出力中にエラー（XX）が発生しました。」を表示し、印刷処理を中止します。データファイルを分割して、複数の EUR 形式ファイルに出力したあと、印刷してください。エラーメッセージについては、マニュアル「EUR クライアント帳票出力」を参照してください。

出力ページ数の上限値は、帳票を印刷する場合の制限です。EUR 形式ファイルは、ファイルサイズが 2GB 以内であれば、ページ数の制限なく作成できます。ただし、ファイルの出力先、スプールのディスク、およびディスクの空き容量に制限されることがあります。

11.1.10 UNIX / Linux 環境で使用する場合の注意

バージョン 5 以降で作成した帳票ファイルは、バイナリモードで転送してください。

バージョン 4 で作成した帳票ファイルは、ASCII モードのまま転送してください。文字コード変換は必要ありません。

日本語 EUC ロケールでは、日本語 EUC のコードセット 3 には対応していません。

11.1.11 PDF 形式ファイルにフォントを埋め込むときの注意

埋め込みが許可されていないフォントを埋め込むことはできません。埋め込みに使用するフォントは、次の点を確認してから使用してください。

フォントファイルの属性に埋め込みが許可されているか

フォントの埋め込みについてライセンス許諾があるか

フォントを埋め込んだ PDF ファイルを配布する場合、フォントの再配布についてライセンス許諾があるか

11.1.12 Visual Studio 2003 から ActiveX オブジェクトを使用する場合の注意

Visual Studio 2003 から ActiveX オブジェクトを使用する場合、Visual Studio .NET 2003 の問題により、例外発生時に取得する Err.Number の値が不正になることがあります。

11.1.13 非 Unicode アプリケーションを使用する場合の注意

非 Unicode アプリケーションの言語で使用できないエンコーディングは、画像フォルダおよび一時ファイルフォルダに使用できません。

11.1.14 ファイル名に NEC 選定 IBM 拡張文字を指定する場合

UNIX 版 EUR サーバ帳票出力機能を Shift JIS ロケールで実行すると、コマンドライン、帳票セット指定ファイル、複数様式定義ファイル、および PDF 仕分け定義ファイルのファイル名に NEC 選定 IBM 拡張文字を指定できません。

入力ファイルに NEC 選定 IBM 拡張文字を指定した場合は、エラーとなります。

出力ファイルに NEC 選定 IBM 拡張文字を指定した場合は、NEC 選定 IBM 拡張文字が IBM 拡張文字に置き換えられて出力されます。

なお、Windows 版 EUR サーバ帳票出力機能では、NEC 選定 IBM 拡張文字を出力できません。

11.1.15 大量ページの出力時の注意

(1) 大量ページ出力時に実行時間が掛かる場合

大量ページを一度に出力すると、実行時間が掛かる場合があります。注意してください。
次の条件をすべて満たすときは実行に時間が掛かることがあります。

- 次のうち、どれかを指定したとき
 - コマンド実行時に /g オプション（余白にページ番号を出力）を指定
 - [レポートのプロパティ] ダイアログに「貼付域外の印刷」を「する」に指定
 - 集計アイテムまたは表紙・次紙形式の帳票の帳票ヘッダ領域にヘッダ集計を指定
- キーブレイクで「改ページ」、または「改ブロック」を指定したとき
- 改ページ、改ブロックを指定したフィールドで、多数のキーブレイクが発生したとき

(2) 出力ページ数が 999,999 ページを超える場合

出力ページ数の上限値は、バージョンごとに次のように異なります。バージョン 7 以降、またはバージョン 05-08 以降では、出力ページの総計が 999,999 ページを超えるとエラーになり、出力結果が削除されます。

出力ページ数が 999,999 ページを超える場合は、複数帳票での一括出力では各帳票の出力ページを、複数様式での出力では各様式のデータファイルを分割して実行してください。

表 11-3 バージョンごとの出力ページ数の上限値

バージョン	出力形式	出力ページ数上限	上限値を超えた場合の動作	終了コード	出力結果
7 以降	単様式での出力	総計 999,999 ページ	メッセージを出力する	8	削除する
	複数帳票の一括出力				
	複数様式での出力				
05-08 以降	単様式での出力	総計 999,999 ページ	メッセージを出力する	8	削除する
	複数帳票の一括出力				
	複数様式での出力				
05-06 以前	単様式での出力	1 帳票 99,999 ページ	メッセージを出力しない	0	削除しない
	複数帳票の一括出力				
	複数様式での出力	1 様式 99,999 ページ	メッセージを出力しない	0	削除しない

(3) Web サーバ環境から帳票を出力する場合

Web サーバ環境から帳票を出力する場合、一度に大量ページを出力する帳票であったり、サーバ負荷が大きい環境で出力したりすると、Web サーバのタイムアウト処理によって

EUR サーバ帳票出力機能の処理が打ち切られることがあります。

また、想定される負荷によっては Web サーバのタイムアウト値を大きくする必要があります。

(4) ブラウザから帳票出力の指示をする場合

IIS と ASP Script で、ブラウザから帳票出力の指示をする場合は、全ページの出力を完了するまで、同期して処理中で待たされてしまうので、大量ページを一度に出力するのには向いていません。一度に出力するページ数は 10 ページ程度としてください。大量ページを一度に出力する場合は、eurps コマンドからの帳票出力をバッチ起動するようなアプリケーションをスクリプト上で動作させて、全ページの出力が完了するまでブラウザ上で同期して待たないようにしてください。

11.1.16 一時フォルダに関する注意

EUR サーバ帳票出力機能が使用する一時フォルダの注意事項を次に示します。

- EUR サーバ帳票出力機能の実行中に一時フォルダを操作しないでください。操作した場合、予期しないエラーが発生するおそれがあります。
- EUR サーバ帳票出力機能がデフォルトで使用する一時フォルダは、システムの一時フォルダです。なお、次の場合は環境変数 EURPS_TMPPATH で一時フォルダにそれ以外のフォルダを設定できます。
 - 画像ファイルまたはバーコードを含む PDF 形式ファイルを出力する場合
 - データベースと連携してファイル出力する場合
 - EUR Print Manager と連携してファイル出力する場合
 - UNIX / Linux 環境での PDF 出力で、環境変数 EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM に「YES」を指定した場合

11.1.17 PDF 形式ファイルを暗号化出力するときの注意

PDF 形式ファイルの暗号化出力は、日本語ロケールでだけ正しく動作します。PDF 形式ファイルを暗号化出力するときは、ロケールを日本語環境に設定してください。

11.1.18 点線を出力するときの注意

点線を出力するとき、指定した線幅が細いと印刷結果が実線に見えることがあります。

11.2 出力形式別の注意

11.2.1 プリンタ出力するときの注意

プリンタ出力するときの注意については、「11.5.4 プリンタに出力するときの注意」を参照してください。

11.2.2 EUR 形式ファイルを出力するときの注意

EUR 形式ファイルを出力するときの注意事項を、次に示します。

ログファイル（eurps.log ファイル）に出力されるページ数

メッセージレベルが Information のとき、ログファイルに出力されるページ数は、常に 0 です。

画像データのある帳票を、EUR 形式ファイルに出力するとき

- データファイルに指定する画像ファイルは、ファイル名で指定してください。画像ファイルのパスは、環境変数 EURPS_IMAGEPATH、または環境設定ファイル（EURPS_ENV）の変数 EURPS_IMAGEPATH に指定してください。
- EUR 形式ファイルは、帳票に不正な画像データがあっても、処理は実行されます。このとき、eurps コマンドは、エラー（KEEU700-E）となり、エラーコード 4 を返して終了します。EUR 形式ファイルには、正常な画像データだけが出力されます。

画像データを使用した EUR 形式ファイルを出力するときは、プレビュー、または印刷をして、画像データが正しく出力されているかを確認してください。

終了コード 4 を返す警告要因

次の表に示す警告要因が検出された場合、印刷、PDF 形式ファイル出力、および Excel 形式ファイル出力時では終了コードが 4 となりますが、EUR 形式ファイル出力では項番 6 の警告要因以外は終了コードが 0 となります。

表 11-4 終了コード 4 を返す警告要因

項番	警告要因	出力メッセージ	詳細メッセージ
1	文字アイテムのアイテム枠が小さく、指定したデータがアイテム枠内に収まる分だけ出力されたとき。	KEEU300-W	KEEU301-W
2	数値アイテムのアイテム枠が小さく、指定したデータがアイテム枠内に収まらなくて、データが「***」で出力されたとき。		KEEU301-W
3	バーコードアイテムのアイテム枠が小さく、バーコードが出力されないとき。		KEEU301-W

11. EUR サーバ帳票出力機能での使用上の注意

項番	警告要因	出力メッセージ	詳細メッセージ
4	アイテムが出力できる範囲を超えているので、まったく出力されないか、または出力できる範囲に収まる分だけ出力されたとき。		KEEU301-W
5	フィールドのデータ型に合わないデータを入力したため、データが欠損値（空白）で出力されたとき。		KEEU302-W
6	画像ファイルがない、EUR サーバ帳票出力機能ではサポートしていない画像ファイルである、または画像ファイルが壊れているとき。		KEEU305-W
7	指定した帳票ファイルが、上位バージョンの機能を使用して作成されているため、実行時の EUR サーバ帳票出力機能のバージョンで出力できる範囲で帳票を出力されたとき。		KEEU304-W
8	バーコードデータに使用できない文字、または誤った桁数を指定したために、バーコードが出力されなかったとき。		KEEU301-W
9	集計行のアイテムが表示できない位置に配置されたとき。		KEEU303-W
10	日付変換用システムファイルが正しくないとき。		KEEU308-W
11	指定した置き換え表ファイルに、置き換えデータを 1 件も登録していなかったとき。		出力しない
12	指定した置き換え表ファイルにキーデータがなかったとき。または不正なデータがあったとき。		出力しない
13	アイテムが不当に重なっていたため、Excel 形式ファイルへ出力できない項目があったとき。	KEEU320-W	出力しない
14	変換するページ数が 100 ページを超えていたとき。	KEEU321-W	出力しない
15	接続先データベースが HiRDB ではないのに、接続情報ファイルのキーワード QueryExclusiveString が指定されたとき。	KEEU350-W	出力しない

警告が発生しても終了コード 4 を返さないようにするには、環境変数、または環境設定ファイル（Windows 環境の場合は EURPS_ENV、UNIX / Linux 環境の場合は eurps_env）中の変数 EURPS_REPORT_WARNING に「NO」を設定してください。

EUR 形式ファイル出力以外の場合は、EURPS_REPORT_WARNING に「NO」を設定すると、警告要因があっても、終了コード 0 を返して終了します。メッセージ KEEU300-W、詳細メッセージ（KEEU301-W ~ KEEU308-W）、KEEU320-W ~ KEEU321-W、および KEEU350-W も出力されません。ただし、EUR 形式ファイル出力の場合は、EURPS_REPORT_WARNING の設定に関係なく、項番 6 の警告要因があるときは終了コード 4 を返し、それ以外では 0 を返します。

実行ロケールと入力ファイルのエンコード

次の場合、EUR 形式ファイルには入力データが途中までしか格納されません。

- Shift JIS ロケールで、Shift JIS のファイルを入力ファイルに指定した場合
Shift JIS 範囲外の文字コードは EOF と判定されるので、それ以降のデータは読

み込まれません。

- EUC ロケールで、EUC のファイルを入力ファイルに指定した場合
EUC 範囲外の文字コードは EOF と判定されるので、それ以降のデータは読み込まれません。

そのため、出力された EUR 形式ファイルを EUR クライアント帳票出力機能で開いても、正しく表示できません。

11.2.3 PDF 形式ファイルに出力するときの注意

EUR 帳票作成機能で設計した帳票を、PDF 形式ファイルに出力するときの注意事項を次に示します。

(1) フォントの置き換え

EUR 帳票作成機能で設計した帳票を、フォントを置き換えて PDF 形式ファイルに出力するとき、デフォルトでは次のようにフォントを置き換えて出力します。

表 11-5 フォントの置き換え

帳票に使用されているフォント	出力時のフォント
M S 明朝	Ryumin-Light
MS Mincho	
HG 行書体	
HG 教科書体	
HG 明朝 B	
HG 明朝 E	
M S ゴシック	GothicBBB-Medium
MS Gothic	
HG ゴシック E	
HG ゴシック M	
HG 創英角ポップ体	
HG 創英プレゼンス EB	
HG 創英角ゴシック UB	
新宋体	STSong-Light
NSimSun	
新宋体-18030	
NSimSun-18030	
ほう宋_GB2312	
FangSong_GB2312	

11. EUR サーバ帳票出力機能での使用上の注意

帳票に使用されているフォント	出力時のフォント
ほう宋	
FangSong	
楷体_GB2312	
KaiTi_GB2312	
楷体	
KaiTi	
細明体	MingStd-Light
MingLiU	
標楷体	
DFKai-SB	
Courier New	Courier
Lucida Console	
Lucida Sans Typewriter	
OCR-B	

注 表にないフォントを使用している場合、ロケールによって次のフォントに置き換えて出力します。

- 英語ロケールで実行した場合
「Courier」に置き換えて出力します。
- 中国語ロケールで実行した場合
「STSong-Light」に置き換えて出力します。
- 日本語ロケールで実行した場合
「Ryumin-Light」に置き換えて出力します。

なお、「フォント縦横比を補正する」が設定されていて、文字列アイテムのフォントが MS ゴシックでない場合、環境変数 EURPS_USE_05_06_FONT_REPLACE に YES を指定すると、フォントを Ryumin-Light に置き換えて出力します。

なお、EUR 帳票作成機能で OCR フォントを使用しても、EUR サーバ帳票出力機能では OCR フォントは、OCR 読み取り装置で読み取ることはできません。

(2) 画像のある帳票を出力するときの注意

EUR 帳票作成機能で設計した帳票に画像データが貼り付けてある場合、PDF 形式ファイルに出力すると、画像の表示補正の指定値と画像データの形式の組み合わせによって、画像データ形式は次のようになります。

表 11-6 表示補正指定と画像データ形式の関係

表示補正指定 ¹	帳票上の画像データの形式	PDF 形式ファイル出力時の画像データの状態
アイテムに合わせて拡大 / 縮小	Windows BITMAP	Windows BITMAP
	JPEG ²	JPEG
	GIF (GIF GIF87a , GIF GIF89a) TIFF (TIFF 6.0)	Windows BITMAP
画像サイズで表示	JPEG ² (アイテム枠 画像のサイズ)	JPEG
	JPEG ² (アイテム枠 < 画像のサイズ)	Windows BITMAP
	Windows BITMAP GIF (GIF GIF87a , GIF GIF89a) TIFF (TIFF 6.0)	Windows BITMAP

注 1

表示補正の指定は、EUR 帳票作成機能で指定します。

注 2

プリンタ定義ファイルのキーワード Color に true が指定されていると、この表のように出力します。false が指定されていると、Windows BITMAP 形式で出力します。

画像データをスキャナで読み込むときに、傾きやずれなどがあると、実際の画像データのサイズとスキャナで読み込んだ画像データのサイズに誤差が生じることがあります。

また、帳票上で画像データのアイテム枠が、読み込む画像データのサイズより小さいと、画像データの形式を変換して出力します。したがって、帳票を設計するとき、画像データのアイテム枠は、読み込む画像データの最大サイズより大きくなるように設定してください。

(3) 出力ページ機能が設定されている帳票を出力するときの注意

EUR 帳票作成機能で設計した帳票に出力ページ機能が設定されている場合でも、しおり付き PDF 形式ファイルを出力することはできます。ただし、出力ページと連動させたり、最終ページのしおりをしおりパレットに出力させたりすることはできません。

(4) 図形（網掛け）が設定されている帳票を出力するときの注意

EUR 帳票作成機能で設計した帳票に、図形（網掛け）が設定されていると、PDF 形式ファイルに出力したとき、網掛けの表示が乱れたり、印刷に時間が掛かったりすることがあります。図形（網掛け）が設定されている帳票を PDF 形式ファイルに出力する場合は、EUR 帳票作成機能で、網パターンを「塗りつぶし」に変更してから出力することをお勧めします。

(5) PDF 形式ファイルを暗号化出力するときの注意

PDF 形式ファイルの暗号化出力は、日本語ロケールでだけ正しく動作します。PDF 形式ファイルを暗号化出力するときは、ロケールを日本語環境に設定してください。

(6) PDF 形式ファイルに出力するバーコード

PDF 形式ファイルを Acrobat Reader など印刷した場合、バーコードの読み取りについては、動作を保証しません。

PDF 形式ファイルを印刷するときは次のことに注意してください。

- ・印刷する場合は、拡大/縮小を指定しないでください。
- ・出力するプリンタの解像度で PDF ファイルを作成して印刷し、読み取り確認をしてください。

11.2.4 複数の帳票セットを指定して出力するときの注意

複数の帳票セットを指定して出力するときの注意事項を、次に示します。

(1) コマンド構文に指定できる文字列の長さ

複数の帳票セットを指定して出力するとき、eurps コマンドの構文に指定できる文字列の長さは、約 30KB までです。

ActiveX オブジェクトと JavaBeans 起動部品を使用した帳票出力は、「eurps.exe (EUR サーバ帳票出力機能実行ファイル)」をプロセス起動します。そのため、プロパティやメソッドに指定されたファイル名などの情報が、eurps コマンドの構文に置き換えられたとき、文字列の長さが約 30KB を超えると、正しく起動されません。

また、UAP から直接 CreateProcess 関数などを使用してコマンド実行する場合も、eurps コマンドの構文が約 30KB を超えると、EUR サーバ帳票出力機能が正しく起動されません。

eurps コマンドの構文が約 30KB を超えるような複数の帳票セットを指定する場合は、複数回に分けて実行するか、または複数の帳票セットを記述した帳票セット指定ファイルで指定してください。

コマンド構文の長さは、次に示す計算式で求められます。複数の帳票セットを指定する場合は、求められた値が約 30KB 以内になるように、eurps コマンドに指定するファイル名長や、出力する帳票ファイルの数を決定してください。計算式の単位は、バイトです。

コマンド構文の長さを求める計算式

- ・プリンタ出力と EUR 形式ファイル出力の場合

$$(\text{帳票ファイル名長} + 3 + \text{マッピングデータファイル名長}^1 + 3 + \text{ユーザ定義データファイル名長}^1 + 3) + (\text{そのほかのオプション名長}^2 + 1)$$

- PDF 形式ファイル出力の場合

(帳票ファイル名長 + 3 + マッピングデータファイル名長¹ + 3 + ユーザ定義データファイル名長¹ + 3 + しおり定義ファイル名長 + 3) + (そのほかのオプション名長² + 1)

注 1

データベース連携時には、「マッピングデータファイル名長」は「マッピングデータの可変記号値定義ファイル名長」に、「ユーザ定義データファイル名長」は「ユーザ定義データの可変記号値定義ファイル名長」に置き換えて計算してください。

注 2

「その他のオプション名」とは、帳票ファイル名、マッピングデータファイル名、ユーザ定義データファイル名、およびしおり定義ファイル名以外のオプション名と指定した文字列の長さです。

(2) 帳票の出力順

複数の帳票セットを指定した場合、指定した帳票ファイルの順に帳票を出力します。

(3) 用紙の向きとサイズ

複数の帳票セットを指定した場合、それぞれ用紙の向きやサイズが異なっても、定義されている帳票の情報に合わせて出力します。

(4) 帳票のページ番号

複数の帳票セットを指定した場合、連続したページ番号を付けることはできません。

例えば、帳票 A と帳票 B を出力する場合、帳票 A のページ番号が n で終わっても、帳票 B のページ番号は n + 1 からページ番号を付けることはできません。帳票 B のページ番号も、1 から始まります。

(5) EUR 形式ファイルを出力するときの注意

複数の帳票セットを指定したとき、EUR 形式ファイルに指定できる拡張子は「.eup」です。

その他の拡張子を指定したときはエラー (KEEU700-E) となります。ただし、複数様式 (/mfd オプション) の場合は、「.euv」および「.eup」が指定できます。

11.2.5 複数様式を使用する場合の注意

複数様式を使用する場合、1 度に多数の帳票ファイル、マッピングデータファイル、ユーザ定義データファイルを指定すると、エラー (KEEU005-E または KEEU006-E) が発生します。この場合、一度に使用する帳票ファイル、マッピングデータファイル、およびユーザ定義データファイルの数を減らすか、複数回に分けて実行してください。

11.2.6 JavaBeans 起動部品で帳票を出力するときの注意

JavaBeans 起動部品を使用して帳票出力する場合は、JavaBeans 起動部品から fork&exec 関数によって、eurps コマンドをプロセス起動します。このとき、fork 関数の発行によって、親プロセス（Web アプリケーション）のメモリ空間のコピーが一時的に作成されます。親プロセス（Web アプリケーション）のメモリ所要量が多い場合や、EUR サーバ帳票出力機能による印刷の同時実行数が多い場合は、fork に失敗し EUR サーバ帳票出力機能が実行できないことがあります。

Web アプリケーションを構築するときは、次に示す事項に注意してください。

- OS のページングスペース が十分に足りているかどうか
- EUR サーバ帳票出力機能の同時印刷の要求を、実行キューなどで制御されているかどうか

注

OS のページングスペースは、次に示す式で求めます。

OS のページングスペース = $M \times N$

M：業務アプリケーションのメモリ所要量

N：多重度

(1) JavaBeans 起動部品で uCosminexus Application Server のメソッドキャンセル機能を実行する場合

printReport メソッドの呼び出しでは、EUR サーバ帳票出力機能のプロセスを起動し、印刷処理を実行したあと、このプロセスの終了を待ち、プロセス終了後に printReport メソッドからリターンします。EUR サーバ帳票出力機能のプロセスが終了する前にメソッドキャンセルが実行されると、EUR サーバ帳票出力機能のプロセスの終了を待たずに ThreadDeath が返されます。このため、printReport メソッド実行中にメソッドキャンセルを実行する場合は、EUR サーバ帳票出力機能のプロセスも停止するようにしてください。

11.2.7 データファイル名の指定を省略した帳票を出力するときの注意

EUR サーバ帳票出力機能で帳票を出力する場合、使用するデータファイルが固定のときは、データファイル名の指定を省略できます。この場合、EUR 帳票作成機能で帳票設計したときに使用したデータファイル名（帳票ファイル中に保存されています）が使用されます。

保存されているデータファイル名は、帳票を設計したときの名称で保存されています。データファイルの指定を省略して帳票を出力する場合は、使用するデータファイルをそのまま UNIX / Linux 環境に転送してください。

11.2.8 ユーザ定義サイズの帳票を出力するときの注意

EUR 帳票作成機能で設計した帳票が、「ユーザ定義」の用紙サイズに設定されている場合、出力するプリンタの用紙サイズも、同じ「ユーザ定義」のサイズで登録しておく必要があります。「ユーザ定義」の用紙サイズに設定した単位に合わせて設定することをお勧めします。

Windows Server 2003 の場合は、次に示す操作で設定してください。

1. [プリンタ] ウィンドウの表示
[スタート] メニューの [設定] から [プリンタ] を選択します。
2. [プリントサーバーのプロパティ] ダイアログの表示
[プリンタ] ウィンドウの [ファイル] メニューから [サーバーのプロパティ] を選択します。
3. 登録する用紙サイズの設定
[新しい用紙を作成する] のチェックボックスをオンにして、登録する用紙サイズを設定します。このとき、「ユーザ定義」の用紙サイズに設定した単位に合わせて設定することをお勧めします。

11.2.9 固定画像のある帳票を出力するときの注意

バージョン 5 より前の EUR 帳票作成機能で設計した帳票に固定画像（画像ファイルから貼り付けた画像）が貼り付けてある場合、「フォームシートファイル（*.fms）」で保存した帳票には、画像ファイル名だけが保存されます。ただし、バージョン 04-01 以前の EUR 帳票作成機能の場合、画像ファイル名に半角英大文字が使用されているときは、すべて半角英小文字に変換した画像ファイル名が保存されます。

UNIX / Linux 環境では、画像ファイル名の太文字小文字を区別します。バージョン 5 より前の EUR 帳票作成機能で設計した、固定画像が貼り付けられている帳票を出力するときは、次に示す注意が必要です。

バージョン 04-02 以降の EUR 帳票作成機能で帳票を設計した場合

バージョン 04-02 以降の EUR 帳票作成機能で設計した帳票に固定画像が貼り付けられている場合は、そのままの画像ファイル名で保存されます。

UNIX / Linux 環境で固定画像が貼り付けられた帳票を出力する場合は、使用する画像ファイルをそのまま転送してください。

バージョン 04-01 以前の EUR 帳票作成機能で設計した帳票を出力する場合

バージョン 04-01 以前の EUR 帳票作成機能で設計した帳票に固定画像が貼り付けられている場合、画像ファイル名に半角英大文字が使用されているときは、すべて半角英小文字に変換した画像ファイル名が保存されます。

UNIX / Linux 環境で固定画像が貼り付けられた帳票を出力する場合は、画像ファイル名をすべて半角英小文字に直してから画像ファイルを転送してください。

バージョン 04-01 以前の EUR 帳票作成機能で帳票を設計する場合

バージョン 04-01 以前の EUR 帳票作成機能で帳票に固定画像を貼り付ける場合、画像ファイル名に半角英大文字が使用されているときは、すべて半角英小文字に直してから、帳票を設計してください。

UNIX / Linux 環境でこの帳票を出力する場合は、半角英小文字に直した画像ファイルを転送してください。

11.2.10 Excel 形式ファイルを出力するときの注意

Excel 形式ファイルを出力するときの注意事項を、次に示します。

帳票設計時の注意事項については、マニュアル「EUR 帳票設計」を参照してください。

(1) 帳票の見た目の変換

EUR 帳票作成機能で設計した帳票を Excel 形式ファイルへ出力すると、EUR 帳票作成機能で表示した場合と、見た目が異なる場合があります。

帳票の見た目の変換についての注意事項を次に示します。

- アイテムは Excel のセル (サイズ固定) に合わせて出力されるため、EUR 帳票作成機能で表示した場合と見た目が異なることがあります。
- 線アイテムは、水平線または垂直線だけが Excel 形式ファイルに出力できます。斜線は出力できません。
- 線アイテムの線種および線幅はすべて Excel でサポートされる線種のセル罫線として出力されるため、EUR 帳票作成機能で定義した線種および線幅と異なる場合があります。
- 帳票設計時に、線アイテム同士が近くに配置されている場合や線アイテムと文字アイテムと重なっている場合、Excel 形式ファイルに出力したとき、アイテムが同じ位置に配置され、線アイテムが一部消えることがあります。
- 角丸四角アイテムを Excel 形式ファイルに出力する場合、角丸め情報が出力されないで網掛けアイテムとなります。
- 図形アイテムは、網掛けアイテム、角丸四角アイテムだけが Excel 形式ファイルに出力できます。円 / 楕円アイテム、多角形アイテムは出力できません。
- 帳票設計時に、複数の網掛けアイテム、角丸四角アイテムが重なって配置されている場合、または網掛けアイテムおよび角丸四角アイテムと、文字アイテムが重なって配置されている場合、Excel 形式ファイルに出力すると、EUR 帳票作成機能で表示したときと見た目が異なることがあります。
- 帳票設計時の用紙サイズが A3, A4, A5, レター, リーガル以外の場合、「A4」として出力されます。
- 用紙の余白サイズは上下左右とも「10mm」として出力されます。
- 用紙サイズや用紙の余白サイズについて、Excel 画面上での単位の表記は Windows の設定によって異なる場合があります。
単位の表記は次の手順で設定します。

1. スタートメニューの [設定] - [コントロールパネル] - [地域と言語のオプショ

ン]を選択します。

[地域と言語のオプション] ダイアログが表示されます。

2. [地域オプション] タブの [カスタマイズ] ボタンをクリックします。

[地域のオプションのカスタマイズ] ダイアログが表示されます。

3. [単位] リストボックスで単位の表記を選択します。

- 出力される文字アイテムのフォントは、ロケールごとに固定となります（日本語：MS 明朝，中国語：NSimSun，その他：Courier New）。
- 画像アイテムおよびバーコードアイテムは出力されません。
- 設計した帳票が複数ページある場合、ページごとに Excel のシートとして出力されます。
- 網掛けアイテム，および角丸四角アイテムの網掛けパターンは，Excel 形式ファイルに出力した場合，すべて Excel のセルの塗りつぶしパターン「6.25% 灰色」として出力されます。
- 帳票設計時，文字アイテムの枠の大きさまたは改行コードにより，文字アイテムが複数行にわたる場合があります。この場合，Excel 形式ファイルに出力すると，文字アイテムは 1 行で出力されます。文字列がアイテム枠からはみ出した場合，はみ出した文字列は表示されません。また，数値がアイテム枠からはみ出した場合は，枠内に「#」が表示されます。
- Excel 形式ファイルに出力する場合，セル幅は 16 ピクセルになります。
Excel を利用するクライアント環境で，フォントの設定が初期状態から変更されている場合，出力する Excel 形式ファイルのセルの横幅が 16 ピクセルとならないで，帳票の見た目が異なることがあります。
- 帳票設計時に小数点以下桁数を指定しないで Excel 形式ファイルに小数値を出力した場合，小数点以下が表示されないで整数値として表示されます。数式バーでは小数点以下の数値も表示されます。
小数を Excel 形式ファイルに出力したい場合，[小数点以下桁数] テキストボックスで小数点以下の桁数を指定してください。桁数を指定しないと，Excel 出力時に小数点以下の桁数はデフォルトの「0」が設定されます。
- 次の条件がすべて重なった場合，EUR 帳票作成機能で定義した文字アイテムが，隣接する左側，または上側の文字アイテムの位置に表示されることがあります。
 - 隣接する文字アイテムの枠線が重なっている。
 - 文字の配置を左寄せ，または上寄せに設定している。
 - 隣接する左側，または上側の文字アイテムが欠損値である。
- 次の条件がすべて重なった場合，罫線が結合したセルの文字アイテムに隠れてしまっ
て表示されないことがあります。
 - [まとめ表示] ダイアログの [罫線もまとめる] チェックボックスをオフにしている。
 - 文字の配置を中央揃え，または均等配置に設定している。
- 縦方向の繰り返し間隔を LPI で指定している場合，アイテムを配置する位置は，LPI をミリメートルに換算した値を基に計算されて出力されます。LPI とミリメートル間

の換算では誤差が生じるため、EUR 帳票作成機能で表示した場合と見た目が異なることがあります。

(2) Excel 形式ファイルに出力できる帳票

Excel 形式ファイルに出力できる帳票は単様式の帳票だけです。複数様式の帳票、および帳票セット指定ファイルで、複数の帳票を一括出力した帳票は出力できません。

(3) Excel 形式ファイルで使用できない機能

Excel 形式ファイル出力で使用できない機能を次に示します。

表 11-7 Excel 形式ファイル出力で使用できない機能

機能		
様式	複数様式 ¹	
帳票セットを指定した出力	帳票セット ¹	
帳票セット指定ファイルを使用した出力	複数帳票の一括出力 ¹	
入力データ	フィールド種別	画像
		バーコード
		特殊編集レベル ²
印刷	帳票の出力	
	帳票の出力タイプ指定 ¹	
	出力先プリンタ名指定 ¹	
	印刷の向き指定 ¹	
	印刷部数指定	
	部数が複数の場合の印刷単位指定	
	給紙トレイコード指定 ¹	
様式ごとの給紙トレイコード指定 ¹		
貼り付け域外のページ番号印刷		
他プログラムプロダクトとの連携	JP1 連携による仕分け印刷	仕分け定義ファイル ¹
		仕分け実行 ¹
出力ページ数取得	出力した帳票のページ数	出力ページ情報ファイル ¹

注 1
エラー (KEEU002-E) を出力します。

注 2

エラー (KEEU083-E) を出力します。

11.3 フォントについての注意

(1) EUR フォントファイルについて

EUR フォントファイルは、ローカルディスクに保存してください。

EUR フォントファイルが読み込めない、またはメモリが不足すると、エラーになります。制限値を使用する EUR フォントファイルのサイズに合わせて拡張してから、再度実行してください。

プリンタ出力中または PDF 形式ファイル出力中にエラーが発生した場合、次に示すエラーが表示されます。

- プリンタ出力の場合
KEEU102-E 印刷処理中にエラーが発生しました。
- PDF 形式ファイル出力の場合
KEEU101-E PDF 変換中にエラーが発生しました。

(2) 縦横比が 2：1 以外のフォントを使用して静的モードで PDF 出力する場合

静的モードで PDF 形式ファイルを出力する場合、欧文フォントや OCRB フォントなどの縦横比が 2：1 以外のフォントを指定するときは、文字配置の設定に桁数を指定しないでください。

EUR 帳票作成機能で帳票を作成するとき、[アイテムのプロパティ] ダイアログの [文字配置] タブで [桁数を指定] チェックボックスをオンにした場合、文字の出力位置がずれて、PDF 形式ファイルに正しく出力できません。

[アイテムのプロパティ] ダイアログの [文字配置] タブについては、マニュアル「EUR 帳票設計」を参照してください。

(3) 文字配置で縦書きを使用する場合

帳票に縦書きのないフォントで縦書きを指定して出力した場合、文字の出力位置がずれる場合があります。

(4) メイリオフォントを使用する場合

帳票にメイリオフォントで縦書きを指定して出力した場合、文字の出力位置がずれます。メイリオフォントを使用する場合、縦書き配置を指定しないでください。

11.4 バーコードについての注意

11.4.1 バーコードの印刷の注意

バーコードの周りには、次の余白部分が必要です。

- JAN：マージン
- カスタマバーコード：空白
- 上記以外のバーコード：クワイエットゾーン

バーコードの余白部分にほかのアイテムが配置されていた場合、バーコードの余白部分を優先して印刷します。バーコードの余白部分にほかのアイテムを配置しないようにしてください。

11.4.2 バーコードのデータキャラクタの置き換え

バーコードのデータキャラクタは、出力するプリンタやファイル形式によって、次のように置き換えられます。

(1) データキャラクタのフォントの扱い

EUR 帳票作成機能で設定したバーコードのデータキャラクタのフォント情報は、帳票ファイルに保存されていますが、出力形式や出力条件などによってフォントの出力結果が異なります。

(a) Windows 環境でプリンタに出力

EUR 帳票作成機能で帳票に設定したフォントで出力されます。

- JAN 標準, JAN 短縮, ITF, CODE39, NW-7, QR コード, およびカスタマバーコード
EUR 帳票作成機能の [レポートのプロパティ] ダイアログで設定したデータキャラクタのフォントで出力します。
- CODE128
EUR 帳票作成機能の [アイテムのプロパティ] ダイアログで設定したデータキャラクタのフォントで出力します。

(b) UNIX / Linux 環境でプリンタに出力

EUR 帳票作成機能で帳票に設定したフォントに関係なく、次に示すフォントで出力されます。

- 日本語ロケールの場合
MS ゴシック
- 中国語および英語ロケールの場合
MS Gothic

11. EUR サーバ帳票出力機能での使用上の注意

ただし、ESC/P 対応プリンタに出力する場合、バーコードを回転（90°、270°）しているときは、データキャラクタは出力できません。

また、PostScript 対応プリンタに出力する場合、プリンタ定義ファイルにフォント名の置き換えを設定すると、上記以外のフォントも出力できます。詳細については「7.6.2(14) Font」を参照してください。

(c) PDF 形式ファイルに出力

PDF 形式ファイル出力する場合、EUR 帳票作成機能で帳票に設定したフォントや出力条件などによって、PDF 形式ファイルに出力されるフォントが異なります。

次に、EUR 帳票作成機能で設定したフォントが MS ゴシックおよび MS P 明朝の場合、PDF 形式ファイルに出力されるフォントを示します。

表 11-8 PDF 形式ファイルに出力されるフォントの出力例

帳票に設定したフォント	出力条件	静的モードの場合	動的モードの場合
MS ゴシック	フォント埋め込み指定なし	「GothicBBB-Medium」に置き換えて出力	「MS ゴシック」の書体名称を出力
	フォント埋め込み指定あり（「MS ゴシック」を指定）	「MS ゴシック」を埋め込んで出力	「MS ゴシック」を埋め込んで出力
	フォント埋め込み指定あり（「MS ゴシック」以外を指定）	「GothicBBB-Medium」に置き換えて出力	「MS ゴシック」を埋め込んで出力
MS P 明朝	フォント埋め込み指定なし	「GothicBBB-Medium」に置き換えて出力	「MS P 明朝」の書体名称を出力
	フォント埋め込み指定あり（「MS ゴシック」を指定）	「MS ゴシック」を埋め込んで出力	「MS P 明朝」を埋め込んで出力
	フォント埋め込み指定あり（「MS P 明朝」を指定）	「GothicBBB-Medium」に置き換えて出力	「MS P 明朝」を埋め込んで出力

注

動的モードの場合に出力されるフォントは、EUR 帳票作成機能で帳票に設定したフォントによって異なります。詳細については「2.5.4 動的モードで出力できるフォント」を参照してください。

(2) CODE128 のデータキャラクタの扱い

バーコード CODE128 のデータキャラクタに「\」を指定するときは、次のような注意があります。

使用するフォント

コードセットに「\」を指定するときは、欧文フォントで指定してください。日本語フォントの場合は、「\」の代わりに「¥」で出力します。

出力形式

Windows 対応プリンタに出力する場合、および動的モードで PDF 形式ファイル出力する場合は、コードセットに指定した「\」をそのまま出力できます。

UNIX / Linux 環境で PDL ファイルに出力する場合、および静的モードで PDF 形式ファイルを出力する場合は、「\」を「¥」に置き換えて出力します。

11.4.3 16 進文字列の QR コードを使用するときの注意

16 進文字列の QR コードを EUR Developer または EUR Print Service Enterprise で使用する場合は、文字コードに関係なく、Shift JIS を指定してください。

11.5 プリンタについての注意

11.5.1 出力するプリンタ指定

Windows サービスからの実行でシステムアカウントを使用する場合は、eurps コマンドの /p オプション、ActiveX オブジェクトの PrinterName プロパティ、または JavaBeans 起動部品の setPrinterName メソッドに必ずプリンタ名を指定してください。

11.5.2 光学式読み取り装置で帳票を読み取る時の注意

EUR サーバ帳票出力機能で出力した帳票、EUR Developer または EUR Print Service Enterprise の EUR サーバ帳票出力機能で出力した PDF 形式ファイルまたは EUR 形式ファイルを、光学式文字読み取り装置、バーコードの読み取り装置などの光学式読み取り装置で読み取るときは、次に示す注意が必要です。

- ・ 帳票を出力する場合は、300dpi 以上のレーザープリンタを使用されることをお勧めします。
- ・ 印刷ダイアログなどで、用紙サイズに合わせた縮小、または拡大の指定はしないでください。
- ・ ご使用になる光学式読み取り装置で、出力した帳票が読み取れるかどうかを確認されることをお勧めします。EUR 帳票作成機能で設計した帳票に OCR フォントが使用されている場合も、十分な確認を行ってください。
- ・ PDF 形式ファイルを出力する場合は、プリンタ定義ファイルのキーワード YDPI に、出力するプリンタの解像度を指定してください。

11.5.3 プリンタ解像度ごとのバーコード最小サイズ

プリンタの解像度によって出力できるバーコードの最小サイズを次に示します。

なお、最小サイズで出力したバーコードは、ご使用になるバーコードの読み込み装置によって、読み込めないこともあります。あらかじめ、出力したバーコードが読み取れるかどうかを確認することをお勧めします。

バーコード	出力するプリンタの解像度	
	300dpi	600dpi
JAN 標準 / JAN 短縮	0.8 倍	0.8 倍
CODE39	0.15mm	0.15mm
CODE128	0.20mm	0.15mm
NW-7	0.20mm	0.15mm
ITF	0.25 倍	0.25 倍

カスタマバーコードと QR コードは、出力するプリンタに依存しません。

11.5.4 プリンタに出力するときの注意

EUR 帳票作成機能で設計した帳票を UNIX / Linux 環境のプリンタに出力するときの注意事項を次に示します。

(1) フォントの置き換え

- PostScript Level2 対応プリンタの場合

EUR 帳票作成機能で設計した帳票を PostScript Level2 対応プリンタに出力するときには、プリンタ定義ファイルのキーワード Font に、フォントの置き換え情報を設定することで、設計した帳票と同じように出力できます。ただし、プリンタ定義ファイルに、キーワード Font を設定しなかったり、省略したりした場合は、次のようにフォントを置き換えて出力します。

表 11-9 PostScript Level2 対応プリンタでのフォントの置き換え

帳票に使用されているフォント	置き換えられるフォント
M S 明朝	リュウミン L-KL
MS Mincho	
HG 行書体	
HG 教科書体	
HG 明朝 B	
HG 明朝 E	
M S ゴシック	中ゴシック BBB
MS Gothic	
HG ゴシック E	
HG ゴシック M	
HG 創英角ポップ体	
HG 創英プレゼンス EB	
HG 創英角ゴシック UB	

注 表にないフォントを使用している場合、「リュウミン L-KL」に置き換えて出力します。

- LIPSIII 対応プリンタ、および ESC/P 対応プリンタの場合

EUR 帳票作成機能で設計した帳票を LIPSIII 対応プリンタ、および ESC/P 対応プリンタに出力するときは、次のようにフォントを置き換えて出力します。

- LIPSIII 対応プリンタに出力するとき

11. EUR サーバ帳票出力機能での使用上の注意

表 11-10 LIPSIII 対応プリンタでのフォントの置き換え

帳票に使用されているフォント	置き換えられるフォント
M S 明朝	Mincho-Medium
MS Mincho	
HG 行書体	
HG 教科書体	
HG 明朝 B	
HG 明朝 E	
M S ゴシック	Gothic-Medium
MS Gothic	
HG ゴシック E	
HG ゴシック M	
HG 創英角ポップ体	
HG 創英プレゼンス EB	
HG 創英角ゴシック UB	

注 表にないフォントを使用している場合、「Mincho-Medium」に置き換えて出力します。

- ESC/P 対応プリンタに出力するとき

表 11-11 ESC/P 対応プリンタの帳票フォントに対応する出力フォント

帳票に使用されているフォント	出力時のフォント
M S 明朝	明朝
MS Mincho	
HG 行書体	
HG 教科書体	
HG 明朝 B	
HG 明朝 E	
M S ゴシック	ゴシック
MS Gothic	
HG ゴシック E	
HG ゴシック M	
HG 創英角ポップ体	
HG 創英プレゼンス EB	
HG 創英角ゴシック UB	

注 表にないフォントを使用している場合、「明朝」に置き換えて出力します。

(2) LIPSIII 対応プリンタに出力するときの注意

UNIX / Linux 対応の LIPSIII 対応プリンタに出力するとき、次に示す制限事項があります。

LIPSIV 対応プリンタで出力しても、次に示すように LIPSIII 対応プリンタの機能範囲で印刷されます。

- LIPSIV のカラープリンタに印刷しても、モノクロで印刷されます。
- UNIX 対応のプリンタに指定できる給紙カセットは、2 段カセットまでです。そのため、出力先が 3 段以上のカセットを持つプリンタであっても、カセット番号は 1 と 2 だけが有効です。
また、カセット番号に 3 以上の値を指定した場合は、常に自動給紙となります。
- 出力する LIPSIV 対応プリンタが両面印刷できても、LIPSIII 対応プリンタの機能範囲では両面印刷できません。

カラー指定の帳票を印刷する場合、モノクロ 2 値に変換して印刷されます。文字は、黒色で印刷されます。

外字は、常に標準で印刷されます。外字にボールド体やイタリック体が指定されていても、標準で印刷されます。

JIS X 0208 1983 コードだけに対応しているため、IBM 拡張文字 (0xFA40 ~ 0xFCFC)、NEC 選定 IBM 拡張文字 (0xED40 ~ 0xEEFC) などのベンダ定義文字は印刷されません。

ゴシックフォントを搭載していないプリンタでは、文字をゴシックに指定しても正しく印刷されません。

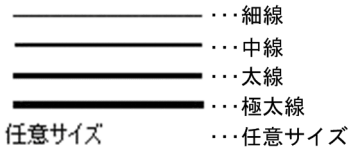
帳票に画像データが貼り付けてある場合、画像を Windows BITMAP 形式にして出力します。

画像データをスキャナで読み込むときに、傾きやずれなどがあると、実際の画像データのサイズとスキャナで読み込んだ画像データのサイズに誤差が生じることがあります。

また、帳票上で画像データのアイテム枠が、読み込む画像データのサイズより小さいと、画像データの形式を変換して出力します。したがって、帳票を設計するとき、画像データのアイテム枠は、読み込む画像データの最大サイズより大きくなるように設定してください。

点線は、実線で印刷されます。

実線以外の線種で、線幅に細線以外を指定している場合は、指定した線幅の実線で出力されます。帳票定義時に指定できる線幅を次に示します。



(3) PostScript Level2 対応プリンタに出力するときの注意

UNIX / Linux 対応の PostScript Level2 対応プリンタに出力するとき、次に示す制限事項があります。

PostScript Level2 プリンタに出力する場合は、Adobe PostScript Level2、Level2 互換機能、および次に示す書体を搭載しているプリンタをご使用ください。

- ・ リュウミン L-KL (Ryumin-Light-90ms-RKSJ-H, Ryumin-Light-90ms-RKSJ-V)
- ・ 中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium-90ms-RKSJ-H ,
GothicBBB-Medium-90ms-RKSJ-V)

外字への文字のスタイル指定は、イタリック (斜字) だけ有効です。ボールド (太字) を指定して印刷しても、標準スタイルで印刷されます。

文字幅計算方法に動的を指定して出力した場合、エラーになります。

カセット番号を指定して帳票を印刷する場合、編集時の帳票の用紙サイズと異なるカセット番号を指定すると、プリンタによっては指定したカセット番号が有効にならないことがあります。

帳票に画像データが貼り付けてある場合、画像の表示補正指定と画像データの形式には、次のような関係があります。なお、画像データの形式が JPEG の場合、プリンタ定義ファイルのキーワード Color に true が指定されていると、次の表のように出力します。false が指定されていると、Windows BITMAP 形式で出力します。

表 11-12 表示補正指定と画像データ形式の関係

表示補正指定	帳票上の画像データの形式	PDF 形式ファイル出力時の 画像データの状態
アイテムに合わせて拡大 / 縮小	Windows BITMAP	Windows BITMAP
	JPEG , TIFF (TIFF 6.0)	JPEG , TIFF (TIFF 6.0)
	GIF (GIF GIF87a , GIF GIF89a)	Windows BITMAP
画像サイズで表示	JPEG , TIFF (TIFF 6.0)(アイテム枠 画像のサイズ)	JPEG
	JPEG , TIFF (TIFF 6.0)(アイテム枠 < 画像のサイズ)	Windows BITMAP
	Windows BITMAP GIF (GIF GIF87a , GIF GIF89a) TIFF (TIFF 6.0)	Windows BITMAP

注

表示補正の指定は、EUR 帳票作成機能で指定します。

画像データをスキャナで読み込むときに傾きやずれなどがあると、実際の画像データのサイズとスキャナで読み込んだ画像データのサイズに誤差が生じることがあります。また、帳票上で画像データのアイテム枠が、読み込む画像データのサイズより小さいと、画像データの形式を変換して出力します。したがって、帳票を設計するとき、画像データのアイテム枠は、読み込む画像データの最大サイズより大きくなるように設定してください。

線種に点線が指定された帳票定義ファイルを使用して帳票を出力した場合、線幅が細いと印刷結果が実線に見えることがあります。

(4) ESC/P 対応プリンタに出力するときの注意

UNIX / Linux 対応の ESC/P 対応プリンタに出力するとき、次に示す制限事項があります。

カラー指定の帳票を印刷する場合、モノクロで印刷されます。

文字は、常に標準で印刷されます。太字、斜体、太字斜体が指定されていても、標準で印刷されます。

デフォルトフォント以外のフォント、および文字サイズの文字を出力するときは、環境変数で指定します。環境変数については、「7.26.1 環境変数一覧」を参照してください。デフォルトフォントだけを使用する場合は、次のように出力します。

- 9.6 ポイントより小さい文字：ゴシック体で出力
- 9.6 ポイントより大きい文字：明朝体で出力

縦書き文字は、印刷できません。

斜め線、網掛け、円、楕円、多角形および影は、印刷できません。

ページの最終行が 5mm 以上で 24 ドットにわたる場合、1 ページ多く改ページされることがあります。

外字は、常に標準で印刷されます。外字にボールド体やイタリック体が指定されていても、標準で印刷されます。

指定されたフォームシート中の文字属性のポイントが大きい場合、環境変数に適切なフォントファイルが指定されていないと、文字の描画状態が悪くなります。

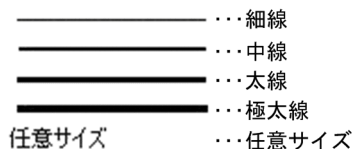
指定されたフォントファイルのサイズが大きい場合、印字に時間が掛かります。

HP-UX、AIX および Linux では、デフォルトフォントが異なるため、印字テストをしてから運用してください。

環境変数で指定するフォントファイルは、半角と全角で一つのフォントとしているため、半角または全角のどちらか片方のフォントファイルを指定した場合、文字は印刷されません。

点線は実線で出力されます。

実線以外の線種で、線幅に細線以外を指定している場合は、指定した線幅の実線で出力されます。帳票定義時に指定できる線幅を次に示します。



(5) PDL ファイルに出力するときの注意

UNIX / Linux 環境で帳票を PDL ファイル出力するとき、プリンタ定義ファイルのキーワード Command に指定した情報が、正常終了したのか、またはエラー終了したのかは、コマンドの終了コードでチェックしてください。eurps コマンドの終了コードが 0 の場合は正常終了を示し、終了コードが 0 以外の場合はエラー終了を示します。

なお、eurps コマンドの実行結果を INFO レベルでログに出力しています。出力時にエラーが発生した場合は、ログの内容を参照し、キーワード Command に指定した情報が正しいかどうかを見直してください。

(6) 印刷先プリンタを BSD システムと接続したときのジョブ制限

PDL ファイル出力の印刷先プリンタを BSD システムとの接続用に登録した場合 (lpadmin コマンドに -ob3 オプションを付加して登録した場合)、プリンタ定義ファイルのキーワード Command に「/usr/bin/lp」を指定して LP 印刷を実行すると、同一プリンタあてに登録できるジョブ数は 1,000 個までという制限があります。

1,000 個を超えるジョブを登録しようとすると、登録できるジョブに空きができるまで、コマンドは終了しません。ジョブの分割数を減らすなどして、システム設計に注意してください。

11.6 出力環境についての注意

11.6.1 PATH 環境変数の設定

UNIX 環境では、EUR は /opt/eurps/bin ディレクトリ下にインストールされます。実行ファイルは、フルパス指定で実行することも、パスの指定なしで実行することもできます。パスの指定なしで実行する場合は、環境変数 PATH に /opt/eurps/bin を追加してください。

11.6.2 ASP.NET 環境でコーディングするときの注意

Visual Basic では、整数型 (Integer) の扱いが次のようになります。

- 32 ビットの整数型変数として格納

ASP.NET では、ActiveX オブジェクトが提供するプロパティで指定するデータ型が Integer の場合、例えば、OutputType プロパティで「OutputType=1」と指定しても正しい指定になりません。データ型 Integer で指定するプロパティは、短整数型 (Short) の変数に値を代入してから、プロパティに指定し直してください。

(例)

```
Dim nType As Short
nType = 1
EUR.OutputType = nType
```

11.6.3 サービス環境で実行するときの注意

Windows 版 EUR サーバ帳票出力機能をサービス環境で実行する場合の注意事項を次に示します。

(1) SYSTEM アカウントで実行するときの注意

SYSTEM アカウントでは通常使うプリンタを参照できません。そのため、次の方法で、プリンタを指定してください。

ActiveX 起動部品での実行

ActiveX 起動部品でプリンタ印刷する場合、PrinterName プロパティでプリンタ名を指定してください。

JavaBeans 起動部品での実行

JavaBeans 起動部品でプリンタ印刷する場合、setPrinterName メソッドでプリンタ名を指定してください。

なお、SYSTEM アカウントでは JP1 連携による仕分け印刷はできません。

(2) 非対話型のアカウントで実行するときの注意

非対話型のアカウントで JP1 などを使用して実行しようとする、アプリケーションエラーが発生して実行できない場合があります。これは、使用できるデスクトップヒープのサイズが小さいことが原因です。次のどちらかの対処をしてから再度実行してください。

- 対話型のアカウントに変更する。
- デスクトップヒープのサイズをチューニングする。

なお、デスクトップヒープのサイズをチューニングする方法については、Microsoft 社のホームページを確認してください。

11.6.4 アカウントに対するアクセス権の設定

実行するアカウントに対して帳票ファイルとデータファイルに対する読み取りアクセス権や、プリンタとログファイルに対する書き込みアクセス権が、与えられるようにしてください。

IIS の場合、匿名ログオンを使用した場合は、IIS の匿名ユーザ (I.USER) に、認証ロゲインをした場合は、ユーザがログインしたアカウントになります。それぞれアカウントに対する適切なアクセス権を設定してください。

11.6.5 EUR サーバ帳票出力機能を複数同時に実行する環境についての注意

(1) CPU リソースについての注意

EUR サーバ帳票出力機能を複数同時に実行する業務アプリケーションでは、EUR サーバ帳票出力機能が OS のリソースを消費し、ほかの業務アプリケーションの動作に支障をきたすことがあります。業務アプリケーションを構築する場合は、次のことを注意してください。

同時印刷の要求が、実行キューなどで制御されているか

実行するサーバを、アプリケーションサーバとは別の EUR 用実行サーバにする必要はないか

(2) プリンタ出力についての注意 (Windows 製品の場合)

印刷処理を多重実行すると、プリンタドライバによってはエラーが発生したり、処理に時間が掛かったりすることがあります。EUR サーバ帳票出力機能を多重実行していない場合でも、ほかのアプリケーションを EUR サーバ帳票出力機能と同時に実行すると発生することがあります。

11.7 ログ・トレースの注意

11.7.1 ログ出力の注意

バージョン 4 からバージョン 5 以降に移行した場合、バージョン 4 のログファイルを削除して実行します。バージョン 4 のログファイルが必要な場合は実行前にバックアップを採取してください。

11.7.2 ログ機能に関する注意

ログファイルは、次に示す状況のどれかが当てはまる場合、EUR サーバ帳票出力機能の正常終了、またはエラー終了に関係なく、ログを出力しません。

- ログファイル、またはログ出力制御ファイルの出力先ディレクトリに対して、EUR サーバ帳票出力機能の実行ユーザに書き込み権限がない場合。
- ログファイル、またはログ出力制御ファイルは存在するが、EUR サーバ帳票出力機能の実行ユーザに書き込み権限がない場合。
- ログファイル、またはログ出力制御ファイルの出力先ハードディスクに、空き容量がない場合。

次のように対処したあと、再度 EUR サーバ帳票出力機能を実行してください。

- EUR サーバ帳票出力機能の実行ユーザに対して、出力先ディレクトリに書き込み権限を与えてください。
出力先ディレクトリは、環境変数 EURPS_LOGFILEPATH、または環境設定ファイル eurps_env 中の変数 EURPS_LOGFILEPATH に設定されているディレクトリです。環境変数 EURPS_LOGFILEPATH が設定されていない場合は、「/var/opt/eurps」が出力先ディレクトリです。環境変数 EURPS_LOGFILEPATH については、「7.26.6 EURPS_LOGFILEPATH」を参照してください。
- EUR サーバ帳票出力機能の実行ユーザに対して、ログファイルとログ出力制御ファイルに、書き込み権限を与えてください。ログファイル名は「eurps.log、および eurps.old」、ログ出力制御ファイルは「eurps.lock」です。
- 不要なファイルを削除するなどして、出力先ハードディスクの空き容量を増やしてください。

11.7.3 トレース採取に関する注意

トレースファイルは、EUR サーバ帳票出力機能を実行するごとに作成されます。既存ファイルへ上書きされませんので、必要に応じて削除してください。

トレースファイルについては、「7.25 トレースファイル」を参照してください。

11.8 インストール，アンインストール時の注意

11.8.1 インストール時の注意

Windows 環境の場合は，管理者グループまたは Administrators グループに属するユーザでインストールしてください。

バージョン 07-50 以降をインストールするときの注意

バージョン 07-50 以降では，インストールされるヘルプファイルのフォルダ構成が変更されています。業務アプリケーションでヘルプファイルを使用している場合は，プログラムのパスなどを 07-50 以降のフォルダ構成に合わせて作成してください。EUR のフォルダ構成については，「付録 A.2 インストール後に作成されるフォルダ」を参照してください。

上書きインストールするときの注意

EUR Developer，EUR Print Service，および EUR Print Service Enterprise は上書きインストールを実行できますが，次に示す事項に注意してください。

- 上書きインストールを実行した場合，環境設定ファイル（EURPS_ENV）は，インストールする前の情報がそのまま残ります。Windows 版の環境設定ファイルの設定を変更するには，メモ帳などのテキストエディタを開いて編集してください。UNIX 版の環境設定ファイルの変更については，「付録 A.2(2) UNIX / Linux 環境の場合」を参照してください。
- Windows 環境の場合は，前回インストールしたロケールと同じロケールで上書きインストールしてください。異なるロケールで上書きインストールした場合，正常にインストールできないことがあります。
- UNIX / Linux 環境ではバージョン 8 製品の上書きインストールはできません。バージョン 7 以前の製品がマシンにインストールされている場合は，バージョン 7 以前の製品をアンインストールしてからバージョン 8 製品をインストールしてください。
- EUR Print Service および EUR Print Service Enterprise は同じマシンにインストールできません。
- Windows 環境でバージョン 7 以前の製品がマシンにインストールされている場合は，インストールしようとするバージョン 8 製品に関連する製品がアンインストールされます。インストール時にアンインストールされるバージョン 7 以前の製品を次の表に示します。

なお表中では，各製品の名称を次のように省略して表記します。

- PRO：EUR Professional Edition
- VIEW：EUR Viewer
- VIEWE：EUR Viewer - EUR report option

- ・ EPS : EUR Print Service
- ・ PDF : EUR Print Service - Portable Document Format option
- ・ EUR : EUR Print Service - EUR report option
- ・ PDFC : EUR Print Service - Portable Document Format Cipher option

表 11-13 インストールする製品とバージョン 7 以前の製品の関係

インストールする製品	マシンにインストールされているバージョン 7 以前の製品						
	PRO	VIEW	VIEWE	EPS	PDF	EUR	PDFC
EUR Developer							×
EUR Print Service	×	×	×		×	×	×
EUR Print Service Enterprise	×	×	×				×
EUR Print Service - Cipher option	×	×	×	×	×	×	

(凡例)

：アンインストールされます。

×：アンインストールされません。

(1) アップグレードするときの注意

バージョン 08-10 以降にバージョンアップするときは、製品のアップグレードという形でインストールが実行されます。

インストーラが起動するとアップグレード確認メッセージが表示されるので、応答してください。旧バージョンで設定した内容を引き継いでインストールされます。

インストールが完了すると、旧バージョンで EUR が登録したレジストリだけが削除されます。EUR Print Service - Cipher option を除いて、環境設定ファイル (EURPS_ENV), および プロパティファイル (EURPSManager.properties) は更新されません。

また、バージョン 08-10 以降からバージョンダウンする場合は、インストーラ起動時に最新の製品が適用されていることを知らせるメッセージが出力されてインストールできません。バージョンダウンする場合は、バージョン 08-10 以降の製品をいったんアンインストールしてから再度インストールを実行してください。

11.8.2 アンインストール時の注意

Windows 環境の場合

- ・ 管理者グループまたは Administrators グループに属するユーザで、半角英数字のログインユーザ名でアンインストールしてください。

- インストールしたロケールと同じロケールでアンインストールしてください。異なるロケールでアンインストールした場合、正常にアンインストールできないことがあります。

UNIX / Linux 環境の場合

日立 PP インストーラを起動してインストールされている製品をアンインストールする場合、インストールされている製品のファイルだけが削除されます。ディレクトリは削除されません。

また、インストールされている製品に対して新修正パッチが適用されている場合、新修正パッチのディレクトリおよびファイルは削除されます。

11.8.3 リモートインストール (Windows 環境の場合)

EUR Developer, EUR Print Service, および EUR Print Service Enterprise は, JP1/NETM/DM および Groupmax Remote Installation のリモートインストールに対応しています。次のリモートインストールが利用できます。操作・運用方法については, JP1/NETM/DM または Groupmax Remote Installation のマニュアルを参照ください。

(1) 更新インストール

インストール済みの EUR Developer, EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise と同じフォルダにインストールします。EUR Developer, EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise がインストールされていない場合は, 更新インストールはできません。

(2) 新規インストール

(a) デフォルト値を使用した場合

システムがインストールされているドライブに, 製品ごとに次に示すフォルダを作成してインストールします。

- EUR Developer の場合
¥Program Files¥HITACHI¥EUR Developer
- EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise の場合
¥Program Files¥HITACHI¥EUR Print Service

(b) ドライブを指定した場合

指定したドライブに, 製品ごとに次に示すフォルダを作成してインストールします。

- EUR Developer の場合
¥Program Files¥HITACHI¥EUR Developer
- EUR Print Service, または EUR Print Service Enterprise の場合
¥Program Files¥HITACHI¥EUR Print Service

(c) パスを指定した場合

指定したパスにインストールします。すでに EUR Developer , EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise がインストールされている場合でも、指定されたところにインストールされます。

11.8.4 リモートインストール (UNIX 環境の場合)

EUR Print Service , および EUR Print Service Enterprise は、JP1/NETM/DM のリモートインストールに対応しています。次のリモートインストールが利用できます。操作・運用方法については、JP1/NETM/DM のマニュアルを参照ください。

(1) 更新インストール

インストール済みの EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise と同じディレクトリにインストールします。EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise がインストールされていない場合は、/opt/eurps , /var/opt/eurps , および /etc/opt/eurps ディレクトリを作成してインストールします。

(2) 新規インストール

/opt/eurps , /var/opt/eurps , および /etc/opt/eurps ディレクトリを作成してインストールします。EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise がインストールされている場合は、インストール済みの EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise と同じディレクトリにインストールします。

11.8.5 ディスク複製インストール

EUR Developer , Windows 版の EUR Print Service および EUR Print Service Enterprise , ならびに Linux 版の EUR Print Service および EUR Print Service Enterprise は、ServerConductor/DeploymentManager のディスク複製インストールに対応しています。ディスク複製インストールの操作・運用方法については、マニュアル「ServerConductor/DeploymentManager ユーザーズガイド」を参照ください。

なお、AIX 版および HP-UX 版の EUR Print Service , および EUR Print Service Enterprise は、ディスク複製インストールには対応していません。

11.9 ヘルプについての注意

(1) HTML ヘルプの履歴を削除したい場合

HTML ヘルプを使用すると参照した部分が表示済みの色で表示されます。これは Internet Explorer(R) で履歴を管理しているためです。この履歴は、EUR をアンインストール後に再インストールした場合や、更新インストールをしても引き継がれます。履歴をクリアしたい場合は、HTML ヘルプのメニュー [オプション] - [インターネット オプション] で履歴のクリアボタンをクリックしてください。

ただし、履歴クリアを実行すると、使用する OS によっては Internet Explorer のブラウザの全参照履歴がクリアされることがあるので注意してください。

12

EUR サーバ帳票出力機能で使用するダイアログ

この章では、EUR サーバ帳票出力機能で使用するダイアログについて説明します。

12.1 [EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログ

12.1 [EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログ

環境設定ファイル (EURPS_ENV) を編集するダイアログです。

(1) [EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログのメニュー

[EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログに表示されるメニュー，および各メニューに対応するショートカットキーを次の表に示します。

表 12-1 [EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログのメニュー一覧

メニュー	ドロップダウンメニュー	内容	ショートカットキー
ファイル (F)	開く (O)...	[環境設定ファイルを開く] ダイアログが表示されます。 環境設定ファイルを指定すると，環境設定ファイルの内容が [EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログに読み込まれます。	< Ctrl > + < O >
	上書き保存 (S)	[EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログで編集した内容が環境設定ファイルに上書き保存されます。	< Ctrl > + < S >
	名前を付けて保存 (A)...	[環境設定ファイルを保存] ダイアログが表示されます。 環境設定ファイルが別名で保存されます。	-
	終了 (X)	[EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログを閉じます。環境設定ファイルの内容が変更されている場合は，[環境設定ファイルを保存] ダイアログが表示されます。	-
編集 (E)	パスの置換 (R)...	[パスの置換] ダイアログが表示されます。 指定した内容でパスが一括置換されます。	< Ctrl > + < R >
	値のチェック (C)	環境変数に設定された値が正しいかどうかチェックされます。	-
ヘルプ (H)	このウィンドウの説明 (W)	[EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログのヘルプが表示されます。	< F1 >
	環境設定ファイルの説明 (L)	環境設定ファイルのヘルプが表示されます。	-
	環境変数名の説明 (E)	選択中の環境変数に対応したヘルプが表示されます。 環境変数が選択されていない場合は不活性となります。	< Ctrl > + < F1 >
	バージョン情報 (V)	EUR のバージョン情報が表示されます。	-

(凡例)

- : 対応するショートカットキーはありません。

環境変数名: [環境変数一覧] リストボックスで選択中の環境変数が表示されます。

(a) [パスの置換] ダイアログで設定できる項目

[編集] - [パスの置換] で表示される [パスの置換] ダイアログで設定できる項目について説明します。

[検索する文字列] テキストボックス

検索する文字列を入力します。検索された文字列は、すべて置換の対象になります。

[置換後の文字列] テキストボックス

置換後の文字列を入力します。

[大文字と小文字を区別する] チェックボックス

検索する文字列の大文字と小文字を区別するかどうか指定します。デフォルトは「オフ (区別しない)」です。

[一括置換] ボタン

パスの一括置換を実行します。

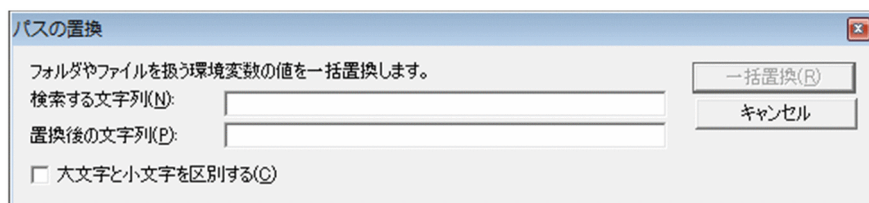
検索した文字列が置換された場合は、実行後に「n 個の環境変数の値を置換しました。」のメッセージが表示されます (「n」は置換した環境変数の数)。

文字列が検索されなかった場合は、実行後に「文字列 (xxx) は見つかりません。」のメッセージが表示されます (「xxx」は [検索する文字列] テキストボックスに入力した文字列)。

[キャンセル] ボタン

[パスの置換] ダイアログを終了して [EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログに戻ります。置換は実行されません。

[パスの置換] ダイアログの画面図



(2) [EUR サーバ環境設定ファイルエディタ] ダイアログで設定できる項目

[表示フィルタ] リストボックス

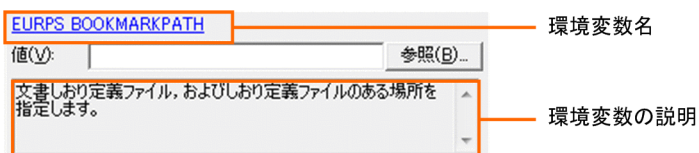
環境変数を分類するフィルタが表示されています。フィルタを選択すると、該当のフィルタに分類されている環境変数が、[環境変数一覧] リストボックスに表示されます。

デフォルトの状態では、「(すべて表示)」が選択されています。

[環境変数一覧] リストボックス

[表示フィルタ] リストボックスで選択したフィルタの環境変数が一覧で表示されます。

環境変数を選択すると、環境変数名と環境変数の説明が表示されます。環境変数名をクリックすると、対応する環境変数のヘルプを参照できます。



[値]

[環境変数一覧] リストボックスで選択中の環境変数の内容に応じて、次の形式の [値] が表示されます。

- 文字列または数値を指定する環境変数の場合
[値] テキストボックスが表示されます。



文字列を指定する環境変数の場合は任意の文字列を入力できます。
数値を指定する環境変数の場合は、半角数値だけを入力できます。

- フォルダまたはファイルを指定する環境変数の場合
[値] テキストボックスと [参照] ボタンが表示されます。



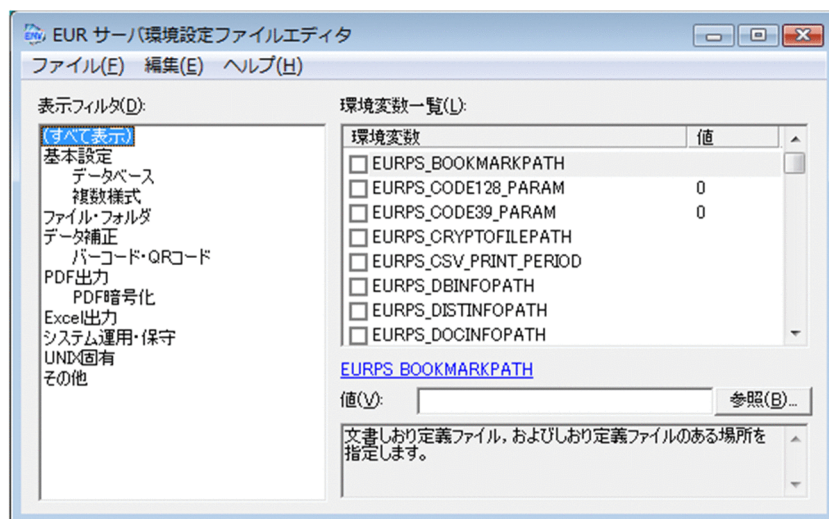
[参照] ボタンをクリックすると、[フォルダの参照] ダイアログまたは [ファイルの選択] ダイアログが表示されます。指定したいフォルダまたはファイルを選択して [OK] ボタンまたは [開く] ボタンをクリックすると、[値] テキストボックスにフォルダまたはファイルのパスが設定されます。
エクスプローラからフォルダまたはファイルをドラッグアンドドロップしてパスを指定することもできます。また、値を直接入力することもできます。

- 幾つかの決められた設定値から選択する環境変数の場合
[値] ドロップダウンリストが表示されます。



ドロップダウンリストから、設定したい値を選択します。また、値を直接入力することもできます。

(3) 画面図



付録

付録 A インストール , アンインストール

付録 B DABroker の利用

付録 C 作業環境の言語との対応

付録 D ラテン文字一覧

付録 E このマニュアルの参考情報

付録 A インストール, アンインストール

EUR Developer, EUR Print Service, および EUR Print Service Enterprise のインストール, アンインストールについて説明します。

付録 A.1 インストールの手順

EUR Developer, EUR Print Service または EUR Print Service Enterprise をインストールする時は, ほかのユーザアプリケーションプログラムを終了させてください。

インストールする前に, インストール時に必要なディスク空き容量を確認してください。

管理者権限または Administrators 権限を持つユーザでログインしてください。

Windows 環境の場合, EUR 製品の統合 CD-ROM を PC にセットすると, 自動的に日立総合インストーラが起動されます。インストール画面は, インストール実行時のロケールに対応した言語で表示されます。ロケールが英語, 中国語, 日本語のどれでもない場合は英語で表示されます。ただし, サポートしていないロケールで実行した場合, EUR の動作は保証されません。

日立総合インストーラのウィンドウから, インストールする EUR Developer, EUR Print Service または EUR Print Service Enterprise を選択してください。[インストール実行] ボタンをクリックすると, インストールが実行されます。

UNIX / Linux 環境の場合, インストールの手順については, リリースノートを参照してください。

(1) 上書きインストール時の注意

EUR Developer, EUR Print Service, および EUR Print Service Enterprise は上書きインストールを実行できますが, 次に示す事項に注意してください。

- 上書きインストールを実行した場合, 環境設定ファイルは, インストールする前の情報がそのまま残ります。環境設定ファイルの設定を変更するには, メモ帳などのテキストエディタを開いて編集してください。
- 前回インストールしたロケールと同じロケールで上書きインストールしてください。異なるロケールで上書きインストールした場合, 正常にインストールできないことがあります。

付録 A.2 インストール後に作成されるフォルダ

EUR Developer, EUR Print Service, および EUR Print Service Enterprise をインストールして作成されるフォルダ構成について説明します。フォルダ構成は, Windows 環境でインストールした場合と, UNIX / Linux 環境でインストールした場合で異なります。

(1) Windows 環境の場合

EUR Developer, EUR Print Service, および EUR Print Service Enterprise をインストールして作成されるフォルダ構成を次に示します。

(a) EUR Developer のとき

EUR Developer をインストールすると、次の機能がインストールされます。インストールされる機能とフォルダ構成の参照先を次に示します。

EUR 帳票作成機能

次に示すフォルダに、EUR Designer と同じフォルダ構成でインストールされます。

EUR Developerのインストール先フォルダ¥EUR Designer

フォルダ構成については、マニュアル「EUR クライアント帳票出力」を参照してください。

EUR サーバ帳票出力機能

次に示すフォルダに、EUR Print Service Enterprise と同じフォルダ構成でインストールされます。

EUR Developerのインストール先フォルダ¥EUR Print Service

フォルダ構成については、「(c) EUR Print Service Enterprise のとき」を参照してください。なお、EUR フォントファイル作成ツールはインストールされません。

EUR 帳票作成機能 (EUR Form 帳票)

フォルダ構成については、マニュアル「EUR 帳票設計 (EUR Form 帳票)」を参照してください。

[EUR サーバ帳票出力コマンド指定] ダイアログ (EurMakeCmd.exe)

次に示すフォルダにインストールされます。

EUR Developerのインストール先フォルダ¥EUR Designer¥Program

参考

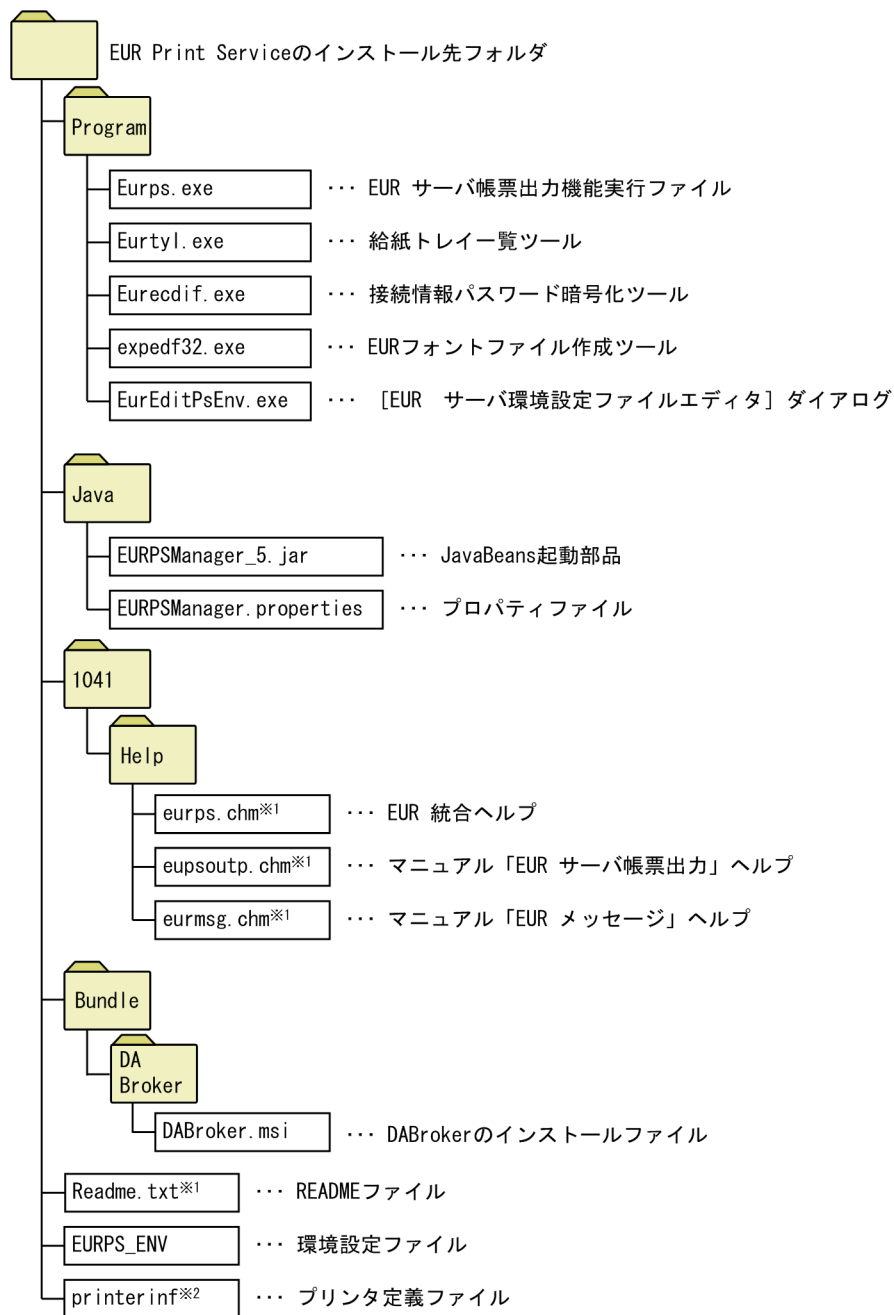
-
- Readme.txt は EUR Developer のインストール先フォルダ直下に入ります。
-

(b) EUR Print Service のとき

EUR Print Service をインストールすると、次の機能がインストールされます。

インストールされる機能とフォルダ構成の参照先を次に示します。

図 A-1 EUR Print Service インストール後のフォルダ構成 (Windows 環境の場合)



(凡例)



: フォルダ



: ファイル

注 1

英語ロケール, 中国語ロケールでインストールした場合でも, 日本語版のヘルプ, および README ファイル (Readme.txt) が起動します。

注 2

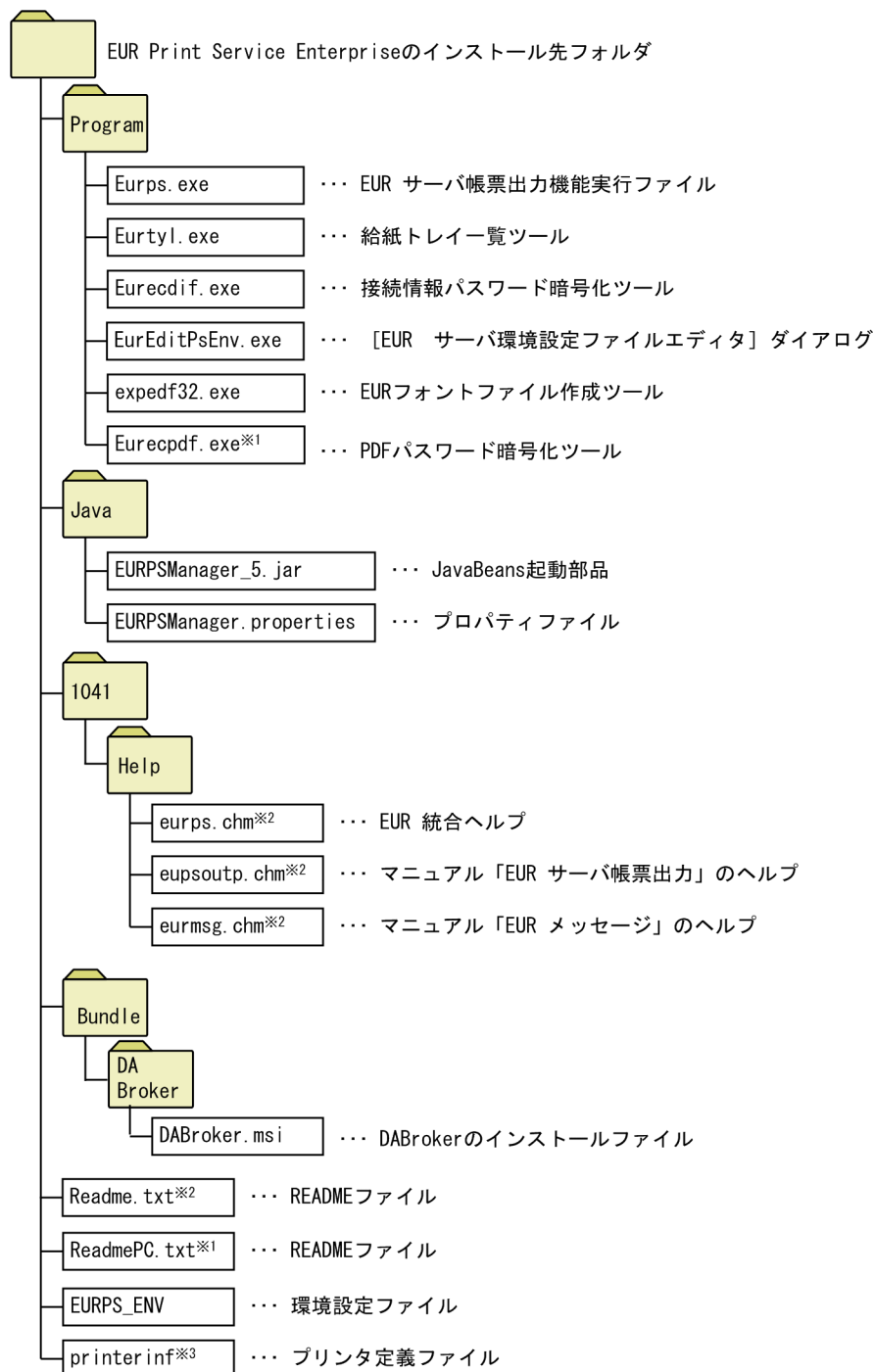
プリンタ定義ファイルは, EUR Print Service をインストールした時にはありません。ユーザが作成したあと, EUR Print Service のインストール先フォルダ下に, ファイル名「printerinf」で保存してください。

(c) EUR Print Service Enterprise のとき

EUR Print Service Enterprise をインストールすると, 次の機能がインストールされます。

インストールされる機能とフォルダ構成の参照先を次に示します。

図 A-2 EUR Print Service Enterprise インストール後のフォルダ構成 (Windows 環境の場合)



(凡例)



: フォルダ



: ファイル

注 1

EUR Print Service - Cipher option をインストールした場合に, EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ下に追加されます。

注 2

英語ロケール, 中国語ロケールでインストールした場合でも, 日本語版のヘルプ, および README ファイル (Readme.txt, ReadmePC.txt) が起動します。

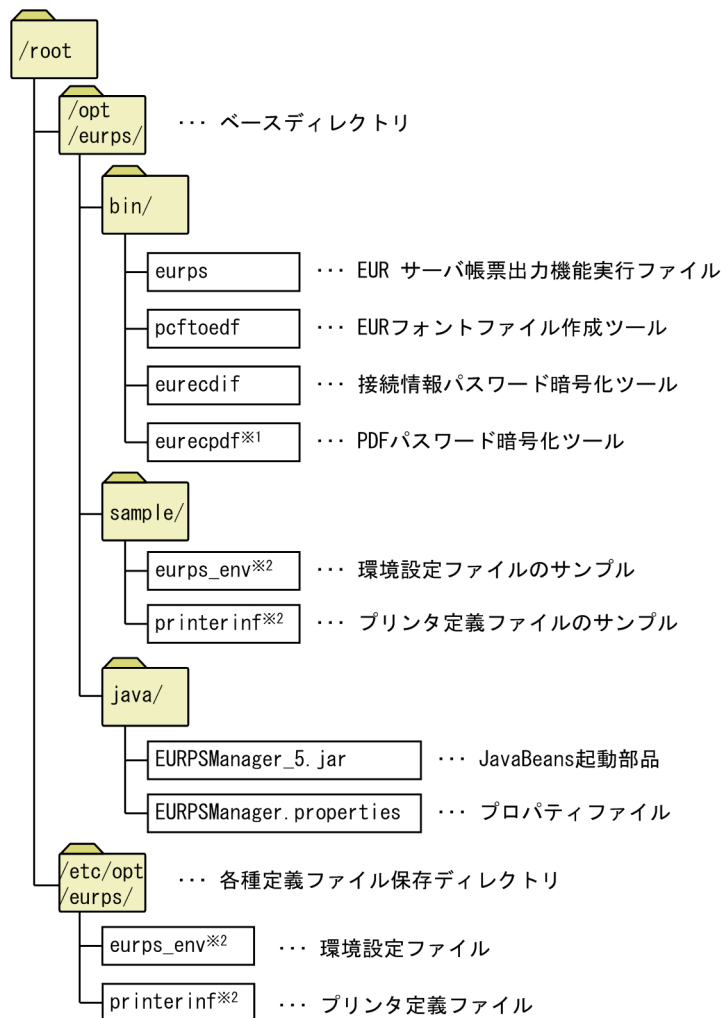
注 3

プリンタ定義ファイルは, EUR Print Service Enterprise をインストールした時にはありません。ユーザが作成したあと, EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ下に, ファイル名「printerinf」で保存してください。

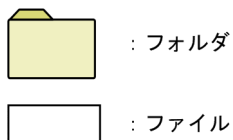
(2) UNIX / Linux 環境の場合

EUR Print Service , および EUR Print Service Enterprise をインストールして作成されるディレクトリ構造を次に示します。

図 A-3 EUR Print Service および EUR Print Service Enterprise インストール後のディレクトリ構造 (UNIX / Linux 環境の場合)



(凡例)



注 1

EUR Print Service Enterprise の場合に ,EUR Print Service - Cipher option をインストールしたとき , EUR Print Service Enterprise のインストールディレクトリ下に追加されます。

注 2

EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise をインストールした時 , /opt/eurps/sample 下に環境設定ファイルのサンプル (ファイル名 「 eurps_env 」) , およびプリンタ定義ファイルのサンプル (ファイル名 「 printerinf 」) が提供されます。

EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise で使用する環境設定ファイル , およびプリンタ定義ファイルは , /opt/eurps/sample 下にある環境設定ファイルのサンプル , およびプリンタ定義ファイルのサンプルを参考にして , ファイルの内容をカスタマイズしたあと , /etc/opt/eurps 下に環境設定ファイル (ファイル名 「 eurps_env 」) , およびプリンタ定義ファイル (ファイル名 「 printerinf 」) で保存してから利用してください。

/etc/opt/eurps は , EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise をインストールした時に自動生成されるディレクトリです。また , /etc/opt/eurps は , カスタマイズした環境設定ファイル , およびプリンタ定義ファイルを保存して利用するためのディレクトリなので , EUR Print Service , または EUR Print Service Enterprise をインストールした時は , /etc/opt/eurps 下にファイルはありません。そのため , /etc/opt/eurps 下にカスタマイズした環境設定ファイル , およびプリンタ定義ファイルがあっても , 上書きされることはありません。

付録 A.3 アンインストールの手順

コントロールパネルの [アプリケーションの追加と削除] メニューから実行してください。

アンインストールする場合は , 管理者権限または Administrators 権限を持つユーザで , かつ半角英数字のログインユーザ名で行ってください。

アンインストールを実行すると , 次に示す情報が削除されます。

対象製品関連ファイル (フォルダを含む) の削除

スタートメニューの削除

レジストリの削除

! 注意事項

- インストールしたロケールと同じロケールでアンインストールしてください。異なるロケールでアンインストールした場合、正常にアンインストールできないことがあります。
 - アンインストールする場合は、環境設定ファイル (EURPS_ENV) をバックアップすることをお勧めします。
-

付録 B DABroker の利用

EUR では、データベースからデータを読み込む場合に DABroker を使用してデータベースに接続します。DABroker は、データベース接続を実現するミドルウェアです。複数の異なるリレーショナルデータベースに一つのインタフェースで接続できる環境を提供します。

DABroker は、リレーショナルデータベースから見た場合、リレーショナルデータベースのクライアントになります。そのため、DABroker をインストールしたマシンに、リレーショナルデータベースのクライアントを配置してください。

ここでは、EUR Developer、Windows 版の EUR Print Service、および Windows 版の EUR Print Service Enterprise にバンドルされる DABroker について、次の内容を説明します。必要な関連プログラムの詳細については、リリースノートを参照してください。

- セットアップ
DABroker のインストールと環境設定をし、EUR とリレーショナルデータベースを接続できるように準備する操作を説明します。
- DABroker の起動と終了
DABroker を起動する操作、および終了する操作手順について説明します。
- 実行できるユティリティ
DABroker 起動中に実行できるユティリティと、その操作手順について説明します。

また、EUR で使用する場合の DABroker の設定について説明します。

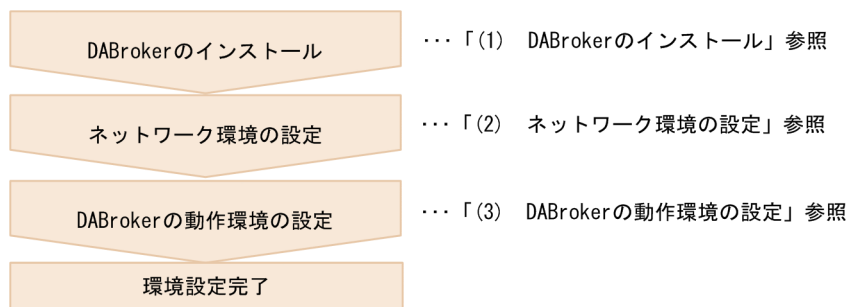
なお、これらの説明は、次の条件を前提にしています。

- リレーショナルデータベースを使用できる環境が構築されていること
- EUR を組み込むマシン、および DABroker を組み込むマシンをネットワーク上で使用できる環境がすでに構築されていること

付録 B.1 セットアップ

DABroker をインストールし、環境設定を完了するまでの手順を次の図に示します。

図 B-1 DABroker セットアップの手順



(1) DABroker のインストール

ここでは、DABroker をインストールする操作について説明します。

(a) DABroker をインストールするマシン

DABroker は、EUR Developer、EUR Print Service または EUR Print Service Enterprise と同じマシンにインストールしてください。DABroker はリレーショナルデータベースのクライアントアプリケーションとなるため、データベースと接続するためにリレーショナルデータベースのサーバプログラム、またはリレーショナルデータベースのクライアントプログラムが必要です。

なお、次のような場合は、あらかじめインストールするマシンに次のような設定をしてください。

DABroker と Oracle を別のマシンに配置する場合

Oracle のクライアントの設定をしてください。そこで設定したサービス（リスナー）名称は、EUR が使用する接続情報ファイルで指定してください。帳票設計時は EUR ODBC Driver で指定してください。

クライアントの設定については、Oracle のマニュアルを参照してください。

Microsoft SQL Server を使用する場合

ODBC データソースアドミニストレータを使用して Microsoft SQL Server の ODBC ドライバをシステム DSN で設定しておく必要があります。その際、ログイン ID の権限の確認方法は「ユーザが入力する SQL Server 用のログイン ID とパスワードを使う」を選択してください。

そこで設定した SQL サーバのデータソース名称は、EUR が使用する接続情報ファイルで指定してください。帳票設計時は EUR ODBC Driver で指定してください。

(b) インストール

DABroker をインストールするには、「DABroker.msi」を実行してください。

「DABroker.msi」は、EUR Developer、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ ¥Bundle¥DABroker¥ 下にあります。

インストールしたあと、次のように設定してください。

環境変数を設定する

DABroker をインストールしたあと、システム環境変数の Path に「DABroker インストールディレクトリ ¥lib」を必ず設定してください。環境変数を設定し、マシンを再起動すると、DABroker を使用できるようになります。

(c) インストール時に作成されるディレクトリ

DABroker のインストール時に作成されるディレクトリを次の表に示します。これらのディレクトリは、DABroker のインストール先に指定したディレクトリの下に作成されます。

なお、DABroker のインストール先に指定したディレクトリを、これ以降 DABroker 運用ディレクトリと呼びます。

表 B-1 DABroker のディレクトリ

ディレクトリ		説明
DABroker	-	DABroker のインストール先ディレクトリ (= DABroker 運用ディレクトリ)
	¥bin	実行ファイル格納ディレクトリ
	¥lib	ライブラリ格納用ディレクトリ
	¥AGT	エージェント処理用ディレクトリ
	¥AGTGRP	グループ管理用ディレクトリ
	¥msg	メッセージ用ディレクトリ
	¥conf	DABroker 動作環境定義ファイル格納ディレクトリ
	¥spool	DABroker スプールディレクトリ
	¥tmp	DABroker 標準作業ディレクトリ

(凡例)

- : 該当するディレクトリはありません。

(2) ネットワーク環境の設定

TCP/IP 環境での DABroker のサービス名およびポート番号として、「Windows インストールフォルダ ¥system32¥drivers¥etc¥services」ファイルに次の記述を追加してください。DABroker のサービス名の指定は省略できません。

DABROKER_SV 40179/tcp

DABROKER_SV : DABroker のサービス名です。

40179 : ポート番号です。

tcp : プロトコル名です。TCP/IP を使用することを示します。

! 注意事項

- services ファイルでの設定で、40179 がほかのサービス名で使用されている場合は、5001 ~ 65535 の範囲内で任意の番号を指定してください。ただし、ポート番号はクライアント側と同じ番号を指定してください。
- NIS (Network Information Service) を使用している場合、ネットワーク環境を NIS のサーバで設定してください。NIS のサーバを使用している場合、ネットワーク環境の設定は、NIS のサーバでの設定が有効になります。
- クライアント側では、使用する通信ドライバに、DABroker の組み込まれたサーバのホスト名、IP アドレスおよびポート番号を登録してください。

(3) DABroker の動作環境の設定

ここでは、DABroker の動作環境を設定する操作について説明します。

(a) 環境設定の方法

DABroker 動作環境は、「DABroker 動作環境定義ファイル」を設定して定義します。このファイルの定義には DABroker が提供する環境設定ユーティリティを使用します。環境設定ユーティリティは、プログラムフォルダに登録された [DABroker 環境設定] から起動します。

(b) 操作できるユーザ

環境設定ユーティリティを実行して、DABroker 動作環境定義ファイルを操作できるのは、Windows の管理者グループまたは Administrators グループに属するユーザです。

(c) 操作方法

環境設定ユーティリティは、DABroker が終了している状態で使用します。環境設定後に DABroker を起動すると、変更した DABroker 動作環境定義ファイルの内容が有効になります。

操作方法を次に示します。EUR に関連する項目について次に説明します。

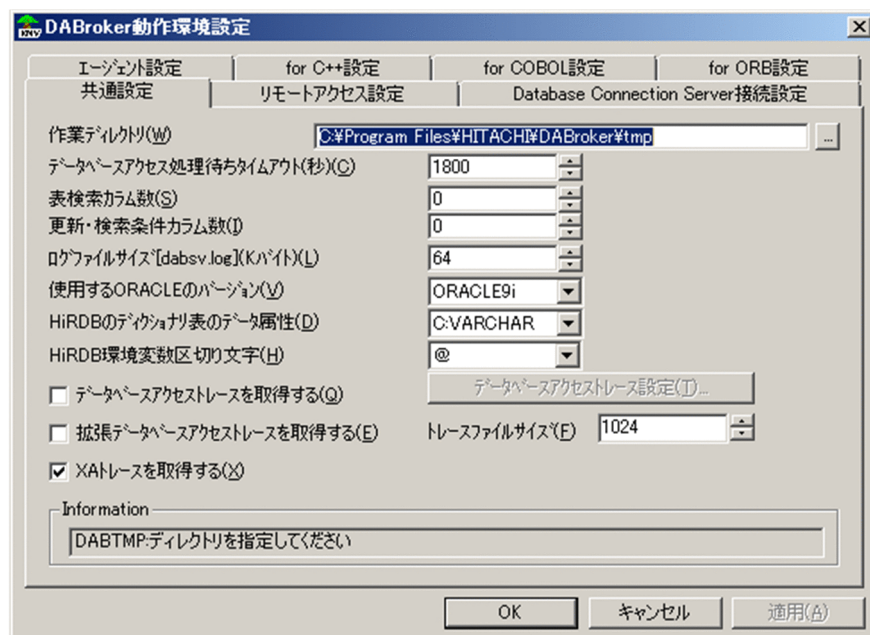
1. プログラムフォルダに登録された [環境設定] を起動する
環境設定ユーティリティが起動し、[DABroker 動作環境設定] ダイアログが表示されます。
2. [共通設定] タブ、および [リモートアクセス設定] タブの項目を設定する
3. 設定内容を確認して [OK] ボタンを選択する

設定した内容が登録され、環境設定ユーティリティは終了します。

(d) [共通設定] タブの設定内容

記載のない項目については、次の図に示す標準値のままで使用してください。

図 B-2 [共通設定] タブの設定内容



1. 作業ディレクトリ名 (DABTMP)

標準値

DABroker 運用ディレクトリ ¥tmp

指定範囲

任意のディレクトリ (ただし、パーティションを圧迫しないところ)。ただし、ネットワークドライブ上のディレクトリは指定できません。また、指定したディレクトリのアクセス権限として、システムにフルコントロールを指定してください。

説明

DABroker の作業ディレクトリを指定します。このディレクトリは、予約処理用の SQL の格納や、処理途中で作成される一時ファイルの格納などに使用されます。

[...] ボタンを押すと、[ディレクトリ選択] ダイアログが表示されます。

2. ログファイルサイズ [dabsv.log] (DABSVLOGSIZE)

標準値

64 (キロバイト)

指定範囲

0, または 64 ~ 32,767 (キロバイト)

説明

DABroker のログを取得するファイルの容量を設定します。ログは DABroker 運用ディレクトリ ¥spool¥dabsv.log に取得されます。

0 を設定した場合

ファイルの容量は無限大になります。

64 ~ 32,767 を設定した場合

設定した値がファイルの容量になります。

! 注意事項

ログファイルが満杯になったら、ラップアラウンドでログを取得します。ラップアラウンドした場合、1 世代前のバックアップファイル (dabsv.logold) を作成し、1 世代だけを管理します。

3. 使用する ORACLE のバージョン (DABORACLE_TYPE)

標準値

Oracle9i

指定範囲

Oracle9i, Oracle 10g, または Oracle 11g

説明

使用する Oracle のバージョンを設定します。

4. HiRDB のディクショナリ表のデータ属性
(DABSQL_HiRDB_DICTIONARY_DATATYPE)

標準値

C: VARCHAR

指定範囲

M または C

説明

HiRDB のディクショナリ表の列属性を指定します。

M を設定した場合

混在文字データ (MVARCHAR) として処理します。

C を設定した場合

文字データ (VARCHAR) として処理します。

! 注意事項

ここでの指定と HiRDB で使用されているディクショナリ表のデータ属性が異なる場合は、結果不正や SQL エラーになる場合があります。

5. HiRDB 環境変数区切り文字 (DAB_HIRDB_DBINF_ESC)

標準値

@

指定範囲

@ ! \$ % & * + - / : ? ¥ |

説明

HiRDB 環境変数区切り文字を指定します。

! 注意事項

特に問題がない場合、区切り文字には @ を使用してください。

区切り文字は必ず半角 1 文字で指定してください。全角文字は指定できません。

DABroker Driver for Java™ Technology から HiRDB クライアント環境変数グループを指定してデータベースと接続する場合は、標準値「@」を指定してください。

6. データベースアクセストレースを取得する (DABSQL_TRCSIZE)**標準値**

OFF (取得しません)

指定範囲

OFF (チェックなし), または ON (チェックあり)

(OFF: 取得しません ON: 取得します)

説明

データベースアクセストレースを取得するかどうかを設定します。アクセストレースの出力については、「付録 B.3(2) DABroker トレース出力ユティリティ」を参照してください。

[データベースアクセストレース設定] ボタンを押すと [アクセストレース設定] ダイアログが表示され、アクセストレースで出力する項目を選択できます。

取得するを設定した場合

次に示すファイル名ですべてのアクセストレースを取得するファイルが、DABroker 運用ディレクトリ ¥spool¥db_access の下に作成されます (データベースアクセストレースは DABroker トレース出力ユティリティで出力します)。db_XXXXX

XXXXX: システム任意の番号

ハードディスクの空き容量がなくなった場合、それ以降のアクセストレースは取得しません。なお、格納する領域のサイズは設定できません。

クライアントからの要求量が多い場合は、トレースのファイル容量も多く必要です。ハードディスクの容量に余裕をもたせてください。必要容量の概算方法については、「付録 B.3(2) DABroker トレース出力ユティリティ」のデータベースアクセストレースの出力の注意事項を参照してください。また、クライアントからの要求量が多ければ、DABroker を終了するまでに時間が掛かります。ご注意ください。

取得しないを設定した場合

データベースアクセストレースを取得しません。

7. 拡張データベースアクセストレースを取得する (DABEXSQL_TRC_LINE)

標準値

OFF (取得しません)

指定範囲

OFF (チェックなし), または ON (チェックあり)

(OFF: 取得しません ON: 取得します)

説明

拡張データベースアクセストレースを取得するかどうかを設定します。

OFF (チェックなし) を設定した場合

拡張データベースアクセストレースを取得しません。

ON (チェックあり) を設定した場合

拡張データベースアクセストレースを取得します。

拡張データベースアクセストレースの詳細については、「付録 B.3(3) 拡張データベースアクセストレースユーティリティ」を参照してください。

8. トレースファイルサイズ

標準値

1,024 (行)

指定範囲

0 (トレース取得行数を無限大にします), または 1,024 ~ 32,767 (行)

説明

「7. 拡張データベースアクセストレースを取得する (DABEXSQL_TRC_LINE)」で ON を設定した場合に、拡張データベースアクセストレースのトレースファイルサイズを指定します。

0 を設定した場合

出力行数は、無限大となります。

1,024 ~ 32,767 を設定した場合

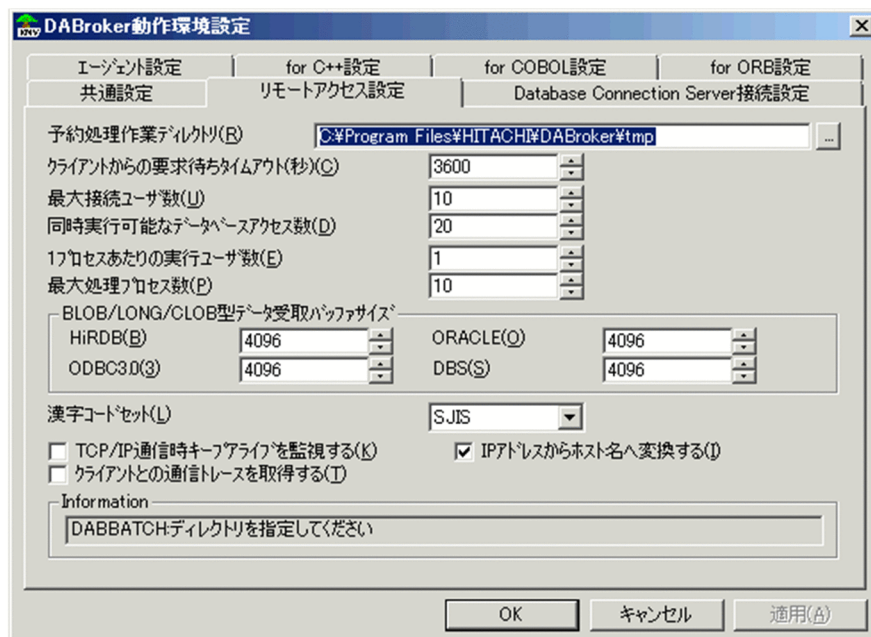
拡張データベースアクセストレースを取得します。出力行数は、設定した数値分となります。

拡張データベースアクセストレースのファイルは、1 行に 134 バイトまで出力されます。拡張データベースアクセストレースのファイルの出力行数は、ここでの設定値に従います。ただし、ヘッダは行数に含まれません。

拡張データベースアクセストレースの詳細については、「付録 B.3(3) 拡張データベースアクセストレースユーティリティ」を参照してください。

(e) [リモートアクセス設定] タブの設定内容

図 B-3 [リモートアクセス設定] タブの設定内容



1. クライアントからの要求待ちタイムアウト (DABCLIENT_TIMEOUT)

標準値

3,600 (秒)

指定範囲

0, または 1 ~ 65,535 (秒)

説明

クライアントからの要求待ちタイムアウトを監視するかどうかを設定します。

1 ~ 65,535 (秒) を設定した場合

DABroker がアクセス要求に対する応答をクライアントに返してから、次のアクセス要求を受けるまでの時間を監視します。

ここで設定した時間を超えてクライアントからのアクセス要求がない場合、DABroker は次の処理をします。

クライアントに対しては、要求待ちタイムアウトの発生を通知して、コネクションを解放します。処理を続ける場合、クライアントは一度終了して再起動する必要があります。

データベースに対しては、このタイムアウトが発生したクライアントの処理がデータベースで実行中の場合は、トランザクションのロールバックを要求し、データベースを切り離します。

0 を設定した場合

クライアントからの要求待ちタイムアウトを監視しません。

2. 最大接続ユーザ数 (DABMAXUSERS)

標準値

10 (ユーザ)

指定範囲

1 ~ 100,000 (ユーザ)

説明

コネクションを確立できる最大ユーザ数を設定します。ここで設定した値を超えるユーザが接続しようとした場合、DABroker は、クライアントにエラーメッセージを返してコネクションを確立しません。

EUR から同時にデータベースをアクセスするユーザ数以上の値を指定してください。

3. 同時実行可能なデータベースアクセス数 (DABDBANUMBER)

標準値

20 (データベース接続数)

指定範囲

1 ~ 100,000 (データベース接続数)

説明

DABroker が一度に受け付けられる、複数のクライアントからのデータベースアクセス要求 (同期アクセス処理要求) の合計数を設定します。ここで設定した値を超える要求があった場合は、クライアントにエラーメッセージを返し、処理を受け付けません。

EUR で使用する場合は、最大接続ユーザ数以上の値を指定してください。

4. 1 プロセス当たりの実行ユーザ数 (DABMAXBLOCKUSERS)

標準値

1 (ユーザ数)

指定範囲

1 ~ 100 (ユーザ数)

説明

一つのプロセスで処理する最大ユーザ数を設定します。ここで設定した値を超えた場合は、クライアントにエラーメッセージを返し、処理を受け付けません。

EUR で使用する場合は、1 を指定してください。

5. 最大処理プロセス数 (DABMAXPROCESS)

標準値

10 (プロセス数)

指定範囲

1 ~ 1,000 (プロセス数)

説明

DABroker で起動する最大プロセス数を設定します。ここで設定した値を超えた

場合は、クライアントにエラーメッセージを返し、処理を受け付けません。

(1 プロセス当たりの実行ユーザ数×最大処理プロセス数) が最大接続ユーザ数以上となるように指定してください。

6. 漢字コードセット (DABLANGMODE)

標準値

SJIS (シフト JIS モード)

指定範囲

SJIS (シフト JIS モード), UTF-8 (UTF-8 モード), または ASCII (ASCII モード)

説明

DABroker が稼働する言語モードを設定します。

各言語モードで操作できるデータベースを次の表に示します。

表 B-2 各言語モードで操作できるデータベース

データベース	DABroker での設定		
	シフト JIS モード	UTF-8 モード	ASCII モード
HiRDB			
Oracle			
SQL Server			
VOS3 XDM/RD E2		×	

(凡例)

: 操作できる

× : 操作できない

注

SQL Server 2000 の場合は操作できません。

各データベースで使用する言語モードは、必ず DABroker の言語モードと合わせてください。データベースと DABroker の言語モードが異なっている場合は動作を保証しません。

SQL Server 2005 以降で UTF-16 を使用する場合は、DABroker の言語モードに UTF-8 を指定してください。

DABroker を日本語 EUC モード、ASCII モード、または UTF-8 モードで動作させた場合、メッセージは英文で出力されます。

7. TCP/IP 通信時キープアライブを監視する (DABKEEPALIVE)

標準値

OFF (キープアライブによる監視を行いません)

指定範囲

OFF (チェックなし), または ON (チェックあり)

(OFF: キープアライブによる監視を行いません ON: キープアライブによる監視)

視を行います)

説明

キープアライブによる監視を行うかどうかを設定します。キープアライブとは、クライアントとの通信経路が確立されているかどうかを常に監視する TCP/IP の機能です。

ON を設定した場合

キープアライブによる監視が行われます (クライアントとの通信経路を監視する)。

OFF を設定した場合

キープアライブによる監視は行われません (クライアントとの通信経路を監視しない)。

8. IP アドレスからホスト名へ変換する (DABIPCONVERT)

標準値

ON (変換します)

指定範囲

OFF (チェックなし), または ON (チェックあり)

(OFF: 変換しません ON: 変換します)

説明

メッセージおよびユティリティで表示される IP アドレスをホスト名に変換するかどうかを設定します。

ON を設定した場合

表示される IP アドレスをホスト名に変換します。

動作環境によってこの変換処理に時間が掛かり、接続処理が遅くなることがあります。

OFF を設定した場合

表示される IP アドレスをホスト名に変換しません。

9. 通信トレースの取得をする (DABTCP_TRCSIZE)

標準値

OFF (取得しません)

指定範囲

OFF (チェックなし), または ON (チェックあり)

(OFF: 取得しません ON: 取得します)

説明

クライアントとの通信トレースを取得するかどうかを設定します。通信トレースの出力については、「付録 B.3(2) DABroker トレース出力ユティリティ」を参照してください。

「取得する」を設定した場合

次に示すファイル名ですべての通信トレースを取得するファイルが DABroker 運用ディレクトリ ¥spool¥dabcltrc の下に作成されます (通信トレースは

DABroker トレース出力ユティリティで出力します)。

XXXXXXXXX.cmt

XXXXXXXXX.cmt_AA ~ AA

XXXXXXXX: 任意の文字列

AA ~ AA: 任意の文字列

ハードディスクの空き容量がなくなった場合、それ以降の通信トレースは取得しません。なお、格納するファイルサイズは設定できません。

クライアントからの要求量が多い場合は、トレースのファイルの容量も多く必要です。ハードディスクの容量は余裕を持たせてください。必要容量の概算方法については、マニュアル「DABroker」を参照してください。また、クライアントからの要求量が多ければ、DABroker を終了するまでに時間が掛かります。ご注意ください。

「取得しない」を設定した場合

クライアントとの通信トレースを取得しません。

付録 B.2 DABroker の起動と終了

DABroker の起動方法と終了方法について説明します。

(1) 起動

(a) 操作できるユーザ

Windows の管理者グループ、および Administrators グループに属するユーザです。

(b) 起動順序

DABroker を起動する場合は、次の順序で各プログラムを起動してください。

1. リレーショナルデータベース
2. DABroker
3. EUR

1 と 2 の順序は前後してもかまいません。

(c) 起動方法

DABroker の起動方法には、次の二つがあります。

プログラムフォルダからの起動

[スタート] - [プログラム] で表示されるフォルダ [DABroker] から [起動] を選択してください。

サービスの開始による起動

[コントロールパネル] ダイアログで [サービス] を選択します。[サービス] ダイアログで [DABroker] を選択し、[開始] ボタンをクリックしてください。

[スタートアップの種別] を [自動] にすると、Windows の起動と同時に DABroker

を起動できます。

(2) 終了

(a) 操作できるユーザ

Windows の管理者グループ、および Administrators グループに属するユーザです。

(b) 終了順序

DABroker を終了する場合は、次の順序で各プログラムを終了してください。

1. EUR
2. DABroker
3. リレーショナルデータベース

(c) 終了方法

DABroker の終了方法を次に示します。

通常の終了

接続中の EUR がない場合の終了方法です。

1. [スタート] - [プログラム] で表示されるフォルダ [DABroker] から [終了] を選択する
[DABroker 終了] ダイアログが表示されます。
2. 終了形態に「通常の終了」を選択し、[実行] ボタンを選択する
確認のためのダイアログが表示されます。
3. [はい] を選択する
DABroker が終了します。

接続中の EUR がある場合はエラーメッセージが表示され、終了できません。接続中のクライアントの有無は、DABroker 管理ユーティリティで確認できます。DABroker 管理ユーティリティについては、「付録 B.3 DABroker の起動中に使用できるユーティリティ」を参照してください。

計画終了

接続中のクライアントがある場合、すべての処理の終了を待って DABroker を終了する方法です。新たな EUR からの接続要求は受け付けません。

終了手順は「通常の終了」と同様です。ただし、手順 2 で終了形態に「計画終了」を選択してください。

強制終了

接続中の EUR があっても、処理を中断して DABroker を強制的に終了する方法です。

1. [コントロールパネル] ダイアログで [サービス] を選択する
[サービス] ダイアログが表示されます。
2. [DABroker] を選択し、[停止] ボタンを選択する
DABroker が終了します。

計画終了を強制終了に変更する方法

計画終了中に [DABroker 終了] ダイアログから強制終了を実行すると、計画終了を強制終了に変更できます。

付録 B.3 DABroker の起動中に使用できるユティリティ

DABroker の起動中には、次の三つのユティリティおよび一つのビューアを使って情報を取得したり、EUR の処理を制御したりできます。これ以外のユティリティやビューアは EUR では使用しないため説明は省略します。

DABroker 管理ユティリティ

DABroker の動作状態を表示したり、特定の EUR の処理を中断したりできます。

DABroker トレース出力ユティリティ

通信トレース、およびアクセストレースを出力できます。このユティリティは、DABroker が起動していなくても使用できます。

拡張データベースアクセストレースユティリティ

拡張データベースアクセストレースを出力できます。

DABroker メッセージログビューア

DABroker のログファイルの出力内容を参照できます。

(1) DABroker 管理ユティリティ

DABroker 管理ユティリティの機能、操作できるユーザ、各機能を使用する場合の操作手順について説明します。

(a) 機能

DABroker 管理ユティリティには次の二つの機能があります。

DABroker の動作状態の表示

各 EUR との接続時間の状態を表示します。

EUR の処理の中断

指定した EUR との接続を解放し、実行中の処理を中断します。この場合、DABroker はリレーショナルデータベースに要求した処理のロールバックを要求します。

(b) 操作できるユーザ

すべてのユーザが管理ユティリティを実行できます。ただし、特定のクライアントの処理を中断できるのは、Windows の管理者グループまたは Administrators グループに属するユーザだけです。

(c) DABroker の動作状態を表示する手順

DABroker の動作状態を表示する手順を次に示します。


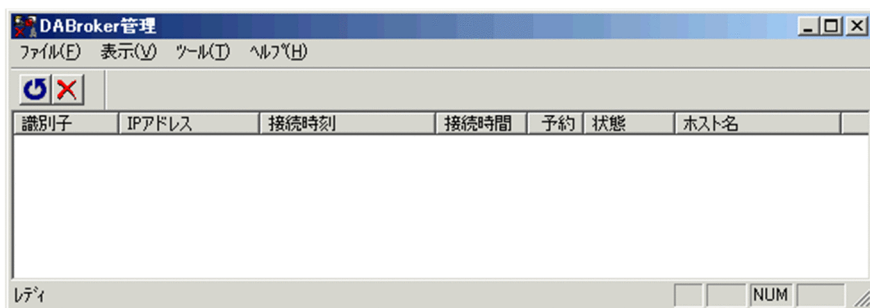
1. DABroker が起動していることを確認する
2. プログラムフォルダに登録された [DABroker] から [DABroker 管理] を選択する
DABroker 管理ユーティリティが起動し, [DABroker 管理] に動作状態が表示されます。 をクリックすると, 最新の動作状態に表示が更新されます。

図 B-4 [DABroker 管理] ダイアログ



[DABroker 管理] ダイアログに表示される項目の意味は次のとおりです。

識別子

DABroker に接続されているクライアント処理を識別するための番号です。

IP アドレス

接続している EUR があるマシンの IP アドレス

接続時刻

EUR と接続した日時 (年 / 月 / 日 時 : 分 : 秒)

接続時間

接続してからの経過時間 (時 : 分 : 秒)

予約

実行中の予約処理数 (EUR では使用しません)

状態

EUR との接続状態

「接続中」と表示されている場合は, EUR とのコネクションが確立されていることを示します。

ホスト名

接続している EUR があるマシンのホスト名

次の条件をすべて満たしている場合に表示されます。

- ・[リモートアクセス設定] タブで「IP アドレスからホスト名へ変換する」をチェックしている場合

・次のフォルダの hosts ファイルに各クライアントのホスト名を登録している場合


[Windows をインストールしたフォルダ] ¥SYSTEM32¥DRIVERS¥ETC

なお、ホスト名の長さによっては、途中までしか表示されない場合があります。

3. DABroker の動作状態の確認が済んだら、[DABroker 管理] ダイアログを閉じ、DABroker 管理ユーティリティを終了させる

(d) EUR の処理を中断する操作手順

特定の EUR の処理を中断する手順を次に示します。

1. DABroker が起動していることを確認する
2. プログラムフォルダに登録された [DABroker] から [DABroker 管理] を選択する
DABroker 管理ユーティリティが起動し、[DABroker 管理] ダイアログに動作状態が表示されます。
3. [DABroker 管理] ダイアログで処理を中断する EUR を選択し、 をクリックする
確認のダイアログが表示されます。
4. [はい] を選択する
DABroker は選択したクライアントとの接続を解放します。同時にリレーショナルデータベースに処理のロールバックを要求します。

(2) DABroker トレース出力ユーティリティ

DABroker トレース出力ユーティリティの機能，操作できるユーザ，各機能を使用する場合の操作手順について説明します。

(a) 機能

DABroker トレース出力ユーティリティでは，次の 2 種類のトレースを出力できます。

通信トレース

通信トレースとは，DABroker と EUR 間のデータの送受信についての情報です。

DABroker がこの情報を取得するのは，クライアントからの要求受け付け直後，および DABroker からの結果送信直後です。通信トレースは，「DABroker 運用ディレクトリ ¥spool¥dabcltrc」の下に出力されます。

アクセストレース

アクセストレースとは，DABroker がリレーショナルデータベースに要求した処理，およびその処理に対するリレーショナルデータベースからの応答についての情報です。DABroker がこの情報を出力するのは，リレーショナルデータベースに要求を出す直前およびリレーショナルデータベースから応答が返ってきた直後です。リレーショナルデータベースとのアクセストレースは，「DABroker 運用ディレクトリ」¥spool¥db_access の下に出力されます。

(b) 操作できるユーザ

すべてのユーザが DABroker トレース出力ユーティリティを実行できます。

(c) トレースを出力する操作手順

通信トレース, およびリレーショナルデータベースとのアクセストレースを出力する操作手順を次に示します。

1. プログラムフォルダに登録された [DABroker] から [トレース出力] を選択する
DABroker トレース出力ユーティリティが起動し, [DABroker トレース出力] ダイアログが表示されます。

図 B-5 [DABroker トレース出力] ダイアログ



- 通信トレースを出力する場合の操作

1. [通信トレースを出力する] チェックボックスをチェックする
2. [IP アドレスまたはホスト名] を設定する

すべての通信トレースを出力する場合は, [IP アドレスまたはホスト名] に何も指定しないでください。特定の IP アドレスまたはホスト名の通信トレースを出力する場合, [IP アドレスまたはホスト名] に, 通信トレースを出力する IP アドレスまたはホスト名を指定してください。

3. 通信トレースの出力先を指定する

[出力先] ボタンをクリックすると, 出力先を指定するダイアログが表示されます。出力先のファイル名を指定してください。省略した場合は, [DABroker 運用ディレクトリ] ¥spool¥DABTT.TXT に出力されます。

- アクセストレースを出力する場合の操作

1. [アクセストレースを出力する] チェックボックスをチェックする
2. [UAP 名], [ユーザ ID] を設定する

すべてのアクセストレースを出力する場合は, [UAP 名], [ユーザ ID] に何も指定しないでください。

特定のリレーショナルデータベースへログインするユーザ ID のアクセストレースを出力する場合は, [ユーザ ID] にリレーショナルデータベースへログインするた

めのユーザ ID を指定してください。

[UAP 名] は使用しません。

3. アクセストレースの出力先を指定する

[出力先] ボタンをクリックすると、出力先を指定するダイアログが表示されます。出力先のファイル名を指定してください。省略した場合は、[DABroker 運用ディレクトリ] ¥spool¥DABDT.TXT に出力されます。

2. 「通信トレースを出力する場合の操作」, 「アクセストレースを出力する場合の操作」が済んだら、[実行] ボタンを選択する
指定した出力先が登録されます。
なお、「通信トレースを出力する場合の操作」および「アクセストレースを出力する場合の操作」の両方をすると、2 種類のトレースが出力できます。

(d) トレース出力内容

通信トレースおよびアクセストレースの出力例と、出力される項目の意味について説明します。

通信トレースの場合

IPADDR=xx.xx.1.10 PROT=TCP PAP-NAME=DBPARTNER2 Runtime 0000a0c				
DATE	TIME	EVT	SIZE	DATA
2008/09/02	15:23:28.98	PUT	164	Connection(0,0)
2008/09/02	15:23:28.98	GET	148	Connect(Database)
2008/09/02	15:23:29.18	PUT	64	Result(0,0)
2008/09/02	15:23:29.18	GET	187	EXT-CMD <Prepare>
2008/09/02	15:23:29.18	PUT	461	Result(0,0)

IPADDR=XXXXXXXX

EUR のあるマシンの IP アドレスまたはホスト名

PROT=XXX

通信プロトコル

TCP : TCP/IP

PAP-NAME=XXXXXXXX

UAP 名

帳票定義 : 「DBPODBC」 + 「IP アドレス」

帳票出力 : 「DBPARTNER2 Runtime」 + 「実行プロセス ID」

DATE

送受信の発生日付 (年 / 月 / 日)

TIME

送受信の発生時刻 (時 : 分 : 秒 .n)

n は 100 分の 1 秒を表します。

EVT

DABroker での事象区分

・ PUT : リレーショナルデータベースから EUR への送信

- ・ GET : EUR からリレーショナルデータベースへの受信

SIZE

送受信データ長 (単位: バイト)

DATA

送受信データ種別

aa...aa <bb...bb> (cc...cc,dd...dd) の形式で出力されます。

- ・ aa...aa : オペレーション種別

- ・ bb...bb : 付加情報

オペレーション種別が, LIST (xxxxx) および EXT-CMD の場合に表示されま
す。

- ・ cc...cc : リターンコード

- ・ dd...dd : 詳細コード

注

表示されるオペレーション種別の意味を次の表に示します。

表 B-3 オペレーション種別の意味

オペレーション種別	意味
Connect (Database)	データベースとの接続要求
Disconnect (Database)	データベースとの切り離し要求
Disconnect (Connection)	コネクションの解放要求
Commit	トランザクションのコミット要求
Rollback	トランザクションのロールバック要求
LIST (Table)	表一覧取得要求
LIST (Column)	列一覧取得要求
LIST (Index)	索引一覧取得要求
LIST (Table Privileges)	表権限一覧取得要求
LIST (Column Privileges)	列権限一覧取得要求
EXT-CMD	SQL 文の実行要求
SQL Fetch Option	SQL 実行オプション実行
File Delete	SQL 実行結果格納ファイル削除
Save	データベースへの表の保存要求
Cancel	リレーショナルデータベースに対する処理の中断要求
Illegal Request	不正要求
Connection	コネクション確立応答
Result	正常応答
Error	異常応答
Result (Cancel)	正常応答 (リレーショナルデータベースに対する処理の中断要求時)

オペレーション種別	意味
Error (Cancel)	異常応答 (リレーショナルデータベースに対する処理の中断要求時)
その他	説明省略

！ 注意事項

クライアントからの要求量が多いほど、クライアントとの通信トレースのファイル容量も多くなります。通信トレースのファイル容量の目安として、概算式を次に示します。

通信トレースのファイル容量 (単位 : バイト) = 80 (ヘッダ情報長) + クライアントからの要求数 * 2 (PUT および GET 分) * 36 (PUT および GET 情報長)

あらかじめ、この概算式で計算したサイズ以上のハードディスク容量を用意しておいてください。また、クライアントからの要求量が多いほど、トレース出力が終わるまで時間が掛かります。ご注意ください。

アクセストレースの場合

```

UID=EUR PAPNAME=DBPARTNER2 Runtime 00000a0c DBNAME=HiRDB
  DATE      TIME      EVT      RETCODE      INFORMATION
2008/09/02 15:23:28.98 CONNECT
2008/09/02 15:23:29.18 CONNECT          0
2008/09/02 15:23:29.18 PREPARE
  (SQL) SELECT "地区コード", "商品コード", "性別", "天気", "年齢", "年月", "売上数", "単
  価", "売上金額" FROM "EUR"."ZAIKO"
2008/09/02 15:23:29.18 PREPARE          0
2008/09/02 15:23:29.18 DESCRIBE
2008/09/02 15:23:29.18 DESCRIBE          0
2008/09/02 15:23:29.18 DESCRIBE          0
2008/09/02 15:23:29.18 DESCRIBE          0
2008/09/02 15:23:29.18 DESCRIBE          0
2008/09/02 15:23:29.18 DESCRIBE          0
2008/09/02 15:23:29.19 OPEN
2008/09/02 15:23:29.19 OPEN          0
2008/09/02 15:23:29.19 FETCH          BLOCK COUNT(1)
2008/09/02 15:23:29.19 FETCH          0 BLOCK COUNT(1)

```

UID=XXXXXXXX

ユーザ ID

PAPNAME=XXXXXXXX

UAP 名

帳票定義 : 「DBPODBC」 + 「IP アドレス」

帳票出力 : 「DBPARTNER2 Runtime」 + 「実行プロセス ID」

DBNAME=XXXXXXXX

接続先データベース名

次のどれかが出力されます。

- ・ HiRDB : HiRDB の場合です。
- ・ Oracle7 : Oracle の場合です。使用する Oracle のバージョンに依存しません。
- ・ ODBC3.0 : Microsoft SQL Server の場合です。

DATE

アクセスの発生日 (年 / 月 / 日)

TIME

アクセスの発生時刻（時：分：秒 .n）

n は 100 分の 1 秒を表します。

EVT

DABroker がデータベースに要求した処理の内容

EVT の表示と対応する処理内容を次の表に示します。

表 B-4 EVT の表示と処理内容（DABroker トレース出力ユティリティ）

EVT の表示	処理内容
CONNECT	データベースと接続します。
PREPARE	SQL の前処理をします。
DESCRIBE	前処理した SQL の情報を返します。
DECLARE	前処理した SELECT に対してカーソルを宣言します。
OPEN	カーソルを位置づけます。
FETCH	行を読み込んでカーソルを進めます。
CLOSE	カーソルを閉じます。
EXECUTE	前処理した SQL を実行します。
COMMIT	トランザクションを正常終了し、更新を有効にします。
ROLLBACK	トランザクションを取り消し、更新を無効にします。
DISCONNECT	トランザクションを正常終了し、切り離します。
CANCEL	リレーショナルデータベースに対し、処理の中断をします。
LOGGING	リレーショナルデータベースに対し、ログ取得要求します。ただし、HiRDB の場合だけです。
LOGLESS	リレーショナルデータベースに対し、ログレス要求します。ただし、HiRDB の場合だけです。
その他	説明省略

データベースとのアクセストレースの取得内容は任意に選択できます。環境設定ユティリティの [アクセストレースの種類] で選択します。

RETCODE

DABroker が要求した処理に対して、リレーショナルデータベースから返されるリターンコード。

・0：正常終了

・0 以外：異常終了またはメッセージ付きの正常終了

DABroker からリレーショナルデータベースへの要求の送信を表示している行は、RETCODE は空白になります。

INFORMATION

FETCH 時の行取得要求数および取得結果の情報

SQL

クライアントから要求のあった SQL の内容

この項目は、Microsoft SQL Server 使用時に EVT が PREPARE の場合にだけ出力されます。表示内容と意味を次の表に示します。

表 B-5 「SQL」への表示内容と意味

表示内容	意味
(SQL) ODBC:{SQLTables}	テーブル一覧情報
(SQL) ODBC:{SQLColumns }	カラム一覧情報
(SQL) ODBC:{SQLTablePrivileges}	テーブル権限一覧情報
(SQL) ODBC:{SQLColumnPrivileges}	カラム権限一覧情報
(SQL) ODBC:{SQLStatistics}	インデックス一覧情報
(SQL) ODBC:{SQLPrimaryKeys}	プライマリキー一覧情報

! 注意事項

クライアントからの要求量（SQL 文）が多いほど、アクセストレースのファイル容量も多くなります。トレースは、1 レコード 80 バイトで表示されます。クライアントからの要求（SQL 文）が多い場合は、折り返して表示します。アクセストレースのファイル容量の目安として、概算式を次に示します。

アクセストレースのファイル容量（バイト）＝ {(クライアントからの要求 (SQL 長など) * 2) + 2 [+ (クライアントからの要求 SQL 長 / 73) - 1]} * 80

注

下線は、SQL 長が 73 バイト以上の場合です。

あらかじめ、この概算式で計算したサイズ以上のハードディスク容量を用意しておいてください。また、クライアントからの要求量が多いほど、トレース表示が終わるまで時間が掛かります。

(3) 拡張データベースアクセストレースユーティリティ

拡張データベースアクセストレースは、次のような場合に有効です。

- データベースのアクセス中に障害が発生した時など、迅速に障害を切り分ける必要がある場合
- 24 時間稼働などのため、稼働中のアプリケーションを終了させないで障害を調査する必要がある場合
- 障害の再現調査ができないため、常時トレースを取得する必要がある場合

ここでは、拡張データベースアクセストレースユーティリティの機能、拡張データベースアクセストレースの取得方法、ファイル出力形式、ファイル名称および注意事項について説明します。

(a) 機能

拡張データベースアクセストレースでは、従来の DABroker のアクセストレースに比べて、次の機能が拡張されています。

- ・ データベースへの接続ごと（接続から切断まで）にトレースを取得できます。
- ・ データベース接続中でも、トレースファイルの参照やコピーができます。
- ・ DABroker 動作環境定義ファイルの設定によって、出力するイベントの種類を選択できます。
- ・ DABroker 動作環境定義ファイルの設定によって、ファイルの最大容量を設定できます。トレース情報が最大容量を超える場合、最大 2 世代で取得ファイルを切り替えてトレースを取得できます。

(b) 拡張データベースアクセストレースの取得方法

拡張データベースアクセストレースの取得は、DABroker 動作環境定義ファイルで設定します。DABroker 動作環境定義ファイルでの設定方法については、マニュアル「DABroker」を参照してください。

(c) ファイル出力形式

拡張データベースアクセストレースのファイル出力形式を次に示します。

ヘッダ情報

```
*-----*
*- DataBase Access Information (DRV)          - *
*- Date   YYYY/MM/DD hh:mm:ss.nnnnnn         - *
*-----*
DABroker Connect ID   : AAAAA (BBBBB)
Process ID            : CCCCC
UserID                : DDDDD
Client Name           : EEEEE
(DB別出力情報)
Lang Mode             : GGGGG
```

個々のトレース情報

```
THREAD-ID  CID  EVT   START-TIME  END-TIME  RETCODE
BLOCKCNT   (SQL)
```

それぞれの出力項目について、次に説明します。

DRV

DABroker のアクセスドライバの種別に従い、次の識別子が出力されます。

表 B-6 アクセスドライバの種別と識別子

アクセスドライバの種別	識別子
HiRDB	HiRDB Driver
Oracle	ORACLE7 Driver
Microsoft SQL Server	ODBC30

Date

ファイル作成日時

YYYY/MM/DD hh:mm:ss.nnnnnn の形式で出力されます。

- YYYY：西暦年
- MM：月
- DD：日
- hh：時
- mm：分
- ss：秒
- nnnnnn：マイクロ秒

DABroker Connect ID

データベース接続識別子が出力されます。

Process ID

実行プロセス ID が出力されます。

UserID

接続ユーザ ID が出力されます。

Client Name

UAP 名称が出力されます。

帳票定義：「DBPODBC」＋「IP アドレス」

帳票出力：「DBPARTNER2 Runtime」＋「実行プロセス ID」

(DB 別出力情報)

接続データベースによって異なる情報が出力されます。出力内容について次の表に示します。

表 B-7 接続データベースごとのトレース出力内容

接続データベース	出力内容	説明
HiRDB	PDHOST:	HiRDB 接続時の PDHOST の設定内容です。未設定の場合は、"Not Indicator" が出力されます。
	PDNAMEPORT:	HiRDB 接続時の PDNAMEPORT の設定内容です。未設定の場合は、"Not Indicator" が出力されます。
Oracle	SQLNET:	Oracle サービス（リスナー）名が出力されます。未設定の場合は、"Not Indicator" が出力されます。
Microsoft SQL Server	ODBC Data Source:	ODBC 設定のデータソース名が出力されます。未設定の場合は、"Not Indicator" が出力されず。

接続データベース	出力内容	説明
	ODBC Key Word:	ODBC 設定の接続情報が出力されます。未設定の場合は、"Not Indicator" が出力されます。

Lang Mode

実行言語モードが出力されます。

THREAD-ID

実行スレッド ID が出力されます。

CID

カーソル番号が出力されます。

EVT

DABroker がデータベースに要求した処理の内容です。内容の種類は任意に選択できます。拡張データベースアクセストレースで表示の種類を変更すると、従来のアクセストレース表示の種類も変更されます。

すべての表示を OFF にした場合はヘッダだけが出力されます。

従来のアクセストレースにはない EVT の表示とその処理内容を次に示します。表示を一つでも ON にした場合、GET_DIAG の表示を抑止できません。

表 B-8 EVT の表示と処理の内容（拡張データベースアクセストレースユティリティ）

EVT の表示	処理内容
DESC_OUT	前処理した SQL の出力情報を返します。
DESC_IN	前処理した SQL の入力情報を返します。
GET_DIAG	エラー詳細情報の取得処理を実行します。
BIND	パラメタのバインド要求を実行します。
DEFINE	パラメタの定義要求を実行します。
DESALLOC	記述子の領域確保を実行します。
DESFREE	記述子の領域解放を実行します。
ERRGET	エラー情報取得要求を実行します。
HDLALLOC	ハンドルの領域確保を実行します。
HEDLFREE	ハンドルの領域解放を実行します。
その他	省略

START-TIME

アクセス開始日時

YYYY/MM/DD hh:mm:ss.nnnnnn の形式で出力されます。

- YYYY : 西暦年
- MM : 月

- DD：日
- hh：時
- mm：分
- ss：秒
- nnnnnn：マイクロ秒

END-TIME

アクセス終了日時

YYYY/MM/DD hh:mm:ss.nnnnnn の形式で出力されます。

- YYYY：西暦年
- MM：月
- DD：日
- hh：時
- mm：分
- ss：秒
- nnnnnn：マイクロ秒

RETCODE

データベースから返されるリターンコードが出力されます。

BLOCKCNT

FETCH 時の行取得件数が出力されます。

(SQL)

クライアントから要求のあった SQL の内容が出力されます。この項目は、必要に応じて出力されます。

(d) ファイル名称

拡張データベースアクセストレースのファイルは、次のディレクトリに作成されます。

DABroker運用ディレクトリ¥spool¥db_access

拡張データベースアクセストレースのファイル名称は、次の規則に従います。

spdb_XXXXXXXX_YYYYYYYY_****ZZZZZ.IIIIII

- XXXXXXXX：実行プロセス ID ¹
- YYYYYYYY：データベース接続識別子
- ****：接続データベース名称 ²
- ZZZZZ：識別順序番号
- IIIII：ファイル拡張子
 - log：最新のトレースファイル
 - logold：1 世代前のトレースファイル

注 1

同じプロセス ID で、かつ同じデータベース接続識別子のファイルがある場合に、00000 から 32767 までの番号を付けます。

注 2

接続データベースの名称とその識別子を次に示します。

表 B-9 接続データベース名称と識別子

接続データベース名称	識別子
HiRDB	HiRDB Driver
Oracle	ORACLE7 Driver
Microsoft SQL Server	ODBC30

! 注意事項

- 拡張データベースアクセストレースのファイルを運用する際には、次の点に注意してください。
- 拡張データベースアクセストレースは、出力した行数が DABroker 動作環境定義ファイルでの設定行数を超えると、現在のトレースファイルがバックアップファイルとして別名で保存されます。トレース内容は、トレースファイルの先頭から再び出力されます。
 - バックアップファイルは 1 世代前までしか残しません。このため、現在のトレースファイルが設定した行数を超えると、既存のバックアップファイルは上書きされます。既存のバックアップファイルを保存する必要がある場合は、上書きされる前に別のディレクトリに退避してください。
 - トレースファイルは実行しているコネクションの数だけ作成されます。
 - トレースファイルは自動的に削除されません。ユーザが不要になった時点で削除してください。
 - ハードディスクの空き容量が不十分な場合、トレースの出力が停止されることがあります。

(4) DABroker メッセージログビューア

DABroker メッセージログビューアの機能、操作できるユーザ、DABroker のログを表示する操作手順について説明します。

(a) 機能

DABroker のログファイルの出力内容を参照できます。

(b) 操作できるユーザ

すべてのユーザが DABroker トレース出力ユーティリティを実行できます。

(c) DABroker のログを表示する操作手順

DABroker のログを表示する操作手順を次に示します。

1. プログラムフォルダに登録された [DABroker] から [メッセージログビューア] を選

択する


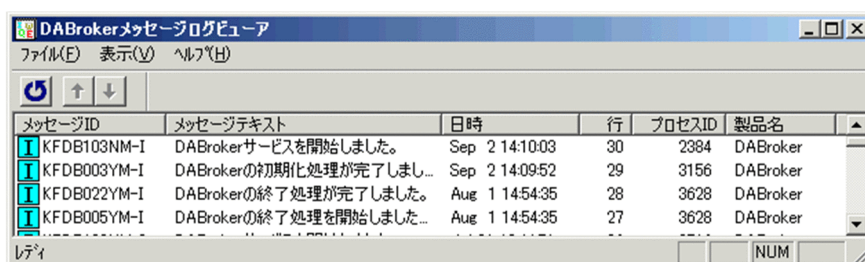
DABroker メッセージログビューアが起動します。 をクリックすると、最新のログに表示が更新されます。

図 B-6 DABroker メッセージログビューア



付録 B.4 DABroker の設定

DABroker のインストール，および環境設定については，「付録 B.1 セットアップ」またはマニュアル「DABroker」を参照してください。ここでは，DABroker の設定と，EUR で使用する場合の注意事項について説明します。

(1) ネットワーク環境の設定

DABroker を使用して，データベースへ接続するための設定をします。

(a) DABroker がインストールされているマシンでの設定

DABroker がインストールされているマシンでは，DABroker が通信するために，TCP/IP 環境での DABroker のサービス名とポート番号を，services ファイルに登録します。DABroker のサービス名の指定は省略できません。

- Windows 環境の場合

services ファイルは，「Windows インストールフォルダ ¥system32¥drivers¥etc」にあります。

- UNIX / Linux 環境の場合

services ファイルは，/etc 下にあります。

登録する内容

ポート番号の設定形式

サービス名 ポート番号 / 通信プロトコル種別

設定内容

サービス名には，DABroker のサービス名「DABROKER_SV」を指定します。

ポート番号は，DABroker が使用するポート番号を設定します。デフォルトは，「40179」です。

ほかのアプリケーションでポート番号 40179 を使用している場合は、5001 ~ 65535 の範囲で 40179 以外のポート番号を使用してください。なお、EUR サーバ帳票出力機能側でも同一のポート番号を使用してください。40179 以外のポート番号を使用する場合、ほかのサービス名で同一のポート番号を使用していないことを確認してください。

サービス名とポート番号の間には、半角空白を一つ以上設定してください。

通信プロトコル種別には、TCP/IP を使用することを表す「tcp」を指定します。

(記述例)

```
DABROKER_SV 40179/tcp
```

(b) EUR がインストールされているマシンでの設定

EUR が DABroker と別のマシンにインストールされている場合、DABroker に接続するために次の設定をします。

EUR がインストールされているマシンで、DABroker のサービス名「DABROKER_SV」とポート番号を、services ファイルに登録します。登録内容は、「(a) DABroker がインストールされているマシンでの設定」と同じにします。

サービス名の指定を省略した場合は、ポート番号に「40179」を使用します。

(2) DABroker の動作環境の設定

データベースから抽出する文字コードに合わせて、DABroker の動作環境の設定の文字コード (Shift JIS, UTF-8) を指定してください。DBPARTNER ODBC Driver を使用する場合、DABroker の動作環境の設定に使用できる文字コードは Shift JIS だけです。

DABroker の動作環境は、次のように設定します。

Windows 環境の場合

環境設定ユーティリティを使って設定します。環境設定ユーティリティは、スタートメニューの [DABroker] から [環境設定] をクリックすると、起動されます。

環境設定ユーティリティが起動されると、[DABroker 動作環境設定] ダイアログが表示されます。[DABroker 動作環境設定] ダイアログの [共通設定] タブと [リモートアクセス設定] タブの項目を設定します。[共通設定] タブと [リモートアクセス設定] タブの項目は、システム構成のマシン環境に合わせて設定してください。

注意

動作環境を設定する場合は、DABroker のサービスを停止してから、環境設定ユーティリティを起動してください。

UNIX / Linux 環境の場合

DABroker 動作環境定義ファイルに、DABroker の動作に関する情報を定義します。DABroker 動作環境定義ファイルは、「DABroker 運用ディレクトリ/conf」に格納されています。ファイルの構成内容については、マニュアル「DABroker」を参照してください。

(3) Oracle を使用する場合の設定

Oracle に接続する場合、DABroker の環境設定で、使用する Oracle のバージョン (Oracle9i, Oracle 10g, または Oracle 11g) を設定してください。

Oracle から抽出する文字コードを UTF-8 とする場合、DABroker がインストールされているマシンのシステム環境変数に、Oracle の環境変数 NLS_LANG を指定してください。NLS_LANG については、Oracle のマニュアルを参照してください。

(例) NLS_LANG=JAPANESE_JAPAN.UTF8

(4) XDM/RD E2 を使用する場合の設定

データベースとして XDM/RD E2 を使用する場合、EUR では、HiRDB クライアントの XDM/RD E2 接続機能を利用します。XDM/RD E2 を使用する場合の DABroker の環境設定は、HiRDB に接続するときと同じ設定にします。

DABroker で、「Database Connection Server 接続設定」を行う必要はありません。

(5) データベースのデータを利用する前の確認

システム管理者は EUR サーバ帳票出力機能での帳票出力を開始する前に、データベースと DABroker が起動されていることを確認してください。

付録 C 作業環境の言語との対応

EUR では、作業環境によって表示言語を切り替えたり、入力ファイルのエンコーディングを変更したりできます。ここでは、作業環境の言語と表示言語との対応、および作業環境の言語と入力ファイルのエンコーディング方式との対応について説明します。

付録 C.1 表示言語の切り替え

EUR では、OS ごとに次のように表示言語を切り替えます。

Windows 環境の場合

次の表に示すように、システムの表示言語に適合した言語で表示します。

表 C-1 Windows 環境での表示言語の切り替え

システムの表示言語	言語 ID	EUR での表示言語
日本語	1041	日本語
簡体中国語	2052	簡体中国語
英語	1033	英語
その他	-	英語

(凡例)

- : 該当しません。

UNIX / Linux 環境の場合

次の表に示すように、ロケール名に対応した言語で表示します。

表 C-2 UNIX / Linux 環境での表示言語の切り替え

OS	ロケール名	EUR での表示言語
HP-UX (IPF)	C	英語
	en_US	英語
	zh_CN	簡体中国語
	ja_JP	日本語
	その他	英語
AIX	C	英語
	en_US	英語
	zh_CN	簡体中国語
	Zh_CN	簡体中国語
	ZH_CN	簡体中国語
	ja_JP	日本語

OS	ロケール名	EUR での表示言語
Linux	Ja_JP	日本語
	JA_JP	日本語
	その他	英語
	C	英語
	en_US	英語
	zh_CN	簡体中国語
	ja_JP	日本語
	その他	英語

付録 C.2 入力ファイルのエンコーディング

EUR では、入力ファイルのデータの先頭に Unicode-BOM がある場合、Unicode として扱います。データの先頭に Unicode-BOM がない場合は、コードページに対応するシングルバイトまたはマルチバイトデータとして扱います。

(1) BOM と対応するエンコーディング

先頭に付与する BOM と対応するエンコーディングを、OS 環境ごとに次に示します。

Windows 環境の場合

Windows 環境での BOM と対応するエンコーディング方式を次の表に示します。

表 C-3 Windows 環境での BOM と対応するエンコーディング方式

BOM	エンコーディング方式
FEFF	UTF-16 (ビッグエンディアン)
FFFE	UTF-16 (リトルエンディアン)
EFBBBF	UTF-8
なし	対応する言語に従います。 詳細は、「付録 C.2(2) BOM がない場合のエンコーディング」を参照してください。

UNIX / Linux 環境の場合

UNIX / Linux 環境での BOM と対応するエンコーディング方式を次の表に示します。なお、UTF-8 の場合、Unicode-BOM の自動判定はありません。

表 C-4 UNIX / Linux 環境での BOM と対応するエンコーディング方式

BOM	エンコーディング方式
FEFF	UTF-16 (ビッグエンディアン)
FFFE	UTF-16 (リトルエンディアン)

BOM	エンコーディング方式
なし	対応する言語に従います。 詳細は、「付録 C.2(2) BOM がない場合のエンコーディング」を参照してください。

(2) BOM がない場合のエンコーディング

データの先頭に Unicode-BOM がない場合、入力ファイルのエンコーディングは、ファイルを入力する OS 環境の言語によって決定されます。入力ファイルを OS 環境の言語に対応したエンコーディングで変換した場合は、デフォルトのエンコーディングで変換されます。

Windows 環境の場合

デフォルトのエンコーディング方式は、次の表に示すように、コードページ別に設定されます。

表 C-5 Windows 環境でのコードページ別のエンコーディング方式

コードページ	言語	エンコーディング方式
1252	英語 (US)	Windows : CP1252
936	簡体中国語	GB-18030
932	日本語	Windows-31J
その他	-	ISO8859-1

(凡例)

- : 該当しません。

UNIX / Linux 環境の場合

デフォルトのエンコーディング方式は、次の表に示すように、ロケール名によって設定されます。

表 C-6 UNIX / Linux 環境でのロケール名ごとのエンコーディング方式

OS	ロケール名	エンコーディング方式
HP-UX (IPF)	C.iso88591	ISO8859-1
	en_US.iso885915	ISO8859-15
	ja_JP.SJIS	Windows-31J
	ja_JP.eucJP	EUCJP-ms 改
	zh_CN.utf8 ja_JP.utf8	UTF-8
	zh_CN.hp15CN	GB18030
	zh_CN.gb18030	GB18030
	その他	ISO8859-1

OS	ロケール名	エンコーディング方式
AIX	C	ISO8859-1
	en_US	ISO8859-15
	Ja_JP	Windows-31J
	ja_JP	EUCJP-ms 改
	ZH_CN JA_JP	UTF-8
	zh_CN	GB18030
	Zh_CN	GB18030
	その他	ISO8859-1
Linux	C.ISO-8859-1	ISO8859-1
	en_US.ISO-8859-15	ISO8859-15
	ja_JP.eucJP	EUCJP-ms 改
	zh_CN.UTF-8 ja_JP.UTF-8	UTF-8
	zh_CN.GB2312	GB18030
	zh_CN.GBK	GB18030
	zh_CN.GB18030	GB18030
	その他	ISO8859-1

注

EUR 固有のエンコーディング方式です。eucJP-ms のうち、次の文字は出力できません。

- ・ JISX0212 に含まれる文字
- ・ Windows-31J-IBM 拡張文字
- ・ UCS-2 の私用領域 (U+E000 ~ U+F8FF) に定義されている 6,400 字のうち、最初の 1,880 文字を除いた文字

(3) 注意事項

- JavaBeans 起動部品がサポートするエンコーディング
JavaBeans 起動部品がサポートするエンコーディングは、使用する J2SDK (Java 2 SDK, Standard Edition) のバージョンに依存します。
- HP-UX 11i V2(IPF) での環境変数 LANG についての注意
バージョン 05-08 以降では、HP-UX 11i V2(IPF) で環境変数 LANG が指定されていない場合、または指定できない値をその他のロケールで実行した場合、英語で出力されます。バージョン 05-06 以前ではこの場合、Shift JIS ロケールで実行されていました。

付録 D ラテン文字一覧

ラテン文字一覧を次に示します。

(1) 基本ラテン

x0020		x0034		x0048	H	x005C	\	x0070	p
x0021	!	x0035		x0049	I	x005D]	x0071	q
x0022	"	x0036		x004A	J	x005E	^	x0072	r
x0023	#	x0037		x004B	K	x005F	_	x0073	s
x0024	\$	x0038		x004C	L	x0060	`	x0074	t
x0025	%	x0039		x004D	M	x0061	a	x0075	u
x0026	&	x003A	:	x004E	N	x0062	b	x0076	v
x0027	'	x003B	;	x004F	O	x0063	c	x0077	w
x0028	(x003C	<	x0050	P	x0064	d	x0078	x
x0029)	x003D	=	x0051	Q	x0065	e	x0079	y
x002A	*	x003E	>	x0052	R	x0066	f	x007A	z
x002B	+	x003F	?	x0053	S	x0067	g	x007B	{
x002C	,	x0040	@	x0054	T	x0068	h	x007C	
x002D	-	x0041	A	x0055	U	x0069	i	x007D	}
x002E	.	x0042	B	x0056	V	x006A	j	x007E	~
x002F	/	x0043	C	x0057	W	x006B	k	x007F	.
x0030	0	x0044	D	x0058	X	x006C	l		
x0031	1	x0045	E	x0059	Y	x006D	m		
x0032	2	x0046	F	x005A	Z	x006E	n		
x0033	3	x0047	G	x005B	[x006F	o		

(2) ラテン補助

x0080	€	x0094	“	x00A8	”	x00BC	¼	x00D0	Ð	x00E4	ä	x00F8	ø
x0081	•	x0095	•	x00A9	©	x00BD	½	x00D1	Ñ	x00E5	å	x00F9	ù
x0082	,	x0096	—	x00AA	ª	x00BE	¾	x00D2	Ò	x00E6	æ	x00FA	ú
x0083	f	x0097	—	x00AB	«	x00BF	¿	x00D3	Ó	x00E7	ç	x00FB	û
x0084	„	x0098	~	x00AC	¬	x00C0	À	x00D4	Ô	x00E8	è	x00FC	ü
x0085	...	x0099	™	x00AD	—	x00C1	Á	x00D5	Õ	x00E9	é	x00FD	ý
x0086	†	x009A	š	x00AE	®	x00C2	Â	x00D6	Ö	x00EA	ê	x00FE	þ
x0087	‡	x009B	›	x00AF	—	x00C3	Ã	x00D7	×	x00EB	ë	x00FF	ÿ
x0088	^	x009C	œ	x00B0	°	x00C4	Ä	x00D8	Ø	x00EC	ì		
x0089	‰	x009D	□	x00B1	±	x00C5	Å	x00D9	Ù	x00ED	í		
x008A	Š	x009E	Ž	x00B2	²	x00C6	Æ	x00DA	Ú	x00EE	î		
x008B	<	x009F	Ÿ	x00B3	³	x00C7	Ç	x00DB	Û	x00EF	ï		
x008C	Ǝ	x00A0		x00B4	´	x00C8	È	x00DC	Ü	x00F0	ð		
x008D	□	x00A1	ı	x00B5	µ	x00C9	É	x00DD	Ý	x00F1	ñ		
x008E	Ž	x00A2	¢	x00B6	¶	x00CA	Ê	x00DE	Þ	x00F2	ò		
x008F	□	x00A3	£	x00B7	·	x00CB	Ë	x00DF	ß	x00F3	ó		
x0090	□	x00A4	¤	x00B8	,	x00CC	Ì	x00E0	à	x00F4	ô		
x0091	`	x00A5	¥	x00B9	¹	x00CD	Í	x00E1	á	x00F5	õ		
x0092	'	x00A6	¦	x00BA	º	x00CE	Î	x00E2	â	x00F6	ö		
x0093	“	x00A7	§	x00BB	»	x00CF	Ï	x00E3	ã	x00F7	÷		

(3) ラテン拡張 A

x0100	Ā	x0114	Ē	x0128	Ī	x013C	Ĵ	x0150	Ŏ	x0164	Ţ	x0178	Ÿ
x0101	ā	x0115	ē	x0129	ī	x013D	ĵ	x0151	ó	x0165	ţ	x0179	ž
x0102	Ă	x0116	Ė	x012A	Ĭ	x013E	Ĳ	x0152	œ	x0166	ț	x017A	ž
x0103	ă	x0117	ė	x012B	ĩ	x013F	ĳ	x0153	œ	x0167	ţ	x017B	ž
x0104	Ą	x0118	Ę	x012C	Ĳ	x0140	Ĵ	x0154	Ř	x0168	Ů	x017C	ž
x0105	ą	x0119	ę	x012D	ĳ	x0141	Ĵ	x0155	ř	x0169	ů	x017D	ž
x0106	Ć	x011A	Ė	x012E	Ĳ	x0142	Ĵ	x0156	Ř	x016A	Ů	x017E	ž
x0107	ć	x011B	ė	x012F	ĳ	x0143	Ń	x0157	ř	x016B	ů	x017F	ř
x0108	Ĉ	x011C	Ĝ	x0130	Ī	x0144	ŋ	x0158	Ř	x016C	Ů		
x0109	ĉ	x011D	ĝ	x0131	ı	x0145	ŋ	x0159	ř	x016D	ů		
x010A	Ĉ	x011E	Ĝ	x0132	Ĳ	x0146	ŋ	x015A	Š	x016E	Ů		
x010B	ĉ	x011F	ĝ	x0133	ij	x0147	Ń	x015B	š	x016F	ů		
x010C	Č	x0120	Ĝ	x0134	Ĳ	x0148	ň	x015C	Š	x0170	Ů		
x010D	č	x0121	ĝ	x0135	ĳ	x0149	h	x015D	š	x0171	ú		
x010E	Ď	x0122	Ĝ	x0136	Ĳ	x014A	Ů	x015E	Š	x0172	Ů		
x010F	d'	x0123	ĝ	x0137	ĳ	x014B	ŋ	x015F	š	x0173	Ů		
x0110	Đ	x0124	Ĳ	x0138	ĳ	x014C	Ů	x0160	Š	x0174	Ů		
x0111	đ	x0125	Ĳ	x0139	Ĳ	x014D	Ů	x0161	š	x0175	Ů		
x0112	Ě	x0126	Ĳ	x013A	Ĳ	x014E	Ů	x0162	Ť	x0176	Ů		
x0113	ě	x0127	h	x013B	Ĳ	x014F	Ů	x0163	ť	x0177	Ů		

(4) ラテン拡張 B

x0180	□	x019E	□	x01BC	□	x01DA	Ů	x01F8	□	x0216	□	x0234	□
x0181	□	x019F	□	x01BD	□	x01DB	Ű	x01F9	□	x0217	□	x0235	□
x0182	□	x01A0	Œ	x01BE	□	x01DC	Ũ	x01FA	Ǻ	x0218	□	x0236	□
x0183	□	x01A1	◊	x01BF	□	x01DD	□	x01FB	ǻ	x0219	□	x0237	□
x0184	□	x01A2	□	x01C0	□	x01DE	□	x01FC	Æ	x021A	□	x0238	□
x0185	□	x01A3	□	x01C1	□	x01DF	□	x01FD	œ	x021B	□	x0239	□
x0186	□	x01A4	□	x01C2	□	x01E0	□	x01FE	ø	x021C	□	x023A	□
x0187	□	x01A5	□	x01C3	□	x01E1	□	x01FF	ó	x021D	□	x023B	□
x0188	□	x01A6	□	x01C4	□	x01E2	□	x0200	□	x021E	□	x023C	□
x0189	□	x01A7	□	x01C5	□	x01E3	□	x0201	□	x021F	□	x023D	□
x018A	□	x01A8	□	x01C6	□	x01E4	□	x0202	□	x0220	□	x023E	□
x018B	□	x01A9	□	x01C7	□	x01E5	□	x0203	□	x0221	□	x023F	□
x018C	□	x01AA	□	x01C8	□	x01E6	□	x0204	□	x0222	□	x0240	□
x018D	□	x01AB	□	x01C9	□	x01E7	□	x0205	□	x0223	□	x0241	□
x018E	□	x01AC	□	x01CA	□	x01E8	□	x0206	□	x0224	□	x0242	□
x018F	□	x01AD	□	x01CB	□	x01E9	□	x0207	□	x0225	□	x0243	□
x0190	□	x01AE	□	x01CC	□	x01EA	□	x0208	□	x0226	□	x0244	□
x0191	□	x01AF	Ů	x01CD	Ǻ	x01EB	□	x0209	□	x0227	□	x0245	□
x0192	f	x01B0	u	x01CE	ǻ	x01EC	□	x020A	□	x0228	□	x0246	□
x0193	□	x01B1	□	x01CF	ǻ	x01ED	□	x020B	□	x0229	□	x0247	□
x0194	□	x01B2	□	x01D0	ǻ	x01EE	□	x020C	□	x022A	□	x0248	□
x0195	□	x01B3	□	x01D1	Ō	x01EF	□	x020D	□	x022B	□	x0249	□
x0196	□	x01B4	□	x01D2	ǻ	x01F0	□	x020E	□	x022C	□	x024A	□
x0197	□	x01B5	□	x01D3	Ű	x01F1	□	x020F	□	x022D	□	x024B	□
x0198	□	x01B6	□	x01D4	ŭ	x01F2	□	x0210	□	x022E	□	x024C	□
x0199	□	x01B7	□	x01D5	Ů	x01F3	□	x0211	□	x022F	□	x024D	□
x019A	□	x01B8	□	x01D6	ŭ	x01F4	□	x0212	□	x0230	□	x024E	□
x019B	□	x01B9	□	x01D7	Ů	x01F5	ǻ	x0213	□	x0231	□	x024F	□
x019C	□	x01BA	□	x01D8	ŭ	x01F6	□	x0214	□	x0232	□		
x019D	□	x01BB	□	x01D9	Ů	x01F7	□	x0215	□	x0233	□		

付録 E このマニュアルの参考情報

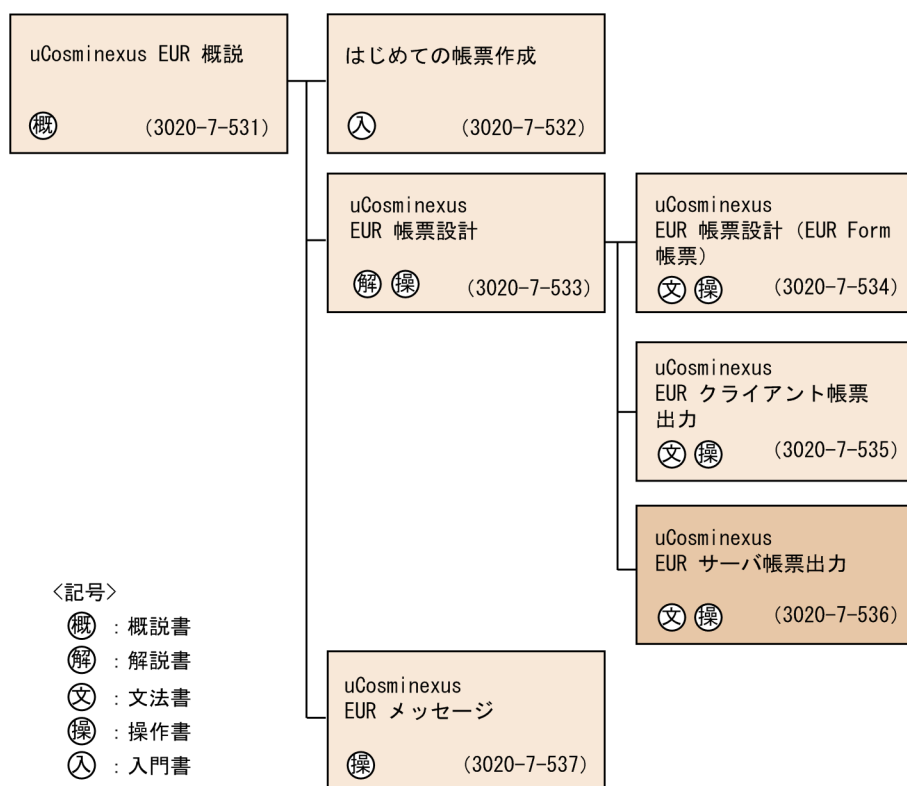
このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

付録 E.1 関連マニュアル

関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

(1) EUR のマニュアル

EUR の関連マニュアルを次に示します。



- uCosminexus EUR 概説 (3020-7-531)
EUR とはどのような製品であるか、どんなことができるのか、uCosminexus EUR を使用する利点はどのようなものかについて説明しています。また、シリーズマニュアル内で使用する用語についても説明しています。
- はじめての帳票作成 (3020-7-532)
EUR 帳票作成機能をまだ使用したことのない人向けに、簡単な帳票を作成する方法について説明しています。
- uCosminexus EUR 帳票設計 (3020-7-533)

EUR 帳票作成機能を使用して帳票を設計する方法について説明しています。

- uCosminexus EUR 帳票設計 (EUR Form 帳票) (3020-7-534)
EUR Form 帳票作成機能を使用して EUR Form 帳票を作成する方法について説明しています。
- uCosminexus EUR クライアント帳票出力 (3020-7-535)
EUR クライアント帳票出力機能を使用してクライアント環境で帳票を出力する方法について説明しています。
- uCosminexus EUR サーバ帳票出力 (3020-7-536)
このマニュアルです。EUR サーバ帳票出力機能を使用してサーバ環境で帳票を出力する方法について説明しています。
- uCosminexus EUR メッセージ (3020-7-537)
EUR を使用しているときに出力されるメッセージについて説明しています。

(2) EUR Print Manager のマニュアル

EUR Print Manager は、EUR Designer で設計した帳票を分散印刷環境で出力する製品です。EUR Print Manager の関連マニュアルを次に示します。

- uCosminexus EUR Print Manager 帳票出力 (3020-7-538)
EUR Print Manager を使用して分散印刷環境で帳票を出力する方法について説明しています。

(3) 関連ソフトウェアのマニュアル

関連ソフトウェアのマニュアルを次に示します。

- DABroker (3020-6-031)
- HiRDB Version 7 UAP 開発ガイド (UNIX(R)/Windows(R) 用) (3000-6-276)
- HiRDB Version 7 UAP 開発ガイド (Windows(R) 用) (3020-6-276)
- HiRDB Version 7 メッセージ (UNIX(R)/Windows(R) 用) (3000-6-278)
- HiRDB Version 7 メッセージ (Windows(R) 用) (3020-6-278)
- HiRDB Version 8 UAP 開発ガイド (3020-6-356)
- HiRDB Version 8 メッセージ (3020-6-358)
- HiRDB Version 9 UAP 開発ガイド (3020-6-456)
- HiRDB Version 9 メッセージ (3020-6-458)
- ServerConductor/DeploymentManager ユーザーズガイド (3020-3-E49)

(4) このマニュアルでのマニュアル名表記

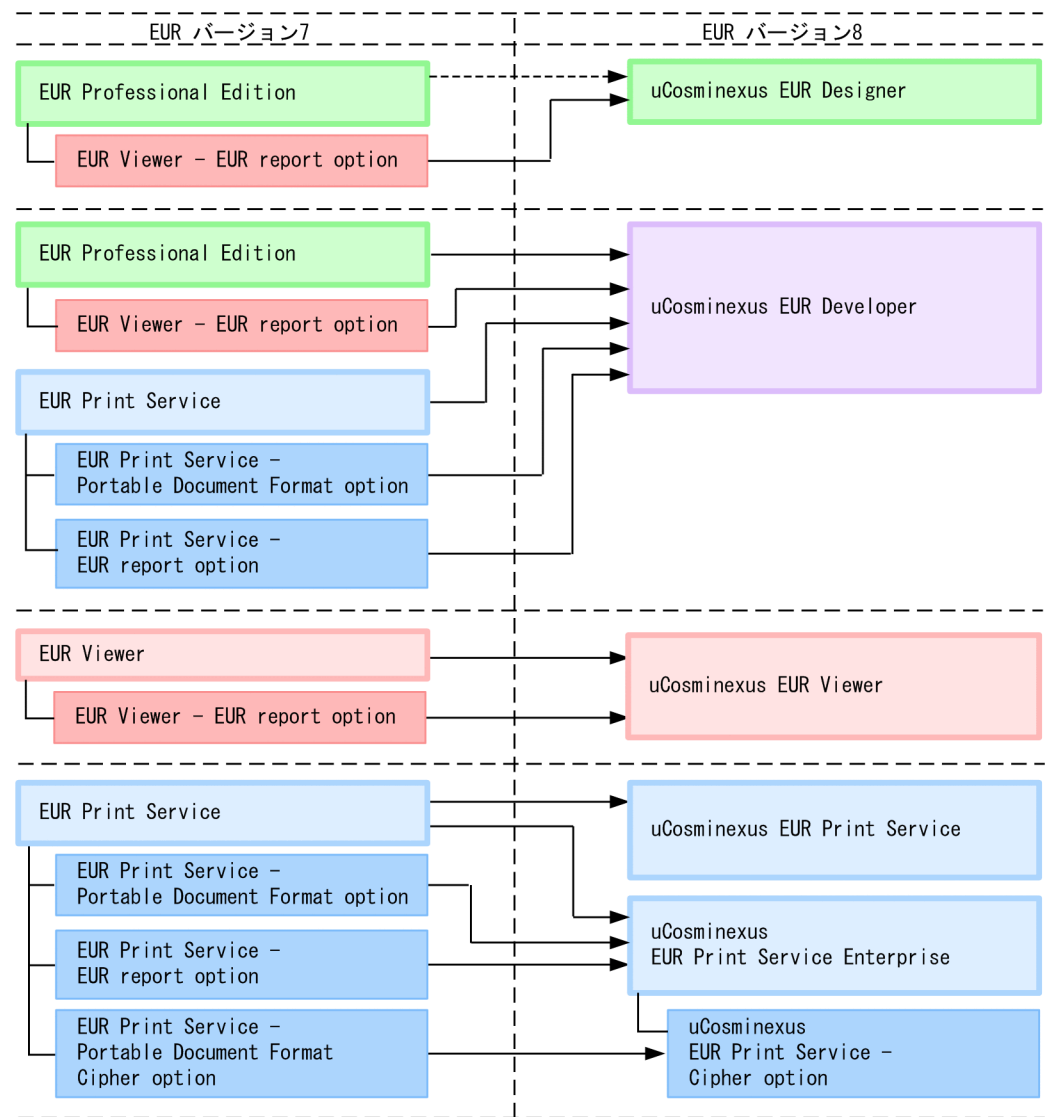
このマニュアルでは、マニュアル名について、次のように表記しています。

マニュアル名	表記
uCosminexus EUR 概説	EUR 概説

マニュアル名	表記
uCosminexus EUR 帳票設計	EUR 帳票設計
uCosminexus EUR 帳票設計 (EUR Form 帳票)	EUR 帳票設計 (EUR Form 帳票)
uCosminexus EUR クライアント帳票出力	EUR クライアント帳票出力
uCosminexus EUR メッセージ	EUR メッセージ
uCosminexus EUR Print Manager 帳票出力	EUR Print Manager 帳票出力
HiRDB Version 7 UAP 開発ガイド (UNIX(R)/Windows(R) 用)	HiRDB UAP 開発ガイド
HiRDB Version 7 UAP 開発ガイド (Windows(R) 用)	
HiRDB Version 8 UAP 開発ガイド	
HiRDB Version 9 UAP 開発ガイド	
HiRDB Version 7 メッセージ (UNIX(R)/Windows(R) 用)	HiRDB メッセージ
HiRDB Version 7 メッセージ (Windows(R) 用)	
HiRDB Version 8 メッセージ	
HiRDB Version 9 メッセージ	

付録 E.2 EUR バージョン 8 での製品体系の変更

EUR バージョン 8 での製品体系の変更について、次の図に示します。



- (凡例)
- : 製品のすべての機能を移行先の製品へ引き継ぎます。
 - >: Form帳票作成機能を除く、すべての機能を移行先の製品へ引き継ぎます。
 - : □で示す製品の付加製品であることを示します。

付録 E.3 EUR バージョン 8 でのマニュアル体系の変更

EUR バージョン 8 では、マニュアル体系を変更しました。体系変更後の各マニュアルの記載内容を次の表に示しますので、利用目的に応じてご利用ください。

マニュアル名		記載内容の概略
バージョン 7	バージョン 8	
EUR 概説 (3 章・4 章以外)	uCosminexus EUR 概説	<ul style="list-style-type: none"> 製品・機能概要 EUR シリーズの製品紹介
EUR 概説 (3 章)	uCosminexus EUR 帳票設計	<ul style="list-style-type: none"> 表紙のある帳票の作成概要 複数様式の帳票の作成概要
EUR 概説 (4 章)	はじめての帳票作成	帳票を作成する手順
EUR 帳票設計	uCosminexus EUR 帳票設計	EUR 帳票作成機能を使用した帳票設計
EUR 帳票設計 (EUR Form 帳票)	uCosminexus EUR 帳票設計 (EUR Form 帳票)	EUR 帳票作成機能 (EUR Form 帳票) を使用した帳票設計
EUR 帳票出力	uCosminexus EUR クライアント帳票出力	EUR クライアント帳票出力機能を使用した帳票出力
EUR Print Service 帳票出力	uCosminexus EUR サーバ帳票出力	EUR サーバ帳票出力機能を使用した帳票出力
EUR メッセージ	uCosminexus EUR メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> EUR 帳票作成機能, EUR クライアント帳票出力機能のメッセージ EUR 帳票作成機能 (EUR Form 帳票) のメッセージ EUR サーバ帳票出力機能のメッセージ DABroker のメッセージ

付録 E.4 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは, uCosminexus EUR の各製品について, 次のように表記しています。

製品名称	表記
uCosminexus EUR Designer	EUR Designer
uCosminexus EUR Developer	EUR Developer
uCosminexus EUR Viewer	EUR Viewer
uCosminexus EUR Print Service	EUR Print Service
uCosminexus EUR Print Service Enterprise	EUR Print Service Enterprise
uCosminexus EUR Print Service - Cipher option	EUR Print Service - Cipher option
uCosminexus EUR Print Manager	EUR Print Manager

uCosminexus EUR 以外の製品名称などについては, 次のように表記しています。

製品名称	表記	
AIX 5L V5.3 AIX V6.1 AIX V7.1	AIX	
DABroker 03-05 以降 DABroker 03-07 以降 DABroker 03-11-/A 以降 DABroker 03-13 以降 DABroker 03-15 以降 DABroker 03-16 以降	DABroker	
HiRDB/Run Time Version 7 07-00 以降 HiRDB/Developer's Kit Version 7 07-00 以降 HiRDB/Run Time Version 7(64) 07-00 以降 HiRDB/Developer's Kit Version 7(64) 07-00 以降 HiRDB/Run Time Version 8 08-00 以降 HiRDB/Developer's Kit Version 8 08-00 以降 HiRDB/Run Time Version 8(64) 08-00 以降 HiRDB/Developer's Kit Version 8(64) 08-00 以降 HiRDB/Run Time Version 9 09-00 以降 HiRDB/Developer's Kit Version 9 09-00 以降 HiRDB/Developer's Suite Version 9 09-00 以降 HiRDB/Run Time Version 9(64) 09-00 以降 HiRDB/Developer's Kit Version 9(64) 09-00 以降 HiRDB Server Version 9 09-00 以降 HiRDB Server with Additional Function Version 9 09-00 以降	HiRDB	
HP-UX 11i V2(IPF) HP-UX 11i V3(IPF)	HP-UX	
Itanium(R) Processor Family	IPF	
JP1/Network Printing System 07-00 以降	JP1/Network Printing System	JP1
Red Hat Enterprise Linux(R) 5(AMD/Intel 64) Red Hat Enterprise Linux(R) 5(x86) Red Hat Enterprise Linux(R) 5 Advanced Platform(AMD/Intel 64) Red Hat Enterprise Linux(R) 5 Advanced Platform(x86) Red Hat Enterprise Linux(R) AS 4(AMD64 & Intel EM64T) Red Hat Enterprise Linux(R) AS 4(x86) Red Hat Enterprise Linux(R) ES 4(AMD64 & Intel EM64T) Red Hat Enterprise Linux(R) ES 4(x86)	Linux	
Oracle9i 9.0.1 Oracle9i 9.2.0	Oracle9i	Oracle
Oracle 10g 10.1.0 Oracle 10g 10.2.0	Oracle 10g	
Oracle Database 11g 11.1.0 Oracle Database 11g R2 11.2.0	Oracle 11g	
VOS3 XDM/RD E2	XDM/RD E2	

このほか、このマニュアルでは、次に示す表記を使用しています。

EUR の各製品を区別する必要がない場合は、総称して EUR と表記します。

EUR Designer , EUR Developer の帳票作成機能と、次に示す製品を「EUR 帳票作成機能」と表記します。

P-26D2-3274	EUR Professional Edition	07-50 以降
P-26D2-3254	EUR Professional Edition	05-00 以降
P-26D2-3244	EUR Professional Edition	04-01 以降
P-26D2-3134	EUR	03-00 以降
P-26D2-3234	EUR Professional Edition	03-00 以降
P-2651-8534	SEWB+/EUR Professional Edition	03-00 以降

EUR Developer の EUR Form 帳票作成機能を「EUR 帳票作成機能 (EUR Form 帳票)」と表記します。

EUR Designer , EUR Developer , EUR Viewer のクライアント環境での帳票出力機能を「EUR クライアント帳票出力機能」と表記します。

EUR Developer , EUR Print Service , EUR Print Service Enterprise のサーバ環境での帳票出力機能を「EUR サーバ帳票出力機能」と表記します。

付録 E.5 このマニュアルで使用する略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	英字での表記
API	Application Programming Interface
ASCII	American Standard Code for Information Interchange
ASP	Active Server Pages
BSD	Berkeley Software Distribution
CSV	Comma Separated Value
DCT	Discrete Cosine Transform
DLL	Dynamic Linking Library
dpi	dot per inch
EJB	Enterprise JavaBeans
EUC	Extended UNIX Code
EUR	End-User Reporting
FTP	File Transfer Protocol
GIF	Graphics Interchange Format
GUI	Graphical User Interface
J2EE	Java 2 Platform, Enterprise Edition
JAR	Java ARchive File

英略語	英字での表記
JFIF	JPEG File Interchange Format
JIS	Japanese Industrial Standards
JPEG	Joint Photographic Experts Group
JSP	Java Server Pages
LAN	Local Area Network
LP	Line Printer
MIME	Multipurpose Internet Mail Extension
PDF	Portable Document Format
PDL	Page Description Language
RGB	Red Green Blue
SDK	Software Development Kit
TIFF	Tagged Image File Format
UAP	User Application Program
WAN	Wide Area Network
WAR	Web ARchive Format

付録 E.6 適用 OS の違いによる機能相違点の表記

このマニュアルでは、適用 OS によって機能差がある場合、次に示す表記を使用して、それぞれの説明に OS 名を明記しています。

表記	意味
Windows 環境の場合	<p>次のどちらかに該当します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows Server 2003 Windows Server 2008 <p>ただし、EUR Developer で EUR サーバ帳票出力機能を使用する場合は、次のどれかに該当します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows 7 Windows Vista Windows XP
UNIX 環境の場合	<p>次のどれかに該当します。</p> <ul style="list-style-type: none"> HP-UX 11i V2(IPF) HP-UX 11i V3(IPF) AIX 5L V5.3 AIX V6.1 AIX V7.1 <p>ただし、機能差がある場合は、「HP-UX 環境の場合」、または「AIX 環境の場合」と表記します。</p>

表記	意味
Linux 環境の場合	<p>次のどれかに該当します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Red Hat Enterprise Linux 5(AMD/Intel 64) Red Hat Enterprise Linux 5(x86) Red Hat Enterprise Linux 5 Advanced Platform(AMD/Intel 64) Red Hat Enterprise Linux 5 Advanced Platform(x86) Red Hat Enterprise Linux AS 4(AMD64 & Intel EM64T) Red Hat Enterprise Linux AS 4(x86) Red Hat Enterprise Linux ES 4(AMD64 & Intel EM64T) Red Hat Enterprise Linux ES 4(x86)

付録 E.7 インストール先フォルダの表記

このマニュアルでは、EUR Developer、EUR Print Service、および EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダについて、次のように併記されている場合があります。

EUR Developer、または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

EUR Developer、EUR Print Service、または EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

このとき、インストール先のフォルダは製品ごとに次のとおりとなります。

製品名称	インストール先のフォルダ
EUR Developer	EUR Developer のインストール先フォルダ ¥EUR Print Service
EUR Print Service	EUR Print Service のインストール先フォルダ
EUR Print Service Enterprise	EUR Print Service Enterprise のインストール先フォルダ

付録 E.8 関連するプログラムプロダクト

次に示す関連ソフトウェアと連携することで、帳票を出力したり、閲覧したりできます。

uCosminexus EUR Print Service Enterprise と uCosminexus EUR Print Service - Cipher option を組み合わせて使用するときは、同じリビジョン番号の製品を使用してください。

使用する機能	関連するプログラムプロダクト																																													
データベースと連携して帳票を出力する場合	<p>次に示す関連ソフトウェアのどれかと連携することで、データベースからデータを読み込んで帳票を出力できます。</p> <ul style="list-style-type: none">DABroker の言語モードが Shift JIS のとき<table><tr><td>P-2463-2254</td><td>DABroker</td><td>03-05 以降</td></tr><tr><td>P-2463-2354</td><td>DABroker</td><td>03-15 以降</td></tr><tr><td>P-2463-2364</td><td>DABroker</td><td>03-15 以降</td></tr><tr><td>P-1B63-2351</td><td>DABroker</td><td>03-05 以降</td></tr><tr><td>P-9D63-2251</td><td>DABroker</td><td>03-05 以降</td></tr><tr><td>P-1M63-2251</td><td>DABroker</td><td>03-05 以降</td></tr><tr><td>P-1J63-2451</td><td>DABroker</td><td>03-07 以降</td></tr></table>DABroker の言語モードが UTF-8 で、かつ使用するデータベースが HiRDB または Oracle のとき<table><tr><td>P-2463-2254</td><td>DABroker</td><td>03-11/A 以降</td></tr><tr><td>P-2463-2354</td><td>DABroker</td><td>03-15 以降</td></tr><tr><td>P-2463-2364</td><td>DABroker</td><td>03-15 以降</td></tr><tr><td>P-9D63-2251</td><td>DABroker</td><td>03-13 以降</td></tr><tr><td>P-1J63-2451</td><td>DABroker</td><td>03-13 以降</td></tr><tr><td>P-1M63-2251</td><td>DABroker</td><td>03-13 以降</td></tr></table>DABroker の言語モードが UTF-8 で、かつ使用するデータベースが SQL Server のとき<table><tr><td>P-2463-2354</td><td>DABroker</td><td>03-16 以降</td></tr><tr><td>P-2463-2364</td><td>DABroker</td><td>03-16 以降</td></tr></table>	P-2463-2254	DABroker	03-05 以降	P-2463-2354	DABroker	03-15 以降	P-2463-2364	DABroker	03-15 以降	P-1B63-2351	DABroker	03-05 以降	P-9D63-2251	DABroker	03-05 以降	P-1M63-2251	DABroker	03-05 以降	P-1J63-2451	DABroker	03-07 以降	P-2463-2254	DABroker	03-11/A 以降	P-2463-2354	DABroker	03-15 以降	P-2463-2364	DABroker	03-15 以降	P-9D63-2251	DABroker	03-13 以降	P-1J63-2451	DABroker	03-13 以降	P-1M63-2251	DABroker	03-13 以降	P-2463-2354	DABroker	03-16 以降	P-2463-2364	DABroker	03-16 以降
P-2463-2254	DABroker	03-05 以降																																												
P-2463-2354	DABroker	03-15 以降																																												
P-2463-2364	DABroker	03-15 以降																																												
P-1B63-2351	DABroker	03-05 以降																																												
P-9D63-2251	DABroker	03-05 以降																																												
P-1M63-2251	DABroker	03-05 以降																																												
P-1J63-2451	DABroker	03-07 以降																																												
P-2463-2254	DABroker	03-11/A 以降																																												
P-2463-2354	DABroker	03-15 以降																																												
P-2463-2364	DABroker	03-15 以降																																												
P-9D63-2251	DABroker	03-13 以降																																												
P-1J63-2451	DABroker	03-13 以降																																												
P-1M63-2251	DABroker	03-13 以降																																												
P-2463-2354	DABroker	03-16 以降																																												
P-2463-2364	DABroker	03-16 以降																																												

使用する機能	関連するプログラムプロダクト
データベースとして HiRDB または VOS3 XDM/RD E2 を利用する場合	<p>次に示す関連ソフトウェアのどれかが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • P-1B62-1B71 HiRDB/Run Time Version 7 07-00 以降 • P-1B62-1C71 HiRDB/Developer's Kit Version 7 07-00 以降 • P-1B62-1D71 HiRDB/Run Time Version 7(64) 07-00 以降 • P-1B62-1E71 HiRDB/Developer's Kit Version 7(64) 07-00 以降 • P-2662-1174 HiRDB/Run Time Version 7 07-00 以降 • P-2662-1274 HiRDB/Developer's Kit Version 7 07-00 以降 • P-9D62-1B71 HiRDB/Run Time Version 7 07-00 以降 • P-9D62-1C71 HiRDB/Developer's Kit Version 7 07-00 以降 • P-9D62-1D71 HiRDB/Run Time Version 7(64) 07-00 以降 • P-9D62-1E71 HiRDB/Developer's Kit Version 7(64) 07-00 以降 • P-1M62-1B71 HiRDB/Run Time Version 7 07-00 以降 • P-1M62-1C71 HiRDB/Developer's Kit Version 7 07-00 以降 • P-1M62-1D71 HiRDB/Run Time Version 7(64) 07-00 以降 • P-1M62-1E71 HiRDB/Developer's Kit Version 7(64) 07-00 以降 • P-1B62-1B81 HiRDB/Run Time Version 8 08-00 以降 • P-1B62-1C81 HiRDB/Developer's Kit Version 8 08-00 以降 • P-1B62-1D81 HiRDB/Run Time Version 8(64) 08-00 以降 • P-1B62-1E81 HiRDB/Developer's Kit Version 8(64) 08-00 以降 • P-2662-1184 HiRDB/Run Time Version 8 08-00 以降 • P-2662-1284 HiRDB/Developer's Kit Version 8 08-00 以降 • P-9D62-1B81 HiRDB/Run Time Version 8 08-00 以降 • P-9D62-1C81 HiRDB/Developer's Kit Version 8 08-00 以降 • P-9D62-1D81 HiRDB/Run Time Version 8(64) 08-00 以降 • P-9D62-1E81 HiRDB/Developer's Kit Version 8(64) 08-00 以降 • P-1M62-1B81 HiRDB/Run Time Version 8 08-00 以降 • P-1M62-1C81 HiRDB/Developer's Kit Version 8 08-00 以降 • P-1M62-1D81 HiRDB/Run Time Version 8(64) 08-00 以降 • P-1M62-1E81 HiRDB/Developer's Kit Version 8(64) 08-00 以降

使用する機能	関連するプログラムプロダクト		
		<ul style="list-style-type: none">• P-2662-1194 HiRDB/Run Time Version 9 09-00 以降• P-2662-1294 HiRDB/Developer's Kit Version 9 09-00 以降• P-2662-3294 HiRDB/Developer's Suite Version 9 09-00 以降• P-1J62-1D91 HiRDB/Run Time Version 9(64) 09-00 以降• P-1J62-1E91 HiRDB/Developer's Kit Version 9(64) 09-00 以降• P-1J62-3591 HiRDB Server Version 9 09-00 以降• P-1J62-3691 HiRDB Server with Additional Function Version 9 09-00 以降	
	データベースとして Oracle を利用する場合	次に示す関連ソフトウェアのどれかが必要です。 <ul style="list-style-type: none">• Oracle9i 9.0.1• Oracle9i 9.2.0• Oracle 10g 10.1.0• Oracle 10g 10.2.0• Oracle Database 11g 11.1.0• Oracle Database 11g R2 11.2.0	
	データベースとして SQL Server を利用する場合	次に示す関連ソフトウェアのどれかが必要です。 <ul style="list-style-type: none">• Microsoft(R) SQL Server 2000• Microsoft(R) SQL Server 2005• Microsoft(R) SQL Server 2008• Microsoft(R) SQL Server 2008 R2	
JP1 と連携して仕分け印刷する場合	<ul style="list-style-type: none">• Windows Server 2003 のとき P-2412-6M74 JP1/Network Printing System 07-00 以降• Windows 2000 のとき P-2412-4M74 JP1/Network Printing System 07-00 以降		
PDF 形式ファイルを閲覧する場合	Windows 版 Adobe Reader 7 以降		
Excel 形式ファイルを閲覧・出力する場合	<ul style="list-style-type: none">• Microsoft(R) Office Excel 2007• Microsoft(R) Office Excel 2010		
紙の番人と連携して PDF 形式ファイルを出力する場合	<ul style="list-style-type: none">• 複写検知画像または地紋透かしを PDF に埋め込むとき 紙の番人 PDF 機能 03-00• PDF 形式ファイルに埋め込むための複写検知画像を作成するとき 紙の番人 複写検知デザインエディタ 03-01• 地紋透かしの検証を行うとき 紙の番人 改ざん検知機能 03-01		
ActiveX 起動部品を Web 環境で動作させる場合	<ul style="list-style-type: none">• Windows Server 2003 のとき Microsoft(R) Internet Information Services 6.0• Windows Server 2008 のとき Microsoft(R) Internet Information Services 7.0		
ActiveX 起動部品でアプリケーションを作成する場合	Microsoft(R) Visual Basic(R) .NET 2003 Microsoft(R) Visual Basic(R) 2005 SP1 Microsoft(R) Visual Basic(R) 2008 Microsoft(R) Visual C# 2005 SP1 Microsoft(R) Visual C# 2008		

使用する機能	関連するプログラムプロダクト
JavaBeans 起動部品を使用して帳票を出力する場合	Java 2 SDK, Standard Edition 1.4 Java 2 Platform Standard Edition Development Kit 5.0
日立電子帳票システムと連携する場合	C-7810-200 HOPSS3/AS REV/OSE 07-00 以降

付録 E.9 KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）, 1MB（メガバイト）, 1GB（ギガバイト）, 1TB（テラバイト）はそれぞれ 1,024 バイト, $1,024^2$ バイト, $1,024^3$ バイト, $1,024^4$ バイトです。

索引

記号

/bm 109
/bmf 109
/c 110
/cry 111
/cryf 111
/df 112
/dif 113
/ds 114
/dsf 114
/e 115
/ecrypk 116
/envfile 131
/f 116
/fwm 117
/g 117
/h 118
/i 118
/jsc 119
/m 120
/mfd 120
/mrs 121
/n 122
/nomessage | /message 122
/o 122
/p 123
/pf 124
/pi 124
/pnf 126
/pvp 126
/rif 127
/s 128
/t 128
/tc 129
/tint 130

数字

16 進文字列の QR コードを使用するときの
注意 709

A

Acrobat JavaScript 定義ファイル 579
Acrobat JavaScript ファイル 578
ActiveX オブジェクト 184
ActiveX オブジェクトが提供するプロパティ
〔ファイル出力〕 191
ActiveX オブジェクトが提供するプロパティ
〔プリンタ出力〕 189
ActiveX オブジェクトが提供するプロパティ
一覧 189
ActiveX オブジェクトが提供するメソッド一
覧 189
ActiveX オブジェクト実行時の終了コード一
覧 237
ActiveX オブジェクトのエラー出力 653
ActiveX オブジェクトの構文 184
ActiveX サーバコンポーネント 184
ASP.NET 環境でコーディングするときの注
意 717
AUTHOR〔文書情報設定ファイルのキー
ワード〕 464

B

BindingAdjust〔プリンタ定義ファイルの
キーワード〕 477
BOOKMARK〔文書しおり定義ファイルの
キーワード〕 543
BookmarkFileName プロパティ〔ActiveX
オブジェクト〕 200
BookmarkFilePath プロパティ〔ActiveX オ
ブジェクト〕 201
BREAKFLD〔しおり定義ファイルのキー
ワード〕 547

C

Cassettes〔プリンタ定義ファイルのキー
ワード〕 480
CODE128PARAM〔プリンタ定義ファイル
のキーワード〕 485

CODE128PATTERN〔プリンタ定義ファイルのキーワード〕 487
 CODE39PARAM〔プリンタ定義ファイルのキーワード〕 483
 Color〔プリンタ定義ファイルのキーワード〕 480
 Command〔プリンタ定義ファイルのキーワード〕 481
 CryptoFileName プロパティ〔ActiveX オブジェクト〕 202
 CryptoFilePath プロパティ〔ActiveX オブジェクト〕 202
 Crypto プロパティ〔ActiveX オブジェクト〕 201
 CSV 形式 (DAT 形式) のデータ形式〔EUR サーバ帳票出力機能で扱えるデータファイル〕 447
 CSV 形式のデータファイルに空データを指定する場合 451
 CSV 形式ファイルに出力されるデータ 32
 CSV 形式ファイルに出力する手順 28
 CSV 形式ファイルの出力形式 30

D

DABroker 管理ユーティリティ 755
 DABroker と HiRDB を別マシンにインストールしているときの注意 521
 DABroker と Oracle を別マシンにインストールしているときの注意 521
 DABroker トレース出力ユーティリティ 755
 DABroker の起動中に使用できるユーティリティ 755
 DABroker の起動と終了 753
 DABroker の利用 741
 DABroker メッセージログビューア 755
 DataFileName プロパティ〔ActiveX オブジェクト〕 203
 DataFilePath プロパティ〔ActiveX オブジェクト〕 204
 DATA 行〔PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合の PDF 仕分け定義ファイル〕 537

DATA 行〔PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合の PDF 仕分け定義ファイル〕 533
 DBInfoFileName プロパティ〔ActiveX オブジェクト〕 204
 DBInfoFilePath プロパティ〔ActiveX オブジェクト〕 205
 DefaultCassette〔プリンタ定義ファイルのキーワード〕 480
 DisableAdd〔暗号化設定ファイルのキーワード〕 553
 DisableChange〔暗号化設定ファイルのキーワード〕 553
 DisableCopy〔暗号化設定ファイルのキーワード〕 553
 DisablePrint〔暗号化設定ファイルのキーワード〕 552
 DistributeFileName プロパティ〔ActiveX オブジェクト〕 206
 DistributeFilePath プロパティ〔ActiveX オブジェクト〕 207
 DistributionInfoFile プロパティ〔ActiveX オブジェクト〕 207
 DocBookmarkFileName プロパティ〔ActiveX オブジェクト〕 208
 DocInfoFileName プロパティ〔ActiveX オブジェクト〕 209
 DocInfoFilePath プロパティ〔ActiveX オブジェクト〕 209
 Duplex〔プリンタ定義ファイルのキーワード〕 475
 DuplexBinding〔プリンタ定義ファイルのキーワード〕 475

E

EmbedCount〔プリンタ定義ファイルのキーワード〕 487
 EmbedN〔プリンタ定義ファイルのキーワード〕 488
 EncryptionPasswordKey プロパティ〔ActiveX オブジェクト〕 210
 EPS-XLSX ログ 661
 EPS-XLSX ログの出力形式 663

- Err.Description プロパティ〔ActiveX オブジェクト〕 239
- Err.Number プロパティ〔ActiveX オブジェクト〕 237
- ESC/P 対応プリンタ出力用の環境変数 641
- EUR Developer の上書きインストール時の注意 732
- eurer コマンド 27
- EUR Print Service Enterprise の上書きインストール時の注意 732
- EUR Print Service の上書きインストール時の注意 732
- eurps.log〔ログファイル名〕 658
- EURPS_BOOKMARKPATH〔環境設定ファイルの環境変数〕 615
- EURPS_CODE128_PARAM〔環境設定ファイルの環境変数〕 628
- EURPS_CODE39_PARAM〔環境設定ファイルの環境変数〕 626
- EURPS_CRYPTOFILEPATH〔環境設定ファイルの環境変数〕 618
- EURPS_CSV_PRINT_PERIOD〔環境設定ファイルの環境変数〕 619
- EURPS_DBINFOPATH〔環境設定ファイルの環境変数〕 621
- EURPS_DISTINFOPATH〔JP1 と連携して仕分け印刷する場合〕 611
- EURPS_DISTINFOPATH〔PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合〕 611
- EURPS_DISTINFOPATH〔環境設定ファイルの環境変数〕 610
- EURPS_DOCINFOPATH〔環境設定ファイルの環境変数〕 619
- EURPS_ENVFILE〔環境設定ファイルの環境変数〕 639
- EURPS_EXCELLOGFILELEVEL〔環境設定ファイルの環境変数〕 638
- EURPS_EXCELTMPMPATH〔環境設定ファイルの環境変数〕 639
- EURPS_FIXOPT〔環境設定ファイルの環境変数〕 634
- EURPS_FONT_ROUNDDOWN〔環境設定ファイルの環境変数〕 639
- EURPS_FONT_WIDTH_MODE〔環境設定ファイルの環境変数〕 637
- EURPS_GAIJIFONT〔AIX 環境の場合〕 615
- EURPS_GAIJIFONT〔HP-UX 環境の場合〕 615
- EURPS_GAIJIFONT〔Windows 環境の場合〕 615
- EURPS_GAIJIFONT〔環境設定ファイルの環境変数〕 614
- EURPS_IMAGEPATH〔環境設定ファイルの環境変数〕 612
- EURPS_J84GA16〔環境設定ファイルの環境変数〕 642
- EURPS_J84GA24〔環境設定ファイルの環境変数〕 642
- EURPS_J84GA48〔環境設定ファイルの環境変数〕 642
- EURPS_J84GA72〔環境設定ファイルの環境変数〕 642
- EURPS_J84GA96〔環境設定ファイルの環境変数〕 642
- EURPS_J84GK16〔環境設定ファイルの環境変数〕 642
- EURPS_J84GK24〔環境設定ファイルの環境変数〕 642
- EURPS_J84GK48〔環境設定ファイルの環境変数〕 642
- EURPS_J84GK72〔環境設定ファイルの環境変数〕 642
- EURPS_J84GK96〔環境設定ファイルの環境変数〕 643
- EURPS_J84MA16〔環境設定ファイルの環境変数〕 642
- EURPS_J84MA24〔環境設定ファイルの環境変数〕 642
- EURPS_J84MA48〔環境設定ファイルの環境変数〕 642
- EURPS_J84MA72〔環境設定ファイルの環境変数〕 642
- EURPS_J84MA96〔環境設定ファイルの環境変数〕 642

- EURPS_J84MK16〔環境設定ファイルの環境変数〕642
- EURPS_J84MK24〔環境設定ファイルの環境変数〕642
- EURPS_J84MK48〔環境設定ファイルの環境変数〕642
- EURPS_J84MK72〔環境設定ファイルの環境変数〕642
- EURPS_J84MK96〔環境設定ファイルの環境変数〕642
- EURPS_LOGFILELEVEL〔環境設定ファイルの環境変数〕610
- EURPS_LOGFILEPATH〔環境設定ファイルの環境変数〕609
- EURPS_LOGSIZE〔環境設定ファイルの環境変数〕609
- EURPS_MAPDATAPATH〔環境設定ファイルの環境変数〕607
- EURPS_MAX_SPOOL_PAGES〔環境設定ファイルの環境変数〕640
- EURPS_MULTI_REPORTSETPATH〔環境設定ファイルの環境変数〕613
- EURPS_MULTIFORM_INFODEFPATH〔環境設定ファイルの環境変数〕614
- EURPS_NOSKIP_OUTPUTSPACE〔環境設定ファイルの環境変数〕630
- EURPS_OUTPUTPATH〔環境設定ファイルの環境変数〕608
- EURPS_OUTPUTPDF_VER〔環境設定ファイルの環境変数〕636
- EURPS_PDF_IMAGE_OPTIMIZE MEM〔環境設定ファイルの環境変数〕617
- EURPS_PDF_OUTPUT〔環境設定ファイルの環境変数〕616
- EURPS_PDF_SAMEIMAGE〔環境設定ファイルの環境変数〕616
- EURPS_PDL_EXGOTFONT PATH〔環境設定ファイルの環境変数〕622
- EURPS_PDL_EXMINFONT PATH〔環境設定ファイルの環境変数〕621
- EURPS_PRINT〔環境設定ファイルの環境変数〕625
- EURPS_PRINTERINFPATH〔環境設定ファイルの環境変数〕634
- EURPS_QR_CELL_SIZE_D〔環境設定ファイルの環境変数〕631
- EURPS_QR_CELL_SIZE_M〔環境設定ファイルの環境変数〕631
- EURPS_QR_CORRECTION_LEVEL〔環境設定ファイルの環境変数〕629
- EURPS_QR_VERSION〔環境設定ファイルの環境変数〕630
- EURPS_REPLACEITEMCNTLPATH〔環境設定ファイルの環境変数〕623
- EURPS_REPLACEITEMPATH〔環境設定ファイルの環境変数〕624
- EURPS_REPORT_LOGERROR〔環境設定ファイルの環境変数〕623
- EURPS_REPORT_WARNING〔環境設定ファイルの環境変数〕612
- EURPS_REPORTPATH〔環境設定ファイルの環境変数〕606
- EURPS_SCRIPTCNTLFILEPATH〔環境設定ファイルの環境変数〕632
- EURPS_SCRIPTFILEPATH〔環境設定ファイルの環境変数〕632
- EURPS_SKIP_OUTPUTSPACE〔環境設定ファイルの環境変数〕625
- EURPS_TESTPRINTFILE〔環境設定ファイルの環境変数〕639
- EURPS_TINTINFOPATH〔環境設定ファイルの環境変数〕637
- EURPS_TMPPATH〔環境設定ファイルの環境変数〕620
- EURPS_TRACE〔環境設定ファイルの環境変数〕622
- EURPS_TRACE_DRAWAPI〔環境設定ファイルの環境変数〕622
- EURPS_USE_05_06_FONT_LANG〔環境設定ファイルの環境変数〕635
- EURPS_USE_05_06_FONT_REPLACE〔環境設定ファイルの環境変数〕636
- EURPS_USERDATAPATH〔環境設定ファイルの環境変数〕607

- EURPS_VIEWERPREFERENCEFILEPATH
H〔環境設定ファイルの環境変数〕 633
- EurpsEnvFile プロパティ〔ActiveX オブジェクト〕 210
- EURPSEX.dll〔ActiveX オブジェクトのファイル名〕 184
- EURPSEException オブジェクト
〔JavaBeans 起動部品〕 365
- EURPSEException オブジェクトのメソッド
 - getErrorCode 365
 - getMessage 367
- EURPSEException クラス〔JavaBeans 起動部品〕 300
- EURPSEException クラスのメソッド
 - getErrorCode 362
 - getMessage 362
- EURPSEException クラスのメソッド一覧
〔JavaBeans 起動部品〕 300
- EURPSJavaError_〔1-2〕.log〔エラーログファイル名〕 655
- EURPSManager〔JavaBeans 起動部品〕 291
- EURPSManager.properties〔JavaBeans 起動部品プロパティファイル〕 278
- EURPSManager_5.jar〔JavaBeans 起動部品 JAR ファイル〕 278
- EURPSManager クラス〔JavaBeans 起動部品〕 291
- EURPSManager クラスのコンストラクタ
〔JavaBeans 起動部品〕 291
- EURPSManager クラスのメソッド
 - printReport 301
 - setBookmarkFileName 302
 - setBookmarkFilePath 303
 - setCrypto 304
 - setCryptoFileName 305
 - setCryptoFilePath 306
 - setDataFileName 307
 - setDataFilePath 308
 - setDBInfoFileName 309
 - setDBInfoFilePath 310
 - setDistributeFileName 311
 - setDistributeFilePath 313
 - setDistributionInfoFile 313
 - setDocBookmarkFileName 315
 - setDocInfoFileName 316
 - setDocInfoFilePath 317
 - setEncryptionPasswordKey 318
 - setEurpsEnvFile 319
 - setFirstPageNumber 319
 - setFontWidthMode 320
 - setInitPageNumber 321
 - setMultiBookmarkFileName 322
 - setMultiDataFileName 323
 - setMultiFormInfoDefFileName 325
 - setMultiFormInfoDefFilePath 327
 - setMultiReportFileName 328
 - setMultiReportSetFileName 329
 - setMultiReportSetFilePath 331
 - setMultiUserDataFileName 331
 - setOutFileName 333
 - setOutputType 334
 - setPageNumberFormat 335
 - setPageNumberLocation 336
 - setPaperOrientation 337
 - setPrintCopies 338
 - setPrintedPageNumberFileName 339
 - setPrintEndPage 340
 - setPrinterinfFileName 341
 - setPrinterinfFilePath 342
 - setPrinterName 343
 - setPrintPageNumber 343
 - setPrintStartPage 345
 - setReplaceItemCntlFileName 345
 - setReplaceItemCntlFilePath 347
 - setReportFileName 348
 - setReportFilePath 349
 - setScriptCntlFileName 350
 - setScriptCntlFilePath 351
 - setSortPrint 352
 - setTintInfoFileName 353
 - setTintInfoFilePath 354
 - setTrayCode 355
 - setUserDataFileName 356
 - setUserDataFilePath 358

- setViewerPreferenceFileName 359
- setViewerPreferenceFilePath 360
- EURPSManager クラスのメソッド一覧
〔JavaBeans 起動部品〕 292
- EURPSManager クラスのメソッド仕様 301
- eurps コマンド〔概要〕 101
- eurps コマンドからの帳票出力 99
- eurps コマンド実行時の終了コード一覧 151
- eurps コマンドで指定するオプション一覧
(ファイル出力の場合) 106
- eurps コマンドで指定するオプション一覧
(プリンタ出力の場合) 104
- eurps ログ 658
- EUR から出力できる文字 77
- EUR 形式ファイル 2
- EUR 形式ファイルを出力する手順 25
- EUR 形式ファイルを出力するときの注意
693
- [EUR サーバ環境設定ファイルエディタ]
ダイアログ 726
 - 環境変数の分類 146
 - 操作手順 143
 - ダイアログからの環境設定ファイルの
作成 143
 - チェックされる内容 149
 - 注意事項 150
 - 便利な機能 145
- [EUR サーバ環境設定ファイルエディタ]
ダイアログでチェックされる内容 149
- [EUR サーバ環境設定ファイルエディタ]
ダイアログでの環境変数の分類 146
- [EUR サーバ環境設定ファイルエディタ]
ダイアログの操作 143
- [EUR サーバ環境設定ファイルエディタ]
ダイアログの便利な機能 145
- [EUR サーバ環境設定ファイルエディタ]
ダイアログを使用する場合の注意事項 150
- EUR サーバ帳票出力機能 2
- EUR サーバ帳票出力機能で扱える画像デー
タ 459
- EUR サーバ帳票出力機能で扱える帳票ファ
イル 446
- EUR サーバ帳票出力機能で扱えるデー
タファイル 447
- EUR サーバ帳票出力機能で使用するダイア
ログ 725
 - [EUR サーバ環境設定ファイルエ
ディタ]ダイアログ 726
- EUR サーバ帳票出力機能で利用できるフォ
ント 85
- EUR サーバ帳票出力機能の概要 1
- EUR サーバ帳票出力機能の環境変数 602
- EUR サーバ帳票出力機能を複数同時に実行
する環境についての注意 718
- EUR で提供する JavaBeans 起動部品
〔JavaBeans 起動部品〕 278
- EUR での外字の使用方法 80
- EUR フォントファイル 586
- EUR フォントファイルの作成 587
- EUR フォントファイルの使用方法 589
- EUR フォントファイルを使用するときの注
意 589
- Excel 形式ファイルに出力する手順 32
- Excel 形式ファイルに出力する場合の環境変
数 606
- Excel 形式ファイルを出力するときの注意
702

F

- fieldname〔複数様式情報定義ファイルの
キーワード (formtransfercondition)〕
507
- fieldname〔複数様式情報定義ファイルの
キーワード (grouptransfercondition)〕
504
- FirstPageNumber プロパティ〔ActiveX オ
ブジェクト〕 211
- FIX 形式のデータ形式〔EUR サーバ帳票出
力機能で扱えるデータファイル〕 453
- FIX 形式のデータファイルに空データを指定
する場合 456
- Font〔プリンタ定義ファイルのキーワード〕
482
- FontWidthMode プロパティ〔ActiveX オブ
ジェクト〕 211

formfilename〔複数様式情報定義ファイルの
キーワード〕507
formfilenameの形式〔複数様式情報定義
ファイル〕508
formtransfercondition〔複数様式情報定義
ファイル〕505
formtransferconditionの形式〔複数様式情
報定義ファイル〕506

G

GenTextMode〔プリンタ定義ファイルの
キーワード〕489
getErrorCode メソッド〔JavaBeans 起動部
品〕362
getErrorCode メソッド〔JavaBeans 起動部
品の例外情報〕365
getMessage メソッド〔JavaBeans 起動部
品〕362
getMessage メソッド〔JavaBeans 起動部品
の例外情報〕367
group〔複数様式情報定義ファイル〕501
grouptransfercondition〔複数様式情報定義
ファイル〕503
grouptransferconditionの形式〔複数様式情
報定義ファイル〕503
groupの形式〔複数様式情報定義ファイル〕
501

H

HTML ヘルプの履歴を削除したい場合 724

I

IMAGE_ENDPOS〔透かし情報ファイルの
キーワード〕565
IMAGE_FILE〔透かし情報ファイルのキー
ワード〕563
IMAGE_STARTPOS〔透かし情報ファイル
のキーワード〕564
IMAGE_STYLE〔透かし情報ファイルの
キーワード〕564
InitPageNumber プロパティ〔ActiveX オブ
ジェクト〕212

J

J2EE サポート時の注意〔JavaBeans 起動部
品〕285
JAR ファイル〔EURPSManager_5.jar〕
〔JavaBeans 起動部品〕278
JavaBeans 起動部品 278
JavaBeans 起動部品実行時の終了コード一
覧 365
JavaBeans 起動部品で帳票を出力するとき
の注意 700
JavaBeans 起動部品のエラー出力 654
JavaBeans 起動部品の起動方法 280
JavaBeans 起動部品のセキュリティについ
て 286
JavaBeans 起動部品のメソッド
〔EURPSEException クラスのメソッド〕
300
JavaBeans 起動部品のメソッド
〔EURPSManager クラスのメソッド〕292
JavaBeans 起動部品のメソッド〔ファイル
出力〕294
JavaBeans 起動部品のメソッド〔プリンタ
出力〕292
JavaBeans 起動部品のログ 655
JP.co.Hitachi.soft.EURPS パッケージ
〔JavaBeans 起動部品〕290

K

keybreaktopform〔複数様式情報定義ファイ
ルのキーワード〕506
KEYFIELD 行〔PDF 形式ファイルを暗号化
仕分け出力する場合のPDF仕分け定義
ファイル〕535
KEYFIELD 行〔PDF 形式ファイルを仕分け
出力する場合のPDF仕分け定義ファイル〕
532
KEYWORD〔文書情報設定ファイルのキー
ワード〕465

M

Margin〔プリンタ定義ファイルのキーワ
ード〕474

MultiFormInfoDefFileName プロパティ
〔ActiveX オブジェクト〕 213
MultiFormInfoDefFilePath プロパティ
〔ActiveX オブジェクト〕 214
MultiReportSetFileName プロパティ
〔ActiveX オブジェクト〕 214
MultiReportSetFilePath プロパティ
〔ActiveX オブジェクト〕 215

N

NAME〔しおり定義ファイルのキーワード〕
546

O

OutFileName プロパティ〔ActiveX オブ
ジェクト〕 216
OutputType プロパティ〔ActiveX オブジェ
クト〕 217
OwnerPassword〔暗号化設定ファイルの
キーワード〕 552
OwnerPassword と UserPassword の違い
555

P

PageNumberFormat プロパティ〔ActiveX
オブジェクト〕 218
PageNumberLocation プロパティ〔ActiveX
オブジェクト〕 218
PaperOrientation プロパティ〔ActiveX オ
ブジェクト〕 219
PaperShiftX〔プリンタ定義ファイルのキー
ワード〕 482
PaperShiftY〔プリンタ定義ファイルのキー
ワード〕 482
PATH 環境変数の設定 717
PDF 形式ファイルに出力するときの注意
695
PDF 形式ファイルに出力する場合の環境変
数 605
PDF 形式ファイルにフォントを埋め込むと
きの注意 690

PDF 形式ファイルに複写検知機能を追加す
る場合 563
PDF 形式ファイルを暗号化して出力する場
合の環境変数 606
PDF 形式ファイルを暗号化出力する手順 19
PDF 形式ファイルを暗号化出力するときの
注意 692
PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する
手順 22
PDF 形式ファイルを偽造・改ざん検知機能
を追加する場合 563
PDF 形式ファイルを出力する手順 12
PDF 形式ファイルを仕分け出力する手順 16
PDF 仕分け定義ファイル 532
PDF 仕分け定義ファイルに指定する
userpassword の注意 538
PDF 仕分け定義ファイルの形式〔PDF 形式
ファイルを暗号化仕分け出力する場合〕
535
PDF 仕分け定義ファイルの形式〔PDF 形式
ファイルを仕分け出力する場合〕 532
PDF 仕分け定義ファイルの指定例〔PDF 形
式ファイルを暗号化仕分け出力する場合〕
539
PDF 仕分け定義ファイルの指定例〔PDF 形
式ファイルを仕分け出力する場合〕 534
PDF 仕分け定義ファイルの編集〔PDF 形式
ファイルを暗号化仕分け出力する場合〕
535
PDF 仕分け定義ファイルの編集〔PDF 形式
ファイルを仕分け出力する場合〕 532
PDF 仕分け定義ファイルの保存場所 540
PDF 仕分けをするときの注意 540
PDF パスワード暗号化ツール 556
PDLType〔プリンタ定義ファイルのキー
ワード〕 474
PDL ファイル 124
PrintCopies プロパティ〔ActiveX オブジェ
クト〕 220
PrintedPageNumberFileName プロパティ
〔ActiveX オブジェクト〕 220
PrintEndPage プロパティ〔ActiveX オブ
ジェクト〕 221

PrinterInfFileName プロパティ〔ActiveX
オブジェクト〕 222
 PrinterInfFilePath プロパティ〔ActiveX オ
ブジェクト〕 222
 PrinterName プロパティ〔ActiveX オブジェ
クト〕 223
 printNewspaper〔複数様式情報定義ファイル
のキーワード〕 508
 PrintPageNumber プロパティ〔ActiveX オ
ブジェクト〕 223
 PrintReport メソッド〔ActiveX オブジェク
ト〕 199
 printReport メソッド〔JavaBeans 起動部
品〕 301
 PrintStartPage プロパティ〔ActiveX オブ
ジェクト〕 224

Q

QRCellSizeD〔プリンタ定義ファイルのキー
ワード〕 488
 QRCellSizeM〔プリンタ定義ファイルのキー
ワード〕 489

R

ReplaceItemCntlFileName プロパティ
〔ActiveX オブジェクト〕 225
 ReplaceItemCntlFilePath プロパティ
〔ActiveX オブジェクト〕 226
 ReportFileName プロパティ〔ActiveX オブ
ジェクト〕 227
 ReportFilePath プロパティ〔ActiveX オブ
ジェクト〕 228
 resetpagenumber〔複数様式情報定義ファイ
ルのキーワード〕 510

S

SCALE〔文書しおり定義ファイルのキー
ワード〕 543
 ScriptCntlFileName プロパティ〔ActiveX
オブジェクト〕 228
 ScriptCntlFilePath プロパティ〔ActiveX オ
ブジェクト〕 229

setBookmarkFileName メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 302
 setBookmarkFilePath メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 303
 setCryptoFileName メソッド〔JavaBeans
起動部品〕 305
 setCryptoFilePath メソッド〔JavaBeans 起
動部品〕 306
 setCrypto メソッド〔JavaBeans 起動部品〕
304
 setDataFileName メソッド〔JavaBeans 起
動部品〕 307
 setDataFilePath メソッド〔JavaBeans 起動
部品〕 308
 setDBInfoFileName メソッド〔JavaBeans
起動部品〕 309
 setDBInfoFilePath メソッド〔JavaBeans
起動部品〕 310
 setDistributeFileName メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 311
 setDistributeFilePath メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 313
 setDistributionInfoFile メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 313
 setDocBookmarkFileName メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 315
 setDocInfoFileName メソッド〔JavaBeans
起動部品〕 316
 setDocInfoFilePath メソッド〔JavaBeans
起動部品〕 317
 setEncryptionPasswordKey メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 318
 setEurpsEnvFile メソッド〔JavaBeans 起
動部品〕 319
 setFirstPageNumber メソッド〔JavaBeans
起動部品〕 319
 setFontWidthMode メソッド〔JavaBeans
起動部品〕 320
 setInitPageNumber メソッド〔JavaBeans
起動部品〕 321
 setMultiBookmarkFileName メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 322

- setMultiDataFileName メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 323
- setMultiFormInfoDefFileName メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 325
- setMultiFormInfoDefFilePath メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 327
- setMultiReportFileName メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 328
- setMultiReportSetFileName メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 329
- setMultiReportSetFilePath メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 331
- setMultiUserDataFileName メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 331
- setOutFileName メソッド〔JavaBeans 起動部品〕 333
- setOutputType メソッド〔JavaBeans 起動部品〕 334
- setPageNumberFormat メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 335
- setPageNumberLocation メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 336
- setPaperOrientation メソッド〔JavaBeans 起動部品〕 337
- setPrintCopies メソッド〔JavaBeans 起動部品〕 338
- setPrintedPageNumberFileName メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 339
- setPrintEndPage メソッド〔JavaBeans 起動部品〕 340
- setPrinterinfFileName メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 341
- setPrinterinfFilePath メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 342
- setPrinterName メソッド〔JavaBeans 起動部品〕 343
- setPrintPageNumber メソッド〔JavaBeans 起動部品〕 343
- setPrintStartPage メソッド〔JavaBeans 起動部品〕 345
- setReplaceItemCntlFileName メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 345
- setReplaceItemCntlFilePath メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 347
- setReportFileName メソッド〔JavaBeans 起動部品〕 348
- setReportFilePath メソッド〔JavaBeans 起動部品〕 349
- setScriptCntlFileName メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 350
- setScriptCntlFilePath メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 351
- setSortPrint メソッド〔JavaBeans 起動部品〕 352
- setTintInfoFileName メソッド〔JavaBeans 起動部品〕 353
- setTintInfoFilePath メソッド〔JavaBeans 起動部品〕 354
- setTrayCode メソッド〔JavaBeans 起動部品〕 355
- setUserDataFileName メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 356
- setUserDataFilePath メソッド〔JavaBeans 起動部品〕 358
- setViewerPreferenceFileName メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 359
- setViewerPreferenceFilePath メソッド
〔JavaBeans 起動部品〕 360
- SortPrint プロパティ〔ActiveX オブジェクト〕 229
- SQL Server を使用するときの注意 521
- subgroup〔複数様式情報定義ファイルのキーワード〕 513
- subgroup の形式〔複数様式情報定義ファイル〕 513
- SUBTITLE〔文書情報設定ファイルのキーワード〕 464

T

- TINT_COLOR〔透かし情報ファイルのキーワード〕 566
- TINT_DATA〔透かし情報ファイルのキーワード〕 566
- TINT_DENSITY〔透かし情報ファイルのキーワード〕 566

TINT_ENDPOS〔透かし情報ファイルのキーワード〕 567
 TINT_STARTPOS〔透かし情報ファイルのキーワード〕 566
 TintColorFileName プロパティ〔ActiveX オブジェクト〕 230
 TintColorFilePath プロパティ〔ActiveX オブジェクト〕 231
 TITLE〔文書しおり定義ファイルのキーワード〕 542
 TITLE〔文書情報設定ファイルのキーワード〕 463
 TOTAL 行〔PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合の PDF 仕分け定義ファイル〕 536
 TOTAL 行〔PDF 形式ファイルを仕分け出力する場合の PDF 仕分け定義ファイル〕 533
 transfercondition〔複数様式情報定義ファイルのキーワード〕 503, 508
 traycode〔複数様式情報定義ファイルのキーワード〕 512
 TrayCode プロパティ〔ActiveX オブジェクト〕 231

U

UNIX/Linux 環境で Excel 形式ファイル出力する場合に必要なロケール 441
 UNIX/Linux 環境で使用する場合の注意 689
 UNIX/Linux 環境の EUR サーバ帳票出力機能で印刷するときの運用手順 470
 UserDataFileName プロパティ〔ActiveX オブジェクト〕 232
 UserDataFilePath プロパティ〔ActiveX オブジェクト〕 233
 UserPassword〔暗号化設定ファイルのキーワード〕 554

V

ViewerPreferenceFileName プロパティ〔ActiveX オブジェクト〕 234

ViewerPreferenceFilePath プロパティ〔ActiveX オブジェクト〕 235
 Visual Studio 2003 から ActiveX オブジェクトを使用する場合の注意 690

W

WAR ファイル作成時の注意〔JavaBeans 起動部品〕 285
 Windows Server 2003 x64 および Windows Server 2003 R2 x64で出力する場合の注意 686
 Windows サービス 710

X

XDPI〔プリンタ定義ファイルのキーワード〕 474

Y

YDPI〔プリンタ定義ファイルのキーワード〕 474

あ

アカウントに対するアクセス権の設定 718
 アクセストレース 757
 アンインストール時の注意 721
 暗号化設定ファイル 550
 暗号化設定ファイルに指定するキーワード〔PDF 形式ファイルを暗号化出力する場合〕 551
 暗号化設定ファイルに指定するキーワード〔PDF 形式ファイルを暗号化仕分け出力する場合〕 551
 暗号化設定ファイルに設定できる属性 550
 暗号化設定ファイルのキーワード 552
 暗号化設定ファイルの構文 550
 暗号化設定ファイルの指定例 558
 暗号化設定ファイルの保存場所 558

い

一時フォルダに関する注意 692
 イベントログ 657

イベントログの出力形式 657
 印刷〔暗号化設定ファイルのセキュリティ属性〕550
 インストール時の注意 720

え

エラー出力〔ActiveX オブジェクト〕653
 エラー出力〔JavaBeans 起動部品〕654
 エラーログ〔JavaBeans 起動部品〕655
 エラーログファイルの出力先の指定 655
 エラーログファイルのファイルサイズの指定 655
 エラーログファイルの文字コード 655
 エラーログファイル名〔JavaBeans 起動部品〕655

お

オーナーパスワード〔暗号化設定ファイルのセキュリティ属性〕550
 置き換え表管理情報ファイル 583
 置き換え表ファイル 584

か

外字 80
 CSV 形式ファイル, EUR 形式ファイル, および Excel 形式ファイル出力での外字の使用 方法 83
 プリンタでの印刷, および PDF 形式ファイル出力での外字の使用 方法 80
 プリンタでの印刷, および PDF 形式ファイル出力での外字の使用 方法〔UNIX/Linux 環境〕82
 プリンタでの印刷, および PDF 形式ファイル出力での外字の使用 方法〔Windows 環境〕80
 拡張データベースアクセストレースユティリティ 755
 画像ファイルの扱い 687
 可変記号値 523
 可変記号値定義ファイル 523
 可変記号値定義ファイルの形式 523

可変記号値定義ファイルの指定例 524
 環境設定ファイルの格納先 599
 環境設定ファイルの構文 600
 環境設定ファイルの指定例 645
 環境設定ファイルの編集 600
 環境変数一覧 601

き

偽造・改ざん検知機能 562
 起動 753
 給紙トレイコード 129
 給紙トレイ情報 130

く

クラス
 EURPSEException 300
 EURPSManager 291

け

形式〔暗号化設定ファイルのキーワード DisableAdd〕554
 形式〔暗号化設定ファイルのキーワード DisableChange〕553
 形式〔暗号化設定ファイルのキーワード DisableCopy〕553
 形式〔暗号化設定ファイルのキーワード DisablePrint〕552
 形式〔暗号化設定ファイルのキーワード OwnerPassword〕552
 形式〔暗号化設定ファイルのキーワード UserPassword〕554
 形式〔しおり定義ファイルのキーワード BREAKFLD〕547
 形式〔しおり定義ファイルのキーワード NAME〕546
 形式〔透かし情報ファイルのキーワード IMAGE_ENDPOS〕565
 形式〔透かし情報ファイルのキーワード IMAGE_FILE〕564
 形式〔透かし情報ファイルのキーワード IMAGE_STARTPOS〕564

形式〔透かし情報ファイルのキーワード
IMAGE_STYLE〕564
 形式〔透かし情報ファイルのキーワード
TINT_COLOR〕566
 形式〔透かし情報ファイルのキーワード
TINT_DATA〕566
 形式〔透かし情報ファイルのキーワード
TINT_DENSITY〕566
 形式〔透かし情報ファイルのキーワード
TINT_ENDPOS〕567
 形式〔透かし情報ファイルのキーワード
TINT_STARTPOS〕566
 形式〔文書しおり定義ファイルのキーワード
SCALE〕543
 形式〔文書しおり定義ファイルのキーワード
TITLE〕542
 形式〔文書情報設定ファイルのキーワード
AUTHOR〕464
 形式〔文書情報設定ファイルのキーワード
KEYWORD〕465
 形式〔文書情報設定ファイルのキーワード
SUBTITLE〕464
 形式〔文書情報設定ファイルのキーワード
TITLE〕463

こ

光学式読み取り装置で帳票を読み取るときの
注意 710
 コーディング例〔ActiveX での CSV 形式
ファイル出力〕268
 コーディング例〔ActiveX での EUR 形式
ファイル出力〕263
 コーディング例〔ActiveX での Excel 形式
ファイル出力〕272
 コーディング例〔ActiveX での PDF 形式
ファイル出力〕248
 コーディング例〔JavaBeans 起動部品での
CSV 形式ファイル出力〕395
 コーディング例〔JavaBeans 起動部品での
EUR 形式ファイル出力〕391
 コーディング例〔JavaBeans 起動部品での
Excel 形式ファイル出力〕400

コーディング例〔JavaBeans 起動部品での
PDF 形式ファイル出力〕375
 固定画像のある帳票を出力するときの注意
701
 コマンドからの帳票出力 99
 コマンド構文に指定できる文字列の長さ 698
 コマンド構文の長さを求める計算式 698
 コマンドに指定したデータの優先順位 687

さ

サービス環境で実行するときの注意 717
 作業環境の言語との対応 772
 サブ文書の情報〔しおり定義ファイル〕545
 サブ様式グループ 513
 サブ様式グループ番号〔複数様式情報定義
ファイル〕513
 サポートする文字集合 74

し

しおり 14
 しおり定義ファイル 545
 しおり定義ファイルのキーワード 546
 しおり定義ファイルの構文 546
 しおり定義ファイルの指定例 549
 しおり定義ファイルの保存場所 548
 しおりに出力できるもの 14
 しおりを付けた PDF 形式ファイル 14
 しおりを付ける目的 14
 出力先ファイル名の注意 688
 出力されるファイル〔パスワードの暗号化
(PDF)〕558
 出力されるファイル〔パスワードの暗号化
(接続情報)〕522
 出力するプリンタ指定 710
 出力ページ情報ファイル 591
 出力ページ数の上限値 688
 使用できない機能 686
 仕分け印刷 526
 仕分け印刷するときの注意〔仕分け定義情報
ファイル〕531
 仕分け印刷で帳票の印刷先を振り分けるには
9

仕分け印刷の実行〔JP1 と連携して仕分け印刷する場合〕 530

仕分け定義情報ファイル 526

仕分け定義情報ファイルの編集手順〔JP1 と連携して仕分け印刷する場合〕 526

仕分け定義情報ファイルの編集例〔JP1 と連携して仕分け印刷する場合〕 528

す

透かし情報ファイル 561

透かし情報ファイルのキーワード 563

透かし情報ファイルの構文 562

透かし情報ファイルの作成 562

透かし情報ファイルの指定例 569

透かし情報ファイルの注意事項 568

透かし情報ファイルの保存場所 569

透かし情報ファイルの文字コード 568

せ

静的モード 92

セキュリティ〔JavaBeans 起動部品〕 286

接続情報パスワード暗号化ツール 521

接続情報ファイル 519

接続情報ファイルのキーワード 519

接続情報ファイルの形式 519

接続情報ファイルの指定例 520

設定されているパスワードの違い〔暗号化仕分けされた PDF 形式ファイル〕 538

設定する内容〔しおり定義ファイル〕 545

設定する内容〔文書しおり定義ファイル〕 541

た

ダイアログからの環境設定ファイルの作成 143

大量ページの出力時の注意 691

多言語機能 70

ち

注釈とフォームフィールドの作成〔暗号化設定ファイルのセキュリティ属性〕 550

帳票出力の手順〔CSV 形式ファイル出力〕 28

帳票出力の手順〔EUR 形式ファイル出力〕 25

帳票出力の手順〔Excel 形式ファイル出力〕 32

帳票出力の手順〔PDF 形式ファイル暗号化出力〕 19

帳票出力の手順〔PDF 形式ファイル暗号化仕分け出力〕 22

帳票出力の手順〔PDF 形式ファイル出力〕 12

帳票出力の手順〔PDF 形式ファイル仕分け出力〕 16

帳票出力の手順〔複数様式〕 36

帳票出力の手順〔プリンタ出力〕 8

帳票セット 131

帳票セット指定ファイル 495

帳票セット指定ファイルの形式 495

帳票セット指定ファイルの指定例 497

帳票セット指定ファイルの編集 496

帳票セットの形式 496

つ

通信トレース 757

て

ディスク複製インストール 723

データファイル名の指定を省略した帳票を出力するときの注意 700

テスト印刷設定ファイル 570

テスト印刷設定ファイルの作成 571

テスト印刷設定ファイルの保存場所 576

点線を出力するときの注意 692

と

同時に指定できないプロパティ (ActiveX オブジェクト) 196

同時に指定できないメソッド (Java 起動部品) 286

動的モード 92

トレース採取に関する注意 719

トレースファイル 597
 トレースファイルの出力先の指定 655
 トレースファイルのファイルサイズの指定 656
 トレースファイルの文字コード 655
 トレースファイル名〔JavaBeans 起動部品〕 655
 トレースログ〔JavaBeans 起動部品〕 655
 トレースログの出力形式 656

な

内容のコピー，または抽出〔暗号化設定ファイルのセキュリティ属性〕 550

に

入力データファイルに関する注意 688
 入力ファイルに対するエンコーディング 74

ね

ネットワークドライブや共有フォルダにアクセスする場合の注意 687

は

バーコードの印刷の注意 707
 バーコードのデータキャラクタの置き換え 707
 パスワード暗号化ツール〔PDF〕 556
 パスワード暗号化ツール〔接続情報〕 521
 パスワードの暗号化〔PDF〕 556
 パスワードの暗号化〔接続情報〕 521
 パスワードを暗号化する方法〔PDF〕 556
 パスワードを暗号化する方法〔接続情報〕 521

ひ

非 Unicode アプリケーションを使用する場合の注意 690
 ビューアプレファレンス定義ファイル 581

ふ

ファイルサイズの上限值〔CSV 形式（DAT 形式）〕 447
 ファイルサイズの上限值〔FIX 形式〕 453
 ファイルに出力する場合〔ActiveX オブジェクト〕 191
 ファイルに出力する場合〔JavaBeans 起動部品〕 294
 ファイル名に NEC 選定 IBM 拡張文字を指定する場合 690
 ファイル名に指定できる文字数 445
 フォント
 EURPS_USE_05_06_FONT_LANG
 が適用される条件 97
 EUR 形式ファイル出力でのフォント
 の出力結果〔プロポーショナルフォ
 ントの出力〕 96
 EUR サーバ帳票出力機能で使用で
 きるフォント 85
 EUR サーバ帳票出力機能でのプロ
 ポーショナルフォントの出力 92
 PDF 形式ファイル出力でのフォント
 の出力結果〔プロポーショナルフォ
 ントの出力〕 95
 PDF で使用できるフォント 85
 UNIX/Linux 環境のプリンタ出力時の
 フォント 89
 欧文フォント〔PDF で使用できる
 フォント〕 85
 出力形式ごとのフォントの出力結果
 〔プロポーショナルフォントの出力〕
 94
 中国語フォント〔PDF で使用できる
 フォント〕 85
 動的モードで出力できるフォント 97
 日本語フォント〔PDF で使用できる
 フォント〕 86
 フォントの置き換え結果〔PDF で使
 用できるフォント〕 87
 フォントの置き換え結果〔UNIX/
 Linux 環境のプリンタ出力〕 89

- フォントの書体名称を出力した PDF 形式ファイルを表示・印刷する場合の注意事項 96
- プリンタ出力でのフォントの出力結果〔プロポーショナルフォントの出力〕 94
- 文字幅計算方法の設定 92
- 文字幅計算方法の適用範囲 93
- 文字幅の計算方法 92
- 複写検知機能 561
- 複数帳票指定時の注意〔EUR 形式ファイルを出力するとき〕 699
- 複数帳票指定時の文字列の長さ〔ActiveX オブジェクト〕 187
- 複数帳票指定時の文字列の長さ〔JavaBeans 起動部品〕 284
- 複数の帳票セットを指定した帳票出力との違い 42
- 複数の帳票セットを指定して出力するときの注意 698
- 複数様式情報定義ファイル 499
- 複数様式情報定義ファイルの指定例 515
- 複数様式情報定義ファイルの編集 500
- 複数様式で帳票を出力する手順 36
- 複数様式で帳票を出力する流れ 41
- 複数様式での帳票出力例 44
- 複数様式を使用する場合の注意 699
- プリンタ解像度ごとのバーコード最小サイズ 710
- プリンタ出力するときの注意 693
- プリンタ定義ファイルでのプリンタ定義〔AIX 環境の場合〕 471
- プリンタ定義ファイルでのプリンタ定義〔HP-UX 環境の場合〕 471
- プリンタ定義ファイルでのプリンタ定義〔Linux 環境の場合〕 472
- プリンタ定義ファイルのキーワード一覧 472
- プリンタ定義ファイルの構文 469
- プリンタ定義ファイルの作成 469
- プリンタ定義ファイルの指定例 490
- プリンタ定義ファイルの保存場所 469
- プリンタに出力する手順 8
- プリンタに出力するときの注意〔UNIX/Linux 環境〕 711
- プリンタに出力する場合〔ActiveX オブジェクト〕 189
- プリンタに出力する場合〔JavaBeans 起動部品〕 292
- フルパスの指定方法 687
- プロパティ
 - BookmarkFileName 200
 - BookmarkFilePath 201
 - Crypto 201
 - CryptoFileName 202
 - CryptoFilePath 202
 - DataFileName 203
 - DataFilePath 204
 - DBInfoFileName 204
 - DBInfoFilePath 205
 - DistributeFileName 206
 - DistributeFilePath 207
 - DistributionInfoFile 207
 - DocBookmarkFileName 208
 - DocInfoFileName 209
 - DocInfoFilePath 209
 - EncryptionPasswordKey 210
 - EurpsEnvFile 210
 - FirstPageNumber 211
 - FontWidthMode 211
 - InitPageNumber 212
 - MultiFormInfoDefFileName 213
 - MultiFormInfoDefFilePath 214
 - MultiReportSetFileName 214
 - MultiReportSetFilePath 215
 - OutFileName 216
 - OutputType 217
 - PageNumberFormat 218
 - PageNumberLocation 218
 - PaperOrientation 219
 - PrintCopies 220
 - PrintedPageNumberFileName 220
 - PrintEndPage 221
 - PrinterinfFileName 222
 - PrinterinfFilePath 222
 - PrinterName 223

PrintPageNumber 223
 PrintStartPage 224
 ReplaceItemCntlFileName 225
 ReplaceItemCntlFilePath 226
 ReportFileName 227
 ReportFilePath 228
 SortPrint 229
 TintInfoFileName 230
 TintInfoFilePath 231
 TrayCode 231
 UserDataFileName 232
 UserDataFilePath 233
 ViewerPreferenceFileName 234
 ViewerPreferenceFilePath 235

プロパティファイル

(EURPSManager.properties)
 [JavaBeans 起動部品] 279

プロパティファイル

(EURPSManager.properties) の構文
 279

文書しおり定義ファイル 541
 文書しおり定義ファイルのキーワード 542
 文書しおり定義ファイルの構文 541
 文書しおり定義ファイルの保存場所 543
 文書情報設定ファイル 462
 文書情報設定ファイルのキーワード 462
 文書情報設定ファイルの構文 462
 文書情報設定ファイルの指定例 467
 文書情報設定ファイル名指定時の出力先の表示
 〔EUR 形式ファイル出力の場合〕 467
 文書情報設定ファイル名指定時の出力先の表示
 〔PDF 形式ファイル出力の場合〕 466
 文書情報設定ファイル名指定時の出力先の表示
 〔プリンタ出力の場合〕 466
 文書情報設定ファイル名の指定先 466
 文書の変更〔暗号化設定ファイルのセキュリティ属性〕 550

め

メソッド

PrintReport 199

メソッド仕様

EURPSManager クラス 301

ゆ

ユーザ定義サイズの帳票を出力するときの注意 701

ユーザパスワード〔暗号化設定ファイルのセキュリティ属性〕 550

よ

様式グループ 501

様式グループ番号〔複数様式情報定義ファイル〕 501

用紙の向き 118

ら

ラテン文字一覧 776

り

リモートインストール (UNIX 環境の場合) 723

リモートインストール (Windows 環境の場合) 722

れ

レコードの上限値〔CSV 形式 (DAT 形式)〕 447

レコードの上限値〔FIX 形式〕 453

ろ

ログ機能に関する注意 719

ログ出力〔JavaBeans 起動部品〕 655

ログ出力の注意 719

ログファイルに出力する情報〔EPS-XLSX ログ〕 661

ログファイルの切り替え〔eurps ログ〕 659

ログファイルの出力先の指定〔EPS-XLSX ログ〕 661

ログファイルの出力先の指定〔eurps ログ〕 658

ログファイルの出力単位〔EPS-XLSX ログ〕 662

ログファイルのファイルサイズの指定

〔eurps ログ〕 658

ログファイルの容量〔EPS-XLSX ログ〕 662

ログファイルへのメッセージ出力レベルの指

定〔EPS-XLSX ログ〕 662

ログファイルへのメッセージ出力レベルの指

定〔eurps ログ〕 659

ログファイル名〔EPS-XLSX ログ〕 661

ログファイル名〔eurps ログ〕 658